

『真の生命の書』

神の師の教え

第VIII巻

教え 208～241

『真の生命の書』 配布事業

全12巻からなる『Libro de la Vida Verdadera（真の生命の書）』
は、全人類への遺産であり、
メキシコシティの「Secretaría de Educación
」に番号26002、20111、83848として登録されています。

スペイン語版原著に関する詳細情報：
アソシアシオン・デ・エストウディオス・エスピリチュアレス・ヴ
ィダ・ヴェルダデラ、A.C.
Apartado Postal 888, México, D.F., - C.P. 06000

ドイツ語訳およびドイツ語版の序文の責任者：
解説、脚注、
注釈および解説の責任者：
ヴァルター・マイヤーおよびトラウゴット・ゲルテンボート。

2017年1月現在

編集（新正書法およびレイアウト）：
Buchdienst zum Leben
マンフレッド・ベーゼ
キルヒヴェーク5
D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0) 7371 929 66 42
Eメール：manfredbaese@gmx.de

『真の生命の書』は、このバージョンを基にDeepL Translatorを用いて、他の多くの言語に翻訳されています。

これは、ゴットホルト・ゲルテンボートが翻訳し、ライヒル出版社から出版された、著作権を有する真正かつオリジナルの著作物です。これらは本来の純粋な形で保持されなければならない、改変してはなりません。それは罪であり、神の裁きを招くことになりま。

主がアンナ・マリア・ホスタに語られた言葉：

2017年3月25日

イエスは彼女にこう言われます：「封印の時代」...

...そしてこう言われます：

「これを活用しなさい。今日、私はあなたを選び、私の教えを受け取り、それを人々に伝えるようにしたのだ。」

この取り組みの責任者は、これらの著作物の所有者である主、イエス・キリスト、私たちの神の委任を受けたアンナ・マリア・ホスタです。

(Eメール：hoanna64@yahoo.com)

DeepL - ダウンロードリンク：www.DeepL.com/Translator (ビジネス版)

DeepLは現在100以上の言語に対応しており、デスクトップにダウンロード可能です。翻訳にはインターネット接続が必要です。

目次

『真の生命の書』	1
序文	6
教え 208	8
教え 209	19
教え 210	29
教え 211	38
教え 212	51
教え 213	62
教え 214	72
教え 215	82
教え 216	93
教え 217	102
教え 218	112
教え 219	123
教え 220	134
教え 221	146
教え 222	156
教え 223	166
教え 224	176
教え 225	188
教え 226	197
教え 227	206
教え 228	217
教え 229	228
教え 230	239
教え 231	249

教え 232.....	257
教え 233.....	267
教え 234.....	276
教え 235.....	286
教え 236.....	298
教え 237.....	307
教え 238.....	318
教え 239.....	332
教え 240.....	346
教え 241.....	356
目次.....	368
1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の教え	378

序文

本書『真の生命の書』の最初の数巻には、序文にいくつかの歴史的背景や解説が掲載されているため、ここではこれ以上の説明は省略する。さらに、本書の末尾には、全作品への入門となる2冊の本が収録されている。

以下に紹介する抜粋は、神の言葉が持つ明快かつ高揚感あふれる表現力を、読者の皆様に少しばかり味わっていただけるものとなるでしょう：

あなたがたが、経験を積み、隣人に対する愛と慈悲という神の律法を実践するためにこの世に生まれてきたことを理解した瞬間、あなたがたはこの人生の調和の中に踏み込んだことになる。私の啓示を通じて、すでに知っているとおりの、私の律法に従わない者は、魂に託された使命を果たすまで、この世に戻らなければならないのです。(228, 54)

あなたの方の内には、地球に由来する物質的な部分と、天に由来する霊的な部分があります。人間には、自分を物質として感じる時と、霊として感じる時があります。この地上の肉体を離れ、霊的な状態へと移行した時、今理解できていないことを理解できるようになるでしょう。あなたの肉体は、この地上に属するものであるため、ここに残ります。しかし、あなたの魂は高次の領域へと舞い上がり、そこで魂の成長を続けるために生き続けることになるのです。(228, 69)

魂たちは階段のさまざまな段に位置していますが、私はそれらすべてを等しく愛し、頂点に到達するための手段を与えています。同様に、あなた方も、他者がどの程度の魂の向上段階にあるかを問わず、隣人を愛さなければなりません。(223, 72)

原子から最大規模の星に至るまで、最も未熟な人間から最も高度に発達した魂に至るまで、すべての被造物は私に賛美を捧げている。あなたがたは、この世にあるすべてのものに精通しているのだから、あらゆる存在やあらゆる肉体が、それぞれの役割を果たし、その使命を全うしている様子を見てほしい。その全うの中で、彼らは私に賛美を捧げているのだ。それは、全体との調和による彼らの捧げ物である。まことに、わたしはあなたがたに告げる。すべての被造物は、それ自体を喜んでいる。その硬さと不動さゆえに、あなたがたには無感情あるいは死んでいるように見える岩でさえもそうだ。なぜなら、神の御霊は、神が創造されたすべてのものの中にあり、それこそが命だからである。(229, 53)

霊の王国は無限である。しかし、その高みへと至り、それを喜び、その中で生きることを可能にするためには、生きることを可能にする高みへ到達するためには、その道を知り、

そこへ登るための光を持つことが必要です。しかし、私があなたがたの地上の生活を軽んじているなどとは決して思わないでください。いいえ、弟子たちよ。私があなたがたのためにそれを用意したのですから、どうして私がそれを軽んじることができるのでしょうか！物質世界での生活もまた、霊的かつ無限で永遠の王国における生活の一部であることを理解してください。(223, 26)

もしあなたがたがこの地球を、涙の谷から、互いに愛し合い、善を行うよう努め、わたしの律法に従って生きる幸福の世界へと変えることができたなら——まことに、私はあなたがたに告げよう。たとえあなたがたがどれほど苦しみや不幸、涙に満ちた存在を耐え忍ぶ意志を持っていたとしても、私の目には、そのような人生はむしろ、苦しみや不幸、涙に満ちた存在よりも、さらに称賛に値し、高貴なものとして映るだろう。いつになったら、あなたがたは霊的な人生と人間的な人生を、その間に境界線を見出さないほどに融合させることができるようになるのだろうか？ いつになったら、あなたがたは死という概念を捨て去り、永遠へと歩み入ることで、自らの存在をただ一つの命へと統合することができるようになるのだろうか。この悟りの光は、この世に霊化が花開いたときに初めて、人々の内に宿るであろう。(219, 16)

愛によってこの世界の境界が取り除かれ、霊化によって世界同士が互いに近づき合う時が来るでしょう。(213, 61)

教え 208

1. わたしの言葉の響きがあなた方を目覚めさせ、あなた方は遠い国々、民族、地域から、紆余曲折に満ちた長い道のりを経て、師に会いたいという願いを胸にここへやって来た。そして、あなた方は苦勞と犠牲を払って目指していたものに到達した。なぜなら、あなた方はわたしの元へたどり着いたからだ。あなたがたは、私が先立って待ち受けている山の頂へと導く道の、第一歩を踏み出したのである。

2. あなたがたは、私がこの教えを書き記せるよう、心を白紙の本のように開いてくれた。ある者は私にその知性を捧げてくれた。私もまた、心がそれを受け入れるようになることを期待して、その知性の中に私の言葉を書き記した。なぜなら、この光は靈魂の奥底まで浸透し、そこを永遠の住処として、二度とそこを離れることはないからである。

3. 私の言葉は、人間にとってより理解しやすいものとしたこの「第三の時代」において、かつてないほど明確かつ詳細なものとなっている。私の言葉は、私が過去二つの時代にあなたがたに与えたものを理解させてくれる。私が初めからあなた方に残した二つの戒めには、私の教えのすべてが込められている。「心を尽くし、魂を尽くして神を愛し、隣人を自分と同じように愛せよ」。その後、イエスはあなた方に「互いに愛し合いなさい」と告げた。そして今、私はあなた方の間で私の業を完成させ、再び戻ってくるという約束を果たすために、教えを続けている。

4. 私はこの時代、いかなる教会の中にも現れませんでした。なぜなら、私はあなたがたの心の中にある神殿を渴望して来たからです。典礼の厳肅さや宗教儀式の華やかさは、私の靈を引きつけるものではなく、またそれらが私の教会を表すものでもありません。

5. 第二の時代において、宗教指導者や司祭たちは、メシアが教会の中で生まれることを期待していた。しかし、私は彼らの元には生まれなかった。私にとって、ベツレヘムの馬小屋の方が清く、寒い冬の中、羊飼いたちのもとでより多くの愛と温もりを見出したからだ。それゆえ、当時の神学者たちは誤りを犯し、支配者たちは私の誕生から死に至るまで、私を迫害したのである。

6. 今日、神学者たちは私の再臨を前にして再び混乱に陥っている。なぜなら、再臨に関する預言や予告が正しく解釈されてこなかったからである。

7. 私があなた方に、私を証しする証拠を与えていたにもかかわらず、最初から私の到来には疑いが持たれていた。こうして、私は民の心に信仰を築き上げたのである。

8. 現代では、大勢の弟子たちが現れた。しかし、その数が多くても、彼らは「第二の時代」にわたしに従ったあの十二人が持っていたような信仰と力には達していない。しかし、わたしが去った後、あなたたちはどうするつもりなのか。あなたがたは皆、人間の知性を通じて受け取る教えの最後の三年間、私が引き続きあなたがたに語りかけることを知っている。もしあなたがたが私を真に理解していれば、私が永遠にあなたがたと共にあり、永遠にあなたがたに語りかけるという確信を持つだろう。しかし、あなたがたのうち、私の神聖な臨在を感じ、私の声を聞くために、内面的に準備を整えている者は誰か。私が去る定められた時期である1950年までに、声の媒体を介さずに師と交信するために必要な霊性を獲得するのは、いったい誰だろうか。

9. あなたがたが私に祭壇や花を捧げなくても、また灯をともしなくても、私は気分を害することはない。なぜなら、私がいつの時代も人の心の中に求めてきたのは、精神的な祭壇だからである。

10. 花々は庭園や草原からの捧げ物であり、その香りや芳香は、愛の贈り物として私の元へと届く。それゆえ、草原や庭園からその愛の贈り物を奪ってはならない。私の神性を信じる信仰の灯以外の灯を、もはや灯してはならない。なぜなら、あなたがたの心が暗ければ、油ランプを灯しても何の役にも立たないからだ。

11. あなたがたは、私があなたがたに啓示した完全な教えを理解することさえできず、ましてや実践することなどなおさらできない。その名称「三位一体・マリア的霊性教義」がすべてを物語っている。すなわち、霊的な高揚、神の啓示における三位一体の承認、そして神の慈愛そのものであるマリアへの崇敬である。

12. 1948年が始まる前に、私は数え切れないほどの伝達者を通じて、あなたがたにこう告げた。「準備をなさい。私はあなたがたの霊的な礼拝の儀式を新たに整えるからだ。」なぜなら、私は、世界があなた方を、師を自分たちの不必要な慣習に加担させた「不甲斐ない弟子たち」として判断することを望まないからだ。私はあなた方に私の完全な業を託した。あなた方は、自らの行いによってそれを虚偽であると証明してはならない。わたしに従おうとする者は皆、自分の十字架を背負い、自分の全存在をもって、可能な限り、また自分の能力が許す限り、真理を伝えなければならない。あなたがたは常に準備ができているわけではないが、常に準備を

しておくべきである。なぜなら、あなたがたが最も予期しない時に、試練や苦しむ人が現れることがあり、その時には即座に対応しなければならないからだ。

13. 一家の父たちにとって、十字架の重荷は重い。なぜなら、彼らは世に新しい世代をもたらした後、 、それだけでは自らの使命を終えたとは言い難いことを悟ったからである。最初の人類に対する父の律法は、「増えよ、そして満ちよ」であった。そして、私が人間の魂に大きな発展を認めるこの現代において、私は再びあなたがたに告げる。「増えよ、そして実を結べ」と。しかし、それは物質的な面だけでなく、魂の面、美德、そして愛においてもである。これは始まりから終わりまで続く掟であり、あなたがたはこれを果たすことによって、満足のうちに私の御前に至り、私にこう告げることができるのだ。「主よ、ここに私の霊的かつ人間的な成就があります。ここに私の実りがあります。」

14. 愛する民よ、今の時代は、あなたがたが立ち止まっていることを許さない。自然の力、苦痛、戦争、紛争、そして混沌は、絶えずあなたがたにこう告げている。「目覚めよ、そして働け！」師の血であるこのぶどう酒で、あなたがたの心を満たし、それが命として、愛として、あなたがたの隣人たちに溢れ出るようにしなさい。

15. 私の言葉は、あなた方を探し求め、愛し、戒め、つまりいた時には支え、病んだ時には癒やす父から発せられていることを心に留めておきなさい。また、私は今日、あなた方に指示を与えるために来たのではなく、ただあなた方を慈しむために来たのです。私は、あなたがたの良心の光のもとで、あなたがたのすべての行いを明らかにしますが、ある者を他の者の前で恥をかかせるようなことはしません。それは、あなたがたが静寂の中で内なる裁き人の声を聞き、イエスの弟子たちはその行いによって師の名を賛美すべきであることを思い出すためです。

16. 私は、第二期の使徒たちに対してそうであったように、しばしば自分の別れについて語っている。イエスは弟子たちに囲まれていた。そのほとんど全員が、師よりも年上だった。中年の者もいれば、すでに高齢の者もいた。イエスより年下だったのは、ヨハネただ一人だけだった。

師は再び、間もなく訪れる別れについて語られた。その告げを聞いて、弟子たちはこう自問した。「私たちが死に近いというのに、なぜ師はご自身の死について語られるのか？」その理由は、弟子たちが、生命と愛と力に満ち溢れたその方が、この世の観点

から見て死ぬことなどあり得ない、と理解できなかったからである。彼らは、父のもとから来られた方が、その生涯を終えることがあるなどとは、到底理解できなかったのです。

しかし、イエスは去りゆくことについて語り続け、別れを告げ続けた。それによって、弟子たちの心は別れという考えに慣れていき、この時間を大切に、その尊い種を心に留めておかなければならないことを理解するようになった。すると、ある者が師にこう言いました。「主よ、もし誰かがあなたに手を出そうとしたら、私たちがそれを防ぎます。」それに対し、イエスはこう答えられました。「書かれていることは必ず起こり、父の御心は成就する。天と地が滅びる方が、御言葉が成就しないことよりも先である。」

17. 弟子たちは落胆し、悲しげにその言葉を聞きながら、心の中でこう自問していた。「もし主がもはや彼らのそばにいてくださらなくなったら、自分たちに何ができるというのか？ 人間たちの中で、自分たちだけでどうやって戦っていけばよいというのか？」 どうすれば、盲人に光をもたらし、らい病人を清め、死者をよみがえらせ、罪人を改心させることができるだろうか？師は彼らの思いを読み取り、適切な機会を見てこう言われた。「あなたがたは、私の代わりに、狼の中に放たれた羊のようになるだろう。しかし、もしあなたがたが私を信じ、この道を歩み続けるなら、滅びることはない。」

18. 私の受難は成就し、私の言葉は実現した。そして、使徒たちは、オリーブ園でイエスが、まるで人々を恐れているかのように血の汗を流しているのを見たとき——その手には力があつたにもかかわらず——自分たちの勇気と信仰が萎んでいくのを感じた。叫び立てる群衆を前にして、弟子たちは、かつて悪霊に取りつかれた者たちを黙らせた主が、この群衆をも黙らせてくださるだろうと期待していた。そして、悪意に満ちた手たちがラビを捕らえようとしたとき、動揺した弟子たちは尋ねた。「主よ、あなたには何の罪もないのに、なぜ犯罪者のように捕らえられてしまったのですか？」 それにもかかわらず、彼らは身を隠し、主を見捨ててしまった。しかし、キリストは神として、また人間として、教えを続けられた。なぜなら、完全な模範を示し、人間の苦痛を肌で感じるために、人間となることを望まれたからである。キリストの中には、あらゆる恐怖と、完全な見捨てられ感が宿っていた。キリストはご自身の体に、あらゆる卑劣さと恥辱を受け入れられた。そして、ついに最後の時が訪れた。

19. 木製の十字架の高みから、主の目は群衆の中に、友である弟子たち——主と共に暮らし、主を愛し、その道を歩んできた者たち——を探し求めた。しかし、死の瞬間、彼らはそこにいなかった。主の肉眼には、彼らの姿は映らなかった。ただ、最年少のヨハネだけがそこにいて、師の母に寄り添っていた。主はこの弟子に最後のメッセージを託し、その瞬間、全人類の前でマリアを「万人の母」として任命された。

20. すべては成し遂げられた。

21. 嘆きと悲しみに包まれた弟子たちは、マリアに慰めを求めた。しかし、すでに霊的存在となっていた師は、姿を現された。師はマリアと聖なる女性たちを訪れ、使徒たちが疑っていた事柄について、彼女たちは証しをした。しかし、イエスは、ご自身が依然として彼らの間に留まっていることを証明しようと、彼らのもとにも訪れ、姿を現された。

22. ある時、使徒たちはある家に集まっていた。トマスはその場にいなかった。彼らが思い出にふけっている間、主は壁を通り抜けて彼らのところに入られ、「あなたがたに、わたしの平安があるように」と言われた。弟子たちは、自分たちにとって唯一無二のその声の響きを聞き分け、筆舌に尽くしがたい驚きを覚えた。

23. イエスの姿は再び消え去り、使徒たちは勇気と喜びに満ちてその知らせをトマスに伝えた。しかし、トマスは兄弟たちを嘲笑した。そして、彼がその証言を否定している最中、部屋の扉が閉まったままの状態、イエスが再び現れ、「あなたがたに平安あれ」と挨拶した。トマス——その奇跡を目の当たりにして最初は恐れ、その後深い後悔に苛まれた——はイエスの姿をじっと見つめたが、疑念が彼を苦しめていた。すると、師は彼にこう言われた。「ここへ来なさい、トマス。私の脇腹の傷に指を入れてみなさい。」不信仰で物質主義的なその弟子は指を傷に差し込み、その傷を通して約束の地を垣間見ることができた。そこでトマスは師の足元にひれ伏し、痛みと悔恨に打ちひしがれながら、「主よ、主よ、あなたでしたのか」と告白した。「そう、トマスよ、君は今、私を見たから、私がそれだと認めているのだ。見ずに信じる者は幸いである。」

24. 人々よ：あなたがたは今、これらすべてを経験している。私は繰り返し、あなたがたに別れを告げている。あなたがたが後になって、不信仰者や無知な者、あるいは混乱した者とならないよう、私は少しずつあなたがたの物質主義を和らげているのだ。

25. 私があなたがたのもとにいる最後の日、あなたがたが頭を抱えて嘆く姿を見たくはない。あなたがたの口から「なぜ去るのですか、師よ」という叫びが上がるのを望まない。

26. 最後の瞬間、私はあなたがたが霊性、平静、そして敬虔という衣に包まれ、私が本当に去ったわけではなく、むしろあなたがたにより近くにいるという確信に満ちている姿を見たいのです。

27. 私は、罪人であろうと罪人ではない者であろうと、すべての目が私を見るようになると、あなたがたに告げた。ある者は霊的にイエスの姿を見るだろうし、ある者は心の中で私の存在を感じるだろう。またある者は知性の中で私の光を感じ取り、さらに別の者は自らの道のりで奇跡を体験するだろう。私は祈りの中で、また試練の中で、自らを現すだろう。しかし、あなたがたにとって必要なのは、イエスの人間の姿を見ることでなく、魂と心の中で私を感じることであり、それである。悲しみは支配してはならないし、空虚も、見捨てられた感覚も存在してはならない。嘆きも、すすり泣きもあってはならない。

28. 私が去る際、あなたがたが団結し、すべての霊的な力を一つに結集することを望む。その力によって、師が御言葉をもってあなたがたに授けたものを守り抜くことができるのだ。

29. もしあなたがたの間で真の団結が実現すれば、天と地にはしるしが現れ、諸国民はそれを認識するだろう。

30. これが私の教えであり、これが私の愛と導きの言葉であった。それは、決して尽きることのない愛撫である。

31. あなたがたは、私がもはや人間の知性を通じてあなたがたに語りかけなくなる時が近づくにつれて、ますます準備を整えなければならない。あなたがたは、私の言葉が伝える霊的な力によって、ますます満たされようとするだろう。

物質主義は頂点に達している。今日に至るまで、世界はわたしを感じることなく、また聞くこともなく生きてきた。霊的な生活を送り、わたしの光を見て自らの道を歩み進んでいる者はごくわずかである。しかし、暗闇の中にいる者はどれほど多いことか。中には、わたしの再臨を待ち望んでいる者たちもいる。彼らの中には、キリストが再び人間となって戻ってくるとの信仰が息づいている。

32. わたしを聞いた弟子たちよ。あなたがたが果たすべき使命は、はっきりと目の前にある。この時代に、わたしの到来という福音を人々に宣べ伝え、わたしの啓示と教えを彼らに知らせることである。あなたがたは、わたしが「第二の時代」に最後に目撃され

たのと同じ方法、すなわち霊的な形で、あなたがたのところに来たことを知っている証人たちである。

33. しかし、あなたがたが主と霊から霊へと交信できるようになる前に、私は、素朴ではあるが私から恵みを受けた人々の知性を通じて、自分自身を伝えようとした。それは、この交信が、あなたがたの将来の上向きの発展のための基礎、あるいは準備となるためである。

34. その成果を伴う人間の科学は、魂が発展してきたことの証である。その道筋は時代ごとに異なるものの、どの時代においても、魂は上昇発展の痕跡を残してきた。やがて、科学そのものが魂の発展に寄与する日が来るだろう。なぜなら、万物はすべてこの目標に向けられているからである。

私が言うておくが、真の科学者とは、隣人への愛から、創造の深淵においてその秘密を探求し、神の光を見出すまで探求し続ける者である。そのように働く者は、決して自分の業績を誇ったりはせず、ただの創造主の道具であると自らをみなすだけである。このため、彼は決して神の存在を否定することはないだろう。

35. また、独房に閉じこもっていた修道士たちが、世俗からの逃避や神秘主義の無益さを悟り、そこから抜け出す時が来るだろう。彼らは、自分たちが創造された目的に応えるために、人々の間で奮闘するだろう。一言で言えば、彼らは精神的な停滞に終止符を打ち、進歩の道を歩み始めるのである。

36. 霊性の種は、私があなたがたの中に蒔く「第三の時代」の種である。それは、人類により良い生活を得るための秘訣を授けるものである。

37. 霊性の欠如ゆえに、人々が互いを誤解し、分裂していく様子を見よ。彼ら自身が、互いを遠ざけるさまざまな道を切り開いてしまったのだ。あなた方自身が、この相互理解の欠如の証人である。

38. 改めて言うておくが、人間同士の戦争はまだ終わっていない。なぜなら、イデオロギー、信条、宗教、哲学、教義をめぐる戦争が到来し、誰もが他者に対して自分だけが真理の唯一の所有者であると主張しようとするからだ。

39. 私の「第二の時代」における犠牲は、この人類にはまだ理解されていない。大多数の人々はキリストを認めていると主張しているにもかかわらず、彼らは私の中に自分たちを認めてはいない。私がただ柔和と慈悲と正義の道を歩んでいるというのに、なぜ曲がりくねった道で私を探そうとするのか。

40. わたしのもとへ至るためには、隣人を愛することが不可欠である。

41. 今日、あなた方にはまだ聖職者、裁判官、教師が必要である。しかし、あなた方の精神的・道徳的な資質が高まれば、もはやこうした支えも、こうした声も必要としなくなるだろう。すべての人の中に、裁判官、導き手、教師、そして祭壇が存在するようになるのだ。

42. 私は、儀式や規定、教義に縛られることなく、正しい道を歩み、私の愛の教えを実践する民を見たいと願っている。

43. 私は今この時代に、この自由をあなたがたに与える。なぜなら、あなたがたはもはや特定の礼拝形式に縛られていないからだ。これは新しい道ではなく、私があなたがたに示しておいたのと同じ道の、あなたがたが知らなかった一部に過ぎない。学び、私の言葉の奥底まで入り込めば、その中に真理があることを悟るだろう。

44. 私は愛であり、愛として、いかなる条件も課すことなく、私自身をあなた方に捧げます。あなた方が今経験しているこの時代において、あなた方には、あらゆる人間的な愛情を超越したこの励まし、この愛が必要なのです。

45. あなたがたを私の神性へと結びつける高揚感を得るために、もはや音楽の調和によって感覚を刺激したり、儀式や物質的な物を見て興奮したりする必要はない。なぜなら、あなたがたの魂を動かすのは、深く霊的なものだけだからである。あなたがたが心を開き、魂を私へと高揚させるたびに、無限から降り注ぐこの平安の感覚を体験するのです。

46. どうして、魂の成長のために何もしない人間が存在し得るのでしょうか？ どうして、下等な存在や理性を欠いた存在よりもさらに深く堕ちてしまう人間が存在し得るのでしょうか？ 理性を欠いた存在は罪を犯しません。なぜなら、それはただ自らの法則に従うことに留まっているからです。それに対して、人間は確かに罪を犯します。なぜなら、人間は自らの内に光の魂、精神、そして直感という賜物を宿しているからです。

47. この働きに献身するよう召された者たちの中には、時折その道を忘れ、主が彼らに与えた霊的なしるしを忘れてしまう者たちもいる。そのしるしとは、彼らが歩む道に平和と祝福の痕跡のものを残すためのものなのだ。どうして、わたしがあなた方を置いたその段階から降りてしまうことができるのか。それこそが、わたしが絶えず降りてきて、あなた方に語りかける理由である。わたしの

言葉が、まるで繊細な彫刻刀のように、あなた方の心の荒さを滑らかにし、不浄なものから遠ざからなければ、神との結びつきは成立しないということを、あなた方に理解させるためである。あなたがたが、あらゆる否定的なものから思考を昇華させ、無限の中にわたしを求めることに成功して初めて、不思議な至福の感覚を体験することになるでしょう。それによって、あなたがたがこのようにわたしを求めるならば、父の慈悲が、ためらうことなくあなたがたの魂の中に現れることを悟るでしょう。

48. まことに、そのような瞬間、あなたがたの肉体はまだ地上にあるにもかかわらず、あなたがたはもはや物質世界にはいない。靈魂は高みへと舞い上がり、あらゆる肉体的なつながりを解き放ち、別の生命と別の空間へと入っていくのである。そこそこが、父の愛が感じられ、その御国の平安と至福が予感として感じられる場所である。

49. 反抗的な者たちの中にこの憧れを呼び覚ますために、私は誠実な旅の仲間に姿を変え、彼らの心にある善——すなわち、彼らを私により近づける行いを成し遂げさせるであろうその感情——を彼らに実感させるまで、彼らと共に歩むのである。彼らがこの一步を踏み出すやいなや、彼らは、眼前に広がる計り知れない広大な野原を目にし、そこが彼らを働きと闘いへと招いていることに気づくのです。かつてはすべてが混乱しており、自分たちが崇高かつ繊細な使命を果たすよう召されていることに気づいていなかったため、目で見ても見えず、耳で聞いても聞こえなかったすべてのことを理解したとき、彼らは心の中にどのような喜びを感じるだろうか。

50. あなたがたすべてに、私はこう告げる。もしあなたがたが師と一つになることができれば、他者の苦しみはますます自分のことのように感じられるようになり、あなたがたは、私があなたがたに対して行ったのと同じことを、隣人に対して行おうとするようになるだろう。もし時折、自分にはその資格がない、あるいは不器用だと感じるなら、隣人愛を抱き、あなたがたにはできないことを私が成し遂げられるよう、私に頼ればよいのです。たとえその任務が当初は不可能に思えても、まず第一歩を踏み出すことが最も重要です。やがて奇跡が起こり、信仰の炎が燃え上がるでしょう。そうすれば、飢えた者、ハンセン病患者、ぼろぼろの服を着た者、そして失敗した者たち——あらゆる形の困窮が、次第にあなたの門を叩くようになるでしょう。

しかし、あなたがたは目を覚まし、祈らなければならない。なぜなら、誘惑や惑わしがあなたがたを襲い、霊性への道を犠牲にしてこの世を差し出そうとするからだ。また、一見素晴らしい言葉や思想で、あなたがたを惑わそうとする者たちも現れるだろう。欲望は、あなたの肉体を誘惑し、魂を弱体化させるでしょう。あなたはあらゆるものに立ち向かわなければなりません——時には独りで、またある時は兄弟たちと共に。あなたの武器は、準備、信仰、あなたの中に宿る目的、そして師から徐々に授かる知識となるでしょう。

51. そうして、あなた方は人生に打ち負かされた人々から、強靱な戦士へと変貌するでしょう。あなた方は、今まさに経験しているこの戦いの時代に、万全の準備を整えて臨むことになるのです。あなたの魂は絶望することはない。なぜなら、魂は自らを浄化し、高揚させるためにこの戦いが不可欠であると感じるからだ。まことに、私はあなたに告げる。私に対してその業を成し遂げたことを示すことのできる者一人ひとりについて、その業は物質界における最後の働きとして受け入れられるのである。

52. その後、あなたがたの肉体が塵となり、最後の人間の衣から解き放たれた魂が霊的な働きを始めたとき、魂は七つの段を一段ずつ登り、力であり、恵みであり、光である父の懷にたどり着くまでの梯子を見るだろう。

53. 見よ。あなたがたは、さまざまな肉体をもってこの世の道を歩み、その過程で汚れや不浄を知り、これほどまでに不完全な状態に陥ったにもかかわらず、私の愛に値する者であった。しかし、この長い旅路のすべては、あなたがたの魂が、わたしの律法に内在する価値と、霊的なものの価値を評価できるようになるための経験であり——魂の発展が栄光と完全な満足をもたらすことを理解するためのものだった。それゆえ、私は常に人々をこの道へと招いてきた。なぜなら、彼らがこの道にたどり着かない限り、苦しみは彼らを襲い続け、偽りの快樂は彼らを苦しめ続けるからである。

54. 私があなたがたに教えることは、私の教えを愛をもって心に受け入れるすべての人々の益となるものであり、その行いによって、彼らが将来、私の力と光を伝え、この世の墮落を克服しなければならない「未来の師」へと変容していくためである。

55. この時代の悪は、人々の前に絶望の深淵を切り開いてしまった。

56. 人々の間には、一見すると素晴らしく、善いと思われる行いが数多くある。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなた

がたの内には比類なき真の偉大さが宿っていることを自覚し、あらゆる欺瞞と戦うことができるよう、警戒しなさい。

57. 善を他者と分かち合い、それを実践すること以上に、これほど偉大な栄光があるだろうか。隣人に与えることのできる愛以上に、これほど偉大な栄光があるだろうか。その愛の光と影響力が、彼らもまた完全性への道を歩み始める助けとなるのだ。自分の肉体の弱さを克服し、今いる段階からさらに高い段階へと昇りつめること以上に、魂にとってこれほど大きな喜びがあるだろうか？

58. すでに第二の時代において、わたしはあなたがたに霊的な生活について語った。そして、あなたがたの霊は、わたしの語ったことの一部と、その霊が定められている目的とを理解していた。今日、私が再びあなたがたを私の周りに集めているのを見て、私はあなたがたの理解を超えていたすべてのことを明らかにし、説明する。そして、もう一度言うが、私に従いたいと思う者は、自分の十字架を背負い、私に従うべきである。なぜなら、私の十字架は死を意味するのではなく、愛と無私、そして魂の完全性のために余分な財産を犠牲にすることだからである。

59. 弟子たちよ、今日の子供たちに私の教えを知らしめなさい。わたしの言葉を理解した者は皆、高い理想をもって子供たちを育て、心からあらゆる悪を取り除かなければならない。彼らの中に、霊性である善の種を蒔きなさい。そうすれば、これらの子供たちがいつか、わたしの教えの力を理解するのに十分な理解力を身につけたとき、彼らはその道を歩む上で揺らぐことはなく、その歩みは確かなものとなり、誰も彼らを欺くことはできなくなるだろう。

60. 生命と光と暖かさを放つ太陽のように、わたしはすべての人々に自らを注ぎ出した。しかし、各人はその成長の段階と準備に応じて、それを受け取るのである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 209

1. このようにして、私があなた方に教えを授けるこの方法が終焉を迎える定められた時が近づくにつれて、あなた方はますます私の神聖なメッセージの深みへと入り込んでいく。

2. あなたがたも知っている通り、私があなたがたに私の言葉を伝えてきた間、世界は私を感じることなく、また私の声を聞くこともなく、ただ過ぎ去っていった。

3. 私の到来を知った者はごくわずかである。残りの人類は、私が——約束通り——戻ってくる際には、肉体をもって戻る、すなわち再び人間となることを期待して生きている。

4. あなたがただけが、すでに「第三の時代」に身を置いていることを知っています。この時代において、私は、私の言葉の伝達者として選ばれた者たちを通して、あなたがたに語りかけているのです。

5. 人間の科学は、その発展の証拠をあなた方に示している。これこそが、魂の進化を明らかにしているのだと悟りなさい。人間はどの時代においても進歩の痕跡を残しており、後世の人々はそれを徐々に自らのものにしていくのである。

6. 科学は、人々にその神秘を明らかにする、私の知恵の光である。高潔な魂を持つ科学者は、儀式を通じてわたしを求めることはない。なぜなら、科学という賜物こそが、神聖な科学そのものである父へと、彼を絶えず近づけていくからである。この人は決して自分の業績を誇ったりはしない。発見すればするほど、自らの小ささを感じるからである。また、彼はわたしの存在を否定することもできない。なぜなら、一步一步進むごとに、自然の中に創造主の痕跡を目にするからである。

7. 弟子たちよ、わたしはお前たちの中にも、開花させるべき賜物を授けた。それは、お前たちが、簡素でありながら真理に満ちた言葉で、この教えを人々の心に深く根付かせる者となるためである。

8. 私が常にこの世に蒔いてきた霊化の種を、この時代にも再び残しておく。この種には、より良い人生への秘訣が込められている。

9. 今日、人々が互いに争い、信仰の教義や階級、人種によって分断され、互いに愛し合わず、理解し合わず、慈悲も持たないのは、彼らの心の中に私の愛の種が芽生えていないからである。しかし、私が恵みの露のように野原に降り注ぐこの時代において、す

べての人間の心の奥底に守られている私の種は、芽吹き、実を結ぶことになる。

10. 私が「第二の時代」において、私の到来を告げたように、今日、私は、人間たちの間に私の霊化の王国が築かれる前兆として、信仰告白、な世界観、そして宗教間の戦いを告げる。

11. わたしの言葉は、何世紀にもわたって人々を覆い隠してきた狂信を、燃えるような剣のように打ち砕くであろう。それは、彼らの無知のベールを引き裂き、わたしへと続く明るく輝かしい道を示すであろう。

12. 人類が、その再生によって霊的なものを受け入れるようになったとき、霊的にも世俗的にも、正しい行いを保つために、もはや厳格な法律や地上の司法を必要としなくなるだろう。なぜなら、その時には、一人ひとりが自分自身を裁くことができるようになるからである。

13. わたしの教えは、教義も儀式も導入するものではなく、ただ善を鼓舞するものである。わたしの霊的教えは、誰をも特定の礼拝形式に縛るものではない。それは、真理の道への絶え間ない招きである。

14. あなたがたは、力強い大樹の木陰へとやって来ます。そこには——あなたがたもご存知のように——永遠の命のパン、すなわち人生の旅を乗り越える力を与えてくれる糧を、あなたがたに差し伸べてくださる方がおられます。

15. 「御言葉」は、新たな時代を切り開くために、あなた方の元へやって来たのである。

16. 私は常に、あなたがたに高みへと向かうよう促す霊的なメッセージを送ってきた。なぜなら、肉体の物質は、重い鎖の環のように魂をこの地上に縛り付けているからだ。

17. あなたがたは、発展の過程において、ついに自らの運命が物質ではなく、わたしの意志に左右されることを理解した。

18. 人間は常に私の意図に同意するわけではなく、私に拒絶と不服従を示す。すでに何度も、人間は私を不公正だと非難し、私の高き御決定に干渉しようと試みてきた。また、望むものを私から得られないと、私の力を疑う者もいれば、いざそれを手に入れた後には、それをただ自分の努力の成果だとしか考えない者もいる。それゆえ、彼らはついには自分たちを神や王だと見なし、人間に靈魂を宿らせ、驚くべき自然の恵みで包んでくださったお方を忘れてしまうのである。

19. 人間は、そのすべての科学をもってしても、私が創造したもののほんの一部でも創造できるだろうか？ いいえ、民よ。

20. 人間の科学には限界があるが、創造主である神にはそのような限界はない。科学は光であるが、多くの人々の手にかかる闇となってしまう。それに対し、宇宙においては、あらゆるものがわたしを証ししている。すべての自然界が、生命と愛を讃える歌を奏でている。しかし、私がすべての被造物を通して「私はここにいる」と告げているにもかかわらず、あなたがたは、不完全で人の手によって作られた作品の中に私の姿を探し求めている。そして、それらに頭を下げ、崇拝することで、あなたがたの魂が高みへと向かうことを妨げているのだ。

21. わたしはあなたがたに愛を授ける。なぜなら、他者の苦しみを自らのものとして受け入れるために、心を少しでも開く人間を、わたしの目には見当たらないからだ。隣人に仕えるために富と権力を託された者たちは、いかなる同情も拒み、さらには、地上でわたしを代表していると自称する者たちでさえ、贅沢に囲まれ、王のように身を飾りながら、愛と慈悲を求める者の嘆きに対して、耳も心も閉ざしている。

22. これらは私の道ではない。私が示した狭い道は、善の道である。それゆえ、私は再びあなたがたに告げる。私の言葉は私の道である。なぜなら、それは常にあなたがたに正義と道徳と愛を語りかけるからである。

23. わたしは、あなたがたの心に感受性を与え、そこにわたしの教えを刻み込み、あなたがたが真に永遠の命のパンによって養われていると実感できるようにする。

24. わたしはすべての人を等しく愛している。しかし、この時代において、すべての人がわたしの声を聞くわけではない。第一の時代や第二の時代と同様に、わたしは地上のある場所を選び、そこでわたしの声を聞くべき者たちを集めている。

25. あらゆる宗教共同体において、自らを私の使者、私の選ばれた者、私の寵愛を受ける者と呼ぶ者たちが、その指導者となっている。しかし、私は、人類を救うことのできる義人を見いだせない。かつて私がイエスとしてあなたがたに語ったように語ることで口は、一つもない。

26. 人々は竜巻の渦中に翻弄され、その混沌の中で、迫り来る戦争を前にして苦しみ、嘆き悲しんでいる。

27. 私が再臨する間、それらの民は「第二の時代」の私の言葉によって霊的に養われることができたはずだが、その糧は隠され

たり、歪められたりした。それゆえ、ある人々は自由に振る舞い、ある人々は無関心で、またある人々は狂信的で冷酷であるのを見ることになる。

28. 裕福な富豪は、いつになったらその富を貧しい人々に分け与える用意ができるのだろうか。

29. 豪華な服を身にまとった者は、いつになったらその衣を脱ぎ捨て、裸の人々を覆う用意ができるのだろうか。人類は模範を渴望しており、正義と慈悲を必要としている。

30. 人々は、私が自分の王国を捨てて、あなたがたの中に住み、私の中にあるすべてのものをあなたがたに与えるために来たことを忘れてしまった。私を真の模範として受け入れる私の代理人は、どこにいるのか。

31. あなたがたに告げる。わたしはあなたがたを再び相続人とするために呼び寄せ、わたしの愛の香油、すなわちわたしの血そのもので病人を癒やす権能をあなたがたに与える。

32. 自分自身を深く見つめ、あなたがたに何の功績もないにもかかわらず、私があなたがたを私の恵みにふさわしい者とされたことを悟りなさい。そして、迷い羊のように嘆き悲しむ人々を見よ。手ぶらで家路につく男たちの姿を見、痛みと絶望の声を聞きなさい。

33. 自分の手を見てごらん。その中に、この苦しみを和らげる力と慰めを見出すだろう。なぜこの恵みを疑うのか。信仰の光が松明となるまで、心の中でその光を燃やし続けなさい。心を閉ざしてはならない。そうすれば、あなたたちもまた、金持ちの守銭奴となってしまふからだ。あなたがたは、わたしを証し、わたしについて語らなければならないことを悟りなさい。しかし、もしあなたがたがそうしないならば、石たちがわたしの証人となるだろう。

34. わたしは力であり、正義である。しかし、痛みや解き放たれた自然の力によって、わたしがこれらの教訓を与えるのを待つてはならない。わたしの神聖な輝きがあなた方を包み込み、わたしの愛が常にあなた方を祝福することを願え。

35. 私の神聖な御霊は、あなたがたの苦しみを和らげるためにあなたがたの元へやって来る。あなたがたは、その道のりで多くの試練にさらされてきたからだ。謙遜の師が、教えと慰めをもたらすために降りてくる。

36. 時折、私は、あなたがたが私の律法を十分に果たしていないことについて、あなたがたに問いたすことがある。なぜなら

、私はとつくの昔にそれをあなたがたに与え、それによって完全な道を示しておいたからである。

37. あなたがたが私の教えを心の中に隠しておくのは、もはや時代遅れである。誤りに陥らないよう、私を見、私を感じることを学べ。

38. わたしはあなたがたを、限りない栄光の所有者とした。しかし、あなたがたは、その栄光を隣人と分かち合う術を知らない。

39. 1866年以来、私が与えてきたこの教訓を、あなたがたに深く刻み込むために、何度も繰り返す必要があった。それによって、私が決してあなたがたを後退させることはないことを、あなたがたは知っているはずだ。私は、あなた方を正しい道へと導くために、愛情を込めて寄り添っている。私が理解されやすく、また私の言葉を汲み取れるように、あなた方の言葉で、極めて平易に語りかけてきたのだ。

40. あなたがたは道の半ばで立ち止まり、上向きの成長が乏しいことが私には見えている。しかし、振り返って、涙を流している世界、私の言葉を嘲笑する不信仰者たちを見よ。また、愛と光を渴望している人々にも目を向けてほしい。しかし、弟子たちよ、あなたがたは、無知であるとも、病んでいるとも、困窮しているとも、弱いとも言い張ることはできない。なぜなら、それは私があなたがたに与えたすべてのものを否定することになるからだ。それゆえ、あなたがたは私のこの言葉を思い起こさなければならない。「ああ、信仰の薄い人々よ！」

41. 心を高揚させ、その場所で私の言葉を聞き取ることできた心は、ほんの一握りに過ぎない。そして、多くの者は——魂を私へと向ける代わりに——ただ、この世の生活における悲慘さや苦難を私の眼前にさらすためにやって来るだけである。これこそが、あなたがたの弱さと、民の間に一致が欠けている理由である。いつになったら、あなたがたは自分自身を忘れ、この世界のために私を祈るようになるのだろうか？

42. 母親たちは、子供たちが自分の助言に従わないために泣いている。荒涼とした街は、その存在の虚しさを私に示している。妻は、伴侶に理解されない自分の心を私にさらけ出している。しかし、あなた方皆は、これこそが約束の地へと続く道、すなわち「犠牲」の道であることを忘れている。「あなた方一人ひとりの運命は、私のひらいた掌の中にある。」

43. 身を委ねなさい。あなたがたが深く苦しむとき、私はあなたがたと共にいる。

44. 私だけが裁くことのできる事柄を、あなた方の基準で裁こうとして、その痛みをさらに大きくしてはならない。

45. 私があなた方を愛していることを忘れないでください。私はあなた方の苦しみに対して無関心ではなく、心からあなた方を理解しています。見なさい、あなた方は私にこれほど近くにいるのに、それでもなお多くの過ちを犯しています。しかし、私はあなた方を赦します。

46. 試練の重荷に直面し、私の存在を疑う者もいます。彼らは正しい道から逸れ、かつて置き去りにした者へと向き直ります——失ったと信じているものを取り戻せることを願って。しかし、彼らは、自分の手が空っぽであることに気づき、世界中で広がる大きな痛みや疫病、そして各国の門を叩き、あなたたちをも脅かす死に対して、自らの精神が無力であることを悟ると、再び私の御業に目を向ける。なぜなら、新たな戦争の予感が彼らを不安にさせているからだ。

47. 私の存在を信じるために証拠を要求し、私にこう言うような不信者たちようになってはならない。「戦争を即座に終わらせ、すべての食卓をパンで満たしてくれ。そうすれば、私はあなたを信じる」と。

48. もう一度言うておくが、この啓示があなた方に与えられる期間はあと三「年」しか残されていない。この短い時間を活用し、世界中の教会や宗派を、光と霊性の道へと招き入れなければならない。そこでは、すべての者が私と霊と霊とでつながることができるのだ。

49. これは、人々の心から狂信と偶像崇拜が根絶された時に実現するだろう。

50. その時、あなた方は荒れ狂う海に漂う船乗りたちのように、救命ボートを頼りにすることになるでしょう。

51. わたしはまた、イスラエルの部族に属し、広く散らばっているすべての人々にも呼びかけ、彼らもまたその使命を果たせるようにする。そうすれば、人類はわたしの声を聞き、地球上のすべての住民を照らす、夜明けの輝く光を見るだろう。

52. わたしの言葉に慣れ親しむな。また、それを聞くときは、わたしがどのような媒体を通じてそれを伝えているかには気を取られるな。その言葉の奥底に深く入り込み、その真意を掴み取れ。そうしてこそ、あなたがたの

理解が完全なものとなるように。

53. その真意こそが、神性の表現である。

54. 今、あなたがたが耳にし、目にしているのは、慣れ親しんだ典礼でも、感覚に訴えかける儀式でもない。なぜなら、この啓示の荘厳さは、あなたがたの魂の内側にあるからである。

55. こうした瞬間、あなたがたはこの集会所の四つの壁の中にいるわけではない。むしろ、私はあなたがたの魂の高揚を待ち望んでいたのだ。そうしてこそ、真の内なる礼拝において、私の神性との対話を成し遂げることができるからである。私がこの集会所の建設を許したのは、あなたがたがそこで祈りと静寂、そして思考の集中を見出し、それによって私の神聖な光を引き寄せられるようにするためである。しかし、この四つの壁は私の神殿ではない。これらの集会所は、あなたがたの集まりのために定められた場所に過ぎない。なぜなら、真の神殿、すなわち私の聖所は、あなたがたの心の中にあるからである。

56. あなたがたは、1950年以降、これらの集会所が消滅するかどうかを私に問うが、私はこう答える。いいえ、私がいつまでこれらの場所をあなたがたに許すか、あなたがたにはわからない。なぜなら、民の中に私の業への認識、高揚、そして私の律法への堅忍が存在しない限り、あなたがたはそれらを欠くことはできないからだ。

私が去った後、あなたがたは安息日に集まることになるでしょう——それは伝統や記念のためではなく、私の言葉と霊界の言葉を思い出し、それを解釈するためです。そうして、あなたがたが互いに、それぞれの歩みの中で、私の奇跡についての真実の証しを分かち合い、私への愛によって一つに結ばれ続け、私に喜ばれる礼拝を捧げ、あなたがたの心が冷めたり、倦んだり、狂信的になったり、物質主義的になったりすることがないようにするためである。

57. 私がいつまでこれらの集会の場をあなた方に委ね続けるか、あなた方は知らない。なぜなら、1950年以降も新たな集会の場が設立され続けるからだ——それは、そこで「声の媒体」を通じて私の言葉が響き渡るためでも、霊界が現れるためでもない——その時代はすでに過ぎ去っているからだ——むしろ、私があなた方に与えたままの形で、私の言葉と教えが純粹かつ歪められずに伝えられるためである。この平和の雰囲気の中に、私の臨在、マリアの臨在、エリヤの臨在、そして霊界の臨在があるだろう。そこでは、病人は癒され、盲人は光に向かって目を開き、世俗的な者は敬意を知

り、罪人は悔い改め、そしてすべての人が、水晶のように澄んだ水、良き実、良き種が広まるために必要なものを受け取るだろう。

58. あなたがたは、この現世において、わたしの神性の真の神殿を知るかどうか、わからない。しかし、あなたがたには道を整えるという使命がある。もし目標に到達できなくても、せめて子供たちのために道を整えておいてほしい。あるいは、その子供たちの子供たちが、わたしの神性の神殿に入ることができるようにしておいてほしい。そうすれば、私の臨在はこれらの集いの場だけに存在するのではなく、あなたがたの魂が礼拝すべき場所もそこだけではないことを理解するでしょう。神性の神殿とは宇宙そのものであり、あなたがたの心こそが祭壇であり、あなたがたの信仰こそが燭台であり、捧げ物であることに気づくでしょう。

創造そのものもまた神殿であり、あなたがたの足が踏む塵さえもそうです。山々は、私に向かってそびえ立つ祭壇です。草や花に彩られた谷々も、私に捧げ物を捧げています。王の星、すべての星や惑星は、私に愛の捧げ物を捧げる世界であり、あなたがたが行くところ、目を向けるところどこにでも、父としての私の神聖な御霊がいます。ですから、あなたがたは永遠に神殿の中に生きていることを悟ってください。

59. 誰もがその内に神殿を宿しており、あなたがたの家もまた聖域である。なぜなら、そこには霊的な家族に似た人間の家族が住んでいるからだ。その家族の懐こそが、私にとって最も尊い神殿である。

60. しかし今日、私は、道から遠く離れて歩む人々が、真の光を理解していないのを見ている。彼らが私のもとへと立ち上がる唯一の場所が、物質的な教会であるのを見ている。

61. 私は、人類の混沌、そして人間的な法や神聖な法への軽視を目の当たりにしている。この時代、私の教えはに隠され、過去のものとして見なされてきた。それゆえ、人々は失敗し、制度は分裂し、最も神聖なものを嘲笑している。こうして私は、互いに拒絶し合い、破壊し合い、殺し合う人々を目の当たりにする。彼らは、魂と肉体を混同し、神性と人間性を混同し、光と闇を混同しているのだ。

62. この混乱と悪行の時代に、私は見過ごされ、軽んじられてきた一つの国を選んだ。メキシコという国を、彼らと、他の国々に住む選ばれた者たちへと呼びかけを届け、彼らを私のもとに集め、私の言葉という彫刻刀で彼らを磨き上げ、任務を授け、そして

準備を整え、愛に満ちた者として、私の業の使者として全世界へと送り出すためである。

63. これこそが、わたしの神聖な御言葉を聞く人々の群れに課せられた責任である。

64. わたしはわが民を清め、その不完全さを取り除く。しかし、この清めは、あなたがたの霊的な活動においてのみ行われるのではなく、あなたがたの家庭にも及ぶのである。私は旋風のように現れ、その力によってすべての悪い実を落とし、霊的な木と人間の木の葉の間には、良い実だけが残るようにする。なぜなら、人々があなた方に問い詰める試練の時が近づいているからだ。

65. わたしの業は、新たな宗派と見なされるだろう。人々は、あなたがたの私生活、家庭、職場、あらゆる義務の場で問い詰めてくるでしょう。そして、もしあなたがたが、わたしについて証しをする準備ができておらず、行いをもってわたしの言葉を裏付けていなければ、あなたがたは、非の打ちどころのない外見の下に心の腐敗を隠していた、あの偽善的なパリサイ人たちと同じになってしまうでしょう。

66. あなたがたの主の裁きは、私がこの世に留まる最後の年に下される。とりわけ、私の別れの日は、すべての人によって感じられ、あらゆる目——罪人の目も、罪のない者の目も——によって見届けられるだろう。私は、あなたがたが私の言葉——この時代に聖霊があなたがたにもたらした言葉——の真の伝達者となるよう、すべての人を準備させている。

67. 平静と心の平安を保ちなさい。あなたがたは、私がはるか昔に予告した戦いの時代に入ったのだから。この戦いは、あなたがた自身の間で繰り広げられる。その中で、あなたがたは同じ武器を手取るだろう。私を理解し、愛する者たちは、私の大義のためにその武器を手取る。私を理解しなかった者たちは、それを自らの大義のために用いるだろう。しかし、最終的には、な真理が勝利を収めるだろう。少し前に、私はあなたがたにこう言った。「第二の時代のたとえを思い出せ。『麦と雑草を共に育ちさせ、両方が熟してから刈り取り、麦を分け出し、雑草を火に投げ込め』」わたし、すなわち「善良な農夫」は、あなたがたの心の中で、わたしの言葉という小麦を、罪という雑草とともに育ててきた。しかし今、わたしの正義の鎌で刈り取る時が来た。そうして、わたしの働き人たちの心と、彼らの家庭の懐には、真実と愛の種だけが残るようにするためである。

68. あなたがたは私の教えを深く理解しておらず、それゆえ試練が突然襲いかかるのである。これが、あなたがたが分裂し、互いに理解し合えない理由である。なぜなら、私の言葉が実証されたとき、あなたがたは準備ができていなかったからだ。

私は今もなお、あなたがたが落ち着きを持ち、平安を保ち、旋風がすべての悪い実を吹き飛ばすことを許せるよう、あなたがたを準備している。なぜなら、命も実も影も与えないものはすべて、滅びてしまうからだ。

暴風の勢いによって、多くの木が倒れ、多くの働き手が私に背を向け、多くの教会指導者が、彼らに託された任務を私に返上することになるだろう。しかし、私の御心はあなた方を正してくれる。

69. やがて、わたしに背を向けていた者たちが皆、目覚め、悔い改めて戻ってきて、わたしにこう言う時が来るだろう。「師よ、あなたの御業はなんと清らかなことでしょう。」

70. 今日、この民の懷で起きていることは、世界中のあらゆる国々でも起きている。私は、正義の剣を携えて、すべての人々の前に現れた。この地上だけでなく、霊界においても、そして不完全な魂が住むあらゆる場所においても、彼らを啓発し、浄化し、完全なものにするために。今この瞬間、あなたがたに語りかけているこの者こそ、第二の時代にあなたがたに語りかけた者である。ガリラヤで私の言葉を聞いた大勢の人々の中から、私はただ十二人を選び出し、彼らを通して、私の教えを世界の隅々まで広めたのである。

当時、多くの人々にとって、イエスの言葉は空想のように思われた。今日でも、真理の御霊について同じように考える人々は少なくない。しかし、私の言葉が成就しないことなどあり得ない。むしろ、天と地が滅びる方が先である。

71. もしあなたがたが私の教えに従うならば、誰があなたがたを迫害したり、犯罪者として告発したり、中傷したりできようか。しかし、あなたがたが教えるのは、私があなたがたに教えたこと、すなわち、愛、内なる礼拝、そして私の神性の真の神殿に関する知識に過ぎないのだ。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 210

1. 私は、あなたがたを、あなたがたの物質主義が招いた苦しみから解放するためにやって来ます。そして、あなたがたの道を照らすことのできる光をもたらします。

2. あなたがたは「第三の時代」の人々である——すなわち、自らの生きる意味を真に悟る者たちであり、私は私の啓示を通じて、あなたがたがこの悟りを得るのを助ける。

3. あなたがたは「新しい時代」の人々である。この時代において、私の王国はあなたがたの心を探し求め、その中に築き上げられる。あなたがたは「善」を精神的な理想とし、最良の祈りとはあなたがたの行いそのものであることを学ぶだろう。

4. 愛と真理は靈魂に属するものであり、そこから知恵が湧き出る。なぜなら、靈魂は父を愛し、父を知るために創造されたからである。

5. わたし、師は、あなたがたの心が知らない靈的な過去——それは、あなたがたの靈魂が真の存在を生き、あなたがたの世界が今とは異なっていた時代、そしてあなたがたが今持っているこの肉体（それは魂にとって試金石であり、金床であり、教訓である）にまだ宿っていなかった時代のもの——の記憶をもって、あなたがたを奮い立たせる。

6. 私は、あなたがたの肉体というベールの裏に隠されている靈的な生についての記憶をあなたがたに呼び起こし、その生が再びあなたがたを待っていることを告げている。それは、あなたがたが巡礼の旅、経験、そして成長を経て、その生を存分に享受できるようになるためである。

7. あなたがたが再び永遠の故郷に戻り、そこに生きる至福を感じるとき、至福、平和、光を大切にすることを学ぶために訪れたこの「涙の世界」を、祝福することに飽きることはないでしょう。

8. 私の再臨——今は靈として——は、あなた方を「法」の道に立ち返らせることを目的としています。その道は、あなた方を「絶対者」と結びつけ、宇宙の調和へと導いてくれるでしょう。そうしてあなた方がその神聖な調和の一部となり、私の知恵という糧を糧とする時、あなた方は真に、自分たちが何者であるかを悟るでしょう。

9. もしあなたがたが人間生活の惨めさを超越しているのなら、この世の何があなたがたを泣かせることなどあろうか。苦しみも、困窮も、道徳的な試練も、自然の猛威も——一度真の靈化に達し

てしまえば、何ものもあなたがたを打ち負かしたり、意気消沈させたりすることはできない。

10. あなたがたの苦しみは他者のためのものであり、あなたがたの心配事はすべての人類の救いのためとなるでしょう。そして、ある人間の救いを目にするたびに、あなたがたは父の光が内なるを照らすのを感じ、その道を歩み始めた最初の一步を踏み出したその日を祝福するでしょう。

11. 私の言葉は、あなたがたがどこから来て、どこへ向かっているのかを知りたいと願うならば、五感のすべて、知性のすべて、そして愛のすべてを尽くして歩まなければならない霊的な道である。

12. まだ、自分自身を知っている者は誰もいない。自分の体さえ知らないのに、どうして自分の魂を知ることができるだろう。しかし、あなたがたは、私の神聖な教えを実践するにつれて、自分自身を知っていくことになるだろう。

13. わたしは「言葉」そのものであるわたしから発せられたものであり、すべてを含んでいるため、この言葉を通してあなたがたに教えを授ける。霊的な事柄について語る際には、他者に向ける一言一言が、まるで計り知れない価値を持つ真珠や宝石であるかのように、あなたがたの心から兄弟の心へと届くよう、学びなさい。

14. 魂たちに語りかけることを学びなさい。彼らに良心の声に耳を傾けるよう教え、私の教えによって彼らの感覚を研ぎ澄ませなさい。

15. 見よ、わたしのすべての言葉が、道しるべとなる道へと導いていることを。今はまだ表面的にしか捉えていないかもしれないが、明日、あなたがたがより高い次元へと足を踏み入れることができたとき、わたしの言葉の中に本質のみを見出すようになるだろう。

16. 民よ、私はあなたがたのところへ降りてくるわけではない。私があなたがたのところへ降りてきたと言うとき、それは比喩的な意味である。なぜなら、私の啓示は、これらの伝達者の心の中で思考となるインスピレーションを通じて行われるからである。あなたがたがこれらのメッセージを耳にするその瞬間、それを理解することも、記憶に留めることさえできないことを私は知っている。だからこそ、あなたがたが現在理解できないことを、明日、徐々に理解できるよう、私の言葉を書き留めるよう命じたのである。

17. 一見したところ、この時代の私の啓示は、その輝きが霊的なものであるため、あまり印象的ではないように見える。しかし

、あなたがたは、私があなたがたのところへ来たその栄光をやがて感じ、この教えが、靈化を通じて人類を救うという奇跡を成し遂げるのを目にするだろう。

18. 主の子らが愛をもって築き上げる靈的な神殿は、多くの柱によって支えられている。その柱の一つ一つは、私の律法の道に堅く立ち続ける者たちとなるだろう。

19. あなたがたは、それが不可能だと思っているのか。それは、あなたがたはまだ自分自身を信じていないからである。しかし、私はすべての人を信じている。常に信じてきた。だからこそ、私は時を経て、新しく、ますます大きな啓示をあなたがたに託してきたのである。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが、深い知恵の教えを隣人に与える日は、そう遠くない——しかし、それは学んで得た言葉によるのではなく、神聖なる師と交わりを持つときに、御靈の源から湧き出る言葉によるのである。

20. 不毛な心から善き感情が芽生えることが、なぜあり得ないというのか。罪を犯した者の心から、苦しむ者たちの渴きを癒やす恵みの水が流れ出ることは、なぜあり得ないというのか。

21. あなたがたは、今日だけ考え、明日には考えなくなるような知性の器に過ぎないわけではない。あなたがたは、今日生きているが、まもなく存在しなくなるような肉体だけではない。私にとって、あなたがたは何よりもまず永遠の魂であり、神の子である。それゆえ、私はあなたがたに、真にふさわしい道を指し示すのである。

22. わたしは、わが子らの維持、健康、生計、幸福、そして喜びのために、自然の中に与えたものについて、何一つあなた方から隠すつもりはない。それどころか、私はこう言おう。私があなたがたに「靈のパン」を差し出し、神聖な精髓を吸い込み、靈的な輝きに満たされるよう招くのと同様に、自然があなたがたに与えてくれるすべてのものを、見過ごしたり、背を向けたりしてはならない。そうすれば、あなたがたは調和と健康、そして力を得て、ひいては生命の法則を正しく成就することができるからだ。

23. 民よ、あなたがたは私があなたがたの導き手であることを知っている。しかし、私に答えてほしい。もし私があなたがたの導き手であるならば——あなたがたはすでに心の中で私を感じているか、すでに私に服従しているか、すでに私の戒めと律法に従っているか。もし私があなたがたの導き手であるならば——あなたがたはどの程度まで私に服従しているのか。

24. 良心の声が、あなたがたの内側から答えて、あなたがたの犠牲の精神は絶対的なものではなく、あなたがたの従順も一貫したのではないと、私に告げている。

25. 私が御言葉の中であなたがたに告げていることを、一瞬たりとも忘れてはならない。「私の律法に従う者は、私の平安を味わう」と。それゆえ、私の言葉を知る者たちは、孤独も悲しみも感じない。なぜなら、「不幸」、「破滅」、「死」という言葉が、脅威として、あるいは魂の平安を覆う影として、彼らを追い回すことはないからだ。彼らは真理を知り、光の中で生き、永遠の健康、平安、そして知恵を得るよう努めている。

26. わたしの教えの道を通してわたしのもとに来る者たちは、神聖な光に導かれているため、迷うことはないことを知っている。その光こそが、彼らに目的地と人生の真の意味に対する確信を与えるのである。

27. 弟子たちよ、私の道は善の道である。その道を一步一步進み、善行、善い思い、善い言葉でその道を彩りなさい。しかし、決して自分の善行を数えてはならない。それどころか、過ちをますます少なくしていくために、自分の悪行、言葉、思いはきめ細かく記録しておくよう、私はあなたに勧める。

28. あなたがたが収穫した良い種はわたしに委ね、悪い種はあなたがた自身で取り除きなさい。それをよく調べ、あなたがたの弱さの根本原因を見極めなさい。それが良い穀物と混ざり合い、それを台無しにしないよう注意しなさい。

29. 善のみが、平和、喜び、健康、理解をもたらすことができる。それゆえ、愛に満ちた者は、霊において偉大となる。

30. これこそが、私がこの世であなたがたと共に生きていた時に教えたことであり、今日、私はそれをあなたがたに思い出させている。かつて私がイエスとして、病める者たちに手を触れて癒したように、今この時も、私は彼らに触れて健康を取り戻させ、再び命の奇跡にあずかせているのだ。

31. 今日、私は霊として来ているため、あなたがたの病んだ身体に触れるための物質的な手は持ち合わせていない。しかし、霊もまたその愛をもってあなたがたに触れ、その存在をあなたがたに感じさせることができるのだ。

32. 当時の盲目な人々——魂の盲目な者たち——は、師の血を流し、触れるだけで癒やし、撫で、祝福を与えてくれたその両手を貫いた。しかし、彼らは私の霊を破壊することも、捕らえることも、釘付けにすることもできなかった。私の霊は、人々の哀れさ

を超越し、再び戻ってくると約束した。なぜなら、その当時、主は認識されておらず、その言葉も至高の真理として理解されていなかったからである。

33. 今、私はその約束を果たすためにここにあり、人類が私を認識することを待ち望んでいる。

34. しかし、もし私があなたがたに問うたなら、「キリストが宿っていたあの祝福された肉体はどうなったのか？」と。あなたがたは私に答えることができるだろうか。私は自らあなたがたに告げなければならない。神の愛の器であったその肉体は、その務めを終え、その唇も、そしてその目も永遠に閉じられた後、人間としての役割を全うするために、この地に委ねられたのだ。しかし、大地がその体をその懷に受け入れたとき、愛のみが満ち溢れていたその体の構成要素は、無限の彼方へと散り、やがて、救い主がもたらした命を拒んだまさにその人々に、命を与える雨として降り注ぐこととなった。神ご自身が、あなたがたと共に生きるために人間とされたという事実を思い起こすとき、あなたがたは、父からそれほど深く愛されていると誤って思い込み、さらには自分たちが主の傑作であるとも考えてしまうだろう。しかし、まことに、あなたがたに告げよう。父の御業で、傑作でないものなど一つもない。さらに、あなたがたには想像すらできないほどの完全さ、美しさ、そして崇高さを備えた魂たちが存在することを知らなければならない。

35. あなた方の世界を超えたところには、あなたがたがここで知っているものよりも偉大な御業があり、また、人間の御業よりも高い位置にある、あなた方の兄弟姉妹たちの御業もあるのだ。

36. なぜ、人間こそが、今日の主の御業の中で最も偉大なものであると信じるのか。あなたがたは、真の偉大さを求めて長い道のりを歩む、ただ小さな被造物に過ぎないのだ。

37. あなたがたは、わたしの御業であるという点において、偉大であり、完全である。しかし、あなたがたの行いに関しては、まだ非常に小さく、不完全である。それゆえ、わたしはあなたがたの間で師として現れ、あなたがたを善と知識と愛の頂点へと導き、あらゆる完全なものとの調和をもたらす新たな啓示を与えるのである。

38. 痛みがあり、苦しむ者、悪徳にまみれた者、傷ついた者、抑圧された者がおり、傲慢な者、利己的な者、さらには殺人者さえいるというのに、どうしてあなた方の世界に完全さがあるというのか。

39. 至福は高き住まいの特権である。しかし、あなた方の世界には、まだ至福は見当たらない。

40. 今日、私はこの言葉をもって、あなたがたが新たな人生へと昇華できるよう、新たなメッセージを遺す。

41. 私の教えの力を活用して、あなた方の平和を築き、至福の世界を築き上げなさい。

42. 確かに、あなた方は快適さ、快楽、そして進歩を得るために懸命に戦ってきた。しかし、あなた方の目標には、しばしば利己主義や、度を越した権力への渴望が含まれている。その結果、幸福や平和を得るところか、痛み、戦争、そして破壊を招いてしまう。それが、あなた方が現代において刈り取っているものののだ。

43. あなたがたが、自らの命の源である自然の要素と敵対しているのを見る限り、どうしてこの地上の行いが完全であると言えるだろうか。

44. 私の教えは、あなたがたが自然の要素や力を利用することを妨げるものではありません。しかし、それらを善き目的のために用いるよう、あなたがたに命じ、教えているのです。

45. 自然の力は、あなた方の手にかかれば、友や兄弟から、あなた方を厳しく罰する裁き手へと変貌する可能性がある。

46. 人々がもはや自然の力に挑むことのないよう、経験の果実を収穫する時が、とくに訪れていた。なぜなら、彼らはあらゆる科学を駆使しても、それらを食い止めることはできないからだ。

47. ああ、人類よ——常にわたしから遠く離れている！ あなたがたが忘れていても、わたしの記憶は、わたしの血に染まったこの世界から離れることはない。わたしは再び、この世界に愛をもたらす。

48. 第二の時代に私が示した模範的な行いを覚えているか？——それならば、よく聞きなさい：

49. ある村の外にいたとき、ある権力者の使者が私のところへやって来て、こう言った。「主よ、あなたのもとへたどり着くまで、どれほど長く歩かなければならなかったことか！」私は彼に言った。「わたしを求める者は幸いである。なぜなら、その者は必ずわたしを見出すからである。」

50. 「お前は誰の前に立っているのか？」——と私は彼に尋ねた。「その力によってあらゆる苦しみを癒やす方の前に。もしかして、あなたは神の子でしょうか？」そこで私は彼に答えた。「私は初めであり終わりであり、復活であり命であり、あなた方を救うために天から地へ降りてきた者である。この人々が、地方や州、

村々を通り抜けて私に従ってきているのを見ますか？ 明日、あなたも同様に私に従い、その立派なマントを脱ぎ捨て、庶民や貧しい人々の間に混じることになるでしょう。まことに、あなたに告げる。あなたは、主の御名によって私を呼びに来たのだ。その主は、私が彼をらい病から癒やすことを望んでおられる。そうではないか？」その男は動揺し、恐怖に襲われた。しかし、私は彼に言った。「恐れることはない。私はただ真実を語っただけだ。それこそが、私がこの世に来た目的だからだ。」

51. すると、そのしもべは私にこう言った。「主よ、あなたがすでに知っておられるのですから、私を呼んでいる私の主の家へおいでください。」

52. 「おお、人よ」と私は彼に言った。「あなたの主人に、彼が私を信じたことだけで私には十分だと伝えてくれ。あなたが家に着く頃には、彼はすでに清くなっているだろうから。」

53. その男は立ち去り、やがて喜びに満ちた彼の瞳は、イエスの御言葉の証人となった。すると、マタイが私のところに来て言った。「先生、ある女性があなたをお探しです。」「わかっている」と私は彼に答えた。「マリア・マグダレナが、彼女に取り憑いていた悪霊たちの影響から解放してもらうために、私を探しているのだ。」弟子は、私がすべてを知っていることに驚いた。

54. ある村へ向かう途中、私はマリアが私のもとへやってくるのを見た。「ああ、愛する息子よ。あなたの口が、まもなくの別れを告げたことを私は知っています。私の心はすでにそれを知っていたものの、少なくとも、人類のために私が計り知れないほどの苦しみを味わっていることを、あなたに伝えなければなりません。」「はい、そう書かれています」と私は彼女に答え、その通りにならなければならないのです。私の犠牲の死は不可欠である。種は、実を結び、増殖するために、土の中で死ななければならないのだ。流される時、あなたの心に計り知れない痛みをもたらすであろうあなたの息子の血は、私があなたの子供たちとして残していく人々にとって、命の川となるだろう。私の死は命そのものであり、あなたと私が一瞬たりとも離れることはない。」

55. 「私は今、ラザロの家へ向かう。彼はまもなく墓に横たえられるからだ。しかし、私は父の名が栄光を受けるために、彼をそこから連れ戻すつもりだ。」

56. 「あなたもそこへ行きなさい。あなたの存在が、あの女性たちを慰めることになるでしょう。彼女たちの悲しみはまもなく

深まるでしょうが、あなたの愛の中に、彼女たちはとても優しい慰めを見出すでしょう。」

57. 私は弟子たちの元へ戻り、彼らと再会した。私が彼らと共に過ごす日々も、すでに最後の日となっていた。私は、彼らがそのことに驚かないよう、そのことを彼らに伝えた。ペトロは涙を流し、黙って私の指示を受け入れた。ヨハネは、試練の時にお互いを慰め合えるよう、母のもとに残ることになると告げられると、私の両手を自分の両手で包み込んだ。

58. タダイは、すでに師との別れを思うだけで苦しんでいたが、私はまだ彼らの間に留まっていた。その瞬間は切なくも痛ましいものであり、言葉以上に魂が語り合っていた。しかし、私は「御言葉」であり、私の言葉は、彼らの心に蓄積された計り知れない痛みを和らげなければならなかった。

59. 私は、父として子供たちに、兄弟として兄弟たちに、師として弟子たちにこう語った。「おお、弟子たちよ、あなたがたは私と共に、渇きに苦しむ巡礼者たちの水を飲み、私の言葉と業を渴望して、遠い道のりの苦労に耐えてきた。まことに、あなたがたに告げる。たとえ私があなたがたの視界から消え去ろうとも、私はあなたがたを見捨てはしない。もしあなたがたが私を心の中に抱き続けたいと願うなら、私の死を受け入れなさい。そうすれば、私はあなたがたの中に生き続け、あなたがたの口を通して語りかけるのだ。」

60. 「弟子たちよ、私の最後の言葉まで聞きなさい。」その後、豪華な衣装をまとった女性が私のところにやって来た。それはマグダラのマリアであり、彼女は自分を救うことのできる光を私の目の中に見出そうと、長い間私を探し求めていた。彼女は夢の中で、ナザレの人が彼女を不浄な重荷から解放する姿を見ていた。光と救いを渴望する魂に駆られて、彼女は私のところへやって来た。

61. 彼女は私の前にひれ伏し、そこにいた者たちを皆驚かせた。人々が、私が彼女から背を向けたり、少なくとも彼女を責める言葉をかけたりするだろうと予想していたその時、私は彼女にこう言った。「なぜ泣いているのか？——あなたは苦しみと喜びのあまり泣いているのだ。しかし、私はあなたを大いに赦す。あなたは多くの罪を犯してきたからだ。」

62. その瞬間、彼女をこの世に縛りつけていたすべての鎖が外れ、自由となった彼女は、最も忠実な弟子のように、私の足跡を追って行った。

63. かつては自らの家の恥と汚点であり、男性たちの人生を破滅へと導いたあの女性は、赦しの言葉によって、主の最も謙虚なしもべへと変えられ、後に、二人に苦痛の時が訪れた際には、マリアの愛情深い支えとなった。

64. 魂の声を聞くわたしに、その女性がこう尋ねてくるのが聞こえた。「主よ、これほど多くの罪を犯した私が、あなたが告げられたあの最期の時に、あなたのそばにいられるほどにふさわしい者であるなど、あり得るのでしょうか？ 私が本当にあなたに仕えることなど、果たして可能なのでしょうか？」——「おお、女よ」と私は彼女に答えた。「立ちなさい。あなたは今や清められたのだから。謙遜の外套を身にまとい、あなたの家族のもとへ戻りなさい。マリアを訪ね、彼女の後について行きなさい。」

65. その後、すべての人の顔に浮かぶ驚きを見て、私はこう言った。「私は世の光である。闇の中で道に迷った者の道を照らすために来たのだ。私は、囚人たちの鎖を断ち切る解放者である。あなたがたは、これまで見たことのないものを目撃し、今、それを見たのだ。しかし、あなたがた全員が、自分の内なる存在の中で私の命の鼓動を感じ取るその瞬間は、もうそう遠くない。」

66. 私は弟子たちに付き添われて、その農園を後にした。しかし、ある木陰に立ち止まり、彼らにこう言った。「その時は確かに近づいているが、まだあなたがたは私の言葉の果実を味わうことができる。確かに、あなたがたは狼の中にいる羊のように取り残されるだろうが、私のマントがあなたがたを覆うから、敗れることはない。見よ、この人々の群れがいかに多いことか。あなたがたは、私が荒野でそうしたように彼らを養い、私が示したようにパンを増やしていくのだ。」

67. こうして私はイエスを通してあなたがたに語りかけ、弟子たち一人ひとりを優しく撫でた。その間、彼らの目からは涙がこぼれ落ち、心の中で私に深い愛情を伝え、私に従うという数え切れないほどの誓いを立てていた。

68. 今日、私はあなたがたに、私がこの世で過ごした最後の三日間を思い起こさせるつもりはない。それは別の機会に、祝福された民よ、私があなたがたに最後の晩餐について、祈るために身を隠したゲツセマネの園での私の最後の滞在について語り、そして最後に、私の犠牲の死について語る時に行われるだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 211

1. 私は、私の知恵と愛を人間の言葉に変え、それをあなたがたの心に届けるようにしている。

2. 民よ、私はあなたがたのもとに来る。それは、あなたがたがしばらくの間、私の言葉の霊的な輝きの下で生き、霊的な命の領域で数瞬を過ごすためである。

3. 試練の中で弱くならないよう、力であり命である私の言葉というパンを受け取り、食べなさい。

4. 私の新しい弟子たちの中には、地上の使命を全うするためにゴルゴタを経験する者もいるだろう。しかし、この頂点に到達できるのは、完全に霊であり、高揚であり、愛である者たちだけである。

5. ひとまず休息を取り、わたしの言葉を聞きなさい。力を蓄えなさい。明日、あなたがたは自分の十字架を背負うことになるからだ。しかし、民よ、恐れることはない。この十字架を背負う者は、人への愛で心が満ち溢れているからこそ、そうするのだ。

6. もしその人の全存在が、限りない隣人愛と深い温かさに満たされているならば、この使命を果たさなければならないことに、誰が反発するだろうか。

7. この霊性化の時代において、強い魂を持つ者は皆、愛をもって十字架を背負い、進んでそれを担うであろう。

8. この十字架は、精神的に偉大な者たち、すなわち真の愛の炎に心を貫かれている者たちに定められている。

9. 現在、ある炎がこの人類を焼き尽くしているが、それは私の炎ではない。今、人類の兄弟たちが互いに滅ぼし合っているその炎は、彼らの暴力、情熱、敵意、計り知れない貪欲、復讐心、そして物質主義から生じる炎である。

10. 人類を焼き尽くしているその炎は、聖霊に由来するものではなく、人々が自らの罪によって作り出したあの地獄に由来するものである。

11. わたしの神聖な火は、すべての存在に光を放つ「命」であり、破壊や死ではない。

12. わたしの火は、清め、高め、照らし、強める光であり、決して永遠に苦しめたり、魂の命を滅ぼしたりする火ではない。それは死ではなく、命そのものである。

13. 私がこの時代に、あなたがたに私の声を聞かせるために呼びかけたのは、私が世界にもたらした種が花開くのに適した霊的

な時代において、あなたがたが光へと昇華するためのさらなる機会を提供するためであったことを心に留めておきなさい。

14. わたしは、わたしの知恵と愛——すなわち、生命、健康、喜び、そして平和そのものであるこの霊化の流れを、あなたがたの魂に注ぎ込む。

15. 人類の上に真理の言葉を注ぎ出せ——私が書面で残す言葉だけでなく、御霊から湧き出る言葉もまた注ぎ出せ。

16. 私は、あなたがたがこの時代に立ち上がることを望む。ある者たちは、世界のさまざまな道を歩む旅人を導く星となるべきであり、またある者たちは、解き放たれた人間の情熱という荒れ狂う海の上にその光を放ち、難破した者たちの道を照らす灯台となるべきである。私の教えがあなたがたの唇に宿り、永遠の命の糧である神の言葉が全地球に広められることを、私は望んでいる。

17. 私がこの世界を刷新し、清め、すべてを変容させるために来たことを理解せよ。

18. この追憶の瞬間に、私は全宇宙を私の光で満たす。道を歩む者すべてが、師を想い、一瞬立ち止まって思索にふけるように。この時に死の床にある者すべてが、魂の眼で私を見つめ、この世を去ることを恐れないように。

19. 私は愛の種を蒔く者であり、あなたがたは私の畑である。愛によってあなたがたを実り豊かなものにする私の力を、誰が疑うことができようか。

20. わたしがあなたがたにもたらす種がどれほど豊かであるか、あなたがたには知る由もない。もしあなたがたがそれを完全に受け入れることができないなら、わたしはこれからやって来る者たちのために、それを引き続き取っておく。そして、彼らもそれを活用できないとしても、耕すべき畑も、蒔くべき種もなくなってしまうその日まで、それは来るべき世代のために保存され続けるだろう。

21. 私のメッセージを理解し、あなたがたが歩む道においてそれを花開かせることができるようにしなさい。目を開き、私が日々成し遂げている御業に気づくようにしなさい。

22. 暴力を振るって権力を握ろうとする者たちを見よ。まもなく、彼らが自らの過ちに気づくのを目にするだろう。

23. 私は彼らに、愛の輝きである慈愛によってのみ、真に偉大で力強い存在になれることを証明してやる。

24. しかし、ある者や別の者が愛とは何かを知らない限り、私はこれからも世界をし続けなければならない。

25. 「御言葉」は、あなたがたにその光を照らし、あなたがたの後に続く者たちにそれを伝えていくよう教えている。そして、私はすべての人々のことを顧みる。

26. 私は永遠の種蒔き人である。私が地上に来て、人々からイエスと呼ばれるようになる前から、私はすでに種蒔き人であり、物質化や誤り、無知を超越した者たち——あなたがたがまだ知らず、想像すらできない霊的な領域や住処に住む者たち——は、すでに私を知っていた。

27. 私が地上に来る前から私を知っていた者たちの中から、私は多くの人々をあなたがたのもとへ遣わした。それは、この世で私について証しをし、キリストの到来、すなわち父の愛と御言葉を告げ知らせるためである。その者たちの中には、預言者もいれば、先駆者もいれば、また使徒もいた。

28. 私の足跡が残されているのは、この世界だけではない。救い主が必要とされた場所には、どこにでも私は存在していた。しかし、あなたがたに告げなければならないのは、他の世界では、あなたがたの兄弟姉妹たちの刷新と愛によって、私の十字架と杯は取り除かれたのに対し、ここ、この世界では、何世紀も経った今もなお、私はいばらの冠を被り、あなたがたの不完全さという十字架で拷問を受け、依然として胆汁と酢の入った杯を飲み続けているということだ。

29. 私の愛の業は全人類の救いを包含しているため、私は限らない忍耐をもってあなた方を待ち続けています。そして、私はすべての人類に対し、ただ一度だけでなく、幾度もの昇華の機会を与え、深い昏睡状態に陥っている者たちの目覚めを、多くの時代を通じて待ち続けてきました。

30. 今、あなたがたは、光に満ち、生命に満ち溢れて、上へと発展していける時代にある。私は、あなたがたがこの書の新たな一章を知ることができるように、命と知恵の書のもう一つの封印を解いた。

31. 私は、あなたがたが受け入れることができる分だけ、そしてあなたがたが理解し、心に留めておくことができるものだけを、適切な量で与えている。

32. 人々は成長を続け、その魂の開花と向上が進むにつれて、私は彼らに、より豊かな知恵を与えるであろう。

33. わたしは、あなたがたの魂が、父があなたがたの魂のために定められた栄光を宿すことのできる聖杯のようになることを望む。偉大なものは偉大なものの中にのみ注がれるものであり、取る

に足りないものは偉大なものを満たすことはできないということを理解せよ。

34. あなたがたの父の御心は、あなたがたが創造の計画において有益であり、創造の交響曲において調和のとれた音となることである。

35. 愛の内なる啓示を感じる者は、それが高揚であり、父への接近を意味することを知っており、進んで十字架を背負い、一步一步自らのゴルゴタへと向かっていくことを、私は知っている。

必要とあれば、あなたがたは自ら十字架にかけられることを受け入れるだろう。なぜなら、その自己犠牲、その献身によって、師のように栄光のうちに死からよみがえり、豊かで完全な命が存在する御霊の王国へと昇っていくことを知っているからだ。

36. 人類よ、ここに私はいる。私は、あなた方を苦難から救い出すために来たのだ。心硬き者に触れたあの優しい手は、私のものであった。あなた方を癒やすために、あなた方の心に深く入り込んだあの慈愛に満ちた医師は、私であった。

37. 病に苦しむ人々、悲しみに暮れる人々よ、私はあなたがたのそばにいた。しかし、あなたがたは誰が訪ねてきたのか見分けられず、私の目の中に天の光を見出すこともできなかった。ああ、人々よ、あなたがたは、私があなたがたのために流した一滴一滴の血の真意と意味を理解していなかったのだ！あなたがたは、私が与えた恵みをもたらす水で、自分たちの畑を潤そうとしなかったがゆえに、幸せではないのだ。

38. ここに来て、そのコンサートを聴きなさい。その音色は、完全なる愛と尽きることのない調和をもって、あなたがたの魂に語りかけているのだ。

39. ゲツセマネの園で私が最後の祈りを捧げたあの夜、私の心を照らしたのと同じように、神の光をあなたがたの心の中に取り入れなさい。

40. わたしを裁こうと探し求めてきた群衆に、わたしが自ら身を委ねたことを覚えているか。

41. その瞬間、師がすべての人に与えた教えは極めて重要なものでしたが、それを理解した者は誰もいませんでした。

42. その身を委ねる行為は、従順と謙遜と愛の捧げ物であった。それは人類に対する生きた模範であった。なぜなら、愛をもって人々に身を捧げる者は皆、後に神に身を捧げるにふさわしい者となるからである。

43. 愛する民よ、私の生涯は、あなたがたがそこから愛することを学ぶための開かれた書物であった。しかし、あなたがたはそこから読み解くことができなかった。

44. 私は、あなたがたの中に宿るわずかな力しか示さないその弱さに、憐れみを抱いている。しかし、私はあなたがたの弱さや未熟さを補うほど強く、また偉大であり、あなたがたの愛の欠如を補うほど愛に満ちている。

45. 私はあなたがたに近づき、清くあること、耐え忍び、魂を高揚させる痛みの中で自らを浄化することを教えている。それこそが、誠実で真の悔い改めを意味するのだ。

46. 浄化は、魂の完全性にとって不可欠である。浄化と完全性について誤解してはならない。なぜなら、完全な魂は、単に清いだけの魂よりも偉大だからである。

47. あなた方はまもなく清らかになれるでしょうが、完全さを達成するために、あなたの魂がどれほどの時間と試練を経なければならぬか、あなた方は知らないのです。

48. この世からあの世へと移り変わる際に戸惑うことがないように、霊的な生活についてすでに多くのことを知っておく必要がある。この地上に富や安楽、満足があるために、自分は幸せだと信じている人はどれほど多いことか。彼らは、いつの日か苦痛に襲われることなど想像もできず、ましてや、地上の肉体を、そして所有していたすべてのものを置き去りにして霊的存在となった後のことなど、なおさら想像もできない。そうして彼らは、最も不幸な存在となり、平安も喜びも、そして悟りの光も持たない、さまよう者となってしまふのだ。彼らは、安らぎなくさまよう影のようだ。この世で人々が泣くような泣き方はしないが、その苦しみ——もはや肉体的なものではないとはいえ——は、地上の肉体で経験する苦しみよりもはるかに強い。なぜなら、魂は今や、その裁き手である良心の前に、ただ一人立ち向かわなければならないからだ。

49. 魂のわずかな力だけでたどり着くことのできたあの領域において、彼らは困窮者となり、悲惨、孤独、見捨てられ、そして窮状とは何かを身をもって体験した。彼らはその悲しみに満ちた存在の中で、ただ一つの小さな希望の光——すなわち安らぎを見出すこと——だけを胸に抱いている。

50. むしろ、地上で貧しくありなさい。そうすれば、自分の魂の益となることをしているという自覚が持てる。むしろ、困窮し、苦しみに苛まれ、病に伏し、無意味な存在でありなさい——しかし、真の命があるあの故郷では、そうあってはならない。なぜなら

、霊界における苦痛は、物質的な生活におけるそれとは比べものにならないほど大きいからである。

51. わが教えの教えを認め、それによって高慢から謙虚さへと至る者は、祝福される。その者は、平和の王国を所有するからである。

52. たとえ質素な物質的な服を着ていても、あなたがたは貧しいわけではない。このことを理解し、この世を超えたところで偉大になるようにしなさい。この涙の谷の苦難など、何のために心を悩ませるのか。霊界において平安を持たず、強くも偉大でもないことほど、千倍も悲しいことである。偉大な魂はすべてを乗り越え、試練に直面しても心の平安を保ち、光と平和に満ちた真の生を生きる。

53. あなたがたは、真理を受け入れようとしながゆえに、それを認識することができない。心から純朴で謙虚な者だけが、それを認識することができるのだ。

54. 真理の光を見ない者たちは、依然として墮落を助長し続けているため、私の言葉は実を結ばなかったと絶えず私に告げる。彼らは、ゴルゴタへの道や十字架上の犠牲の死、私が成し遂げた奇跡、私の愛の教え、私の憐れみ、私の最期の言葉、そして迫害者や処刑人への赦しを求める願いであった最期の息吹さえも、実を結ばなかったと私に告げる。

55. 真理を知らない者たちは、これらすべてについて何を知っているというのか。しかし、深淵から身を奮い立たせ、自分を処刑する者たちのために祈り、自分を中傷する者たちを祝福する者の精神は、太陽の光よりも強く輝いている。

56. あの生涯全体、苦しみ、そして働きがすべて無意味だったと考える者たちに対し、私はこう告げる。時が来れば、その光を受け取り、それによって救われる者が一人もいないということはないのだ。

57. しかし、誰もがこのように考えているわけではない。暗闇の牢獄に閉じ込められ、罪の償いをしているにもかかわらず、時折、私へと思いを向け、たどたどしい祈りの中で私にこう告げる者たちがいる。「主よ、あなたの御前で悔い改めを感じたあの罪人が、あなたのもとで救いを見出したのなら——なぜ私が、最後の瞬間にデマスにそうされたように、あなたが私に御手を差し伸べ、暗闇から引きずり出し、光へと導いてくださるという希望を抱いてはならないのでしょうか？」

58. 肉体に宿る闇の君主をまだ追い払うことができていない人々のうち、どれほど多くの者が、信仰、悟り、悔い改め、そして救い主への希望の瞬間を経験しているだろうか。来世で再び、しかもさらに大きな罰が待っているという考えを心から追い払い、イエスが自分たちを待ち受け、苦しみや恐怖から解放してくれると信じ、そう考えることを好む者は、どれほど多いことか！

59. これこそが、あなたがたが社会の「屑」と呼ぶ者たちである。見よ、彼らが真実を予感する瞬間があるではないか。しかし、この世で自由、評価、信頼を享受し、あらゆる事柄について裁きを下し、意見を述べるがゆえに、しばしばすべてを知っていると思い込んでいるあなたたちは、真実と向き合うことのできる啓示の瞬間をひとときも持たない——それどころか、疑念と影に身を包んでいるのだ。

60. 私が言葉と受難と血をもって魂に蒔いた種は、必ずしも人間、民族、あるいは世界の人生の絶頂期に花開くとは限らない。多くの場合、それは、人が死と向き合い、自分待ち受けている人生を予感するその瞬間に初めて花開く——かつてその力に誇りと傲慢を抱いていた者が、突然、氣力を失い、打ちひしがれて苦痛の床に倒れ込むときである。そこで彼は思索にふけり、私を想うことで自らを清め、高め、私の模範に照らして自らを正す。そして、その人は涙を流し、自らを改める。なぜなら、一瞬にして真理が彼に届いたからである。

61. 誇り高き諸民族が物質的な力の輝きの中で暮らし、その民が熱狂的に情欲に身を委ねていたときでさえ、彼らは神に対する義務を、宗教的儀式を通じて誤った形で、偽善的に果たしていた。なぜなら、彼らの注意と愛のすべてが、野心的な目標の支配下にあったからである。しかし、敗北と破滅が訪れ、偉大さへの夢が消え去るのを見て、現実が彼らを目覚めさせたとき、彼らは私へと目を向け、こう言った。「主よ、あなたの言う通りです。平和は善意ある人々のためのものであり、あなたの王国も私たちの王国も、確かにこの世のものではありません。」

62. わたしの種が失われていないことを、あなたがたは悟っているか。それを疑うあなたがたに、わたしはこう告げる。痛みによって真実と向き合うことになるのを待つことなく、思索を通じてこの種を探し求めよ。

63. この世界は私の言葉で満ちている。私の痕跡が消え去ったなどというのは嘘である。あなたがたがどこへ行こうとも、私を

示すしるしと、良心の中に永遠に響き渡る私の声の残響を見つめるだろう。

64. 私は至る所に存在し、絶えずあなた方に語りかけている。なぜなら、私はまだあなた方に私のメッセージを伝えることをやめてはいないからだ。

65. わが民よ。なぜ、あなたがたは時折、なおも師を試そうとするのか。

66. そう、キリストが神の子であったならば、なぜ迫害者たちに身を委ね、死を免れることができなかったのか、理解できない者たちがいることも、私はよく知っている。もし私が犠牲の死を望んでいなかったなら、私を探していた者たちの手に渡らないよう、姿を消すことは私にとって極めて容易なことだっただろう。彼らは、その不思議で理解しがたい消失を目の当たりにして驚愕し、「まことに、この方は神の子だ!」と叫んだことでしょう。しかし、それは私が伝えにきた教えではありませんでした。なぜなら、それは愛を教えるものではなかったからです。さらに、私はそれによって、自分の意志を行う者が、それが父の意志でないならば、父と一つにはなれないということを、あなた方に伝えたかったのです。

67. あなたがたは、これらすべての説明を理解することに心を砕く必要がある。なぜなら、もしあなたがたがこの時代に起こっていることを理解しないならば——これから起こることを、どうして把握したり予見したりできようか。それゆえ、私はあなたがたに、準備のため、また約束と預言として役立つよう、あらかじめいくつかの啓示を与えたいと思う。

68. わたし、主はあなたがたにこう告げる。ひとたび人が律法の成就によって偉大かつ高貴となり、真に霊と一つとなり、調和を保つようになれば、今日その存在を二分している二つの生活——すなわち、地上の「人間的な生活」と、普遍的かつ無限な霊の世界における「霊的な生活」——は、もはや彼にとって存在しなくなる。

69. その時、彼はただ一つの存在のみを見つめるようになる。なぜなら、彼の本質にはただ一つの意志のみが存在するようになるからだ。肉体と良心との間の葛藤はもはや存在せず、彼は普遍的な生命と融合していると感じるようになる。彼が霊界に生きようが、地上に生きようが——どこにいようとも、彼は父の家の中にいると感じるだろう。どこにいようとも、主の臨在を喜び、どこでも誠実かつ従順に自らの使命を果たすだろう。その時、肉体の死は、

今日のような意味をもはや持たなくなる。あなた方は、死を打ち破り、永遠の命へと入っていく者たちとなるのだ。

70. あの夜、私が自らを迫害者たちの手に委ねるのが私の御心であったとあなたがたに語った後、あなたがたは私にこう問う。「主よ、それではユダには罪がなかったのでしょうか？」しかし、私はあなたがたに言う。彼を裁いてはならない。なぜなら、私が彼を裁くのと同じように彼を裁くためには、あなたがたの心に憐れみを持たなければならないからだ。彼もまた、あなた方と同じように未熟で人間的であり、その弱さゆえに、人々に操られて師を裏切ることになってしまったのだ。

71. あなたがたは、あの弟子が、主を裏切るために神によってあらかじめ定められた者として現れたとでも思っているのか。いいえ、わが民よ、私を裏切る必要など誰にもなかったのだ。その時が訪れ、迫害者たちは私の足取りを窺い、血の裁きが私を待ち受けていたのだ。

72. その男は、わたしに従った他のすべての人々と同様、愛の種を蒔くために選ばれていた。彼は決定的な瞬間に失敗した。イエスが地上の王ではなく、未知の世界の王であることを悟り、弟子としての心が依然としてこの世の富を夢見ていたがゆえに、自分をこれほどまでに愛してくれた方に背を向け、師の命を狙う者たちの側に加わってしまったのである。

73. ユダは、自分の良心の中で、イエスから学んだ言葉を一つまた一つと耳にするにつれ、どれほど深い後悔に苛まれたことか。また、自分が召された使命と、自らの行いが何であったかを思い返すとき、どれほど深い苦痛に苛まれたことか！

74. 私がこれらすべてをあなたがたに語る理由は、もしこの時代にあなたがたのうちの誰かが私を裏切ったとしても、「それは運命だったのかもしれない」と言って言い訳できないようにするためである。

75. 裏切る運命にあった者は、誰一人としていない。あなたがたは皆、わたしの愛によって救われるために召されたのだ。

76. 十字架で死に、その後、墓の洞窟で再び甦り、死に対する命の勝利をあなたがたに示すよう定められていたのは、私であった。

77. 今日、私は新しい弟子たちにこう言う。もし私の業にふさわしい生き方をすることであるならば、金銭を愛してはならない。それは魂にとって偽りの通貨であり、その価値はマイナスであり、永遠の命にとって誤った価値観を表しているからだ。金銭は、私

の使徒たち一人ひとりが歩まなければならない、真の慈悲と謙遜の道から、あなた方を逸らしてしまうかもしれない。

78. 私は、ユダが何をするかをあらかじめ知っていたことを、あなたがたに告げなければならない。そして、十二人のうちの一人が私を裏切ると言ったとき、私はそれを証明したのだ。——あの弟子たちは一人ひとりが、与えるものを与えた。彼ら一人ひとり、私が世界に奏でたコンサートにおける一つの音色のようなものだった。

79. ある者が清らかさと高揚の音を奏でたならば、別の者は信仰と力の音を、また別の者は雄弁と説得の音を、さらに別の者は謙遜と柔和の音を奏でた。こうして、各人は、自ら持ち込んだもの、師から受け継いだもの、そして自らが感じたものを捧げたのである。ただ一人、弱さを見せた者がいたが、その弱さは、人々が彼のように振る舞わないよう教訓となるものではあったが、彼を裁くためのものではなかった。

80. 弟子たちよ、今宵、あなたがたの思いを天へと向け、晩餐の席でわたしと共にいられるようにしなさい。わたしの光に養われ、わたしの言葉というぶどう酒を飲み干せ。その言葉の中に、あなたがたは開かれた書物を見出し、同時に霊的な世界の中に身を置くことになるだろう。

81. その食卓へと来なさい。そこでは神の愛の波動を感じられるだろうが、同時に不安も感じられる場所であり、希望の甘さが別れの苦さと裏切りの口づけと混ざり合う場所でもある。

82. こここそが、あなたがたが良心の声を最もよく聞くことができる場所である。その声は、あなたがたもまた裏切ったのか、嘘をついたのか、愛なくして口づけをしたのかを教えてくれるだろう。

83. 食卓に着く前に、祈りの清らかな水で身を清めなさい。心と精神を清め、この霊的な晩餐に参加するのは魂そのものであることを受け入れるようにしなさい。

84. さあ、準備はできましたか。私の周りに座り、心の最も深い静寂と敬虔さの中で耳を傾けてください。

85. さて、すべて準備は整いましたか。皆さんは、この祝宴に臨む準備ができ、身なりを整えましたか。私の願いは、この瞬間に、皆さんの魂が、この霊的な食卓のテーブルクロスに劣らず清らかであるということでした。

86. 物質的な生活の嵐や、人間の卑小さや苦難は外に置いておきなさい。ここへおいでなさい、肉体に宿る魂たちよ、そして霊

界に生きるあなた方も。人々よ、私と語り合うことを学ぶためにここへ来なさい。そうすれば、あなたがたはもはや地上で奴隷であることはなくなるでしょう。なぜなら、師と魂と魂で語り合う者は、「肉」や世界、無知の闇、あらゆるくびきに対して完全な自由を勝ち取ったからです。

87. 私の言葉というパンを、深く考えながら食べなさい。そうすれば、イエスが死の苦闘のあの数時間にどのような戦いを繰り広げ、いかにして死に打ち勝ったかを体験することができるだろう。

。

88. 今日、わたしはあなたがたにこう言う。静寂と霊化の園で祈りなさい。そうすれば、あなたがたの全存在に力が満ち溢れ、山の頂上まで十字架の重荷を背負い続けることができるようになる。

。

89. 祈りなさい。そうすれば、あなたがたの内なる天への梯子——すなわち、霊的な完成への梯子——が明るく照らされているのを見ることができるでしょう。

90. 喜びの心を持ち、使命の道をたゆまず歩み続けなさい。そうすれば、あなたがたの衣が引き裂かれるのを見ても恐れることはなく、また、あなたがたを告発するために罪や過ちを探し求めて迫害してくる人々に対しても恐れることはないだろう。

91. あなたがたの苦難も、またこの世の喜びも忘れ、御霊の喜びを身にまといなさい。

92. 祈りを楽しみとして理解している者は少なく、祈って泣く者の方が多い。そのような者たちに、わたしはこう言う。地上のあらゆる苦難を歌に変えよ。しかし、わたしに対するそのような信仰と希望をもってそれを響かせよ。そうすれば、突然、心から湧き上がり、愛と平和に満ちた賛美の歌を口ずさむという驚きを体験することになるだろう。

93. わたしはあなたがたに霊的な喜びについて語っているが、それでもあなたがたは、近づきつつあり、今後も追悼に捧げられるであろうあの時間を、心の中で忘れることはできない。

94. そう、民よ、明日午後三時になると、あなたは曇り空の下にある太陽を見るだろう。そして、内省し、わたしを偲ぶ者は皆、悲しみに沈むことになる。

95. 太陽は喪章の間に身を隠すだろう。あの日、民の恩知らずな姿を目にすることを避けるために、暗い雲の陰に身を隠したのと同じように。

96. あらゆる種類の人間の不完全さを目の当たりにして、師であるキリストは教えを説かれた。

97. 人々はキリストを嘲笑したか？ 師は、教えを受けるためにその嘲笑を受け入れた。人々は悪意を持ってキリストに問い詰めたか？ キリストは愛と知恵をもって答えた。それこそが、キリストがこの世に来られた目的だったからだ。人々はキリストを裏切ったか？ キリストはその裏切りを前にして、赦しの教えを説いた。命を奪えと要求されたか？ 主はそれに同意し、命を捧げられた。人々を救い、納得させるためには、すべてを受け入れる必要があったのだ。

98. さて、愛する弟子たちよ、私に答えてほしい。もしあなたがたが周囲の人々に裏切られたとしたら——それに反発せず、抵抗もしないというのか。知っておきなさい。ある人の心をつかむためには、時には裏切られることを受け入れる必要があるのだ。霊の戦いに勝利をもたらすのは暴力ではなく——真の愛なのだ。

99. わが弟子たちよ。この書物は、この時代のために開かれたままである。この瞬間に、イエスをあなたがたの思いの中に迎え入れなさい。そうすれば、静かなひとときや回想の中で、あなたがたが知っているわたしの受難のすべての瞬間を、記憶に呼び起こすことができるだろう。高揚した霊的な心持ちでわたしを思い起こす者は、光を受け取り、その光がインスピレーションとなって、多くの知られざる教訓の意味を見出させてくれるだろう。

100. 私の肩に十字架を背負ったまま、あなたがたの思いの道を歩ませてください。イエスが、自らの痛みを忘れ、子供たちのことを思い、彼らからの侮辱を忘れながら、その受難の道を歩むようにさせてください。私が十字架の上で両腕を広げ、私を認識しなかった人々のために赦しを請うようにさせてください。あなたがたが愛と、命と、正義の勝利を目にするまで、私をあなたがたの中に留まらせてください。

101. 人々の群れよ、あなたがたはどのようにして私と共にいたいのか——友として、弟子としてか？ それとも、私の十字架そのものになりたいのか？ 私の手と足を貫いた釘のようになるのか？ 私の「冠」の棘になりたいのか、それとも私の脇腹を貫いた槍になりたいのか？

102. 人よ、あなたは泣いている。そして、痛みで嗚咽しながら、ヨハネのように、すなわち、の十字架の足元で、師のそばにいたいと私に告げる。そして私はあなたに告げる。私もまた、あなたがたがああ弟子のようにあってほしいと願っている。私が、マリ

アの愛の外套の下で、あなた方をマリアの子供たちとして残したとき、あなた方は皆、その弟子に象徴されていたのだ。

103. わたしは、あなたがたにわたしの愛と祝福を残して去る。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 212

1. わたしに心を向ける者、師を求める者、赦しを求める者、十字架を背負う者は幸いである。なぜなら、わたしのところにおいて、その者は導く光と、罪の赦しを見出すからである。

2. 師は、この記念の日に、愛をもってあなた方を迎え入れる。師が人類の中に残した受難の痕跡は、この日に新たに蘇る。

3. あの御体の血はすでに蒸発してしまったとしても、その本質はすべての人々の魂の中に残っている。それはあなたがたの精神の中に消えることのないものなのだ。なぜなら、あなたがたは、一瞬でも十字架の重荷やカルヴァリーの丘の陰しい登り坂を感じるとき、わたしを思い出すからである。

4. イエスが愛の血によって道を切り開いて以来、救いや魂の完成を求めるすべての人間は、私が地上に残した足跡を探し求め、それに従おうとしています。この道こそが、私がこの時代にあなたがたに示している道であり、あなたがたが、闇も痛みもない霊的な生命へと至る道なのです。

5. キリスト教世界が十字架をその象徴としたのは、イエスがその木の上で血を流し、人間として死んで、そこで贖いの業を成し遂げたからである。それ以来、十字架は神の愛と赦しの象徴とされてきた。しかし、それは人間同士の世界観をめぐる争いの象徴でもあった。

あの犠牲の死から一つの時代が過ぎ去った今日、私は再びこの世に現れている——もはや人間としてではなく、霊的な姿で。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あの十字架は、もはや私にとって必要ではない。私はもはやそれを肩に担ぐことはない。あなたがたは、血まみれで茨の冠を被り、鞭打たれた体で、その血が道の石を濡らしているラビの姿を見ることはもうないだろう。あなたがたは、苦痛で目をぎゅっと閉じている彼の姿を見ることもなくなるだろう。その姿は、ある者には憐れみを、またある者には恐怖を呼び起こしていた。あなたがたは、悪人たちの間に釘付けにされるために、山の頂上に到着する彼の姿を見ることもなくなるだろう。

6. 十字架は、そこで死んだ者にとって屈辱と恥辱であったものが、愛による犠牲の象徴へと変容した。私を迫害し、自らの残虐性を満たすために、私に対して最も屈辱的な死を選んだ者たちでさえ、そのようなことを想像することなどできなかっただろう。なぜなら、群衆は、自分たちに何の害も及ぼさなかった方、すべての

人にとって慈しみ、慰め、そして赦しそのものであった方を、告発し、断罪することを求めたからです。人間は深淵の中にあり、そこから、私が犠牲の死によって彼らの目の前に示した な善、すなわち愛を理解することができませんでした。

7. あの時、私は人間として来たのではありませんし、十字架の重荷が私の上にのしかかることもありません。今日、私が、あなたがたが私の足跡に従うことができるよう、あなたがたの心に愛の十字架を築き上げているのです。

8. あなたがたはすでに、この十字架の重い重荷を感じ、痛みが魂の奥底まで染み渡ったとき、肉体が鞭打たれるような感覚を味わったことがある。また、その道でつまづくことがどういうことか、すでに実感している。 あなた方の人生の苦しみは鞭打ちであり、私を求めるあなた方の在り方を理由に、イエスご自身のように「狂人」と見なされた時の嘲笑は、救い主の脇腹を貫いた槍のようなものでした。

9. 見よ、弟子たちよ、あなた方の生涯はゴルゴタのようなものである。わたしを模範とし、わたしに従い、わたしのもとに来ようとする者は皆、苦しみと共に生き、胆汁と酢の入った杯を飲まなければならない。

10. あなたがたは、この地を「涙の谷」と呼んできたが、それは正しい。あなたがたは、善と悪を知るためにこの世に来たのだ。なぜなら、知識と功績において完全な状態で生まれた者は誰もいないからである。それゆえ、私はあなたがたに自由意志を与え、自ら道を選べるようにした。そうして、あなたがたの魂がその努力によって、自らより高い次元に達することができるようにするためである。

11. しかし、悪の道を選ぶ者にとっては、その道において苦痛を知る必要がある。そうして、自分が恵みと光から遠ざかっていると感じたとき、悔い改めによって自らを清め、強め、それによって誘惑を克服することを学ぶためである。

12. 再生を志すほどに、誘惑はますます切迫したものとなるが、その誘惑と闘う者の努力は、神にとってどれほど称賛に値するものだろうか。

13. 民よ、わたしの犠牲の死は無駄ではなかった。なぜなら、わたしを愛する者も、わたしを否む者も、皆、わたしの足跡をたどらざるを得なくなるからだ。その業は、時の書においてより大きな重みを持ち、永遠に実を結ぶであろう。

14. なぜ、あなたがたの十字架の重荷、すなわち責任や苦しみは、ある者にとっては他者よりも軽いのか、あなたがたには知る由もない。この地上にいるあなたがたは皆、自らの過去を知らず、自分の魂が光を受けた瞬間を知る者は誰もいない。それゆえ、従順の心をもってその十字架を背負いなさい。なぜなら、このようにわたしに従う者は、死さえも乗り越えるからである。

15. この日、わたしの声は律法と正義について語っている。それは、あなたがたがシナイ山で聞いたのと同じ声である。今日、あの日と同様に、わたしは多くの人々の不信仰を見ている。私は当時、石に刻まれた律法を一度、そして二度と与えました。それは、モーセが、あなたがたの偶像崇拜と弱さに激怒し、最初の石板を砕いてしまったからです。しかし今日、私がそれをあなたがたの良心に刻み込んでいる今、あなたがたはそれをどうするつもりですか？この時代の使徒であるエリヤが、あなたがたに私の律法の遵守を求めるような行動をとるのでしょうか？

16. あなたがたは心の底から私にこう言う。「主よ、私たちの不感謝によって、モーセの怒りによりあなたの律法の石板が砕かれてから、長い時間が経ちました。今の時代に、どうして私たちが再びあなたの律法を無視することなどできるでしょうか？」しかし、父はあなたがたにこう言います。「あなたがたは目を覚まし続けなければならない。なぜなら、第二の時代に、イエスは愛の律法をもたらすために来られたのに、あなたがたは彼に最後のひと滴まで血を流させ、彼を認識しなかったからだ。」

17. 民よ、そして人類よ、私は問う。私がシナイ山であなたがたに与えた律法はどこにあるのか。その後、イエスがあなたがたに与えた永遠の命のパンはどこにあるのか。——あなたがたは、自分たちが道から外れていることを悟っているからこそ、うつむきながら私の問いを聞いているのだ。

18. 初めの時代、あなたがたは十二部族から成る一つの民であった。しかし、イスラエルは、わたしの正義に対する恐れをすべて押しのけて、さまざまな民族に分かれてしまった。今日、あなたがたは再びこの地上にいます。しかし、異なる部族の子供たちからなる一つの家族が形成され、夫婦も十二部族の成員から成っているというのに、どうしてあなたがたが諸民族や部族に分かれることができるのでしょうか。この計画を理解した者は誰か。あなた方を選び出し、一つにまとめたのは、他ならぬわたしである。それゆえ、この声を聞くや否や、理由もわからぬまま震え上がる者たちがい

るのだ。彼らは、かつての時代にもわたしの声を聞いていた者たちだからである。

19. 今、第三の時代が頂点へと向かっています。この時代において、あなたがたは今、荒野のマナ、イエスの血、そして聖霊の光を受け取っています。もしあなたがたに清めが必要な時は、普遍の母マリアが、愛の涙であなたがたを洗い、慈悲の外套で覆ってくれます。

20. 父は再び民にこう告げる。「団結せよ。なぜなら、ある者たちはわたしの戒めに従おうと決意する一方で、他の者たちはそれに反対しているのを見るからだ。分裂してはならない。そうすれば、誘惑の扉を広く開くことになるからだ。わたしの言葉はすべての人に向けたものである。たとえ、聴衆の中に、わたしが教養もなく、不器用で素朴な知性を通じて自らを現しているという状況に起因する疑念に支配され、わたしの声に頭を垂れない者たちがいたとしても。

21. かつて私を迫害し、嘲笑した者たちのうち、どれほど多くの者が今日、私がすべてを赦す愛の証として与えた心の平安に満ちて生きていることか。しかし、私が再び来られたと聞いたとき、彼らの魂は恐怖に圧倒され、そのため、私の啓示が真実であるかどうか確かめるために、ためらいながらやって来た。そして、私の声を聞いたとき、彼らは私の声に呼びかけられていると感じ、深く動揺した。

22. これこそが、諸国民に光と平和をもたらすために私が選んだ民であり、人類の中に散らばり、隠されていた者たちである。しかし、私の透徹した鋭い視線は、私のしもべ一人ひとりがどこにいるかを把握しており、彼らに呼びかけ、私が今なおその成就を待ち望んでいる使命を告げるためであった。

23. 世界は、地上のマリアの生涯を無関心に見つめていた。しかし、まことに、あなたがたに告げる。今日、あなたがたは、子守唄であり、慰めであり、希望であり、癒やしである、彼女の母性あふれる声、愛に満ちた声を認識するだろう。それを認める者もいれば、否定する者もいるだろう。それでもなお、彼女は優しく、愛を込めてその神聖なマントを宇宙全体に広げ、その下で、すべての被造物に温もりと保護を与えている。彼女もまた救い、贖う者であり、まだ明らかにされるべき秘義を宿す天の聖櫃である。女性の身体として、彼女の体がイエスの御体を宿した聖櫃であったならば——その精神は、彼女のすべての子供たちのために、どれほど多くのものを秘めていることか！

24. 世界が彼女の母の心に刻み込んだ痛みは、どれほど深いものであったか。そして、彼女は、あなた方にその微笑みの愛らしさと、その愛撫の優しさだけを見せるために、どれほど繊細な思いやりをもって涙を隠していることか！私の容赦ない正義と人々の罪との間には、常に、あなた方の天の母であるマリアの執り成しと母なる愛が立ちはだかっている。

25. 私は「雲」の上からあなたがたに語りかけ、私のもとに来るよう招いている。

26. 私は今なお、あなたがたが本の最初のページを熟読しているのを見ているが、私の教える時間はもう長くはない。

27. あなたがたが私のところへたどり着いたとき、「主よ、これが私の収穫の果実です。私の模範によって、何人かの同胞が新たに生まれ変わったのです」と私に言えるようになってほしい。なぜなら、あなたがたが使命を果たさなければ、私の王国に入ることはできないからだ。

28. 私は三度にわたり、あなたがたに魂の救いを差し伸べてきたが、あなたがたは私の声に耳を貸そうとしなかった。これが、私があなたがたに送る最後の呼びかけである。それゆえ、私に耳を傾け、謙虚さを身にまとい、高い台座から降り、心の中からあらゆる憎しみを追い払うよう、お願いする。

29. わたしの言葉は華美なものではなく、単純明快である。それは、あなたがた全員が理解し、さまざまな解釈を付け加えないようにするためである。

30. わたしの民の中に無知な者があってはならない。なぜなら、わたしはあなたがたに知恵を豊かに注ぎ込んだからである。

31. すべての木々には、良き実もあれば、悪しき実もある。しかし、後者については、わたしに捧げてはならない。あなたがたは、わたしに差し出すべき美味なる実を選び出すよう選ばれているのだ。あなたがたはすでに、自らのすべての義務を自覚している。かつて、あなたがたは、暗いベールが目を覆っていたため、つまづきながらこの世を歩んでいた。しかし、私は夜の稲妻のように現れ、あなたがたの道を照らした。それ以来、あなたがたは自分がどこへ向かっているのかを知っている。

32. あなた方は、一步を踏み出す前に、自らの良心に問いかけることを学んだ。

33. 今日、あなたがたが一つとなった今、私の教えに従順でありなさい。なぜなら、大きな試練が近づいているからだ。

34. 師は再びあなたがたのそばにいます。この日、私はあなたがたを慈しみ、愛の言葉で励まし、平和の口づけを与え、そしてあなたがたが心の中で私に何を捧げているのか尋ねるためにやって来ました。

35. 私は、あなた方を裁くために来たのではなく、行動において真の愛と慈悲を持ち、良心の声に耳を傾けるよう促すために来たのです。

36. 私はいつの時代も、あなた方のために私の血を流してきた——ある時は人々の目の前で、またある時は目に見えない形で。私は常にあなた方を見守り、この世で苦しむことがないようにし、また、この世での生涯を終えた後、来世においてあなた方の魂が永遠の命を得られるようにしている。しかし、あなたがたはわたしを理解せず、わたしの言葉に従わなかった。それゆえ、わたしは今、白い「雲」から降りてきて、心地よい鐘を鳴らし、あなたがたに団結し、互いに愛し合うようお願いしているのだ。

37. あなたがたは学び始めたばかりだが、私が教える言葉を授ける時間がすでに迫っていることを知りながら、私の書の最初のページさえもまだ理解していない。あなたがたは私の教えるを学び、深く探求し、勇気を持ってその道を歩み始めなければならない。なぜなら、あなたがたが、この時代に私が与えたものをあらかじめ学んでいなければ、私はあなたがたを受け入れないからだ。

38. あなたがたは、わたしを泣かせ、わたしの血を流させた。今、わたしはあなたがたに、わたしのところに来て、わたしの足元にこう言うことを望んでいる。「師よ、ここに教えがあります。ここに収穫があります。ここに、私が人々に示した良い手本があります。そこに、新しく生まれ変わった人類があります。」

あなたがたが改宗させた男女を、わたしの前に連れてくるように。なぜなら、この使命を果たさなければ、あなたがたはわたしの隠された知恵の聖域に入ることはできないからだ。わたしは、あなたがたの魂を救うためのさまざまな機会をもたらすために、三度この世にやって来た。しかし、あなたがたは私の言葉を無造作に風に乗せて消え去らせ、私の戒めに従わなかった。それゆえ、私はあなたがたに告げる。これが最後の機会であり、あなたがたは今、私が心から願うことを実現しなければならない。すなわち、謙虚さを身にまとい、偽りの偉大さという高台から降り、同胞に対する悪意と憎しみを根絶し、団結することである。なぜなら、これが、私の正義の笏が人類に下らないようにするために、私があなたがたに求めることだからである。

39. あなたがたはもはや無知な者ではない。なぜなら、私はあなたがたに私の教えを豊かに授けてきたからだ。そして私は問う。なぜ、私の弟子たちは私を理解しようとせず、私の言葉や指示を様々な方法で、自分たちの意のままに解釈しているのか。私は、あなたがた全員が私を理解できるよう、あなたがたの言語で、平易な言葉で語らなかつたらうか。私はある者に対して、他の者とは異なる方法で語ったりはしない。それゆえ、明日、あなたがたが私にこう言うことを望まない。「師よ、私たちはあなたを理解できません。あなたの指示が分かりません。ですから、それに従うこともできません。」 — いいえ、イスラエルよ、あなたが今なお心に抱いている毒を根絶することが必要だ。この律法を正しく理解しなければならない。なぜなら、それはあなたの罪の原因ではないし、私の業がそれらの過ちの責任を問われるのは不当だからだ。私が雪原のように白く清らかな形でそれをあなたたちに授けているにもかかわらず、なぜ人々はそれを高く評価することができなかったのか？

40. 目を覚まし、祈りなさい。なぜなら、私は絶えず、ある者たちと他の者たちとの間に不和を見ているからだ。あなたがたが私の律法から背を向けようとしているのが見える——ある者は律法に背を向け、他の者は自分の道を進み、つまり、私があなたがたのために示した正しい道を歩むよりも、むしろ茨の中に迷い込むことを好んでいる。至る所で、私があなたがたに与えるものとは異なる実を人類にもたらす木々が高く伸びている。しかし、その中には良い実も混ざっているのを見ている。それゆえ、私はあなたがたに言う。悪い実を取り除き、良い実だけを残しなさい。それらを選び分け、純粋な種と黄金の小麦だけを私に捧げなさい。

あなたがたは、かつてのようにもはや闇の子らではない。なぜなら、わたしはあなたがたの道を照らし、真理の道とは何かをあなたがたに理解させるために、明るい稲妻のようにあなたがたの間に出現したからである。今や、あなたがたはその道を認識し、その道を歩むことができる。なぜなら、わたしがあなたがたに力を与え、手を取って導いたからである。そうして、あなたがたは最初の一步を踏み出し、やがては独りであっても確実に歩むことができるようになる。苦痛を伴う経験や罪に陥ることなく、また、この世に蔓延する悪に惑わされることもなく。

41. 今日、あなたがたはもはや無知な子供たちではない。今日、あなたがたは、どのように前進すべきか、どのような業を成し遂げるべきか、そして善き道と悪しき道とは何かを知っている。なぜなら、私はあなたがたに心と良心を与え、それらに問いかけるよ

うにしたからである。それゆえ、私はかねてより、あなたがたに、禁断の果実を食べてはならないこと、兄弟の名誉を傷つけるために両刃の剣を抜いてはならないこと、そして、いつの時代も一つであった私の律法の純粋さと完全さを自覚し、理解と善意をもって、私の天の戒めに従うことによって高みへと昇り、こうして全地に平和が訪れ、もはや滅びが命を破壊することがないように。私は、あなたがたが涙を流し、口に苦味を帯びているのを見たくはない。この日もまた、私はあなたがたに私の神聖な慈悲を授ける。

42. 備えのある者は幸いである。その者は自らの道の途中で平和を見出し、魂と肉体の両方にわたって、わたしの慈悲が溢れ出るのを感じるだろう。あなたがたがこの時代に力を得て立ち上がれるよう、わたしは永遠の栄光から水晶のように澄んだ水を注ぎ下す。あなたがたが前進し、私がたゆまぬ者であることを悟るよう、私は愛を川のように注ぎます。そうして明日、あなたがたがあらゆる物質主義や虚栄心を捨て去り、善行のみを携えて、この人類が自らを映し出すことのできる澄み切った鏡となるよう、私を模範としてください。

43. 私は常に、道に迷った者たちを探し求め、彼らを罪から解き放ち、救いへの道へと導いてきた。明日、大きな試練が訪れるが、私が望むのは、あなたがたを、戦い、そこから勝利を収めることのできる、イエスの勇敢な兵士たちとして残すことである。

44. 今朝、私は臨在と権威と本質をもって、あなたがたの中にいた。私はあなたがたに日々の糧と、の癒しの香油を与える。私はあなたがた、あなたがたの子供たち、悲しみに暮れる母たち、そして年老いた人々を祝福する。すべての人に、私の平安と愛と光を与える。

45. 人よ、愛しなさい。あなた方を真理へと導くことのできる、最も純粋な愛をもって愛しなさい。そうすれば、私がこれらの言葉を通して何を伝えようとしているのか、あなた方は理解するでしょう。イエスがあなた方のそばにいたとき、その唇を動かした力は愛の力でした——それは、私があなた方に「私は道であり、真理であり、命である」と告げるその声なのです。

46. 愛の力に勝る力などない。愛は、人を清める火であり、人を浄化する恵みの水でもある。

47. 私がどれほど多くを語ろうとも、今日信じていても明日には信じなくなる弟子たちがいる。彼らには、信仰のときもあれば、疑いのときもあるからだ。

48. 私は、あなたがたの中に、人間としての生活に疲れ、極めて多忙な民を見出す。その結果、自らを霊性主義者とは称しながらも、実際には地上の事柄に深く傾倒して生きている民が生まれている。

49. しかし、わたしはあなたがたにこう言った。「真理に目覚めよ。律法学者やパリサイ人のように振る舞ってはならない。彼らは器を外面だけ清める者であり、あるいは善行をしようとする際にも、『すべてを与えてはならない。そうすれば貧しくなり、口に入れるパンがなくなってしまうから』と考えている者たちである。」

50. ああ、そのように考えるあなたがたは、どれほど長く影のようにさまよい続けなければならないことか！私が教える愛を与えることを学ばない限り、あなたがたは生まれ変わり、また生まれ変わり続けるだろう。

51. わたしは、あなたがたがいつまでも幼子であり続けることを望んではいない。この民が祈りの中で「主よ、あなたを愛しています」と言いながら、その後、その道において慈悲の行いを一つもしないなど、果たして正しいことだろうか。なぜ、わたしはあなたがたが欺いているのを、今なお見つけ出さなければならないのか。なぜ、あなたがたは真の慈悲を実践しないのか。そして、実践したとしても、それはただ人に見られ、聞かれるためだけではないのか？

52. あなたがたは自分自身を欺いており、時には信仰が冷め切っているにもかかわらず、その信仰を誇示することさえある。そうする時、私はあなたがたが慈善においても、忠実さにおいても、誠実さにおいても冷めているのを見る。

53. まことに、あなたがたに告げる。忠実であることを学ばない者は、だれも十字架の門をくぐることはできない。

54. 愛する弟子たちよ、私が時折、厳しい言葉であなたたちに語りかけるとしても、それはあなたたちの行いにふさわしいほどの正義を求めるものではない。

55. わたしはただ、わたしの言葉によって、あなたがたの不完全さを清めたいだけである。わたしと共にこの祝宴に臨むために、あなたがたが自ら用意すべきだったという「白い衣」は、どこにあるのか。

56. わたしは、わたしの聖所を見るために、あなたがたの内面に入り込みたい。ああ、自分たちはつい最近生まれたばかりだと信じている人間たちの魂よ。しかし、あなたがたは、すでに遥か昔

に、父の愛と母の愛をその内に宿す御方から生まれ出たのだ！ なぜなら、あらゆる種類の完全な愛は、その御方から湧き出ているからである。

57. あなたがたが人間の肉体が発達していくのを見るのと同様に、その内側でも霊が展開していく。しかし、肉体はその発達において限界にぶつかるのに対し、霊は完全さを達成するために、多くの物質と永遠を必要とする。

58. これこそが、あなたがたの輪廻転生の理由である。あなたがたは、神の父なる創造の霊と母なる創造の霊から、純粹で、素朴で、清らかな種のように生まれ出たのである。しかし、誤解してはならない。純粹で素朴であることと、偉大で完全であることは、同じことではないからだ。

59. これは、生まれたばかりの赤ちゃんと、子供たちを指導する経験豊富な大人とを比べることに例えることができる。

60. これは、あなたがたの霊が発達した時点で、人生のあらゆる段階におけるあなたがたの使命となるでしょう。しかし、あなたがたの霊の進歩はなんと遅いことか！

61. 私が、神の御国に入る方法をわずかな言葉で教えた時から、すでに2000年近くが経過している。「互いに愛し合いなさい」と私は言った。あなたがたは、地上の肉体を持つか持たないかわからず、この「谷」や他の場所で、何度も生を繰り返してきた。しかし、その教訓を学ぶことができていない。

62. その崇高な教えが、あなたがたの魂の中で現実のものとなるまでには、まだ長い道のりを歩まなければならない。

63. この世界は、その住人たちとともに霊化することを使命としており、それによって苦しみや運命の試練に終止符を打つことになる。

64. わたしの愛の炎は、あなたがたの心の雪を溶かすだろう。たとえ何世紀が過ぎようとも、わたしは教え続け、あなたがたはついに学び、愛するようになるだろう。

65. マリア・マグダレナを覚えていますか？彼女が象徴するものが何であるか、理解できなかったのではないのでしょうか？

66. 人間の理性は私の比喻を理解できず、神秘の前で立ち止まり、単なる象徴に満足してしまう。

67. 象徴とは、時代遅れのイメージであり、光の時代を生きる人類の神への崇拜においては、もはや存在してはならないものである。

68. マリア・マグダレナ——世が「罪人」と呼んだ彼女——は、私の慈愛と赦しに値する者であった。

69. 彼女はすぐに救いを得たが、それは、自分の罪の赦しを中途半端にしか求めない他の人々には起こらないことである。彼女が求めていたものをすぐに見つけた一方で、他の人々はそれを得ることができない。

70. マグダラのマリアは、自分の悔い改めを誇示することなく、赦された。彼女は罪を犯したが、それはあなたがたが罪を犯すのと同じことである。しかし、彼女は深く愛していたのだ。愛する者は、人間としての振る舞いに過ちを犯すこともあるかもしれない。しかし、愛とは、心から溢れ出る慈しみである。もしあなたがたが——あなたがた自身のように——赦されたいと願うなら、愛と信頼に満ちた眼差しをわたしに向けなさい。そうすれば、あらゆる過ちから解放されるだろう。

71. その女は二度と罪を犯さなかった。彼女の心から溢れ出た愛は、師の教えに捧げられたのである。

72. 彼女は過ちを犯したにもかかわらず、赦された。しかし、彼女の心には清める炎が燃え盛っており、その罪人が受けた赦しゆえに、彼女はもはや一瞬たりともイエスから離れることはなかった。それに対し、私の弟子たちは、最も血なまぐさい時においてさえ、私を一人きりにした。しかし、あの軽んじられていたマリアは、私から離れず、私を否認せず、恐れもせず、恥じることもなかった。

73. それゆえ、彼女には、わたしの十字架のふもとや、わたしの墓の前で涙を流すことが許されたのである。彼女は深く愛していたからこそ、その魂はすぐに救いを見出した。彼女の心の中にも、使徒の精神が宿っていたのだ。彼女の回心は、真理の光のように輝いている。彼女は私の足元にひれ伏し、こう告げた。「主よ、もしお望みなら、私は罪から解放されます」。

74. それに対して、あなたたちは——長い祈りで自分の過ちを覆い隠し、どれほど頻繁に、自分たちの無実を私に納得させようとするのか。

75. いいえ、弟子たちよ、彼女から学びなさい。兄弟一人ひとりの中に、真に主を愛しなさい。深く愛しなさい。そうすれば、あなたがたの罪は赦されるでしょう。あなたがたがこの真理を心の中で花開かせるとき、あなたがたは偉大になるのです。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 213

1. わが霊の光はあなたがたと共にあり、キリストはあなたがたの霊の上に臨んでおられ、人の口を通して、わたしへと至る道として、命と真理の御言葉を啓示しておられる。

2. あなたがたの聖所の門を開きなさい。そうすれば、私はあなたがたの本質の最も清らかな部分へと入り込むことができる。

3. あなたがたはこの日を「復活の日曜日」と呼んでいる。それは、この日に、イエスが地上の旅路で経験された出来事を思い起こすからである。

4. ついに秘密のベールを取り除き、真理の聖域へと入りなさい。この教えの中で、私はあなたがたに重要な真理を明らかにする。そうすれば、かつてあなたがたが私の光を覆い隠していた、秘密の暗いベールが、あなたがたの中から消え去るだろう。よく聞きなさい。死ぬ者だけが、よみがえることができるのだ。あなたがたは、イエスが当時「死んだ」と信じているのか？ あなたがたは、自分の師を「死んだ」と想像できたのか？

5. 「死」は単なる象徴に過ぎない。「死」は、まだ真理の認識を得ていない者たちにとってのみ存在する。彼らにとって、死は依然として、その背後に秘密あるいは無が潜む恐怖の象徴である。しかし、あなたがたにはこう言おう。目を開き、あなたがたもまた死ぬことはないのだと悟りなさい。あなたがたは肉体から離れることになるが、それはあなたがたが死ぬことを意味するのではない。あなたがたは、師と同様に、永遠の命を持っているのです。

6. 私が肉体を離れたとき、私の霊は霊界へと入り、彼らに真理の言葉を語りかけた。あなたがたに語ったように、私は彼らにも神の愛について語った。なぜなら、これこそが生命の真の認識だからである。

7. まことに、あなたがたに告げよう。イエスの霊は、墓の洞窟に一瞬たりとも留まらなかった。他の生命の世界において、多くの愛の業を成すべきだったのだ。私の無限の霊は、彼らに対して——あなたがたに対しても同様だが——多くの啓示を伝えるべきであった。

8. 霊的な存在たちが愛することを理解していない生命の世界も存在する。彼らは闇の中に生き、光を切望している。今日、人々は、無愛と利己主義が支配する場所には闇があり、戦争と情欲こそが、神の王国へと続く道の門を閉ざす鍵であることを知っている。

9. それに対して、愛こそが、真理である光の王国を開く鍵である。

10. ここでは、私は人間の肉体を通じて自らを現し、あちらでは、より高次の霊的存在たちと直接つながり、彼らが私の靈感に直接触れることができない者たちを教導くようにした。

11. これらの高貴で輝かしい存在こそが、ここであなた方のための「声の伝達者」となっているのです。

12. 今や、あなたがたは、私がこの世に來た理由と、あの世を訪れた理由をよく理解していることでしょう。

13. 私は霊的存在たちにこう言いました。「あなた方は新たに生まれ変わるでしょう。しかし、地上の肉体において贖罪を行う前に、魂をあらゆる有害な影響から清め、生まれ変わりの際に燃え盛る松明のようになるべきです。

14. 私の聖霊の光をその内に宿す人々は、燃え盛る松明のようだ。真理を知ろうとしない者たちは、私の知恵の火に点火されなかったために燃えない、消えかかった松明のようなものである。

15. わたしは、あなたがたが消えかかった松明になることを望まない。そうであれば、あなたがたは自らの運命、すなわち、あなたがたの霊の使命を果たすことができなくなるからだ。

16. まことに、あなたがたに告げる。わたしの言葉が人間の知性を照らし出すその瞬間、ここには何千、何万もの脱体の存在たちが、わたしの啓示に立ち会い、わたしの声を聴いている。その数は、肉体をもってここに居合わせる者たちの数を常に上回っている。あなたがたと同じように、彼らもまた、闇からゆっくりと昇り立ち、光の領域へと入っていくのである。

17. あなたがたは不死であると、わたしは言った。あなたがたの体の細胞が死んでも、それは魂までもが死ぬことを意味するのではない。

18. この追悼と記念の日は、魂の栄光、復活、そしてあなたがたの燭台の光を象徴するものである。

19. 私は、この追悼の日々において、あなたがたの間に自らを現し、あなたがたの心に信仰、思いやり、そして霊性への感情を呼び覚ますことを喜んだ。私はこの時間を、あなたがたの心を洗い清め、浄化するために用いた。

20. なぜあなたがたは自らを汚してしまったのか。それは、あなたがたが御霊の力に導かれることを拒み、その力を、あなたがたの人間的な意志や虚栄心、気まぐれと混同してしまったからである。

21. あなたがたは、自らの心、内面へと深く入り込み、良心の声にどれほど耳を傾けているか、隣人に対してどのような愛の心持ちで接しているかを自覚する必要がある。そうすれば、あなたがたが燃え盛る松明なのか、それとも消えかかった松明なのかが分かるだろう。

22. 言うておく。あなたがたの愛の度合いに応じて、あなたがたが持つ力、善良さ、そして光もまた決まるのである。

23. あなた方にも、解放の日と栄光の日が訪れるでしょう。それはいつの日でしょうか？ それは、あなた方が人生の戦場で勝利を収める日です。

24. 地球は戦場であり、学ぶべきことは多い。そうでなければ、この惑星での数年の生涯で十分であり、あなたがたは何度も生まれ変わるために送り出されることはなかっただろう。汚れや物質主義がまわりついているとき、精神にとって、自らの肉体ほど陰鬱で暗い墓穴はない。

25. 私の言葉は、あなた方をこの墓から引き上げ、その後、平和と霊的な光の領域へと舞い上がるための翼を与えてくれる。

26. あなたがたの魂が闇に打ち勝ち、障害を乗り越えるにつれて、その魂の中に光が現れる。それゆえ、ある者は他の者よりも長い時間をかけてその道を歩むことになる。

27. 霊的進歩の軌跡をたどり、地上での生や時代を経て、光と経験、そして向上を獲得する者は、偉大なる者となる。

28. この闘い、努力、そして涙の末、あなた方は解放を経験し、あなた方の天国——すなわち、霊の光によって完全に輝きながら昇っていくあの天国——に到達するでしょう。

29. 天国とは特定の場所ではなく、魂の発展の最終目標である。この天国が特定の場所ではないからこそ、光の魂の存在を疑う人々が「私は死ぬ」と言い、死を終わりのように考える理由を理解しなければならない。しかし、永遠の命を信じる人々は、「私は永遠に生きる」と言うのである。

30. 信仰や宗教的実践を物質的なものに還元してしまう者は、神を限定的な形として理解し、その形の中で神を求めようとする。

31. スピリチュアリストは、全能者が万物の中にあり、世界、宇宙、そして無限が私の本質と私の臨在に満ちていることを知っている。

32. このように私を認識し、理解する者は、生ける神の神殿であり、もはや象徴や像によって霊の啓示を物質化することはない。

33. もはや、「天と地はただ一つであり、それらは特定の場所である」などと言ってはならない。世界は数十億もあるのだ。私がイエスとして語った言葉を忘れてはならない。「わたしの父の家には、住むべき所が数多くある。」

34. 物質的な生活において、あなたがたが自然の法則に従うことは良いことだ。しかし、その法則が永遠のものではないことも理解せよ。

35. 私は再び謙虚な者たちのところへやって来た。なぜなら、彼らこそがこれらの言葉を最もよく理解する者たちだからである。私が「卑しめられた者は高められる」と言ったことを思い出してください。あなたがたが「復活の日」と呼ぶこの日に、霊的な境地に入り、「私は神殿であり、燭台であり、私は捧げ物である」と言えるようにしなさい。互いに愛し合いなさい、そう、民よ。愛する者は、その内に天を宿しているのだから。

祝福された民よ、イスラエルの十二部族の魂たちよ、人類の盾となるためにこの時代に転生した者たちよ——わたしは、あなたがたを心身ともに整え、あなたがたを喜んで従う器とし、わたしが示すこの道へと導く。そうして、あなたがたが後世の世代に模範を残せるようにするためである。

36. あなたがたの中には、ルベン、ダン、ユダ、レビ、イッサカル、ゼブルン、そしてすべての部族の先祖たちの子孫たちがいる。あなたがたは力強い魂であるゆえに、その強さと、あなたがたの神への信仰を今後も示し続けなければならない。

37. 「イスラエル」という名は消し去られることはない。この民は妬まれ、試練にさらされ、迫害されてきたが、滅びることはない。なぜなら、この民は、多くの世代の根幹であり命であった、あなたがたの先祖の子孫だからである。今日、あなたがたはこの民族が退廃し、著しく堕落しているのを見ている。彼らは魂よりも「肉」を愛し、自らの賜物に驕ってしまったからだ。それゆえ、あなたがたがこれらの過ちに陥らないよう、わたしはあなたがたを別の国、別の民族の中に転生させたのである。

38. 霊化は、太古の昔からあなた方に啓示されてきた。それは、あなた方が大切に育むために与えられた種であり、私はあなた方に、人種を問わずすべての民族にそれを伝えるという使命を託し

た。今日、時代の頂点において、私はこの種についてあなた方に説明を求めるために、あなた方の元へやって来た。

39. あなた方人間は皆、この種をその内に宿している。なぜなら、あなたがたが地上の肉体を受ける以前、霊的存在であったからであり、霊化こそが、あなたがたに定められた、完全へと至るべき道だからである。

40. あなたがたは、最も恵まれた民である。それにもかかわらず、あなたがたは自らの賜物を活かす術を知らず、わたしの御心を解き明かそうともしなかった。

私が、あなたがたの魂の安らぎと成長、そして祝福のために用意したこの世界を、あたかも永遠の住まいであるかのように愛し、そこに深く根を下ろしてしまった。あなたがたは霊的な生活を忘れ、待ち受けているこの「谷」への入りを準備していない。

41. 見よ、あの世界には、霊性への目覚めや準備が欠如していたために、功德がほとんどない魂たちが住んでいる。しかし、どれほどの苦痛、どれほどの後悔が彼らを捕らえていることか。あなたがたは、無知であれ反抗心であれ、昇華を果す術を知らなかったそれらの魂たちが先に前進できるよう手助けをせずに、あの世界に居住してはならない。

42. 人類が「進歩」と呼ぶものは、魂にとっては進歩ではない。なぜなら、もし彼らが高められていれば、彼らは被造物の中で何よりも私を愛し、人間の間には平和と調和がもたらされるはずだからである。しかし、彼らは私に、ただ彼らの霊的な貧しさと無知を捧げているに過ぎない。

43. 人々が善へと立ち返ることは、なんと難しいことか。あなたがたは私の律法を守らず、自分の人生を変えようとしぬ。私があなたがたに「刷新」について語る時、私の言葉はあなたがたを不快にさせる。あなたがたは救われているというのに、なぜ私に沈黙を強いるのか。

44. イスラエルよ、強くあれ、悪と戦え。もし自分の中に悪の痕跡があるなら、自分自身に対しても断固として対処せよ。あなたがたが吸い込む空気を清め、あらゆる外部からの影響を克服し、自分の能力と可能性を活かし、目を覚まして祈り続けよ。

45. 人々の信仰を強め、その信仰をもって、その土台が揺るぎないまま、天に届くほど高い塔を築き上げなさい。

46. あなたがたの祈りと霊的な働きによって、破壊的な自然の力の増大を食い止めることができる。なぜなら、1950年以降、それらは今日よりもさらに大きな力で解き放たれることになるからだ

。人類は、福音を授かることができるよう清められ、大きな苦しみの後、平和の虹が輝くのを見、新しい人生へと招く私の呼びかけを感じるだろう。

47. 今日、あなたがたは地上に戻ってきて、私の存在を証している。それは、あなたがたが昔から担ってきた使命の一つである。しかし、あなたがたは、私がこのように語りかけると驚いてしまう。なぜなら、自分の魂の過去について何も知らないと信じているからだ。だが、その痕跡はあまりにも深く刻まれており、あなたがたも、時間も、その人生の物語を消し去ることはできない。

48. 私があなたがたを教え導くのは、あなたがたが後に私の教えを宣べ伝えるためである。あなたがたの言葉を聞く者たちは、その言葉に驚き、あなたがたを新たな預言者や使徒だと見なすだろう。そうして、彼らはあなたがたを愛するようになる。

あなたがたの働きが実を結ぶよう努めなさい。不毛の地に種を蒔いてはならない。わたしの働きを嘲笑の的にしてはならない。賢明であり、あなたがたに求める者たちには親切に接し、あなたがたを受け入れることを知らない者たちには赦しを与えなさい。

49. わたしの言葉は、あなたがたの思考の隅々まで響き渡っており、師であるわたしの霊は、新しい弟子たちを教え導くことを喜びとしている。

50. よく考えてみれば、私が常にあなた方のそばにいて、最初の啓示以来、私のメッセージが人々を霊化への道へと導いてきたことに気づくでしょう。人間の魂がこの地上に生きてきた数千年の歳月を経て、私が今あなたが持っているものよりも、より深い啓示を含む教えをもたらすのは、ごく自然なことです。

51. あらゆる時代において律法の解説である私の教えは、光への道として、また魂のための確かな突破口として、あなたがたのもとに届いた。それにもかかわらず、人々は、与えられた自由意志を行使し、人生の道を求める中で、常に物質化という安易な道を選んでしまった。その中には、常に霊的なものへと導く良心の呼びかけに全く耳を貸さず、また、ある者たちは、自分たちが霊的な道を確認たる足取りで歩んでいると信じ込ませるために、様々な教団や儀式を作り出したが、実のところ、彼らは私の名と私の言葉を人生から排除した者たちと同様に利己的である。

52. もしあなたがたがここから、物質化した存在たち——この世での人生において霊的な旅のために何一つ積み重ねてこなかった者たち——が住む「霊的な谷」を見ることができたなら、きっと愕然とするだろう。しかし、あなたがたは一瞬たりとも、「神の

正義とはなんと恐ろしいことか！」などとは決して言わないだろう。いや、その代わりに、こう叫ぶに違いない。「私たちは自分自身に対して、なんと冷酷で、不公正で、残酷なのだろう！ イエスの弟子として、私たちは自分の魂に対してなんと無関心で、冷淡であったことか！」

53. それゆえ、父は、そうした存在たちが時折、あなた方の生活の中に姿を現し、彼らの暗く安らぎのない生活についての、痛ましくも胸が締め付けられるような知らせをあなた方に伝えることを許しておられる。彼らは、霊的な故郷の輝く光も、かつて住んでいたこの地球の美しさも、何一つ持たない世界の住人である。

54. 混乱、後悔、痛み、苦悩、そして絶望に満ちたあの広大な「谷」は、良心の光によってのみ照らされる。その光は、それらの存在たちを一人また一人と目覚めさせていくのである。この光がついに魂全体を貫き通すと、魂は自らの道を見出し、まだ身にまとっていた物質化の衣を脱ぎ捨て、再び生きていること、復活したこと、無限から呼びかける声が聞こえること、そしてその声が、太古の昔から光と至福への道を示してきた父の声であることを感じるのだ。

55. あなたがたのうち、だれもまた、混乱の闇の中に住み続けたり、悔恨の涙の杯を飲んだりしてはならない。

56. その限らない苦しみから逃れるために、自分の魂に憐れみを持ち、真の愛の行いを実践しなさい。自分自身を欺こうとする見せかけの行いをしてはならない。

57. 私の教えは霊化をもたらすものであり、霊化とは、真実、純粹さ、光、誠実さ、そして愛を意味する。

58. これこそが、私の唯一無二の道である——それは、初めからあなたがたのために定められ、すべての良心に刻まれている道である。

59. あなたがたの存在の最も奥深くで再び響き渡る私の声は、あなたがたを、失われた道、忘れ去られた小道へと招いている。それは、あなたがたの魂が物質界と霊界の間に横たわる霧のベールを通り抜けなければならない時、光となり、満足となり、高揚となるような功德を、あなたがたが獲得するためである。

60. 私がこのベールについて語る理由は、あなたがたの魂の発達レベルがまだ低く、存在するすべての人生世界を一つに統合する能力を備えていないからだ。地上において、あなたがたの兄弟愛の欠如が人々を民族や国家に分断したように、宇宙においても、未

熟な存在たちは、世界や故郷の惑星、そして宇宙空間によって分断されてきたのである。

61. やがて、愛によってこの世界の境界が取り除かれ、靈化を通じて世界同士が互いに近づいていく時が来るだろう。

62. その時が来るまで、良心と自由意志との闘いは続くであろう。人間は、その自由意志を用いて、自分の人生を自分の望むものにしていくのである。

63. この二つの力との葛藤は頂点に達し、勝利は精神の側に傾くであろう。精神は、父への絶対的な愛の献身の中で、父にこう告げるだろう。「主よ、私は自分の自由意志を放棄します。私の中で、ただあなたの御心のみを成し遂げてください」。

64. このように私の御前に来る者を、私は祝福し、私の光で包み込む。しかし、私はその者に、彼に授けられたその祝福された自由を、決して再び奪うことはないことを知らせるだろう。なぜなら、父の御心を行う者、誠実で従順な者は、主の信頼に値するからである。

65. あなたがたは、私が靈的な生き方について語ったことを理解しただろうか。すべてを複雑にしてしまうあなたがたの教えや指導とは対照的に、靈的なことがいかに単純で明快であるかを見てほしい。

66. 弟子たちよ、このことをよく考えてみなさい。

67. わたしの秘められた宝庫が開かれ、そこからあるものを、わたしは「声の伝達者」を通じて人々に啓示させている。

68. 1866年、メシアの誕生を告げたあの星のように、一つの星が輝いた。世界が眠りについていたため、それを見た者はわずかであった。

69. その星はエリヤであり、ロケ・ロハスの知性を通じてなされたその啓示によって、新たな靈的な時代が幕を開けた。その光をもって、彼は人々を導く道を照らし、彼らに偉大な啓示の時代が到来することを告げた。しかし、エリヤは私の預言者であり、私の先駆者であるため、私もまた、彼の霊を通じて、同じように私の啓示の時期を預言したのである。

70. その啓示の最初の聴衆、最初の証人たちは、ロケ・ロハスが口にした言葉が彼自身から出たものではなく、あの世から来たものであり、それが慰めと約束と希望に満ちた言葉であることを知って、驚いた。

71. 少数の弟子たちは次第に増え、やがて大群となった。彼らは後に、新たな代弁者たちを通じて師の臨在を受け入れたとき、

その言葉の中に、神の味わいと霊的な本質を備えた実を見出し、それが彼らの渇きを癒やし、飢えを満たすことのできる唯一のものであると悟ったのである。

72. この共同体には、質素で謙虚な心を持つ者たちからなる新たな使徒の群れが生まれた。彼らは愛と信仰に満ち溢れ、わたしに従おうとしていた。もちろん、彼らの間には、私の存在を信じるために自分の目で確かめなければならない新しいトマスも、私を信じてはいたものの、人々への恐れから私を否認してしまう新しいペトロも、そして

金や諂いによって私の言葉と真理を歪めて裏切る者もいました。

73. この民を構成する群衆は絶えず増え続け、都市や地方、村々に広がっていった。そして、この民の中から、真理と正義の使徒たち、主の教えに熱意を燃やす献身的な働き手たち、そして真理を語る清らかな心を持つ預言者たちが現れた。

74. わたしは彼らを、計り知れないほど大きく、目に見えない霊的な食卓に着かせ、わたしの天のパンを食べ、わたしの永遠のぶどう酒を飲ませ、彼らの使命において決して力が尽きることがないようにする。聞く者のうち、精神的に無関心なままの人々がいる一方で、知識への渴望から絶えず私に問いかけ続ける人々もいる。彼らは、なぜ私がこの姿で人類に現れるのか、なぜエリヤが先にやって来たのか、エリヤとは誰なのか、ロケ・ロハスとは誰なのか、そして七つの封印を解いたのは誰なのか、と私に問う。

75. 私は、完全なる師の愛をもって、すべての人に答え、教えを授ける。私が壮麗な祭壇や華やかな儀式の真っ只中に現れないことに戸惑う者たちがいるならば、他の者たちには、イエスが決して華やかさや虚栄を求めたのではなく、心を求めていたのだと、彼らの霊性が告げているのだ。

76. 私は常に、あなたがたの肉体ではなく、魂を求めてやって来た。なぜなら、肉体の物質は大地に属しており、大地はその懷に肉体を求めているが、魂は良心を通じて、常にそれと呼びかける神の声を聞き続けるからである。

77. 私の現在の、そして最後の来臨における説教の期間は長く続いている。それは1866年から1950年までの期間に及ぶ。

78. 私の教えの最初の実りとは、あなたがたが偶像崇拜、狂信、迷信、誤った解釈、さらには利己心、悪意、悪徳、そしてあらゆる欠点を排除することによる、魂と身体の刷新であるべきだ。そうすれば、あなたがたは誰をも惑わすことなく、私の律法について語ることができるようになるだろう。そうすれば、あなたがたは

私の教えに自らの誤りを押し付けることもなく、また、それを自分たちだけのものに留めて隠そうとすることもなくなるだろう。

79. より完全な宗教的实践によって魂を高め、徳ある生活によって心を高めなさい。そうすれば、あなたがたは、私が「第三の時代」の啓示においてもたらず霊性の基盤の上に立ち上がることを知った、新しい世界、新しい人類の始まりとなるであろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 214

1. 私が人間の口を通してあなた方に私の言葉を伝えるのは、私が絶えず人々に送っているメッセージに、あなた方が気づいてさえいないからだ。それこそが、私が人間の知性を通じて自らを明らかにせざるを得なかった理由である。私が自らを現すために人間の器を必要としているわけではない。それを必要としていたのは、あなた方の方なのだ。

2. わたしの愛に満ちた律法は、あなたがたがわたしのもとへたどり着けるよう、道からアザミを一本ずつ取り除くためだけに与えられたのである。

3. 父にとって、不可能なことや困難なことは何一つない。それゆえ、私は人間そのものを私の啓示の道具とし、それによってあなたがたへの私の愛を証明した。その際、私はあなたがたの不完全さを赦し、あなたがたの汚点に不快感を抱くことはなかった。また、私は、貧弱な知性と、不純で不器用な唇を通して、私の賢明で、愛に満ちた、神聖な御言葉をあなた方に授けたとき、私の力の証しをも示した。

4. あなたがたは皆、声の持ち主の肉体的な存在が消え去り、師の臨在を感じ取ったとき、この奇跡を目の当たりにした。その時、あなたがたは神聖な御言葉に喜び、光の世界へと移されたかのように感じ、恍惚とした霊的な平安を味わったのである。

5. 師があなた方に語りかけている間、どれほどの時間が過ぎ去ったのか。あなた方はどれほど長く、あの高揚した状態にいたのか。あなた方はそれを言い表すことはできない。なぜなら、その一時間、あなた方は時間を超越していたからである。

6. その後、教えの言葉が終わると、あなたは我が家に戻って私の言葉を繰り返したいという限りない憧れを抱きました。あなたは、道中で自分を侮辱した誰かに出会って許してあげたい、あるいは困っている誰かに出会って、私の臨在という福音を伝えたいという高潔な願いを抱いたのです。

7. ついに、聞いたことを伝えたいと思う誰かに出会ったとき、その神聖な教えを再現するには自分の唇が不器用すぎると気づく。そして、その言葉が実に深遠であり、また、その言葉を伝える者たちが活動する様子にも注目すべきであることを理解するのだ。

8. 師は、神の言葉を表現するには自分たちが不器用すぎると苦悩している人々にこう言います。「心配するな。やがて、あなたがたの賜物は次第に開花し、やがては『声の担い手』による伝達さ

え必要としない日が来るだろう。」なぜなら、私があなた方に送るのメッセージは、霊と霊との完全な対話を通じて、直接受け取ることになるからです。

9. もしあなたがたがこの一步を踏み出す準備ができているなら——私が今、あなたがたに告げることには細心の注意を払ってください。その時、人生は、あなたがたの魂、感覚、そして知性にとって、知恵の流れのようになり、愛の歌のようになり、創造主へとあなたたちを導く階段のようになるでしょう。

10. 民よ、早くこの高みに達しなさい。そうすれば、高次で霊的な生き方をし、すべての被造物と真の調和の中で生きることができるだろう。

11. 現在、あなたがたは、力と知恵に限りない教えの、まだ幼い弟子に過ぎない。しかし、その教えをあなたがたに授ける方は、すべての師の師である。喜んでその方に導かれていけば、その方の愛が、道からあらゆる茨の垣根やつまずきの石を取り除いていくのを目にするだろう。

12. この第三の時代におけるわたしの言葉は、人々の魂の中に存在する計り知れない空虚を埋めようとしている——それは、人間的な愛や、この世の富、あるいは形式的な儀式や崇拜によって、人々が決して埋めることのできなかった空虚である。

13. 待ち望まれていたメッセージが今、あなた方の元へ届いた。それは、それを待ち望んでいた者たちを祝福し、眠っている者たちを目覚めさせるものである。私のメッセージはすべての人々に向けられたものであり、それが一つひとつの心、あらゆる民族、そしてあらゆる国家に徐々に届いていくその時に、すべての人がそれを知るようになるだろう。

14. わたしの言葉は、この人類の闇の中に輝く、真理と正義の光である。それはあなたがたの魂に語りかけ、思索を促し、わたしの到来の理由とあらゆる秘密の解明を知らしめるのである。

15. 人間が平和の賛歌を歌えるようになるためには、愛し、赦さなければならない。もはや利己心や、恨み、憎しみ、あるいは盲目さを養ってはならない。そうすれば、人々の間に平和の王国を築こうと、あなた方のところへ来ようとする私の霊を妨げてしまうからだ。

16. そう、民よ——あなたがたは人類のほんの一部に過ぎないが、今存在する道徳的・物質的な崩壊を知っている。あなたがたは、人々の悲惨さと困窮、苦悩と絶望を目の当たりにしている。こ

の悲惨さと苦痛は、肉体だけでなく、功德の欠如によって弱まってしまった魂もまた味わっているのだ。

17. あなたがたは、同胞たちの導き手となり、わたしの先駆者となりなさい。わたしの愛を感じ取り、無条件に、そして無私無欲に愛しなさい。悟りを開き、その光を世界中に広めなさい。真理からインスピレーションを得て、わたしが時代を超えて 与えてきた偉大な啓示に深く没頭し、その知識を、あなたがたよりも知識の少ない人々に伝えなさい。

18. この光をもって自らの内面へと深く入り込み、私があなたがたの魂に授けた能力を発見しなさい。そうして、これらの賜物の価値を活かすとき、あなたがたは人生を愛することを理解するようになり、あなたがたが住むこの地上の谷においてさえ、永遠の命を愛し、それを認識するようになるだろう。

19. もしあなたがたが私の使徒と名乗りたいのなら、多くを愛し、多くを赦しなさい。私を思い起こせば、あなたがたの苦しみは消え去るだろう。侮辱されても痛みを感じてはなりません。祝福し、その件を私に委ねなさい。そうすれば、富ゆえに自分を裕福だと思っている者たちよりも、あなたがたは幸せを感じるようになるでしょう。なぜなら、その時にはあなたがたはすでに赦しているからです。その赦しが、あなたがたの救いの代価であるかどうか、あなたがたにはわかりません。この行為によって、あなたがたは、自分に苦しみを与えた者の魂を照らすことができ、それによってその者をも救うことになるのです。

20. すべてを愛しなさい。あなたがたが呼吸する空気さえも愛しなさい。なぜなら、その空気の中には、全被造物の中に満ちているのと同じように、わたしの愛があるからです。あなたがたが生きているこの時代とこの瞬間を愛しなさい。なぜなら、すべてのものにわたしの霊が現れているからです。あなたがたを取り巻く自然が、平和と愛を求めているのを感じないのですか？わたしはすべての自然の力を正しい軌道に戻し、すべての被造物を回復させるでしょう。しかし、人間は、破壊の原因となった自らの過ちによるすべての結果を、苦しみながら受け止めなければならない。

21. 私が今、あなたがたに与えているこのパンは、人類が必要とする糧であり、人類を強めることのできる唯一のものです。愛をもってこれを受け取り、それによって強くなり、あなたがたの使命を果たしてください。

22. 自分の人生を存分に生き、自信と忍耐を持って生きなさい。そうして、あなたがたの信仰を証明しなさい。何も恐れること

はない。私はあなたがたと共にいる。あなたがたが強ければ、自分の街が石一つ一つと崩れ落ちていくのを目の当たりにしても、落胆することはないだろう。なぜなら、あなたがたの中には神聖な力、すなわち私の霊の一部があり、それによってあなたがたは、隣人の心の中に偉大なことを成し遂げることができるからだ。あなたがたは、悲しむ者に喜びを与え、涙をぬぐい、落ち込んだ心を再び立ち直らせることができる。あなたがたが信仰と愛をもって成し遂げる業は、偉大で、決して滅びることのないものとなるだろう。

23. 永遠の命への私の愛に導かれてください。目を開き、私がすべての子供たちの至福のために創造した栄光と美しさに与ってください。私の祝福は、信者にも非信者にも等しく届きます。私は道から茨を取り除き、あなたがたが足を傷つけることなく、天の父への従順のうちに、常に安全に歩みを進められるようにします。

24. わたしの言葉の中に、わたしはあなたがたの苦しみを癒やすものを与え、あなたがたの言葉の中に、病める者たちのための癒しの薬を注ぎ込む。しかし、民よ、この癒しの薬は肉体のためだけでなく、魂のためでもあることを理解せよ。この世に生きる者のためだけでなく、霊界にいる者のためでもあるのだ。

25. 時折、私がこれらの代弁者を通してあなたがたに語りかけるとき、ある者は混乱した霊的存在たちに囲まれ、ある者はそれらに取り憑かれ、またある者はそれらに追われているのを見る。それらはあなたがたの意志を支配し、あなたがたの理性を混乱させ、あるいはあなたがたの体を病ませる。その時、私は霊の言語で彼らに語りかけ、あなたがたの道から彼らを追い払う。しかし、すべてを師がしなければならぬわけではない。私は、これらの存在——すなわち、あなたがたの霊的な兄弟姉妹——が、なぜあなたがたの地上の生活に侵入してくるのか、その理由を知ってほしい。そして、彼らの悪しき影響から自らを解放し、同時に、あなたがたの同情に値するそれらの魂に光をもたらすために、あなたがたが何をすべきかを知ってほしいのだ。

26. もはや人間の生活には属さないそれらの魂は、人々のところへやって来て、今もなお彼らと共に暮らしている。このことについては、第二の時代に、何人かの憑依された者が私のところに連れて来られた事例を用いて、私はあなた方に多くの教訓を与えた。しかし、あの民とその祭司たちは、それらの啓示の意味を理解することができず、彼らの邪悪な見解に基づいて私を判断した。

27. 今、私はこの教えを広め、あなたがたにこの知識を持たせ、混乱と戦い、打ち勝つための武器を与えるためである。

28. 弟子たちよ。平和も光もない、混乱した霊たちがあなたがたの中に現れる原因は、邪悪な思い、邪悪な言葉、低俗な情欲、悪しき習わし、そして悪徳にある。これらすべては、まるで一種の力のようなものであり、——自らを清めなかったために——住むための不浄な「住まい」を探さざるを得ない者たちを、すべて引き寄せてしまうのです。それらはすでに地上の肉体を持たない存在であり、その混乱の中で、他者の肉体を探し求め、それを通じて自己を表現しようとしている。しかし、その混乱と影響力の結果として、彼らが成し遂げられる唯一のことは、平和を乱し、精神を曇らせ、あるいは彼らが近づいた人々を病気にさせることだけである。

29. それらの霊は病の象徴そのものであり、影の領域の住人であり、生とは何か、死とは何かを知らない。

30. 霊の光である私は、霊的な生において死んだ者たちの中から、迷える者たちを一人また一人と探し求め、彼らを苦しみから救い出し、理解から生まれる平安——その平安を彼らに感じさせるために。しかし、私は、もう一度あなた方に告げます。師だけでなく、弟子たちもまた、あなた方の地上の目には見えないものの、準備の仕方を知っている者の感受性には感知できる、そうした存在たちに光をもたらさなければならないのです。

31. あなたがたの世よりも数も多く、力も強いあの世の悪しき影響と戦う正しい方法は、祈り、私の教えの指針に忠実であり続け、善への粘り強さを保つことである。これらの武器をもって戦う者は、自分自身を解放するだけでなく、霊の兄弟姉妹をも救い、解放するのである。

32. もしあなたがたがこの教えを知らなかったら、どうして霊性主義者であり得ようか。もしイエスが憑依された者たちの癒やしを明らかにしていなかったら、イエスが行った癒やしの業が、どうして完全なものとなり得ただろうか。

33. わたしの言葉を徹底的に研究し、わたしの教えを科学にしようとしたり、あなたがたを解放するために教えたことを、もしかするとあなたがたを動揺させた人々を愛することなく利用しようとしたりしてはならない。そうすれば、あなたがたは彼らと共に闇に堕ちてしまうからだ。

34. いつになったら、あなたがたは善行によって、この地を、ここを混乱の中で生き抜いた者たちが、後に光に満ちて旅立っていくような世界に変えることができるだろうか。いつになったら、あなたがたは、あの悪しき影響の世界が居を構えるのにふさわしい場所ではなくなるのだろうか。

35. もしあなたがたがこの現実を認識しなければ、決してそれらの落とし穴から解放されることはなく、また、大勢の貧しい魂たちのために何か有益なことを行うこともできないだろう。あなたがたは——ある者もまたある者も——互いに病を絶えず伝染し合う病人となるだろう。

36. それゆえ、私の教えの目的、私が再び来た意味、そして私の言葉がその光の中に秘めているすべてのことを思い起こしなさい。そうすれば、もはや自分たちをこの世界の唯一の住人だとは考えなくなるだろう。周囲のすべてを見渡し、真に光の子たちとなりなさい。

37. 私の言葉に耳を傾け、その真意を深く探求しなさい。そうすれば、あなたがたはすぐに、あらゆる時代、あらゆる時代の主の弟子となることを、私は保証する。

38. イスラエルの民よ。あなたは古来より数多くの戦いを経て鍛え上げられ、奴隷制や迫害、長い放浪の苦難を経験してきた。今こそ休息し、私があなたに一時的な住まいとして与えるこの地で、自由でありなさい。この時代、あなたがたは「乳と蜜が流れる地」を探し求めることも、サマリアへと旅立つこともなく、むしろわたしの霊的な王国を求めることになるだろう。あなたがたは、平和を享受し、わたしの知恵の光に包まれ、失われた力を取り戻すよう招く、この計り知れないほど広大な「谷」へと至るのだ。

39. あなたがたの魂を開花させなさい。あなたがたは新しい時代に生きており、父の第一子として、人類の中で、あなたがたにふさわしいこの霊化の段階を切り開いたのだから。

40. あなたがたが使命を始める前に、私の言葉に耳を傾け、私から学びなさい。私の言葉こそが教科書であり、その教訓を理解したら、人々のところへ行き、説教し、言葉に deeds を添えなさい。祈り、私や守護天使たちとつながり、そのインスピレーションが実を結ぶようにしなさい。あなたがたが使命を果たす際にすべての力を集中できるよう、内省的な生活を始めなさい。そうすれば、間もなくあなたがたの本質の変容を経験することになるだろう。あなたがたは自らの使命を明確に認識し、人々の道を照らす灯台のような存在となるだろう。

41. あなたがたは未来を恐れることはないでしょう。なぜなら、私があなたがたの導き手であり、私がすべてを正義をもって整えてきたことを知っているからです。やがて、私からインスピレーションを受け、御霊に導かれて、病人のもとを訪れ、彼らに慰めを与える時が来るでしょう。あなたがたは、真の知識への飢えと渇

きを抱く人々に寄り添い、彼らに光である御言葉を授けるでしょう。また、見捨てられた者たち、屈辱を受けた者たちの元へも赴き、彼らにも手を差し伸べるでしょう。そうすれば、やがてあなたがたは、人々の助言者、導き手、そして擁護者へと変容していくのを見るでしょう。

42. あなたがたの同胞が陥っている破滅が甚大であればあるほど、彼らに対するあなたがたの忍耐と思いやりもまた、それだけ大きくなければならない。

43. あなたがたは皆、もともと清らかであったこと、そして最後には再び清らかになることを知っている。自分の起源を忘れず、私のもとへ速やかに戻れるよう、その道を急ぎなさい。

44. 人類は数において増え続け、地球はこの種で満ち溢れている。人間は、私が太古の昔に与えた戒めを果たしてきた。しかし、彼が従うことを理解できなかった多くの掟がある。彼を偉大な事業に着手させるのは、愛ではない。彼が苦労を重ねてきたのは、理性によるものではない。その魂は深く墮落し、その墮落の中で均衡を失ってしまった。しかし、私はその魂を支え、本来あるべき次元へと立ち返らせる。私がその魂に授けた美德は極めて偉大であり、もしその魂がそれらを活用する用意があったならば、今頃、はるかに高い段階に立っていたはずであり、苦痛がその魂を支配して苦しめるようなことはなかっただろう。

45. あなたがたは、まだ失ったものを取り戻すことができる。それゆえ、わたしはあなたがたのところへ来て、あなたがたが高みへと至るためのあらゆる手段を与えているのだ。

46. 人類よ、わたしのもとに来なさい、わたしに願いなさい。そうすれば、わたしはあなたに与える。わたしの恵みの賜物は絶えることなく、それを懇願する者すべてのために、恵みの泉はあふれ出ている。わたしはあなた方を赦し、清め、あなたがたが使命の遂行を始められるようにする。

47. インスピレーションの泉へようこそ。そこでは、汝らの渇きが癒され、倦怠感が消え去る。わたしの中には、愛を求める魂の渇きを癒す、水晶のように澄んだ水がある。

48. この時代、あなたがたの歩む道は危険なものとなり、日々の務めは過酷なものとなった。それゆえ、私は、希望である私の言葉の光をもって、あなたがたの巡礼の道を照らすために来たのである。私の教えの中で、私は絶えずあなたがたに進み続けるよう励まし、この世の儚さを忘れないよう常に思い出させている。その先には、あなたがたをその平安で包み込む来世が待っているのだ。

49. あなたがたはまさに、わたしの言葉の真髄を糧とする荒野の旅人であり、魂の信仰に励まされながら、到達すべき目標に向かって邁進している。

50. 信仰とは、人を高め、変容させ、啓発する力である。それによって、人はその創造主のもとへと舞い上がることができる。なぜなら、その光は、父のもとへと至る律法の道を照らすからである。

51. このように、この信仰をもって、あなたがたは自らの道を歩み、魂と肉体の完全な同意のもと、この時代がもたらす罨や運命の試練を受け入れている。しかし、やがてその日が来るでしょう。その日には、あなたがたはわたしについて語り、証しをすることになるでしょう。すなわち、わたしがどのようにあなたがたと共にいたか、あなたがたがどのようにわたしを聞き、見たか、そして、どのようにわたしの靈感による啓示を受け取ったかについてです。わたしはあなたがたに告げます。あなたがたは、靈化の教えを理解する準備が整った人々に会うことになるでしょう。今日、あなたがたは「師があなたがたの中にいる」と大声で宣言することはできない。なぜなら、人々はあなたがたを信じず、狂人だと思われるからだ。

52. 歴史を振り返ってみよ。神から靈感を受けた者たちは、常に誤解されてきた。なぜなら、物質主義に覆われた人々は、真理を見分けることができないからだ。

53. あなたがたが私の業について語り、狂信や無知、物質主義に陥っている人々と対峙したとき、同じことがあなたがたにも起こるでしょう。あなたがたは彼らに私の教えを説くでしょうが、各人はその魂の成長段階に応じてそれを理解するでしょう。しかし、最終的にはこの真理が輝きを放つことになるでしょう。なぜなら、私が真理そのものだからです。

54. 人々がひとたび平和を得たとき、師があなたがたに魂のための偉大な教えを啓示する時が来るだろう——それは、より大きな発展を遂げるであろう次世代の人々に理解される啓示である。

55. あなたがたはわたしのそばにいて、種を蒔くことを学んでいる。あなたがたが直面したような障害には遭遇しないであろうが、その実を享受するのは、あなたがたの後を継ぐ者たちであることをよく知っている。しかし、彼らはそれでもなお、あなたがたの行いを評価するだろう。それゆえ、道に愛と慈悲の足跡を残さない。そうすれば、靈的な次元において、わたしがあなたがたに教えた律法を全うしたという満足感を得ることができるだろう。わた

しの言葉を深く探求し、わたしにあなたがたを裁かせてほしい。その間、あなたがたの人生と行いを改めなさい。

56. もしあなたがたが、周囲の人々に自分がわたしの弟子であることを知ってもらいたいと望むなら、心の高潔さを通じてそれを彼らに知らしめなさい。謙虚さがあなたがたの行いに反映されるようにしなさい。なぜなら、心から柔和な者は、魂においても柔和だからである。高慢で虚栄心の強い者は強そうに見えるが、実際には魂が貧しいのである。

57. スピリチュアリズムは、人間によって導入され、霊の進歩を妨げてきた慣習や伝統を打ち破る。スピリチュアリズムとは、霊が自らの能力と資質によって浄化され、完全なものとなり、ついにその創造主に至るまで、絶え間なく発展し、高められることである。スピリチュアリズムは、霊がその主をどのように表現し、感じ、受け入れるかを示すものである。スピリチュアリズムは精神を解放し、その開花をもたらす。

58. 霊的なものは、万物に存在し、万人に属する普遍的な力であり、普遍的な光である。私の教えは、誰にとっても異質なものには思われないだろう。

59. 精神の性質は不変である。なぜなら、それらは私の神性の美德であり、永遠の力だからである。しかし、あなたがたがどのように生きてきたかによって、示しうる清らかさは大きくなったり小さくなったりすることを理解せよ。

60. もしあなたがたが魂の清らかさに汚点を残し、その魂が良心の非難を耳にすれば、魂は、浄化と救済と赦しの源である神性を恐れることになる。

61. 私の教えは、この人類の前に再び一冊の本のように開かれる。それは、人々がこの教えという清らかな水に身を浸し、自らの生活を変容させ、物質主義的な傾向から背を向け、永遠の命への渴望をもって高みへと向かって努力するためである。

62. 一度、より高次の生命を知れば、あなたがたは——今生きているこの生活を軽んじることはなく——それをあらゆる虚栄よりも優先することを理解するようになり、人々はあらゆる余分なものや無益なものから離れるようになるだろう。これは、人類が霊的な領域に到達したいという渴望を感じ始めていることのしるしとなる。

63. 私の教えは、この世において、人生に対するより完全な概念をもたらすことになるだろう。

64. あなたがたがこの世界に到達するまで、あなたがたには、運命の十字架である使命が課せられており、それによってあなたがたは山の頂上へと至ることになる。

65. わたしを理解し、落胆してはならない。あなたがたがまもなく説くことになる教えは、空想などではない。なぜなら、すべての人には精神があり、すべての人の中に霊的なものが脈打っているからだ。

66. まことに、あなたがたに告げる。もしスピリチュアリズムが地上を支配するようになれば、人々は真の平和の礎を築き上げることになるだろう。

67. あなたがたはその時代をこの地上から目撃することはないが、今まさにその準備を進めている。そして、その時代が頂点に達したとき、平和と喜びはあなたがたの魂の中にも満ちるだろう

68. それは、第一の時代にすでに整えられていた畑に、キリストが第二の時代に蒔いた種が実を結ぶことになる。

69. 今日、小麦はまだ雑草と混ざり合っている。しかし、雑草が根絶され、小麦が黄金の穂を掲げて伸び上がるとき、人類が待ち望む時代が到来するだろう。

70. わたしこそが道である。その道を歩みなさい。そうすれば、あなたがたは永遠にわたしと共にいることになる。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 215

1. わたしの言葉は、あなたがたの心に降り注ぐ露の滴のように、それを新たな命へと蘇らせる。なぜなら、わたしはあなたがたの心が枯れ果てているのを見出すからだ。その理由は、あなたがたが、わたしが再び来るとの約束を忘れてしまい、霊的な生活において死んでいると感じていたからである。

2. あなたがたの希望の微かな炎が消えかけたとき、あなたがたは心の扉を叩く音を聞いた。扉を開けてわたしを見たとき、あなたがたはわたしを忘れていたため、わたしを認識できなかった。あなたがたに、わたしの脇腹の傷を見せ、「そこに指を入れてみなさい」と告げる必要があった。そうして初めて、あなたがたの扉を叩いたのが誰であったかを知ることができたのだ。

3. あなたがたは、私がすぐそばにいたにもかかわらず、私を見分けられなかったエマオへの旅人のようです。また、私の傷跡を見て、触れて初めて信じたトマスにも似ています。

4. あなたがたは私の存在の証拠を求めたので、私はそれを与えた。だから、私が来たのは、あなたがたを偶像崇拜から解放し、素朴な信仰の実践、詭弁のない信仰、そして互いへの慈愛の実践へと立ち返らせるためであることを知ってください。

5. 私は、あなたがたが、耳も目も口も動かない偶像を崇拜し、今日のあなたがたの霊的発達には時代遅れで不適切な儀式を行い、私が決して定めたことのないことを実践している姿に遭遇した。

6. 私以外の誰一人として、あなた方を傷つけることなく、あなた方の誤りについての真実を告げ、同時に、あなた方の心の空虚を即座に満たす光と糧、そして励ましを差し伸べることができなかった。

7. もはや、偽りであり実体のない栄光に目がくらむことも、知性には訴えかけるが決して魂の奥底まで届かない言葉に惑わされることも、二度とないだろう。これからは、この言葉の本質を真に心に受け入れた者は、神聖なパン以外のパンによって養われることはできなくなる。

8. 私が、私の声を伝えるこの素朴な人々を通して語ったように、かつて誰があなた方にそう語りかけたことがあっただろうか。この言葉の中であなたがたが聞いたような形で、霊化について語った者がいたのだろうか。あなた方の生涯において、神の啓示であることを裏付ける証拠を、かつて誰が示したことがあっただろうか。誰もいない、わが民よ。

9. わたしの言葉は、集まりを呼びかける鐘のように人々を呼び集め、人々は長い列をなして、大群となってやって来る。

10. 私がこの姿であなたがたに現れる時間は短い。私は、多くの人々が私の言葉の光を受け取ることが望んでいる。そうすれば、1950年が終わりを迎える頃には、民全体が私の戒めを自覚し、進んで私の父の御心に服従するようになるだろう。

11. 民がこの日に備えるための時間はまだ残されている。そして、その後、民が集まる際には、もはや伝達者を通じて私の言葉を聞くためではなく、受けた教えを深く学び、その知性をもって私の靈感を感じ取り、そして確信を持って「主は我らと共におられる」と宣言できるようになるためである。

12. 私は、あなたがたをこのように見たいと願っている。すなわち、良き弟子たちとしてである。

13. 私の教えの冒頭で、私はあなたがたに、私が質素な礼拝を導入したと告げた——それは、儀式も儀礼も持たないが、それでもなお、香の煙や賛美歌の音色よりも高くそびえ立つもの、すなわち、愛と慈悲と兄弟愛の礼拝である。

14. あなたがたは、自らの礼拝行為を厳密に吟味し、偶像崇拜、宗教的狂信、迷信、そしてこの業にふさわしくない信仰上の信念の痕跡をすべて取り除く必要がある。

15. もしあなたがたがキリストを信じ、そのすべての御業を愛するならば、私が今日あなたがたに啓発しているこの簡素さと靈性は、私が「第二の時代」に言葉と行いをもって説いたものと同じであることを認識しなさい。それならば、なぜあなたがたは、それなしには靈化などあり得ないというその簡素さから背を向けてしまったのか。

16. 見よ、この人類がどれほど多くの誤りに陥っているかを。しかし、新たな日の光が差し込み、その光とともに、もはや何も隠れることも、闇に包まれることもできなくなるだろう。

17. それゆえ、今、私は地上のあらゆる道を歩めるようにしている。そうして、スピリチュアリズムの弟子たちや使徒たちが世界中に広がり、私の福音を宣べ伝えるためである。

18. 私があなた方を他の国々に遣わす前に、この教えの弟子と名乗る者は皆、その生活と行いにおいて靈的であり、その証が真実であり、それゆえに信頼に足るものであることを望む。

19. もしあなたがたが靈化に達すれば、その道は容易なものとなる。より高い境地へと至ろうという理想に心を動かされていれば、その登り道は決して困難なものではなくなる。誘惑によって

、もはや破滅の深淵へと突き落とされ、後退することはなくなるだろう。そうすれば、あなたがたはこの世から、絶対に必要なもの、許されたもの、そして 不可欠なものだけを取り入れるようになり、それによって魂に自由をもたらし、より良い世界を夢見させ、それを達成するために戦わせるようになるのだ。

20. わが光は、あなたの魂を包み込み、あらゆる道のりにおける導き手となる。この光は、人種や信仰の区別なく、すべての人々に降り注いでいる。

21. この時代、イスラエルは帰還し、その霊的使命を果たすために全世界に散らばっている。イスラエルは古くからの民であり、長子であるため、私と最初に結びつく者である。その魂は、すべての魂が地上に遣わされた際に与えられた法則に従って発展してきた。

22. 第一の時代、すなわち私が初めて来臨した際、私は人々の純朴さと無知を目の当たりにした。彼らは道徳的に低い水準で生活しており、私は山頂から彼らに語りかけ、最初の教えを与えた。

第二の時代、私は長い歳月を経て地上に降りてきた。その間、私はあなたがたの魂が信仰を強め、私の律法に従って生きるよう、数々の証拠を示してきた。そして、あなたがたは以前より聡明で、成長していたが、私が求めた真の律法の履行からは程遠い状態であった。なぜなら、あなたがたは自らの賜物を魂のために役立てることはできなかったからである。

23. 私はその時代に、律法をどのように適用してそれを成就するか、父をどのように敬うか、そして真理をどのように証しするかを伝えるために来た。私はイエスとしてあなたがたのそばにいて、あなたがたの魂全体が私を感じ、実感できるようにし、私の言葉によってあなたがたを準備された状態で残した。

その後、私は、あなたがたの魂が私の教えを活かし、私に従って生きることができるよう、十分な時間を与えました。あなたがたは成長を続け、より目覚めた状態になりました。しかし、高みへと至るために、私に近づくための道を十分に整えることはできませんでした。あなたがたの光は弱く、信仰は脆弱であり、私の第三の来臨がすでに近づいていることに気づいていませんでした。

1866年、まさに私の言葉と預言が予告していたその時期に、私はあなたがたの元へやって来て、この時代のために約束した新たな教えの中に、あなたがたの魂に知恵の宝を残しました。

24. 私の到来を待ち望み、目を覚ましていた者は、いかに少なかったことか。この新しい時代が幕を開けたとき、人類は眠りについていて。

25. あなたがたが、その時を待ち望みながら常に目を覚まして生きることを、私は望んでいた。そうすれば、私のどの到来においてもあなたがたが不意を突かれることはなく、私はあなたがたの進歩と悟りを見ることができたであろう。

26. あなたがたは、わたしのもとへ至るために様々な道を歩んできたが、その道で迷い出てしまった。羊飼いが現れ、羊たちを探し出し、一つの囲いの中に集める必要があった。なぜなら、この地上には、わたしがこの任務を託せる人間が一人もいなかったからである。準備の整った者を、ただ一人も見つけられなかったからだ。

27. わたしは今、すべての国々において、善意ある人々を啓発し、準備させている。それは、彼らがわたしの霊による到来と、今まさに近づきつつある恵みの時代について語るためである。彼ら一人ひとりに困難な使命が与えられており、その仲介を通じて、わたしは他の人々の心に救いをもたらす理想を呼び覚ましている。私は彼らの魂に命を与え、私の律法に対する愛と信頼を注ぎ込み、人類の救いと霊的進歩のための闘いにおいて、彼らに力を与えるのである。

28. 諸民族が、わたしの教えをめぐって分裂することを避けなさい。不和を生じさせず、互いに優越感を抱いてはならない。私はすべての人に等しく、隣人に対する平和、愛、そして敬意である霊性を授ける。宗教的狂信を捨て、礼拝の儀式を完成させ、同胞の信仰実践をより高い次元へと引き上げよ。これが私の意志であり、あなたがたが共に集うときは、互いを認め合い、愛し合い、私を証しなさい。

29. この言葉を聞く者たちよ、魂を従順にし、私の教えを学べ。言葉を伝える者たちに気を取られるな。また、この光を彼らの功績として称えるな。彼らは、私が私の意志を明らかにするための単なる道具に過ぎない。知性を超越し、魂をもって私を感じ取れるようにせよ。

30. 1866年に始まり、1950年に終わるこの偉大な啓示を実現するには、人間がいかに小さいことか。あらゆる時代にあなた方を教え導いてきたこの師から学びなさい。また、彼は父であり師であると同時に、裁き主でもあることを心に留め、あなたがたが裁かれていることを感じなさい。

私があなたがたに命じた使命の遂行は、あなたがたが地上に生きている今、適用されるものである。後になって、あなたがたが霊界に身を置いた時には、新たな使命が与えられるだろう。あなたがたは私の子供であるからこそ、その戦いは偉大であり、不滅なのである。

あなたがたの肉体という器が持つ短い生涯の中で、どのようにして完全となり、平和のうちに安らぐために私のもとへ至る資格を主張しようというのか。各々の魂が 耕すべき働きの際は、それほど広大であるというのに。まずは贖罪の重荷から自らを解放し、自分自身に憐れみを持ち、私の律法に対する古い罪を償うのに十分な功德を積みなさい。

31. わたしは、あなたがたがもはや幼子ではなく、その代わりに弟子となることを望む。常に謙虚でありなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの力を超える試練を課すことはないだろう。あなたがたの生活の中で、隣人愛と忍耐を示しなさい。あなたがたが私の業を明らかにする中で、周囲の人々の信頼を勝ち取ったならば、慰め主としての私の到来について語り、人々の魂を目覚めさせなさい。そうして、彼らがより高い次元で生き、霊的な従順を通じて啓発され、高められようと努めるように導きなさい。彼らの心は、あなたがたが神聖な種を蒔くことのできる肥沃な土地である。

32. 準備が整えば、あなたがたは世界中に散らされ、あらゆる道を歩むことになる。どこへ行かなければならないのか。あなたがたにはわからない。一見物質的な理由から旅立つように見えるだろうが、根本的には、あなたがたを定められた場所へと導くのは、わたしの御心である。

33. 諸地方に光と祝福、癒しの香油と平和をもたらしなさい。そうして、あなたがたがわたしの使者として、愛と憐れみの真の弟子として認められるように。自分の歩みに注意を払いなさい。あなたがたは、その生涯において裁かれることになるのだから。

34. 私の言葉に耳を傾けなさい。私はあなたがたの未来をあらかじめ告げ、明らかにするからだ。あなたがたの行いによって私の業を冒瀆してはならない。また、あなたがたの魂の光を曇らせてはならない。

35. 山を登り、霊性の頂点に到達せよ。この世に根を下ろしてはならない。私が「ここは私の王国ではない」と告げたように、私の弟子であるあなた方も、この世にはそれを見出すことはできない。物質的な束縛から解き放たれ、自らの内面に深く没入し、魂の中に存在するすべての貴重なものを知り尽くすようにせよ。

36. 人間の知性を通じてのわたしの啓示の時は終わりに近づいているが、その後に人類に何が起こるのか、あなたがたは知らない。あなたがたは自らの賜物を開花させていないため、人類に降りかかる試練を予感することさえできない。あなたがたの魂の中で直感 は明確ではなく、人間を屈服させるために猛烈な勢いで解き放たれる自然の力に立ち向かう準備もできていない。私は、あなたがたが悪や罪、病気、そして災難を食い止めることができるよう、祈りの中で力を与えてきたが、今日に至るまで、あなたがたはこれらの能力を一度も活用していない。

37. ああ、第三の時代のトマスたちよ、あなたがたはわたしを理解していなかった！ あなたがたの霊的な賜物はどこにあるのか？ どこにそれらを埋めてしまったのか？ なぜ忘れてしまったのか？ あなたがたは知らないが、私が教えてあげよう。それらの賜物は隠されているのだ。それらはあなたがたの中で脈打っているが、あなたがたは物質主義に囚われているため、それを感じ取れないのだ。あなたがたは怠惰に生きてはならない。あらゆる形でそれらを現し、それらを用いて偉大な奇跡を行い、あなたがたの父と自分自身を証ししなければならない。

38. イスラエルよ、働きなさい。そうすれば、あなたを待ち受けている、平和の地、すなわち霊的な約束の地を手に入れることができるのだ。

39. 今日、あなたがたが霊的賜物の確証を受けるこの日に、私はあなたがたの告白と感謝を受け入れる。身構えて聞きなさい。1950年以降、あなたがたは私と霊的なつながりだけで交わるようになる。同様に、あなたがたの子供たちや、後に加わる者たちも、私の言葉を受け取るだろう。その時にはもはや伝達者は存在しなくなるが、あなたがたの信仰は、私がすべての子供たちを迎え入れ、幸せにするために完全にこの世に降りてきたことを告げてくれるだろう。

40. 来るべき時代において、あなたがたは皆、わたしによって備えられ、導かれることになる。そして、今日のわたしの教えは、あなたがたがそれを思い起こすとき、あるいは書き記された聖書に目を走らせるとき、詳細かつ明瞭なものとなるだろう。

41. わが弟子たちよ、わが愛はあなたがたと共にあります！ 聖霊の光は常にあなたがたを包み込み、その光があなたがたの信仰の灯を灯すのです。

42. 御霊の賜物の必要性を感じ、悔い改めと刷新の水によって、自分の人生、知性、そして心を清めようと努めている者たちよ

——真理を知り、それを切望している者たちよ——私の光に満たされるために、愛撫のようにあなたたちに届く私の声に耳を傾けなさい。この時代、真理は隠され、空想が支配している。それゆえ、私は、真理であり、魂の糧である私の神聖な本質を、あなたがたに与える。

43. あなたがたが私の真理をより深く理解すればするほど、肉体の感覚に似た魂の能力が開花し、そのおかげであなたがたの進歩はより容易になるだろう。あなたがたの魂が、水晶のように澄んだ水が湧き出る泉——つまり、詭弁や儀式、崇拜の形式を排した、素朴な教え——へとたどり着きたいと切望しているのを感じないか？ なぜなら、私があなたがたにもたらすこの教えは偉大で光に満ちており、まさにあなたがたが求めているものだからです。その堅固な土台は、私の意志が根底にあるため、時の流れによっても揺るぐことはありません。な真理を愛する者たちにとって、私の教えは古来より変わらぬもの——すなわち、愛と知恵と正義の教え——であり続けるでしょう。

44. 神に由来するものは、父が子に対して抱く愛によって、人々に届く。私が望むのは、あなたがたが私を受け入れる用意ができてのことだけである。父は、原子としてあなたがたの中にも存在するその知恵が、開花し、明らかにされることを望んでおられる。私は、あなたがたを励ますためにここにいる。私が望むのは、あなたがたが私の言葉に注意深く耳を傾け、私が今明らかにしようとしている神秘を受け取るということだけです。

45. かつて、私はこの世において、自らの模範を通じて愛の教えを残しました。今、私はさらに進んで、世界を照らし、知性の無知を取り除き、道を平らにし、不必要な苦しみ、混乱、そして涙を避ける力を持つ霊の教えを、あなた方に授けています。これほどまでに生み出された苦しみに対しては、私の教えの甘美さが、そして戦争と悲惨さによるこれほどまでの闇に対しては、私の啓示の光がある。

46. 宇宙の神殿は、私の教えを柱とし、支えとしている。なぜなら、その教えには、教え、救い、確信を与え、命を与える神聖かつ創造的な力が宿っているからである。

47. 私は人間の唇を通して語るが、私の愛が私の思いを聞き取れる言葉へと変え、あなたがたが私を聞き、自らを救い、神の中で生きることができるようにする。私はこの愛の学校の教師であり、進歩を望む高潔な心を決して裏切らない。私はまず、すべての人を若い生徒とし、次に弟子とし、やがては真理を教える師とする

。私はすべての人を、多くの迷える魂の道を照らす力強い光とする。すべての人間は、自らの意志を失うことなく、私の意志の道具となる。なぜなら、あなたがたの霊性が高まれば高まるほど、父の意志と調和していくからである。

48. あなたがたは、自由意志ゆえに多くの苦難を経験してきた。しかし、私が決してあなたがたを見捨てたことはないことを知ってほしい。真理にたどり着くために、あまり遠回りをしないように。真理を愛しなさい。あなたがたが愛の扉を開けば、真理は自らあなたがたの元へやって来るからだ。素朴な真理を愛し、理論や詭弁から身を解き放ちなさい。この光は、あなた方の人生の砂漠を照らし、あなた方は疲れ果てることもなく、遅すぎることもないでしょう。唯物論者たちは真理を発見することはありません。なぜなら、真理は愛に根ざしているからです。愛こそが光であり、知恵であり、啓示であるからこそ、愛こそが真の師なのです。

49. 唯物論者たち、つまり生粋の世俗主義者たちがあなた方のところへやって来て、こう言うでしょう。「私たちの脳は、イデオロギーや書物、科学に疲れ果てています。真実を見つける手助けをしてください。」そのとき、あなた方は知恵をもって、彼らの理性を覆っている雲を晴らすべきです。

50. 無限の彼方において、問いと答えを、海のさざめきのように、風の轟きのように聞き取れ。無知を悟り、魂の平安、そして温かさに変える知恵に耳を傾けよ。愛のその慈愛に満ちた励ましの言葉に耳を傾けよ。それこそが、生と死、偉大なる神秘、人間における神の法則、永遠、そして光への悟りを通じて、この存在を初めて生きる価値あるものにするのだ。それを聞き取れ！

51. あなたがたはまだ未熟であるため、愛することや赦すことを学んでいない。しかし、あなたがたは、信じるために探求する者たちなのか。まだ、私の言葉や私の業を完全に判断できるほどの霊的な光を持つ者は誰もいない。私は哲学者、学者、教師、思想家たち、そして「それは本当に父なのか？」と絶えず問い続ける永遠の懐疑者たちをも試した。しかし、私は皆にこう言った。「木はその実によって知られる。私の言葉こそが、私が誰であることを語っている。私の言葉は、これからも哲学者や無学な人々を驚かせ続けるだろう。」あなたがたに告げる。愛を通してのみ、あなたがたは私が誰であり、あなたがたが誰であるかを知るだろう。なぜなら、愛によってのみ、あなたがたは私の御顔を見ることが出来るからだ。立ち止まってはならない。永遠の問いについて頭を悩ませては

ならない。愛の中に答えを見出し、真理の広大な地平線の中で、真の命を発見するだろう。

52. この道を歩みなさい。そうすれば、天は喜びに満ち、あなたがたの存在の中に光が輝き出すだろう。なぜなら、その時には、あなたがたは心の悲しみを、甘美で健全な生きる喜びへと置き換えているからだ。

53. あなたがたは、私が、世界とその住人たちが今まさに陥っている墮落の極みを見据え、彼らがこれほどまでに私を必要としているにもかかわらず、彼らを見捨てるだろうとも思っているのか。よく考えてみよ。なぜなら、私はあなたがたがそのような言葉を口にし、そのような考えを抱いているところを、見抜いていたのだから。

54. 私は救い主であり、師である。堕ちた罪人のもとへ赴き、その者を立ち上がらせ、霊的な存在へと導き、愛することを教える者である。

55. 世界は、その救い主の声を聞き、その律法を知り、それに従うとき、変容するだろう。

56. 魂のための教えであるこの言葉を受け入れ、約束された慰め主が、あなたがたの 霊的進歩のために与えてくださるものを受け取る準備をなさ。なぜなら、あなたがたは、霊から霊へと、主とつながる境地に達しなければならないからである。

57. わたしを聞いたという高揚感が去った後も、わたしの言葉を忘れないでください。

58. 父の慈悲と愛が、あなた方を迎え入れます。

59. 父の腕は、あなた方を抱きしめ、その腕の中で安らぐことができるようにと、開かれています。悩みの中で自らを慰め、あなた方の存在をより幸福なものにしようとするこの御言葉に耳を傾けてください。

60. わが霊は、あなたがたの罪を裁くことに時間を費やすことなく、どれほど大きな喜びをもってあなたがたの元へ降りてくることか。わたしはあなたがたに愛について語る。この言葉によって、心に何らかの汚点を持つ者は清められ、罪人は贖われ、眠っている者は目覚めるのである。

61. 永遠の時計の、その心地よい鐘の音は、全地球に響き渡り、人類が今生きている時代を理解できるようにしている。

62. あなたがたはわたしのものであるから、わたしはあなたがたを探している。そして、あなたがたを愛しているからこそ、これ以上あなたがたが迷い続けることを望まない。あなたがたはわた

しの神聖な光の火花であり、やがてわたしと一つになるだろう。わたしがあなたがたに差し出すのは永遠であり、そのすべての栄光をあなたがたが賞でられるようにするためである。

63. 私は、あなたがたがその意味を理解し、後になって「私が理解できない言葉で話した」と不満を言わないように、明確で平易な言葉で語りかけている。

64. 第二の時代に、私がたとえ話を通して教えを授けたとき、あなたがたはその多くを理解することができませんでした。今、私は聖霊の輝かしい光によって、すべての教えの解説をあなたがたに与えています。

65. あなたがたが生きているこの人生のあらゆる苦しみは、人間の過ちの結果であることを理解しなさい。なぜなら、あなたがたを愛する私が、これほど苦い杯を差し出すはずがないからだ。私は初めから、あなたがたが転落や破滅、そして「死」から身を守ることができる道として、律法を啓示してきた。

66. すべての人にとって、私があなたがたに、私の律法と、私があなたがたに授けた賜物について、説明を求める時が来るだろう。

67. あなたがたは人生の道を歩んでいますが、その道中で、ある者は義務と苦痛の十字架を、またある者は自らの罪の十字架を肩に担いでいます。しかし、あなたがたがわたしを呼び求めれば、わたしはあなたがたの十字架を担う者となり、あなたがたがわたしのもとに来られるよう助けてあげましょう。

68. わたしの教えに従いなさい。そうすれば、すぐにその重荷が軽くなり、心が安らぎ、心地よい清涼感が、あなたの倦怠感を和らげてくれるでしょう。

69. 目を開き、霊的な視線で中に入り、わたしの栄光を仰ぎ見なさい。見よ、わたしが人類に託した七つの霊を通さなければならぬ門が開くのを。それらは七つの美德であり、わたしの御心に従い、常にあなたがたの中で働いているべきものである。それらは、愛、謙遜、忍耐、秩序への愛、喜び、粘り強さ、そして慈悲である。これらの美德をあなたがたの心にしっかりと根付かせなさい。そうすれば、至福を体験することになるだろう。

70. このようにして、わたしの霊はあなたがたの霊に近づき、それを光で満たし、こう告げるのである。「あなたがたが今日、一時的な衣として持っているこの肉体こそ、あなたがたが大きな浄化と霊的な高揚を得るための手段である。」

71. もしあなたがたの道の途中で、ハンセン病に苦しむ人が現れたとしたら——あなたがたは恐怖に駆られてその場を離れるだろうか？ その人に手を触れることさえできないだろうか？ もしかして、感染することを恐れているのか？ いいえ、わが弟子たちよ。その身体の悲惨さに目を向けるのではなく、あなたがたの兄弟であり、わが子であり、あなたがたの慈悲を待ち望んでいるその魂を見なければならぬのだ。あなたがたには、まだどれほど多くのことを学ばなければならないのか。

72. 自分の弱さを悔い改め、改心する決意を固める人の心は幸いである。なぜなら、その人には赦しを与えられるだけでなく、わたしの光も与えられるからだ。罪人を、わたしの愛する弟子たちへと変えること、それがわたしの使命である。

73. わたしは復活であり、命である。わたしのもとに来なさい。そうすれば、あなたがたは永遠に生きるだろう。なぜなら、わたしの中であって、あなたがたは平安を見出すからである。

74. 私の聖霊の光は、全宇宙に注がれている。直感、啓示、そして予知の賜物によって、人々は新しい時代へと目覚めていくのである。

75. わたしの霊は正義に満ちて振動し、霊の最も深い深みまで浸透して、霊が魂を罪から解き放ち、雑草を束ねて火の中に投げ込むのを助ける。

76. あなたがたが世に向かって「ここに、私たちの間におられる父がおられる」と言えるようになるためには、まだ自分自身を磨く努力を大いにしなければならない。

77. 多くの国々が、地上のパンと天のパンへの渴望によって枯れ果てている。

78. 人々は、宗教や哲学、宗派を通じてわたしを探し求めている。それらは、いつの日か彼らがわたしを見出すことになる道である。

79. あなたがたが、私の心にまっすぐ通じる正しい道を歩んでいる限り——たとえ長い道のりを進み、山を登り、深淵を乗り越えなければならないとしても——一步一步進むごとに、霊的な道において高みへと登り、そこから約束の地のシルエットを見渡せるようになることを感じるだろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 216

1. 弟子たちよ、失われた時間を嘆くことのないよう、わたしの使命を果たしなさい。あなたがたに果たすべきことが何であるか、また、あなたがたの後に続く者たちに関わる部分が何であるかを知るために、わたしの言葉の研究に没頭しなさい。

2. わたしが、学者たちよりも先に、謙虚なあなたがたにこの霊的な業を啓示したのは、あなたがたの中に、誠実さと無垢さ、信仰、そしてわたしの教えに従う意志——すなわち、この種を同胞たちの心に届ける用意——を見出したからである。それゆえ、私はあなた方を選んだのである。あなた方は、苦難を味わい、この地上で安楽や快樂を求めなかった貧しい者たちだからだ。あなた方は、この世の彼方に、真の霊的な平安、善、そして喜びが存在することを知っているからだ。あなたがたは、偽りの偉大さに惑わされることもなく、一時的な権力や、ほんの一瞬しか続かない喜びを追い求めることもありませんでした。あなたがたは、この世が提供できるあらゆるものよりも、もっと大きなものを切望しています。わたしを愛し、わたしがあなたがたを、待ち受けている故郷へ、あなたがたが生まれた母の胎内へと帰らせ、そこであなたがたがわたしの王国を所有することになることを信じてください。

3. この希望こそが、苦難の中であなた方を強くし、戦いにおいて無敵にしてくれる。あなたがたが使命を果たすにあたり、引き続き忠実であり続けるならば、やがて霊が肉に打ち勝つ勝利を収めることになるだろう。なぜなら、あなたがたは、神があなた方の人生に働きかけることを許したからである。質素な生活の中でこそ、あなたがたは私の教えをより深く受け止め、それによって啓発され、他の人々には想像もつかないような至福を体験することになるでしょう。

4. それゆえ、あなたがたはわたしに従うのであり、もはや何ものもあなたがたをわたしから引き離すことはできない。あなたがたは完全なる愛に愛されていると感じ、幸せである。あなたがたはわたしを愛しており、その愛こそがあなたがたの喜びの基盤となっている。まことに、わたしはあなたがたに告げる。第二の時代の弟子たちや、わたしに従ったすべての人々も、同様にわたしを愛していた。それゆえ、周囲の人々の疑いや嘲笑は、あなたがたを傷つけることはない。魂の試金石である苦しみも、あなた方を後退させることはない。あなた方は、この世の命は儚いものであることを知

っており、——ご存じの通り——あなた方を待ち受けているその目標に到達するために、功德を積もうとしている。

5. 準備をしておきなさい。わたしは、あなた方を人類の守護者としてこの世に残すつもりだからである。あなた方の賜物は、それを善用できるよう、潜在的な形で備わっている。1950年の最終日、あなた方は皆、自らの行いと賜物を携えて、わたしによる裁きを受けるために臨むことになる。ある者は霊として、またある者は肉体をもって、私のもとに集い、私の最後の使命を受け取ることになる。その後、あなた方の前には道が開かれ、そこから散らばって福音を伝え、この時代に私が来たという証しを人々の心に残していくことになる。

6. わたしは、あなたがたの力を超えるような犠牲や行いを求めているわけではない。ただ、あなたがたに授けた愛と、あなたがたが使命を全うできるよう、謙遜と忍耐を求めているだけである。

7. 私の啓示は、1950年の大晦日に終わり、私が恵みの賜物を授けた弟子たちを選別することになります。師はあなたがたの行いを監督し、私は、あなたがたに私のすべての使命を全うさせるという熱意を決して緩めることはありません。

8. 弟子たちよ、私はあなた方に警告する。科学者たちがこの業を拒絶する姿を、あなた方は何度目にするだろう！しかし、あなた方は彼らを赦し、自らの道を歩み続けるのだ。もしそうするならば、私は、人間があらゆる科学を駆使しても発見できなかったことを、あなた方の霊を通じて発見できるよう許すことで、人類を驚かせるだろう。

9. 私が絶えずあなた方を「弟子たち」と呼ぶのは、闘いの中であなた方を励まし、貧困や屈辱があなた方の心に残した劣等感という概念を、あなた方の心から追い払うためである。私は、あなたがたを霊的な知恵において偉大にするつもりだ。そうして、あなたがたが人々をより高い人生、すなわち、霊の法則が物質的な生活を支配する法則と調和して結びつく完全な人生へと目覚めさせるためである。

10. あなたがただけが私の秘儀の受託者であるわけでも、霊的な遺産にふさわしい唯一の存在であるわけでもない。私がこう言うのは、あなたがたが「最もふさわしい者」「最も愛されている者」であることを決して自慢せず、心の中に虚栄心が芽生えることが決してないようにするためである。もしあなたがたが、そのような感情を自らの内に湧き上がらせることを許してしまうならば、得た恵みを失う危険にさらされることになるだろう。

11. 人よ、あなたがたの熱意と愛こそが、あなたがたを御霊の賜物の永遠の所有者とするであろう。私は、あなたがたが常に謙虚であり、善と律法と真理に熱心であり、心の善よりも高い御霊の善をもって慈愛に満ちていることを望む。

12. 私の教えは、あらゆる知恵、あらゆる知識、啓示、そして科学の源となる光である。それはすべてを簡潔に明らかにする。ひとたび人々の歩みを導くのが霊となれば、の科学者たちが長年の研究と多大な犠牲と労苦を経てようやく発見できたことが、魂の高揚、祈り、神への瞑想、そして善への靈感によって容易に得られるものであることに、あなたがたは気づくことができるだろう。その秘密はあなた方に明らかにされ、他の手段では決して人間が立ち入ることのできなかった隠された宝庫が開かれるでしょう。

13. 私がこの期間、あなたがたに語ってきたことの多くは、ある時は近い将来を、またある時は遠い未来を指す預言である。それゆえ、多くの人々は、この神聖なメッセージに何の意味も与えようとしない。しかし、この言葉は、来るべき時代の人々の間で光に満ちて蘇り、彼らはその中に大きな啓示を認識し、発見するであろう。その正確さと完全さは、科学者たちを驚嘆させることになるだろう。

14. これこそが、私があなたがたに私の言葉を書き留めるよう命じた理由である。そうすれば、あなたがたがこの世から別の世へと旅立つとき、あるいはこの民が私の教えを次第に忘れてしまったとしても、その言葉は一冊の本に忠実に、そして消えることのない形で記録されるからである。

15. 民よ、今こそ、あなたがたが旅立ち、私が明らかにした賜物をもって奇跡を行い、この真理の証拠を示すのにふさわしい時である。

16. 私があなたがたに語ったあの時をただ待ち続けて、その時に初めて立ち上がり、人々に「今、あなたがたの目の前にあることは、すでに予言されていたのだ」と言うようなことになってはならない。いいえ、民よ、あなたがたはそれをあらかじめ告げ、預言し、私があなたがたに予言し、約束したすべてのことが実現するための道を整えることが、絶対に必要である。そうして初めて、あなたがたは地上の霊性化の先駆者としての使命を果たしたことになるのだ。その時、世の中に奇跡的な出来事が現れ始め、前代未聞の出来事を通じて主の御霊があなた方に語りかけ、そして人間の霊がこれまで想像もできなかった賜物や能力を明らかにし始めたとき、あなた方は、あらゆる信仰告白、理論、規範、制度、そして科学

が揺るがされるのを目の当たりにすることになるでしょう。そしてその時、人類は、謙虚に一見異質に見える教えを説いた者たちが正しかったと認めることになるでしょう。なぜなら、彼らの言葉は実現することで裏付けられたからです。

17. その時、あなたがたは、地上の諸民族が霊的な教えに関心を寄せ、神学者たちがキリストの教えを新たな啓示と照らし合わせる様子を目にすることになるだろう。そして、これまで霊的な事柄に対して常に無関心であった多くの人々が、現在および過去の時代の啓示を に研究することに熱心に取り組む姿を見ることになるだろう。

18. 今日、あなたがたは、たとえ望んだとしても、私が告げていることのすべてが成就する様子を目にすることはできない。しかし、もしあなたがたが本当に私の言葉を信じるならば、信仰の眼差しをもって未来の多くの出来事を見通すことができるだろう。そして、あなたがたが準備を整えたとき、あなたがたの夢や幻、そして靈感に欺かれることはないだろう。

19. 深く心を込めて私の言葉に耳を傾けなさい。私がこの姿であなたがたに語りかけることをやめたとき、あなたがたが書き留めてきた私の言葉を愛をもって集め、この時代に私があなたがたに語ったことの証しとして、後の世代に遺しなさい。

20. わたしの言葉を種と見なし、そこにわずかな不純物も混じらないようにしなさい。

21. この人類の心という畑は、まもなく清められ、種まきの準備が整うだろう。もし人々が清くあるべきなのに、その種が清くなかったとしたら、それは正しいことだろうか。

22. 愛する弟子たちよ、わたしの言葉を深く考えなさい。それによって、あなたがたは自らの使命を立派に果たすために、次第に変容し、清められていくのである。

23. 今、私は人々の元に戻り、彼らが直面している試練の中で彼らを助けるために来ている。師はあなたがたにこう告げる。1950年以降、私が栄光のうちに現れる兆しを見ても、不安になるな。むしろ、私があなたがたにこれらの啓示を直接目撃する機会を与えたことを喜びなさい。

24. 私が犠牲の死の後、第二の時代に霊としてマグダラのマリアに現れ、彼女が驚きつつも喜びに満ちて「主よ、永遠に賛美され、栄光あれ」と叫んだように、今日、あなたがたが「師は不在であるか、あるいはあなたがたの苦しみに対して無関心である」と信じていた時に、私はあなたがたの前に現れた。しかし、あなたがた

は驚きを隠せなかったものの、やがて私を祝福した。あなたがたは魂の中に私の光を受け入れ、これほど大きな恵みを受けた後、同胞たちのことを思い出し、「私はあなたの御言葉を聞く幸運に恵まれているが、他の人々はこれらの教えを知らない」という言葉で彼らのために祈りました。しかし、師はこう告げます。私はあらゆる国々において、様々な形で私の霊を現してきました。準備を整えてきた者たちは、今が恵みと正義の時代であることを悟り、私の臨在を感じ取ったのです。

25. 私がマグダラのマリアを赦したように、私もあなた方を赦します。しかし、私はあなた方が彼女のように、私の御前にふさわしい者となることを望みます。

26. 他の時代の兄弟姉妹たちから、どれほど多くの模範となる例を得ることができるのか！ 彼らの行いは、開かれた書物のようなものです。しかし、あなた方は——自分たちの模範もまた、文字として後世に残されることを望まないのですか？ 私は、あなた方の行いのうち、私がふさわしいと認めるものだけを選び取り、それをあなた方の子孫たちの目の前に示すでしょう。しかし、あなた方は今日、まだ肉体に生きている以上、名声も崇敬も得ることはないでしょう。謙虚であり、他者にあなた方の行いを評価させてください。

27. あなたがたを待ち受ける偉大な日中の業において、私はあなたがたのキレネウス*となる。私の教えは、世界に大きな変革をもたらすだろう。風俗や観念に大きな変化が生じ、自然界においても変容が起こるだろう。これらすべてが、人類にとっての新しい時代の幕開けを告げるものであり、私がまもなく地上に遣わす霊たちは、この世界の回復と向上に貢献するために、これらすべての預言について語るだろう。彼らは私の言葉を解説し、起こる出来事を解き明かすだろう。

*シモン・キレネ人は、イエスの十字架を背負った（マルコ 15:21）

28. さあ、私のもとに来て、私の言葉に耳を傾けなさい。心の奥底に意識を集中しなさい。そして、私はあなたに保証する。たとえ私の存在に対するあなたの信仰がどれほど微弱であっても、あなたは私を感じるようになるだろう。

29. わたしはあなたがたの信仰の欠如を非難するものではない。それどころか、あなたがたはわたしを受け入れる準備ができていなかったのだから、それを赦す。なぜなら、人類は何世紀にもわ

たり、狂信や偶像崇拜、そして物質主義に惑わされ、深い眠りについていたからだ。

30. 私が再び戻ると予告していたこと、それゆえあなたがたは私を待ち望むために目を覚ましていなければならないことを、誰があなたがたに思い出させてくれたのか。もしかして、あなたがたの両親か。もしかして、あなたがたの牧師たちか。誰があなたがたを目覚めさせていたのか。

31. 出来事を待ち望み、私の約束の象徴である「雲」が地平線に現れ、あなたがたの魂を照らし、体を強め、私の再臨が霊的なものであることを明らかにしてくれることを切望して生きていた者は、ごくわずかだった。

32. それゆえ、この時代にわたしの臨在を理解しようとするあなた方の闘いは大きなものであり、わたしのもとへ至るために多くの障害を乗り越えなければならなかった。しかし、これらすべては称賛に値するものであり、わたしはそれをあなた方の功績として認める。そしてまことに告げる、この道でわたしに従うためにあなたがたが被ったいかなる苦難も、報いなく終わることはない。

33. 家族の中ですら嘲笑や軽蔑に耐え抜いた、その忍耐に対する報いは何だと、あなたがたは思うか。それは、あなたがたの身内たちの回心である！しかし、あなたがたは彼らの無理解に耐えるだけの忍耐を持っていたのだから、彼らの信仰が燃え上がるその時を待つ忍耐もまた持っているはずだ。これを成し遂げるためには、行い、言葉、祈り、そして善き思いをもって、多大な努力を払わなければなりません。しかし、やがてその奇跡が現実となるのを目にすることになるでしょう。

34. わたしは、あなたがたに、同胞たちにわたしの再臨を告げ知らせる使命を託す。人類との霊的な交わりによるこのメッセージ、すなわち福音を、あなたがたに委ねる。あなたがたがこれほど貴重なメッセージの伝達者であるという考えに喜びを見出し、その喜びを、闘いの道で負う傷を癒やす香油とせよ。

35. ベツレヘムの羊飼いたちのような無垢さをもって、私の言葉を宣べ伝えるためにやって来た者たちもいれば、彼らの素朴な信仰こそが、彼らの心からのささやかな捧げ物であった。また、信じるために私からの証拠を求め、やって来た者たちもいた。彼らは、長い間、家から家へと健康を求めて回っていたが、それを見つめることができなかった病人たちであった。また、律法学者やパリサイ人のように、私を探り、問い詰め、試そうとして来る者たちもいた。彼らは、真理が自分たちの偽善や虚偽を暴くことを常に恐れ

ているのだ。私はすべての人を受け入れ、すべての人に愛の撫で、私の力の示し、そして私の真理の証拠を与えた。

36. また、私が述べた人々のうち、多くの者が私に従うために残ったことも、あなた方に伝えなければならない。彼らの心は感謝に満ちており、その魂は私の言葉の光に照らされ、真理を蒔き、育む方法を学びたいという渴望に燃えていたからである。

37. 私の最初の教えを聞くために集まった小さな集団から、あなた方はすでに、一つの共同体となる大群衆へと成長しました。しかし、当面の間、すべての人がこの霊化のメッセージの真の使徒になれるわけではありません。

38. この大勢の人々の間には、あらゆる気質や気風の人があり、また、その中には発展の段階の異なる魂たちも存在する。しかし、私が言葉を通じて伝えたこの神聖な啓示、このメッセージが、私の説教に耳を傾けた人々の間で最終的に解明され、明確に理解されるようになるためには、多くの試練を経、多くの内なる葛藤を乗り越え、多くの「試練の炉」に耐え抜かなければならず、そうして初めて、彼らはスピリチュアリズムの真の弟子として生まれ変わるのです。

39. 人々が、神の啓示を解釈しようと苦闘したり、自分たちの目には謎として映る事柄について明確さを求めたりするのは、今回が初めてのことでない。すでに「第二の時代」において、私がこの世で説教活動を行った後、人々はイエスの人格について議論を交わし、彼が神であるかどうか、父と一体であるのか、それとも父とは異なる存在なのかを知りたがった。彼らはあらゆる方法で私の教えを評価し、探究した。

40. 今、私は再び、解釈や議論、論争、そして調査の対象となるだろう。

41. キリストの御霊が現れた際、それが父の御霊から独立していたかどうかを検証されるだろう。また、語ったのは父でも子でもなく、聖霊であったと主張する者たちも現れるだろう。

42. しかし、あなたがたが「聖霊」と呼ぶものは神の光であり、あなたがたが「子」と呼ぶものは神の「御言葉」である。したがって、あなたがたがここでこの御言葉を聞くと、あるいは私の「第二の時代」の教えを活用するとき、あるいは「第一の時代」の律法や啓示について考えるときは、あなたがたが唯一の神の御前にあり、その御言葉を聞き、その御霊の光を受けていることを自覚しなさい。

43. 今こそ、あなたがたはこの啓示を深く学ぶべき時である。そうすれば、問われ、試される時が来ても、真の光の言葉をもって答えることができ、あなたがたが私の言葉の真髓と、あなたがたの解釈の光を注ぎ込むすべての心に、平安と喜びを残すことができるだろう。

44. わが民よ、わたしはあなたがたの愛を渴望し、渇いている。少しの間、わたしをあなたがたと共にいさせてほしい。あなたがたに伝えたいことがあるからだ。

45. なぜ、あなたがたは苦しみに押しつぶされそうになった時だけ、わたしを求めるのか。喜びや勝利、満足感といったものも、わたしに捧げてくれたら、あなたがたは喜ばないだろうか。

46. 第二の時代において、わたしはあなたがたが恐れずにわたしに近づけるよう、愛と信頼をあなたがたに注ぎ込んだ。それなのに、なぜあなたがたは時折、わたしの愛や赦しを疑うのか。おお、父の家へ帰ることを恐れる「放蕩息子」たちよ！ わたしは知っていた。当時、あなたがたに与えた限りない愛の証しにもかかわらず、あなたがたを探し求めるために戻ってくる必要があったのだ——それは、あなたがたに再び人間としてのわたしを見てもらうためではなく、あなたがたが心の奥底、魂の奥深くでわたしを感じ取れるようにするためであった。

47. かつての私の弟子たちのように、再び私の周りに集まりなさい。大勢の人々がそうしていたように、再び私に従いなさい。そうすれば、私はあなたがたに、私の言葉による天上のコンサートを聴かせてあげると同時に、あなたがたが「奇跡」と呼ぶような愛の業を行うからである。

48. 私は父としてやって来る。それは、この世で愛や愛情、優しさに恵まれなかったすべての人々が、私のもとで神聖な温もりを見出せるようにするためである。

49. 私は医者としてやって来ます。そうすれば、あなたがたは、自分の病気や悩み、そして魂と肉体の両方を病ませたあらゆる秘められた苦しみを、私に委ねることができるでしょう。

50. 私は友としてやって来ます。あなたがたが、最も深い秘密や葛藤、切なる願いを私に打ち明け、私のそばを歩かせてくれるように。

51. 私は師としてやって来る。それは、あなたがたの前で知恵と命の書を開きたいからである。

52. 私は裁き主としてやって来る。それは——あなたがたが言うように——生者と死者を裁くためであり、私が言うところの、

肉体を持つ者と肉体を離れた者を裁くためである。私の正義は、あなたがたの行いのうち、最も些細なものさえも見逃さない。

53. 私のお言葉を聞くために質素な集会所に集まる人々の群れの中には、この言葉を理解し、その真意を感じ取る者が多くいる。彼らは、闘い、試練、経験という長い道のりを経て成長し、苦痛に満ちた困難な時代の中で洗練された魂たちである。彼らは私を理解しており、世俗的な富を私に求めたりはしない。彼らは、自らの魂の中に「知識の書」が存在することを知っており、師から期待するのは、魂が内に宿す光を、経験と教えを必要とする人々に伝えるための方法を学べるような、神聖な教えだけである。

54. ここには、長い道のりを歩んではいけないものの、迷わないために私の言葉を道として用いる者たちもおり、彼らの愛は、彼らの魂を無限の苦しみから救うことになるだろう。

55. ここにいる人々の圧倒的多数は、心の中にただ一つの祈り、すなわち苦痛の祈りを抱いている。彼らは皆、自分の背負う重荷があまりにも重く、飲み干す杯があまりにも苦いことを、私に告げにやって来る。彼らは、孤独、失望、苦難、弱さ、悲惨、病氣、悲しみ、そしてその他多くの苦境を、私の前にさらけ出す。しかし、苦しんでいるのは彼らだけではありません。その痛みは全人類に遍在しています。彼らは、今が浄化の時であり、魂と人々が自らの汚点を洗い流し、その後、山の頂上へと一歩前進する時であることを知らないのです。これらの汚れが取り除かれたとき、あなたがたはもはや一瞬たりとも苦痛を経験することはないでしょう。なぜなら、再生の癒しの香油が、主が御自身の懷から被造物たちを遣わされた際に、それらに宿せたあの健康を、あなたがたに再び取り戻してくれるからです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 217

1. 愛する弟子たちよ、わたしのもとに来なさい。わたしの家で休息し、わたしの食卓に着きなさい——今、わたしがあなたがたと共にいるこの時に。なぜなら、このような時は二度と訪れないからです。あなたがたにとって、成長の道において一歩前進する新たな時代が到来するでしょう。

2. あなたがたは、まだ父の庇護の下で暮らす子供たちです。父は、あなたがたがつまずいたり、深淵に落ちたりしないよう、父の家から遠く離れることを許しません。しかし、まもなくあなたがたは強くなり、あらゆる道を歩むのに十分な準備が整うでしょう。

3. あなたがたの心を宝箱とし、そこに私の言葉を宝石のように大切に守りなさい。

4. 私は、人々の不信仰を知りつつも、あなたがたの元に戻ってきました。私は、私の受難をあなたがたに思い起こさせ、それを新たに蘇らせます。今日、私は、今、あなたがたに語りかけている主が、永遠に父のもとにいるために神の御座へと昇天した瞬間を、あなたがたに思い出させます。それは、イエスが地上の使命を全うした後、柔和な子羊として永遠なる御方の御前に至った時のことでした。

5. 神は太古の昔からすでに人々に御自身を現され、その教えは聞き届けられてきた。主の御声は、原始的な被造物たちにとって、人間らしく、理解しやすいものとなった。彼らの中にある良心、すなわち神の知恵は、善と悪を見分けることを彼らに教えました。善行を行うと彼らは平安を感じ、悪を行うと苦痛を味わいました。これらは、良心の最初の教訓であり、最初の表れでした。

6. 時が経ち、人々がもはやその声に耳を傾けなくなったとき、私は徳と知恵に満ちた人々を遣わし、彼らの言葉と模範によって、人々が善の道を歩むよう導いた。

7. 最も初期の時代に、私が義人アベルを遣わしたことを思い出してください。彼の、私の神性への愛を込めた全焼のいけにえは、祈りと完全な礼拝の先駆けでした。

8. 私は、嘲笑を意に介さず、信頼する人々のために救いの箱舟を建造するという神の使命の遂行のみに専心した、敬虔なノアをあなたがたに遣わした。

9. あなたがたの中には、アブラハム、イサク、ヤコブがおり、彼らは一本の木の幹となり、そこから枝や葉、実が伸びていった。それらの先祖たちの模範は、書物として後世に伝えられました

——アブラハムの揺るぎない信仰、イサクの従順、そしてヤコブの忠誠と精神的な強さとともに。この木の果実の一つが、私の律法の代表者であり、私の正義の体現者であるモーセでした。彼の中に、あなたがたは私の威厳の姿を見出すことができたのです。

10. 時が経つにつれ、私はますます人々の感情の世界に入り込んでいった。それゆえ、あなたがたの心にさらに近づくために、私も人間にならなければならなかった。しかし、この世に生まれるためには、預言者たちを通して私を予告することが必要であった。

11. 私は人々の間に暮らし、自らの生涯を模範とし、教訓の書とした。あらゆる苦しみ、誘惑、闘い、貧困、労働、そして迫害を知った。身内からの拒絶、恩知らず、裏切り、長きにわたる日々の労働、飢えと渇き、嘲笑、孤独、そして死を経験した。私は、人類の罪の重荷のすべてを自らに負うことを許した。私は、人々が私の言葉と、私の貫かれた体——そこでは私の最後の肋骨さえも見えるほどだった——を通して、私の霊を探求することを許した。神であるにもかかわらず、私は嘲笑の王となり、裸にされ、さらに恥の十字架を背負わされ、強盗たちが死んだ丘へと登らなければならなかった。そこで、私の人間としての生涯は幕を閉じました。それは、私が「言葉の神」であるだけでなく、「行いの神」でもあるという証しとなったのです。

12. 1866年、私の慈悲は、聖霊の時代という新たな時代の扉を開いた。果たして全人類が、自分たちがどの時代に生きているのかを知っているだろうか？ これを知っているのは、私が現在「これらの木々の陰の下」に集めている霊的な民だけである。私の業は、大きな戦いや出来事、教義や世界観をめぐる「戦争」を経て初めて、この世で認められることになる。そうして初めて、人々は立ち上がり、新しい時代が幕を開けたことを認めるのである。

13. この時代、私が初めて御自身を現した者、すなわち、先駆者エリヤの霊に導かれて歩んだ使徒ロケ・ロハスが、この世を去ってからすでにかかなりの時が経っている。こうして私は第六の封印を解き、それによってスピリチュアリズムのために計り知れないほど大きな突破口を開いた。

14. そして、ロケ・ロハス以来、今日に至るまで、おお、三位一体・マリア派のスピリチュアリストたちよ、あなたがたは戦い続けてきた。この戦いにおいて、あなたがたは、わたしに従い、この業を尊ぶために、自らの力、若さ、命、そして所有するすべてを捧げてきた。静かに、そして謙虚に、あなたがたは人々に主の再臨を告げ知らせよう努めてきた。

15. わたしの「御言葉」は、再び人間となったわけではない。この時代、わたしは「雲の上」——あの世を象徴する場所——にいて、そこから放たれるわたしの光線が、御言葉を伝える者の知性を照らしているのだ。

16. 私は、人間を通して自らを現すことを喜んだ。そして、私の決意は揺るぎない。私は人間を知っている。なぜなら、私が彼を創造したからだ。私は彼をふさわしい者と見なす。なぜなら、彼は私の子であり、私から生まれたからだ。私は彼を用いることができる。なぜなら、そのために彼を創造したからであり、また、彼を通して私の栄光を現すことができる。なぜなら、私は彼を、彼の中に私を栄光に輝かせるために創造したからだ。

17. 人間よ！彼は知性であり、命であり、意識であり、意志である。彼は私のすべての性質の一部を備えており、その霊は永遠に属している。それゆえ、彼は私の姿そのものである。

18. 多くの場合、あなたがたは自らが信じていたよりも取るに足らない存在であり、またある時には、想像しうる以上に偉大な存在となる。

19. 傲慢な者は、そうではないにもかかわらず、自分が偉大であると信じている。そして、心と精神の真の価値を見出さずに、この世の不必要な富に満足する者は、なんと哀れなことか。その者の願い、欲望、理想は、なんと哀れなことか！ なんとわずかなもので満足していることか！

20. しかし、生きることを知っている者とは、神のものは神に、世のものは世に捧げることを学んだ者である。物質の奴隷になることなく、自然の懷で活力を得ることを知っている者こそ、生きることを知っているのだ。たとえ外見上は何も持っていないように見えても、その人はこの世の財産の主人であり、神の国の宝を所有する道を進んでいるのである。

21. 私がこの時代にあなたがたに語っていることは、過去の時代には教えなかったことである。これが私の「新約」である。私は、絶え間なくあなたがたの家の扉を叩き、眠らせないしつこい巡礼者である。私は、どこへでもあなたがたに付き従う影である。これ以上何を望むのか。私の愛は無限である。

22. すでに、私が別れを告げる時が近づいている。この時代における私の滞在は長かった。1866年から1950年までである。

23. まことに、あなたがたに告げる。もし誰かが、わたしの言葉があなたがたに何の益ももたらさなかったと言うとしても、それはあなたがたに何の害も及ぼしてはいない。しかし、覚えておき

なさい。わたしは、あなたがたが寄生植物のようであることを望んでいない。ただ悪を行わないことに満足するのではなく、善を行うことに喜びを見出すことを望んでいるのだ。なぜなら、善を行う能力があるにもかかわらず行わない者は、善を行う能力が全くなく、自分の魂の発達段階に応じて行える唯一のことである悪のみを行う者よりも、より多くの悪を行ったことになるからである。

24. 私があなた方をこの道へと招いたのは、あなた方の魂が悲しみに満ちているのを見たからである。あなたがたは様々な礼拝の形で私の光を求めており、私への信仰を証明するために奇跡を渴望していた。しかし、私があなたがたの道に立ちはだかり、満足しているかと尋ねたとき、あなたがたはこう答えた。「私はそれを味わったが、それは私の心も魂も強めることはなかった。」

25. その間、生命の木は旅人にその実を授けるのを待ち、水晶のように澄んだ水の泉は、平和の約束として、渴いた巡礼者を溢れんばかりに待ち受けていた。私は、悲しみに満ちて待ち続け、野原の四季の移ろいを見つめていた神聖な園丁である。

26. 今や、愛と平和と真実と労働を渴望する大勢の人々がここにたどり着いた。あなたがたはその実を味わい、飢えと渴きを癒した後、道具を手に取り、自らも園丁となったのである。

27. もはや、あなたがたの間には、はかない富など存在しない。あなたがたの財産はどこへ行ってしまったのか。もはやそれを思い出すことも、失ったことを嘆くこともない。なぜなら今日、あなたがたは、わたしの言葉——この謙虚な子供を通してあなたがたに与える言葉——に宿る、わたしの真理という霊的な宝を取り戻したからだ。もしわたしが学者や哲学者を通してあなたがたに語りかけたとしても、あなたがたはわたしを信じなかっただろうから。

28. あらゆる階層の人々が私のところに来る。しかし、師の前では、こうした階層の区別は無意味である。私の言葉を聞きに来た者すべてが、私のそばに残ったわけではない。「招かれた者は多いが、選ばれた者は少ない。」まだ多くの者がやって来るだろうが、そのすべてが私に従うわけではない。しかし、まことに、あなたがたに告げる。私はすべての人に私の言葉を蒔いた。そして、キリストの種は決して死ぬことはない。わたしの種は無駄にはならず、一時的に不毛であった人の心も、やがて実り、実を結ぶようになる。

29. この世の道を涙で濡らし、血をもってこの人生の道を刻む女性たちよ。わたしのもとで休息し、新たな力を得て、引き続き愛の砦であり、かまどの火であり、わたしが地上であなた方に託し

た家の堅固な土台であり続けなさい。そうして、これからも、夫や子供たちをその翼で包み込むヒバリであり続けなさい。私はあなた方を祝福します。

30. わたしは、男性を尊び、女性の地位を男性の右側に高める。わたしは結婚を聖別し、家族を祝福する。

31. この時代、私は愛の剣を携えてやって来る。かつて人間によって歪められてしまったすべてのものを、正しい位置に戻すためである。

32. わが神性の弟子たちよ。わたしは今、あなたがたの中にいて、わが教えの書物のさらなる一ページを示している。

33. あなたがたが今この瞬間に口にしているのは、種入れぬパンである。そして、あなたがたが飲んでいる水は、それを口にする者を二度と渴かせることのない水である。

34. あなたがたはこの地上では異邦人のような存在である。なぜなら、あなたがたの真の祖国は別の場所にあるからだ。私はあなたがたに一つの道を示す——それは「約束の地」へと続く道である。私の言葉は、あなたがたを進歩の道へと導く。私は、私が去った後、あなたがたが私の神性との完全な対話を得られるよう、あなたがたを準備する、たゆまぬ師である。

35. 今日、私の愛の言葉という彫刻刀が、あなたがたの心を形作り、滑らかにしている。

36. 創世の時代と同様に、今、あなたがたは試練の砂漠を横断している。しかし、その旅路において、あなたがたは飢えや渇きで命を落とすことはない。岩のように固まったあなた方の心の中から、私は悔い改めと愛の透き通った水を湧き出させ、魂の渇きを癒やす。そして、正義と真理への渴望が民を支配する時、私の言葉は砂漠のマナのようにあなた方の上に降り注ぎ、あなたがたがそこから養われるようにする。

37. やがて、あなたがた全員がわたしのもとへ戻ってくる時が来る。しかし今は、人々の間に留まり、彼らに真理の道を歩むよう教えなさい。あなたがたは、わたしを信頼して、もう一つの旅の荷物を携えることなく、さまざまな道へと散らばっていくでしょう。しかし、あなたがたは静かに、謙虚に、誇示することなく働き続けるでしょう。そして、あなたがたが夜の寝床の隅であれ、木陰であれ、わたしを呼び求めるなら、わたしはあなたがたの闘いを支え、祈りの中であなたがたを力づけるでしょう。あなたがたがわたしから認められる日が来るのです。

38. あなたがたは、私の別れが近づいていることを理解しなければならない。そうして初めて、心を開き、魂を高めて、私を見上げることができるのだ。

39. あなたがたがわたしを疑うことのないよう、わたしは多くの語り手を通して自らを明らかにしてきた。わたしは、彼らの社会的階級や生活状況、人種を問わず、彼らを選んだ。あなたがたが、わたしの言葉が途絶えたとしても、孤児になったり見捨てられたりしたと感ずることのないよう、わたしは彼ら全員の口を通して、あなたがたに遺産を与えたのである。

40. もしあなたがたが真に備えを固めるならば、あなたがたは、父の家から離れてしまったすべての「放蕩息子」たちを受け入れる祝宴のための、木となり、泉となり、食卓となるであろう。そうすれば、諸国民はあなたがたの前にひれ伏すことはないかもしれないが、あなたがたを認め、わたしの前にひざまずくことになるだろう。

41. いつの時代も、あなたがたは私の律法を、守るにはあまりにも厳格すぎると感じてきた。それゆえ、あなたがたは、自分たちにとって、また自分たちの霊的な理解力の範囲内で理解できるような宗派や儀式を作り出してきたのである。

42. もしあなたがたが「第一の時代」のわたしの戒めに従っていたなら、イエスを認識し、彼を犠牲にすることはなかっただろう。もし人類が「第二の時代」のわたしの教えに従って生きていたら、人間の知性を通じてなされたわたしの啓示を疑うことはなかっただろう。

43. 諸国民を裁くのは、あなた方ではない。しかし、聖書に記されている通り、わたしがあなた方の中であって、諸国民と宗教共同体を裁くであろう。この民は、熱意、清らかさ、そして霊性における模範となるべきである。

44. 人類の嘆きが、わたしのもとへと昇ってきた。それは子供たちの泣き声であり、正義を求める若者たちであり、平和を願う老人たちである。

45. その理由は、人々が愛の種を失ってしまったからである。彼らは、知らず知らずのうちに、心の最も清らかな場所にその種を宿している——あまりにも深く内側にあり、自分たちでさえそれを見出すことができないほどに。

46. 愛の種は、憎しみ、虚栄心、そして卑しい情欲によって窒息させられてしまった。そしてこうして、苦しみの杯は再び満たされ、底まで飲み干されることになる。

47. 世界が嵐の真っ只中で難破している間、あなた方は救命ボートの上から、平然とこの惨事を眺めている。

48. あなたがたは、泣いている人々のことを思いもよらず、父の懷で眠っている。しかし、彼らは運命の打撃の只中で、わたしに捧げられた礼拝を執り行っている。それらは狂信や偶像崇拜に包まれているにもかかわらず、わたしが父であるゆえに、わたしはそれを受け入れる。しかし、わたしは彼らに、わたしの心が完全な礼拝を待ち望んでいることを理解させる。

49. 人々は「いのちのパン」を渴望しながら、祭壇から祭壇へ、儀式から儀式へ、そして宗派から宗派へとさまよい、それを見つけることはできない。そして失望のあまり、彼らは神を冒瀆する者となり、目的のない道を歩み、神も律法もないまに生きる。しかし、民よ、彼らの間には偉大な霊たちがおり、私が彼らの間に聖霊の預言者や弟子たちを見出していることを心に留めよ！

50. 霊界で働く光の精霊たちは今、平原、海、山、そして砂漠を越えて道を切り開いている。それは、あの民族、あの民が、隊商や大群となって、わが言葉が響き渡り、わが奇跡が目目の当たりにされたこの国へと向かうためである。

51. その時、あの人々があなたがたの扉を叩いたとき——あなたがたは彼らに何を提供するつもりか。彼らに不完全なものを差し出してはならない。彼らはすでにそのようなものにうんざりしているからだ。彼らは真理と慈悲と愛を渴望してやって来る。彼らは、花の香りのように清らかな礼拝をどのように執り行うかを学ぶためにやって来るのだ。

52. 今日、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは、後世の人々にわたしの律法の成就を教えなければならない。その中には、三つの時代の教えが込められている。

53. それゆえ、祈りに励むよう、靈感を受けなさい。ゲツセマネの園での祈りにおいて、私はあなたがたに、完全な祈りとはどのようなものであるかを示した。

54. あなたがたが準備を整えるまでは、わたしへの道は閉ざされたままであり、わたしは大いなる人々の群れに呼びかけを行うことはない。

55. 私は、あなたがたが不和や不従順、そして無理解に陥っている間に、あなたがたから離れようとはしない。

56. 私は、あなたがたが、私が去るその時に備えて、すでに私の十字架——すなわち、恩知らずの十字架——を用意しているのを見ている。

57. まだ時間は残されている。その時があなたたちにとって不意に訪れ、声の媒体を通して私を聞くことができなくなったために、「父は去ってしまった」と言わぬよう、努力を倍加せよ。しかし、私はそこに臨在しており、そのことを預言者たちは証しするだろう。あなたがたは靈感によって私の声を聞くことになる。そして、あなたがたが各家庭や地方で教えるとき、語るのはあなたがたの唇ではなく、私である。

58. 霊と霊との対話は、その時代に最高潮に達し、私の臨在は、時が経つにつれ、また世代から世代へと、ますます明確に感じられるようになるだろう。

59. これらの啓示に照らせば、わたしの言葉が欠けていることを嘆く者は誰もいなくなるだろう。それでもなお涙を流す者がいるとすれば、それは、わたしのあなたがたの間での在世の時間を十分に活用しなかったと良心が責め、それゆえ、その道を歩み続けるには自分には力が足りず、不器用すぎると感じているからに他ならない。

60. わたしは、あなたがたが、わたしと共にいたことの証人として残ってほしいと願う——すなわち、わたしがあなたがたに編纂を許した「黄金の書」を人々に示してほしいと願う。

61. この民の中には、司祭も聖職者も存在してはならない。あるのは奉仕者だけである。これらの集会所は、な集いと学びの場となり、そこで会衆の指導者たちは、民が使命を果たしているかを見守るだろう。

62. 多くの教えの支配は、ごく短期間に終わるだろう。なぜなら、真実、正義、そして愛の種を一切含まない教えは、すべて滅ぼされるからである。

63. しかし、わたしの愛の業は認められるであろう。異邦人がやって来て、あなたがたの戸を叩くだろう。彼を中に入れ、休めるよう寝床を用意してやれ。もし彼がその前に何か食べたいと望むなら、与えてやりなさい。彼が腹を満たして眠りについたら、その眠りを守りなさい。そして彼が目を覚まし、日の光を見たとき、彼の心にはこれまで犯してきた行いが次々と浮かび上がり、彼は自らの涙で最後の汚点までも洗い流すだろう。その時、私は彼に白い衣を与え、私と共にいた者たちの仲間に加えるであろう。

64. 私は第三の時代にあり、人類に教えを授けている。なぜなら、私があなたがたに遣わした使徒たちを、あなたがたは信頼しなかったからだ。

65. 人間たちが私の神性、私の存在、そして私の教えについて議論している一方で、私が完全なる愛をもって崇められている世界も存在する。

66. ある者たちが最高の霊的清らかさを獲得したのと同時に、あなたがたの惑星は道徳的にも霊的にも、大きな墮落の時代を経験している。

67. しかし、私の言葉を聞くあなたがたは、私があなたがたを人間の中に遣わしたのは、私の律法に対する謙虚さと従順さの模範を示すためであることを知らなければならない。私は、私の恵みを身にまとい、私の光に包まれ、その良心に律法を宿したあなたがたの魂を遣わしたのである。

68. もしあなたがたが一時的に墮落に陥り、闇の中に入り込み、弱さに屈したとしても、私は私の声をもってあなたがたを立ち直らせ、それによって人類に対し、私が弟子たちを泥の中からさえも選び出すことができることを証明するのだ。

69. 私は、一步一步その姿を現す神聖な慈愛である。もしあなたがたが、霊的に私を求めようとはせず、自然を眺めるためにその場に留まることを好むならば、自然の中にも私を見出すだろう。生命と暖かさを与える光線を放つ王の星は、私について語っている。あなたがたに生命を可能にする空気は、私自身の息吹である。

70. しかし、あなたがたが仕事や祈りの中で霊的に私へと高みへと向かうならば、来世に存在する恵み、そして父の天の宝庫における奇跡と啓示を約束する、な光への道を認識することになるだろう。

71. あなたがたは、来世の生活がもたらすこれらの美しさを知っており、それゆえ、主のぶどう園で熱心に働いているのである。

72. わたしは、働き手たちの間に愛が満ち、憐れみがあることを望む。

73. わたしがあなたがたの肩に負わせた荷は重くはない。あなたがたの魂に託された任務を果たすことが不可能なことなどない。もしあなたがたがわたしの力を信頼するならば、不可能と思われたことが、あなたがたの歩みにおいて可能となるのを見ることになるだろう。そして、わたしの教えに従順に生きる者が、わたしに近い存在であることを悟るだろう。

74. 私は、十分に備えられたすべての「働き手」を、福音を伝えるために地上の国々へと遣わす。

75. 今日、あなたがたの魂は肉体と激しい戦いを繰り広げている。魂は、誘惑に立ち向かうために剣を抜き放ち、わたしの名においてその誘惑を打ち負かすだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 218

1. 祝福された民よ。あなたがたは、絶えず集うよう呼びかけ、その愛をもってあなたがたを養い、試練の時にあなたがたを強めてくださる師との出会いの場へとやって来ている。あなたがたは、わたしに耳を傾げるために、すべてを後にしてここに来ている。父たちは子供たちを離れ、母はゆりかごの中の乳児を置き去りにし、自分と愛する者たちのために慰めを求めている。若者たちは地上の楽しみを捨て、老人は試練の重荷を忘れ、そして皆、人間の苦しみ、病気、恐怖といったものをすべて置き去りにして、私のもとに集い、こう告げるのです。「師よ、私たちは早朝から祈りを捧げ、魂を高め、私たちの羊飼いであるエリヤが、神の御言葉を聞く準備を整えてくれました。私たちをお迎えください。」

2. あなたがたは、その枝を、わたしが選んだこの国の境界まで広げているこの木の陰に集い、その多様な枝の下で、同じ言葉、同じ意味を聞き取り、わたしが長い間あなたがたに与えてきたのと同じ実を受け取っている。

3. わたしは、あなたがた全員から、地上のあらゆる民族の中で長子たる民を創り出した。この民は、いつの時代においても選ばれた者であるが、わたしが愛する唯一の民というわけではない。なぜなら、わたしは世界のあらゆる民族を愛しており、いつの時代も愛し続けてきたからである。しかし、このわたしの選ばれた民は、他に類を見ないほどにわたしを愛し、わたしの恵みにふさわしい者であることを示してきた。

しかし、私がこの民に与えた恵みを、彼らは貪欲な金持ちへと変えてしまった。それゆえ、彼らはこう言った。「我々は最も愛され、選ばれ、他者より優れ、主の御霊に最も近い者である。残りの者たちは我々の前にひれ伏さなければならない。なぜなら、父は我々にその律法と恵みを注ぎ込まれたからだ。」しかし、わたしはあなたがたに言う。うぬぼれてはならない。わたしは、三つの時代を通じて、あなたがたに恵みを与えることを喜んだ。三つの長い時代の間、わたしはあなたがたが持ち続けた様々な肉体を通して、あなたがたの魂に働きかけてきた。それは、あなたがたがわたしを手本とし、わたしの賜物に与り、隣人に対して愛に満ち、その木陰と実がすべての旅人のためにあるような木となるためである。

4. しかし今、この時代において、わたしの霊に照らされて、あなたがたは、かつて父が与えてくださったもの、第二の時代にイエスが教えたことを次第に理解しつつある。そして、わたしはあな

たがたに言う。再び金に執着する守銭奴のようにならず、愛をもって弟子たちに身を捧げるこの師のようでありなさい。もしあなたがたが他の兄弟的な共同体と交流する際（ ）、自分たちを優越していると感じたり、自分たちだけが『三つの聖書』を所有しており、その所有者であるとか、契約の箱や幕屋、そして象徴的な品々を所有していたなどと言ってはならない。いいえ、民よ！私は、あなたがたが異なる人種の兄弟姉妹たちに、あなたがた全員が主の選民、すなわちその祝福された家族の一員となり得ると伝えてほしいのです。なぜなら、あなたがたは皆、一つの霊、一人の父から生まれたからです。

5. そうすれば、あなたがたは自らの使命を理解し、世界を救う存在となることができるでしょう。あなたがたは、霊的に高まる術を知らない子供たちに理解してもらうために、父が物質的な形で声を上げなければならないような事態を、もはや許さなくなるでしょう。そして、あなたがたは祈りの中で、霊から霊へと私にこう告げるでしょう。「父よ、御座にお留まりください。あなたはすでに長い間、この世に降りてこられ、私たちの物質主義と罪のために苦しんでこられました。第三の時代においても、私たちを教え導くために、さまざまな方法で語りかけなければならず、あなたの弟子であるこの民に、あなたの力と美德を注ぎ続けてこられました。人類に対する責任を担う者として、私たちに任せてください。」

6. あなたがたは人間であるため、いつの時代においても、わたしの律法を遵守することはあまりにも困難に思えてきた。それゆえ、あなたがたは太古の昔から様々な宗教を創り出し、不完全な形でそれを実践してきた。もし第一の時代に、モーセを通じて与えられたわたしの律法に従っていたならば、父の御言葉であるイエスがあなたがたのところに来る必要はなかっただろう。なぜあの師は苦しまれたのか。それは、ユダヤの民が彼を見誤り、彼が誰であるかを認識も実感もせずに、自分たちの仲間から追い出し、十字架につけたからである。

7. あの民は準備をしておらず、神の律法に従わず、それらの律法や戒めを基に独自の律法を作り上げ、それを守れば十分だと信じていた。しかし、神聖なる師は人間となり、その誕生、生涯、そして受難を通じて、神の知恵の書の新たな一ページを綴った。そこでは、力強い行い、言葉、そして血で封印された行為によって、その一言一言が裏付けられていた。このようにして、あなたがたは『第二の聖書』を受け取ったのである。もしあなたがたがこの二つの聖書に従っていたならば——私がこの時代に、人間の伝達や、不

完全で儚い知性の器官を通じて自らを明らかにする必要があっただろうか？ もしあなたがたが、私がこれほど深い愛をもって与えた戒めと教えを実践していたならば、今日、私が人間の知性を通じて自らを明らかにしているからといって、私を批判したり、私を疑ったりすることはなかっただろう。

8. 三つの聖典を統合し、わたしの言葉を歪曲したり、神秘化したりしてはならない。それは、わたしが人類に残す遺産である。わたしの霊の光は、あなたがたを照らし、あなたがたの魂を照らす。その魂は、自分が何者であるかを知り、自らの過去を思い出し、また、なぜわたしがこの時代に現れたのかを知っており、わたしの教えを理解することができるのである。

9. そうして初めて、あなたがたは、三つの時代に与えられ、人間の宗教や観念を超越した、わたしの業の純粹さと完全さを認識するだろう。それは、すべての魂の道であり、命であり、始まりであり、終わりである——すなわち、わたしの知恵の書に記されているものである。

10. なぜ、諸宗派や大教会はわたしを認めず、これほど大きな無理解を示すのか。わたしに耳を傾けるあなたがたは、誰をも裁いてはならない。聖書に記されているとおり、わたしがすべての国々とすべての宗教団体を裁くのである。

11. あなたがたが謙虚に使命を果たすならば、世界はあなたがたを信じるだろう。言葉や儀式にうんざりしているこの世界には、手本となる存在が必要なのだ。イスラエルよ、あなたはいつの時代も清らかな種を受け継いできた——一体誰を手本とすべきだろうか。誕生した宗教団体のうち、私の戒めすべてを遵守してきたものはどれか。一つもない。しかし、私はあなたにこう言おう。もしそれらの集団の中に敬虔な人々に出会ったなら、彼らを手本としなさい。愛に出会ったなら、その愛を手本としなさい。彼らの中に私に対する畏敬の念を見出したなら、彼らに倣って、徳を尊び、一人ひとりに正当な評価を与えることを学べ。しかし、決して不完全なものや非難すべきものを手本にしてはならない。何が正しく、何が非難すべきことなのか分からないならば、祈り、わたしの言葉に耳を傾け、良心の声に従いなさい。

12. 人類の嘆きはわたしのもとへ届き、子供たち、若者たち、壮年期の男女、そして老人の不安が天へと響き渡っている。それは正義を求める叫びであり、霊から発せられる平和と慈悲への切実な願いである。なぜなら、この世における愛の種は腐敗してしまったからだ。そして、今、愛がどこにあるか、あなたがたは知ってい

るか？ 人間の心の奥底、あまりにも深くにあり、人間には発見することさえできない。憎しみ、権力への欲望、科学、そして虚栄心がその種を押しつぶしてしまい、霊性も慈悲も存在しないからだ。苦しみの杯はますます満たされ、世界はその底まで飲み干している。

13. しかし、民よ、あなたがたは、父への信頼に満ちて、救命ボートの上から、吹き荒れる嵐を平穩に見つめている。ある者たちは、あの戦争を好む国々の中で、わたしの霊を冒瀆し、他の者たちは不完全な宗教的儀式を行っているが、あなたがたはわたしを賛美している。しかし、あなたがたは皆、この試練の時代に目覚め、やがて愛と霊的な悟りによって一つになるだろう。

14. 弟子たちよ、私はあなた方を受け入れ、喜んであなた方を赦す用意がある。私はあなた方から愛されていると感じたいと願うと同時に、あなた方が互いに調和して生きることも望んでいる。私から離れている子は、私の懷に戻ってくるべきであり、もし理解の欠如や無知から私から背を向けていたとしても、私がその行いを責めることを恐れる必要はない。私はあなたがたの魂を慈しみ、失ったもの——平安、喜び、そして希望——を返してあげたい。私が願うのは、あなたがたがこの人生の甘美さを味わい、その逆境も受け入れることを学び、柔和かつ忍耐強く生き、高みへと向かう成長に努めることである。いったい誰が、私をあなた方から引き離すことができようか。あるいは、私があなた方を愛し、守ることさえ妨げることができるような力が、どこにあるというのか。

15. それに対して、あなた方は自ら私から遠ざかり、「放蕩息子」のように振る舞うことは十分にできる。そして、痛みがあなた方の心を傷つけて初めて、あなた方を愛し、いつでも助け、あなた方を脅かすあらゆる危険から救い出そうとしてくれる父がいることを思い出すのだ。

16. わたしは常に、あなたがたがわたしを、愛に満ちた父、忠実な友、そして心を開ける相手として見出せるよう、信頼を植え付けてきた。

17. 「放蕩息子」のたとえ話を思い出してください——大きな過ちの重荷を背負っているあなた方よ。そして、私が何よりも愛と赦しそのものであることを心に留めておいてください。あなたがたは、完全となり、過ちから解放され、清らかな状態で私の元へ至るよう定められていることを心に留めなければならない。今日、あなたがたには心を磨き、偉大な霊的な業を成し遂げる機会が与え

られているのだから、この時を活かし、「追放」の日々を短縮しなければならない。

18. あなたがたはすでに過去の時代の経験を持ち、償いの法則があることを知っている——それなのに、なぜ自分の道を大きく前進させる代わりに、かつての過ちに陥ろうとするのか。

19. 今、人類が自らの過ちを償い、汚点を洗い流そうとしている様子を見よ。人類は、自らを汚したあらゆるものを清め、回復させるために、大きな激動にさらされている。

20. わが言葉は成就しつつある。あなたがたは、不信仰な目の前で、わが預言の大部分が成就するのを見てきた。まもなく、他にも多くの預言が成就するのを見ることになるだろう。そして、あなたがたはそれについて 証しをなすべきである。私がこの時代のために予告した通り、わが裁きは始まったのである。

21. 混沌が諸国を包み込んでいる。苦難の理由を知って目を覚ましている者もいる一方で、多くの者は眠りにつき、これらすべての試練の原因を悟ろうと努力することなく、ただ生きることに満足している。

確かに、あなた方はその理由を知っており、『知恵の書』を読み、わたしの言葉によって備えられてきた。あなた方を驚かせるものは何もない。しかし、あなた方はまだ未熟すぎて、人類に向けて警鐘を鳴らすには至っていない。あなた方はまだ強くなっておらず、歩みもまだ不安定である。あなたがたは私の言葉を聞いたが、それを理解できていない。あるいは、理解したとしても、それを実践に移していない。あなたがたは、自分たちが一つの民であることを知りながら分裂し、私があなたがたに与えた使命を、まるで耐え難い重荷のように感じている。

私は問う。私が真理の光であなた方を照らしたにもかかわらず、なぜあなた方はこの教えの核心にまで到達できなかったのか。飢えた者に命を与えるには、そのパンのかけら一つで十分であるという、この永遠の命のパンであなた方を養ったにもかかわらず、なぜあなた方は強くなれないのか。その理由は、あなたがたがわたしの言葉に慣れ、それを活用することなく受け入れてしまったからである。よく考えてみよ。あなたがたがそれに満ち足りている一方で、それを得て養われたいと切望している飢えた人々が大勢いるのだ。

22. この言葉が終わりを迎える時が近づいている。その時、この言葉は私の弟子たちの心の中に留まり、人類に知らしめるために書物に記されることになる。私は、1950年以降、あなたがたが礼

拝の行いにおいて最大の清さを保ち、私の指示と戒めへの従順を貫くことを望む。それによって、あなたがたは私があなたがたと共にいたことを証しすることになるのだ。

23. あなたがたに与えられたすべての使命は、あなたがたの能力と力に応じて与えられたものである。なぜなら、私はあなたがたの耐えられる限界を知っているからだ。恐れからではなく、愛をもって働きなさい。私の教えの核心を見据えなさい。私の父なる愛と赦しは、私のすべての子供たちの中に現れている。

24. あなたがたがわたしの言葉を聞き入れている間、わたしはあなたがたの心の中にどのような幸福を見出すことか！わたしは、あなたがたが完全に戦いに立ち上がるその瞬間を待ち続ける、限らない忍耐そのものである。わたしはあなたがたに、あなたがたの未来を明らかにした。

25. 私が去った後、あなたがたの毎日の働きはどれほど大きなものになることか！あなたがたは、まだその片鱗さえも想像していない。その時のために、私があなたがたにいくつかの秘密を明かそう。そうすれば、あなたがたは人々を納得させることができるだろう。

26. 私は、第二の時代のあの漁師たちを、彼らの仕事や務めの最中に出会い、「わたしに従いなさい。これからは、あなたがたは人の漁師となるのだ」と告げたように、あなた方を驚かせた。私は彼らに病人を癒す力を授け、言葉の賜物を与え、私の啓示によって彼らを啓発し、悪霊に取りつかれた者を解放する方法を教えた。彼らが準備を整え、力を得るとすぐに、私は彼らに道を示し、さまざまな地域へと送り出し、そこで私の救いの教えを実践させた。

27. この時代、あなたがたは十二人の選ばれた者たちではなかった。あなたがたは、私が様々な木陰に集め、教えを授けた大勢の人々である。あなたがたは、世界を脅かす大きな試練の中で、人々に勇気を吹き込む者たちとなるべきである。

28. まもなく霊界はもはやその姿を現さなくなるだろう。その時にあなたがたが揺らぐことのないよう、私はあなたがたに、自らの賜物を開花させてほしいと願っている。

29. 私は、あなたがたが目覚まして生きることを望んでいる。そうすれば、あの世からの声が「出発せよ！」と告げる時、直感によって、あるいは夢の中でその声を聞き取ることができるだろう。その時、あなたがたは、病気や自然の力が解き放たれてもたらされた荒廃が横たわる家々や地域へと、歩みを向けるべきである。

もしあなたがたが遠く離れた国々へ行かなければならないならば、時機を示し、道案内をしてくださる父の導きに耳を傾けなさい。

30. 教会や宗派の人々が、あなた方を監視するためにやって来るだろう。彼らはあなた方の権威を試すだろう。中には、あなた方の賜物に確信を持った者たちが、金銭であなた方を誘惑し、物質的な目的のために利用しようとする者もいるだろう。私の業を商売にする者たちは皆、私の恵みを失うことになることを忘れてはならない。

31. まもなく、私はもはや人間の仲介を通じてあなたがたに語りかけることはなくなる。それは書物によって定められているからだ。しかし、私はあなたがたを見捨てはしない。私はあなたがたに靈感を与え、私の臨在を感じさせてあげる。あなたがたの良心が、その時間があなたがたの体に深い傷跡を残すことを許さないだろう。

32. わたしの教えが純粹に実践されていないあらゆる礼拝所や集会所は消え去り、困窮している者たちにとっての避難所であり救命ボートとなっているものだけが、生き残るだろう。

33. 私が去った後、この民の浄化が訪れる。その時、世俗的な争いや対立の時代は激しさを増すが、その後には平和が訪れ、苦難は去っていくであろう。

34. 強くあれ。戦いの時代には、あなたがたは迫害され、敵意にさらされるからだ。人々はあなたがたに仕事もパンも与えようとしないだろう。しかし、その時、わたしはあなたがたに、わたしの憐れみと力を現すであろう。あなたがたは飢えることもなく、顔は決して傷つくこともなく、困窮することもないからだ。その時、あなたがたの魂は、最初の時代に約束の地へと向かう砂漠の旅路を思い出し、喉が渴いた時、岩が割れて清らかな水を差し伸べてくれたことを思い起こすであろう。灼熱の砂漠の太陽があなたたちを焼き尽くそうとしたとき、雲が守りのマントのようにあなたたちを覆い、飢えと欠乏が迫ったとき、マナがあなたたちの父の愛のメッセージとして降り注いだのである。

35. 何よりもまず、明日になって「私がその準備をさせてくれなかった」などと言わないよう、私はあなたがたに警告する。

36. あなたがたが誘惑に陥ったり、不意を突かれたりすることがないように、私は自分の教えを明確に説明している。

37. あなたがたが私の意志を理解し、それを尊重できるよう、私は常にあなたがたが準備を整えている姿を見たいと願っている。あなたがたは、私の教えを最初に受けた者たちであり、私が人々

に自分自身を伝えるために降りてきた理由となる証拠を、自ら体験してきたのだから、あなたがたの後を継ぐ者たちに良い手本を残すよう努めなければならない。あなたがたは、自らの霊的な起源、義務、そして私が託した使命を知らなければならない。そうしてこそ、自分の魂を見守り、徳を保つことができるのだ。

38. あなたがたは、幾度となく様々な転生を経てこの地上に降りてくる中で成長してきましたが、過ぎ去った時代を通じて、わたしの業が不変であり、変わることなく保たれてきたことを理解しているはずです。わたしは常に同じ特質をあなたがたに示し、父なる愛、

限りない忍耐、そして救いの御業を、常に感じさせてきた。しかし、これらすべての証拠があるにもかかわらず、あなたがたはわたしを認識していない。あなたがたが目覚まし、わたしが与えた時間について自らを省み、その時間の中で救いを得るよう努めることが必要である。あなたがたがあゝの世へ旅立つ瞬間は近づいているが、あなたがたは、収穫を捧げるために私が呼びかけるまさにその瞬間に私のもとへ来るよう、急いでこなかった。この収穫は、「」の祈りによって育まれた種からなるべきである。さらに、あなたがたの魂は、悔い改めと高揚の最良の状態にあるべきである。

39. よく考えてみよ。あなたがたは私の霊の一部であるから、私と同様に命と恵みを持っている。あなたがたは起源において清く、帰還の際にも同様に私の元へ清らかな状態でたどり着かなければならない。それゆえ、この期間、あなたがたは本来の清らかさと完全さを取り戻せるよう、絶えず奮闘しなければならない。

40. 兄弟姉妹たち、そして自分自身に思いやりを持て。なぜなら、あなたがたは皆、一つの家族、一つの魂を成しているからだ。あなた方の上には、あなた方の救いと高揚のために尽力する存在たちがおり、彼らはあなた方の守護者として宇宙を駆け巡り、慈愛に満ちた働きをしている。彼らの助けがなければ、あなた方はどうなってしまうだろうか。なぜなら、あなた方は私の意志を正しく解釈することができず、絶えず過ちに陥っているからだ。

41. あなたがたの霊的な守護者たちの闘いを思い起こし、彼らの働きが苦痛の少ないものとなるよう手助けしなさい。彼らの道にアザミをまいたり、常に危険を警告する彼らの声、あなたがたの歩みを導く彼らの助言、そして道しるべとなる彼らの光を無視してはならない。彼らと調和して生きなさい。そうすれば、あなたがたはわたしと完全な交わりの中にいることになるだろう。

42. あなたがたは、徽章やいかなる物質的な特徴によっても、同胞たちと区別されてはならない。あなたがたの行いによって区別されなさい。そうすれば、あなたがたの同胞たち自身が、その証人となるだろう。そうしてこそ、あなたがたは周囲の人々の信頼を勝ち取り、敵を友に変えることができるのだ。

43. あなたがた全員がすでに目覚めているわけではない。しかし、わたしは各集会所において、ただ一つの準備の整った心を用いて、残りの者たちを目覚めさせる。そうして、呼びかけの時、主の正義の時が来たとき、あなたがた全員が、わたしのすべての働き人の手において等しい、ただ一つの実をわたしに捧げることができるようにするためである。そうして、父が人類に呼びかけを放ち、地上のすべての民族があなたの国にアクセスできるようになり、彼らが、私が書き残す御言葉だけでなく、あなたの模範をも受け入れるためにやって来るようにするためである。

44. こうして、わたしの教えは、あらゆる教えの中でその道を切り開いていくであろう。なぜなら、それは最終的に他のすべての教えに打ち勝ち、確立されるからである。

45. 行いや模範によって裏付けられていない教えは、すべて自らに死刑宣告を下したも同然である。しかし、行いによって裏付けられた教えは、必ず定着するだろう。私の模範、すなわち「第二の時代」における私の犠牲の死は、あなた方に多くのことを語っている。そして今日、私はこう告げる。自らの言葉を、自らの血と命をもって封印する者は、真実さと魂の強さの模範を示すのである。

46. 現代において、あなたがたは自分の言葉を血でも命でも封印することはないだろう。この世界は、あなたがたの命に飢えてもおらず、あなたがたの血に渴いてもいない。人間は、真理と愛と慈悲を渴望している。もしあなたがたが、いかなる狂信にも陥ることなく、自らを準備し、霊的に高めて、父が教えた通りに私の神の律法と人間の律法を誠実に守るならば、あなたがたは世界に、その救いの秘義、あらゆる道における平和と贖いの秘義を与えることになるだろう。

47. なぜなら、わたしの業は科学に対しても、人間の制度に対しても向けられたものではないからだ。それは結婚や家族に対しても向けられたものではない。正義と愛を含むものに対しては、何に対しても向けられたものではない。

48. まことに、わたしはあなたがたに告げる。かつて、ある時代において、人がわたしの神性を奉じる者として科学に反対した

としても、その奉仕者はわたしを敬うことも、わたしを理解することも、ましてやわたしに従うこともなかった。なぜなら、わたしがあらゆる霊性の源である以上、わたしはあらゆる科学の源でもあるからだ。しかし、父が人間の科学を嫌悪していると度々耳にするかもしれないが、それは科学そのものを指すのではなく、人間が科学に与えた目的に関するものである。私が嫌悪するのは、人類を破滅へと導いた悪しき科学——すなわち、人間が悪の道具とし、生命とその基盤を破壊するために用いた科学である。これこそが、私の目には科学の忌まわしい点である。しかし、人類の恩人となった科学者一人ひとりに対して、たとえあなたがたが彼を聖人とは認めなかったとしても、私は霊的な次元において選ばれた場所を用意している。

49. 今日、師がこれを告げるのは、あなたがたが狂信に陥らないためである。なぜなら、実際には、あなたがたもまた科学の果実を享受しているからだ。私が人々を私の光で啓発し、彼らがその道のりで生命の要素を見出せるようにしたからである。もし、人間が科学を自らの利益のために用いることが私の意志でなかったならば、私は自然の力を創造することもなかったでしょうし、地球の内部や生命の領域に、人間が進歩と発展のために用いてきたあらゆるものを備えることもなかったでしょう。しかし、私は魂と、そして肉体をも、活気づけ、その幸福と向上的な発展のために、すべてを行ったのです。

50. はるか太古の昔、私は地球を最初の住人たちに委ね、こう告げた。「私はこれをあなたがたの管理に委ねる。これはあなたがたの宝であり、庭であり、住まいであり、家である。増えよ、そして子孫を繁栄させよ！」と告げて、この地球を最初の住人たちに委ねた。しかし、この言葉は、単に人類という存在として人類の種族を増やすためだけでなく、魂として、また知性体としても与えたのである。なぜなら、私はあらゆる道において、あらゆる分野において、霊的な面でも真理においても、あなたたちを増やしていくからである。

51. この時代、私はあらゆる余剰で不必要なもの、あらゆる悪しきもの、非難すべきもの、あらゆる悪しき種に立ち向かう。私の霊の教えをもって、私は科学を悪の道具として用いた者たちすべてと戦ってきた。私は、人間が私の真理に目覚めるまで、あらゆる邪悪な科学と戦い続ける。そうすれば、この教えは日の光のように至る所に広がり、すべての人々を目覚めさせるだろう。そのため

に備え、人間社会におけるあなたがたの使命、任務、そして責任を自覚せよ。

52. 私の業が教えることを悟りなさい。私の教えと私の言葉が開く地平線を見据え、魂がいかに偉大であり、距離がいかに短いのかを思案しなさい。愛をもって祈り、その際に兄弟の痛みを感じた者は、自らを解放し、ここから遠く離れた場所へと赴き、苦しむ者たちの元に、その愛と癒しの香油、そして慈しみを残していったのである。

53. あらゆる集会所でわたしに向かって捧げられる、わたしの民イスラエルのこの祈りのゆえに、わたしは、わたしの言葉に与っていないこの地上の世界を祝福し、そこにわたしの光と父なる愛の慈しみを与える。わたしは、わたしの愛の力がすべての人の心に届くよう、すべての人がわたしを感じ、わたしの真理へと向かい、その道を探し求める旅に出るよう導く。なぜなら、わたしは今、すべての人がわたしのもとへたどり着けるよう、彼らを準備しているからである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 219

1. この瞬間、私はあなたがたに、私の癒しの香油、私の力、そして私の愛の撫でを授ける。
2. 私はあなたがたの十字架を担う者である。なぜなら、地上で私の十字架の重荷がのしかかってきたとき、心に憐れみを抱き、私と共にその重荷を分かち合ってくれた人がいたからである。
3. ここに私がいます——あなたがたが道中で倒れたとき、助けに駆けつけ、あなたがたの魂に力を与え、立ち直らせて、その道を歩み続けられるようにする用意ができています。
4. あなたがたは一步一步、この地上の生涯における「ゴルゴタ」へと近づいています。そこでは、あなたがたの魂が私にこう告げるでしょう。「父よ、私の霊を御手に委ねます。すべては成し遂げられました。」
5. その時が来て、この言葉を口にする時、自らの使命を全うした者たちは幸いである。彼らの平安と至福は、計り知れないほど大きくなるからである。
6. たとえぼろぼろの服を着て、物質的な財産を持たずにそこにたどり着いたとしても、あなたがた全員がその頂上に到達することを、私は望んでいる。そこでは、あなたがたは、かつてないほどに、私の臨在と私の憐れみを感じるだろう。
7. そこで私は、その男性を待ち、その女性を待ち、両親を待ち、母親たちを待つ——この世に生まれて果たすべき使命を帯びてきたすべての人々を。
8. 頂上に到達したいのか。ならば、あなたがたの運命そのものであるわたしを信頼しなさい。試練を愛をもって受け入れ、たとえそれがどのようなものであれ、唇に微笑みを浮かべ、心に信仰と服従を抱いて、わたしの御心に従いなさい。
9. 私が全能であり、遍在していることを忘れないでください。そうすれば、疑いや弱さがあなた方を誘惑に導くことはありません。
10. 時に、あなたがたはこの世で涙を流し、私がすべてが霊の至福である天に住んでいると考えるとき、地上の何百万もの被造物が死に至るまで苦しんでいるにもかかわらず、父が喜びを感じていることを理解できないため、私の愛を疑ってしまう。その理由は、私の子供たちの最後の一人が救いの地へたどり着くまで、私の幸福は完全ではないということを、あなたがたが理解しようとしなからである。

11. 私はあなたがたの父である以上、子供たちが感じることを必然的に共に感じざるを得ない。そうして初めて、あなたがた一人ひとりが苦しみ、それぞれの痛みを感じている間にも、神の御霊がすべての子供たちの痛みを共に味わっておられることを、あなたがたは理解するだろう。

12. この真実の証として、私はこの世に生まれ、人間となり、世のあらゆる苦しみと罪を象徴する十字架を背負った。しかし、人間として、あなたがたの不完全さの重荷を私の肩に背負い、あなたがたのあらゆる痛みを感じていた私が——神として、私の子供たちの苦難を前にして無感情でいられるだろうか？

13. わたしの心の中には、まだ誰もその音色を聞いたことのない賛美の歌が存在する。天にも地にも、それを知る者は誰もいない。その歌は、痛み、苦しみ、闇、そして罪が消し去られたとき、全宇宙に響き渡るだろう。その神聖な音色はすべての魂に響き渡り、父と子らは、この調和と至福の合唱の中で一つとなるだろう。まことに、わたしがあなたがたに告げる。この調和が、わたしの深く愛する子らの命を照らす時、石さえも語り出すであろう。

14. 引き続き、あなたがたの魂を清め、育て、完成させていきなさい。その際、常に、消えることのない炎のように、信仰を心の中に抱き続けていなさい。

15. あなたがたが地上に暮らす限り、その生活をできるだけ快適なものにするよう努めてよいと、私は言わなければならない。来世での平安を得るために、絶えず泣き、苦しみ、「血を流す」必要などないのだ。

16. もしあなたがたがこの地球を、涙の谷から、互いに愛し合い、善を行うよう努め、わたしの律法に従って生きる幸福の世界へと変えることができるなら——まことに、私はこう言おう。たとえあなたがたがどれほどそれを耐える意志を持っていたとしても、苦しみや不幸、涙に満ちた人生よりも、この人生の方が私の目には、はるかに価値があり、高貴なものとして映るのだ。いつになったら、あなたがたは霊的な人生と人間的な人生を、その間に境界線を見出さないほどに融合させることができるようになるのだろうか？ いつになったら、あなたがたは死という概念を捨て去り、永遠へと歩み入ることで、自らの存在をただ一つの命へと統合することができるだろうか。この悟りの光は、この世に霊性が花開いた時に初めて、人々の内に宿るであろう。

17. 私の言葉の光は、この時代において、魂が葬り去られてしまった物質主義の闇からあなた方を救う——その闇は、真理がす

ぐそばにあり、かつ魂がそれをその内に宿しているにもかかわらず、真理を認識することを妨げているのだ。

18. 第三の時代が到来しており、人々にその証拠としるしが与えられている。そして、生者と死者を目覚めさせるかのように、巨大な鐘が鳴り響くかのような、さらに大きなしるしが続くであろう。

19. 祈り、観察し、瞑想し、わたしの靈感に導かれてください。あなたがたの魂が創造主を迎え入れるとき、善と高揚へと駆り立てられるのを感じるでしょうから、その靈感を常に認識できるはずです。

20. 「天には神に栄光あれ。地には善意ある人々に平和あれ。」

21. 祝福された、私の慈悲によって選ばれた民よ。私は、この墮落、混乱、そして苦痛の時代に、あなた方を一つの家族として結びつけ、地上の諸民族の中で「平和の民」を形成するために、あなた方を選んだのである。

22. あなたがたは混沌の時代を生きています。この試練の時代に精神性を高めることができる者だけが、痛みや混乱、そして迫り来る嵐を乗り越えることができます。あらゆる地上の虚しさや人間の苦難を超越する者たちのみが、世界的な混沌に平静と安らぎをもって立ち向かうことができ、大海原で難破した者たちのように、私の愛への信仰という一本の木片にしがみつくに成功するであろう。

23. わたしは、この時のためにあなたがたを備えさせている。それゆえ、わたしを模範とするようあなたがたに教えている。しかし、わたしの教えに従うのがあなたがただけであることは、わたしの望みではない。私は、あなたがたの心の美德、言葉、そして行いが、この時代に私の教えを受けるために私のもとに来なければならぬすべての人の心を惹きつけ、それによって、人類の中でその民の数、力、そして高みが倍増することを望んでいる。

24. しかし、近づきつつあるあの混沌、あの嵐、あの試練とは、一体何から成っているのか。それは、人類がまだ飲み干していない苦難の杯の酵母である。長きにわたり自らの行いによってその杯を作り出してきた人間は、自らの業とその実を悟るために、その杯を最後の一滴まで飲み干さなければならない。

25. 祝福された民よ。諸国や地上の諸民族において、傲慢と権力への野心に満ちて頭角を現している者たちは、力に恵まれた偉大な魂であり、偉大な使命を担っている。しかし、彼らは私の神性

に奉仕しているわけではない。彼らは、その偉大な資質や能力を、愛と慈悲のために捧げてはいない。彼らは、*自らの世界、自らの法、自らの玉座、自らの臣下、自らの支配領域*、そして目標とすることが出来るあらゆるものを自ら築き上げてきた。

しかし、試練によってその玉座が揺らぐのを感じたり、強大な敵の侵攻が差し迫っているのを感じたり、自らの財宝や名声が危険にさらされていると見たりすると、彼らは全力を挙げて立ち上がり、誇大妄想や世俗的な虚栄心、憎しみや悪意に満ちて、全力を挙げて敵に立ち向かう。その際、自らの業や理念が、痛みや破壊、悪の痕跡しか残さないかなど、一切顧みない。彼らの頭にあるのは、敵の殲滅と、さらに巨大な王座を築き上げ、諸民族や富、日々の糧、さらには人々の命までもが、可能な限り支配下に置くことだけである。

26. わたしは、あなたがたをわたしの兵士となるよう備えさせている。しかし、破壊や悪をもたらすような兵士ではなく、憎しみや墮落、闇や貪欲の兵士でもなく、霊性、兄弟愛、愛、柔和、そして憐れみの兵士である。あなたがたは、力と、あなたがたの模範であるわたしへの信頼に満ちて、真理と正義という武器への確信を持って、旅立つべきである。わたしは、あなたがたが、今この時から、同様に強力ではあるが、あなたがた以上に強くないその敵と戦うことができるよう、あなたがたを準備している。

27. あなたがたが霊性へと目覚めるその日、光の前では闇は弱く、愛の抗いがたい力の前では憎しみはただの一粒の原子に過ぎず、その原子は真の慈悲に触れるや消え去り、霊の賜物の前では物質主義は薄れていく、ということに気づくでしょう。物質的なものは儚いものだが、霊的なものには永遠の命がある。

28. あなた方は今、世界の混乱を解消し、すでに身についている模範、善き思い、言葉、そして行いを通じて、世界を物質主義や狂信から解放することができる、霊性豊かな民を形成しつつあるのです。

29. もし人々が、あなたがたがわたしから聞いたことのない教え、あるいは理解できなかった教えについて尋ねてきたら、わたしはあなたがたを通して語り、学者たち、神学者たち、権力者たち、権限を持つ者たち、裁判官たち、すなわちこの地の教師たちを驚かせるであろう。

30. わたしは、わたしの三位一体・マリア的霊の教えが、空気が至る所に流れ込むように、光があらゆる闇を消し去って世界を照らすように、あらゆる場所に浸透するよう導く。同様に、わた

しの業は広まり、わたしの教えもまた広がっていく。それはあらゆる宗教共同体、あらゆる機関、あらゆる人間社会、あらゆる心、そしてあらゆる家庭に浸透するだろう。それは遠くまで旅をし、砂漠や海を越え、この世界を満たすだろう。なぜなら、全人類のための第三の時代、光の時代が幕を開けたからである。

31. 私はいつの時代も、私の啓示を人間に理解しやすい形にしてきた。第一の時代に、私があなた方に私を明らかにするためにモーセを選んだことを思い出してほしい。彼は私の代弁者であり、私の使者であった。私は彼を山に呼び寄せ、こう言った。「モーセよ、顔を伏せなさい。あなたは私を見ることは許されないからだ。行って、あなたの民に告げよ。私が彼らの主であり、彼らの神であり、彼らの先祖の神であることを。そして、彼らが私の戒め、私の律法、私の規定を受け取るにふさわしい者となるよう、内面も外面も清めることが私の意志であることを。」私はモーセを通して、父として、律法として、そして正義として、自らを現した。私は、モーセという仲介者を通して、私の選民に御自身を明らかにした。その人を通して、私は私の戒めを一人ひとりの心に届けた。

32. 第二の時代において、わたしはあなたがたにより近くありたかった。民がわたしをただ容赦なき裁き主としてのみ捉えることは、わたしの神聖な御心ではなかった。わたしは、わたしの姿と似姿に造られた被造物である子供たちからの愛撫を感じたかったのだ。愛と優しさの行為において、父は人間となり、魂の偉大さであり、律法の真の成就であり、愛に満ちた生活である「謙遜」を教え、人々に、正義に満ちた、永遠かつ真の理想のために戦うことを教えるためであった。

33. イエスの教え——人類が研究するための指針として、開かれた書物として与えられたもの——は、地球上のいかなる民族、いかなる世代、いかなる人種においても、他のいかなるものとも比較できない。なぜなら、正義の戒めや隣人愛の教えを伝えるために旅立った者たちは、私によって地上に遣わされた先駆者であり、使者ではあったが、神格としてではなかったからである。神格としてあなたがたの元へ来られたのは、キリストただお一人である。キリストは、人間の心が受け取った中で最も明快かつ偉大な教えを、あなたがたにもたらされたのである。

34. しかし今、この時代において、愛する民よ、私はあの「第二の時代」のように人間となったわけではないが、人間の知性を通じて、私のすべての被造物に私自身を伝えることを喜んだ。「霊的な谷」や果てしない宇宙空間においてさえ、私の神聖な臨在が感

じられたのである。なぜなら、完全性へと至る梯子には多くの段があり、「霊的な谷」や果てしない宇宙空間には多くの世界が存在するからだ。しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。私は常にすべての人々に自らを明らかにしてきた。そして、彼らが置かれている世界の霊的段階に応じて、私の啓示は彼らの間に現れてきたのである。

35. ある者が私にこう問う。「人間は罪深く、不浄であり、卑しい情欲を抱えているにもかかわらず、なぜ父は人間の知性を通じて御自身を現されるのですか？」しかし、師はあなたがたにこう告げる。私の祝福された光は、完全なる清らかさと完全性そのものであり、父は人間の罪に憤りを感じはしないものの、不浄なものとは接触することはできないのだ。それゆえ、私は「足台」の霊のもとへ赴く。そして、その霊こそが、私の光、私の言葉、そして私の教えを、声の担い手の知性へと伝えるのである。「足台」は、愛と畏敬の念、そして準備の行為を通じて、すでにあらかじめ私のもとへと高められており、低俗な情欲や肉の欲望が、私の教えの完全さと混ざり合うことのないようにしているのだ。

36. しかし、まもなく、私はもはや人間の知性を通じて自らを現すことはなくなるだろう。なぜなら、あなたがたが霊から霊へとこれを成し遂げられる時が来るからだ。その時、私の神聖な光線はあなたがたの霊にも届き、そこであなたがたは私の声を聞き、私の靈感、私の預言、そして私の指示を受け取るようになる。今、私はあなたがたをその方向へと導いているのだ。

37. 私はこれからあなた方を教え導き、赦しを与え続ける。そうすれば、私が人間の知性を通じて啓示を行う最後の瞬間に、あなた方は私にこう言えるようになるだろう。「主よ、私たちの罪と邪悪さは、なんと大きかったことでしょう。」私たちは時宜を得てそれを悟り、内面も外面も——霊的な生活においても、人間としての生活においても——清めました。そして今、私たちは互いを愛し、すべての被造物を愛し、一つの体、一つの意志を成す者として、あなたの無限の憐れみに身を委ねます。」

38. もしあなたがたが1950年までにその境地に達すれば、罪人であろうと敬虔な者であろうと、すべての者が私の栄光に満ちた姿を仰ぎ見るだろう。なぜなら、その時こそ、父があなたがたに託した律法の成就を始める瞬間となるからである。

39. 民よ、その道を力強く歩みなさい。なぜなら、あなた方の霊は今、この惑星で困難な使命を果たしているからです。愛によって自らを清め、わたしの律法に従う者だけが、もはやこの惑星に

転生する必要はなくなります。しかし、「最後の」転生において、血の痕跡や悪行を残した者は、過ちを償い、破壊されたものを再建し、生気のないまま置き去りにした者に命を与え、許さなかった者たちを赦すために、この地上に戻らなければならない。一言で言えば、贖罪のためである。

それゆえ、私の限りない愛はこう告げる。「おお、倦むことのない地上の巡礼者よ、長い間、心に苦しみを抱えて歩んできたあなたよ！ あなたを慰め、力づけ、人生の道を最後まで歩み通せるようにと願う御方を見上げなさい。」

40. あなたがたはこの旅をずっと昔に始めたものであり、私があなたがたの道の途中で姿を現すのは今回が初めてではない。私の慈悲は、倒れた者を立ち上がらせ、病人を癒やし、「死者」に命を取り戻させた。私の父の声が、眠る者を目覚めさせたのだ。

41. わたしの霊があなたがたに放つ光によって、あなたがたの魂は照らされ、その過去を、霊的な贖罪と魂の成長のための長い道のりとして見出すようになる。また、あなたがたは、わたしの教えの忠実な証人となるという、師に対して負った責任を理解するようになる。わたしは、教会や宗派の代表者たちが、あなた方に質問し、探りを入れるためにやって来る日が来ると告げた。そして、彼らにあなた方が不器用な姿を見られることを望まない。彼らは、あなた方が謙虚である一方で、その謙虚さの中にわたしの知恵が表れている姿を見出すべきである。

42. 人類はあなた方を必要とするだろう。そして、霊的に見て地球上で最も古い民であるあなた方は、私が授けた賜物を隠してはならない。私があなた方の前に開いておいたその書物を指し示すべきである。

43. 創造の初めから、いつの時代においても、私は契約を結んできた。私が約束したことは、忠実に果たしてきた。しかし、まことに、あなたがたに告げる。わが民は常にその誓いを破ってきたのだ！

44. 私があなたがたを愛し、あなたがたの救いを願っているからこそ、この契約を六度も更新してきたのだ。

45. 私が第二の時代に選んだ十二使徒の中には、人間の美德と弱さが体現されている。私は、人類への模範と励みとして彼らの美德を用い、また、あなたがたに偉大な教えを授けるために彼らの不完全さを利用した。トマスの不信仰は、触れて見ることのできるものしか信じない、事実主義者を象徴している。

46. ペトロは、人々の裁きを恐れる者を体現しており、ユダは、魂の財産を売り渡す者を体現している。

47. この時代、私はあなたがたに地上の富を与えない。私はすでに他の時代にそれを与えてきた。今、私はあなたがたを知恵において豊かにする。

48. いつの時代も、学者たちは私の啓示や霊的な啓示を否定し、それに反対してきた。しかし、私は科学に反対するものではない。なぜなら、私こそが科学そのものだからである。人間の幸福と安らぎのために、科学を人々に啓発しているのは私である。まことに、あなたがたに告げる。科学を悪を行うために用いる者は、私から啓発された者ではない。

49. 私の言葉を、その意味によって見極めなさい。私はぶどうの木であり、あなたがたはそこからぶどう酒を飲むのである。

50. あなたがたがわたしに従うために、何が必要か。わたしはあなたがたにすべてを与える。今、わたしはあなたがたの心に聖所を築き、そこに永遠に住まう。なぜなら、人間の声を通じて語られるわたしの言葉は、まもなく聞こえなくなるからであり、その時には、あなたがたの魂だけが、無限の彼方でその響きを感じるようになるからだ。

51. 霊的に高められた者たちは幸いである。彼らはわたしの臨在を感じ、たとえ苦難と涙の中を歩むとしても、この人類に慰めと救いをもたらす者となるからである。

52. わが普遍的な光線は、あなたがたの理解力を照らし出している。そして、あなたがたを貫くこの光の中で、あなたがたはわが臨在に満たされているを感じる。預言者たちは、あらゆる魂を包み込むこの光を、喜びをもって見つめ、体験している。彼らは、イスラエルに示された、教えが記された大いなる書物を見ており、その書物は第六章が開かれている。

53. あなたがたは、わたしの言葉を聞くうちに、約束された御国がすぐそばにあることを強く感じ、すでに待ち受ける至福を予感している。あなたがたは、わたしを父として認識し始めているため、あらゆる恐れが消え去っています。そして、かつて選ばれた民であるイスラエルの民に与えられたわたしの約束が成就するのを見るとき、あなたがたは希望に満たされ、改心とわたしの律法への従順という大きな決意を抱き始めるでしょう。

54. 私が再び来るとき、大きな光を放つ魂たちが私に従う——それらは今、私の御国の到来を告げ、人々の心を整える存在たちである。

55. あなたがたの世界は、わたしの臨在によって照らされた。まもなく、あなたがたは霊的な再生の時代に入るだろう。それは、あらゆる美德の再生をもたらし、あなたがたをより高い生命の次元へと導くに違いない。しかし、わたしがあなたがたのところに来たように、わたしは他の生命の世界にも訪れている。そこでは、魂が奮闘し、自己を完成させ、苦痛の中で贖罪を行っている。私は、これらの生命の世界と、あなたがたの生きる世界との間に、絆と友情を築きたいと願っている。私は、あなたがたが、そこに住む存在たちと心を結び、兄弟姉妹たちの悲しみに満ちた魂を慰め、照らすような祈りを捧げることを望んでいる。

56. そうして、あなた方は、自分たちの使命が、目に見える兄弟姉妹を助けることだけに限られるのではなく、あなた方が知らない存在、現在の生活世界からは直接知覚できない存在がおり、それにもかかわらず、彼らがあなた方を必要としているということに気づくようになるでしょう。

57. 今日、あなたがたの故郷であり、私の明確な啓示が与えられたこの世界は、あなたがたが私のために執り成しを行い、私があなたがたに語っているそれらの存在たちのために祈るのにふさわしい場所である。

58. あらゆる時代において、私は知恵と本質と愛に満ちて自らを現してきた。あなたがたは、私の啓示の証人であった。わたし、エホバが、世の初めからこの世に語りかけてきたことを知らない者がいるだろうか。わたしがイエスとしてこの世に来られ、あなたがたに教えを授けたことを知らない者がいるだろうか。わたしは、人類が、今日、わたしが「永遠の知恵の書」に記されているあらゆる言葉とあらゆる秘密を説明し、解き明かすために来たことを知ることを望む。

59. 絶え間ない人生の旅路において、あなたがたはわたしによって守られてきた。あなたがたは永遠の旅人であり、待ち受ける未来を知らない。嵐がいつ近づくのか、また平和の虹がいつ現れるのか、あなたがたには見当もつかない。あなた方を見守る私だけが、あなたがたが準備ができた時に、これから起こることを告げるのである。この地上の谷は、時としてあなた方にとって心地よく愛おしい場所であったが、同時に敵対的な姿を見せ、あなた方に涙の川を流させた。その涙によって、あなた方は自らの魂を清め、浄化してきたのである。

60. わたしのもとに来なさい。あなたがたは旅路に疲れ果てている。すべての子供たちへの憐れみと愛に満ちて、あなたがたに

その姿を見せるこの木の木陰に来なさい。そして、休息を取り、すべての苦しみが和らいだなら、苦しんでいる人々のことを思い、彼らのために立ち上がってください。確かに、あなたがたの仲介がなくても、私は彼らにすべてを与えることはできる。しかし、子供の中に愛、共感、そして慈悲が現れ、兄弟姉妹の痛みや幸福を分かち合う姿こそ、私の心に喜ばしいのだ。

61. あなた方の存在には限界がなく、肉体の終わりが魂の終わりではない。なぜなら、肉体が土に還っても、魂はそれを生き延び、新たな人生において、努力し、さらに高みへと昇りつめるための無限の刺激を見出すからである。そうして魂は、自分を抑圧していた肉体から解放され、自身が持つ能力や美徳を発揮するための広大な活躍の場を見出すのである。

62. イエスが十字架上で亡くなられた時、あなた方は自らの想像から「人間」というイメージを消し去り、私を、あらゆる世界に浸透し、私の愛をもって宇宙を包み込むことのできる、無限の存在として捉えたのである。

63. あなたがたは皆、互いを対等と見なし、兄弟愛をもって愛し合いなさい。なぜなら、1950年を過ぎれば、あなたがたの間から「役職」は消え去るからだ。指導者も、代弁者も、「柱」も、予言者も、「賜物を持つ者」も、「黄金の筆」も、さらには「礎石」も、もはや存在せず、いかなる区別もなくなるだろう。重要であるためには、たとえあなたがたが役職に就いていなくても、私があなたがたが準備ができているのを見ればそれで十分である。そうしてこそ、私はあなたがたを媒介として私の御言葉を成し遂げ、あなたがたはそれに導かれることになるのだ。

64. これらの役職に就いていた者たちだけが、偉大な使命を遂行する能力を持つ者たちというわけではない。私は、あなたがた全員がこの大義に奉仕し、一人ひとりがすべての役職をその内に宿すことを望む。そうして、あなたがた全員が私の業に対して責任を感じるようになるためである。

65. わたしの言葉は、もはや肉体的に聞こえることはなくなる。それによって、あなたがたはより大きな霊性を得るだろう。なぜなら、その時には、あなたがたは思いを天へと向け、無限の中にわたしを求めようになるからだ。あなたがたは、功德ある行いを成し遂げることで、わたしを喜ばせようとするだろう。そして、それによって、あなたがたはより大きな霊的進歩を遂げるだろう。

66. 私は、あなたがたが真の兄弟姉妹として互いを認め合い、団結して生き、互いに親しみを感じ、それによって私により近づ

くことを望んでいる。私の業についてより深い理解を得たあなたがたは——兄弟姉妹たち、すなわち今まさに第一歩を踏み出そうとしているすべての人々を導きなさい。互いに手を差し伸べ、互いを守りなさい。これが私の御心である。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 220

1. 弟子たちよ、私のもとへようこそ。
2. ここに、第二の時代の約束を果たし、聖霊として来られ、その光で地球を照らす師がおられる。
3. 私のそばには、かつて疑い、私を冒涇した者たちがいる。しかし彼らは今日、悔い改めの心を持って赦しを請い、私の僕となるためにやって来ている。
4. わたしが来る前に、エリヤがあなたがたのところにやって来て、闇を追い払い、光をもたらし、あなたがたを、わたしである恵みと知恵の源へと近づけてくれたのである。
5. わたしは、あなたがたが準備を整えているのを見出し、わたしの食卓に着かせ、わたしの食事を味わわせた。
6. 私は霊的に、一滴一滴と私の血を注ぎ、あなたがたが二度と道から逸れることのないよう、贖いの道を切り開いている。
7. わたしの愛はあなたがたに注がれているが、あなたがた全員がそれを受け入れるわけではない。心の中でそれを感じる者もいれば、無関心なままにいる者もいる。それでも、わたしは誰一人としてわたしの食卓から追い出さない。なぜなら、霊的な復活は、わたしのすべての子供たちの中で成し遂げられるべきものだからである。
8. この啓示において、私の臨在を真に感じ取った者たちは、孤独で見捨てられたと感じていた彼らの心に、私の言葉が与えてくれた慰めに対して、私に感謝している。
9. この集いの場は父の家ではない。わたしの祭壇は、あなたがたの心の中にある。あなたがたの信仰は、わたしのために灯されたいろうそくであり、あなたがたの良心こそが、あなたがたの道を照らすその高き光である。それは、あなたがたを悪しき道から遠ざけ、深淵を警告し、善へと励ましてくれるものである。
10. あなたがたは知っている通り、私がすべての被造物を創造したのと同様に、私も光を創造した。それは、あなたがたが「日」と呼ぶその光が、創造の栄光をあなたがたに明らかにし、あなたがたが私の愛と私の力について知るためである。
11. わたしはあなた方を「わたしの像と似姿」として創造した。そして、わたしが三位一体であるように、あなた方の中にもこの三位一体が存在する。
12. あなたがたの物質的な体は、その姿と完全な調和によって、創造を体現している。あなたがたの受肉した魂は、人間界に愛

の足跡を残すために人となった「御言葉」の写しであり、あなたがたの霊は、聖霊の神聖な光の輝く火花である。

13. 人間が私の律法から背を向け、良心の声に耳を傾けなかったときはいつでも、その人は誘惑と闇と罪の夜へと踏み込んでしまった。その時、私はその行いを裁かねばならず、私の裁きによって、その人は苦痛を味わった。しかし、私は常にその人に悔い改める機会を与え、償いをするための時間を与えてきた。私の裁きにおいて、罪人は頭を垂れた。しかしその後、私の赦しと恵みの賜物を受けたにもかかわらず、彼は再び罪に逆戻りしてしまった。あなたがたに償いの道を示すために、あなたがたの神はあなたがたの間で人間となり、普遍の母は、その母なる愛をもってあなたがたを救うために、女性とならなければならなかった。

14. 霊的には、あなたがたはすでに長い道のりを歩んできた。そして今、新しい世代が幼少期から示している直感と成長に、あなたがたは驚いている。なぜなら、彼らは多くの経験を積んだ魂であり、今、人類を前進させるために再び戻ってきたのだ——ある者は霊の道に、またある者は世俗の道に、それぞれの能力と使命に応じて。しかし、彼らすべてにおいて、人々は内なる平安を見出すことでしょう。私が今、あなた方に語っているこれらの存在こそが、あなた方の子供たちとなるのです。

15. もはや砂漠を横断したり、無益な仕事に時間を費やしたりしている場合ではない。未来を思い描き、明日の人類のために備えなさい。なぜなら、あなたがたが私の教えを語り、私の癒しの香油を注ぐとき、人々は驚きながらこう尋ねるだろう。「あなたは誰からこれほど偉大な教えを受けたのか。そして、病を癒すというこの並外れた力を、誰があなたに与えたのか？」そうして、人々は私の「働き手」たちの愛の行いの中に、私の力を認めるようになるのだ。

16. 魂には、その発展と完成、進歩と贖罪のために、さまざまな転生における七つの段階が与えられている。しかし、過去の地上での生を思い出すことは、魂には許されていない。肉体の物質は、魂を覆い隠す厚いベールのようなものである。ただ良心だけが、あなたがたに、完全性へと至る「光の道」を進まなければならないという直感を与えてくれるのである。

17. この道は、七つの段からなる梯子であり、それは魂をわたしの懷へと導く。そこで魂は留まり、より低い段階にいる者たちへと永遠にその光を放ち続けるのである。

18. これこそが、私の神聖かつ永遠の計画である。あなたがたは私の協力者であり、物質主義の鎖を断ち切ったとき、やがて私と共に統治することになるだろう。

19. 急いでください！今日できることはすべて行いなさい！私の教えに従えば、この世の最大の混沌の中でも、あなたがたは私の平安を体験することになるでしょう。

20. そうすれば、信仰と希望と愛が、天使のようにあなたがたの魂の上に舞い降りるだろう。

21. 私は、この啓示の時代に、あなたがたが私の言葉の知恵を理解できるよう、心と魂と知性を照らしている。この時代は、来るべき世代にその痕跡を残し、彼らが自分たちが生きる時代を理解できるようになるだろう。

22. わたしは、あなたがたの魂を照らし、強めるための灯台として来た。そして、わたしの声を聞いて信じたすべての人々にとって、わたしは復活そのものであった。なぜなら、彼らはより高次のいのちの平安を知ったとき、立ち上がり、改心の決意を固め、不必要な物から身を引いたからである。もし彼らが試練に打ち勝つことができれば、彼らは私の善意ある兵士たちの軍団を成すことになるだろう。彼らは、私が創造したものを利用しながらも、依然として私を否定し続ける、精神的に混乱した人々で溢れかえる悪の世界に立ち向かうことになる——それは砂漠と化した世界であり、その灼熱の砂は旅人の足の裏を焼き尽くす。この容赦のない砂漠において、人々は世界観をめぐる嵐に無慈悲に打ちのめされることになる。

23. わたしに耳を傾けなさい。備えをし、恐れてはならない。なぜなら、あなたがたが心に信仰を持ち、わたしの業を理想とするならば、人生の道において、あなたがたを支える杖として、わたしの力が与えられるからである。

24. あなたがたの心の中で、愛と信仰が実を結ぶようにしなさい。それらが、あなたがたを傷つけた者への赦しを生み出すからである。まことに、わたしがあなたがたに告げる。この壁の前で、悪は常に立ち止まってきた。それでもなお、愛する弟子たちよ、あなたがたは極めて苦い杯を飲み干さなければならないだろう。

25. 私が去り、もはや人間の知性を通じてあなたがたの導き手ではなくなり、あなたがたが私の言葉を私が残す書物の中でのみ見出すようになったとき、戦いが始まるだろう。

26. 私の言葉は、かつてあなたがたにとって謎であったすべてのことを解き明かしてきた。それは、あなたがたに未知のことが

何一つなく、試練に冷静かつ勇敢に立ち向かえるようにするためである。

27. あなたがたは、わたしの教えによって、消えることのない喜びの時間を過ごしてきた。崇高な至福を渴望していたあなたがたの魂は、満足し続けるであろう。なぜなら、私の啓示の意味において、真理の光、そして あなたがたを待ち受ける魂の命——そこでは何もののにも制限がなく、すべてが美しく完全であり、その輝きによってあなたがたはすでに魂を清めることさえできる——を、見つめることができたからである。

28. その存在を予感するとき、あなたの魂は永遠の至福を感じ、あなたの肉体は新たに活力を得て立ち直る。なぜなら、そのとき人間は、自らのすべての苦痛、闘い、そして犠牲が、魂にとって正当な報い——すなわち平安——をもたらすことを知るからである。

29. あなたがたが現在獲得しつつあるものは霊化であり、霊化とは永遠の命の認識でもある。しかし、あなたがたが創造と調和するに至るとき、さらなる形の霊化を見出すことになるだろう。なぜなら、その時にはあなたがたは私の法則の内に生きているからである。

かつては、肉体の衰えがあなた方にとって道の終わりを意味していましたが、今日では、その時点でこそ道が始まることを知っています。肉体は、ただの一時的な衣に過ぎないのです。

あなたがたはすでに、自分たちが単なる物質であるだけでなく、本質でもあることを認識しています。なぜなら、人間としての存在が終わる場所が、魂の道の終わりではないことを知っているからです。

30. しかし、あなたがたはこう問うでしょう。「師よ、では、本質であるものが物質的なものと混ざり合うことは可能なのでしょうか？」そして、私はこう答えます。「はい、わが子らよ。全能にして遍在する父は、すべての被造物の中に存在し、それらが命を持つようにしているからです。」

31. 常に真理に耳を傾けなさい。真理は、その底にあるものすべてを見通すことのできる、水晶のように澄んだ水のようなものです。あなた自身の靈感の中で、わたしを見出すことを理解しなさい。

32. たとえ私が偉大な啓示について語っているとしても、私の言葉は単純明快である。なぜなら、真の天国へと続く道がどのようなものであるかを、私が明確かつ理解しやすい形で説明してき

たのと同様に、この時代、私は私の言葉によって、人々が宗教や誤った解釈を通じて作り出し、恐怖を植え付け、人間に無知という目隠しを課してきた地獄を、取り除いていくのだと、あなた方に告げるからである。

33. わたしの言葉は、まるで一冊の本のように、そのページをあなたがたの前に開いて、来世についてわかりやすいイメージを伝えている。人々が宗教を教会の形式で実践し、その過程で律法を忘れてしまうような時代は過ぎ去るだろう。なぜなら、それは義務に背く行為を意味していたからである。

34. 私は、あなた方に恐怖を植え付けるために来たのではない。私は、あなた方に愛を注ぎ込むために来たのだ。

35. わたしはあなたがたに、あなたがたを罰するのではなく、ただあなたがたが蒔いた種の実を刈り取ることを許すだけだと教えた。その実が甘ければ、それはあなたがたの至福と救いとなり、苦ければ、悔い改めと、自らを完成させようとする願いを呼び起こすだろう。

36. あなたがたの闘いを支えるために、わたしは光と恵みに満ちた新しい日を用意した。イスラエルの民よ、わたしの言葉によって元気づけられよ。

37. あなたがたは、幼少期から、青年期、壮年期、そして老齢に至るまで、わたしを求め続けてきた。あなたがたは、人生のさまざまな段階において、わたしのもとへやって来た。わたしは、イスラエルの民を構成する共同体の中に、生まれたばかりの赤ん坊から老人まで、あらゆる年齢層を見出している。

38. 老人は私にこう言います。「父よ、私はあなたのもとへ来るのが遅すぎました！ あなたの御言葉、あなたの恵み、そしてあなたの憐れみを味わえるのは、ほんのわずかな時間しかありません。」しかし、父は彼にこう言います。「老いた者よ、私のそばにいなさい。二度と私から離れることはない。今日、私に従いなさい。そうすれば、あなたの魂が『霊の谷』の入り口、すなわち新しい命にたどり着いたとき、あなたはもはや年老いてはいない。あなたはいつまでも若く、力強いままである。

体が疲れ、病んでいる今になって初めて、私の教えの光を知るためにここに来たことを嘆いてはならない。考えてみてほしい。私は、私の業の懷で育った子供たちを呼び寄せたが、今日、彼らが男や女となってから、私の言葉に飽きて離れ、新しい道を求めに出かけ、私の助言や慈しみを忘れてしまったのだ。しかし、私は彼らを再び引き寄せ、最後の時が来れば、彼らは皆、私の元にいる

ことになる。なぜなら、私は魂が宿るあらゆる生命の次元にいるからだ。」

39. 人が祈りや善行を怠ることで善の道から逸れると、道徳的な力や靈性を失い、誘惑にさらされる。そしてその弱さゆえに罪を許してしまい、それらが心を病ませる。しかし、私は医者として病人の寝床に駆けつけ、私の愛と慈しみをすべて注ぎ込んだ。私の光は、熱に灼かれた唇に注がれる清らかな水のようなものであった。そして、その人が額に私の香油を感じたとき、私にこう言った。「主よ、あなたのみ慈悲だけが私を救うことができます。私の魂は深く病んでおり、死がまもなく私を訪れるでしょう。」しかし、私は彼にこう告げた。「、あなたは死なない。なぜなら、命そのものである私が来たのだから。そして、あなたが失ったものはすべて、あなたに返されるだろう。」

40. あなたがたの義務を果たし、これまで犯してきたあらゆる悪を善へと変えなさい。あなたがたがこの偉大な再生の業を成し遂げられるよう、私はあなたがたに魂の強さを与える。なぜなら、私はあなたがたのために大きな使命を用意しているからだ。

41. こうして、私は第三の時代にあなた方と出会う。私はあなた方の苦しみと恐怖を知っている。しかし、あなた方は皆、癒やされるだろう。なぜなら、あなた方の内には永遠の命の原理があるからだ。

42. あなたがたは、わたしにふさわしい者となるよう備え、内も外も清らかな器として、わたしに心をおさげください。そうすれば、わたしはそこにわたしの言葉を注ぎ込むことができます。わたしが与える光によって、あなたがたはその言葉を深く理解することができますでしょう。わたしの「言葉」の一つひとつを文章にまとめ、それらを大きな書物として編み上げなさい。私は、あなたがたが周囲の人々に語りかけ、人類が抱く真理と正義への渇きを癒やせるよう、あなたがたの理解力を養っている。

43. 私の言葉を大切にしなさい。そうすれば、私が去る時に、「私はなんと大きな特権を与えられていたことか。それなのに、私はそれを理解していなかった」などと言わずに済むだろう。

44. 私は、あなたがたが、慈愛に満ちた優しい父を持つにもかかわらず、その父を軽んじ、父がこの世の目を閉じた後、私がその父を「霊の谷」において、徳によって選ばれた子供たちの間に座らせた時に初めて、その父に対する愛と感謝の欠如を嘆き、自分たちが持っていた恵みを遅ればせながら悟り、その良さを理解できなかったのだ。

45. 私が今、あなたがたと共にいるこの時に、世に向かって「主は今、語っておられ、その臨在の証拠を示しておられる」と言えるよう、努めなさい。私を求める者たちを私のところへ連れてきなさい。彼らは信じるようになるだろう。明日、あなたがたは、周囲の人々を納得させるために、入念な準備をしなければならないだろう。

46. あらゆる瞬間に、あなた方を泣かせるような苦難が襲い、あなた方は私にこう言う。「師よ、あなたは私に平安を約束しておられたのに、なぜ私を試練に遭わせるのですか？」しかし、その時私はこう告げる。「それは、これらの試練のおかげで、魂が覚醒し続けるからである。」安楽の只中では、信仰の光は消え失せてしまう。しかし、あなたがたが闘いと完成への道を歩み続ける限り、その光は消えることはない。肉体が痛みを訴えたり、苦しみが心を悲しませたりしても、安心しなさい。なぜなら、今日、あなたがたは私の業において、魂の平安と健康を取り戻したのだから。

47. やがて、あなたがたは十分な準備を整え、開かれた目と研ぎ澄まされた直感をもって人々の元へ赴き、敬意を持って彼らの心の奥底に踏み込み、その痛みや、魂の貧しさを見出す日が来るだろう。その時、私の教えによって、あなたがたは彼らの苦難を和らげ、彼らの魂を励ますことができるのだ。

48. あなたがたが私の言葉を実践するたびに、奇跡を体験することになるだろう。それは決してあなたたちを失望させることはない。十分に準備をすれば、あなたたちは自らの使命と私の御心にふさわしい行いを果たすことができるだろう。

49. 私は各教会に特定の使命を与えた。ある教会には、霊的な賜物を開花させることについて周囲の人々から理解を得られなかった者たちのための「救いの箱舟」として備え、またある教会には、私が知恵を注ぎ込んだ「光源」として備えさせた。さらに別の教会には、温かさと憐れみを注ぎ溢れさせることによって、愛そのものとして自らを現した。また、新しい教会や新しい「働き手」も現れるでしょう。なぜなら、私は今、「最後の人々」を一つに集めているからです。彼らは「最初の人々」にとっての支えとなるでしょう。今日、彼らはまだ幼い子供たちですが、やがて私の弟子となり、将来的には新しい世代の教師となるのです。

50. 認められるためには、あなたがたは徳に生き、わたしのすべての戒めを全うしなければならない。わたしの業においては、「最初の者」も「最後の者」も、あなたがたは皆等しい。「最後の

者」たちは、わたしの教えを学ぶために、より短い期間で準備をしなければならなかった。

51. 「働き手」たちよ、私はこう言う。精神世界が、あなたがたの知性を通じて完全に現れ、あなたがたの唇から発せられる言葉がより清らかで、霊的な本質を持つものとなるよう、自らを鍛えなさい。私の靈感がお前の知性を通り抜ける際に、それが曇ってしまうことのないようにしなさい。お前の責任は大きいゆえに、その報いもまた大きくなるだろう。お前たちは、使命を果たした時に与えられる喜びと平安について、まだ想像もつかないだろう。お前の賜物は計り知れない価値があり、それらはお前たちを真の至福へと導くであろう。

52. 様々な性質を持つ脱体の魂たちが、慈悲を渴望して「働き手」たちに近づいてくる。もし彼らが、あなたがたの心の扉が閉ざされているのを見つけ、あなたがたが彼らに慰めを与えなかったならば、あなたがたの脳は疲れ果ててしまい、それらの哀れな魂たちは、痛みと不安という影響をあなたがたの中に残していくことになる。

53. 使命の遂行があなた方を待っている。慈愛深くあれ。「イスラエル」は、助けを必要とする魂たちに光と平安をもたらすために準備されてきた。あなたがたがこれを果たさない限り、の義務という大きな十字架があなた方の肩に重くのしかかり、その仕事を成し遂げるまで、あなた方から離れることはないだろう。

54. 私は、貴重な報いとして、私の平安をあなた方に約束する。

55. あなたがたは思考を清め、わたしに耳を傾ける準備が整っている。わたしは、あなたがたの心にまだ残っているかもしれない疑いを払拭できるよう、神聖な啓示を繰り返すために、たゆまずあなたがたのそばに身を置いている。

56. 私は、私がこの民の中にいたことを誰も否定できないよう、私の臨在と私の本質を明らかにした。

57. 私が「声の伝達者」を通じて注ぐ知恵は、書物から得られたものではなく、人間が時を経て獲得し得た知識の蓄積でもありません。また、私は人類が行うような歴史的知識を、あなたがたに伝えているのでもありません。

58. 私は、あなた方と同じような人間、あなた方と同じ知識を持つ者を通して、私の光を顕現する。私が求める唯一のものは、短期間、神性の道具であり代弁者となる者の、知性の清らかさと魂の純粹さ、そして、私の声を聞くことになる者たちの精神的な準備

と心の整えである。この思考と意志の融合が成し遂げられるとき、私の霊の光があなた方の元へやって来る。なぜなら、その瞬間、あなた方の魂は物質主義から解放され、あなた方の心は善を理解するからである。その時、あなた方の全存在は、父に近づかなければならないという必要性を感じ、霊的な面でも物質的な面でも、私の助けなしには偉大な業を成し遂げることはできないと確信するのだ。

59. あなたがたは、疑念に苛まれた心で私のところへやって来た。なぜなら、長い間真理を探し求めてきたものの、それを見つけることができず、私の言葉を聞いたとき、最初は疑ったからだ。しかしその後、信仰が生まれ、あなたがたは、自分の肉体や物質的な生活以外の世界に何が存在するのかを知りたがった。あなた方は、それらの霊的な賜物を理解したいと願い、今持っている肉体は死後、土の中に残る一方で、魂は生き続けると確信するようになった。なぜなら、あなた方は単なる物質ではないと告げる声が聞こえるからだ。

60. そして、あなた方は自問する。「魂とは何なのか？ それはどのような形で生きているのか？ 魂が永遠に生きるべき世界へと入っていくために、私たちはそれをどのように準備すべきなのか？ 魂はどのような成長を遂げなければならないのか？ そして、魂は他の霊的存在たち、さらには神そのものと、どのような関係を持つことになるのか？」

61. あなたがたはこれらすべての問いを自らに投げかけてきた。その関心——後にますます精神的な 必要性へと変わっていったその関心——が、あなたたちをここに引き寄せたのである。そして、あなたがたは、声の伝達者の口から聞いた言葉が、自分の心を深く揺さぶったことに気づいたのだ。

62. あなたがたは、誰かに強制されて来たわけでもなく、また騙されて来たわけでもありません。あなたがたを眩惑したのは、見せ物や華やかさなどではありませんでした。なぜなら、あなたがたはこれらの場所を質素で控えめなものとして見つけたからです。それは、わたしの言葉の輝かしい光だったのです。

63. 私がすでに「第二の時代」において、「召される者は多いが、選ばれる者は少ない」と告げたことを思い起こしても、悲しむことはない。なぜなら、真実を言えば、選んでいるのは私ではないからだ。私はすべての人を呼びかけ、私を愛し、私に従おうとする者たちが私のそばにとどまるのである。呼びかけられたあなた

がたが、私に従う者たちの一員になりたいと願うなら、粘り強くあり続けなさい。

64. わたしの言葉と啓示は、すべての人々のためのものです。ある者は早く理解に達し、ある者は遅く理解に達しますが、すべての者が最終的にそこに至るでしょう。

65. 人間は、自らに与えられた自由意志に基づき、理解できる道、あるいは従うのが最も容易な道を自発的に選ぶものである。私はすべての人に呼びかけを送るが、最も準備の整った者こそが、最善の道を選ぶのである。

同様に、私の言葉を聞くためにやって来る者、その呼びかけに耳を傾け、私の教えを聞いて身震いした者もそうだ。その者は、教えの中に求めていた真理を見出し、二度とそこから離れることはないだろう。こうした者たちは、人間によって建てられた教会の見せかけや栄光を必要としない。なぜなら、それらはもはや彼らに祈りや信仰のインスピレーションを与えないからである。彼らは、人間が霊化を達成した時点で、そうした教会が不要になることを知っている。その準備とは、完全性への呼びかけであり、それはすなわち私の神性そのものであり、彼に近づき、彼を清めるものである。そうして私は彼の心に宿り、彼と私の御霊との間に真の霊的交わりを築くのである。

66. もしあなたがたが、ほんの一瞬でも物質的な側面を完全に脱ぎ捨てることができたなら、来世の光に包まれていると実感したとき、あなたがたの魂は至福に満たされるでしょう。この光こそが、私の神聖な光線を通じて、限られた形であなたがたに届いているのです。私が自らを制限するのは、あなたがたに私の存在を実感してもらうためである。なぜなら、私は普遍的な力、創造、権能、光、そして生命そのものであるため、全力をもってあなたがたの元へ訪れることはできないからだ。

67. あなた方を照らす太陽から、生きるために必要な光線だけを受け取るのと同じように、私もこう言います。もしこの力を乱用すれば、あなた方は自らを傷つけることになるでしょう。なぜなら、その力はあなた方のような被造物にとってはあまりにも大きく、強すぎるからです。

68. 霊的な世界でも同じことが起こる。あなたがたは、神性から自分の魂に必要な部分だけを用いなければならない。受け取るその一筋の光の中に、心の琴線に触れるインスピレーションを感じるための全力を持ち、また、自分の使命を果たすための知性と理解

力を与えてくれる光があることを自覚して。その中に、神と人間との間に存在するべき調和を見出すことになるだろう。

69. 私がこれを語る理由は、あなたがたがこの啓示を理解し、魂の本質を高め、あなたがたの知性がある世からのインスピレーション——あなたがたがどのように生きるべきかを教える高き御旨——を受け取れるように助けるためである。そうすれば、あなたがたの最も小さな部分が、あなたがたが覆いとして持っている肉体であることを理解するだろう。

70. 私は太陽のようで、あなたがたはその太陽からの火花のようなものです。あなたがたは、自らの能力を開花させ、功績によって成長できるよう、小さく創造されたのです。あなた方はもともと純粹でした——しかし、その純粹さは、後に試練や罪によって汚されてしまいました。なぜなら、あなた方は、意志の努力によって上へと発展し、その道において功德を積み、実りを得るために、ある道に置かれたからです。

もしあなたがたが常に天の高みに住んでいたとしたら、上へと発展するためにどのような努力をしたのでしょうか。もしあなたがたが最初から偉大であったなら、自分を開花させたいというどのような渴望が、あなたがたの中に存在し得たのでしょうか。もしあなたがたが最初から完全であったなら、私はどのような功績に対して、あなたがたに報いることができたのでしょうか。しかし、あなた方はこの地上にやって来て、そこで完全さや善とは正反対の感情を発見した。あなた方は、悪へと誘う誘惑、肉の弱さ、世の誘惑を経験した。そこで、その性質が自分とは異なる肉体の殻の中に、魂の葛藤が始まったのである。魂は——当初、自分を取り巻く世界や自然によって混乱させられ——無気力に陥り、肉体が地上の条件や肉欲に従って成長し、作用することを許してしまった。

71. そこで、魂が地球に繰り返し降りてくる必要があった。それは、あるものは他のものより 完全であり、あるものは他のものより寿命が長く、すべてが異なる性向を持つさまざまな肉体を通じて行われた。それは、魂が自分自身についての認識を形成し、知識と高みを得るためであった。こうして徐々に、現在の時代が到来することとなった。この時代において、魂は人類の中での自らの未来を単に理解するだけでなく、実際に知ることになり、また、魂を待ち受ける霊的な生活についても知ることになるのだ。生という闘いの最中に深遠な悟りを得た者は、その発展のために新たな地上の肉体を必要としなくなる。なぜなら、その者は霊的な生命の世界に住むことができるようになるからだ。こうして、その者は段階

を一つずつ踏みしめながら、完全性への階段を登り続け、やがて私の元へとたどり着くのである。

72. あなたがたの使命はこれほど偉大であり、あなたがたの靈魂はわたしに似ているというのに——どうして偶像崇拜に陥り、自分の手で像を作り、その中にわたしを崇拜することができるのか。なぜ、むしろ自然の中で私を称賛しないのか——あなたがたは靈的な領域にまで踏み込む術を知らないのだから——そして、その栄光を仰ぎ見ることによってインスピレーションを得、あなたがたが一步一步踏み出すたびに湧き出て躍動する生命に、私があなたがたの世界を飾った無数の美しさと驚異に、大空には、あなたがたには知られざる何千もの世界が輝き、そこから生命と法則と従順が語りかけている。そこから、愛の祈り、感謝、そして信仰の告白を形作ってはどうか？

73. これこそが、あなたがたの時代である、おお、魂たちよ！目を覚まし、立ち上がり、わたしのところへ来なさい！

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 221

1. 民よ、今、私はあなたがたの心の最も繊細な琴線に触れ、あなたがたを準備させ、私の教えを受けるにふさわしい者とする。
2. 今、私はあなたがたに、神の母について語ろう。その御霊は、崇高な使命を果たすために、第二の時代に人間となったのである。
3. マリアは、その徳、模範、そして完全なる神性を明らかにするために遣わされた。彼女は、人間の中にある他の女性たちのような女性ではなかった。彼女は、他とは異なる性質を持つ女性であり、世界は彼女の生涯を見つめ、彼女の考え方や感じ方を知り、彼女の魂と身体の清らかさと優雅さを知っていた。彼女は、質素さ、謙虚さ、無私無欲、そして愛の模範である。しかし、彼女の生涯が当時の人々や後世の人々に知られていたにもかかわらず、彼女の美德や処女性を認めない人々は多くいます。彼らは、彼女が処女でありながら母でもあったという事実を説明することができません。その理由は、人間が本来、不信仰であり、目覚めた精神をもって神の御業を判断することができないからである。もし聖書を研究し、マリアの受肉や彼女の先祖たちの生涯を深く探求すれば、やがて彼女が誰であるかを理解するだろう。
4. マリアはその本質において神聖であり、その霊は父と子と一体である。それなのに、なぜ人々は彼女を人間的な基準で判断するのだろうか。彼女は、太古の昔から「神の言葉」が受肉する純粋な被造物として人類に予告されていた、選ばれた娘であったではないか。
5. それなのに、なぜ人間は冒涇し、私の力を疑い、敬意も払わずに私の業を探ろうとするのか。その理由は、人間が私の神聖な教えに深く入り込んでおらず、聖書が何を語っているかを熟考しておらず、また私の御心に従順になっていないからである。
6. 今日、「第三の時代」において、人間はマリアが人々に現れることについても同様に疑いを抱いている。しかし、私はあなたがたに告げる。彼女は私のすべての御業に参加しているのだ。なぜなら、彼女は私の神聖な御霊に宿る、最も慈愛に満ちた愛の体現者だからである。
7. 私はこの真理の証拠をあなたがたに与え、あらゆる時代の預言者たちがマリアを「普遍の母」として証言することを許してきた。今日、この賜物を持つ者たちは、象徴やたとえ話の中で、マリアが自らを現すのを見てきました。あなたがたは、あなた方を優

しく包み込む彼女の母性的な影響力、あなた方の苦しみを和らげる彼女の励ましと慰めを身をもって感じ、また、彼女の執り成しが、多くの危険からあなた方を守ってくれたことを直感しています—— 科学に導かれ、世界が息をのむような勢いで様々な道へと進み、物質主義や虚栄心、快楽が人々を真の道から逸らしてしまったこの時代に。

8. それゆえ、わたしはわが民の心に呼びかけ、彼らを教え、その後、この福音を伝える使者として送り出すのである。

9. わたしの使徒たちは、常に拒絶されてきた。しかし、心配するな。全能者はそのしもべたちと共にいるからだ。わたし自身も誤解された。なぜなら、すべての人がキリストの中に神の臨在を認識できたわけではなく、ただ彼を預言者あるいは悟りを開いた者として見ることにしか応じなかったからである。

10. 私は、自らの生涯、超人的な業、そして超人的な死を通じて、自らについて証しをなさなければならなかった。そして、その真理を前にして、心に燃えるような信仰を抱き、私の教えを証しする者たちが大勢現れた。

11. 私は死んだにもかかわらず、あなた方を離れることはなかった。なぜなら、犠牲の死の後、私は霊的に満ち溢れる命をもって自らを現したからである。私は「霊の谷」においてわが民のもとへ赴き、そこで彼らを準備し、わが光で包み込み、清らかさの白い衣をまとわせ、再び人間となるためにこの世へと送り出した。しかし、わが民の諸部族を一つに結集する時が到来し、そこで私は彼らをこの地の片隅へと招いた。なぜなら、あなたがたは真にイスラエルの民であるが、血筋によるものではなく、霊的な意味においてであるからだ。わが王国はこの世のものではなく、また、あなたがたの永遠の故郷も地上にはない。

12. あなたがたの王であり主である方が、人間の墮落に対して謙虚さと愛に満ちて降りて来られ、第三の時代の光に対して死んでいる者たちに教えをもたらしておられるのを見よ。

13. もはや偶像崇拜の中でわたしを探してはならない。狂信的な方法でわたしを愛する時代は終わったのだ。太古の昔から、わたしはあなたがたの中に存在するこうした邪悪な傾向と戦い、祈りを通じて、わたしの霊との直接の対話をあなたがたに啓示してきたのである。

14. 過去の聖典は、私が今日、あなたがたのために繰り返していることを明らかにしてくれたはずである。しかし、人間は私の真理を改ざんし、歪曲して広めることを敢えてした。その結果、今

やあなたがたは、精神的に病み、疲れ果て、孤独に陥った人類を目の当たりにしている。

15. それゆえ、私があなたがたが混乱に陥ることを望まないからこそ、私の呼びかけが伝達者を通じて聞こえるのである。

16. 私が今、あなたがたに示している道を進む中で、あなたがたは、私がかつて教えたあの御方を見出すことができるだろう。なぜなら、それらはすべて、まさに同一の存在だからである。

17. 人々は、正義と真実、慈悲と愛を渴望しながら、その道を歩んでいる。彼らは人間の無関心ゆえにつまずき、転んでいる。しかし、第三の時代にこの声を聞いた者たちは、私の臨在を感じ、私の霊的な本質によって、飢えと渇き、そして痛みを癒やされたのである。それにもかかわらず、私の啓示を目撃した者たちの中には、神が罪深い人間を通して自らを現すなどあり得ないと考え、それを否定する者たちがいる。

不信仰者たちに、私はこう告げる。神性の最も純粋な光は、人間の罪深さによって曇ることはない。なぜなら、私の光は人間の善行や悪行をはるかに超えた無限のものであり、さらに私は、暗闇に住む者たちに光をもたらすために来たからである。

18. 罪人のもとを訪れ、その心を慰め、父の温もりを感じさせ、永遠のいのちのパンがもたらす至福の味わいを知らせることは、神聖な喜びである。

19. わたしに耳を傾け、自分たちが主の民であることを知っているあなたがたよ——父が世の初めからあなたがたに命じた使命を、これまで果たしてこなかったこと、律法を隠蔽し、その道を苦しみで埋め尽くしてきたことを悟りなさい。しかし、苦しみや運命の試練は、あなたがたに痛みを知らしめ、それによってあなたがたの姉妹である人類を理解し、愛することができるようになったのである。

20. わたしの言葉は普遍的なものである。しかし、それが全世界に聞き届けられないのは、人々の目を暗い目隠しのように覆う物質主義のせいであり、また、神の言葉を聞き取るための感受性を、あなたがたの霊的な耳が失ってしまったからである。

21. 危険な時代があなた方に迫っている。計り知れない苦痛、悲惨、そして悲嘆を伴う戦争が、再び人々を震撼させるだろう。人々の思考と感情は動揺に陥り、これらすべてが、人類に対し、私の愛と正義の法則に対する従順の欠如を突きつけることになるだろう。しかし、慈愛に満ちた父である私は、この混沌に立ち向かい、

平和と救いの夜明けの光のように、大空に私の光を輝かせるであろう。

22. わたしは、あなたがたが明日、世の光となり、隣人たちの間に命と糧、憐れみと愛をもたらし者となるよう、あなたがたを備えさせている。

23. わたしの御言葉の奥深くに入りなさい。そうすれば、その真意の中にわたしを見出すことになるだろう。

24. 魂にとっての光であり平和であるわたしの言葉が、この瞬間にあなたがたの心に降り注いでいる。わたしの光は、「三つの時代」においてわたしの神聖な啓示を受け取ったこの民を切望している。

25. イスラエルは眠っていたが、突然、私の到来を告げるしるしが現れ、彼らを目覚めさせ、動揺させ始めた。私は人々の間に現れ、彼らのために新しい時代を切り開いた。

26. 私は、過去の時代よりも包括的な教えを新たな教えとしてもたらしした。それは、人々の知性により大きな受容力があり、魂がより高度に発達しているのを見出したからである。

27. 私が地上の諸民族の中から一つの民を選んだという事実を、特別な優遇と受け取ってはならない。私は、すべての子供たち、そして彼らが形成した諸民族を、等しく愛しているのだ。

28. どの民族も、地球に一つの使命を携えてやって来る。そして、「イスラエル」が担う使命とは、人々の間で神の預言者となり、信仰の灯台となり、完全性への道となることである。

29. 私が太古の昔からあなたがたに与えてきた預言や啓示は、人類がそれらを理解できる時がまだ来ていなかったため、正しく解釈されなかった。

30. かつて「イスラエル」は地上の民であったが、今日では世界中に散らばった人々であり、明日には、神の民は、父と共に完全な調和の中で神の家族を形成するすべての魂から成るようになる。

31. わたしの言葉は、人々を未知の、より高次で美しい人生へと導く「知恵の書」である。人はその真髄を知り、その霊を通じて、かつては測り知れない神秘のように思えた啓示を理解するようになるだろう。しかし、その時が来れば、父はそれらを人々に明らかにしようとしておられたのである。

32. あなたがたは霊的な教えを求め、それを愛するようになるだろう。そして、この理想に向かって努力するにつれて、地上の歩みが軽やかになっていくのを感じるだろう。過ぎゆく一時間、一

日、一年ごとに、あなたがたはこの時代の頂点へと近づいていくのである。

33. 私は、もはや私の言葉が聞かれなくなったとき、あなたがたが混乱に陥らないよう、惜しみなく言葉を授けている。私は、その日が「最初の者たち」と「最後の者たち」を、準備もできないまま不意に襲うようなことは望まない。もしあなたがたが私の指示を理解し、それに従うことを知っていれば、その後、どれほどな確信を持って、自らの使命の遂行に専念できることか！

34. あなたがたは、今もなおあなたがたの生活と礼拝を覆い隠している多くの慣習を捨て去らなければならない。あなたがたは、私の中に存在する神聖な書物を読み解くことを学べるよう、自らの存在を高めようと努めなければならない。

35. 私は、心よりもむしろ霊に語りかける。なぜなら、高揚と永遠の意味を理解できるのは、霊だからである。しかし、この地を自らの「永遠の」住まいとし、その中で名声、栄誉、快楽、権力を求めている者たちには、私はこう言います。「あなたたちの世界を見てごらんなさい。それは苦痛に揺さぶられ、悲嘆と悲惨に満ち、利己的で虚栄に満ちた科学の欺瞞的な光に照らされているではないか！」

36. 人々の生涯全体とすべての行いは、こうした瞬間に裁かれる。自然さえも、その要素を通じて魂に迫り、心に語りかけるのである。

37. わたしはあらゆる被造物に、その使命の成果がいかなるものであるかを問う。永遠なる御方に対するその答えは、どのようなものになるだろうか。そして、この時代にわたしの声を聞き、わたしの言葉の一つひとつが使命であることを知っている人々の群れよ——その時が来たとき、あなたたちは何と答えるつもりなのか。

38. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしは、誰もが裸のまま、汚れをまとい、あるいは惨めな姿でわたしの前に現れることのないよう、一人ひとりに必要な時間を与えている。わたしは、あなたがたが人生の逆境や大きな試練、誘惑に打ち勝てるよう、強靱な姿でいることを望んでいる。

39. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは自分が思っている以上に強い。しかし、すべての人間が備えている内なる魂の宝を発見できるよう、さらに深くわたしの教えに踏み込まなければならない。

40. あなたがたは、対立を解決し、闇を追い払い、光をもたらし、悪を排除し、善を引き寄せることができる。

41. 武器を手に取り、それをもってあらゆる敵対を打ち破ることを知る者たちは、「神の兵士」と呼ばれるだろう。より発達した魂たちは、自然と弱い兄弟姉妹たちを守り、彼らもまた、どの心のもとに身を寄せればより安全であるかを直感するようになる。

42. 人の偉大さは、もはやこの世の所有物や肩書き、あるいは服装によって測られることはなくなる。貧しい者の中にも、その成長と 霊化によって高みに達した魂が存在し得るものであり、その中には人類に永遠の真理を啓示する者が多くいるだろう。

43. あなたがたがわたしと一つになるこの時は、あなたがたにとって霊的な歓喜の瞬間である。なぜなら、あなたがたはわたしの言葉の啓示と使命を受け取る準備を整えているからだ。あなたがたの魂は、この教えの真髄を受け入れ、それを理解するために清められている。

44. あなたがたの中には、私を聞き入れようとする者もいれば、私を認めようとしないうちに固執する者もいた。しかし、私はこれらの弟子たちが目覚めるのを辛抱強く待っている。私は戦士としてやって来て、魂たちを勝ち取るための戦いに身を投じた。なぜなら、彼らは私の子供たちだからである。 彼らの反抗心を打ち破るのは、厳しさではなく、私の愛と忍耐である。私は、あなたがたに私を見、私を認識し、私を愛し、あなたがたが私が注意深く統治する宇宙の中に生きていることを知り、私があなたがたのために定めた正義の道を歩まなければならないことを理解してほしいと願っている。

45. わたしはあなたがたに律法を与え、あなたがたの良心が告げることに基づいて、その律法に従うことを期待してきた。 私は、あなた方を私のようにするために、独自の意志、自由意志、能力を与えたので、私の意志を強要したわけではない。しかし、もし私の願いを知りたいというのなら、私は今、あなた方が正義の法則の範囲内で、過ちを犯すことなく注意深く歩む姿を見たいと願っている。そうしてこそ、あなた方は子孫に良き種、明確な手本、輝かしい道を遺すことができるのだ。

46. 今日、あなたがたの完成のために私が残すこの教えは、私の知恵が込められた「私の言葉」という書物の一部を成しており、それは、理性や心よりもむしろ霊によって、深く学び、感じ取られるべきものである。

47. 人々の魂には、霊性への目覚めが乏しいがゆえに、多くの貧しさがある。 そこから、悲しみ、見捨てられた感覚、飢えが生まれている。私がこれほど深く愛するこの人類は、知恵と純粋な

本質によって養われなければならない。そして、神の言葉だけが彼らを強めるのである。人類が、私を聞いた民の証しを受け取るためには、あなたがたが使命を果たすための準備と献身を待つ必要がある。

48. 私は、あなたがたの働きが善行に満ちたものとなるよう、御霊をもって働くことを教えた。私は、距離が遠すぎてあなたがたの足が踏み入れられない場所であっても、あなたがたの霊がメッセージを届け、に危険にさらされている民族や国家の状況、苦しみが蔓延している家庭、あるいは慈悲を懇願する病人の状況を改善することができる、とあなたがたに告げた。これらすべてを、あなたがたは私の名において行うことができます。私がそれを許すのは、あなたがたが私に対してより大きな功德を積めるようにするためです。

49. 霊にとって、乗り越えられない距離など存在しない。あなたがたは、隣人たちに祈りや善意の願いを送ることができる。そして、他者に善意のメッセージを送りたいという願いを妨げるような障害に遭遇することはないだろう。

50. あなたがたの霊は、今や、より高みへと至る時期が近づいていること、そして自らの賜物の真の意味を完全に理解しなければならない時期に入ろうとしていることを予感している。

51. 私があなた方に授けるべき最後の教訓を、私自身も受け取らないまま、あなた方を置き去りにするつもりはない。この時代における私の業を、最初の一步から最後の一步に至るまで、あなた方に明らかにしてやる。そうすれば、あなた方は、愛の行いを通じて、人類の眼前で私の言葉の証しを示すことができるようになるだろう。

52. 私があなたがたに祈りを教えたのは、あなたがたが私とつながりを持ち、試練の瞬間にあなたがたを照らす私の靈感を受け取れるようになるためである。なぜなら、人々は現在経験しているものよりもさらに大きな混乱に陥ることになるからであり、それゆえ、あなたがたはすべての同胞のために祈ることが必要なのである。

53. 私は人類の歴史を記している。この書物には、あなたがたがこの世で行ったすべてのことが記録されるだろう。あなたがたは従順と忍耐の模範を示したいのか、それとも不従順と反抗の遺産を残すことを選ぶのか。

54. あなた方の多くは、過ちを償うために再びこの地上に戻る機会を得られないだろう。あなた方は、今日持っている、そして

頼りにしている「道具」であるこの肉体を、もはや持ち続けることはできない。魂にとって、この世に生まれることは特権であり、決して罰ではないということを理解しなければならない。だからこそ、あなた方はこの恵みを活用しなければならない。

55. この人生を終えた後、あなたがたは新たな教訓を受けるために他の世界へと旅立ち、そこでさらに高みへと昇り、自己を完成させるための新たな機会を見出すことになる。人間としての義務を果たしたとき、あなたがたは使命を全うしたという満足感とともにこの世を去り、魂には平安が訪れるだろう。

56. この時代、私があなた方を遣わしたのは、単にあなた方が自らを救うためだけではなく、私があなた方に、現世に いる者たちや、すでに転生を終えた者たちからなる大群を託し、あなた方がその導き手であり守護者となるべきだからである。

57. あなたがたは、私があなたがたに与えたのと同じ純粋さをもって、すべての人に私の言葉を伝えなければならない——その外形は簡素であっても、その核心は深く、内容豊かで、教養のある者であれ、ない者であれ、すべての人にとって啓示に満ちたものでなければならない。真理を求めて世界で激化する大きな争いの後、私の教えが勝利し、唯一の世界観が定着するだろう。人々の神への礼拝の形式は、霊的なものとなるために簡素化されていく。あなた方はあらゆる道を学び、私のもとへ至るための最短の道を選んだことになるだろう。

58. 私の業は、私の再臨を待ち望み、犠牲を払って生きてきたすべての人々の努力を報いるものである。それは、人間がまだ理解できなかった多くの秘密を解き明かし、善と正義を愛する者たちの手に強力な武器となり、人々の心を喜びで満たすであろう。

59. あなたがたは、偉大な「君主」たちが私の教えに改心し、その支配やこの世の権力を捨てて、決して滅びることのない「霊」の支配を得る様子を目撃することになるだろう。同様に、かつては傲慢と虚栄にまみれて誇示していた教会が崩れ落ち、やがて私の謙遜の足跡に従うようになるのを見るだろう。飢え渴く者たちは、私の言葉の最後の一語に至るまで、真理の御霊、慰め主、そして人々の魂の中に御国を再建するために勝利のうちに帰還される主を、貪るように求めるようになる。

60. これらすべてが起こる前に、あらゆる欺瞞と偽りが烙印を押されることになる。あなたがたはもはや偽りを許容することはないだろう。真理を含まない書物は消え去り、私が入々に託し、太

古の昔から彼らの魂に刻まれてきた、ただ一冊の書物だけが残るだろう。

61. 人類が危機に瀕するたびに、私は彼らを救うためにやって来た。今日、私は私の民を準備させている。それは、数多くの争いに巻き込まれ、自ら立ち直ることのできない混沌に陥ってしまったこの人類の防壁となるためである。この試練が終われば、平和の虹が輝きを放つだろう。

62. その時に、あなたがたのうち誰が地上にいるだろうか。誰がこの平和の時代を目撃することになるだろうか。まことに、あなたがたに告げる。その日はもはや遠くない。そしてその時、この世界は、来世に存在する約束の地の姿となるだろう。

63. あなたがたの起源であり、存在の目的である愛は、すべての人の心に宿り、そこから、私のもとへと届く、素朴で純粋な神への崇拝が湧き上がるだろう。

64. あなたがたは明日について考えず、静かに事態の展開を待っている。あなたがたは、師がその業を守り抜いてくださると信頼している。しかし、私がその業によって救おうとしているのは人間であることを、あなたがたは忘れてはならない。私は常に人間の敵に立ち向かってきたが、その敵とは、人間の虚栄心、利己心、世俗への愛、物質主義である。私は、あなたがたがこの戦いで無敵の戦士となり、今日あなたがたの中に宿る悪を食い止め、滅ぼすことを望んでいる。

65. 浄化の水としての悔い改めが今、魂を清め、光、すなわち私の戒めへの認識が魂に浸透している。善き決意が芽吹き始めた。

66. わたしは、わが子らのすべての行いと善き思いに祝福を与える。

67. わたしは、あなたがたに欠けているものを与えるためにやって来る。あなたがたの魂を養うために、わたしが自らを現すために用いるそれらの被造物たちが、一体何を与えられようか。彼らはあなたがたと同じようにわたしの似姿であり、わたしの美德をその内に宿しているとはいえ、霊のパンをあなたがたに差し出すことはできないのだ。彼らを、私が人間と結んだこの啓示の形態のための、単なる私の道具としてのみ見なしてください。

68. 「イスラエル」の魂は発展してきた。とはいえ、完全な霊化には至っておらず、私が人間に理解されるよう、人間の知性を通じて聞き取れる言葉で教えを授ける必要があったのだ。

69. 私の受肉した「言葉」であるイエスが人々に自らを現した時代は過ぎ去った。彼は今や、今日の「声の伝達者」たちの模範であり、彼らが彼に倣うならば、大きな影響力を得て、大勢の人々が彼らに従うことになるだろう。

70. 時代を超えて消えることのない文字で記された私の業を、すべての人が理解したわけではない。それゆえ、私はあなたがたに近づき、過去の時代の私の教えを理解し、現在の啓示を学ぶ手助けをする。民よ、自らを解放せよ。もはや、いかなる隷属も、いかなる束縛も存在してはならない。愛し、信じ、考え、そして世界全体の幸福のために働く自由を得よ。

71. あなたがたは、自分たちの中に私との類似点を探し、それを認識しなさい。そうして、力強い業を成し遂げ、隣人への愛の行いの中に、私の姿が映し出されるようにしなさい。それに対して、もしあなたがたが正しい道から逸れるならば、あなたがたは創造主から遠ざかり、私の霊があなたがたの行いの中に現れることを許さなくなるだろう。そうなれば、あなたがたは私が与えた力を制限し、方向を見失い、どこから来て、どこへ向かっているのか、そしていつ私のもとへ帰ることになるのかさえ分からなくなってしまいうだろう。

72. 人の霊は飢えており、欠けている糧を宗教や世界観、あるいは教えの中に求めている。その霊は父の呼び声を感じず、どこで父を見出せるのかを知らない。私は山の上からその霊に語りかけ、彼が上へと発展することを学び、私の霊との直接の対話を得られるようにした。

73. わたしはすべての人をわたしの住まいへと招く。しかし、わたしを求める術を知らない者が多いため、わたしはわたしの顕現を直接認識できるようにした。良き羊飼いとして、わたしはわたしの懐である囲いを明らかにし、その中に魂たちが安らげるようにする。

74. わたしのもとへ戻る道のために、わたしはあなたがたに必要なものをすべて用意してあげる。わたしの言葉の真意をしっかりと捉えなさい。そうすれば、その言葉の中に、必要な知識と励ましを見出すことができるだろう。

75. 誰をも排除してはならない。あらゆる道には善意の人々——わたしを愛し、わたしの賜物を受け取ることを知る魂たちがいる。常に、「互いに愛し合いなさい」と告げるわたしの戒めを心に留めておきなさい。

私の平安が、あなたがたと共にありますように！

教え 222

1. あなたがたは、師の別れが間近に迫っていると感じ、私の慈愛に満ちた言葉に慣れ親しんでいたがゆえに、ひそかに涙を流している。しかし、私はあなたがたに告げる。私は、まずあなたがたに最後の教えを授けることなく去ることはない。そうすれば、あなたがたは私の教えを伝える際に戸惑うことはないだろう。

2. 苦痛に満ちた大きな試練が迫っている。その苦難の時間に、あなたがたの祈りは大きな力を発揮するだろう。霊的な働きにおいて団結し、私の指示に従いなさい。なぜなら、私はあなたがたの過ちや不従順が「黄金の書」に刻まれることを望まないからだ。

3. この時代、召された者の数は多かった。私があなたがたの中に現れるたびに、新たな心たちがやって来て、あなたがたの列を広げていく。彼らは墓のようなものである。なぜなら、その内側に、自らの心という死者を宿しているからだ。

4. しかし、苦しみは魂を清める。それゆえ、多くの者はもはや転生することはないだろう。彼らは他の生命の世界へと旅立ち、父が彼らに命じる任務に専念することになる。

5. 私はあなたがたの再生を助ける。そうすれば、あなたがたがこの世から離れるとき、過ちを償う必要はなく、あらゆる汚れから清められた状態で、至高の審判者の御前に立つことができるからだ。

6. あなたがたが隣人に対して行うことはすべて、私に対して行っているのだと理解しなさい。なぜなら、あなたがたは皆、私そのものの一部だからです。このことを決して忘れず、すべての隣人の中に、あなたがたの父を見出せるようにしなさい。

7. 人々は結局のところ、他者に苦痛を与えることに喜びを見出してしまう。しかし、遅かれ早かれ、後悔という容赦ない審判者が現れ、あなた方を裁き、清めることになる。

8. もしあなたがたがこの時代に、自らを新たにし、隣人を救うという崇高な使命を果たすならば、明日には、最も遠い地でさえも、あなたがたの名前とわが民の名前が、敬意と感謝を込めて語られることになるだろう。

9. 私が去った後、正当に私の弟子と名乗れるという満足感を、決して手放してはならない。しかし、諸地方、都市、村々に身を現し、私の『第三の聖書』の福音を伝え、善行をもってそれを証しする準備をしておかなければならない。

10. この時代、一見するといくつかの人間の教義が勝利を収め、さまざまなイデオロギーが存在している。しかし、ただ一つの世界観が定着し、人類がただ一つの教えの下に団結する時が近づいている。そして、それがスピリチュアリズムとなるだろう。

11. 自然の力は、人々が目覚めるよう導くであろう。そして、人々が私の真理を歪めようとするたびに、それらの力は私の正義を語り告げるであろう。

12. わが業は、聖職者たち、そして地上の王や支配者たちの元へと届き、あなたがたは彼らがわが神性の前にひざまずくのを見るだろう。その時、多くの書物が炎の中に消え去り、わが「黄金の筆」が、わが口述に従って将来の世代のために書き記したその書物が広く知られるようになる。

13. 人々は本書を研究し、未来を知りたがって、こぞってこの書物を手に入れようとするだろう。なぜなら、人類は大いなる混沌を予感するからである。

14. 揺るぎなく希望を抱き続けなさい。この大混乱の後には、偉大な平和が訪れるのだから！ 繁栄は極めて大きなものとなるだろう。時には敵対的にさえ見える自然でさえ、四季折々の姿で愛らしく映るようになる。山々、谷、そして丘は、花々の華やかさと美しさを披露するだろう。木々は良質な果実で満ち溢れ、健康、幸福、そして平和が人々の生活を包み込むだろう。

15. 今日、地球はあらゆる不純物から清められ、新たな純潔さを取り戻そうとしている。

16. 災いが降りかかる直前に、私はあなたがたにその予兆を与え、夢の中で語りかける。それは、あなたがたが警告を受け、他の人々のために祈ることができるようにするためである。

17. あなたがたは、わたしの業に対する戦いの始まりをまだ目撃しておらず、目を覚まさなければならない。なぜなら、教養ある人々がそれに立ち向かってくるからだ。

18. もはや肉体の欲求にあまり心を奪われることなく、むしろ全人類の霊的な未来について考えなさい。

19. わたしの教えは全世界に広まるだろうが、それを広めるのは義務を怠る者たちではない。それは、その行いによって創造主の慈悲と愛を証しする、謙遜と霊性にあふれたわたしの新しい使徒たちである。

20. あなたがたが弱く、私から何も学んでいないことを、人類に見せてはならない。人々はあなたがたから多くを学ぶべきであることを悟りなさい。「主よ、私の中に御心を働かせてください」

と言いながら、試練の瞬間に反抗し、さらには私に不完全さがあるとさえほめかすような者たちのようになってはならない。

21. わたしは、何事も秘密に包まれたままにしておきたくないの、あなたがたの言葉で、平易に語っている。あなたがたの間にとどまるこの最後の数年間、わたしは多くの教えをあなたがたに伝えるつもりだ。ああ、たゆまぬ旅人として荒野を横断する、祝福されたイスラエルの民よ。ひととき立ち止まり、わたしの言葉を聞きなさい。わが家は、謙虚に門を叩くすべての旅人たちに門戸を開いている。飢えと渴きを癒やしなさい。そうすれば、あなたがたは二度と飢えや渴きに苦しむことはなくなるだろう。

22. あなたがたは今、試練の日々、浄化と償いの時を過ごしています。しかし、私はあなたがたと共にあり、試練の中で弱くならないよう助けるためにここにいます。あなたがたは、かつての時代と同じ民であるという確信を持って、力を得てください。すなわち、強く勇敢な民であり、難破した者たちのための救命ボートであり、良き旅の仲間であり、友人であり、兄弟であり、模範であるのです。今日、私があなた方に託した使命は、「愛すること」です。愛こそが、私があなた方の内に蒔いた種であり、それはすべての被造物の源であり、根拠だからです。

23. 私が知恵そのものであるとあなたがたが考えるならば——その知恵は愛から湧き出るものである。あなたがたが私を裁き手として認識するならば——その裁きは愛に基づいている。あなたがたが私を力ある者として見るならば——私の力は愛に根ざしている。私が永遠であることを知れば——私の永遠性は愛に由来する。なぜなら、愛こそが命であり、命こそが魂を不死にするからである。愛は光であり、命であり、知恵である。そして、この種を私は太古の昔からあなた方に与えてきた——完全なる農夫として、あなた方の心という畑に蒔いた唯一の種である。

24. 今日、第三の時代において、あなたがたは再び主の畑へと向かい、見つけたその種を蒔こうとしている。しかし、すべての畑が簡単に種を蒔けるわけではないことを経験し、また、すぐに実を結ぶ畑もあれば、実を結ぶのが遅い畑もあることを目の当たりにしてきた。ある畑はまるで岩のように硬く、またある畑はアザミや雑草に覆われており、清らかで耕され、準備の整った畑はごくわずかでした。それらの畑をきれいにし、種を蒔くために、あなたは多くの労力を費やさなければなりませんでした。しかし、忍耐強く、信仰という水でそれらを潤し続けたなら、かつては不毛だった畑で、種が発芽し、成長していくのを見ることができ、あなたはそ

れを喜びました。かつては絶えずあなた方を拒んでいるように見えたあの畑は、今やあなた方の友であり、希望であり、あなた方の魂に平安をもたらしてくれました。そこにはあなた方の働き、熱意、そして献身があり、もはやそれらから離れることはできません。

25. 引き続き、それらの畑のために目を覚まし、祈り続けなさい。あなたがたが収穫する実によって、永遠に養われることができるのだから。しかし、その実を美味しく味わい、真の命をもたらしてもらうためには、あなたがたはそれを丹念に育てなければなりません。そうして初めて、種は植物となり、やがて広大な枝を広げた力強い大木へと成長し、旅人に心地よい木陰と豊かな実を授け、大勢の人々に命を与えるのです。そしてその後、その種は再び大地の心臓部へと戻り、そこで時の終わりまで、発芽し、成長し、実を結び続けるのです。

26. 私が弟子たちの間にいるとき、この真の霊的交わりの瞬間に、私の喜びはどれほど大きいことか。それは、父が子供たちの愛を感じ、子供たちが彼らを力づける父の口づけを受ける、幸福な瞬間である。それは、あなたがたが到着した後、私にこう言う瞬間である。「父よ、私たちはあなたの指示に従って働いてきました。しかし、私たちは完全ではないため、幼子のように柔和さと謙遜の心を持って御前に参り、現在のままの私たちの種をお見せし、神聖なる師よ、あなたが御愛と御知恵をもって私たちを導き、正し、そしてどのように進めばよいかを教えてくださいよう願うのです。私たちが何をして間違えたのかを示してください。そうすれば、あなたの助けを借りてそれを改善し、あなたの慈悲によって備えられた者として、いかなる功績も付け加えたり、差し引いたりすることなく、この働きを人類に提示することができます。」

27. そして、わたしはあなたがたにこう答える。「わたしを信頼しているあなたがたは、祝福されている。あなたがたは、死刑執行人や不公正な裁判官のもとに来るのではなく、愛と教えそのものである父のもとに在ることを知っているのだ。」

28. わたしは、あなたがたが備えを整え、最後の瞬間までわたしの言葉を活用し、1950年以降も人々の教師および導き手として残れるよう、さらなる教えを与える。

29. 世界は試練にさらされており、諸国は、彼らに降りかかるわたしの正義の重荷を痛感している。そして、あなたがたを呼ぶわたしの光、わたしの声が、全人類に感じられている。

人々は私の臨在を感じ、降り注ぎ、彼らの上に宿る私の普遍的な光線を感じ取っている。彼らは、この業*を知らず、私の言葉を

聞いたこともないまま、私を予感し、魂を私へと向け、「主よ、私たちはどのような時代に生きているのでしょうか？ 人々を襲ったこれらの試練と苦しみ——それらは何を意味するのでしょうか、父よ？」と私に問いかけている。あなたは、この世の嘆きを聞き取っていないのですか？ あなたは再び来られるとおっしゃらなかったのですか？ 主よ、いつおいでになるのですか？」そして、あらゆる信仰団体や 宗教共同体において、わが子らの霊は高まり、彼らはわたしを求め、懇願し、問いかけ、待ち望んでいる。しかし、準備不足のためにわたしを感じ取ることができないとき、彼らの信仰は弱まり、彼らは混乱し、冒瀆するようになる。

しかし、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたの使徒たちがすでに、あなたがたの国の国境を越え、わたしの教えの先駆者として彼らのもとへ赴き、彼らに福音を伝え、人類が直面している試練の意味や、混沌の理由を理解できるよう助けていたはずの時期が、とっくに訪れていたのだ。

**1866年にメキシコで先駆者エリアスを通じて始まった、言葉と霊的な形によるキリストの再臨時の啓示。*

30. 民よ、あなたがたは眠りにつき、その時間を無駄に過ごしてしまった。ただ、わたしの言葉の温かさを味わい、わたしの奇跡を受け入れ、絶えずあなたがたを慈しんでいたわたしの赦しの言葉を聞くことに留まり、あなたがたが平安を享受していたまさにその瞬間にも、何百万人もの同胞たちが、人生に迷い、信仰を失い、神も律法もないまま道を歩み、日々の糧も霊的な糧も欠いているのだ。

31. あなたがたが兄弟姉妹や子供たち、妻や夫と共に食卓を囲み、食事を楽しんでいる一方で、人間の情熱や権力欲に火をつけられた戦争によって家を破壊され、離散した何千もの家族がいる。多くの親が子供を失い、多くの母親が幼い子供たちに与える食糧を持っていない。長い間、愛する両親の顔を見ることさえできなくなった多くの孤児たちがいます——悲しみのあまり正気を失ってしまった未亡人たち、捕虜となった大勢の男性たちが、今まさに苦難の杯を飲み干しつつ、体を養うには不十分な一片のパンを口にしているのです。

32. 諸国が被っている肉体的苦痛は血なまぐさいものだが——今、魂たちが被っている苦痛が、それよりもどれほど大きいかを考えてみよ。まことに、わたしはあなたがたに告げる。彼らは今、最も苦い杯の酵母を飲み干しているのだ。

33. さあ、民よ、立ち上がり、祈りによって身を整えなさい。そうすれば、あなたの思いは平和の鳩となってそれらの国々に届き、それらの民に、光と理性と正義への門を開くことができるだろう。わたしは今、あなた方を準備しているが、その前に、あなた方を清めたいと願ったのだ。思い起こせ。わたしのもとへ至るために——あなたがたはどれほどの試練を乗り越えなければならなかったか、そしてどのような苦しみがお前たちの魂と肉体を苛んだか！ある者にとっては病気であり、またある者にとっては困窮であり、親族からの拒絶、見捨てられ、あるいは去りゆく者たちであった。あらゆる形の苦痛を、あなたがたは、最終的に自らを清めるために、まるで極めて苦い杯を飲むかのように飲み干した。あなたがたの心は、最も深い苦痛の中で開かれ、その苦痛があなたがたを清め、わたしを認識し、愛することができるようになったのである。

34. 善き羊飼いであるエリヤに導かれて、あなたがたは私のところへやって来たとき、私があなたがたをどうするつもりなのかを尋ねるために、非常に謙虚な心で近づいてきました。なぜなら、あなたがたは、私があなたがたの中で私の御心を成し遂げられるよう、謙虚に私に願ったからです。そして、私の御心とは、愛と赦し、そしてあらゆる形の慈悲を、あなた方に教えることでした。そのために、私はあなた方に霊的な賜物、能力、そして恵みの賜物を授けたのです。

35. あなたがたは、まだ私の神聖な教えの全貌を十分に理解できていないため、私は引き続きあなたがたの間にとどまっている。あなたがたはまだ戦いに備える準備ができていない。それゆえ、私は1950年の終わりまで、引き続きあなたがたに語りかけるつもりである。

36. この教えは、わたしの選民だけでなく、地上のあらゆる民族を救うものである。わたしは、わたしの子供たちをあらゆる隷属や束縛から解放し、彼らが自らの主人であると感じられるようにし、無知や狂信の束縛に再び陥ることのないようにする。そうして彼らが完全な解放を達成したとき、彼らは同胞を解放する取り組みに着手することができる。今日、あなたがたは依然として、霊的なものも人間的なものも問わず、自らの慣習や礼拝の儀式を清めている。その後、あなたがたは人類の間で同じ働きを行わなければならない。しかし、私はあなたがたに、精神的な高揚を誇示することなく、謙虚に、そして、真の愛によって行いの中に込められた意図の純粹さを明らかにする柔和さをもって、それを行わなければならないことを指摘しておかなければならない。

37. 揺るぎない決意とわたしへの信頼をもって、あなたがたの使命を全うし、かつて行わなかったすべてのことを行いなさい。そうして、あなたがたの業を完遂して後世に残し、ついにあなたがたを待ち受ける霊的な完成に到達できるようにするためである。

38. もしこの世界がこれまで「涙の谷」であったとすれば、それは人間がわたしの律法から遠ざかってしまったためである。わたしは人間のために樂園を創り、多くの初期の霊たちが、天使であることをやめることなく、最初の肉体へと転生するよう導いた。私は、彼らが地上に降り立った際、その優雅さを失うことなく、平和と受容のうちに生きることを望んでいた。しかし、人間はそう望まず、その弱さと恩知らずさ、そして霊性の欠如が、苦痛と闘争に満ちた世界の礎を築いてしまったのである。

39. 男は日々の糧を得るために苦しみ、女は、その苦痛と不幸に満ちた道のりで彼を支えてきた。しかし、長きにわたり涙の谷であったこの世界も、あなたがた、すなわち私の最初の弟子たちが癒やされ、至る所へ赴いて善行をもって私を証しするようになれば、平和の谷となるであろう。

40. さまざまな発展段階にある魂を受け入れてきたこの惑星——その大部分は発展が遅れていた——は、やがてその懷に、私と霊と霊とで交わることができる、極めて高い発展段階にある存在たちを受け入れることになる。来るべき世代は、天の御国が人々の心に宿るまで、ますます清らかな心で生きていくことになる。

41. これらすべてを達成するために、あなたがたは自らの家庭の中で奮闘しなければならない。そうして、その家を愛と私の律法の教えの神殿とし、そこで親は子供たちにとって地上の私の代理人となり、子供たちは親にとって計り知れない価値を持つ宝石——愛をもって育てられなければならない繊細な植物——となるようにしなければならない。男性は、畑を耕す際や、自分に与えられた仕事において、旗手として自らの使命を果たすことを勇敢に掲げなければならない。女性は、男性の愛情深い伴侶であり、犠牲を厭わない母であり、そうして二人が子供たちと共に、彼らに糧を与えるパンを祝福するのだ。

42. あなたがたがどこへ行くにせよ、私の教えというパンを携え、謙虚に説教してほしい。なぜなら、あなたがたの生き様を見て、ある人々は好奇心を抱き、「これほど多くの愛と質素さをもって生きることを知っているこの人たちは、いったい誰なのだろうか」と自問するだろうからである。「たった一片のパンで満足し、

貧しさにもかかわらず健康で力強くあり、助言や健康を求めて科学者に頼る必要もない、この人たちは一体誰なのだろうか？」と。

しかし、もし彼らが最終的に「誰があなたたちを教えたのか」と尋ねてきたら、こう答えるがよい。「『霊』における神聖なる師である。その方は、かつてなされた約束を果たすために、第三の時代に私たちのもとに来られたのだ」と。

私は、あなたがたが自らの行いによって私を証しすることを望む。なぜなら、人類は言葉にうんざりしているからだ。あなたがたの同胞の中には、福音を説くことに苦心している者が多くいるが、——それは私が第二の時代にあなたがたに与えた言葉であるにもかかわらず——善行を実践し、模範を示すことを欠いていたため、この第三の時代の人類を救うことはできなかった。まさにこの言葉のために、私の使徒たちは命を捧げた。彼らは私を模範とすべきことをよく理解しており、自らの血をもってその使命の成就を確かなものとしたのである。

43. 今日、私はあなたがたに血を流せ、命を捧げよとは求めない。私があなたがたに求めるのは、愛、誠実さ、真実さ、そして無私無欲である。

44. こうして私はあなたがたに教え、そのことを通じてあなたがたを導き、この第三の時代に私の神性の弟子たちを育てている。なぜなら、私はあなたがたが世の成り行きを無関心に見つめているのを見るからである。それは、あなたがたが、これほど多くの悲惨と苦痛に満ちた人々の心に身を置くことを知らないからに他ならない。大きな不平等が蔓延している。なぜなら、王と名乗るために王冠さえあればよいような支配者たちを見、また、真の奴隷である被支配者たちを見ているからだ。そこから争いが勃発している。この世で富を築いた支配者たちの間には、自らをキリスト教徒と呼ぶ者が多くいるが、私はあなたがたに告げる。彼らは私の名をほとんど知らないのだ。

45. 隣人を隣人として見ず、富を蓄積し、他人の所有物を奪い取る者たちは、同情心を知らないゆえに、キリスト教徒ではない。霊的なものと物質的なものとの戦いが訪れ、人類はこの対立に巻き込まれるだろう。しかし、正義の勝利が訪れるまでに、人類はどれほどの苦しみを耐え忍ばなければならないことか！

46. 教義や世界観をめぐるこの争いの真っ只中で、私の教えは、まるで雷雨の真っ只中に灯台の光が現れるかのように、その威光を発揮するだろう。私の言葉に基づいて、人類を圧迫するであろう状況を理解しなさい。そうすれば、あなたがたはよりの確な判断

を下すことができ、ただ手をこまねいていないために何をすべきかを知るようになるだろう。

47. あなたがたが戦わなければならない唯一の霊的な宝は、わたしの律法であることを悟りなさい。あなたがたは、かつてわたしを崇拝するために用いていた象徴を、より完全な概念を取り入れるために犠牲にした。それにもかかわらず——見よ、今この時代においてもなお、諸民族が立ち上がり、かつてわたしが現れたあの土地や場所の所有権を巡って争っている。確かに、私は多くの象徴を消し去ったが、人々の偶像崇拝や狂信の理由は尽きることがない。私はあなたがたに告げる。来るべき世代が、今日の偶像（ ）の前にひれ伏す前に、私の正義がそれらを滅ぼすであろう。そして、私の正義の力に耐えうる唯一の柱となるのは、あなたがたの心の奥底に築かれた聖域——信仰、平和、そして兄弟愛の聖域——を支える者たちだけである。なぜなら、霊的なものは破壊され得ないからである。

48. そうして地球の準備が整ったとき、第三の時代において、わたしの霊的な教えは人々の心に穏やかに浸透していくであろう。その勝利は、血や侮辱によってもたらされるものではない。スピリチュアリズムは、相互理解を通じて定着していく。わたしの教えを暴力で押し付けようとする者は、誰も真理の戦士とはなり得ない。なぜなら、わたしの教えは物質的な征服という道を通ってやってくるものではないからである。

なぜなら、私が第二の時代に、あなたがたの心の中で統治できるよう準備していたときに、「私の王国はこの世のものではない」と告げたのだ。それなのに、今、私があなたがたの魂を高め、その中に統治しようとしているこの時に、どうしてその反対のことを言えるだろうか。私の教えは愛という土台の上に築かれている。しかし、あなたがたはこれを忘れてしまった。それゆえ、私は、忘れ去られた律法——あなたがたの先人たちが愛し、多くの殉教者や使徒たちがあなたがたのことを思いながら命を捧げたあの律法——を人々に思い起こさせるために、私が再び人々の間へ戻ってくる必要があると告げたのである。

49. あの時の私の犠牲だけでは不十分であったため、私は再びここ、あなたがたのそばにいます。新たな使徒たちが必要とされており、まもなく私は彼らに神の種を授けて送り出す。地の果てから果てへと吹き渡る風のように、私の教えは広まっていく。私の使徒たちは独りで行くわけではない。目に見えない存在たちの世界が、光の軍勢として彼らに付き添い、その道をさらに素晴らしいも

のにしてくれるだろう。そして、彼らはまことにすべての人々に聞き届けられることになる。

50. 弟子たちよ、あなたがたが同胞たちに私の教えを説くために旅立たなければならない時が来るまで、私から学びなさい。今から知っておきなさい。1950年が過ぎれば、もはやそのような恍惚状態に陥ることはない。その時には、私が教えた通りの心構えをもって、私へと想いを高めれば十分であり、そうすれば、光の言葉があなたの唇から溢れ出るだろう。私の靈感を受け取ることができるよう、あなたの霊的な賜物を開花させなさい。

51. 私がこの指針を与えるのは、あなたがたがそれを徹底的に研究し、その真意を把握するためである。それは、明日、あなたがたが周囲の人々に私の愛の教えを伝えなければならない時に役立つだろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 223

1. 私は、長い間道を外れて歩き続け、真の道を見つけるための努力を何一つしていないあなた方を探し求めて、ここへ降りてきた。

2. 師としての私の存在が、あなた方にとって欠けていた。それゆえ、私はあなた方のそばに身を置き、あなた方の魂の救いのために戦うための勇気、力、そして信仰を与えるために来たのだ。

3. 人類は大きな霊的な無知に包まれており、この地上における自らの使命や責任を自覚しておらず、それゆえに道から外れてしまったのである。

4. 人間は自分が何者であるかを知らず、それゆえ、自らの魂の中にどれほど多くのものを秘めているかも知らない。人間は、人間としての能力を開花させることに満足してきた。しかし、高尚で気高いものに対する関心の欠如ゆえに、魂が持つ能力には気づいてこなかった。

5. そのような状態で、人間が自らの内に秘めた能力を、どうして発見できようか。

6. あなたがたが陥っていた深い霊的な無気力状態から目覚めさせ、あなたがたが単なる物質ではなく、無意味な存在でもなく、ましてや社会から疎外された者でもないことを思い出させるために、私があなたがたの心に近づく必要があったのだ。

7. あなたがたは私の言葉を聞いたとき、喜びに満ちて私にこう言いました。「主よ、私たちの本質の中にこれほど多くの賜物が備わっているなんて、本当にあり得るのでしょうか？」そうして、あなたがたは、自分たちが何者であるか、そして宇宙においてどのような意味を持つ存在であるかについて、少しずつ理解し始めたのです。

8. 時折、あなたがたは、私があなたがたが所有していると告げた賜物について疑いを抱くことがある。しかし、私はあなたがたに告げる。その疑いは、あなたがたがそれらを開花させていないことに起因しており、それゆえ、あなたがたが望むような形でそれらが現れることができないのだ。

9. 確かに、信仰だけで驚くべき業を成し遂げられる場合もある。しかし、あなたがた自身ではまだその業を成し遂げる能力がなかったにもかかわらず、信仰を強めるために、その奇跡を授けたのは私の愛であったことを知っておくべきだ。

10. 魂の能力が開花するには長い時間がかかり、それには一つの肉体だけでは不十分であり、地上での一つの生涯だけでも不十分である。しかし、万物に宿る私の摂理は、あらゆる魂に、その開花を続けられるよう常に新しい肉体を用意し、魂が定められた場所へ到達できるよう、その完成を助けてくれるのである。私がこう語る理由は、あなたがたが、「自分たちが持っていると言われているものに比べれば、達成したことはごくわずかだ」という考えを抱いているのを察したからである。そう思うと、あなたがたの心には疑念が生じ、落胆が襲ってくるのだ。

11. 私が今語ったことを通じて、あなたがたは、自分の魂に備わっている賜物を完全に開花させることは不可能であることを理解できるようになるでしょう。なぜなら、それらは永遠に属し、無限の一部である存在に由来するものであり、地上における人間の生涯のように短い人生の中で、あなたがたが自らの能力のいくつかを完全に開花させるまでには至らないのは、ごく当然のことだからである。

12. とはいえ、現世において自らの賜物を最大限に開花させることはできないと知っているからといって、より高い次元への進化を遂げようとする熱意を緩めてはならないことを、私はあなた方に説明しておかなければならない。それどころか——もしたった一つの生の中で、精神的な賜物を完全に開花させることができたとしたら、その賜物はごく小さなものに過ぎないだろうということを、よく考えてほしい。

13. 私があなた方に求めるのは、それぞれの転生において一歩前進すること、そしてその一歩が完全性へと向けた確かな一歩であるということだけです。そうすれば、あなた方の魂は自らの進歩を実感することになるでしょう。なぜなら、魂は、その都度あなた方に託される肉体を通じて、ますます大きな知恵をもって自らを顕現していくからです。

14. 今、あなた方は準備段階にあります。すでに、私の言葉を通じて、あなた方が持つすべての賜物が明らかにされ、魂の成長の道において果たすべき使命が示されています。

15. あなたがたはすでに、メッセージや神の啓示を受け取るために魂が経なければならぬ試練を経てきました。あとは、あなたがたの道が良心の光によって照らされ、その光が常にあなたがたに何をすべきかを教えてくれると信頼して、自己の開花を始めることだけです。

16. あなた方は、霊と霊との対話が完全なものとなり、予知の賜物が完全に現れ、いかなる状況においても癒しの力が奇跡を起こせるようになり、そして（内なる）言葉の賜物があなた方の唇に花開き、慰めと知恵と預言として溢れ出ることを望んでいる。しかし、あなたがたは、そうした高みに達するにはまだほど遠いと悟ると、悲しみに沈み、言葉を失い、憂鬱になってしまう。なぜなのか、弟子たちよ？あなたがたが達成したいと願うことの多くは、あなたがたの備えにかかっているということを、理解していないのか？

17. 弟子たちが、自らの霊化の果実によって活力を得るためにどのような準備をしなければならないか、また、清らかな生活を送るためには何が必要か、あなた方はよく知っているはずです。祈りの心、隣人に仕える心、誘惑に打ち勝つ心——そうしてこそ、愛の業を成し遂げるために霊的な力や賜物が必要となるその瞬間に、自分の内面がすでに整っていることに気づき、祈りの中で父に懇願した奇跡が現実となるのを見て、満足感を得ることができるのです。

18. そうすれば、預言者や使徒たちによって古くから予告されてきた「偉大なる日」の最初の光の輝きを、あなたがたは目にすることになるでしょう。あなたがたは、私が霊において降りてきて、あなたがた全員を待ち受けている「永遠の命」について語るのを感じることができるでしょう。なぜなら、あなたがたは皆、その永遠の命に定められているからです。

19. 私はあなたがたの存在の最も奥深くまで入り込み、私の光があなたがたの魂の底に至るのを妨げるような障壁も障害も、私にとっては存在しないことを証明して差し上げよう。

20. 私は人々にこう告げます。彼らはこの地上の生涯を、魂の義務や使命を顧みることなく過ごしてきたのですから、私がこの知恵のメッセージを送るのは、一人ひとりに呼びかけが届けられた時に、彼らが準備を整え、霊的な生活へと踏み出せるようにするためなのです。

21. 私は彼らにこう言う。彼らはこの地上で魂の行く手を阻んだのだから、せめて、魂がもはや地上の肉体を必要としない時が来るための準備を、魂にさせてやるべきだ。

22. あなた方は、人生が地上の存在に限定されているとでも思っているのか。私の律法と教えは、この世でのあなた方の生活だけを照らすものだとも思っているのか。いいえ、私の言葉を聞く

人々の群れよ。私は神の律法をあなた方の肉体のために定めたのではない。それをもってあなた方の魂を照らしたのだ。

23. 私がなぜこのようにあなた方に語りかけるのか、私は知っている。なぜなら、私の視線は、人々の群れの中から、私がこのように語りかける必要のある人々を見出しているからだ。

24. 彼らは唯物論者であり、自分の目で見える範囲しか見通せず、自分の理性や感覚の彼方に、永遠、真理、そして知恵が始まっているとは信じない者たちである。

25. すでに、自らの行いや思考、そして人生全体において、靈魂が支配していることを受け入れ始めている者たち、すなわち、自分をこの世に縛りつけているあらゆるものから魂を解放し始めている者たちは、私がこのように語りかける必要はない。彼らもまた、物質的な姿で私の言葉を聞くために集まってきたが、聞いたことを理解できず、その真意を把握することもできなかった。そして私もまた、彼らが人生で最も愛していたものの中に、彼らを招き入れたのである。

26. 靈の王国は無限である。しかし、その王国を喜び、その中で生きることを可能にする高みへと到達するためには、その道を知り、そこへ昇るための光を持つことが必要である。しかし、私があなたがたの地上の生活を軽んじているなどとは決して思わないでほしい。いいえ、弟子たちよ。私があなたがたのためにそれを用意したのだから、どうして私がそれを軽んじることができるだろうか！物質世界での生活もまた、靈的かつ無限で永遠の王国における生活の一部であることを理解してほしい。

27. 厳密に言えば、私の言葉があなたがたの間で果たすべき目的は、靈化に到達するために歩まなければならない確かな道を、あなたがたに示すことにある。

28. 私があなたがたに靈的な生について語る時、私は単に肉体を離れた魂の存在について言及しているだけでなく、すべてのものはそこから生じているため、靈的な生は至る所に存在することをあなたがたに理解させようとしているのだ。

29. その命の光だけが、あなた方に真理を明らかにすることができる。その光の中にあつてのみ、人々は、自ら求めており、必要としているすべてのことを理解することができるのである。

30. 魂の生活を知ろうとしないことに固執する者たちは、ただ哀れな存在に過ぎず、この地上で目的もなく生き、つまずき、転げ落ちるだろう。彼らは、自らの存在の根底に、永遠への扉の鍵と

、平和、知恵、そして至福へと続く道を照らすことができる灯りを携えていることに、気づくこともないのだ。

31. しかし、わたしの慈悲は彼らを深い眠りから目覚めさせ、「最後の人々」を立ち上がらせ、彼らがこの時代の物質主義との闘いにおいて、「最初の人々」を助けるようにする——彼らが成し得なかったすべてのことを通じて。

32. 世界は苦しみによって整えられ、清められ、神の師の弟子たちを待ち望んでいる。人類は試練の時を迎えている。

33. あなたがたの使命の偉大さを理解しなさい。

34. あなたがたの光が一時的に曇ったとしても、私はあなたがたの道を照らし、あなたがたの魂がつかずいたり迷ったりすることがないようにする。なぜなら、あなたがたは平和の使者であり、永遠の啓示の所有者だからである。

35. あなたがたの礼拝の形式は、もはや外部の影響によって汚されることはなく、また、再び霊的な隷属に陥ることもあってはならない。

36. 人々は、自分たちの内側にそれを持っているにもかかわらず、まだ私の真の姿を見出すことができていないからといって、あなたがたの目の前で主の像を掲げてはならない。

37. すべての人の中には、あの世があり、秘密の宝庫があり、無限なるものがあり、神秘がある。そこには父が住まれる聖所があるが、その扉は閉ざされている。なぜなら、あなたがたは自らの内面へと入り込むことができなかったからである。人間は、自らの内に宿す真の聖域を発見することを理解できていない。人間は外ばかりを見つめ、外側のものしか感じ取れない。それは肉体と肉体の感覚である。

38. 今こそ、全人類が霊的に眠っている時代である。その神に真の礼拝を捧げている宗教団体は、一つとして存在しない。あなたがたは、わたしの言葉を伝え、自らの模範をもってわたしを証しするために、旅立つべきである。愛の行いがなければ、あなたがたの口から語られるわたしの教えには、説得力がないだろう。

39. 私があなたがたが準備ができているのを見、あなたがたの魂と「肉体」の中に真実さが宿っているのを見たら、私はあなたがたを諸国民のもとへ遣わす。そうすれば、あなたがたは大きな対立を解決し、大きな旋風を巻き込まれずに通り抜け、嵐に耐え、濃い霧をくぐり抜けることができるだろう。なぜなら、あなたがたはすでに、いかなる人間の科学よりも高い光に向けて目を開いているからだ。

40. あなたがたは謙虚であるゆえに、哲学者や学者たちの前で多くのベールを取り除く運命にある。あなたがたは、すべての人にとって平和、慰め、そして救いとなるのだ。

41. 現在、私は直感や夢を通じて、地上のあらゆる民族に、私の新たな啓示のしるしを与えている。私の足音の反響は、すでに近くで聞こえ始めている。

42. 私がどれほどあなた方を愛しているかを理解しなさい。なぜ私を恐れるのか。私の律法の中にいる者は、私から恐れることは何もない。

43. あなたがたは畏敬と敬虔な心をもって私の言葉に耳を傾けているにもかかわらず、なお私を恐れている。その理由は、あなたがたの良心が、まだ完全な行いをしていないと告げているからである。

44. あなたがたの神と隣人に対する義務を果たし、感謝の債務を清算しなさい。そうすれば、あなたがたは皆、主によって迎え入れられるであろう。

45. 不器用さや、学びの不足、霊性の欠如、あるいは無知のために、その道を歩み止まってしまう者がいたとしても、他の者たちも立ち止まってはならない。しかし、つまりいた者には助けの手を差し伸べ、眠っている者を起こしてあげなさい。

46. まことに、あなたがたに告げる。この地上において、「最初の人々」は真の完成に達することはない。また、あなたがたも、たとえその道をさらに進んだとしても、同様である。その後、さらに一歩前進する者たちが現れ、その後にさらに先へ進む者たちが現れ、その繰り返しとなる。しかし、彼らがその発展を遂げている間、あなたがたは霊的存在として、すでに霊的に昇華しているだろう。それゆえ、わたしはあなたがたに、「最初の人々」は常に「最後の人々」のために道を切り開かなければならない、と告げるのである。

47. まもなく、あなた方はこの地上の肉体を離れることになる。そして、霊界に入ったとき、この地上の生が決して無駄ではなかったこと、また、スピリチュアリズムの知識が、肉体を離れる際に魂の翼を広げ、父の御許へと至ることを可能にしてくれたことを、身をもって実感することになるだろう。

48. この新しい命への希望を育みなさい。そうすれば、今、この涙と血と死の谷であなたがたが経験している苦難の中でも、慰めを受けることになるでしょう。

49. あなたがたの同胞を私の弟子としなさい。「最後の人」が私の言葉を即座に理解している様子を見なさい。あなたがたは彼に悪い実を差し出してはならないことを悟りなさい。

50. 人類は今、わたしの業を理解するための、ある種の霊的な成熟に達しつつある。

51. 1950年以降、この教えは忘れ去られることはなく、むしろ花開くことになる。働きはさらに活発になり、黄金の書物が開かれてそこから知恵が溢れ出し、あなたがたは以前には理解できなかったことを理解できるようになるだろう。私の原則とたとえ話を記した書物は、地方から地方へ、家から家へ、そして心から心へと伝えられていく。

52. その時、あなたがたは、多くの人々があなたがたを温かく迎え入れ、両手を広げて迎えてくれるのを目にするだろう。彼らの魂は、真の祭壇に立つ父を仰ぎ見ることを切に願っているからだ。

53. あなたがたは、私の教えを伝えなければならない。その際、モーセの教訓や戒めを用い、イエスの言葉を思い起こさせ、また私がこの「第三の時代」においてあなたがたに啓示したことを伝え、それらすべてをひとつの業として統合しなさい。

54. この世では、世界観や教えをめぐる「戦い」が勃発するだろう。しかし、私はこの動きがあなた方を光へと導くよう導いていく。

55. わたしの光は全地を照らしている。地の至る所で、わたしが自らを現すための男たちや女たちを、わたしが呼び覚ますであろう。

56. あなたがたが暮らすこの国は、この時代およびこれからの時代に、偉大な使命を果たすことになる。最大の苦痛と試練の中にあっても、この国は砦となり、光と平和をもたらし、他の諸国民の支えとなるだろう。その心は、利己主義や私利私欲から解放され、慈愛に満ちた兄弟愛の心へと変容する。

57. あらゆる宗教団体は裁きを受けることになり、最も強力な団体ほど、最も激しく試練にさらされるだろう。あなたがたは、その中からどの団体が、私の正義から逃れるために、栄光の玉座を肩に担いで他国へと移そうとするのか、知る由もない。

58. 今日、わたしはあなたがたにこう告げたい。あなたがたの間には、物質的な教会も、狂信の祭壇も築かれてはならない。儀式や伝統は消え去るだろう。あなたがたの前で、司祭も聖職者も高ぶってはならない。

59. あなたがたには、いかなる人間に対しても「聖人」という称号を授ける権威も、いかなる権限も与えられない。

60. わたしの神性との強い霊的結びつきを得る者たちは、最も謙虚な者たちとなるであろう。

61. 不完全な礼拝が跡形もなく消え去る時が来た。今や、唯一の教会は人の内面にあり、祭壇はその心の中に、捧げ物はその行いの中に、燭台はその信仰の中にあり、鐘はその呼び声の中にあって、眠れる魂たちを目覚めさせるのである。

62. 私は、あなたがたがこの愛によって私を認識できるよう、愛を込めて語りかける。

63. あなたがたは、私が霊的な向上への道へと導いている小さな被造物であり、隣人を赦すことを学ぶために、私はあなたがたの過ちを赦しているのだ。

64. あなたがたが霊的に強くなり、人々の間で支えとなれるよう、私の言葉を一音節ずつ深く掘り下げて理解しなさい。

65. わたしは、あなたがたにわたしの光を与えた。それによって、あなたがたは兄弟姉妹たちを照らすことができる。この権能をもって、あなたがたはイエスのように、束縛され、混乱してこの地を埋め尽くしている闇の魂たちを解放するだろう。

66. あなたがたは皆、わたしの霊から生まれたのだから、わたしの光はすべてを包み込み、覆っている。あなたがたはわたしのものであり、わたしのもとへ帰らなければならない。

67. 私がイスラエルの民のためだけにやって来るとは思ってはならない。確かに、私は初めから、あなたがたを私の弟子とするために、律法や使命、指示を与えてきた。あなたがたは人類を教え、盲人の目となり、足の不自由な者の杖となり、ハンセン病患者の癒しの香油とならなければならない。それゆえ、私はあなたがたを、ただ年長の兄弟姉妹として残しておいたのだ。しかし、私がそれらの苦しみについて語る時、それは魂の盲目さ、魂の柔軟性や自由の欠如、そして悪徳や罪である「らい病」について語っているのだということを、あなた方にも理解してほしい。あなたの肉体も私の慈悲に値するものであるが、私が救おうとしているのはあなたの魂であることを知ってください。しかし、肉体に対しても、私はこれらすべてをさらに与えているのだ。

68. あなたがたの魂の中には、この賜物に対する信仰と信頼の欠如ゆえに、まだ完全に現れていない大きな癒しの力が存在している。

69. 魂は私の恵みに包まれているが、肉の弱さゆえにつまずいている。私の御心を行うことができるよう、魂と体の調和と一致を努めて求めなさい。

70. わたしの言葉は、あなたがたを清め、この世で二度と渴くことのないようにする、水晶のように澄んだ水である。

71. 人類は、それぞれの宗教共同体や宗派の中でわたしを求め、愛しており、わたしの愛撫と光を受け取っている。

72. 魂たちは階段のさまざまな段に位置しているが、わたしはそれらすべてを等しく愛し、頂点に到達するための手段を与えている。同様に、あなた方も、周囲の人々がどの程度の霊的成長を遂げているかを問わず、彼らを愛さなければならない。

73. 私は、あなたがたが心を完全に開き、その中に私の住まいを用意し、そこで信仰の松明を灯すことを望んでいる。私は、他者の痛みをあたかも自分のことであるかのように感じるよう、あなたがたに教えたい。

74. この「民」の「部族」たちは、予告された大いなる苦難が訪れる前に、霊的に一つになるだろう。

75. 今、あなたがたは功德を積まなければならない。そうしてこそ、世界はその道において光を得ることができ、人々の心を再び支配し始めた利己心や憎しみに、霊的に立ち向かうことができるのだ。

76. わたしに耳を傾け、心の扉を開く者は幸いである。その者は、わたしの良き弟子となるからである。

77. 信仰、希望、そして隣人愛を心の中に受け入れてください。そうすれば、主に対する絶対的な信頼がそこに宿り、その道で疲れを感じることなく、立ち止まることもなく、苦しむ人々の間で慈悲の行いを実践することができるでしょう。

78. これこそが、私が常にあなた方に託してきた種である。しかし、もしあなた方が、あなた方の父のような完全な行いを成し遂げていないとすれば、それは、あなた方がまだ道の半分しか歩んでおらず、あなた方の肉体が依然として罪を犯しているからである。私はこれらすべてを知っており、それゆえ、限りない忍耐をもってあなた方を探し求めている。

79. それゆえ、私は今、一つ一つの教訓を通じて、「知恵の書」を編み上げている。私が御言葉を撤回する時、この書をあなたがたの目の前に残すつもりである。その書の中に、あなたがたは、私があなたがたに与えた地——すなわち、私自身の懐——を渴望し

つつ、希望に満ちて、使命を果たすための狭い道を歩み続けるよう
励ましてくれる教えを見出すだろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 224

1. わたしは、あなたがたの行いのすべてを、魂の向上への書に記している。そして、あなたがたが地上の使命を知るために、わたしは、太古の昔からあなたがたに託してきた霊的な賜物を目覚めさせた。

2. あなたがたはわたしから生まれ出たものであり、その瞬間から準備が整えられてきた。そして、わたしがあなたがたを、闘争と完成の場であるこの地上へ遣わしたとき、わたしはあなたがたに、父への愛を教え、また「互いに愛し合いなさい。そうすれば、わたしが創造したすべての存在と調和を保つことができる」と告げる律法を与えた。わたしの目には、あなたがたは皆、偉大であり、尊い存在である。私はすべての人を等しい愛をもって創造しました。私にとって、ある者と他の者との間に違いなどありません。

3. 私はかねてより、子供たちの帰還を待ち望んできた。もしあなたがたが私の言葉を聞いても心が動かされず、悔い改めの涙を流さないのであれば、それはあなたがたが目覚まして、私が「第二の時代」に与えた約束の成就を待ち望んでこなかったからである。今、私は霊的および物質的な恵みをもたらすために来たのだ。命の木の果実である私の言葉は、あなたがたの飢えを満たすだろう。私は善意ある人々に平和をもたらす。それは、あなたがたが地上で私の戒めに従ったことに対する報いとして、私が与えるものである。

4. 魂を高め、心を清め、私の神性への愛の行為をもって、私との霊的な対話を始めなさい。私は、あなたがたに私の恵みを注ぎ出すであろう。

5. 祈りなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは罪人を改心させ、無知ゆえに罪を犯し、自分がどれほど私に背いたかを知らない者を、その過ちに気づかせるでしょう。私は悪の種を取り除き、あなたがたに、刷新と使命の成就という恵みを知らしめます。

6. あなたがたの善行の一つひとつに対して、私は祝福を用意している。あなたがたの問題には解決策を、痛みには癒しの香油を用意している。しかし、あなたがたが健康で力強くなったならば、隣人に教え、善へと励まし、模範となりなさい。そうすれば、私について語るのは言葉だけではなく、あなたがたの行いが、あなたがたが私の弟子であり、私を模範としていることを証しすることになるのだ。

7. 私は、キリスト教世界と、キリストを信じなかった人々、すなわちモーセを信じる者たちであるイスラエルの民に語りかける。すべての人々に、私は私の光と愛撫を注ぐ。この 光は、誤りと無知を取り除き、私への信仰はすべての魂を結びつけ、互いに平等にするだろう。

8. 激しい闘争の末、平和は人々に再び訪れるだろう。 今日、あなたがたは、支配的な雰囲気の不純であり、悪の侵食を食い止めることができなかったため、自らの信仰、霊性、そして善行に対して敵対する者たちに直面している。しかし、真実を言えば、あなたがたこそが、この世界が失ってしまった健康、平和、そして信仰を取り戻させ、この世界を変革する使命を帯びているのである。

9. あなたがたは、この戦いにおいて独りではない。その前に、あなたがたの神が戦ってくださる。神は、いつものようにそうなさる。悪の勢力は縛られ、人間は自由となり、その命を回復し、信仰が人の心に再び戻ってくるだろう。

10. あなたがたが賜物を発揮して大きな勝利を収めたとしても、それに驕ってはならない。私が人々に「語りかける」ために用いた道具に過ぎないというだけの理由で、人々に称賛されることを許してはならない。

11. 私があなたがたの過ちを赦し、不完全さを取り除いたことを忘れないでください。私は、私の御心を実現するために、より質素で、教養がなく、無知な知性を用いて、それらを訓練してきたのです。

12. わたしの言葉は書物として残される。この書物は、民のための指針であり、教えとなるだろう。もしあなたがたが、わたしの新たな啓示を理解する準備が十分に整っていないのであれば、引き続きわたしの言葉を学び続けなさい。わたしは、この書物を編纂する弟子たちの心を整えている。その中に、あなたがたはわたしの本質と、わたしの臨在を見出すだろう。それは、わたしが人類に残す遺産となる。 わたしから靈感を受けた人々は、愛の律法を制定し、賢明な戒め、思想、そして原則を残すことになる。それらは世界が知ることになるだろう。なぜなら、わたしの言葉は、地球上のあらゆる民族の中で、それを受け入れる準備ができている心に出会うからである。

13. 戦争の苦難を生き抜いた国々は、私が再び来臨し、人の霊の中に私の王国を築き、聖書に記されている通り、愛と正義の契約を人々と結ぶという彼らの信仰を確証する使者を待ち望んでいる。

。

14. わたしは、あなたがたの右手に、あなたがたの生涯を知る守護天使を置いた。その天使の使命は、あなたがたを導き、危険から守ることにあり。あなたがたを支えているのは「霊界」であり、それによって 偉大な愛の使命を果たしているのだ。あなたがたには、献身的な羊飼いであるエリヤがおり、彼が、あなたがたが肉体に宿っているか、あるいはもはや宿っていないかを問わず、あなたがたの魂を導いている。

15. 彼の名は全人類に知られているわけではなく、その使命も同様です。しかし、まもなく人々は、彼がいつの時代においても私の先駆者であることを知るようになるでしょう。

マリアは母なる愛そのものであり、魂が直面するあらゆる苦難における、あなた方の慰めです。彼女はあなた方のために取り成し、この厳しい時代において、試練に直面するあなた方を励ますために寄り添っています。彼女は御子と御父との間の執り成し人です。そして、今、あなた方に語りかけている師は、あなた方を教え導き、私が去った後に、私の後継者として準備の整った状態で残すためにやって来たのである。

16. 人類よ、私は人間の知性を通じてあなた方の元に戻り、私の教えをあなた方の精神に、私の本質をあなた方の心に刻み込むためにやって来る。私は天の光の松明としてあなた方の元に戻り、人々を永遠の命への道である霊化の道へと導くためにやって来る。

17. 私の教えの光は、あなたがたを照らし、この世の闇の中であなたがたが輝けるようにする。

18. キリストがあなたがたに送るこのメッセージを受け入れなさい。そうすれば、あなたがたは心の中で天の父とつながることができる。なぜなら、父もまた同じように、愛をもってあなたがたに答えてくださるからである。

19. 悲しみに沈み、苦しみにお疲れの皆さん、ようこそ。さあ、私の愛の中で安らぎを得てください。私は平安であり、心の安らぎであり、それを皆さんの魂に残したいのです。私は皆さんの十字架を背負う者であり、皆さんの希望です。喜び、勇気を持ちなさい。私は皆さんと共にいます！

20. あなたがたが私の御言葉を聞くその瞬間、幸せを感じるでしょう。あなたがたが私の言葉に耳を傾けているのを感じるとき、私の神聖な御霊には平安があります。そして、私はその感覚をあなたがたに伝えたいのです。あなたがたは、長い間、私の再臨を待ち望んできました。

21. 黄金の麦であるわたしの言葉を大切に守り、決して失ってはならない。あなたがたは、隣人愛の計り知れない重要性を認識しなければならない。そうすれば、愛がもたらす奇跡を体験することになるからだ。わたしの子供たちの誰かが、その心の中で、自らの靈魂が味わっている喜びを感じられないとしたら、なんと悲しいことだろうか！ 私は、苦しむ者の肉体であれ魂であれ、あなたがたが慰め、愛し、癒やす姿を見たいと願っている。愛する者は、人生を苦々しくさせる憎しみを知らない。愛する者は、心を破壊し、魂を悲しませる恨みを知らない。愛する者は、その言葉にも、その眼差しにも、そして その行いにも優しさがあり、その人生は愛に満ちており、その肉体の死は穏やかなものとなるでしょう。

22. わが霊は、父なる言葉をもって、永遠にあなたがたの霊を慰める。しかし、あなたがたが深く苦しみ、その痛みの中でわたしを呼び求めても、その呼び声がわたしに届いていないと信じてしまう。あなたがたは、わたしを感じる事ができないがゆえに疑うのだ。なぜなら、あなたがたは自分の中にわたしを宿しているにもかかわらず、それを知らず、また信じてもないからである。私があなた方を愛していると、いつあなた方に告げなかったというのか。もしあなたがたが私の声を聞くことができたなら——どれほど幸せだろう。すべての人間は、私の畑の種まき人となり、私の果樹園の樹木の手入れ人となり、その愛の種は私によって潤されるだろう。

23. あなたがたは物質主義に陥っており、それゆえ道に迷い、私から遠く離れていると感じている。しかし、私はあなたがたに靈性を授け、その靈性によって、あなたがたをこの知恵と啓示の源へと近づけてあげよう。私の福音書のページを毎日読んでいるにもかかわらず、私の教えに従わず、それを実践していない人々が大勢います。私の言葉を繰り返すことなど、彼らにとって何の益があるのでしょうか？ それに対し、心と感情の道を通じて私に従う者たちは、その師に近づいていくでしょう。

24. まことに、わたしはあなたがたに言う。人々よ、わたしのもとに来なさい。しかし、それは愛と寛大な思いという階段を登って行かなければならない。今すぐそれを始めなさい。そうすれば、あなたがたの苦しみは終わり、泣き止み、あなたがたが陥ったその眠りから目覚めることができるだろう。

25. わたしに仕え、隣人に役立つ方法は実に数多くある。苦しむ者たちへの慰めとして、わたしの種を蒔き散らせ。人生の道で遭遇する痛みの試練に、信仰をもって耐え抜くのだ。信仰には「不

可能」などない。なぜなら、それは神からの賜物だからである。愛と結びつくならば、それはこの世の嵐に対するあなた方の防壁となるだろう。善行のない人生など、あなた方は何になるというのか。この生を活かすべきだ。そうしなければ、魂の健康を知ることはないだろう。なぜなら、魂はその力を善のみから得るからだ。あなた方の思いがユリのように清らかであり、あなた方の行いが花の香りを放つように努めなさい。

26. 人よ、立ち上がって、わたしのところへ来なさい。わたしはあなた方を待っている。心の道を進めば、その道を通じて目的地にたどり着くであろう。たとえ何世紀が過ぎようとも、わたしはあなた方を待ち続ける。

27. 飛ぶことを学ぶ前に巣の中で死んでしまう若鳥のようになってはならない。

28. 私は、（声の媒体となる者たちの）内なる準備が整った瞬間に、神から与えられる思いを通じて、たとえそれが を通じて人間の唇によって表現されるとしても、あなたがたに語りかけている。私の臨在はあなたがたのもとへ訪れ、あなたがたを優しく包み込み、目覚めさせる。だから、あなたたちを待ち望んでいる人々を慈しむために、明日を待つてはならない。私は、「明日、使命を果たすために旅立つ」という言葉を、あなたがたから聞きたくないのだ。なぜなら、もしあなたがたが自分の人生を活かせなければ、あなたがたはこれからも涙を流し続け、私はこれからもあなたがたを待ち続けることになるからだ。あなたがたは、私の慈しみのもとで美しい花と良き実を結ぶことを約束する、私の愛する種なのだ。

29. あの永遠の世界には、この世で愛と慈悲によって偉大であった者たちの魂が存在している。彼らは地上の使命を終えた後、そこで一つとなり、そこから、まだこの世をさまよう弱き人間たちや恐れを抱く魂たちに助けの手を差し伸べ、人類へと愛を注ぎ続けている。そこには、あなた方の世界のような分断も疎外も存在しない。あなた方の世界では、人々は信仰告白や宗教的教義によって分断され、互いに愛し合わず、理解し合ってもいない。宗教とは、魂を光へと導く一時的な道に過ぎないことを知れ。そこでは、愛の法則によって結ばれ、すべての者が等しく輝きを放つのである。

30. それゆえ、私はあなたがたに告げる。愛こそがあらゆる宗教の礎石でなければならないと。なぜなら、この光はあらゆる理論、科学、哲学を超越しており、すべての人類によって感じられ、認識されるものだからである。

31. この時代、私の言葉を聞く人々の群れの中には、魂が強く発達し、霊的なものを渴望してやって来て、儀式や儀礼、崇拜の形式を避ける者たちがいる。彼らは、物質以上に崇める「愛」であり「知恵」である神を渴望してやって来る。そして、自由を得るとすぐに、自分たちには司祭も、師も、教師も必要ないと感じ取る。彼らは、他者の道を照らす松明のような存在である。

32. 今日、「霊的な谷」に生きる多くの人々は、信仰、慈悲、知恵、そして愛という消えることのない足跡をもって、あなた方の成長の道を切り拓いてくれました。あなたがたが来世に戻ったとき、出会うことになるのは、高貴で輝かしい存在たちです。なぜなら、彼らは皆、父の無限の愛の中で一つとなるからです。その愛の中で、地上ではすべての宗教共同体が一つになるべきなのです。この世界の存在たちが送るメッセージは、白い鳥のように飛来し、愛とインスピレーションによって準備された人々の心の中に宿るのです。天使の姿をとって人々に届いた、そうした思考やインスピレーション、あるいはメッセージのうち、どれほど多くのものが、人々がそれを受け入れることを理解できなかったために、あの世へと戻らざるを得なかったことか。そこ、私の懷の中で、それらは人間の心が準備を整えるのを待ち、愛の息吹のように再び彼らへと送られるのを待っているのだ。

33. さあ、人々よ、身を引き締めよ！ メッセージがあなたたちの元に戻ってきたとき、もはや心を閉ざしてはならない。それは、波が戻ってくるように、鳥のさえずりが夜明けとともに戻ってくるように、苦しみと待ちわびに疲れた心に希望が戻ってくるように、戻ってくるのだから。

34. 愛しなさい！ 愛さない者は、人生において最も美しく、最も崇高なものを持ち合わせておらず、それを感じることができないという深い悲しみを心に抱いている。

35. これこそが、キリストがご自身の生涯と死をもってあなたがたに教え、また神聖な御言葉の中で遺されたものであり、それは「わたしがあなたがたに教えた愛をもって、互いに愛し合いなさい」という言葉に要約されている。

36. 愛しなかった者たちが、その苦々しさや偏見から解放され、わたしのもとに来て、わたしのそばで安らぎ、そこで命へと立ち返り、無限の優しさに満ちたわたしの愛に満ちた御言葉を聞く日が来るだろう。まことに、あなたがたに告げる。わたしの愛の中にこそ、わたしの力、知恵、そして真理があるのだ。それは、最も低い立場にある人間から、完全性を達成した最も高次の魂に至るま

で、さまざまな形で現れる、果てしない階段のようなものである。愛しなさい。たとえそれがあなたたちなりの方法であっても、常に愛し続けなさい。憎んではならない。憎しみは死の尾を引きずるが、愛によって人は互いに赦し合い、あらゆる恨みを忘れるのである。

37. わたしの言葉を学びなさい。わたしは、あなたがたが御霊の賜物、愛、慈悲について語るのを聞きたいと願っている。

38. 心の感情を通じても知恵が得られることを知れ。それらの感情は言葉となり、愛が吹き込む深遠な教えや崇高な思想を内包する。

39. わたしがあなたがたにこの光を与えるのは、あなたがたの人生が高められ、変容するためであり、また、この光から病める者、子供たち、困窮している人々に分け与えるためである。なぜなら、この道はあなたがたを疲れさせることはないからである。

40. 善の使徒となりなさい。そうすれば、あなたがたの霊的な姿は、その美しさゆえに、あなたがたの行いに映し出されるようになるでしょう。

41. あなたがたが、わたしの教えを聞くことによって天国を勝ち取ったと信じているなら、それは誤りである。天国を得るのは、わたしの教えに従う者だけである。もしあなたがたが、様々な宗教団体の儀式に参加することで、魂に必要な安らぎが得られると信じているなら、わたしは断固としてこう告げる。いいえ、そうではない！ 魂が平安を得るのは、良心が何も責めないときだけである。

42. わたしの愛は、常にそれを最も必要としている者を求める。それゆえ、かつてわたしは、ある民に身を捧げるために人間となった。その民はわたしの言葉を聞いた。しかし、真理を耳にしたにもかかわらず、彼らはわたしを認めず、その盲目さは、無垢な小羊の血を流すという行為に至った。

43. エルサレムよ！ エルサレムよ！——わが説教と犠牲が終わった地よ。苦しみと戦争に苛まれるのは、あなただけではない。それでもなお、あなたは深刻な災いに見舞われるだろう。しかし、他の場所でも戦争は起こるだろう。なぜなら、人々は自らの思考によって戦争を生み出し、その戦争の中で彼らは自らの終焉を迎えざるを得なくなるからだ。

44. 人々が心の中で戦争を考えるのは、彼らの心に愛がないからである。しかし、私はあなたたちに問う。なぜ愛することも、許すこともできないのか。私を犠牲にした者たちを、私のために泣

いた者たちよりも愛していないとでも思うのか。あなたたちの愛と理解の欠如によって、今なお私を十字架につけていることを知れ。

45. エルサレムは今や苦痛の地となっている。わたしはあなたがたに告げる。無実の血を流したり、わたしの使者を誹謗中傷したりすることのないよう、気をつけなさい。そうしなければ、あなたがたが追い出した一人ひとりのために、あなたがたの子供たちは多くの涙を流し、あなたがたが苦しめたたった一人のために、大きな苦痛を味わうことになるだろう。これはわたしの罰ではなく、あなたがたが蒔いた種が実った結果である。

46. 人よ、愛することを知らぬなら泣け、赦すことを知らぬなら泣け、自らの死を嘆く者の痛みをもって泣け。愛さない者は、わたしのもとに来ることはできないからだ。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。泣け、心を動かされよ。あなたがたが感情を抱くのは、まだ命があり、悔い改めの涙によって自らを清めることができるからである。

47. 私はいつの時代も、わが民の子らに語りかけ、彼らが父と結んだ契約を思い出させ、罪の道に迷い込んだこの人類の中で、彼らがわが平和の使者であることを告げてきた。

48. わが光は常に「イスラエル」の道を照らし、彼らがその道において、主の目に喜ばれる行いを成し遂げられるようにしてきた。

49. わが神性の光は、常にこの民の上に降り注いできた。しかし、彼らが自分たちは見捨てられたと思い込んだとき、彼らは霊性と信仰を失い、偶像崇拜に陥ってしまった。

50. それゆえ、彼らの霊的な進歩は遅々として進まなかった。もしこの民が、太古の昔から利己主義から解放され、私が彼らに与え、啓示したすべてのものを地上の諸民族に伝えていたならば、私の律法と教えは全人類から尊重されていたであろう。しかし、私の律法なしに歩み、極めて苦い杯を飲み干し、飢えと苦痛に苛まれているこの世界を見てみよ。

51. わが民は、地球が人間の血で染まるのを防ぐことができなかった。平和が実現しなかったのは、その使者たちが平和を自らの心の中に留めてしまい、この奇跡を成し遂げられる能力があるかどうかを疑ったからである。あなたがたは、痛ましい手本を示し、わたしの真理を疑ったわたしの使徒として現れた、わたしの弟子トマスに似ている。あなたがたの中にも、疑う者たちがいる。

52. この民の中には、心が虚栄に満ち、やがて自分たちを地上の絶対的な支配者だと見なすようになった者たちがいる。彼らは

、この世の物質主義と、心の承認欲求に支配されている魂たちである。

53. 彼らは、わたしの正義と魂の不死を忘れ、それらを暗い覆いで覆い隠してしまい、わたしの光の輝きを見ることを妨げられている者たちである。しかし、この時代、私の正義と愛は、私の意志に従って再び地上に転生したこの民の者たちのもとへと降りてくる。彼らは、人類の間に私の平和と祝福をいかに分かち合うべきかを人々に伝えるために遣わされたのである。

この民の中には、この時代に私が遣わした者たちがいる。彼らは、あなたがたの間で私の新たな啓示を立証し、後にあなたがたの同胞たちにその証しを伝えるためである。

今、あなたがたは、主のそばにしながら、互いに愛し合っておらず、互いを認め合っておらず、心安らぐことのできない瞬間があるのを見て、深い痛みを感じている。

54. この時期、あなたがたは私を人間として見ることはないだろう。しかし、たとえ肉眼で私を見ることができなくても、あなたがたは私の啓示を信じるようになるだろう。あなたがたは、自分たちが霊的に置かれている時期と、私があなたがたに託した使命を認識しなければならない。

55. この責任の重みのある時が、あなた方の肩にのしかかっている。戦いを前進させるためには、まず、あたかも川のほとりで師の言葉を聞いているかのような心持ちで、わたしの言葉を深く探求しなさい。この時期、あなた方の魂は再生によって大きな清らかさを得て、賜物を他者と分かち合うにふさわしい者となり、また、わたしの御前にいるにふさわしい者となるだろう。

56. 世界が、あなたがたが私をその中に迎え入れ、私の言葉を聞いたことを知れば、この民の中に、人々を納得させることのできる美德や模範、教えを求めるようになるだろう。

57. 他者に恩恵を与えるのは、あなたたちだけではない。あなたたちがそれを必要とする時、彼らがあなたたちに恩恵を与えられるよう、その心を整えるのは私である。そして、感受性の鋭いあなたたちは、その恩恵を誰に感謝すべきかを知るだろう。

58. なぜなら、私が真にあなた方を愛している以上、あなた方の道に茨を敷くのは私の意志ではないからだ。あなた方が遭遇するのは、あなた方自身がその道に蒔いたものだけである。それが苦痛であれ、不快であれ、涙であれ、神を責めたり冒瀆したりしてはならない。あなた方は光の子らなのだから。

59. あなたがたは皆、わたしの王国の相続人であることを理解しなさい。しかし、それを手に入れるためには、大きな功績を積み重ねなければならない。

60. 人生において私の律法に従って行動しなさい。そうすれば、それは輝く星のように、あなた方を「約束の地」の門へと導いてくれるでしょう。

61. この世において、光となり、道となり、知恵となりなさい。あなたがたを待ち受ける私の食卓へ、仲間たちを招き入れなさい。その食卓で、あなたがたは永遠の命のパンを味わうことになる。

62. 富める者も貧しい者も、食べなさい。この祝宴は、あなたたちに何の代価も求めない。しかし、この祝宴に真の喜びが満ちるよう、互いに交わり合わなければならない。

63. さあ、この言葉を聞くために近づきなさい。まもなく、あなたがたはもはやこれを聞くことができなくなるのだから。

64. 私がこの啓示の終わりが近づいていると語る時、あなたがたの中には、なぜ私がそれが人間の間で際限なく続くことを許さないのか理解できない者もいるだろう。それに対して私はこう答える。時を経て神が人々に語りかけてきた啓示の形態のうち、永遠であったものは一つもなかったのだ。あなたの父は常に、その際に人間としての姿をとらなければならなかった。そして、あなたがたに聞かれ、見られ、感じられるためには、それがどれほど必要であったことか。それゆえ、肉体的かつ知覚可能な啓示は、決してあなたがたが主と交わす最高かつ最も完全な手段となることはないのだ。

65. もしあなたがたが、霊化を通じて人生の昇華を一度でも達成し、わたしの教えに込められた正義、愛、そして光があなたがたの行いの規範となり、わたしに対するあなたがたの崇敬が完全に霊的なものとなったならば、そのとき、あなたがたは、霊から霊への対話、すなわち完全な交わりの時を迎えることになる——父が、自らの意図を伝え、服従を得るために、もはや律法を石に刻む必要がなくなったとき——神が、人間の唇を通して人々に語りかけるために、その神聖な「言葉」を人間として現す必要がなくなる時——私がこの第三の時代に、私の声を伝えることを許した者たちの、不器用な知性を、もはや用いる必要がなくなる時である。

66. 石に刻まれた私の律法は、その本質において永遠であるが、その外形は儚いものである。私は、戒めが刻まれていた石板を消え去らせた。あなたがたの父が望まれたのは、律法が人々の心

に刻み込まれることだった。また、私はあなたがたに告げる。約束された者、油注がれた者、神の子であるイエスでさえ、永遠にこの地上にいたわけではない。彼の言葉、教え、行い、そして模範的な生涯は確かに不滅であり、永遠の本質を持っていた。しかし、この世における彼の人間としての生涯は短かった。なぜなら、彼が知恵と愛と憐れみを注ぎ尽くした後、その模範的な業を成し遂げた以上、もう一瞬たりとも留まる理由がなかったからである。キリストの声は父の言葉であり、それは響き渡り、すべての魂の中で永遠に響き続けるであろう。

67. 民よ、この時代にも同じことが起こるだろう。私の霊が、声の媒体たちの脳を通じてあなた方に現れるこの方法は、最も完全なものではないため、まもなくその終わりを迎えることになる。しかし、声の媒体の唇から発せられる言葉から浮かび上がる真意は、永遠のものとなる。それは、私がかつてあなたがたにもたらしめたものと同じ「言葉の本質」であり、私が「最初の時代」にあなたがたに授けた律法に含まれるのと同じ本質だからである。

68. 良き弟子として真剣に考えれば、あなたがたの父によるあらゆる啓示の外的形態、すなわち人間的な、あるいは物質的な部分は、永遠にあなたがたの間にあることはできないと悟るだろう。もしそうであったなら、あなたがたは停滞から抜け出すことは決してなく、決して発展することもないからだ。しかし、あなたがたは、上昇し、獲得し、征服し、知るということが、あなたがたの霊的な使命であることを理解しなければならない。

69. シナイ山における父の啓示の外的側面は、そこに神の律法を刻み込むための媒体となった石であった。

70. イエスを通して神が人々に啓示された際の外的な側面は、キリストの肉体、すなわち人間の姿であった。そして現代において、私の啓示の外的な側面は、声の媒体である であった。それゆえ、この啓示の形態は、過去の時代と同様、その終わりを迎えることになる。

71. あなたがたは、形式ではなく本質によって養われるべきスピリチュアリズムの民の子であることを理解しなさい。もしあなたがたが私の言葉を正しく理解すれば、二度と偶像崇拝に陥ることとはなく、また、外的な礼拝行為や形式、はかないものに固執することともなくなるだろう。なぜなら、あなたがたは常に本質、すなわち永遠なるものを追い求めるようになるからである。

72. あなたがたは、あらゆる面で物質的なものに縛られて生きていることを認識しなさい。私は、あなたがたの身内の一人がこ

の世を去るとき、あなたがたがその息絶えた肉体にしがみつき、新たな命を与えようとしたり、その人を引き留めようとしたりするのを、私は見てきた。しかし、あなたがたが結びつき続けるべきなのは、その肉体や姿ではなく、その魂なのだということを、あなたがたは考えていない。その魂は、この瞬間から、より光に満ちた世界からあなたがたを見つめ続けている。あなたがたのもとを離れることなく、あなたがたを混同したり忘れたりすることなく、あなたがた全員を結びつけている永遠の絆を断ち切ることもなく。

73. 愛する存在の終わりをそこに見て、肉体の死を嘆く者は、「死者」であり、別の死者を悼む者であり、光を持たない無知な人間であり、光の中から自分を見つめている者に対して心を閉ざしているのだ。

74. もし人間が、複雑な宗教にこだわるのではなく、私の教えを学び、それに従って生きることによって専念するならば、あなたの方の世界にはより多くの光が満ち、魂には平和が訪れるだろう。

75. 神があなたがたの手に託された遺言は偉大である。しかし、あなたがたは自分が何を持っているのか、まだ知らない。それゆえ、あなたがたの惑星は依然として涙の谷なのである。

76. もし人々が、十戒の石板を収めた契約の箱を発見することを夢見たり、様々な肖像画に神聖な師の姿を不朽のものにしようと試みたりする代わりに、神の律法と教えの真意を深く探求することに専念するならば、彼らは真に一つとなり、平和が訪れるだろう。

77. 私がこれらすべてを語る理由は、この時代に偉大な啓示の一つを受け取ったあなたがたが、外的な部分、すなわち形に固執し、それを永遠に手元に留めようと試みる危険にさらされているからだ。そうする者は、死者を守り続ける「死者」となるだろう。なぜなら、あらゆる形式は過ぎ去り、そこから残るのは本質、すなわち霊的なもの、永遠のものだけだからである。

78. 理解するために知性を用い、それに基づいて行動するために意志を働かせなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 225

1. 愛する弟子たちよ。私の愛と平安があなた方と共にあります。私は、あなた方の魂が解き放たれ、来世において師と結びつくことができるよう、この地上の富を忘れることを、私の神聖な教えをもってあなた方に説きます。

2. すべての人の心には、私の御目から隠そうとする悩みや嘆きがある。あなたがたは私から学ぶためにやって来るのに、その苦しみを私に見せようとはしない。しかし、あなたがたは、心の奥底まで見通し、その痛みを共に感じ取る私の鋭い御目の前にいるのだ。

3. 私があなたがたに教えを授ける前に、私はあなたがたの傷に私の癒しの油を塗り、あなたがたの魂を平安で満たしたい。あなたがたが強くなり、私に近いと感じてほしい。あなたがたと父との間に結ばれている絆は、日々深まっていくべきである。そうしてこそ、あなたがたの心をこの地上に縛りつけている鎖が断ち切られ、あなたがたの魂が自由になるのだ。わたしはあなたがたに、霊的な法則と人間的な法則に従うよう教えてきた。それによって、あなたがたは物質主義にも、霊的な狂信にも陥ることのないのだ。

4. あなたがたは、私の第三の啓示を目の当たりにし、再び私の御言葉を聞くに至るまで、多くの苦しみを味わってきた。あなたがたの中には、私の声を聞いたにもかかわらず、魂が人間の苦難から解き放たれることができなかったために、依然として苦しみから解放されていない者たちがいます。しかし、私は忍耐強く、愛に満ちた師としてやって来て、私の教えをもってあなたがたを支え、初心者がその旅路を進んでいけるようにします。

人生の試練は私の教えの一部であり、それらは、これから訪れる新たな試練に耐えられるよう、あなたがたの魂を鍛え、強靱にするものです。痛みこそが、あなたがたを私のもとへと導いた手段でした。

第二の時代にも同じことが起こりました。盲人、ハンセン病患者、足の不自由な者、悪霊に取りつかれた者、耳の聞こえない者——肉体だけでなく「心」にも膿むような傷を負っていた者たちこそが、わたしについて証しをしたのです。

5. 私があなたがたの間で行った、あなたがたが「奇跡」と呼んだ愛と憐れみの業は、それらの人々の心に信仰の火を灯し、それによって多くの者が私のもとへと導かれた。それらの業を行うことは、私の意志であった。それは、心と魂の最も深い琴線に響き渡

らせ、人々がイエスの力を直接体験できるようにするためであった——他の人間には到底成し得ない業を成し遂げた、あの超自然的な人、イエスの力を。それらの業は、科学や、過去の時代に主の使徒たちが行ったあらゆることを凌駕するものであった。まだ時の完成には至っていなかったため、御父は——御父は御霊であられるが——イエスの肉体に隠れて人々のところへ降りてこられた。それは、御父のすべての御業が目に見えるものとなり、御言葉が耳に届くようにするためであった。

6. それゆえ、私は多くの機会に、まず肉体的に病んでいる人々を癒やした。それは、最も不信仰で、物質主義に囚われた人々の目にも、その証拠が示されるようにするためであった。もし私がそれらの奇跡を魂に対してのみ行っていたならば、民はそれを見ることさえできず、信じることもなかったであろう。

7. 時代は変わった。もしあなたがたが当時と同じ者たちであったなら、私はあなたがたの間で再びそれらの奇跡を行い、私について証しをしたであろう。しかし、あなたがたはあの時代、私の証人であったのだ。あなたがたは、私の慈悲を目撃しただけでなく、それを受け取ったのです。あなたがたのうち、どれほど多くの人々が、イエスの愛撫、すなわち頭の上に優しく置かれたその手の感触を感じたことでしょうか。あなたがたのうち、どれほど多くの人々が、その癒しの力と愛をもって、あなたがたの肉体と魂を満たしたあの言葉の響きを耳にしたことでしょうか。

8. 今日、私は直接、あなたがたの魂に語りかける。なぜなら、ある者たちの魂は盲目であり、ある者たちの魂は柔軟性を失い、またある者たちの魂は神の声に耳を塞ぎ、さらに一部の者たちの魂は罪と悪徳によって穢されていたからだ。そこで私は、あなたがたが喜んで、平穏な心で私のもとに来るよう、呼びかけたのである。しかし、あなた方は心を硬くしていた。痛みが極めて激しくなって初めて、あなた方は私のもとへと向かったのだ。

それ以前、あなたがたは魂の平安や健康、あるいは慰めを求めて、次々と扉を叩いて回っていた。しかし、どこにもそれらの恵みを見出せなかったとき、ようやく謙虚に頭を垂れて、私の御前に来るようになった。あなたがたは皆、そのようにしてここへやって来たのだ。私の憐れみを必要としない心も魂も、一人として私のところへ来た者はいなかった。だからこそ、あなたがたは苦しみを通してこの道を見つけたのだと、改めて告げる。

9. 不信仰のゆえに、信じるために私から奇跡を求め続けた者たちもいた。そこで私は、彼らが求めた奇跡を授けないことで、彼

らを試した。なぜなら、私を信じ、私を愛する者は、決して父に条件を突きつけることはないからだ。また、信仰に欠けていたにもかかわらず、私の教えに耳を傾け続け、やがて心が屈服した者たちには、奇跡が起きた。主への信仰に満ちて目を開いたとき、彼らは健康と平安を取り戻したことに気づき、限りない喜びに包まれた。また、私の言葉を聞き続けることに粘り強く取り組んだ他の人々は、肉体の痛みを忘れ、魂を高揚させ、やがて自らの苦しみさえも祝福するに至った。彼らは、私により近づいた者たちの一員であったからである。

10. あなたがたは、私がこのようにしてあなたがたの信仰と愛を試み、また、救いへの渴望によって私の慈悲と賜物を得たことを悟ったのだから、祝福されよ。

11. 私は師であり、父であり、医者であり、裁き主であった。私は至高の愛である。常に父として、また師として私を求めなさい。私を医者として求めなくて済むよう、病にならず、また私が裁き主としてあなたがたの前に立つことのないよう、私の正義に挑んではならない。

12. 道徳、徳、そして霊性を実践することは、あなた方を身体の病や良心の呵責から解放してくれるだろう。

13. もう一度言うておくが、今日、私が人類のもとに来たのは、「第二の時代」の奇跡を再現するためではない。私はあなたがたの魂を渴望して来たが、あなたがたの体を忘れたわけではない。体もまた、私の創造物だからだ。私は、あなたがたの心に平安を満たし、この時代の浮き沈みや苦痛の只中で、あなたがたの顔に微笑みを浮かべさせるために、近づいてきたのだ。

14. 私は、現実である理想の光で、あなたがたの心を燃え立たせた。なぜなら、その理想こそが私であり、あなたがたが常に私の臨在と助けを得られる道の目的地だからである。その道において、私は目覚めの呼び声となり、友となり、医師となり、そしてあなたがたの眠りを見守る守護者となる。

15. あなたがたの魂は、まだこの地上に留まっているにもかかわらず、今や自らの世界を発見しつつあります。今やその聖域を知り、道を見出し、そこから地平線上に真の祖国を望み見ているのです。

あなたがたは心の中で、誰が父のもとへたどり着くのかと私に尋ねる。私はこう答える——「すべての人だ」。しかし、将来、あなたがたを導くのは痛みでも、あなたがたを追い立てる試練でもない。あなたがたの愛こそが、あなたがたを私のもとへと導く光と

なるのだ。この道のりの試練は、あなたがたを物質主義から目覚めさせるためだけに存在する。

16. 嵐や竜巻が過ぎ去ったとき、あなたがたの心には静けさと平安が訪れるでしょう。その時、あなたがたは合一に達し、父はこう告げられるでしょう。「さあ、あなたがたは準備が整った。今こそ他の人々のことを考えなさい。今こそ、あなたがたには同胞を導く権利がある。なぜなら、今やあなたがたは良き手本を示せるからだ。」

17. 「新しいエルサレム」はその門を開くでしょう。そこには守護者たちが留まり、そこから使者たちが諸国民へと旅立ち、至福と証しをもたらすのです。

18. あなたがたの言葉は、偶像をその台座から引きずり下ろし、あなたがたから放たれる光は闇を追い払うだろう。

19. あなたたちにはあまりにも大きな責任のように思えるかもしれないが、私はあなたたちに告げる。あなたたちはこの任務を果たすことができるのだ。なぜなら、あなたたちの魂は、はるか昔にすでにその成長の道を歩み始めているからである。

20. 初期の時代、イスラエルは契約の箱を自分たちだけで守っていた。しかし、イエスが地上で説教されたとき、彼はユダヤの境界を越え、愛の種を広めるために使徒たちを他の諸国へと遣わした。

21. 今日、私は聖霊としてやって来る。そして、私の普遍的な教えは、人種、学識の有無、富の多寡を問わず、すべての人を包み込む。その教えの中で、無限の数ある世界に暮らす宇宙のすべての住人が一つに結ばれるだろう。

22. この「民」の中から、私が永遠に宿る霊的な神殿が築き上げられるだろう——私の神性への愛の祭壇がそびえ立つ内なる神殿——それは石ではなく、祈り、慈悲の行い、そして真実の証しによって築かれる聖所である。この神殿には、私の像が置かれる——それは人間の手によって作られたものではなく、私が「私の像と姿として」創造したものである。すなわち、魂を授かり、霊の光によって照らされた人間という存在である。

23. あなたがたは、自分の中に神性の反映を宿している。私はまことにあなたがたの中にいる。あなたがたが持つ知性、意志、能力、感覚、そして美德は、あなたがたが属するより高い本質を証し、あなたがたを生み出した父の生きた証しである。

24. 時折、あなたがたは不従順や罪によって、自らの本質の中に私から授かった「神の像」を汚し、辱めてしまう。そのとき、

あなたがたは私に似てはいない。なぜなら、創造主の「神の像」であるためには、人間の肉体と魂を持っているだけでは不十分だからである。私との真の類似性は、あなたがたの光と、すべての隣人に対する愛の中にこそある。

25. 「増えよ、そして繁栄せよ」と、私はこの第三の時代に、あなたがたの魂に告げます。それは、私が人類の祖先たちに、地球を人間で満たすよう命じたとき、彼らに語ったのと同じ言葉です。愛する民よ、増え、繁栄しなさい。しかし、霊性において成長し、美德において豊かになりなさい。

26. この時代に蔓延する多くの闇の中で、光となりなさい。祈りとなり、マナとなり、癒やしとなり、慈しみとなりなさい。そうすれば、わたしを愛する人々、わたしを崇める魂たちと調和することができるだろう。

27. 地上には、あなたがたの「家」である避難所がある——それは宇宙の写しであるその機関であり、その懐の中で、あなたがたは生きるための闘いに必要な力を得ることができるのだ。

28. あなたがたの家が、それ自体が聖域のようなものとなるよう、また、あなたがたの人生という不毛で敵対的な砂漠の中の小さな王国、オアシスとなるよう心がけなさい。家の美德を守りなさい。しかし、野心的な努力の行き過ぎによって利己主義に陥ってはならない。そうすれば、もてなし、愛、そして慈悲が欠如し、もはや宇宙に似ていなくなるからだ。あなたの屋根のもてなしの心を忘れず、食卓を兄弟愛に満ちたものとしなさい。

29. 愛の道を通じてのみ、あなたがたはわたしのもとへ至り、わたしを知ることができる。それゆえ、わたしはこの教えに従ってどのように生きるべきかを、あなたがたに教え導いてきた。なぜなら、この教えこそが、あなたがたに真の愛を吹き込むからである。

30. わたしの言葉は、この第三の時代においてあなたがたの導き手となり、障害や「深淵」、そして「闇」を突き破って道を開くであろう。なぜなら、その言葉にはわたしの教えが込められているからである。

31. わたしこそが、あなたがたの救いそのものであることを心に留めなさい。過去においても、現在においても、そして未来においても、わたしの律法は、あなたがたの魂の道であり、導き手であったし、今もあり、これからもそうあり続ける。

32. わたしの律法に依り頼む者たちは祝福される。彼らは分かれ道で決して迷うことはないからだ。彼らは約束の地に至り、勝利の歌を歌い上げるであろう。

33. 愛する民よ。あなたがたがその道で踏み出す一步一步を、私は祝福し、それによってあなたがたの魂を平安と信頼で満たす。それは、あなたがたが過去の時代のように立ち止まったり、眠り込んだりしないよう、励ましとするためである。

34. これまでの行いに満足したり、安住したりしてはならない。目標はまだ遠く、そこに到達するためには、さらに多くの「旅」を続け、新たな功績を積み重ね、高みへと至るために努力しなければならないことを自覚せよ。

35. 魂の完成は、たとえそれが数世紀であろうと、あるいは数時代であろうと、地上の時間単位で測ることはできない。魂の完成と発展は、永遠をその活動領域としています。しかし、だからこそ、永遠が目の前に広がっているからといって、地上の生活の日々や一分一秒を 軽んじてはなりません。それらを無駄に過ごしても、それを取り戻す機会はまだまだたくさんある、と考えてはならないのです。

自分の魂が、発展の道のりでたった一步でも踏み外したり、「一瞬」でも遅れをとったりした際に、どれほどの苦しみを味わうか、あなた方はまだ自覚していません。目覚めた状態で生き、肉体的・精神的な向上に役立てるためには、存在のあらゆる瞬間が持つ価値を認識することが不可欠なのです。

36. あなたがた全員が、この道を同じペースで進むことはできないと、私は知っている。それゆえ、すでに確固たる足取りで歩むことができた者たちに、私はこう言う。あなたがたの後に続く者たちを忘れてはならない。疲れ果ててやって来る者もいれば、立ち止まってしまった者もいれば、また、一時的に信仰を失ってしまう者もいることを認識せよ。

37. 私は、あなたがたに、この道でつまずき、転ぶ者たちの世話を尽くすよう命じる。そうすることで、あなたがたは兄弟愛を実践し、私の教えから学んだことを証明する機会を得られるだろう。

38. もし誰かが、他者が自分の努力の成果を利用し、それを享受することを恐れて、自分の知見や信仰、賜物を自分だけのものにしておこうとするならば、その人は孤独のうちに、手ぶらで私のところに来ることになるだろう。その者は、私に種を差し出すことはあっても、収穫を差し出すことはないだろう。なぜなら、種を

受け取り、それを自分だけのために使うことに満足していたため、決して種を蒔くことはなかったからだ。

39. 自らの魂に宿るものを隣人に与えるために自己を忘れ、隣人が霊的な目標である山の頂へと登りつめるのを助けることに最大の喜びを見出す者は、大勢の群れを従えて、霊の兄弟姉妹たちからの祝福を受け、使命を果たした光に満ちた魂をもって、私の元へやって来るであろう。

40. 弟子たちよ、学び手たちよ、そして遅れてきた者たちよ、わたしのもとに来なさい。あなたがたのうち、私が「今や第三の時代であり、人間の魂は父と調和するために高みへと昇り、偉大な高みに達しなければならない」と明らかにしたその瞬間から、私の教えを学んできた者たちを、私は「弟子」と呼ぶ。

そして、自らを「生徒」だと感じるあなた方に、私は真実を告げよう。これは、あなたがたが私から受ける最初の教えではないのだ。はるか昔、他の時代において、私はあなたがたに語りかけてきた。それ以来、あなたがたはその律法を知っており、またその時から、私はあなたがたがその律法を全うすることを待ち望んできた。私が「後れを取った者たち」と呼んだあなたがたに、私があなたがたの中に現れることに驚いてはならないと告げる。なぜなら、私が人々の元に戻るとは、あらかじめ告げられていたからである。

41. 皆、私の言葉に耳を傾け、魂を整えなさい。私は、第二の時代に語ったように、魂の糧、すなわち「種入れぬパン」をあなたがたに与えるからである。このパンは、あらゆる被造物に対する私の霊の本質であり愛そのものであり、あなたがたは私からしかこれを受け取ることができない。今日からこのパンを糧としなさい。そうすれば、わたしの子供たちの誰一人として、この糧を欠くことはないだろう。飢えで死ぬことのないように。父であるわたしが今、こう告げる。あなたがたは、今ほどわたしを身近に感じたことはかつてなかったのだ。

42. あなたがたは私の子供たちであるから、私はあなたがたを守り、保護することを約束した。もはや疑ってはならない。飢えを感じたり、この愛に見捨てられたりしてはならない。そして、あなたがたがどの段階にしようとも、私の臨在を感じなさい。

43. あなたがたが、私が差し出す実の味を知り、惑わされないうようにしたい。なぜなら、私の啓示の終わりが近づいており、この時を過ぎれば、選ばれた民には危険や落とし穴が待ち受けているからだ。受けた教えを綿密に吟味しない者は、誘惑に陥る恐れがあ

る。目覚め続け、祈り続ける弟子たちだけが、誤りから免れ、純粋な種を育み、それを周囲の人々に伝える術を身につけることができるのだ。

44. わたしは三つの時代におけるわたしの啓示の時期を定めた。最初の人間からイエスの誕生に至るまでが、人類の第一時代を網羅する時期であった。それは、発展の真っ只中にあったあなたがたの魂にとって、試練と闘い、そして経験に満ちた長い期間であった。イエスは第二の時代の始まりを告げ、人間はイエスが自らの模範によって与えた教訓を学び、父の使者である「御言葉」を身近に感じたとき、深く心を揺さぶられた。

イエスのこの世での滞在は短かった。選ばれた者たちを訓練し、準備を整えて、その御言葉が地の果てまで伝えられるようにした後、イエスは間もなく、ご自身がやって来た場所である父のもとへ戻られた。その時から、新しい時代の始まりを告げる兆しが現れた1866年まで、第二の時代が内包する出来事が起こった。

その時点以降、人類にとって新たな、すなわち第三の周期が開かれ、その完全な働きを発揮する私の霊は、あなたがたに、ある時期から次の時期へと進み、その時代にふさわしい種、光、そして恵みを受け入れるよう導いてきた。それは、あなたがたがどの程度の発展段階に達したかを認識し、一步一步、霊化へと近づいていくためである。

45. 私が人間を媒介としてあなた方に教えを授ける期間は定められており、私のあらゆる定めと同様に、それは必ず成就されなければならない。その後、あなた方の信仰、直感、そして私への信頼が、私があなた方のそばにいることを告げ、あなた方は魂の奥底で、私があなた方の歩みを導き、常に山の頂を指し示し、魂たちが待ち望む目標である完全性を達成できるよう、私の子供たちを支えているのを感じるでしょう。

46. 祝福された女性たちよ。あなた方もまた、わたしの使徒の群れに属している。肉体的には異なっているとはいえ、男性の霊とあなた方の霊との間に違いはなく、また、双方の役割も異なっている。

47. イエスをあなたがたの霊の師として受け入れ、その愛が示した道を歩んでいきなさい。その御言葉を自分のものとし、その十字架を抱きしめなさい。

48. あなたがたは霊的に男性と等しいので、私は男性たちに語ると同じ言葉で、あなたがたの霊に語りかける。しかし——もしあなたがたの女性の心が、見習うべき模範を求めているなら、も

し人生において完全になるための支えとして完璧な手本が必要なら、マリアを思い出し、彼女が地上で過ごした生涯全体を注視しなさい。

49. 父の御心は、マリアの謙虚な生涯を、彼女の活動期間を通じて彼女を知り、彼女と語り合ってきた私の弟子たちが書き記すことだった。

50. その生涯——知る者にとっては謙虚なものだが——は、誕生からこの世での最期に至るまで、輝きに満ちていた。マリアは、その謙虚な精神、限りない優しさ、清らかな心、そして人類への愛をもって、多くの愛に満ちた教えのページを綴った。彼女は、人々に語りかけるべきお方はキリストであることを知っていたため、言葉よりも沈黙をもってそれを表現した。

51. マリアの精神は、人類に謙虚さ、従順、そして柔和さの完全なる模範を示すために、父から発せられた母性愛そのものであった。彼女がこの世を歩んだ道は、光の軌跡であった。彼女の生涯は、質素であり、威厳に満ち、清らかであった。彼女において、メシアが処女から生まれると予告していた預言が成就したのである。

52. 彼女だけが、その胎内に神の種を宿すことができた。彼女だけが、イエスに対する使命を果たした後、人類の霊的な母としてこの世に残るにふさわしい存在であった。

53. それゆえ、女性たちよ、マリアこそがあなた方の完全なる模範である。しかし、彼女に心に向け、その沈黙、謙遜の行い、困窮する者たちへの愛による限りない自己犠牲、静かな苦しみ、すべてを赦す思いやり、そして執り成し、慰め、そして優しい支えとなるその愛において、彼女を模範として受け入れてほしい。

54. 処女たち、妻たち、母たち、親のない少女たち、あるいは未亡人、孤独な女性たちよ、痛みに満ちた心を持つあなたがた——マリアを、あなたがたの愛情深く思いやりのある母と呼び、心の中で彼女を呼び求め、霊において彼女を受け入れ、心の中で彼女を感じなさい。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 226

1. 師は、民よ、あなた方を祝福する。私は、あなたがたが私の御臨在によって活力を得、なおあなたがたの間にある霊的、道德的、そして物質的な試練に耐え抜く力を得られるよう、あなたがたを備えさせている。

2. 私は、この時代に世界を襲う試練について、しばしばあなた方に語ってきた。目を開けば、それらがすでに到来していることがわかるだろう。明日には、さらに大きな試練が訪れる。その解毒剤を手にしてしているあなた方は、尊敬を勝ち取る機会を得るだろう。もしあなたがたが私の指示に従うならば、自然の力に命令を下すことができ、それらはその動きを止め、あなたがたの愛する人々に害を及ぼすことはなく、従順な僕のようにあなたがたに従うでしょう。あなたがたの力は、ごく少数の集団にとどまらず、広大な地域や国家全体が、「イスラエルの民」の祈りによって、その苦難の中で安らぎを受けることになるでしょう。しかし、もしあなたがたが「目を覚まし」、祈り続けることを怠れば、災いが降りかかるだろう。その場合、使命を果たせなかった責任があなたがたの魂に重くのしかかり、逆境に立ち向かうにはあまりにも弱々しく感じてしまうことになるだろう。

3. この内省と使命の遂行の時ににおいて、あなたがたは、かつて始めた使命を完遂する準備を整えなければならない。過ちを正し、愛をもって魂の清らかさを取り戻しなさい。あなたがたは、私の使者として、人類のために私が託したすべてを伝えきれていないため、大きな疑念を抱いている。

4. 信仰を持つ者は祝福されるが、わたしのもとに来て、この尊い賜物を求めてくる者をも、わたしは祝福する。「信仰があなたを救う」と、わたしは常にあなたたちに語ってきた。深刻な危機や大きな試練の中で、祈り、信頼する者は皆、救われるだろう。なぜ、私あなたがたを愛しており、あなたがたが私の完全な保護の下にあることを知っているにもかかわらず、時折、絶望と希望の喪失という深淵に落ちてしまうのか。もしあなた方に力強い信仰がないなら、自分自身の内面を探し求めなさい。そしてそれを見つけたら、自分の道を照らす灯火として、それを携えていなさい。そうすれば、あなたがたは強くなり、忍耐強くなり、自らの運命を受け入れることができるようになるでしょう。

5. 私はあなたがたに祈ることを教えました。その祈りの中で、私たちは心でつながっていました。あなたがたは、苦しみの中に

も、安らぎの時間にも、私を呼び求めました。たとえ罪を犯したとしても、あなたがたは私の御臨在を求め、私と共に過ちを嘆き（）、そうして魂を安らげました。私の愛と忍耐は限りなく、絶えずあなたがたに現れています。

6. 私の別れの日が近づいている。その時、私の言葉は終わるが、私は霊として弟子たちの心の中に留まり続ける。その時には、あなたがたは、自らの存在の内なる神殿の中で私を求めることを学んでいなければならない。その神殿の栄光は、信仰と愛、そしてあなたがたの魂の高揚に根ざしている。あなたがたが揺るぎない信仰をもってこの聖域を築き上げたならば、誰もそれを破壊することはできない。私がいつの時代もあなたがたの魂に託してきた使命を認識できるよう、私の教えに堅く留まりなさい。

7. 魂の感受性を以て、無限の中にわたしを求めなさい。しかし、わたしを見ようとするな。あなたがたの目には、わたしの霊を見ることはできない。第二の時代のわたしの弟子ヨハネでさえ、その偉大な幻視の中で、わたしの霊の全き栄光を見ることはできなかった。私は彼の霊的な目に、大きな神秘を秘めた象徴のみを示した。彼は、その崇高さにもかかわらず、その神秘を解き明かすことはできなかった。彼は私が彼に与えたものに感謝し、あの偉大な幻視の中で見聞きしたことを、将来の世代のために書き記した。

8. この時代の預言者たちよ。畏敬の念を持って無限の世界へと踏み込め。そうすれば、あなたがたを備えさせるために、私は民を励まし、これから起こる出来事を告げる美しい幻を授けるであろう。子供たちでさえ、自分が見たものを証しするだろう。私は彼らに偉大な幻を授ける。私の知恵の光が、あなたがたの上に降り注ぐであろう。

9. この時代に師が伝える言葉には、真の理解をもって「声の伝達者」としての使命を果たす、準備の整った者を通じて、人々に未知の教えを明らかにするという特質がある。この恵みは同時に、私の啓示を通じて、第三の時代に魂が到達した発展の段階を理解することを、あなた方に教えてくれるのである。

10. わたしの光は、この真理をあなたがたに明確に認識させ、それがあなたがたの全存在を貫いています。それは、疲れ果てた魂にとって、その渴きを癒やす水晶のように澄んだ水です。心にとっては、日々耐え忍ばなければならない苦難や誘惑との戦いにおける励ましである。この気づきこそが、あなた方を勇気づける力であり、私の弟子たちを新たに生まれ変わらせる恵みのだ。

11. 魂と、あなた方を包む人生について、さらに深く理解するためには、あなた方は幾度もの地上での生を通じて成長しなければならなかった。あなた方は「光の時代」に入った。この時代によって、あなた方は私の教えの 真の教えを、もはや自分たちが想像していたような形ではなく、その真の意味において理解することができるようになった。そしてこれにより、永遠の命へと続く道を認識することが可能となる。人間はこの光を通じて、どれほどの啓示を知ることになるだろうか。そして、それらを発見したとき、過去の間違いをどれほど嘆くことになるだろうか！ なぜなら、今こそ目覚めの時であり、精神と思想の自由の時代だからである。

12. 人間が鎖のように引きずってきたあらゆる不必要な慣習は、新たな心構えによって物質主義から解放されるとき、彼から脱ぎ捨てられることになる。

13. あなたがたは、世界がその声を聞き取れるよう、声を上げなければならない。あなたがたは、この「喜びの知らせ」の伝道者となり、耳で聞き、知性で受け取ったことを説明できる真の証人となり、愛と慈悲の行いによってそれを裏付けなければならない。

14. これまで、あなたがたの行いに完全さが欠けていたのは、あなたがたが私の教えによって変容することを望まなかったからである。あなたがたには、意志、自己否定、そして努力が欠けていた。しかし、あなたがたの魂は、私に近づき、その使命を果たしたいという渴望の中で、高みへと舞い上がろうとしている。

15. 科学者たちが自らの学識の素晴らしさを大々的に宣伝するのは、彼らがその学識に確信を持っているからである。私の業について語るためには、あなた方もその業に深く没頭し、その真実を確信するに至るまで学ばなければならない。

16. よく理解せよ。あなたがたが知らないことについては、嘘や誤りに陥ることを恐れて、それについて語ることも、それを肯定することもできない。しかし、その準備が整い、あなたがたの中に認識と深い信仰があれば、あなたがたは真理の光を手にすることができるだろう。

17. 私の教えは、あなたがたの想像や理解力の範囲に限定されるものではないことを心に留めておきなさい。私の神聖な知恵には限界がない。私がそれを明らかにする以前には、誰も私の啓示のどれかを知っていた、あるいは理解していたなどとは主張できない。

。

18. 科学者たちが物質的な知識をもってあらゆることを説明しようと試みる一方で、私は謙虚な者たちに、霊的な生命、すなわ

ち真の生命を啓示する。そこには、存在するすべてのものの原因、根拠、そして説明が存在するのだ。

19. あなたがたが伝える知識から、人々が私の業について抱くイメージが生まれるだろう。理解の欠如ゆえに、多くの者は、あなたがたの地味さに基づいて私の教えを判断するだろう。それは、「第二の時代」において、イエス・キリストが、その控えめな外見と質素な装い、そして彼に従った十二使徒たちもまた質素な服装をしていたという理由で判断されたのと同じである。しかし、私は真実を告げよう。彼らはぼろ布をまとっていたわけではなく、ただ、私の教えによって魂の真の価値が何であるかを理解していたからこそ、この世の虚栄を拒んでいたのである。

20. 弟子たちよ、私はあなたがたに告げる。人々が私の業を研究し始め、あなたがたを訪ねて質問してきたとき、私から授かった知識ゆえに自分たちを優越していると思い込み、誘惑に陥ってはならない。あなたがたが謙虚に振る舞えば振る舞うほど、彼らはあなたがたをより高潔で信頼できる者とみなすようになる。

21. このようにして、狂信を解きほぐし、魂を解放する光は、人から人へと徐々に広がっていくであろう。そして、キリスト教徒と名乗っていたが実際にはそうではなかった者たちも、この光によってキリストの真の教えを知り、解釈するようになるだろう。なぜなら、この光は、イエスが教えの中で語った霊的な生活について、彼らに高揚感を与える概念を与えるからである。

22. 弟子たちよ、私の言葉に耳を傾けなさい。あなたがたに謙遜を教え、その愛をもってあなたがたを兄弟と呼んだ方は、まさに今日、この時代にあなたがたに語りかけている方その人だからである。

23. わたしの秘められた宝庫は、弟子たちを師へと変えるために開かれる。わたしに耳を傾け、わたしの言葉を学びなさい。そうすれば、わたしはあなたがたを諸地方や諸民族へと遣わし、わたしの教えを広めることができるのだ。

24. この時代、私は「玉座」からあなたがたに語りかけており、私の声は、私が恵みを与えた一人の人間を通じて、あなたがたの世界に響き渡っている。

25. 最初の時代にメシアの到来が予告されたように、わたしもまた、あなたがたに再臨を予告した。そして今、わたしはここにいる！

26. 1866年、預言者であり先駆者であるエリヤの霊が現れ、主の道を整え、「最初の者たち」の心に光を灯し、彼らに私の間近

な到来を告げ、また、私の聖霊が顕現する媒体となる、教育を受けていない男女たちを準備させた。

27. わたしはこの「声の器」たちを通して自らを現した。それは、地上の神に任命された僕たちにもわたしの言葉が聞かれるようにするためであり、また、いかなる形であれわたしの律法を破っている者たちが、それ以上律法を冒瀆することをやめ、人々にわたしへと導く真の道を教えるようにするためである。

28. 律法学者たちとパリサイ人たちは、今、あなたがたの中で、再び立ち上がり、わたしを裁き、試そうとするだろう。しかし、わたしはあなたがたに言う。わたしが教えるその謙遜さをもって謙虚でありなさい。そうすれば、彼らはあなたがたをわたしの弟子であると認めるだろう。

29. イスラエルの民はまだ一つになってはいない。ある者たちは「霊」の中にいる一方で、他の者たちはまだ地上の肉体を持っているからだ。ある者たちは救われているが、他の者たちは深淵の淵に立っている。その中には、父を愛していると信じているが、実際には黄金の子牛を崇拜している者たちもいる。しかし、この民が一つになり、備えが整う時が近づいている。

30. わたしに耳を傾け、その民の一員であるあなたがたは、美しい響きの鐘の鳴り響くような、わたしの呼び声に従った者たちの一員である。あなたがたの従順さと善意に対する報いは、「神の言葉」——ガリラヤのラビ、イエスを通して語られたのと同じ言葉——を聞くときに与えられる。

31. 私は、さまざまな宗教共同体における同胞たちの信仰の信念や礼拝の行いを、批判してはならないと教える。万物を包み込む私の教えは、あらゆる信仰に対する敬意を教えるものである。あなたがたは、私がすべての人の中にいることを知っている。清い者の中にも、罪によって汚された者の中にも、私はいるのだ。

32. 私はすべての人を愛し、誰をも罰することはない。魂を正し、完全なものへと導くのは、私の正義である。

33. 神の御霊は愛に満ちており、そこには怒りは存在しない。信じてほしい。もし父が、あなたがたの侮辱や過ちに対して一瞬でも怒りを感じたなら、その一瞬だけで、あなたがたを滅ぼすのに十分だっただろう。

34. それゆえ、私は「白い雲の上」からやって来て、あなたがたに私の言葉を聞かせ、あなたがたの悪を取り除き、真理に向けてあなたがたの霊的な目を開かせ、あなたがたの人生という荒野に

おいて、あなたがたがその木陰で憩いを得たヤシの木として、私自身を現したのだ。

35. わたしはあなたがたに物質的な富を与えなかった。もしあなたがたがすべてを受け取っていたなら、わたしに背を向けていたであろうから。もしあなたがたが富める者となったら、どうするだろうか。しかし、まことに、あなたがたに告げる。わたしが今、あなたがたに与えているものは、宝石以上のもの——それは宝である。

36. 肉体の死後、魂はどこへ行くのか。あなたがたの心はそれを知らず、あの世界を知らない。しかし、あなたがたの魂が闇の谷に足を踏み入れないように、魂の成長という狭い道を登り続けなければならない。

37. 立ち上がり、新しい人生、すなわち平和に満ちた人生を歩みなさい。今こそ、あなたがたには「目覚め」、祈ってほしい。人類は滅亡の危機に瀕しているからだ。

38. ある人々は、この集会の場の質素さと簡素さ、そして私が自らを現すための「声の媒体」たちの地味さを理由に、私の存在を信じようとししない。しかし、そのような疑いを持つ者たちがキリストの生涯を深く学べば、彼が決して華やかな見せ物や称賛、あるいは富を求めたことはなかったと気づくはずである。

39. これらの場所は、かつて私が生まれた馬小屋や藁の上のように、貧しく、ささやかなものであってもよいのだ。

40. 弟子たちよ、あなたがたは私の天の食卓に着き、そこで私の愛のパンとぶどう酒を食し、飲んだのである。

41. わたしの「玉座」から、わたしの光線を放ち、わたしの御言葉の調べであなた方を喜ばせている。

42. かつてそうであったように、私はあなたがたが来るのを待ち望んでいた。

43. わたしの食卓に着き、わたしの周りに集まってください。もしあなたがたが飢えや渴きを感じているなら——ここに食事があります。どうぞご自由にお取りになって、お召し上がりください。もしあなたがたが悲しみや病を感じているなら——ここにわたしの臨在があります。それはあなたがたに健康と慰めを与えるためです。

44. あなたがたが永遠にわたしと共に住むという希望を、常に抱き続けなさい。わたしはこの世に関する約束を果たしたのだから、霊的な生活に関する約束もまた果たすであろう。

45. この地上で功德を積みなさい。そうすれば、わたしへと続く道から決して迷うことはないでしょう。

46. 今、あなたがたは新たな荒野を横断している。そこでは、飢えで命を落とすことはなかった。なぜなら、その荒野において、私の言葉の奇跡が起こり、あなたがたの魂を養ってくれたからだ。それは、あなたがたが荒野の荒れ地でマナを糧とし、後に——同じく荒野において——イエスの奇跡によるパンと魚を食べたのと同じである。

47. 今日、あなたがたが横断しているのは灼熱の砂漠ではなく、また私があなたがたに差し出すのも、この世のパンではない。今、あなたがたは山の頂上へと登りつつあり、永遠の命のパンがあなたがたを養っている。あなたがたの魂は、私があなたがたに語りかける比喩的な意味を完全に理解している。なぜなら、あなたがたの魂の成長によって、私の教えの核心に深く入り込むことができるようになったからである。

48. 今、あなたがたは十字架の重荷を背負い、一步一步山を登っている。もし疲れを感じたら、わたしを呼びなさい。そうすれば、すぐに師が、共に十字架を担う者として、あなたがたの重荷を助け、あなたがたが贖罪の道を最後まで歩み続けられるようにするだろう。あなた方一人ひとりに使命と義務があるため、私はすべての人——子供にも、若者にも、大人にも——と共にいます。しかし、私があなた方に運命を示し、十字架を託したのは、あなた方が父にふさわしい存在になれると知っているからです。

49. 誰も、自らの魂の発達段階を決定することはできず、また、隣人が置かれている存在の次元を判断することもできない。これを判断できるのは、私だけである。

50. 私は、あなた方をこの世に縛りつける鎖を断ち切り、真理である光への渴望をもって高みへ昇るための霊的な自由を与えるために来たのだ。

51. 誰も最後になりたくはない。皆、一番になりたがっている。それゆえ、功績を積み、働け。愛をもって畑に水をやり、それを肥沃にし、そこに師の種を蒔きなさい。そうすれば、あなた方の後に続く世代は、あなた方の足跡を見て、あなたがたが父から教えを受けたことを知るだろう。

52. 誘惑があなたがたの種を台無しにしないよう、私が与えた光の剣で、あなたがたの畑を守りなさい。

53. わたしは、あなたがたの霊的な働きへの報いとして、天の国を約束した。そこでは、あなたがたは、この時代に父であり師

としてあなたがたのもとを訪れ、慰めと啓示を与える創造主と共にいることになる。ここに私の教えがある。そこには、私の愛、誠実さ、正義、そして、あなた方を知恵へと導こうとする私の助言が明らかに示されている。

54. 私は、人間が私を理解できるよう、いつの時代も簡素な形で自らを現してきた。常に、あなたがたの知性と心の理解の範囲内でそうしてきたのである。私は、あなたがたの貧しい生活に身を屈めて、より良い生活へと引き上げることで、謙遜の模範を示すために、あなたがたの元へ降りてきたのである。

55. 私は、私があなたがたに語りかける方法として、どのような形を好むかと尋ねたが、あなたがたは、私がどのような形で語りかけても、私を認識できると答えた。わたしを試してはならない。あなたがたがすべきことは、より霊的な境地へと至るよう努め、それによってわたしの啓示をより深く解釈し、真の愛の行いをもってわたしの教えを完全に証しすることである。

56. わたしは常に、あなたがたに光をもたらし、上へと続く道を示してきた。今日、わたしはあなたがたを準備させている。それは、あなたがたが祈りによってより大きな恍惚状態に陥り、近くから霊的な生活を観察し、被造物たちの上に立つ、そのすべての栄光に満ちた父を仰ぎ見ることができるようにするためである。

57. 今、私の霊は、あなたがたが飢えているゆえに、すべての魂、すべての知性、そしてすべての心に、私から養いを受けるよう呼びかけている。あなたがたは、私の言葉から養いを受ける術を知らず、私がかつて与えた教えを活用してこなかった。律法と戒めが記された「いのちの書」は、現在の世界から忘れ去られ、秘められている。

58. わたしは霊として来られ、わたしの臨在はあなた方を動揺させた。わたしの光があなた方に届き、あなた方の良心は、あなた方のすべての行いを思い起こさせた。

59. わたしは、あなたがたに新しい人生へと踏み出し、より大きな霊的高みへと到達するよう招く。わたしは、あなたがたが今日、わたしの啓示を理解し、わたしの声を聞いた後、魂をもって自分に課せられたあらゆる責任を引き受け、愛をもって使命に着手できるよう、時を経てあなたがたの霊的成長を許してきたのである。

60. これほどまでに物質主義が蔓延し、精神が混乱しているこの時代に、いかにして人類に霊性を獲得させることができるだろうか。あなたがたの務めは困難であり、それを果たすためには、闘いの中で強く、忍耐強くあらねばならないことを自覚せよ。私の

律法に対してなされてきた誤った解釈や、あなたがたが私への礼拝を捧げる際の不完全な在り方を正すために、あなたがたは多大な努力を払わなければならない。しかし、考えや礼拝の形式を一瞬で変えることはできないことを心に留めておきなさい。それを実現するためには、忍耐と善意を備え、自らの行いによって愛の模範を示さなければならないのです。

61. 初期の頃、あなたがたの捧げ物は物質的なものでした。あなたがたの捧げ物は、無垢な生き物——子羊や鳥、また種や農作物——であり、それによって私を喜ばせられると信じていました。あなたがたはまだ非常に未熟で、自分たちの世界の外を見通すことはできませんでした。私は、あなたがたが目覚めることを常に期待しつつ、次々と猶予の期間を与えてきました。

62. 第二の時代において、あなたがたはイエスを通してわたしの言葉を受け取り、イエスは、子が父に対して抱くことのできる最も完全な愛をあなたがたに教えられた。イエスは人間の魂に新しい世界を開き、あなたがたに、あなたがたが今なお理解しきれていない知恵の宝を残してくださった。

今日、第三の時代において、私はあなたがたのために「いのちの書」を開き、その中に、私の御霊の近くから、人間が清められ、魂が高められた後に待ち受ける「平和の時代」について語る新たな教訓を示している。

63. これらすべての教訓は、あなたがたの魂の最も深いところに息づいている。今日、私があなたがたに教えるのは、明日、あなたがたが新しい世代の導き手であり教師となり、彼らの魂を慈しみ、無益な伝統や誤った知識が彼らの心に根を下ろさないようにするためである。あなたがたの魂の中に、律法と私の言葉を宿しなさい。これをもって教え、目覚めつつある人類を、確かな道へと導きなさい。

64. 私は、このメッセージを伝えるために、モーセも預言者たちも遣わしたのではない。私自身が、あなたがたを準備させ、霊的な道において決定的な一步を踏み出させるために来たのである。

65. 目を覚まし、祈りなさい。常に冷静であり、私の教えに従って行動しなさい。そうしてこそ、第三の時代のこの啓示の偉大さを認識することができるのだ。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 227

1. 愛する民よ。今また、あなたがたが、涙を流さざるを得ない厳しい試練の真っ只中にあり、わたしに慰めを求めて祈る声を、わたしは耳にしている。

2. 私は、時期尚早に屈み込んだ体、早すぎる白髪、子供や若者たちの老いたような顔を見ている。人々の心には喜びが見えず、魂には平安もない。

3. 選ばれた民であるあなた方でさえ、完全な幸福を享受できてはいない。なぜなら、あなた方は他の人々よりもよく知っているからだ。すなわち、自分たちが闘争と贖罪と試練の世界に生きていること、この世界とは異なる、より高次の世界では平和が支配していること、そして昇華するためには功德を積まなければならないことを。

4. 私は、この人類が闘いの真っ只中であって、新たな力を得て、その道のりでひととき休息をとれるよう、小さな休息の時間を与えてきた。

5. 人間は、幸福、平和、支配、そして地上の栄光を求め続けても、それは無駄である。いつの時代も、人間が経験してきたのは、つまずき、失望、そして苦痛だけだった。

6. ああ、もし人間が謙虚に自らの使命を受け入れ、力と権能を備えた靈魂としての本質を理解してくれたら。その人生の闘いは異なるものとなり、その得るものは真実のものとなり、その志は高潔で、その勝利は真のものとなるだろう。

7. しかし、私がこう言うからといって、あなたがたもその一員であるこの人類が深淵に落ち込んでいるなどとは決して思わないでほしい。私は彼らを一步一步、光へと、救いへと導いている。なぜなら、すべての人は私の右に座することを定められており、私が彼らの導き手だからである。

8. この人類は、知恵と靈性を渴望し、渇きに苦しむ大地である。まことに、あなたがたに告げる。罪は勝利することはない。その代わりに、善が支配し、地上に平和が築かれるであろう。

9. 人々の魂は、苦しみと試練の中で清められ、今やわたしを聞き、見、理解する準備が整った。

10. あなたがたの多くは、わたしの教えに従うことは不可能だと感じている。それは、あなたがたが物質主義に陥り、誤りに囚われてしまったからである。しかし、謙虚であり、苦痛によって自らを磨き上げ、私の前に頭を垂れ、私のもとへ昇ろうとする願い

以外には何も持たない者たちは、私の言葉に従うことが可能であると信じ、その種まきの最初の実を喜びをもって目撃した。

11. あなたがたは様々な道からやって来る。しかし、私はあなたがたを階級や肩書き、人種によって区別することはない。あなたがたは皆、弟子として一つに結ばれ、一つの共同体を成している。私はあなたがたの中に、貧しく目立たない外見の下に隠された偉大な魂を見出す。それらが認識されないのは、彼らが謙虚であり、学校教育を受けていないからに他ならない。しかし、彼らはわたしを愛し、証しし、理解している。わたしは、この時代にわたしの言葉を信じたすべての人々から、新たな使徒の群れを築き上げ、この人類に、わたしの教えがすべての時代のために定められており、わたしの教えが永遠であることを証明したい。

12. 「第二の時代」において、私がすべての人から認められたわけではない。預言者たちによって与えられた前兆が成就したのを見て、すでに私を待ち望んでいたユダヤ人の民の懷に私が現れたとき、私の存在は多くの人々を混乱に陥れた。彼らは預言者の言葉を正しく解釈することができず、自分たちのメシアを、敵を打ち倒し、王たちや抑圧者たちを屈服させ、待ち望んでいた者たちに財産や地上の富を授けてくれると期待していた。

13. その民は、イエスが貧しく、下着も着ておらず、体は粗末な衣一枚で覆われ、馬小屋で生まれ、後に単なる職人として働いているのを見て、彼が父から遣わされた者、すなわち約束された方であるとは信じるができなかった。彼らがイエスを信じ、その神聖なメッセージを理解するためには、師が人目に見える奇跡や業を行わなければならないはずだった。

14. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしがこの世に降りてきたのは、ただ盲人の目を開かせたり、らい病人を清めたり、死者を生き返らせたりするためではなかった。わたしの業は、知恵と永遠に満ちた神の業であり、人々の眠りについての魂を渴望して、彼らを真の霊的な命へと引き上げるために来たのである。

15. それらの奇跡は、私が成し遂げたことが他の人々にはできないことであるという証拠に過ぎず、それによって、深い眠りに沈んでいた魂たちを揺り起こし、呼び覚ますためのものであった。

16. 当時、誰がわたしを認めたのか。それは、わたしが赦した罪人たちであり、正義を渴望し、真理、霊性、そして永遠を切望する者たちであった。

17. 誰がわたしを認めなかったのか。権力者たち、神学者たち、パリサイ人たち、そして、信じなかった多くの人々にとって、わたしの言葉は混乱の原因となった。

18. 多くの人がこう言った。「この人が説いていることは、到底実現するはずがない。」しかし、あなたがたは知っている通り、十二人の男たちが直接わたしに従い、わたしから学んだ。そしてわたしは彼らにこう言った。「わたしの教えを守り、行動し、教えなさい。わたしはまもなくこの世を去るが、遠く離れるわけではない。あなたがたは心の中にわたしを宿し、わたしはこれからも自らを証しし続ける。わたしがあなたがたにしたことを、あなたがたも隣人に対して行いなさい。」

19. 預言者たちによって準備されていたあの民は、わたしを理解することができなかった。しかし、わたしの種はすでに蒔かれており、その十二人の弟子たちによって諸国や諸州へと運ばれていた。選ばれた民が彼らを排斥し、迫害し、法廷で有罪判決を下した一方で、異教の国々の人々はわたしの種を受け入れ、それは実を結んだ。

20. 異教のローマは、わたしの弟子たち、そして彼らとともにわたしの教えの種を受け入れた。苦しみによって実り、快樂に飽き飽きしていたその国は、わたしの教えを喜んで受け入れ、靈的に強くなった。そこから新たな使徒たちが立ち上がり、わたしの教えを他の民族へと広めていった。

21. わたしに従うことができず、わたしの教えに従うことを不可能だと考えたあの民——今、その民はどこにいるのか。言うておくが、彼らは多くの集団に分かれて、再びこの地上に存在している。ある者は地上の権力を手に入れ、この世の運命を動かしている。またある者は、私の新たな啓示の証人として私のそばにいる。そして残りの者たちは、再び転生し、私を待ち望んでいる。

22. あなたがたは、病める者、罪人、正義を渴望する者たちから成る、わたしに従ったあの民を代表している。

23. 今日、私は「第二の時代」の教えを繰り返すためだけでなく、あなたがたにさらなる教訓を与え、一步前進させるために来たのである。私があなたがたの中に蒔いた種を、私は育て、やがてその実を収穫するのだ。

24. 靈性を深め、引き続きわたしの恵みを受け入れなさい。そうして、人類にわたしの教えの果実をもたらせるように。わたしの臨在を感じなさい。わたしは光の一筋としてあなたがたのところへ

やって来る。その光は、あなたがたの心に届くと、パンとなり、慰めとなり、愛撫となるのだ。

25. 私は、あなたがたの過ちを兄弟姉妹たちの目の前で暴くための裁き人として現れるのではない。私の愛の言葉は、心を正し、和らげるためにあるのだ。

26. この地上には、私が啓示したのと同じ真実をもって私の教えを説く者は、誰一人としていない。しかし、それを隠してきた者たちは確かに存在する。それゆえ、私はこの啓示の形でこの世に降りてきたのだ。人類が再び輝く星を仰ぎ見、難破した者たちが救命ボートを見つけられるようにするためである。

27. 私は、社会から疎外された者たちに遺産を与え、病人を癒やし、その後彼らを癒し手とした。それは、彼らが世界に私の力を示すためである。なぜなら、そのような行いを見れば、科学者でさえも目覚め、自分が生きている時代を自覚せざるを得なくなるからである。

28. わたしは、あなたがたに、自分の肉体を制御し、それを霊的な使命において従順な協力者とするよう教える。しかし、私はまた、あなたがたの魂が、その肉体が疲れていると気づいた時には、その肉体の殻を脱ぎ捨て、翼を広げ、束縛から解放されて、「霊的な谷」で愛に満ちて働き、帰還の際には心に希望と励ましのメッセージを届けるよう、教えている。

29. それゆえ、あなたがたはスピリチュアリズムの使徒であるからこそ、世の光となるのだと、私は告げる。しかし、1950年が近づいているのだから、私があなたがたの間にとどまっているこの時間を有効に活用しなさい。私はこの姿であなたがたに語りかけることをやめることになるが、あなたがたはまだその準備ができていないように見える。

30. この第三の時代の私の律法と御言葉、そしてその啓示、預言、恵みの賜物は、人々の魂が融合し、一つとなる「新しい契約の箱」を成す。しかしその前に、それは拒絶され、戦わなければならないだろう。

31. あなたがたは、新しい聖所を守る者たち、すなわち私の大義のための新たな兵士たちとなる。私の臨在と私の御言葉があなたがたを強くしたゆえに、戦いに敗れることはない。

32. 試練の日々において、あなたがたは身を隠してはならない。なぜなら、私があなたがたに知恵と権能を与えるために来たにもかかわらず、あなたがたの賜物を、憐れみに欠ける者たちから隠すことは、公正ではないからである。

33. 弟子たちに囲まれた師の姿を、もう一度見よ。わたしは知恵をもって自らを現す。そして、あなたがたの魂は震えるべきである。なぜなら、あなたがたの魂は、わたしが課した試練を乗り越えてきたゆえに、光に満たされ、力を得たいという渴望を感じているからである。それは、私が自らを現す者を通して脳に届く私の光の一筋であり——それは、私があなた方に私のメッセージを届けるための靈感である。このようにして、私はあなた方に 霊的生活を啓示し、イエスが教えの中で示した道を再び照らし出すのである。

34. あなたがたが次第に私の言葉を聞き取るにつれて、あなたがたの内面はより明るくなり、正義への渴望は薄れていく。そうすれば、あなたがたの良心が道を照らし出し、あなたがたは私の律法に調和した行いを私に捧げるのに十分な準備が整うのである。

35. あなたがたが私に近づくと、魂の救いだけでなく、身体の救いも求めている。そして、父があなたがたの努力をご覧になれば、御心に従って、どちらか一方、あるいは双方に恵みをお与えになる。

36. 魂とは、その命に限界のない、あなた方の存在の一部である。それは、あなた方の地上の肉体よりも前からすでに存在していた。私はあなた方の魂に語りかける。なぜなら、魂は別の世界に属しているからである。とはいえ、私は肉体にも語りかけ、それを慈しむ。なぜなら、その心に平安と静けさが満ちていれば、人は私をよりよく受け入れることができるからである。

37. もしあなたがたが肉体の欲求に過度に囚われてしまうならば、魂の注意をそらし、その義務から遠ざけてしまうことになる。

38. 今でも、私の声を聞くたびに、「師が人間を通して御自身を現わされるというのは本当なのか？ 全能の創造主である神が、その栄光をささやかな集会所において伝えるに値しない脳を通じて、御自身を伝えられるというのか？」と疑問を抱く者たちがいる。私はあなたがたに言う。あなたがたの神像を思い描くために、その集会の場の豪華さや貧しさばかりに目を向けてはならない。私の存在を信じるために、いつも儀式の偽りの輝きを渴望する必要があるというのか？ メシアが生まれた場所から、彼が亡くなった場所に至るまで、イエスが示された謙虚さと物質的な貧しさの模範を忘れてはならない。そここそが、あなたがたの師の偉大さ——すなわち、謙遜の中にあるのだ。神の御国は、権力の輝きではなく、真に永遠なるものに根ざしている。私の真の偉大さ、謙虚さ、そし

て慈悲を理解しなさい。そうすれば、あなたがたがふさわしくないと考える知性を通じて——物質的な意味を持たない集いの場で——私が自らを現すことに、もはや驚かなくなるだろう。また、今日わたしを取り巻く人々の数が少ないからといって、この業の重要性を過小評価してはならない。なぜなら、わたしがあなたがたに啓示したことは、時が来ればその真価を発揮し、世界を驚嘆させることになるからだ。

39. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの人生と行いこそが、あなたがたがわたしの弟子であることを証しするものである。

40. わたしが創造したすべてのもののの中にわたしを愛し、神がいかなる形でも制限されているかもしれないという考えを捨てなさい。人類は、わたしが自分たちのそばにいるという感覚を得るために、さまざまな形でわたしの像を作り上げてきた。なぜ、わたしの業の中にわたしを探そうとしないのか。私は、あなたがた全員が周囲にある奇跡を観察できるように許した。それは、あなたがたがそれらの中に私の創造の力を認識するためである——かろうじて認識できるほどの微小な生き物から、威厳ある王のような天体に至るまで。しかし、私はあなたがたに、私が自然そのものであるとも、自然が神であるとも言ってははいない。また、太陽が私の神聖な霊であるとも言ってははいない。それらはすべて、創造主の御業における単なる原子に過ぎないのだから。

41. もしあなたがたが、その種の信仰観念にのみ思考を限定してしまうならば、太陽を崇拝した先祖たちと同じ道を辿ることになるだろう。しかし、当時の人は、その自然の力の中に神の創造の力を認識する能力をほとんど持ち合わせていなかったのだから、先祖たちを非難してはならない。なぜなら、彼らはその力の中に、暖かさ、光、そして命を見出していたのだから。彼らが真理からそれほど遠くはなかったことを心に留めておきなさい。

42. 私が人間の媒介を通じて自らを現すとき、私は「この人があなたがたの神である」とは言わない。しかし、私が自らを限定せざるを得ないのは、あなたがたが私を受け入れ、私の言葉の本質を聞き取れるようにするためである。その本質は、表現の形式が変わっても、すべての伝達者において同じである。私があなた方に啓示すべきことをすべて伝えるには、一つの知性だけでは不十分である。

43. このように単純な方法で、私はあなたがたに私の教えを与えた。それは、あなたがたの魂が切望する平安と完全性へと導く

道を見出せるようにするためである。そのために、私はあなたがたに、虚栄心や悪しき傾向を捨て去るよう勧める。私は、真の兄弟愛をもって、また彼らに対する義務を自覚しつつ、隣人を愛し、彼らに善行を施すよう、あなたがたに教える。

44. わたしはあなたがたに、肉体は朽ち果てるが、魂だけが生き残ると教えてきた。魂はこの世の生涯を終えた後、その功績が導く場所へと昇っていく。そこから、魂はますます高みへと昇り、完全さに近づくために戦い続ける。それはすなわち、神に近づくことを意味する。

45. これを達成するために、今、私はあなたがたに、どのように祈り、私を求めるべきかを教えている。そして、私があなたがたを教えるのと同じように、あなたがたも真の隣人愛をもって、隣人を教え導くことを望んでいる。

46. 私があなたがたの不完全さを裁かなかったのと同様に、あなたがたもまた、隣人の不完全さを裁かないでほしいと願う。

47. ただ、私があなたがたに教えたことだけを彼らに示さない。準備の整った者は、あなたがたを理解するでしょう。

48. たとえここで収穫を得られなくとも、種を蒔きなさい。

49. わが子らよ、わが言葉を深く探求しなさい。なぜなら、あなたがたがまだわたしに耳を傾けることのできるこの最後の三年間において、あなたがたは生徒から弟子へと変えられるべきだからである。

50. あなたがたは、救い主へと導く完全な道を歩んでいる。そして、かつてのように、イスラエルが再び人類の前に現れる。あなたがたは霊的な生活に関する知識を持ち、律法に対する責任を負っている。

51. 安逸と怠惰の時代は終わった。あなたがたは使命を果たすために立ち上がり、この世の誘惑から心を閉ざしたのだ。

52. あなたがたは新たな転生、すなわち新たな肉体の中にあり、それによって、あなたがたの魂が地上の使命を全うし、清められて私のもとへ来ることができるよう、そして私が来世で魂のために用意しているものを受け取ることができるようにするためである。

53. あなたがたは新たな弟子たちであり、第二の時代のあの十二人の弟子たちのようである。彼らは、授かった賜物や教えを実証するために時折師のもとを離れたが、信仰や隣人愛の欠如ゆえに奇跡を成し遂げることができず、その後、悲しみに満ちて戻ってきたのである。

54. 当時、私は彼らに「からの種のたとえ」を教え、信仰は山をも動かすことができると語った。彼らは、私が死者を生き返らせ、混乱した霊に取り憑かれた者を解放し、不治の病を癒やし、罪人を救うのを見た。しかし、師が世を去った後、彼らは自らの賜物に対する真の信仰に目覚め、学んだ教えを完璧に伝え、愛をもって周囲の人々に教えるようになった。

55. あなたがたも今、私の別れを待ち望んでおり、その後、旅立って福音を広めていくことになる。

56. わたしの言葉を深く掘り下げ、わたしから学びなさい。そうすれば、やがてあなたがたは、愛の行いによって聖霊を証しする立派な使徒となるでしょう。

57. わたしは山の頂上にいる。そこからあなたがたに語りかけ、わたしの言葉をあなたがたの心に刻み込んでいる——あなたがたが自由意志を正しく用いて、この世の虚栄を拒み、完全なるわたしの御心を自覚して行うことを期待してのことである。

58. 知性だけで私の言葉を理解しようとせず、その際に、秘められた宝庫の知恵が明らかにされる、あなたがたの霊の声を聞き逃さないようにしなさい。

59. わたしは罪人たちを呼び寄せ、彼らを徳に満ちた人々に変えるためである。師としてのわたしの使命は、魂が完全になるまで絶えず教え続けることである。多くの同胞たちが、あなたがたが私の弟子であることを知っているのも、あなたがたに従い、あなたがたを手本としようとして身構えている。あなたがたは、すでに私を受け入れる準備ができているか。すでに私から学んできたか。あなたがたに告げる。霊的および地上の義務を果たすことこそが、あなたがたに私の弟子と名乗る権利を与えるのだ。

60. あなたがたが人類の再生のために働くならば、やがて「新しい日」の始まりを目にし、わたしの平安を感じるようになるだろう。

61. わたしの言葉はあなた方を教え導くが、強制はしない。わたしはあなた方に自由意志を与えた。それは、あなた方が自らの行いの主人であると感じ、確信を持って律法を遵守し、その功德が真のものとなるためである。

62. 再び、大地は血のように赤く染まり、戦争は人々の魂を暗く覆っている。大気は悲しみ、苦しみ、そして恐怖に満ちている。しかし、この混沌の只中に、私は現れ、ある者には姿を見せ、またある者には声を聞かせた。世界が経験している痛みによって、私

の杯は満たされている。これこそが、この時代にあなたがたが私に捧げるものであり、私はそれを受け入れる。

63. 私の教えは、あらゆる魂に光をもたらす。私は、平和と調和をあなたがたの心に刻む。あなたがたを愛する父の声である私の声を、聞き逃してはならない。

64. わたしの言葉を大切に守りなさい。すでに1950年が近づいている。その時に、わたしの教えが印刷され、あなたがたの魂の糧となることを、わたしは望んでいる。その時には、人々にこれらの書物を読んでもらえるよう準備をしなさい。そうすれば、あなたがたは、師の言葉を聞いていた時に経験したあの幸福な瞬間を思い出すだろう。

65. 第三の時代の戦士たちよ、わたしの言葉を広める者たちよ。たゆまず努めなさい。わたしが、わたしの言葉なしにあなた方を残して去る時が近づくにつれ、あなた方は準備を急いでいる。あなた方は、わたしの教えに含まれる力によって、少しずつ満たされてきたのだ。

66. 第二の時代に私を聞いた者すべてが、私を信じたわけではない。あなた方に新たな証拠を与えるために、この世に戻ってくる必要があったのだ。現代においても、私の言葉に耳を傾けた者すべてが私を信じたわけではない。肉体は、まるで厚いベールのように（ ）、魂が神聖な光を受け入れるのを妨げている。しかし、私の教えを深く探求すれば、このベールは薄れ、魂が物質主義から解き放たれ、その創造主に近づくための余地が生まれるのである。

私の言葉に耳を傾ける者の中には、自らの存在におけるこの高揚をまだ感じていない者もいるが、彼らにもやがてその光を見る時が来るだろうと、私は告げておく。また、信仰を持って私の言葉に耳を傾けている者たちの中には、教えを理解するために必要な準備が欠けていたため、霊的な啓示の認識に至っていない者もいる。

67. 世界中の多くの人々がその成長において停滞しているというのは、彼らの信仰における偶像崇拜的な考えに囚われ、誤りに陥っているからである。彼らは精神的な理解力を衰えさせてしまったため、高尚な思想を理解することができない。

私の著作を通じて、皆さんは、より高次の存在が近づき、平和の雰囲気に取り囲まれているのを感じたことでしょう。この平和は、皆さんの肉体さえも共有したものです。なぜなら、肉体もまた、完全さをもって創造された主の被造物だからです。霊的なものも物質的なものも、どちらも完全なのです。そうして、皆さんは原子や細胞の中にも、神の全能性を認識することができるのです。

そして、霊を研究すれば、その中に、より高次の生命の原子としての、その単純な本質を発見することになるでしょう。そうすれば、神聖なものから切り離されたものは何一つ存在しないことを悟るでしょう。

68. 私の創造物におけるすべては、完全性へと導く運動、調和、そして秩序である。人間が覚醒し、その霊の声が現実へと導いてくれるためには、創造物をその外見だけで捉え、その本質に気づかないままにしてはならない。霊的な生命を信じない人間は、この世の生命こそが唯一の生命であると見なすため、唯物論に陥ってしまうだろう。しかし、もし彼がやがて快樂に飽きたり、苦しみの中で絶望したりしたなら——その時、彼には何が起こるだろうか。ある者は精神的な均衡を失い、またある者は自らの命を絶つことになるだろう。

69. すべての人間が同じ理解のレベルにあるわけではない。ある者は至る所で奇跡を発見する一方で、他の者はすべてを不完全なものとして見なす。ある者は、世界の精神化と道德の頂点として平和を夢見る一方で、他の者は、人類の発展を推進するのは戦争であると主張する。

70. これについて、私はこう告げる。戦争は世界の発展にとって必要ではない。もし人々が、野心的で利己的な目的のために戦争を利用するならば、それは、戦争を助長する者たちが陥っている物質主義のせいである。そうした人々の中には、霊的な生活を知らないか、あるいはそれを否定しているため、この世での存在だけを信じている者もいる。しかし、世の人々は彼らを学者だと思わしている。それゆえ、すべての人々がこの啓示を知る必要があるのだ。

71. 宗教的狂信に囚われ、来世において地獄の罰しか期待していない者たちが、この考えに固執している限り、彼らは自ら地獄を作り出すことになる。なぜなら、魂の混乱は人間の理性のそれと同様であるが、はるかに強いものだからである。さて、あなたがたはこう尋ねるだろう。「師よ、彼らに救いはあるのでしょうか？」私はこう言う。救いはすべての人に与えられているが、迷いの闇が晴れて初めて、平安と光がそれらの魂に届くのだ。混乱した理性が、実在しないものまで見せてしまう人間に対して、あなたがたはかつて憐れみを感じたことがあるだろうか？ もし来世で、想像上の地獄を目の当たりにしている、妄想に囚われた存在たちを見たら、あなたの痛みはどれほど大きくなるでしょうか！

72. 肉体の死と真の贖罪とは何かを知っている人間で、死の瞬間に混乱に陥る者などいるだろうか。

73. 完全なる愛と知恵に関するわたしの教えは、単にこの時代や「第二の時代」に限られたものではない。いつの時代においても、わたしはあなたがたにこれらの教えについて語ってきた。しかし、啓示の誤った解釈が、人々を狂信と混乱に陥らせてしまったのである。

74. 物質主義そのものがもたらす苦痛が、混乱した魂にとって耐え難いものとなったとき、その苦痛こそが、その魂を光へと目覚めさせるだろう。その時、その魂は自らの過ちを深く悔やむことになる。

75. これらの教えを同胞たちに広めなさい。そうすれば、人々の心の中に、完全なる世界を目指す渴望が育まれ、魂は自らの完成を通じて父の懷へと至ることができるだろう。

76. わたしは、あなたがたすべてをわたしの中に一つに結ぶ光である。この言葉をあなたがたに伝えるために、わたしは、他の誰と同様に何の功績もない、あなたがたの一人を用いている。そこにわたしの愛と慈悲を見出せ。

77. 1950年が近づいており、その年の終わりに、私はあなたがたに別れを告げる。それは痛ましいことであり、あなたがたは私の言葉を恋しく思うだろう。しかし、それは文書として残され、そこには師の教えがすべて記されている。その時、あなたがたはこう言うだろう。「彼の教えはなんと愛に満ちていたことか！」

その時が来れば、私は靈感によってあなた方に語りかける知性の器と唇を用意する。他の人々が私の教えを読み上げ、そうすれば、あなたがたは、私が現れた時に受けた力を再び感じるだろう。このようにして、私はあなた方の間に、あなた方の魂と知性の中に、調和と兄弟愛のただ中にいるのだ。

78. 私はあなたがた全員に、人生のためのさらなる光を与えた。あなたがたが一步一步進むたびに茨に出くわすのは、人間の道が茨に満ちた道だからである。祈りなさい。そうすれば、永遠の命への渴望の中で、あなたがたの信仰が支えとなるだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 228

1. 師がおられる山の頂上には、普遍の母であるマリアも共にいます。彼女は、「第二の時代」において、「神の御言葉の受肉」という奇跡が現実となるために、女性となった方です。

2. 人間は、マリアやイエスがこの世に生まれた経緯について、しばしば裁き、探求してきた。そして、それらの裁きは、その心が世界に血を注ぎ出した母なる霊の清らかさの衣を引き裂いてしまったのである。

3. 私はこの時代において、不信仰者の疑念を取り除き、彼らに霊的な教えの知識を与えるために、未知のベールを引き剥がした。

4. 人々は、道のような私の真理から多くの脇道を作り出し、そのほとんどで迷い込んでしまっている。ある者は天の母の執り成しを求め、またある者は彼女を誤解しているが、彼女の愛と優しさの外套は、すべての人を永遠に包み込んでいます。

5. 太古の昔から、私は、預言者たちがこの世に生まれる前から語っていた「霊的な母」の存在を明らかにしてきた。

6. 時に、私は言葉をもってあなたがたを戒めるが、その戒めには光が含まれているのだ、民よ。あなたがたが知るべきことをすべて知らせなければ、私は完全な師とは言えない。あなたがたが道から外れた時を知らせなければ、私は父とは言えない。

7. わたしは、あなたがたの魂が汚されることも、真の命に関して死んでしまうことも望まない。それゆえ、あなたがたが有害な喜びや快樂にふけっているのを見かけたら、わたしは正義をもってあなたがたを懲らしめる。あなたがたの魂は、わたしの懷から生まれた時と同じように、清らかなままわたしの懷に帰らなければならない。

8. 肉体を地に残し、混乱した状態でこの世を去った者たちは皆、霊を照らす永遠の光の中に現れる私の御姿を目にしたとき、苦い涙と自己非難の絶望の中で、深い眠りから目覚めるのである。子がその苦しみから解放されるまで痛みを抱えている限り、父もまた苦しむのである。

9. 私が人間の知性を通じて自らを現すのは、「最後の人々」が鐘の音と主の呼び声を聞いたとき、彼らに救いをもたらす聖霊の光を見ることができるようにするためであることを、疑ってはならない。

10. 私はこの時代、教会もシナゴーグも求めなかった。第二の時代に馬小屋の庇護の下で生まれたように、今日、たとえその人が罪人であっても、私は人間を通して自らを現すのである。私が自らを現すな手段は、貧しさと謙虚さを特徴としている。しかし、当時私が貧しい人々と共に暮らし、その身なりにおいても自らの謙虚さを示していたことを考えれば、これについて驚くことはないだろう。

11. わたしを探し求めることを知らない人々、道に迷った人々、そしてわたしを必要とするすべての人々への愛——すなわち、あなたがたを愛するというわたしの神聖な使命において、わたしはあなたがたに近づき、あなたがたがわたしを見、聞き、感じることができるような方法を模索してきた。

12. 今日、私は、かつて私があなた方を集めた場所——川のほとり、山々、あるいは砂漠——を象徴する、これらの家々の質素な屋根の下で、あなた方に私の言葉を授ける。

13. しかし、もしあの出来事が繰り返されるならば——あなたがたは再びわたしを十字架に釘付けにし、マリアの心を七つの短剣で痛ましく貫かなければならないのか？

14. イエスが十字架上で息を引き取られたとき、一瞬、闇と果てしない見捨てられた感覚に包まれました。その同じ瞬間、マリアもまた、母なる心の中に計り知れない孤独を感じました。その理由は、その瞬間、御子が人々から理解されていないと感じていたからです。

15. 人間よ、わたしのもとに来なさい。わたしは道であり、真理であり、命であり、人々の魂を変容させる愛の師である。病み、疲れ果てた人間よ、わたしはあなたを受け入れ、祝福する。そして、あなたを祝福するうちに、あなたの痛みを和らげる。

16. 子供のような信頼を胸に、わたしのもとに来て安らぎを得、あなたがたに必要な教えを受け入れなさい。わたしは、あなたがたの心を元気づけるために、あなたがたを迎え入れる者である。宇宙は、嘆き、苦痛の叫び、そして古くからの、そして新たな苦しみで満ちている。

17. この言葉を耳にする者、あるいは明日これを繰り返す者たちよ——その真意を受け止めたならば、あらゆる悩みや弱さ、欲望をすべて置き去りにし、私があなた方に伝える神聖なものについて深く思索にふけるようにしなさい。

18. 魂にも問題があり、あなた方はそれを解決するよう努めなければならない。どのようにしてか？ それは、あなた方の内

に知恵が入り込むようにすることである——その種は、私の養育とあなた方の努力によって発芽し、永遠の命の木となるまで成長していく。そうすれば、あなた方は、この世界が切実に必要としている良き実を世界に与えることになるだろう。これこそが、あなた方の間で私の業が実現することとなるのだ。

19. わたしはあなたがたに、「立ち上がって歩め」と言った。しかし今日、わたしはあなたがたの魂に平易な言葉で語りかけ、それによって、真の樂園、すなわち永遠へと続く道を示したのだ。

20. わたしは、あなたがたをその悲しみに満ちた無気力状態から引き離し、魂に定められているすべてのことを知らしめ、さらにそれを手に入れるよう教えたい。年、時代、そして時代が、この惑星を過ぎ去ってきたが、人類は真理を知ることなく歩み続け、今なおキリストを否定し続けている。なぜなら、人々にとって存在するのは、物質的な肉体や形による目に見える生活だけであり、彼らはそれらにのみ重要性を置き、魂の能力には目を向けず、それを認識していないからである。

21. 魂と肉体を持って創造された人間は、本来最優先されるべきである魂の生活の重要性を忘れ、人間的な側面のみに目を向け、物質的なものの中に幸福、喜び、満足、そして情熱を求めます。そして、私が魂について語ると、結局のところ、その教えは数ある教えの一つに過ぎないと彼は言うのです。それゆえ、その人は自らの歩む道において無関心なままである。

22. それに対して、霊性を高めることを切望する人は、心と精神を清め、悔い改めの水で身を洗い、野心的な物質的な目標を捨て去り、自分の人生の歩みが神の光に照らされているのを感じる。その人は、魂において偉大さを獲得した者たちが、苦難という試練の炉の中で自らを鍛え直し、それによって地上で人類の導き手となり、後に霊的な領域において悟りを開いた存在、すなわち人々の守護者、インスピレーションの源、そして守護者となったことを知っている。それらの魂は愛によって人々と結びついており、それゆえ、目に見える世界の彼方の大空、愛に満ちた霊的な生命の中で輝き、その光をもってこの人類を照らし続け、決して見捨てることはない。

23. あなたがたの魂が、物質的な身体を通じて自らを顕現させたいという渴望を実現するためには、あなたがたが目覚めることが必要です。あなたがたの行いを通じて、魂の発達段階を表現できることを知ってください。まずは、他者の弱さに対して寛容になることから始めなさい。心に留めておいてください。あなたがたが

すでに険しい道を歩み、過ちを正したとしても、まだその道を歩んでいない人々がいるのです。それゆえ、隣人に対して理解を示し、彼らが転んだ時には立ち直れるよう助け、あなたがたの経験という光を彼らに与えなければなりません。

24. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたより年上の兄弟姉妹たちは、今日あなたがたが歩んでいる道のかつて歩み、地上で慈善家、医師、教師として、隣人を愛するために生きたからこそ、霊的な高みに登りつめたのである。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが自分の魂の導きに従っていたなら、今頃はもっと良い場所にいたはずだ。そして、もしあなたがたがこの教えの中で私が差し出すものを活用しなければ、後になって霊界において、私はあなたがたの義務を果たさなかったことを責めることになるだろう。それゆえ、この機会を逃さず、愛と信頼をもって私の言葉に従って行動しなさい。

25. 隣人への愛を拒む者は、キリストへの愛も拒んでいるのである。あなたがたの隣人が苦しみ、泣き、あなたがたを必要としているのを見るなら——なぜその人に仕えないのか。その理由は、あなたがた自身が、最も高貴で繊細な感情さえも物質化してしまったからである。

26. あなた方の本質と人生を変革し、物質化してしまったものを非物質化せよ。感情、思考、そして行いを霊的なものへと高めよ。靈魂の使命をますます自覚するようになれば、この変革によって、あなた方はもはや無益な存在ではなく有益な存在となり、あなた方の人生は私の真理を証しすることになるだろう。

27. すべての人にとって、魂が肉体に対して勝利を収め、利己主義を打ち砕き、父から授かった愛と、遺産として受け継いだ知恵と力を明らかにしたいという、燃えるような渴望を感じる瞬間が訪れるでしょう。魂が人間の中でその真の位置を占める時、その人はキリストに似た者となるでしょう。「キリスト」という言葉は、愛、力、知恵、真理、そして命を意味する。

28. しかし、人類がキリストの偉大な意義を理解することなく、この世ではまだ数世代が過ぎ去ることになるだろう。キリストは人間としての姿を消し、肉体を持たない勝利の霊として、純粋な愛そのものとして現れた。キリストは、人類に対する神の慈悲の絶え間ない顕現である。

29. あなたがたが、隣人に対して有益であり、奉仕の心を持って接している姿を見ることは、わたしにとって喜ばしいことであることを知ってください。病人の枕元にあなたがたがいるのを見る

ことは、わたしの喜びです。あなたがたがわたしの教えの種を蒔き、その過程で苦しむ人々を慈しみ、慰め、支えになっているのを見ると、わたしは喜びを感じます。覚えておきなさい。私がこの世にいた時、私は「互いに愛し合いなさい」というこの神聖な至高の戒めを基礎として、私の教えを残しました。しかし、何世紀も経った今もなお、私はあなたがたがこの戒めを心で感じるのを待ち続けています。

30. 今、あなたがたは私の天の御言葉を聞いているのだから、心と知性と魂を整えなさい。

31. いかなる誤りにも陥ってはならない。なぜなら、私は完全な明瞭さをもって、また様々な声を通じて、あなたがたに語りかけているからだ。

32. また、私はあなたがたの心を探り、あなたがたが私の教えをどこまで理解したかを確かめるためにやって来る。私は、あなたがたの信仰の光を求めている。

33. あなたがたの霊の声を聞きなさい。あなたがたが父に誓ったことをすべて果たせるよう、瞑想しなさい。

34. わたしの律法はこの地上で汚されてしまったが、わたしは常にあなたがたに、それを守り、擁護するよう命じてきた。

35. 律法を汚してはならない。眠ってはならない。魂を物質化してはならない。働け！

36. あなたがたの魂は、かつて父の戒めに従わなかった者たちと同じものであり、今日、あなたがたの主が愛をもって与えてくださる新たな贖いの機会を得ていることを心に留めなさい。

37. イスラエルよ、私があなたたちに対してこれほど大きな愛を抱いているにもかかわらず、大衆は第二の時代と同様に、私を傷つけ、私を嘲笑するために立ち上がるだろうことを、私は知っている。あなたたちの間にイスカリオテが潜んでいることも知っている。しかし、人間の知性を通じての私の啓示は無駄にはならない。私が第六の封印を解いたことは、決して無駄にはならないのだ。

38. 私があなたがたの間へ到来したのは、あなたがたを刷新と改善によって救うためである。それは、あなたがたを汚れと罪から遠ざけ、その代わりに平和と幸福への道を示すためである。

39. 自らを清め、備える者は幸いである。その者は試練に打ち勝つからである。

40. 戦争と破壊の要素が解き放たれた。飢餓と疫病、そして未知で不治の病が、あなた方を脅かしている。それゆえ、目を覚ま

し、祈りなさい。あなた方の使命に励めば、この試練は過ぎ去るだろう。

41. わたしはキリストである。第二の時代にイエスとして現れたのと同じ者である。この姿で、あなたがたにわたしを明らかにすることが、わたしの御心であった。

42. この時代において、地上のすべての民族がわたしを感じなければならない。

43. わたしの言葉は、あなたがたが研究するために、わたしがあなたがたの手に委ねた教訓の書である。宗派は宗派と対立し、宗教は他の宗教と戦いを繰り広げ、教義は教義と対立するようになるだろう。この魂の混沌を前にして、わたしはあなたがたに模範を示し、守りの盾となってほしいと願っている。

44. あなたがたがわたしの選ばれた者であるからといって、驕ってはならない。この責任を引き受けた以上、「眠ってはいけない」。そうすれば、あなたがたは「すでに乗り越えたはずの深淵」へと再び転落してしまうからだ。そして、その道のりで苦難や痛みに遭遇したとき、こう自問することになるだろう。「師の教えを聞いた者たちの一員である私たちが、どうしてこれほど苦い杯を飲まなければならないのか？」と。

45. わたしの模範となる行いを思い出し、物質的なものよりも霊的なものを愛することを学びなさい。そして、この地上の生涯を終えた後の、あなた方の魂の安寧を真に気にかけなさい。今から、魂のために光と平安に満ちた人生を築き上げなさい。なぜなら、これまであなたたちは、飢えと渇きに苛まれ、その衣が破れ果てている魂よりも、肉体の安寧や虚栄、そして衣服の方を重要視してきたからだ。

46. 誤解してはならない。肉体は魂の衣であり、私のもとへ昇らなければならないのは魂である。肉体は塵であり、その地上の所有物とともに塵へと還る。魂が霊的な宝を手に入れることを許しなさい。なぜなら、魂はそれを永遠へと確かに持ち去るからである。

47. 地上の富に恵まれた者たちにとって、私は存在しない。彼らにとって、その富こそがすべてである。彼らは私を忘れてしまった。世の悲惨や苦痛など、彼らに何の関係があろうか。他人の悲しみなど、彼らに何の関係があろうか。彼らは、いかなる状況においても彼らを裁き、一步一步、私の力について語りかける良心の声に、耳を塞いでいる。

48. まことに、わたしはあなたがたに告げる。このようにして、彼らはわたしの正義に挑んでいるのだ。

49. しかし、すべては変わり、寛容にも終わりが来る。そして、人類に善をもたらすか悪をもたらすかするために、私が特定の人々に与えたその力は、裁きに服することになる。

50. もしあなたがたが立ち上がり、苦しむ人々を招いて、わたしの食卓のパンを食べさせていたなら、どれほど多くの人々がすでにわたしの業を知っていたことか！

51. 私があなたがたに与えたものは、あなたがたの隣人のためにあるのだということを忘れるな。

52. 「互いに愛し合いなさい」と、私は当時すでにあなたがたに教えた。何世紀も過ぎ去ったが、私は今もなお同じ教えをあなたがたに語り続けている。それにもかかわらず、あなたがたは依然として、その崇高な戒めを心の中で感じていない。

53. 私は、あなたがたが心の中で自らに答えるように、こう問う。誰が利己的な者たちを愛することができるだろうか。私が語っているのは、自分自身の事しか考えず、奉仕もせず、パンを分け与えず、誰にも慰めを与えない者たちのことだと理解せよ。私だけが彼らの性格上の欠点を理解しており、それゆえに彼らを愛し、理解することができるのだ。

54. あなたがたが、経験を積み、隣人に対する愛と慈悲という神の律法を実践するためにこの世に生まれてきたことを理解した瞬間、あなたがたはこの人生の調和（ ）に踏み込んだことになる。私の啓示を通じて、すでに知っている通り、私の律法に従わない者は、魂に託された使命を果たすまで、この世に戻らなければならないのである。

55. あなた方は、時や嵐との闘いの痕跡として無数のひび割れを抱える千年の古木に似ています。とはいえ、人間においては、魂の光がまだ完全に輝いているわけではありません。私はあなた方を深く愛している。それにもかかわらず、自然の力の猛威は、人類に挑戦を挑んだ人類を今後も打ちのめし続けるだろう。その影響は破壊的なものとなる。それは、物質主義的な人間が解き放つ戦争であり、それは諸民族に荒廃をもたらし、彼らは苦々しく泣くことになるだろう。しかし、誰が彼らを慰めることができるだろうか？

聞きなさい。人類は次々と警鐘を受け、解き放たれた自然の力が惑星を襲い、広大な地域を荒廃させるだろう。その時、あなたがたは、霊的な業に十分に応えられなかったこと、何も成し遂げな

かったことに気づくことになる。私はキリスト教世界全体に語りかけているのだ。

56. 人々は、あなたがたの心の在り方を嘆くでしょう。それは花崗岩のように硬く、墓石のように冷たいからです。そんな状態で、どうして彼らを慰めることができるのでしょうか？

57. もしあなたがたが肥沃な土地であつたなら、種はとつくにあなたがたの中で芽を出していたはずだ。しかし、あなたがたは実を結ばない不毛の土地なのだ。人類はあなた方に目を向けるだろう。しかし、あなた方の心が軽蔑や非難、冷酷さしか放っていないのに、どうして人類が必要とする愛情に満ちた励ましを与えることができるだろうか。人々の嘆きの声を、心を動かされて聞く者は誰か。苦しむ者たちの盾となるのは誰か。苦しむ者たちを慰めるのは、私の代弁者を通して、私自身がなければならない。

それでもなお、私はキリスト教世界に向かってこう言います。心を開き、少なくとも人々の泣き声を聞き取れるように。戦争や災難がもたらす影響に対抗するために、努力を尽くしなさい。なぜなら、実のところ、今日までに起こったことは、これから起こることに比べれば、ほんのわずかなものに過ぎないからだ。人間の苦しみはまだ頂点に達しておらず、キリスト教徒であると自称するあなた方は、そのことを証明しなければならない。今、そうありようと努めないのなら——いったいいつ、使命を果たすために立ち上がるつもりなのか？

58. 宇宙には、あなた方の同胞たちの絶望的な苦痛の叫びが響き渡っている。もし、事態がそこまで進行した様子を目撃したなら、あなた方は自らの義務を果たせなかったことを悔い改め、そして隣人のために何か善行を行うようになるだろう。

霊界には、そうした人々のために涙を流し、利己主義によって目がくらんでいる者たちのために懇願し、またこの世界に迫りつつある嵐が和らぐことを願って祈っている存在たちがいる。彼らのように、私もあなたがたが癒しの香油となり、慈しみの手となり、光となり、思いやりとなる姿を見たいと願っている。人間という家族からあなたたちを遠ざける無関心を心から取り除き、この世界に死が訪れ、その住民の大部分を一掃してしまうことを心に留めておきなさい。

魂と身体の病がある。物質的な薬で癒される身体もあれば、魂そのものが病んでいるために癒やされない身体もある。

59. 弟子たちよ、あなたがたは、肉体と同様に魂の病も癒したいと願わないのか。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたにはそれができる。しかし、いつその活動を始めようというのか。いつ物質主義に終止符を打つつもりなのか。いつ、靈性に満ちた新しい人生を始めようというのか。

60. わたしの教えによって自らを変容させ、新しい人間として自らを感じ、わたしの美德を実践しなさい。そうすれば、光があなたがたの靈に現れ、キリストがあなたがたの道に現れるであろう。

61. わたしのメッセージは、大地を活気づける力であり、暖かさと命を与える太陽のようであり、潤いを与える水である。わたしは、わたしの絶え間ない啓示にもかかわらず、依然として不毛のままである、あなたがたの心の大地について語っているのだ。

62. 「人々よ、人々よ、立ち上がれ。時は迫っている。もしこの『日』にそうしなければ、この地上の生において二度と目覚めることはないだろう。私のメッセージにもかかわらず、なお眠り続けたいのか？ 肉体の死によって目覚めさせられたいのか——物質を持たない魂の、後悔という燃え盛る炎に苛まれながら？」

63. 誠実でありなさい。靈的な生活の中に身を置き、真理の御前に立つと想像しなさい。そこでは、あなたの物質主義を正当化できるものは何一つなく、あなたは、自分の魂がまとう「衣服」——汚れ、泥まみれ、そして破れ果てた——を身にまとった、みすばらしい姿の自分自身をまざまざと目にすることになる。まことに、わたしはあなたがたに告げる。そこでは、自らの惨めさを目の当たりにし、計り知れないほどの恥を感じたとき、あなたがたは、最も深い悔い改めの水で身を清めたいという計り知れない渴望を覚えるだろう。なぜなら、清らかな状態でなければ、御霊の祝宴に赴くことはできないと知っているからだ。

人間の利己主義とそのあらゆる欠陥——それらが現在、あなたがたの誇りであり、満足の源となっているもの——の向こう側を見据え、あなたがたが人々の苦しみに共感してきたかどうか、あなたがたの心の中に女性たちのすすり泣きや子供たちの泣き声が響き渡っているかどうか、私に告げなさい。さあ、私に告げなさい。あなたがたは人々にとって何であったのか？ あなたがたは彼らにとって「命」であったのか？」

64. 良心の光のもとで自己点検を行った後——私の神聖な御霊が現れ、あなたがたが過ちによって作り出した鎖から解放してくれることに、準備はできていないのか。魂の汚れた衣が脱げ落ちる

ように、靈化を達成することを決意せよ。私は、あなたがたが内面においてありのままの自分を知ることができるよう、助けてあげる。

65. しかし、私の言葉の真髓を広める書物を熱心に読むことになるあなた方は——今まさに私の言葉に耳を傾けているすべての人々と同様に、私があなた方を愛していることを知るゆえに、心の奥底で感動を覚えることでしょう。

66. 主は、人生の道の上で、かねてよりあなた方を待ち続けておられます。たとえ時代が過ぎ去ろうとも、私はこれからもあなた方を待ち続けます。キリストが示した道以外には、誰も父のもとへ行くことはできないということを自覚してください。しかし今こそ、たとえあなたがたが汚れ、ぼろぼろで、汚れていようとも、私のところに来なさい。私はあなたがたの心と精神を清め、あなたがたの「衣」を新たにし、私が靈的な祝宴を催している「領地」へと導く。そこでは、知恵と愛の選りすぐりのご馳走が待っており、全宇宙が私に向けて捧げる調和のとれた賛美の歌が聞こえてくるだろう。

67. わたしは、あなたがたが愛することを学び、その愛が思いやりに変わり、病人のもとへ導き、信仰を失った人々を探し求めるようになることを望む。わたしは、あなたがたが祝福できないものなど何一つないほど、あらゆるものを祝福することを望む。そうして、あなたがたの靈化と完全性を通じて、次第に崇高なるものへの理解に近づいていくように。

68. 人類の大部分を支配しているのは物質主義的な利己主義であり、魂は何世紀にもわたって、自らを顕現させる機会を待ち続けてきた。まことに、わたしはあなたがたに告げる。もし許されるならば、わたしの言葉の本質に揺さぶられた石さえも、あなたがたの靈性の欠如を明らかにするために動き出し、あなたがたは、それらが立ち上がって「キリストは正しい」と叫ぶのを目撃することになるだろう。しかし、私は最終的に愛によって、あなた方を打ち勝つだろう。たとえ世界があなた方を恥じようとも、私はあなた方のそばを離れることはない。彼らが容赦なくあなた方を非難する時、私はあなた方を擁護し、あなた方が倒れた時には再び立ち上がらせてやる。

69. あなた方の内には、地球に由来する物質的な部分と、天に由来する靈的な部分があります。人間には、自分を物質として感じる時と、靈として感じる時があります。この地上の肉体を離れ、靈的な状態へと移行した時、今理解できていないことを理解できる

ようになるでしょう。あなたの肉体は、この地上に属するものであるため、ここに残ることになる。しかし、あなたの魂は高次の領域へと舞い上がり、そこで魂の成長を続けるために生き続けることになる。

70. 「悲しむ者は幸いである。天の御国は彼らのものだから。」「泣く者は幸いである。彼らは慰められるから。」さて、私はこう付け加えよう。「長い文章の中に隠された、目立たない真理を理解する者は幸いである。彼らは知恵を授かるから。」

71. 愛する者は皆、愛されていると感じられるゆえに豊かになる。たとえ愛されなくても、愛しなさい。イエスのようでありなさい。愛は些細な事柄を超越している。

72. 私があなたがたの間で苦しみを受けるために来る必要はなかった。しかし、私の愛はあなたがたの運命と結びついていると告げておく。あなたがたが私を必要としていることを知っていたからこそ、私はあなたがたのところへ来たのだ。しかし、私は決して「私を愛しなさい。そうすれば私もあなたがたを愛そう」などとは言っていない。

73. ある人々は、それに値しないにもかかわらず愛されていることを、あなたがたは知っているか。私があなたがたを愛するのは、まさにそのようにである。あなたがたの十字架を私に委ねよ、あなたがたの苦難を私に委ねよ、あなたがたの打ち砕かれた希望を私に委ねよ、あなたがたが背負っている重い荷を私に委ねよ。私はあらゆる痛みに対処する。幸せになるために、その重荷から解放されてください。私の愛の聖域に入り、宇宙の祭壇の前で静まり返ってください。そうすれば、あなたの魂は、最も美しい言葉——愛の言葉——で父と語り合うことができるでしょう。

平和があなた方とともにありますように！

教え 229

1. 愛する弟子たちよ、私はあなたがたの聖所、すなわち、あなたがたの魂の高揚によって開かれた師の住まいの中に現れます。

2. あなたがたの中には、すでに何度も私の言葉に耳を傾けてきた者もいれば、初めて私の言葉を聞き、驚いている者もいる。しかし、まことに、あなたがたに告げる。どちらの者も、かつて別の時代に、この声をすでに聞いていたのだ。

3. わたしは愛の言葉であり、苦しむ者——動揺している者、泣いている者、罪人、そしてわたしを求め続けた者——に慰めをもたらず。わたしの言葉は、それらの心の中で命の川となり、そこで彼らは渇きを癒やし、汚れを洗い流す。それはまた、安らぎと平和の永遠の故郷へと続く道でもある。

4. どうして、人生の闘い——その犠牲、逆境、試練——が、永遠における正当な報いを得ることなく、死をもって終わるなどと考えられるだろうか。それゆえ、啓示と約束に満ちた私の律法と教えは、あなたがたの心の中で、日々の営みにおける励ましであり、愛撫であり、癒しの薬なのである。あなたがたが私の教えから背を向けたときのみ、飢えと弱さを感じるのです。

5. わたしは愛をもってあなたがたを養い、あなたがたがその愛に満たされ、それを完全な種として、眠っている心や、それを渴望している人々の心へと届けることができるようにする。

6. あなたがたが互いに愛し合うならば、あなたがたの間には平和が訪れる。わたしが平和の霊であることを忘れないでほしい。

7. 霊的な意味において、あなたがたは、人類に道を示すために、いつの時代も選ばれた民である。今、私はあなたがたにこう告げるために来た。あなたがたは、同胞たちの救いとなるべきである。おお、民よ、あなたの背負う十字架の重荷は重い。かつては部族に分かれていたが、今やあなたがたは霊的な家族を成している。私は見知らぬ人のように絶えずあなたがたの扉を叩き、あなたがたが自らの使命を果たし、私があなたがたと同じように愛している人類にとっての模範となれるよう、励ましているのだ。

8. あなたがたは、地上の諸民族の中で「長子」である——すなわち、最初に御霊の光に目覚めた者たちである。それゆえ、あなたがたは今や聖霊の弟子たちなのである。

9. あなたがたの責任を前にして、恐れも疑いも抱いてはならない。なぜなら、あなたがたは御霊に富んでいるにもかかわらず、疑い始めれば、自分たちが欠乏していると感じてしまうからだ。

10. この時代も、かつてと同様に、人類はあなたがたを媒介として、私の神性とのつながりを持っています。あなたがたを通して、私は他の人々のために道を明らかにしました。そして明日、すべての宗派や宗教団体が、その道をたどって次々とやって来でしょう。人々は霊的に一つになるでしょう。なぜなら、神はただひとりであり、あなたがた全員が神の中に一つに結ばれるからです。

11. 人々はそれぞれ異なる霊的レベルにいます。しかし、一人ひとりの発展の程度を知ることができるのは、私だけです。

12. すべての者は、自らの過ちを償い、功德によって高みへと至るためにやって来た。私はすべての人を愛しているからこそ、すべての人に光を与えている。

13. 今日、あなたがたはオアシスに身を置いている。しかし、あなたがたは、これまでどのような道を歩んできたのかを知らない。

14. 再び分裂してはならない。私があなたがたの民を一人の男から生み出したことを思い起こせ。そして、私がその男の中に敬虔さを見出したその男こそ、私が「強きイスラエル」と呼んだヤコブであった。彼の心には、私の神性を宿す聖所があり、私は彼に十二人の息子を授けることで報いた。彼らは主の民の先祖となり、あらゆる時代を通じて私に従ってきたその民の根源となったのである。

15. わたしは、あなたがたがこれ以上迷い続けることを望まない。あなたがたが、魂の中にわたしの光を印のように宿していることを悟りなさい。それは、常にわたしの光に従い、わたしに忠実であり続けるという、あなたがたがわたしと結んだ契約である。

16. ここが私の食卓である。私は、家系や人種を区別することなく、すべての人をこの食卓に着かせる。すべての人に、同じパンを差し出す。

17. このようにして、私はあなたがたをラザロのようによみがえらせる。かつて私が彼に「起きなさい、もう眠ってはいけない」と言ったように。

18. これこそが前進の道であり、あなたがたは決して立ち止まってはならない。なぜなら、十字架の重荷に押しつぶされそうになったとき、神聖な十字架を担う方が助けに来て、「立ち止まってはならない」と告げてくださるからだ。

19. 私があなたがたの魂に御自身を現すのと同様に、私はあなたがたの肉体にも、自然の中での私の臨在を感じさせ、両者が一つの存在となって、山の頂へと登りつめるようにするのだ。

20. あなたがたはわたしから生まれ出たものであり、わたしの懐へと戻らなければならない。わたしは初めてあり終わりであり、アルファでありオメガである。

21. あなたがたは、計り知れない価値を持つ宝石として、霊的な偉大さを獲得できることを知っているのだから、人間としての生活環境の質素さを気にする必要はない。

22. 苦しむ者に対して手を閉ざしてはならない。また、その者が不信心であるかもしれないという理由で、その者を汝らの慈悲に値しない者だと思なしてはならない。この時のわたしの食卓を見よ。かつては泥の中に転げ回っていた多くの者たちが、今やわたしを取り囲んでいる。今日、彼らはわたしの弟子である。

23. こうして、主はこの日、あなたがたに語られた。わたしはあなたがたを赦し、祝福する。

24. わたしの知恵の光は、あなたがたと共にあります。わたしは、慰めであり癒やしである、わたしの愛の透き通った水をもって、あなたがたの魂の渇きを癒やします。わたしは赦しそのものです。改心への確固たる決意を抱く者は、自らの良心と和解するその瞬間に、私の赦しの甘美さを味わうことになるだろう。世界は霊的な知識を渴望している。その証拠として、人類は創造の神秘を探求しようと努めている。しかし、魂はまだ不完全である。それゆえ、魂は神の御前に身を置き、神のもとで清められようとするのだ。

25. 目覚めた魂は、しばしば人間としての側面がそれに気づかないまま、光と道を求めます。すると、魂の物質的な性質がそれに逆らい、魂の成長への道を妨げようとします。それゆえ、私は啓示を通じてその秘密をあなた方に説明し、自らを紛れもなく明らかにし、人間の感覚そのものに訴えかけることで、人間にとって理解しやすいものとしている。それにもかかわらず、人間は、光のように明らかな事柄を受け入れることに、しばしば抵抗を示すのである。

26. 魂は、肉体の反抗に対してどれほど激しく戦わなければならなかったのか！人間は、科学や人間生活においてしばしば大きな発展と進歩を遂げるが、それにもかかわらず、魂の面では何の進歩も見せない。宗教は、人間がそこで遭遇するのは神秘主義や狂信だけであるため、この魂の無気力状態から人間を目覚めさせることはできない。

27. そこで、理性は、自らの魂の未熟さの根本原因を明らかにしてしまう秘密を暴くことを恐れ、霊的な領域に踏み込むことを拒む。そして人間は、良心の呼び声を黙らせるための手段を自ら作

り出し、法律を自分の都合や信仰上の確信、そして生活に合わせて調整するのだ。このようにして、人は自分の行動に安らぎと正当性を感じるようになる。こうして、実際にはそれらを感じるにはほど遠いにもかかわらず、隣人愛や同情、慈悲を装うことができる。人は、人間が作り出した壮麗な祭壇の前に立ち、自分自身が知らない愛や信仰さえも装うことができるのである。

28. わたしは第三の時代に、世界に光をもたらすためにやって来る。しかし、弟子たちよ、わたしは真実を告げる。わたしの教えに対して、過激になってはならない。わたしが、あなたがたの魂を古い伝統から解き放ち、それが発展できるようにしたことで、あなたがたを準備してきたことを悟りなさい。同胞たちの誤りを正す責任を引き受けなさい。心と口からあらゆる批判を排し、道中で目にするあらゆる事柄を、憤りなく判断できるようにしなさい。

29. あなたがたは、人々が依然として、儀式を執り行うために集まる場所の聖性を信じ、そこに置かれた物そのものを聖なるものと見なし、その代表者たちを自分たちより高潔で正義ある存在だと考えていることに気づくだろう。

30. しかし、わたしはあなたがたにこう言おう。あなたがたは、わたしの生きた声を聞き、わたしから賜物を受けたからといって、果たしてわたしに非常に近い存在と言えるだろうか。あなたがたは、同胞よりも自分たちが優れていると感じているのだろうか。これまで、あなたがたは、わたしの言葉を理解できる程度にのみ、自らの知性を開いてきたに過ぎない。一度それを理解すれば、あなたがたは、隣人の幸福のため、そして隣人の利益のために行うすべてのことが、あなたがた自身にとって称賛に値するものであり、魂の開花に寄与することを認識しつつ、魂の成長に取り組むことができるのだ。

31. わたしの教えは、あなたがたが、完全さと知恵をもって創造された、あなたがたの内にある光の存在、すなわち魂を永遠に開花させ、地上の情欲が魂に残した汚れを一つずつ洗い流し、清め、本来の清らかさに達するまで、あなたがたを鍛えるものである。

32. まことに、わたしが告げる。わたしが去る前に、あなたがたの心にはこれほど多くの光が満ち、以前は理解するのが難しかったこともはっきりと認識できるようになるだろう。そうすれば、あなたがたの認識と信仰はさらに深まり、祈りによる魂の高揚を通じて、あなたがたの父の力を現すことを学ぶことになるだろう。あなたがたはもはや疑うことも、時折そうするように不満を露わにすることもなくなるだろう。かつてあなたがたは私にこう言ったで

はないか。「師よ、私は準備をし、祈り、苦しむ者に癒しの香油を塗りましたが、それでも求めたものは得られませんでした」と。

それに対して、私はこう言いたい。なぜ疑うのか？ あなたたちを救うのは、あなたたちの信仰ではないのか？ あなたがたが求めるものすべてが、あなたたちにとって良いとは限らないと、私は教えてこなかったか？ あなたがたは、隣人の物質的な性質さえも知らない。それなのに、その魂の性質について、一体何を知っているというのか。その魂が、その成長、贖罪、そして完成のために何を必要としているか、あなたがたに何が分かるというのか。

33. わたしはあなたがたに教え、その教えを簡潔に述べる。愛し、憐れみ深くあり、祈り、隣人のために願い、そしてわたしの御心を行わせるがよい。そうすれば、あなたがたはすでに義務を果たしたことになる。そうしてこそ、あなたがたは、かつて自分の健康や信仰に反するものだと考えていたことさえも、すべてを恵みとして受け入れることを学ぶようになるだろう。

34. あなたがたの伴侶となるべきは、ただ服従だけではなく、私から受けるすべてのものがあなたがたのためになるという認識でもある。しかし、もし私が、それがあなたがたにとって非常に良いことであるゆえに、あなたがたの願い通りに応えるならば、喜び、さらに信仰を燃え上がらせなさい。

35. 私は古来よりの師であり、今改めてあなたがたに教えを授ける者である。キリストは、人々の間に御自身を現すために、完全な魂としてこの世に来られた。キリストは人間となり、人類への愛ゆえに犠牲の死を自ら引き受けられたため、その慈悲は限りないものであった。イエスは慈悲の模範である。彼を模範とせよ。あらゆる被造物には果たすべき使命があり、そのために試練に直面することを忘れてはならない。その試練を、イエスがご自身の苦難を受け入れたのと同じ謙虚さをもって受け入れるのだ。

36. 愛する弟子たちよ。あなたがたはすでに準備の時期に入っているのだから、この形での私の言葉の終わりを告げる重要な瞬間が近づいていることを、今から理解しておきなさい。

37. 師は眠ってはいないし、あなた方も眠ってはいらない。なぜなら、私は人間の脳を通じて、この啓示の終わりを準備しているからだ。私の霊はあなた方から離れることはない。むしろ、あなた方が霊性を高めるにつれて、私をより身近に感じるようになるだろう。

38. 準備をせず、私の教えを深く探求することなく見過ごしてしまう者は、私が去った後、孤児のように感じ、私がいないと感じるだろう。

39. 良き弟子たちは、悲しむことも、嘆くこともないだろう。彼らは私の指示を深く理解しており、やがて、彼らの精神の前で無限の彼方に地平線が開けるのを見るからである。そこから彼らは父なる神からの偉大な靈感を受け取るだろう。それは、声の媒体を介して伝えられる場合のように制限されることはなく、聖霊から直接もたらされるものだからである。

40. わたしの神性が定めた日以降、あなたがたはもはやわたしの言葉を聞くことはなくなる。しかし、それはあなたがたの霊と心、そして書物の中に刻み込まれ続けるだろう。

41. その時、声の媒体として現れ、私の光線を呼び求める者は、自らに下す裁きを知らないのである。私がこれを指摘するのは、あなたがたが偽預言者、偽の、偽の伝達者、そして偽のキリストたちに耳を傾けないようにするためである。私はあなたがたを奮い立たせ、混乱の時代を避け、闇の魂たちがあなたがたの中に侵入するのを防ぐためである。目を覚ましていなさい。準備ができていなければ、あなたがたはこれらの教えについて、私の前で責任を問われることになるからだ。

42. 今すでにその心構えができている者は、大きな靈感に恵まれ、わたしと対話を交わし、わたしがあなたがたに遺産として残す教えの説教を読むことで、わたしの声を聞くことを喜びとするだろう。その者の道は揺らぐことなく、その使命の遂行は容易であり、試練の中にあってもわたしの臨在を感じるだろう。

43. それによって、私はあなたがたが一步前進したことを知るだろう。

44. あなたがたが、互いの間に外見적인儀式や狂信、偶像崇拜を一切許さないことで、私の教えの純粹さと崇高さを証明し始めたとき、それは実現するだろう。

45. あなたがたは、思考、言葉、そして行いを通じて、私の靈的な業を証しすることになるだろう。

46. あなたがたがわたしの教えを理解せず、心と魂を準備していない限り、わたしはあなたがたを「良き知らせ」の使者として用いることはできず、あなたがたは、自分の歩みの前に立ちどかる障害が現れるのを見るだろう。しかし、もし弟子がわたしの業を生き、その魂の中でそれを感じ取るならば、わたしは道を開き、

靈的に助けを必要とするこの世の巡礼者たちをその弟子のもとに導き、彼らがわたしの教えを知ることができるようにする。

47. 喜びなさい。あなたがたを目覚めさせるその声は、わたしの愛の言葉だからである。しかし、あなたがたを揺り起こすのが他の声ではないよう、また、その声が明日、地上に対する裁きとならないよう、警戒しなさい。

48. 人々は、あなた方に関心を向けざるを得なくなるだろう。それは、司法や法律に携わる者たち、神学者や神智学者、そして科学者たちである。彼らは様々な意図を持ってやって来るだろうが、あなた方を調べ上げ、試すことになる。彼らに私の律法だけを見せ、あなた方の生活や行いを隠してはならない。あなた方の書物に記された私の言葉の完全さで、あなた方の不完全さを覆い隠してはならない。

49. 人類の歴史に悪い手本があるとしても、それを模範にしてはならない。

50. かつて、私はこのようにあなた方に語りかけなかった。第一の時代には、律法が人間の精神を照らした。第二の時代には、キリストが愛の光によって人間の心を照らした。今日、聖霊の光があなた方の精神を照らし、それをあらゆる人間的なものより高みへと引き上げている。

51. あなたがたは、ただひとりの神からこれら三つのメッセージを受け取った。そして、そのすべての間には一つの時代が過ぎ去った——それは、精神が新たなメッセージ、すなわち新たな教えを受け入れることができるようになるために必要な発展の期間であった。

52. 今や、私がなぜあなた方を「聖霊の弟子たち」と呼んだのか、理解できるだろう。

53. 原子から最大規模の星に至るまで、最も未熟な人間から最も高度に発達した魂に至るまで、すべての被造物はわたしを崇めている。あなたがたは、この世にあるすべてのものに精通しているのだから、あらゆる存在やあらゆる肉体が、それぞれの役割を果たし、その使命を全うしている様子を見てほしい。その全うの中で、彼らはわたしを崇めているのだ。それは、全体との調和による彼らの捧げ物である。まことに、あなたがたに告げる。すべての被造物は、それ自体を喜んでいる。その硬さと不動さゆえに、あなたがたには無感情あるいは死んでいるように見える岩でさえもそうだ。なぜなら、神が創造されたすべてのもののの中に宿る神の霊こそが、命そのものだからである。

54. 王たる星が、その光——すなわちエネルギーであり、命であり、暖かさである——を、その力が及ぶ限り遠くまで放っている様子を見よ。その暖かさによって、海の水は蒸発し、雲へと変わり、風に乗って運ばれ、肥沃な雨となって乾いた野原に降り注ぐ。すると、その野原は緑や花、果実と葉に満ちた木々で覆われ、その枝は鳥たちの住処となり、鳥たちは自らの言葉で歌を歌い、それを果てしなき高みへと響き渡らせるのである。あらゆるものが芽吹き、成長し、増殖し、父への絶え間ない賛美として彩られる中、創造主はその御業を喜び、すべての被造物に御自身を喜ぶことを許される。

55. しかし、あなた方——創造の世界の中で、あなた方は何者なのか。あなた方もまた、ある使命を果たす被造物に過ぎない。しかし、あなたがたは物質的な自然の一部であるだけでなく、良心、直感、知性、啓示、意志、自由、理性、そして感情を備えた魂も与えられている。このため、あなたがたはこの惑星のあらゆる被造物の中で、より高次の存在であり、精神的な進歩と人間としての進歩のために、あらゆるものを道具として、奉仕者として、糧として、滋養として、そして要素として利用することができるのである。

56. あなたがたの魂はその発展においてあなたがたをより高次の存在にしているのだから、あなたがたの宗教的実践もまたより高次のものでなければならないことを心に留めておきなさい。それは魂による実践である。わたしは常にそれをあなたがたに啓示してきた。

57. 人類は、その始まりの頃から、私に霊的な崇敬を捧げる方法を模索してきた。私の存在に対する直感的な認識が、人類を私を求め、あの世へと踏み込むように導いた。そして、私が人間の中にその不安を見たとき、私は人間に対して自らを顕現した。私が人間に顕現したのは、魂を完全性へと導く霊的な道である。しかし、この人類がまだ到達していない霊性へと至るために、私はあなたがたを、重大な過ちや大きな混乱、苦しみと試練の長い道のり、光の時代と闇の時代を経て、今あなたがたが生きている「霊の時代」の門にたどり着くまで、歩ませなければならなかった。

58. あなたがたの魂が、高潔かつ純粋な形で私に捧げるべきであった崇敬は、あなたがたの肉体が、心の中で祈りを形作り、唇でそれを口にするという形で私に捧げたとき、あなたがたの心の中で物質化してしまった。あなたがたが、あたかもそれが自分たちの作品であるかのように、自然の恵みをわたしに捧げたとき；あなたがたが、儀式の輝きで感覚を満足させている一方で、魂は、本来

あなたがたに与えられていた使命を肉体が横取りしてしまったがゆえに、裸で、飢え、汚れ、愚かな姿のまま、わたしの前に現れていたとき。

59. 第三の時代において、わたしの霊的な教えは、霊にその翼を広げる自由を与えるだろう。そして、父のもとへ昇り、父に真の礼拝を捧げるようになるのだ。

60. しかし、人間という存在としても、創造主への奉仕を捧げなければならない。そして、この捧げ物とは、地上の義務を果たすことにある。すなわち、人間の法律に従い、その行いにおいて道徳と良識を示し、父、子、兄弟、友人、主人、そして僕としての義務を全うすることである。

61. このように生きる者は、地上でわたしを敬い、その霊がわたしを賛美するために高みへと舞い上がることを可能にするであろう。

62. 魂の愛は、あなたがたの子供たちや地上の兄弟姉妹だけに限定されてはならない。霊的な愛は普遍的でなければならない。そうして初めて、社会的階級や魂の発達段階を区別することなく愛することができるのである。

63. 魂は、狂信や偶像崇拜へと誘い込む物質的な自然の弱さに対して、強くなければならない。魂は、偏見や情熱から自らを解き放ち、理性を持つ者にその理性を認め、その者がまさに生きている真理を受け入れることができるようにしなければならない。

64. そうすれば、あなたがたは平和の人々となり、自らの生涯をもって、「神のものは神に、皇帝のものは皇帝に」という私の言葉を遵守し、この世に属するものを父に捧げたり、神にふさわしいものをこの世に捧げたりすることなく、すべての律法を調和させ、正しくそれを果たすことができる者となるだろう。なぜなら、愛と正義に満ちたあらゆる神の律法が、わたしから発していることを悟っているからである。

65. 第二の時代において、イエスはあなたがたに最高の完全さをもって語られた。今、私はあなたがたに、最高の明快さと簡潔さをもって語っている。しかし、この時代に私があなたがたに啓示したことの多くは、あの時代にはあなたがたに与えなかった。なぜなら、あなたがたにはまだそれを理解する能力がなかったからである。

66. 私の教えの説教に招かれ、ある使命を授けられた者一人ひとりについて、それはその者がこれらの教えを理解する準備が整っているからに他ならない。私はもう一度言うておく。あなたがた

の魂がこの惑星を訪れるのは今回が初めてではなく、また、神の啓示の光を受けるのも今回が初めてではないのだ。しかし、その過去は現在、物質のベールの向こうに隠されている。あなたの魂はこれを知っており、私の言葉を聞くと、目覚め、自分が本当に遠くから、長く、実に長い道のりを経てやって来たのだと、その道中で多くのものを見て、経験してきたのだとを感じるのだ。

67. この教えを聞くために、あなた方は長い間「旅」をしなければならなかった。しかし、あなた方の魂は勇気を失わず、老いもしていない。なぜなら、老い、衰え、そして死は魂には関係なく、むしろ、闘いを意味する成長、経験、そして開花こそが魂に関わるものだからである。そして、試練は魂に成熟をもたらし、永遠の命の豊かさへと近づけるのである。

68. あなた方は、幸福と喜び、輝きと快楽に満ちた生を送ってきたこともあれば、不運や失敗に満ちた生を送ってきたこともある。ある生は贖罪のためであり、ある生は経験のためであり、ある生は知性の開花のためであり、ある生は感情の開花のためであり、そして今あなた方が送っているこの生は、魂の高揚のためである。

69. あなた方はあらゆることを知り、あらゆるものを手にしてきた。したがって、今日、あなたがたに富も、華やかな生活環境も、称号もないと気づいたとしても、それを嘆いてはなりません。この時代に確固たる歩みを踏み出し、霊性への到達を果たすためには、魂の進歩を遂げるために、あらゆる余剰なものや不必要なものを手放さなければならなかったのだと心に留めておいてください。

70. あなたがたは、極めて精神的な教えの伝道者である以上、それを外見的な儀式や形式を通じて世界に提示することはできない。なぜなら、あなたがたの矛盾した姿は、ただ不信と嘲笑を招くだけだからである。

71. 平和の王国は近づきつつあり、その日がいつ来るかはあなたがたには分からないが、わたしは道徳的・霊的な回復の業に着手した。その時が来れば、これまで贖罪と涙の谷であったこの世界は、進化した魂たちの住処となるだろう。

72. 安心しなさい。私はまだあなたがたと共にいるのだから。まだ自分自身をあまり信頼できないのだから、私を信頼しなさい。しかし、あなたがたが自分自身を信頼できるようになるために、私が求めるその霊的な準備が整うまで、粘り強く耐え忍びなさい。

73. まもなく、人々が霊的な賜物に関心を寄せるようになるのを見るだろう。ある者は質問をし、またある者はそれについて議論を交わすだろう。

74. わたしは、あなた方にわたしの愛撫と癒しの香油を与える。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 230

1. わたしは、あなたがたがさまざまな場所から集まってくるのを見ている。あなたがたは、父なる者の屋根の陰で安らぎを得るためにやって来るのだ。あなたがたが集まったゆえに、父の心には喜びがある。たとえたった二人の心が和解するだけでも、わたしは祝宴を催すからだ。

2. あなたがたは試練の時期を過ごしているが、わたしの御言葉の光を持っているにもかかわらず、その意味をまだ理解していない。しかし、時間はあなたがたが無駄にしてはならない宝であるため、わたしは師として、あなたがたの運命と使命を明らかにすることで、その時間を活用するよう教えるためにやって来る。

3. この瞬間を大切に下さい。まもなく、私はあなた方から離れ去るからです。私が長年にわたり、人間の知性を通じてあなた方に与えてきた私の神聖な言葉は、その時、永遠に終わりを告げるでしょう。

4. まだわずかな時間が残されている。その間に、私はあなたがたに私の教えのすべてを伝え、私の書物のすべてを書き記すつもりだ。

5. それゆえ、私は急いであなたがたの心の扉へとやって来る。その子にこう告げるためである——その子は私の言葉にあまりにも慣れすぎてしまった、深い眠りから目覚めるべきだ、鍬とシャベルを取り、畑を耕し、作物を育て、それを自分の命のように愛すべきだ、その畑と水を隣人と分かち合うべきだ、その目が慈愛に満ち、右手を友情のしるしとして差し出し、心が利己心から解放され、主の畑における真の働き手となるように。

6. 人々の心が動かされて、この地上に平和がもたらされることを期待してはならない。立ち上がって、働け！ 平和と自由を得るために、ある者の敗北や別の者の勝利を願ってはならない。勝利すべきなのは、正義、兄弟愛、そして愛である。

7. 地上に真の平和をもたらすのは、人間ではない。あなたがたが真の霊的な準備を整えたとき、平和は私の王国からこの世へとやって来るのだ。

8. この時代にあなたがたを照らす光は、第六の封印の光である。もし誰かが、解かれたのは別の封印だと主張するならば、その者は誤っている。第六の燭台は今や、消えることのない光として燃え続けており、その啓示によって生者と死者を照らし、新たな預言によって魂を目覚めさせている。しかし、この光が、この言葉

を聞く者だけを照らすのだと信じてはならない。まことに、わたしがあなたがたに告げる。科学者や神学者たちもまた、この光の下にあるのだ。

9. なぜ、あなたがたは私の教えを学ぶよう努めないのか。そうすれば、あなたがたが解釈によって理解すべきことを、師が肉体をもって声を上げて説明する必要はなくなるはずである。

10. 科学の果実を、魂の愛の果実と結びつけなさい。そうすれば、口の中に良い味が広がるでしょう。

11. 旅人よ、休んで、この木の涼しい木陰を楽しみ、その実を食べなさい。

12. 父はあなたがたと共にいます。父は、あなたがたの道において、常にその存在を明らかにしてられました。

13. 私は、全人類の代表としてあなた方を迎え入れ、あなたがたが私の霊的な臨在を受け入れ、感じ取る準備ができているのを見ている。

14. あなたがたは常に私の神性を求めてきた。私を見つけれなかったと感じたとき、私を身近に感じるために、あなたがたは自らの手で作り出した像のもとへ駆け寄った。今この時代、人類の大部分はそうして生きている。私がこの啓示の時代の頂点において世界に語りかけている間、彼らは像の中で私を求め、崇めているのだ。

15. 私は今、夢を通じて人々を目覚めさせている——象徴的かつ預言的な夢である。しかし、人々は信仰と心の準備が欠けているため、それらに注意を払わず、解釈もしない。こうして、それが神からのメッセージであることを知らずに、その夢の光景を忘れてしまうのである。

16. 人類は、真の道からいかに遠く離れていることか！世界は自由意志の支配下にあり、快樂や地上の情欲を追い求めている。

17. 魂は眠っており、知性は、すなわち真理である光へとまだ目覚めておらず、真の生命を予感することさえできない。

18. 人間は依然として、自らの良心に語り、判断を下す機会を与えていない。心に闇を抱えながらも、自分たちは誤りなく、過ちを犯さないと思い込んでいる者たちが、今なお存在する。

19. しかし今、人々はそれに疲れてしまった。それゆえ、私は彼らに近づき、道を示し、彼らの魂を光で満たし、彼らの過ちと失われた時間を悟らせ、人の内なる光と闇の戦いを解き放つのである。

20. 私は、子供たちの魂が減びることのないよう、常に限りない愛をもって、さまざまな形で彼らに自らを現している。

21. あなたがたがこれらの目立たない礼拝堂に入ったのは、あなたがたの意志によるものではない。あなたがたを呼び寄せ、霊的な糧を与え、あなたがたがわたしの御前に至ることができる救いへの道を示したのは、わたしの憐れみであった。あなたがたは、落胆しても傲慢になってもならない。むしろ、ふさわしい態度と謙虚さをもって来るべきである。

22. わたしが初めの時代にカナンの地をあなた方に与えたように、今、あなた方に永遠の平安を授ける。その道はわたしの血によって印が付けられているから、あなた方は道に迷うことはない。わたしの血は真理であり、愛であり、永遠である。目を覚ましていなさい。わたしの教えに明らかにされた真理は人々によって歪められ、いくつかの啓示は隠されてしまったからだ。

23. わたしや使徒たちの模範は、わたしに従おうとしたすべての人々によって手本とされたわけではない。多くの者は、しもべであるべきところを、支配者となってしまった。彼らは心を優越感と傲慢で満ち、富や華やかさ、名誉ばかりを追い求めた。その過程で、貧しい人々の苦境を忘れ、他者の悲惨さや苦しみに対して無関心で無情な者となってしまった。それゆえ、人々は真理を求めて、ある宗派から別の宗派へと移り歩いている。私を自由に探求するために新たな宗派を創設したいという彼らの精神的な欲求は、そこに由来しているのだ。

24. かつて聖人や半神と見なされていた者たちは、今日、失望した人類によって拒絶されている。

25. 人々はもはや、自分の過ちを赦してもらうために告解司祭を訪ねようとはしない。彼らはそれを不名誉なことだと感じるからだ。そして、永遠の地獄の炎という脅しは、もはや罪人の心を動かし、恐怖させることもない。

26. この霊的な方向感覚の喪失に乗じて、オオカミは生垣の陰に潜んでいる。

27. わが神性のすべての僕、そしてすべての代表者は、人々の間に平和をもたらすという使命を負っている。しかし、彼らがこの時代にしていることは、その正反対である。誰もが自分こそが第一だと考え、誰もが最強でありたいと望み、その一方で、唯一の強い存在は、すべての人の中にいる「わたし」であることを忘れてしまっている。

28. これで、なぜ私が「第二の時代」に再び来ると約束したのか、あなたがたには理解できるだろう。なぜ私が改めて教えを説くのか、今やあなたがたには明らかである。なぜなら、私の言葉だけが、の精神を覆う暗い覆いを取り除くことができ、私の愛だけが、あなたがたを罪から救い出すことができるからである。

29. あなたがたは、わたしの到来への信仰、そしてわたしの言葉に対する信頼と従順の模範を示すために、召され、選ばれたのである。しかし、最後にやって来た者たちが、わたしの律法を正しく果たす模範を示すのを待ってはならない。そうすれば、あなたがたの苦しみは極めて大きくなるだろう。しかし、あなたがたが、彼らが旅立ち、国境を越え、他の国々へと、わたしの言葉の使者として足を踏み入れるのを見れば、あなたがたの怠慢と恩知らずさを悟ることになるだろう。

30. このことをよく考えなさい。そして、信頼される存在になりたいのであれば、まずご自身の家庭で良い手本を示すことから始めなさい。かつては部族の違いゆえに互いを拒み合っていたあなた方だが、今日では一つの家族として互いを愛し合うことを、私は望んでいる。

31. これが私の明確な言葉である。もし私が別の「言葉」であなたたちに語りかけたとしたら、それは正しくはないだろう。

32. わたしは、あなたがたの心に宿ることができるよう、その心を整えている。世界もまたその準備を整え、人々の心の中に平和の種が芽生えるでしょう。そして、世界の隅々までその種を蒔いてきたあなたがたは、自らの働きの成果を目の当たりにして喜びを感じるでしょう。なぜなら、師に従って歩む中で、あなたがたは善に生きることを教え、すべての人々のために祈ってきたからです。

33. あらゆる国々で、和解、兄弟愛、そして平和が語られるようになり、これが統一への始まりとなるでしょう。

34. わたしはあなたがたを準備し、すでに準備ができていますかどうか尋ねた。すなわち、あなたがたが同胞のもとへ赴き、わたしが「御言葉の靈感」として与えた知恵を示し、彼らの疑問に満足のいく答えを与える準備ができていますかどうかである。この使命を果たすことが誰にとっても不可能だとは思ってはならない。わたしが与えた知識こそが、あなたがたにその使命を理解させるものであることを心に留めておきなさい。

35. 私の教えを広めるために、あなたがたが「異邦」と呼ぶすべての国々を訪れる必要は必ずしもありません。祈りの中で思い

を高め、心を清めれば十分です。そうすれば、あなたがたの魂は遠く離れた場所にいる同胞たちにその存在を伝え、彼らがどこにいても彼らの立場に身を置くことができるでしょう。そして、彼らは光の存在たちによって目覚めさせられるでしょう。

36. あなたがたは霊界と一体となり、新たな戦争や新たな苦しみを防ぐ防護壁を築かなければならない。また、暴力によって霊的な支配を勝ち取ろうとする者たちのためにも、引き続き祈り続けなければならぬ。暴力は理性、兄弟愛、そして正義に打ち勝てなかったと人々が悟ったとき、あなたがたは驚き、世界もまた驚くことになるだろう。

37. 心の中に利己心が支配しているにもかかわらず、見せかけの慈善行為を行うことには気をつけなさい。いかなる私利私欲もなく、できる限り多くの善行を行いなさい。私があなたがたに教えた律法である「愛」からそれを行えば、あなたがたは自分の魂のために功德を積むことになるだろう。私の教えを、私があなたがたに与えたままの形で伝えなさい。それは、私がかつて預言者たちや使徒たちに教えたものと同じである。

38. 物質主義に囚われた人間たちは、私がかつてあなたがたに与えた御言葉を改変するという合意に達してしまった。しかし、私の業は完全であり、その根源は地上の言葉にあるのではない。心構えを整えなさい。そうすれば、あなたがたは常に私の真理を見出すだろう。そうすれば、私がいつの時代もあなたがたに私の種を豊かに与えてきたこと、そしてあなたがたもまたそのようにそれを伝えていくためであることを悟るだろう。

39. 儀式や外見的な礼拝の形式を用いて、誰かを感銘させる必要はない。あなたがたの心の神殿が明らかになり、その中で、あなたがたの隣人たちは、あなたがたの燭台と祭壇を目にするだろう。

40. 今すぐ、あなたがたの行いの際にも、また、つまずいてしまった時に汚れを振り払おうと奮闘している時にも、わたしを感じ取ることを学びなさい。

41. わたしはあなたがたに、単純さの中に真理を求めるよう教えてきた。人間が自ら考え出した複雑な教義の中に真理を求めようとする時、その知性はなんと貧弱なことか。自分の中にわたしを宿しているのに、なぜそれほど遠くにわたしを探そうとするのか。自分が父の似姿として創造され、霊、知性、意志といった神聖な資質を授かっていることを知らない者がいるだろうか。

42. わたしは第二の時代に人々の間で暮らし、あなたがたとパンを分かち合い、屋根を共にした。しかし、キリストの偉大さは、その謙虚さに根ざしている。

43. 私は、あなたがたが隣人への愛のために物質的なものから離れることを学べるよう、このように教えている。しかし、その前に、あなたがたは自らを清めなければならない。なぜなら、あなたがたが成長することは法則であり、万物が成長することも法則であるから、これから起こる出来事に動揺してはならない。その時にあなたがたの目にするものは、すべてが至高の完全な法則によって支配されており、今日起きていることは、すべてが完全さに向かって進んでいるゆえに、以前には起こり得なかったことだと気づくとき、ただ喜びで満たされるはずである。

44. 人類の進歩のために尽力しているのは、地上だけではありません。別の世界からも、人類の救いと進歩を願い、尽力しているのです。それは霊界です。それゆえ、私はあなたがたに告げます。大きな闘争を経て、すべての宗教共同体の懷において、霊的な種が実を結ぶことになるでしょう。

もし人々が、「これは不和をまき散らす新しい宗教だ」と言うならば、霊性主義は教えであり、かつて魂を導いてきた最初にして唯一の教えと同じものである、と答えるべきである。しかし、その声は、あなたがたの感情が根ざしている、あなたがたの心の奥底から湧き出なければならない。その感情は、他者の苦しみのために涙を流すときにも、また、隣人の喜びに涙を流すときにも、明らかに現れるだろう。なぜなら、これこそが、私が常にあなたがたに教えてきたことだからである。

45. 私は人間の知性を通じてあなた方に語りかけている。私の光と恵みがその知性に注ぎ込まれ、言葉となる——すなわち、私のもとへ至る唯一の道、すなわち完全さと感情の清らかさという道を指し示すその言葉となるのだ。

46. イエスに深く愛されている人類よ。あなたの信仰が新たな命に目覚め、希望が強められるためには、霊性の高まりを示す大きな証拠が必要だ。あなたが今陥っているその無気力状態から立ち直るためには、明確な言葉が必要なのだ。私の神聖な御霊は、父が決してあなたを見捨てず、真理の御国からあなたを導いておられることを、あなたが感じ取れるように、この形で現れなければならない。

47. この愛の証を前にして、まだ確信が持てないのか。わたしの思いは、消えかかっているあなたがたの灯の光を再び蘇らせる

ために降り注ぐ光である。師はこう告げます。宇宙の真理は、靈性が高まった人間によって明らかにされるでしょう。なぜなら、その人は、自らの成長に役立つ教訓を学ぶためにこの世にやって来たのであり、この世で調和のとれた生き方を理解するようになるからです。この世界は永遠のものではありませんし、そうである必要もありません。この住処が、現在果たしている存在の目的をもはや果たさなくなったとき、それは消え去るでしょう。

もしあなたの魂が、この世で与えられる教訓をもう必要としなくなったなら——別の世界で、より高次の教訓が待っているから——この地上の闘いの中で勝ち取った光によって、魂はこう言うでしょう。「今、私はどれほどはっきりと理解していることか。この人生の浮き沈みはすべて、私がより深く理解するために必要だった経験と教訓に過ぎなかったのだと。」『あの苦しみ（ ）に押しつぶされていた間、その人生の旅はどれほど長く感じられたことか。しかし今、すべてが終わった今——永遠という視点から見れば、それはなんと短く、はかないものに見えることか。』

48. 人間は、完全性への渴望に駆られて高みへと昇るほど、自らの魂をより大きくし、その存在をますます靈化していくよう召されている。

49. あなたがたが持つ肉体もまた、靈化されるよう定められている。それが実現すれば、人々の生活環境は一変するだろう。人々は、今日の世界の住人にとってはまだ未知の靈的能力を発達させることになる。

50. あなたがたは、希望を新たに蘇らせるこの教え、尽きることの無い真の知恵の泉を、渇きを癒やすために必要としている。私の光は、魂を知らないから愛さないと言いながら、その一方で、自らの虚栄心をくすぐる物質的な富や肉体的な美しさ、称賛の的となる知性、名声や肩書きを愛する、その曇った精神へと降り注ぐ。それがその者が愛するものであり、それは実体の無いものを愛することを意味する。

人間とは、肉体でも、その富でもありません。人間は、その魂によってのみ価値を持ち、存在しているのです。

もう一度言うておくが、人間は、宇宙、天、そして諸世界の真理を表現する存在となるよう召されている。今日、人間がまだこれに到達できていないのは、物質主義に囚われているために、精神の繊細な賜物を開花させることができないからである。

この物質主義が一度消え去れば、人間は靈的な生活の奇跡を目の当たりにして喜びを感じる「予見者」となるでしょう。 そう

して初めて、彼はサウロがパウロへと改宗した意味、すなわち、名前を変える必要が生じるほどまでに人間が変容したことを理解するでしょう。かつての名とともに、彼の情熱の記憶は消え去り、その気質や彼が引き起こした過ちは灰と化したのです。

魂が、自らが進化していること、高揚に欠けていること、あるいは物質世界で学ばなければならなかったことや開花させなければならなかったことが今や終わりを迎えようとしていることを理解したとき、魂は神性の光と合一する準備が整う。なぜなら、魂とは光であり、光に向かって進むものだからである。

51. 人よ、喜びなさい。この涙と惨めさと苦しみに満ちた世界で、あなたがたは渡り鳥であると心に留めなさい！喜びなさい。ここはあなたがたの永遠の故郷ではないのだから。より良い世界があなたがたを待っているのだ。

ですから、この地球を去る時は、後悔することなく去りなさい。そうすれば、ここでの苦痛の嘆き、苦勞、涙はすべてこの地に残されるでしょう。あなた方はこの世界に別れを告げ、天の高みであなた方を待ち受ける者たちのもとへと舞い上がるのです。そこからは、地球を宇宙のただ一点として見下ろし、愛を込めてそのことを思い返すことになるでしょう。

52. 悲しむことはない。やがて、あなたがたがこれほど多くの苦しみを味わったこの「涙の谷」を去る日が来るからだ。その日、あなたがたは、この地で魂が切望していた光を得たことを悟り、明日にはこの地を愛するようになるだろう。

53. 隣人を愛し、病人を癒やし、悲しむ者を慰め、貧しい者に新たな勇気を与えることによって、幸せになりなさい。そうすれば、天の祝福があなた方に降り注ぐだろう。霊性を高めたいと願うか。キリストは、あなたがたがこの恵みを得られるよう、あなた方を支えてくださる。

54. まことに、あなたがたに告げよう。今日、人々は霊よりも物質的な存在であるが、明日には物質よりも霊的な存在となるだろう。人々は自らの霊を完全に物質化しようと試みてきたが、その完全な物質化には到達することはない。なぜなら、霊はダイヤモンドのようなものであり、たとえ泥の中に落ちたとしても、ダイヤモンドであることに変わりはないからだ。

55. 人間は、完全なる魂の至福を知らない。それは、完全さの高みに達していないからである。もし人間が心を清め、その魂の中にわたしの真理を保ち、それを実践するならば、これまで知らなかった平安と至福を見出すことになるだろう。これこそが、人類

に啓示された最初のたとえ話の中で木が象徴する人生であり、その熟した果実は魂の飢えを満たしてくれるでしょう。自らを完成させ、地上の事柄を超越すれば、もはや他者の恩知らずさや無理解に苦しむことはなくなるでしょう。

56. 愛とは、あなた方を愛する神へと、また同様にあなた方を愛する霊的な母マリアへと、そして同じくあなた方を愛する霊的な兄弟姉妹へと導く梯子である。

57. 神の御霊からは、メッセージの奔流が流れ出ている。あなたがたの心が正しいと感じる限り、それらをできるだけ多く心に留めておきなさい。

58. あなたがたの苦しみの闇を、わたしに委ねなさい。わたしはそれを、平安の光へと変えてあげましょう。あなたがたのすすり泣きと涙を、わたしに委ねなさい。静寂の中でわたしがあなたがたの心を訪れるとき、太陽の光線のようにその中に差し込み、心を照らし出すでしょう。

59. 私があなた方に愛の言葉を授けたのは、あなた方が心の中でその力を感じられるようにするためである。ここに、あなた方のあらゆる苦しみに注がれ、あなた方の魂を強める、私の慰めの香油がある。

60. 心を整えてわたしに近づくあなたがたは、祝福される、と告げよう。そのとき、わたしの言葉は、あなたがたの信仰の炎を燃え立たせる癒しの香油と愛撫となるからだ。

61. わが王国は苦しむ人類の上に降りてくる。そして、この時代の選ばれた者たちを通してわが言葉が響き渡る。それは、わが声を聞く者たちが、兄弟たちの慰めとなるためである。

62. いつの時代にも、私は人間と私の神性との間に仲介者を置いてきた。私が用いたのは、心から柔和で謙虚な者たちであった。今、私は教えの新たな使者を準備している。この福音が、人々の間で霊的な生への目覚めとなるためである。

63. 高貴な霊的使命を果たす能力を持つ者たちのうち、どれほど多くの者が、今なお世界中に散らばって眠り続けていることか！ 彼らは目覚め、その寛大な心をもって隣人のために役立つ存在となる時、自らの霊的進歩を証明することになるだろう。彼らは謙虚であり、決して優越感を誇示することはない。

64. 虚栄心——最初の人間にもすでに現れていた弱さ——は、精神化によって克服されるだろう。これは、古来より精神と物質の間で続いてきた闘いである。なぜなら、父の本質を渴望する精神は永遠かつ高きものへと傾く一方で、肉体は、たとえそれが精神

に害を及ぼすものであっても、ただ自分を満足させ、お世辞を言うものだけを追い求めるからである。あらゆる人間に現れるこの闘いは、世界が人間に及ぼす影響の結果として、人間自身の中に生じる力である。なぜなら、地上のものは、その本性にかなうあらゆるものを求めるからである。もし霊がその力を制御し、正しい方向へと導くことができれば、自らの本質において両方の性質を調和させ、進歩と高揚を達成することになる。それに対して、もし物質の力に支配されてしまえば、悪へと誘惑され、嵐の真っ只中に舵のない船のようになってしまうだろう。

65. わたしに耳を傾けるあなたがたは、魂を解放するために、あらゆる有害なものから背を向けたいという渴望を感じている。あなたがたは闘いの真っ只中にいる。それゆえ、わたしはこう告げる。目覚めて祈り続けよ。そうすれば、あなたがたの魂が肉体と一体となり、それと調和する時が来るだろう。今日、あなたがたは依然としてこの世の誘惑に苦しんでおり、その誘惑に抵抗するには自分たちが弱すぎると感じている。人間は直感的に、完成の時代が来ることを予感しているが、それがいつになるかは知らない。

66. 人々は様々な道を通じてこの目標を追求するだろう。しかし、魂の進歩のために闘う者たちだけが、そこに到達する。宗教的狂信に身を委ねる者たちは成長せず、物質的な研究に時間を費やす者たちは、物質的な成果しか得られないだろう。

67. 精神化こそが、人間を完全性へと導くものである。しかし、創造主との結びつきであり、愛と慈悲、そして内なる礼拝を通じて創造主に近づくことである真の霊性の実践を、人々が来世の存在を冒瀆し、物質的に知覚可能なものにしてしまうような「科学」の実践と混同してはならない。ここに、人々から真実を隠している無知のベールを取り除く、私の教えがある。

68. 私の愛の教えは、この時代において、あなたがたが自らの真ん中で私の霊界の存在を受け入れる準備を整え、それによってあなたがたが私の言葉を理解できるよう助けてくれるようにと導いてきた——その時代は今、終わりを迎えようとしている。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 231

1. 私の鋭い視線があなた方の内へと入り込み、あなた方が心をつつにして花束を作り、それを私の神性に捧げようとしているのを見る。

2. 私はあなたがたの苦しみを視ており、父なる愛の慈しみの手でそれを和らげている。そうして、私の言葉に励まされ、試練の中で強靱な民となるように。

3. あなたがたが、自らの弱さを私に打ち明けるため、あるいは経験している苦しみの中で助けを求めるために私のところへやって来たとき——十字架の重荷に押しつぶされそうになり、私に助けを求めてきたとき——そのたびに、私はあなたがたをその重荷と痛みから解放し、強い魂へと変えてきた。そして、私はこう告げた。「さあ、前へ進みなさい。決して後ろを振り返ってはならない。もし過去を振り返れば、あなたの魂は恐怖に満たされてしまうからだ。」

4. 私は、あなた方を破滅から救い出し、今あなた方がいてこのパンを味わっている、救いの港へと導いた。あなた方は、私の平和の懷で安らぎを得た。私は、あなた方がつまづくことなく道を歩めるよう助けるために、あなた方の存在の闇の中で一筋の光となってきた。

5. もし、私が自らを現すための代弁者や声の伝達者が、自らの意思で語っていたならば、彼らはあなたがたに真理の道を教えることはできなかっただろう。しかし、彼らの唇から光の言葉が語られるのは、私が彼らの知性を通じて自らを現しているからであり、私はあなたがたに、「私が道である」と告げたのだ。

6. あなたがたは、多くの人々がこれらの教えに驚き、ここで語っているのが本当にラビなのか——イエスを十字架につけたこの世界に「御言葉」が確かに戻ってきたのか、と疑問を抱いているのを見てきたでしょう。

7. ここにいるあなたがたは、私がこれを約束したことを知っている。私が「赦し」そのものであること、そして「死者」を蘇らせ、病人を癒やし、盲人の目を開かせることによって、私の神聖な使命を果たしていることを知っている。あなたがたは、私が戻ってきた理由と、私がどのようにして来たのかを知っている。しかし、これらすべてに対して、世の人々は疑問を呈し、多くの者がそれを疑うでしょう。

8. 私が、学者や神学者、科学者ではなく、教養のない人々や素朴な心を持つ人々に語りかけ、彼らを通して自らを現した理由を、私はあなたがたに語った。なぜなら、素朴な人々の証言こそが、世界を驚嘆させるからである。

9. あなたがたが徹底的に探求すれば、私がいつの時代も、人間性を持つ人々を通じて人類とつながってきたこと、そしてそうした人々が常に謙虚で素朴であったことを確信するだろう。

10. わたしがあなたがたに地上でのさまざまな生を与えたのは、あなたがたがこれらの啓示を証し、自らの使命を果たすためである。

11. あなたがたは、父があなたがたに啓示しようとしているあの来世の神秘に踏み込むために、わたしの教えを活用しなければならない。わたしの秘められた宝庫は、あなたがたの目から隠されているわけではない。そうでなければ、あなたがたは決して永遠の命に入ることができないからだ。

12. 学び、深く考えなさい。なぜなら、ある者たちは、「もしあなたがたの霊が私の神性の一片であるならば、どうしてそれが苦しむことがあり得るのか」という考えに戸惑っているからだ。また、もし霊の光が聖霊の光の一片であるならば——どうしてそれが一時的に闇に包まれることがあるのでしょうか？この成長の道は、神に対して十分な功德を積み、それによって、あなたがたの霊を、無知で未発達な霊から、父の右座に坐する偉大な光の霊へと変容させるためのものであることを悟ってください。

13. わたしのもとに来なさい。そして、あなたがたの魂の糧となるわたしの言葉を、もう一度聞きなさい。この第三の時代に、人間の知性を通じてあなたがたに授けたこの言葉は、わたしの神性が真理と教えに満ちて現れるとき、あなたがたを一つに結びつけ、熱意と信仰をもってわたしの神性へと高みへと導くという奇跡をもたらした。なぜなら、あなたがたの魂は地上の教えに倦み、あなたがたの足は、平和と愛と真理を求めて広大な道を歩むには疲れきっていたからだ。あなたがたの手もまた、魂に満足をもたらす収穫を得ることなく畑を耕すには、疲れきっていたのだ。

14. おお、民よ、わが意志は、あなたがたがこれらの道を歩み、これらの実を味わうこと；さまざまな扉を叩き、異なる人種や性別の者たちの心を知ること；書物から様々な哲学、教え、理論を学び取ること；この地上の貧しい人々の生活、そのすべての悲惨さと苦痛を知ること；この世の偽りの富と、その快樂や欺瞞に満ちた栄光を体験すること；人々の声を聞き、彼らのインスピレーショ

ンを知ること；そして、時が経つにつれて彼らがもたらす善と悪を受け入れること。そうして、この旅の終わりに、あなたがたが、心の扉を叩く最後の存在として、私と出会うため——あなたがたの道を横切る最後の存在として、あなたがたの傍らを歩み、「どこへ行くのか？どこから来て、何を求めているのか？」と問いかける者として——そして、そのとき、あなたがたが、誇りや独善を捨て、痛みに打ちひしがれながらも経験によって強くなり、闘いによって啓発され鍛え上げられた状態で、即座に私を認識し、私に心を開き、自らの貧しさを告白し、あなたがたの痛みや失敗、そして憧れさえも理解できるのは私だけであることを認めるようになるためである。

15. これこそが、私のもとに来る人々の大部分が、私の言葉を聞くやいなや、その力に心を奪われる理由である。彼らは、私が彼らの心の奥底まで見通していることを感じ、彼らを包み込む私の愛を肌で感じるのだ。そして、あなたがたは私を待ち望んでいたからこそ、存在という大きな闘い、大きな戦いの後、あなたがたが過ごしてきたあの暗い夜の後、新しい日の光が必ず昇らなければならないことを知っていたのです。あなたがたは、苦悩の杯を澁まで飲み干した後、それを甘美さで満たしてくれる誰かが必ずやってくると知っていた。なぜなら、かつて私があなたがたに与えた約束への希望と信頼は、あなたがたの魂の中で消え去っておらず、その炎はあなたがたの心の中で保たれていたからである。この時代に現れているのが私であることを否定した者たちでさえ、その行為は魂によるものではなく、霊的な啓示に対して無知で受容できない、私について何も知らない肉の本性によるものでした。しかし、私はすべての人を知っており、その不信仰者たち、頑なな者たちにさらなる時間を与えた。なぜなら、私を否定しているのは彼らの魂ではなく、その魂が光に満ちて高まり、自らの肉体の殻という鎖から解き放たれなければ、私を見、感じ、第二の時代にペトロが叫んだようにこう宣言することはできないと知っているからだ。「まことに、あなたは生ける神の子です！」

16. わたしは、あなたがたを子供のような生徒から弟子へと変えていく。あなたがたがわたしの言葉を聞いた後、わたしはあなたがたに知恵の書を託す。それをもって、あなたがたは隣人を教え、まず自国の民に福音を伝え、その後、他の国々にも伝えるのだ。わたしから学ぶとき、あなたがたは柔和で謙虚になるだろう。あなたがたは、ただわたしの言葉を深く探求することに満足したり、群衆を感銘させるために雄弁な言葉を語ることに満足したりするの

ではなく、あなたがたの靈感や洞察、そして明快で深遠な言葉は、あなたがたの理解の果実となる行いによって裏付けられなければならない。私は、これらの行い が単にあなたの知性から生まれるのではなく、愛の種が蒔かれているあなたの心に、良心を通じて導かれることを望んでいる。

17. そうすれば、あなた方は間違いなく人々を改心させることができるだろう。なぜなら、人々は中身のない言葉にうんざりし、様々な教えや世界観の誤りによって病み、疲れ果てているため、真の愛と 慈悲、そして平和から語りかけられ、闇に光をもたらし、痛みのある場所に癒しの香油を注ぎ、その本質において精神的あるいは道徳的に堕落した者たちを変容させるような教えを渴望するようになるでしょう。そうすれば、私の教えは確かに勝利を収め、私に従い、平和、一致、善意の旗を掲げて進む者たちの数は増えていくでしょう。

18. わたしは、あなたがたがこの時を義務として活用することを望む。すなわち、魂が肉体の殻を導き、奮い立たせ、それを屈服させ、ついには自らの道具、従順な僕とすることを。魂がわたしに捧げるべき崇拜を、「肉」が代わりに捧げるようなことがあってはならない。また、それがあなたがたの霊とわたしの霊の間に立ちただかるようなことがあってはならない。 そうすれば、浄化は持続的なものとなり、肉体が感じるものは魂にも響くことになる。なぜなら、魂はまだ痛みや弱さに対して優位に立つことができないからである。 狂信に陥ることなく、霊性を高めていけば、あなたがたはどれほどの平安を味わい、どれほどの励ましを心に受け、痛みや老い、病という試練に直面した際、どれほど強くなれるかを体験することになるだろう。

19. これが私の教えである。あなたがたのうち、これを理解できない者はいるだろうか。それは白昼の光のように明瞭であり、その光はあなたがた全員が目にすることができる。私は、あなたがたがこの教えを魂に消えることのないように刻み込むために、これを授ける。なぜなら、明日、試練が迫ったとき、この教えがあなたがたに力を与えてくれるからである。

20. この地上では、常に人間同士の闘争、戦争、争い、不和が存在してきた。太古の昔から、ある者たちの考えは常に他の者たちの考えと対立してきた。そして、あなたがたも見ての通り、美德に対しては不徳が、正義に対しては不正義が、魂の声に対しては「肉」の声が、ある認識に対しては別の認識が立ちただかつてきたのである。 そして、太古の昔から私の霊的教えを広めてきた者たち

は、科学者たちを敵としてきました。この第三の時代においても、私は依然として人間同士のこうした闘争を目にしています。しかし、私が最終的な言葉を語る日がやってきました。

21. あらゆる知恵、認識、あるいは科学は、すべてわたしから生じたものである。わたしは、この惑星が転生した魂たちの住まいとなるよう整え、あなたがたをこの世に送り出す前に、恵みと愛と知恵をもってこの世界を育んできた。わたしは、この世界の内部にも、地表にも、あらゆるものの中に、あなたがたの生活、そしてわたしの子供たちの維持、喜び、満足のために必要な要素をすべて備え付けた。

あなたがたがこの自然の懷の中で、あらゆる生命の源——秘密に包まれたものや、深い宝庫に守られてきたものすべて——を発見できるよう、私はあなたがたに才能を与え、啓発し、科学の賜物を授けた。それは、あなたがたがこの能力を用いて、それぞれの必要、成長、そして試練に応じて、尽きることのない生命と知恵の源を見出せるようにするためである。

22. あなたがたは皆、この科学の賜物を喜びとしてきた。しかし、私は、魂の全体をなすあらゆるものを発見し、その泉の尽きることのない水をあなたがたに与え、あなたがたの人生と地上の幸福を支えてくれるよう、偉大な使命を託すために、数人を選んだのである。また、私はその選ばれた者たちに、霊的な生命——科学の域を超え、この地上の自然の上に存在する生命——に対する直感的な認識も託した。それゆえ、人類は太古の昔から私を崇め、普遍的な存在、すなわち力強く全能なる神であり創造主の存在を予感してきた。その神は、この世を超えた高次の生活をあなた方のために用意しておられる——それは、精神、愛、光、そして理性が輝きを放つ生活であり、これらすべてがあなた方の魂の一部なのである。

しかし、あなたがた全員が、これらの能力を通じて絶えず語りかけてくるこの直感的な知識を持っているにもかかわらず、私が偉大な権能を持つ魂たちをあなたがたのもとへ遣わす必要があった。それは、彼らがあなたがたに最大の秘密を明らかにし、魂たちの心に道を開き、最も短く、最も確実な道を通じて私のもとへと導くためである。これこそが、あらゆる時代の預言者たち、族長たち、そして神の使徒たちである。

23. したがって、ある者たちは魂に光をもたらすという使命を、またある者たちは科学を広めるという使命を帯びてきたにもかかわらず、いつの時代も、一方の者たちは他方の者たちに対して反

発してきた。彼らは、それらが対立する使命ではなく、互いに補完し合うものであることを考慮していなかったのだ。わが光はすべての人々に注がれている。それは、あなたがたが自らの使命を理解し、自分に与えられた役割を敬意を持って果たすためである。

24. もしあなたがたが、私が科学者たちの業を非難し、科学に責任を問うと語ったと聞いたことがあるならば、その理由は、ある者たちが、私が彼らに与えたその命の源、すなわち啓示を、人類の福祉と進歩のために用いるのではなく、悪と破壊の奉仕に充ててしまったからである。しかし、自らの使命を果たし、謙虚さと高潔さ、そして敬意をもって、わが意志によって彼らに啓示されるべきものを発見するために研究に励んだ者たちすべてに、私はわが光を注ぎ、彼らは皆、わが心にかなう者であった。そして、彼らがどれほど多くの善行を成し遂げたか、よく見てみよ。

25. あなた方の地上の生活は発展を遂げ、もはやかつての時代とは同じではありません。そして、あなた方の歩みが発展の道へと導かれるにつれて、その使命を果たしたすべての人に与えられる科学の成果に出会ってきたのです。私の使命を歪め、自然の秘密を解き明かすために私の宝庫に侵入し、自然の力をただ破壊と死をもたらす行為にのみ用いた者たち——私は彼らを非難し、呼びかける。なぜなら、私はすべての人々と自然の力を秩序へと導き、正しい軌道に乗せるために来たのであり、すべてのものは回復され、その本来あるべき場所に戻されなければならないからである。

26. やがて、人類が神聖なる光、すなわち私が許した知恵を認識し、ついには、私がすべての存在の源であること——私の中に種と実があり、あなたがたが魂と私の神性にふさわしい人生を送るよう、これらすべてをあなたがたに分け与えてきたことを——認識する時が来るだろう。

27. 私が今、あなたがたに告げているこの霊性化の時代において、人々は自らの知性を魂の奉仕に捧げ、科学でさえもその光の前に頭を垂れることになるだろう。その日はいつ来るのか。あなたがたは現在、人類がこの目標に到達できるよう道を整えている。なぜなら、私があなたがたに命じたこの業は、全世界を包み込む使命を持っているからである。

28. 人々は、この世での義務や任務を怠ることなく、自らの科学、力、才能、そして心を、私の神聖な大義に捧げるようになる。彼らは、自らの精神と肉体にとって有益な健全な喜びに目を向けるだろう。彼らは自らの再生と自由を求めて奮闘し、悪影響に染まることもなく、必要のないものは何も手に入れないだろう。そう

して初めて、墮落や恥知らずな行いは、この地上から 消え去るだろう。そうして初めて、精神は肉体という殻に対する絶対的な支配を確立し、たとえ依然として物質の中に宿っていても、愛と兄弟愛と平和に満ちた霊的な生活を送ることになるだろう。

29. それが、戦争が消え去り、相互の尊重と助け合いが存在し、あなたがたがもはや隣人の命も、自らの命も自由に処分してはならないと悟る時代となる。その時、あなたがたは、自分自身の命も、子供や配偶者の命も、この地球さえも、あなたがたの所有物ではなく、私が全被造物の所有者であることを知るようになる。しかし、あなたがたは私の深く愛する子供たちであるゆえに、私の所有するすべてのものの所有者でもあるのです。とはいえ、私はすべての被造物の主であり所有者ではありますが、自分の被造物を殺したり、誰かを傷つけたり、苦痛を与えたりすることはできません。それなのに、なぜ、命の所有者ではない者たちが、自分たちに属さないものを奪い取り、それを自由に処分しようとするのでしょうか。

30. この教えが人々に理解されるようになれば、彼らは霊的な発展において一歩前進することになり、この世界は進化した霊たちの住処となるだろう。その時期が過ぎた後、あなたがたがこの惑星に再び住むことになるかどうかは、誰にも分からない。私は、かつては涙と破壊と死の谷であったこの地上の領域を目の当たりにし、その恵みの時代を生きる者たちを選定する。これほど多くの苦しみの証人であった海や山、野原は、その時には平和の場へと変容し、来世の世界を映し出すものとなるだろう。私は、戦いが終われば、私の王国はすでにあなた方の身近にあり、そのときあなた方の精神は美德の中で花開くと告げてきた。私の教えはすべての精神の中に宿り、私は男女を通じて自らを現すであろう。

31. 霊的な賜物が開花するだろう。（内なる）言葉の賜物、癒しの賜物、そして霊と霊との対話という賜物は、その時代の人々の間で驚くべきものとなるだろう。

32. 科学はその歩みを止めることはないだろう。しかし、科学者は私の教えに深く入り込み、それを研究し、私の啓示に驚嘆するだろう。そして、それらに触発されて、彼は、人類だけでなく、転生した者や転生していない者の魂をも前進させるような、慈善的な業を成し遂げるだろう。

33. 過去や現在において、わが霊が、わが子らの行い——それが霊的なものであれ物質的なものであれ——を に眺め、感性や知性から生まれた美しい行いに喜びを感じていたとすれば、魂が高

揚しているのはごく少数の人々だけではなく、人類全体が愛を実践するようになったとき、わが喜びはどれほど大きなものになるだろうか。そうすれば、戦争の結果として家庭に涙や悲しみ、孤児が生まれることはなくなり、この惑星のために定められたその時代の人々の生活には、信仰と健康、力、そして調和のみが残り続けるでしょう。

34. あなたがたは、この第三の時代の福音を最初に受け取った世代であり、あなたがたは、あなたがたの後を継ぐすべての人々のために道を切り開く者でなければならない。深淵を埋め、道の障害を取り除き、善意と勇気、そして正しい原則を遺産として残すようにしなさい。

35. あなたがたが、わたしの業をその頂点へと導くわけではない。あなたがたの中には、イスラエルの民を統一しなければならない者は一人もいない。あなたがたは、この世に生きている間に、私の教えが全世界で実現されるのを目撃することはないだろう。この業は私が成し遂げる。なぜなら、もしあなたがたの中から、わが民の反抗的な首を屈服させ、その霊化を成し遂げようとする者が現れたとしても、その人は高慢になるか、あるいは降りかかる試練に耐えられないだろうからである。

36. しかし、愛し、赦す力ある私こそが、あなた方を一つに結びつける。私は、あなた方を磨き上げ、同じ霊的理想の下で一つに結ぶために、次々と試練を送り続ける。

37. わたしは、わたしの民がわたしのために新たな十字架や、血の架台、あるいは裁きの座を用意することを望まない。私はあなたがたの心の聖所に住み、私の民の魂の中に私の玉座を据え、あらゆる瞬間に私自身を彼らに伝え、そしてあなたがた全員が、使命を果たすことによって功績を積み、戦いによって強くなり、美德によって清められ、栄光のうちに私のもとへやって来て、その高き報いを受け取る時を。

私の平安があなたがたと共にありますように

教え 232

1. 選ばれた民よ。汝は人間の知性を通じてわが言葉を聞き、常に人類を先導する準備が整えられてきた。すべてはわが恵みによって汝らに与えられている。わが汝らを愛し、汝らと人類のための戒めと律法が記されたこの書の第三部を託すために、わが汝らの元へ降りてきたのである。

2. 世界は激しい嵐に翻弄され、方向を見失っている。世界は、安全な道を探し求めるために歩み出そうとはしなかった。人間は、肉体を維持するために必要なものを求めることに満足し、私が極めて崇高な使命を託した、その存在の核心にある魂を忘れてしまった。私はあなたがたの中に現れ、混沌の只中で生きているあなたがたに出会った。そして、私の言葉はこう告げた。「立ち止まりなさい。律法の履行へと立ち返りなさい。自分の十字架を背負い、私に従いなさい。そうすれば、あなたがたの間には平安が訪れるであろう。」

3. この期間、私はあなたがたの知性の中に私の光を奔流のように注ぎ込むことで、あなたがたを準備してきた。あなたがたは最初の歩みから揺るぎない姿勢を保ち、この信仰、すなわち私の業への愛が、あなたがたを奮い立たせ、私の名において隣人たちに語りかけるようにしている。多くの者があなたがたの言葉を聞き、愛を渴望して私のもとに来るだろう。また、苦しみからの救済を願ってやって来る者もいれば、単なる好奇心に駆られて駆けつける者もいるだろう。しかし、私はあなたがたに約束する。すべての者が何かを得ることになる。私はすべての人に証拠を与える。なぜなら、私はその子が祈りを聞き届けたというしるしを与えることを喜ぶからである。

4. 私が去った後も、あなたがたは人々の心を整え続け、無知や誤った信仰観、狂信から彼らを遠ざけていくことになる。しかし、どうすればあなたがたは人々の教師となることができるのか。どうすれば謙虚さ、正義、そして高潔さを手に入れることができるのか。それは、祈り、そして私の律法を全うすることによってである。義人であるかのような見せかけを作ってはならない。なぜなら、あなたがたはまだ義人ではないからだ。日々、自己を完成させるために奮闘する、私の弟子として振る舞いなさい。あなたがたが、完全な無私の心をもって任務を全うしているのを見れば、私は、私の最後の啓示の知識を受け取るために、私がそのために定めた多くの人々をあなたがたの元へ導くであろう。

5. 私は、人々が作り出した宗派の中から——それらは生命の木の切り離された枝であり、霊性を渴望する者たち——すなわち、不完全な形ではあるが私を求め、かつ私を愛する者たち——私の名を敬虔に口にし、愛と謙遜と感謝の行いを私に捧げる者たちを選び出す。私は、人々の心を求めて「良き漁師」としてやって来る。今日、私に従う者の数は少ないが、明日にはその数は何倍にも増えるだろう。すでに、私があなたがたに愛の遺産を残すために来たことを、証拠が世界に納得させる時が近づいている。そして、あなたがたは、これらの啓示の証人として、それを正しく語り伝えることになるだろう。

6. 隣人に対して、いかなる差別もしてはならない。霊的な理想において、あらゆる人種や階級が一つに結ばれることになる。

7. 隣人の苦難を私の心に委ねなさい。彼らが罪人であるほど、より多くの愛と慈悲を必要としているのだ。今や、私の教えが広まり、「働き手」たちが各地へと赴く時が近づいている。彼らは私の御心に従い、私の言葉が、私が神聖な種を受け入れる準備が整った肥沃な土地として整えた、開かれた心に注がれる場所に定住するでしょう。そこが、あなたがたの活動拠点です。私があなたがたを強く、準備が整ったと認めた時点で、私があなたがたの世話に委ねる人々に対して、あなたがたに責任を負わせます。

8. 福音は、あらゆる教義や宗派の人々に届くであろう。すべての人が、第三の時代における私の到来を聖霊として体験するだろう。これらの啓示が完全に知られる時が来れば、そのためにあなたがたは迫害を受けることになるだろう。しかし、心配するな。私の光は覆い隠されることはない。まさにその時、この時代の私の言葉は最大の輝きを放つことになるのだ。

9. わたしは、あなた方を畑で勤勉に働く労働者として備えさせている。「御言葉」は、あなた方の口から豊かに語られるだろう。しばしば、あなた方は自分たちにとっても未知の教えについて語るだろう。それは、わたしの霊から、受け入れる準備の整ったあなた方の心へと届く、新たな靈感である。あなたがたの行いは、常に言葉と一致していなければならない。人々があなたがたを信じるように、すべての行動は誠実でなければならない。私はあなたがたの行いを注視し、裁く。

10. 初期のイスラエルの民の清らかな道徳を思い出し、それに立ち返りなさい。彼らの健康と力は、私の律法に対する従順と畏敬の念から生じていた。この民の中から、模範となる人々、族長たち、そして預言者たちが現れた。そこには、あなたがたの家系の

源であるアブラハム、イサク、ヤコブがいる。彼らは精神的にも肉体的にも 試練にさらされたが、その力は彼らを離れなかった。イスラエルの民に命を与えるべき者たちは、すべての子孫に対して、強さと愛の模範を示さなければならなかったのだ。ここにいるあなたがたは、大きな試練の時が来た時に、自らの力と働きの能力を悟ることになるだろう。

11. 私は今、私が去った後も民を鼓舞し続けるべき魂たちを準備している。彼らは私の業の根本的な教えを見守るだろう。あなたがたは彼らに耳を傾け、敬意を払わなければならない。

12. 今のこの時代に、あなたがたの使命を果たしなさい。そうすれば、後の世代があなたがたの業を引き継ぐだろう。わたしは常に、高い高みにある存在たちを地上に送り、彼らが律法と、わたしの教えの本質を見守らせるのだ。

13. あなたがたの試練を受け入れなさい。わたしに願い求め、それが自分のためになると信じているものを得られなかった者に対して、わたしはこう言う。「わたしはあなたがたの運命を知っている。しかし、あなたがたがわたしに願うものは、あなたがたの幸福をもたらすものではなく、ただ苦しみをもたらすだけである。」贖罪のことを思い起こしなさい。地上では、完全な平安を味わうことはないだろう。今日、義務を果たすことだけが、あなた方に心の平安をもたらす。しかし明日、あなたがたが霊的な生活を送るようになったとき、こう私に言うだろう。「父よ、あなたは私の魂にとって最善の方法で、私を導いてくださった。もしあなたが、私が求めたものを与えていたら、私は道を踏み外していたか、あるいはあなたのもとへ至るのを遅らせていたでしょう。」

14. 私はこの時代、あなたがたに私の御言葉の光を与えた。それは、あなたがたが世界の平和のために尽力し、また、あなたがたの魂が完全性への道においてさらなる一步を踏み出すためである。私は、あなたがたの魂が持つ賜物を理解できるようにした。それは、魂が立ち上がるあらゆる障害や逆境を乗り越えるためである。私は、あなたがたが経験しているこの苦難の時は、贖罪の時であり、あなたがたはそれを、服従と信仰をもって、まるで杯を空にするかのように飲み干さなければならないことを、あなたがたに理解させた。

15. こうして、私は無限の世界からやって来て、あなた方を圧迫している鎖から解放した。

16. この第三の時代において、私は、人類が私の祝福を得られるよう、過去に「人類に私の真理を伝える」という使命を受けた者たちすべてを一つにまとめた。

17. そのために、私はあなたがたに新たな啓示を与えた。

18. 私の教えを自らのものとし、それを実践できるようにしなさい。しかし、の旅人にとって木のような存在であるこれらの集いの場を離れ、その木陰でヒバリのさえずりを聞いていたとしても、瞑想するための静寂を求める代わりに、有害な快樂へと向かってはならない。そうすれば、師から授かった霊的な本質が、あなたの心から逃げてしまうからだ。

19. 情欲は、まるで竜巻のように、私があなた方に授けるその恵みを魂から奪い去る。そして、もしあなたがたが情欲を捨て去らなければ、弱さや病があなた方の存在を支配することを許してしまうことになる。

20. 人類の周りに平和の雰囲気醸し出すために、あなたがたの魂の祈りを無限なるものに向けなさい。もし、あなたがたが、私の正義の重荷の下に立っている同胞たちを見たら、功德を積みなさい。そうすれば、彼らの苦しみは和らげられるだろう。自然の力の声を耳にしたら、世界のために祈りなさい。自分たちだけの避難場所を求めるな。苦難の時に、あなたがたが隣人のことを思いやり、自分自身を忘れて行動するならば、私はあなたがたを守ってあげよう。あなたがたもまた、祈りと慈悲をもって人々を守りなさい。

21. 祈りの力を信じなさい。しかし、祈りがわたしに届くためには、何よりもまず、その祈りを心から感じなければならないことを知っておかなければならない。

22. もしあなたがたがすでに強固で真の信仰を持っていたなら、奇跡を起こすことだろう。急いでほしい。やがて、この業の教えを世の道へと広めるために旅立たなければならない時が来るからだ。その時には、人間の裁きを恐れてはならないし、中傷を気にすることもあってはならない。

23. あなた方はこの道を歩み進んできた。振り返って、自らの過去を見つめよ。物質主義、傲慢、卑しい情欲、偶像崇拝、無知、そして罪は、すでに過去のものとなった。

24. しかし、さらに大きな精神的な進歩を遂げるために、この道を歩み続けなさい。そうすれば、あなた方は心の中で「約束の地」の平安を体験することになるだろう。

25. 今日こそ、選ばれた民の霊が靈感を受け、その知性が啓発される日である。それは、『大いなる生命の書』に秘められていた教えを理解するためであり、私がかつて語った言葉に従って、それを彼らの眼前に示さねばならなかったからである。

26. そして、あなたがたはわたしのもとへ来るためにこの世を離れ、自らを清め、準備が整うと、わたしの普遍の光線を受け取るために祈った。その光線はあなたがたの魂を包み込み、その影響のもとで、あなたがたの賜物が目覚め、あなたがたの本質の最も繊細な琴線に響き渡った。

あなたがたは、心の奥底から、今日まで知らなかった多くの感情が湧き上がるのを見ました。それらは、この人生を別の視点から見つめ直すきっかけとなりました。そして、愛と慈悲を実践できるようになったとき、あなたがたは偉大な業を成し遂げ、多くの同胞を理解するのに十分な強さを感じたのです。皆さんは、苦しむ人々への思いやりをさらに深め、遠く離れた人々へ、思いを通じて光のメッセージを送りたいと願っています。これらすべてを行うことができるのです。なぜなら、私は皆さんの魂の前に、皆さんが活動できる広大な場を開いたからです。

27. あなたがたの霊的な賜物には限界がなく、たとえあなたがたが自分の富をすべて分け与えたと思っただとしても、それらは尽きることはない。他者に与えるほど、あなたがたの遺産は増え続ける。あなたがたの使命は、いつの時代も、平和のために働き、世界のために立ち上がることにある。

28. 私は、あなたがたが自分自身を信頼し、自分が何ができるかを自覚できるよう、試練を与えたのである。あなたがたが迷ったり、信仰を欠いたり、あるいは自らの魂の強さを疑ったりした数多くの場面において、私はあなたがたに必要な証拠を送り、それを通じてあなたがたは答えを得たのです。私はあなたがたを次々と試練の道へと導いてきました。しかしその前に、私はあなたがたを準備させておきました。なぜなら、私は決して誰かを不意打ちにするようなことは望んでいなかったからです。

29. わたしはあなたがたの歩みを導き、あなたがたが学び、わたしの教えに深く没頭できるような平和の雰囲気あなたがたに与えます。しかし、あなたがたが準備が整ったならば、この時代に現れる民の先頭に立って進んでいくべきです。今日、あなたがたの行いはまだ輝いてはいない。しかし、わが民は徳において強くなり、物質主義と戦い、人類がわたしへと導く確かな道を見出せるよう助けなければならない。

30. あなたがたは、わたしとの結びつきの中で高みへと昇りつめたとき、すでにわたしの御霊の平安を味わった。しかし、永続的な平安はまだあなたがたの中にない。あなたがたは道の始まりに立っており、あなたがたの功績こそが、わたしに近づくという言い表せない喜びをあなたがたに与えてくれるのだ。わたしはあなたがたの結ぶ実を何倍にも増やし、道を短縮して、あなたがたがやがてわたしのもとへたどり着けるようにする。

31. あなたがたは、この神聖なメッセージを最初に受け取った者たちの一人であり、私はあなたがたがそれを他の人々に伝える術を身につけてほしいと願っている。今日、疑いと不信に満ちているこの人類は、やがて を信じるようになるだろう。 私はこの期間、彼らに十分な証拠を与えてきた。そして、それらすべてが彼らに私について語りかけている。彼らはまだしばらくの間、耳を塞いだままであるだろう。その後、彼らは私が彼らに向けて発する呼び声を聞き、私の教えに惹かれ、この人生の後に魂を待ち受けるものを知りたがり、その答えを、私がすべての人に残す書物『命の書』の中に見出すことになる。 この光は神からの遺産であるため、やがてすべての人がそれを手にすることになる。それはあなた方に属する遺産であり、誰からも拒まれることはない。私はすべての人を教え導く——私の指示を正しく守り、解釈できる者も、私に背く者も、等しく。

32. あなたがたが自らの行いを省み、達成した成果の乏しさを見て涙を流したとき、あなたがたの魂は、私があなたがたのために定めた目標からまだどれほど遠く離れているかを自覚して悲しみに沈み、あなたがたに与えられたあの預言を思い出すだろう。そこにはこう告げられていた。「もし『イスラエル』が団結のために尽力しなければ、新たな戦争を経験することになる。そして再び、女は涙を流し、男は血を流すことになる。家々には悲しみ、苦難、飢餓が満ち、魂は苦しむことになる。」

33. それゆえ、わたしはあなたがたに告げる。互いを軽んじてはならず、不和をもたらす行いをしてはならない。わたしの教えは、すべての魂を一つに結びつけ、互いに近づけることを目的としている。そうしてあなたがたが一つとなり、皆がわたしを父として認めることができるようにするためである。

34. さあ、悩みという重荷を背後に置き、疑いや恐れを抱くことなく私のところに来なさい。完全な信頼を持ち、私の御心があなたがたの中で成し遂げられるようにしなさい。私はあなたがたの

心の内側で何が起きているかを知っており、あなたがたに必要な力を与えてあげる。

35. 私は、すべての被造物の源であり、終着点である。私の御心によって、あなたがたはこの世に生まれ、また私の御心によって、この世を去っていくのである。

36. あなたがたはまだ弱い存在であるゆえに、私は慈愛に満ちた父として、あなたがたに私の赦しを授けるためにやって来る。

37. この人生は、あなたがたの魂が功德を積むための機会として、あなたがたに託されたものである。それゆえ、あなたがたのあらゆる思いや人間としての行いは、わたしの愛と正義の律法の範囲内にあるべきである。しかし、人々はわたしの律法が示す道から逸れてしまったため、彼らにそれを思い出させるために、再び彼らのもとへ戻る必要が生じた。この意図をもって、わたしは今この時に、あなたがたと連絡を取ったのである。あなたがたがに訪れ、私の言葉を聞く理由は、私の教えに深く入り込み、霊的な生活に向けて備えるためである。好奇心や義務感から、あるいはそれによって自分の使命を果たせると信じているからという理由で来るのではない。新しい教えのひとつきごとに、さらなる啓示や教えを見出したいという渴望を持って来なさい。私の臨在を活かせば、あなた方は自らの使命を果たすための準備をより万全に整えることができるでしょう。

38. あなたがたが肉体的には健康であったにせよ、満足や安楽を享受していたにせよ、あるいは病気や不幸、貧困に耐えてきたにせよ——これらすべては、人間の命が終わり、魂の命が始まるこの地上に残されるものである。あなたがたは魂の高揚に努め、苦しみ、肉体を制さなければならなかった。それゆえ、私はあなたがたに言う。よく耳を傾け、さらに深く解釈し、自らを深く探求して、真理を見出せ。

39. しかし、あなたがたが「新しい教えに従っている」と主張する人々に出会ったならば、あなたがたは、単に外的な礼拝に属する教会の儀式を捨て、宗教的狂信から背を向けただけであると彼らに告げなさい。

40. わたしの業は全世界で認められるであろう。なぜなら、かつてわたしが自分の到来を告げるために預言者たちを遣わしたのと同様に、この時代にも、わたしの教えを広め、善意を持つすべての人々のために近づきつつある御国を告げ知らせるために、新しい預言者たちを遣わすからである。

41. あらゆる啓示は、人類の霊的な受容力と、彼らが生きてきた時代に即してなされてきた。今日、私はこのようにして来たが、明日には、より高次の方法であなたがたに語りかけるであろう。

この啓示はまもなく終わりを迎え、1950年の終わりに終了する。その時、私の弟子たちは教師として旅立つことになるが、彼らは孤独を感じることはないだろう。なぜなら、彼らの精神の光の中に、すなわち、あなた方一人ひとりの内に存在する私の神性の一部の中に、私がいて、語り、赦し、愛し、教えるからである。

42. この良心が許す限り、あなたがたの魂は自由であるべきだ。なぜなら、私の教えを伝えるために、集会場さえ必要としないからである。あなたがたは機会があればどこでも語り、あなたがたの人生こそが、行いの誠実さをもって私に崇敬を捧げる聖域となるのだ。

43. 現時点では、人類に平和をもたらすことは不可能に思えるかもしれないが、私はあなたがたに告げる。平和は訪れるだろう。それどころか、人間は霊性の中で生きようになるのだ。

44. この時代が到来するまでに、世界は多くの災難に見舞われるだろう。しかし、それらの苦難は、物質的にも精神的にも、人類の利益となるものである。それは、人々の悪行や利己主義、快樂追求の奔放な奔流に対して、「ここままで、これ以上は許されない」という一線となるだろう。こうして均衡がもたらされる。なぜなら、悪の力はもはや善の力を打ち負かすことができなくなるからだ。この浄化は、常に最も繊細で愛すべきものを直撃するため、罰のように見えるが、実際には罰ではない。しかし実際には、それは道から逸れたり、道を見失ったりした魂たちを救うための手段なのである。地上の視点で物事を判断する者は、苦痛の中に何の益も見出すことはできない。しかし、自分が永遠に生きる霊を持っていることを心に留める者は、その同じ苦痛から光と不屈の精神、そして再生を得るのだ。

45. もしあなたがたが霊的に考えるならば——愛そのものである神から来る痛みが、どうして人類にとっての悪であるなどと思えるだろうか。

46. 時は流れ、やがてあの大きな試練が現れ始める時が来るだろう。そして、世界から平和の最後の残滓さえも消え去り、人類が私の律法の道を見出し、絶えず「神は生きておられる！神はあなた方の内におられる！神を認識し、神を感じ、神と和解せよ！」と語りかける内なる声に耳を傾けるようになるまで、その平和は戻らないだろう。

47. そうすれば、あなた方の生き方は変わるだろう。利己心は消え去り、誰もが互いに役立つようになる。人々は、私の正義に感化され、新しい法律を制定し、愛をもって諸民族を統治するようになる。

48. 人類が私の教えと警告を活かすことができるよう、速やかに私のメッセージを人類に伝えなさい。人々は、この言葉がまさに預言であり、すべてを予見していたことを悟るだろう。

49. あの荒れ狂う海の波が静まり、風が収まり、諸民族を苦しめる疫病がなくなり、災いが根絶されたとき、人類にとっての平和が始まるだろう。

50. あなたがたは、最大の試練を経験し、最も苦い杯を飲み干さなければならぬ世界のために祈り、懇願すべきである。

51. 今日、信仰を持っていると自負している者たちのうち、どれほど多くの者が、あの不吉な出来事を目の当たりにして震え上がるだろう！ 勇敢だと自負しているあなた方のうち、どれほど多くの者が、自らの臆病さを隠そうとするだろう！ 私は、その時が来たときにあなたがたが自らの行動を自覚し、私が託した使命を果たせるよう、あなた方を準備させているのだ。

52. この時代において、あらゆる神秘はあなたがたに解き明かされてきた。私の神性の啓示における三位一体の神秘でさえもそうだ。それを、私は簡潔に繰り返そう。

53. 父なる神には形がなく、境界もなく、始まりも終わりもない——これは、あなたがたには理解できない教えである。それゆえ、こう言いなさい。「神はすべての光の創造主であり、宇宙を支える力であり、あらゆる存在の中に脈打つ命である」と。

54. そして、御子は？ 御子は「御言葉」であり、完全な人間、すなわちイエスの中に限定された神の力である。それは、御父の愛が御子の中に宿るためである。

55. 神の御霊がイエスの中にあつたため、イエスは人間であり、かつ神でもあつた——物質的な性質においては人間であり、霊的な性質においては神であつた。人間として、イエスには人間に固有の特徴があつた。すなわち、人間として感じ、苦しみもした。しかし、自らの使命と霊的な強さに対する自覚があつたため、イエスは肉体の欲求や誘惑を乗り越えることができた。ご自身の使命にそぐわないものはすべて、イエスによって拒絶された。こうして、その義に満ちた清らかな人を通して、神は人間として御自身を現すことができたのである。

56. イエスはその使命を終えると、神聖な御霊のもとへ帰られたが、その際、人間としての生涯の痕跡——すなわち、人間として自ら身をさらした試練の痕跡——をその内に宿していた。このため、御子は父の愛そのものであるゆえに、あなたがた一人ひとりの一部を宿しており、あなたがたは、御子がこの世に生き、あなたがたが歩むのと同じ塵の上を歩まれたことを知っているからこそ、理解されているとを感じるのです。

57. しかし、父と師は、まさに同一の神である。

58. そして聖霊——私が言っておこう——は、まさにこの存在が、その精神の中に創造主ご自身の性質の火花を宿すすべての人々に現れる、最も高次の形態である。

59. 聖霊、父、そして子は、すべて同一の力であり、唯一の意志である。三つの人格ではなく、理解されるために様々な形でその子らに自らを現さなければならなかった、唯一の神聖な存在である。

60. あなたがたの神の中にどれほどの愛があるかを悟りなさい。神は——全能であるにもかかわらず——あなたがたが神を感じ、見ることができるように、自らを制限することを躊躇されない。神は、ご自身が単にあなたがたの創造主であり裁き主であるだけでなく、同時にあなたがたの父であり、友であり、兄弟であり、師でもあることを示すために、自らを多様に現されるのである。

61. あなたがたは言う。「どうしてこれらすべてが可能なのか？」——あなたがたはまだ小さな被造物であり、私はあなたがたの理解力に合わせて、私の説明を制限しているのだ。

62. 私はあなた方を赦し、祝福を与える。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 233

1. わが霊の光が、あなたがたと共にありますように。
2. 自分自身と闘いながらここへやって来た弟子たちよ、霊的な永遠を志し、自らの行いに満足していない者たちよ——準備を整えなさい。なぜなら、あなたがたの魂が切望するものをまだ得ておらず、また、努力の成果もまだ見ていないというのは確かに事実であるが、それでもなお、あなたがたは高みへと昇り、進歩を遂げていると、私は告げる。これは、あなたがたを待ち受けるあの来世において、あなたがたが自らの霊的進歩を完全に認識するようになる時、確かに確認されることでしょう。そこでは、師の愛が真にあなた方の存在の奥深くまで浸透し、苦しむ人々に対する慈悲の心があなた方の魂にしっかりと根付いていることを感じるでしょう。これこそが、あなた方がこれまで経験してきた数々の転生を経て、あなた方が刈り取った収穫となるのです。
3. 「霊的な谷」には、善と人類の進歩に奉仕することを美德とする光の霊たちが住むことになるでしょう。
4. この世で真に備え、真の慈悲と愛をもって自らの使命を果たす者たちは、その業の完成を目の当たりにして、勝利の歓声を聞くことを望んではない。なぜなら、それを切望する者は、まだ物質的なものが多く、精神的なものが少ないからである。
5. 私が、あなたがたに、自分の肉体に、その運命において与えられたべき意味と位置づけを与えるべきだと言ったとき、それは、あなたがたが、その肉体を導き、それがあなたがたの完成のための道具となるようにすることを意味していた。なぜなら、私のもとへ到達しなければならないのは、あなたがたの魂だからである。
6. 私の教えがいかにあらゆる点で単純であるか、よく見てほしい。それゆえ、決してそれを複雑にしようと試みてはならないと、私はあなたがたに告げる。私が、その教えにふさわしく生きる方法を、いかに容易にしているか、よく見てください。しかし、あなたがたが私の教えを霊的に理解しているのを見るにつれて、私は、それによってあなたがたが負うことになる責任を実感させていきます。私の教えについて無知であればあるほど、その人の責任は軽くなります。
7. なぜ、かつて私と共にいた者たちの中に、私から離れていった者たちがいるのか。なぜ彼らは、自らの魂を傷つける快樂と引き換えに、私を見捨てるのか。そして、私が彼らの行く手に立ちはだかり、彼らと呼ばかけると、彼らはついにその恩知らずさゆえに

、私を見たことも感じたこともないと私に告げるのだ。 一步一步彼らと共に歩む方——試練の時や人生の浮き沈みの中で、彼らを支えてきた方——その瞬間に、苦しむ心に私の愛撫と神聖な平安という天上の調和をもたらし、こう語りかけてくださった方を、どうして彼らはこれほど早く忘れてしまったのでしょうか。「わたしのもとに来なさい、わたしのもとで休みなさい、わたしに従いなさい。わたしこそ、あなたが求めている天そのものである。」その瞬間、その心は、人はその道のりを独りではないと悟り、感情の高まりに包まれ、師への感謝の祈りが自然と口をついて出た。私の愛のこの証しを、誰かが忘れることなどあり得るだろうか？ それを受け取った後、私を感じたことを否定することなど、誰かにできるだろうか？

8. 私の言葉に耳を傾けるあなたがたは、私にこう尋ねる。「師よ、何が善で何が悪なのか、どうすれば分かるのでしょうか？」それに対し、私はこう答える。私は神聖な正義そのものであり、正義として、私の神聖な霊の光である良心を通じて、あなたがた一人ひとりの内に現れているのだ。これこそが、人間の中にある神の「声」である。そして、人間にはその「声」の「呼びかけ」や判断を理解する能力が備わっている以上、愛と正義の法則である善の道を知らないことを言い訳にする者は、誰一人としていない。人間が自らの導き手であり裁き手であるその声を聞き取ることができるようにする能力、あるいは資質とは、一体何でしょうか。それは、直感、理性、そして感情です。

9. 悪を行う者は、その声を聞く耳がないからそうするのではなく、自らの裁きを聞かぬよう、その耳を塞いでいるからである。それは、善き道を見分ける目がないからではなく、自らの意のままに作り出した道を歩むために、意図的に自らを盲目にしているからである。

10. あなたがたに言おう。あなたがたの良心を通して語りかけ、常に確実に善の道へと導いてくれている、神の慈愛に満ちた調和のとれた声を、なぜ黙らせてしまうのか。

11. しばしば、「肉」は、まるで厚いベールのように、あなたがたに真理の光を見えなくさせてしまう。それゆえ、私はあなたがたに告げる。あなたがたがすでに肉体から解放されたとき、その声をありのままの明瞭さで聞き取ることができるだろう。その瞬間は、地上で使命を果たすためにこの世にやって来た魂にとっては至高の至福の瞬間となり得るし、あるいは、自らの過ちを悟り、汚れを目の当たりにして、道を新たに歩み始める機会として新たな肉

体を望むようになるならば、無限の苦痛の瞬間ともなり得る。その時、愛を源とする父の正義は、魂がその使命を果たすために新たな人間の体を授かるという形で、力として現れるのである。

12. あなたがたは皆、わたしの子供としてわたしに属しているのだから、世の終わりにわたしのもとへたどり着けるよう、わたしはあなたがた一人ひとりに、このような機会を幾度となく与えてきた。しかし、わたしはあなたがたがただ慈悲と愛ゆえにわたしのもとへ来ることを望むのではなく、あなたがたの功績によってもそれが実現し、わたしの業のすべての栄光を所有し、それを見るにふさわしい者となることを望んでいる。

13. まことに、あなたがたに告げる。天においては、悔い改めた罪人が一人来る時、百人の義人が天に入る時よりも大きな喜びがある。闇に堕ちた魂がその偉大さを取り戻すこと、それこそが善が悪に打ち勝つ勝利である。

14. わたしがこのようにあなたがたに語る理由は、あなたがたの霊的成長の道を妨げている、あらゆる熱狂的な信仰観念を取り除くためである。なぜなら、わたしの教えは、その解釈者たちによって、あなたがたに明確に示されてこなかったからである。

15. 人々よ、苦痛に対して強くあれ。一度理解に至れば、あなたがたは、私があなたがたを試みたことに感謝するようになるだろう。

16. わたしに近づき、わたしの言葉に耳を傾けなさい。わたしの言葉によって、わたしはあなたがたを霊的に養うからである。

17. この時代の私の教えは、あなたがたを光を渴望する人々の群れへと変えるという奇跡を成し遂げた。

18. あなたがたは心の静寂の中で師の声を聞き、師のもとで、疲れと痛みという収穫を携えてきた長い道のりから休息を得たのである。

19. 世界が渴望しているのは、愛、平和、そして真理である。

20. 不和が支配する場所に調和を、誤りが存在する場所に光を、罪が宿る場所に道徳を、そして痛みがある場所に癒やしをもたらさなさい。

21. そうすれば、あなたがたは澄み切った鏡となるだろう——あなたがたの精神そのものである鏡であり、そこには私の神聖な教えが映し出され、人類はその不完全さをそこに映し見るのだ。

22. 人類におけるあなた方の使命は偉大である。それゆえ、私はあなた方がつまづくことのないよう、また、それによって同胞

から非難されることのないよう、あなた方を教え導いてきたのである。

23. あなたがたの体を、決してあなたがたの霊とわたしの間に入り込むことのない、謙虚な僕としなさい。その体は、わたしにふさわしい奉仕を行うことを知り、あなたがたの霊がわたしにふさわしい崇敬を捧げられるようにするものである。

24. 正しく理解された霊化は、あなた方に力と健康をもたらすだろう。

25. 太古の昔から、律法と霊の教えの使徒たちは、科学者を敵としてきた。両者の間には激しい争いが勃発してきたが、今こそ、私がこれらの対立についてあなた方に語る時が来た。

26. 私は、この世界を、転生した魂たちの一時的な住まいとして創造した。しかし、彼らがこの世界に定住する前に、私は彼らに、霊、知性、そして意志の能力を授けた。私は、私の被造物たちの運命と発展をあらかじめ知っていた。私は、人間の存在の維持、養生、発展、そして活力を与えるために必要なあらゆる要素を、地球の内部、地表、そして大気の中に備え付けた。しかし、人間が生命の源である自然の神秘を発見できるよう、私はその知性が目覚めることを許した。

27. こうして、科学の端緒が人間に啓示された。あなたがたは皆、その能力を備えているが、人類の幸福と喜びのために、自然の力と要素の秘密を解き明かすことを使命とする、より優れた才能を持つ人々が常に存在してきたのである。

28. また、私は偉大な精神を持つ者たちを地上に遣わし、超自然的な生命——すなわち、この自然を超越し、科学の域を超えたもの——をあなた方に啓示させた。これらの啓示を通じて、普遍的で、強大で、創造的であり、全能かつ遍在する存在の存在が予感されるようになった。その存在は、人間のために死後の生命、すなわち魂の永遠の生命を用意しているのだ。

29. しかし、ある者たちは霊的な使命を、またある者たちは科学的な使命を帯びていたため、宗教と科学という両者は、いつの時代も互いに敵対し、争い合ってきたのである。

30. 今日、私はあなたがたに告げる。物質と精神は対立する力ではない。両者の間には調和が支配すべきである。私の霊的な啓示は光であり、科学の啓示や発見もまた光である。しかし、私が科学者たちの業績をしばしば非難しているとあなたがたが耳にしたとすれば、それは、彼らの多くが、かつて未知であった自然の要素や力を、破壊、敵意、憎しみ、復讐、この世の支配、そして度を越

した権力欲といった破滅的な目的のために悪用してきたからである。

31. 愛と善意をもってその使命を果たした者たち——すなわち、敬意と謙虚さをもって私の秘められた宝庫に踏み込んだ者たち——に対しては、私の娘である人類の幸福のために、大きな秘密を彼らに啓示することが、私にとって喜びであったと、あなた方に告げることができる。

32. 世界の始まり以来、科学は人類を物質的進歩の道へと導いてきた。その道において、人間は一步一步、科学の果実を見出してきた——その中には甘いものもあれば、苦いものもある。

33. 今こそ、あなたがたは、すべての光が私の霊に属し、生命であるすべてのものが私の神性から生じていることを理解しなければならない。なぜなら、私は全創造の秘宝庫であり、源であり、起源であるからだ。

34. 霊的なものと科学的なものとの間のそうした対立は、人々の生活から消え去り、やがて霊的なものと科学が、人間の道を無限の彼方まで照らす一つの光の中で融合するに至るだろう。

35. あなたがたは、その時代の準備を始めている。なぜなら、スピリチュアリズムには世界規模の使命が課せられているからだ。すべての人々に真の命を啓示するのは、まさにスピリチュアリズムである。

36. 科学や才能を人類そのもののために捧げ、熱狂や偶像崇拜なしに神に喜ばれる礼拝を捧げ、娯楽さえも癒やしとなり、その喜びが肉体と魂にとって健全であるような人類を想像してみてください——そうすれば、あなた方は、霊的に高次の新しい世界、道徳、そして科学性を手に入れることになるでしょう。人々は隣人の命を尊重し、自分の命を勝手に処分することはないだろう。なぜなら、そうした人々は、自分たちが自分の主人ではないこと、そしてすべての唯一の所有者が私であることを理解するからである。

37. あの恵みの時代にこの世に生きる者たちは、あらかじめ定められている。かつて涙の谷であり、破壊と死の場であったものが、平和の谷へと変容するだろう。

38. それは、霊的な賜物が開花し、花開くのには好ましい時代となるだろう。その時、科学は魂の上向きの発展を妨げることはなく、むしろ、私が人類の幸福のために大きな秘密を明らかにする場所へと、科学がさらに深く私の神秘に踏み込むことを可能にするだろう。

39. 私の霊は、いつものように、私の子供たちの善行を喜びとするだろう。それが霊的なものであれ、科学的なものであれ、あるいは美に対する感受性の賜物であれ。

40. ここにいるこの民が道を整えるだろう。しかし、あなたがたは、この世の肉体という目をもってその時代を見ることはない。

41. あなたがたから、救いをもたらす呼びかけは発せられない。この民を一つに結ぶための呼びかけさえもだ。あなたがたを一つにし、救うのは、わたしの言葉である。

42. 1950年に私の啓示が終わる時、私はあなたがたの聖所を訪れるつもりである。そこ、すなわちあなたがたの心の中に、私の民が私のために築くべき愛の玉座があるだろう。あなたがたは、私が十字架の上や、恥辱台の上、あるいは法廷に現れることを望んではいないはずだ。

43. 時がこれらの言葉を消し去ることのないようにしなさい。そうして、あなたがたはそれらから、あなたがたの父の『偉大な知恵の書』を編み上げることができるのだ。

44. 魂と語り合うように祈りなさい。なぜなら、あなたがたの肉体の声は天には届かないからです。

45. 肉体で来ることができなかったために霊として現れる者たちがいる一方で、魂は遠く離れて物質的な事柄に忙殺されているため、肉体という外殻だけを見せてくる者たちもいる。しかし、わたしを聞くためには準備が必要だと、わたしはあなたがたに告げてきた。だが、わたしは、わたしの光が、まるで霊的なマナのように、わたしの子供たちがいるあらゆる場所に降り注ぐことを望んでいる。

46. 私はその日のために祝宴を用意する。そうすれば、地上に生きる者たちも、あの世に生きる大勢の霊たちも、皆、その祝宴によって活力を得ることができるだろう。

47. わたしは『七つの封印の書』の光の中で、あなたがたを迎え入れる。この時代、エリヤはわたしの啓示を受け入れるために、人間の知性を整えておいた。それ以来、あなたがたは私の業の中に、ますます多くの新たな啓示を見出してきた。ある者たちは私の教えを正しく解釈したが、他の者たちはその意味を歪めた。そして、人々が共同体や集会所へと分かれていく時が来ると、それぞれが、先人たちから教えられた通りに活動した。

48. あなたがたが初めて私の言葉を聞いたとき、私の聴衆の数は少なかった。その中には、男性も女性も、大人も子供もいた。

その小さな集まりは次第に大きくなり、一つの民となった。そこで私は、彼らが靈的に言えば、隠され、世界中に散らばっていた「イスラエル」であることを彼らに啓示した。時が経ち、人々の群れは増え続けた。そこで私は彼らを集会に招集した。彼らの心が分断されており、彼らの間には一致も調和もなかったことを、私が見抜いたからである。

49. わたしの言葉は輝かしく現れ、わたしの心は、律法と約束が溢れ出る宝箱のように開かれた。民は私の御言葉の前に頭を垂れ、右手を挙げて父に従うことを誓い、団結することを誓った。その日の私の御言葉は、民の靈の中に書き記されたままとなったため、決して消えることのないものとなった。同様に、この民の誓約も、神の靈との新たな契約として受け止められたのである。

50. それ以来、あなたがたは、心の中にただ一つの光とただ一つの礼拝の形式があるようにと、団結を求めて奮闘してきた。しかし、すべての者がこの契約を尊重したわけではなく、すべての者が団結と靈化という理想を自らのものとしたわけでもなかった。それゆえ、この民の上に嵐や暴風が吹き荒れ、時に民を弱体化させてしまったのである。今日、私は、ある者たちがこの教えの純粋さ、誠実さ、そして簡素さを守るために闘っている一方で、他の者たちは靈性への欠如ゆえにその誠実さを理解できず、その結果、異質な儀式や様々な宗教の影響によってそれを汚してしまっているのを見ている。

51. わたしは、この時代の弟子たちに、モーセが教えたもの、イエスが人類に注ぎ込んだもの、そしてわたしの靈があなたがたに啓示するものの本質を内容とする教えをもたらす。しかし、私は、あなたがたの中に、自分の会衆の前で主や王として君臨するために、私の真理を隠してきた者たちがいるのを見てきた。もし可能であれば、彼らは頭に冠を戴き、肩にマントを羽織り、右手に笏を握るだろう。しかし実際には、彼らは兄弟姉妹を辱め、貢ぎ物や諂い、称賛を受けることを楽しんでいる。

52. 人々は日々、わたしの集いの場へとやって来る。新たな群衆や最後の弟子たちが、この民を増やしている。もし彼らが、わが子らがわが業の善さと純粋さを示そうと努めている会衆を訪れるならば、彼らは光に満たされ、わたしを賛美する。しかし、虚栄や情欲が巣くう場所に足を踏み入れると、彼らは混乱に陥り、その混乱したまま道を歩み続けるのだ。そもそも、群衆の先頭に立つあの「働き手」たちの混沌とした進撃を、彼らにどうして止められようか。これが単なるカルトや新しい宗教ではなく、人々の魂を完全

へと導くために、教えとなった聖霊の光、すなわち永遠の法であることを、どうして世界に証明できようか。

53. もしあなたがたが最初から、私の教えの本質とその目的を理解していたなら、この道にこれほど多くの迷える者たちは存在しなかっただろう。あなたがたは、自分たちの賜物がこの世の快樂のためにあると思い込み、私の言葉の光が人々の心に届いたとき、その光が消え去るのを許してしまった。伝道者たちは、集会の場の一つ一つで、喉が枯れるまで私の言葉を伝え続けた。それは、せめてその声の大きさが、あなたがたの頑なな心を揺さぶり、感動させることを願ってのことだったのだ。

54. あなたがたは、見解や考え方の相違ゆえに、各教会が互いに認め合わなかった様子を目の当たりにしてきたにもかかわらず、それに無関心であり続け、この不和を解消するために何一つ行動を起こさなかった。時折、あなたがたは気を取り直して、各教会に説明を求め、指示を与えようとする。しかし、あなたがた自身、何も知らないのに、彼らに何を指示できるというのか。

55. 私の教えをその純粋な姿のまま示すために苦しみ、闘ってきた者たちが、この言葉を耳にする今この瞬間、涙を流していることを、私は知っている。彼らは私に赦しと、その戦いの最前線に立ち続けるための力を求めている。そして私は、すべての人に赦しと力と光を与える。私は謙虚な者たちを祝福する。しかし、そうではない者たちにはこう言う。「謙虚になりなさい。私があなた方を、私のたとえ話に登場する『放蕩息子』に例えたことを忘れてはならない。彼は——父の家から遠く離れて相続財産を浪費し、手ぶらで、疲れ果て、身なりもみすぼらしくなったのを見て——父の腕に抱かれたいと願い、家に戻ってきたのだ。」父は彼を迎え入れ、再び彼をそばに迎えることができた喜びから祝宴を催した。そこで、その息子は父に対して謙虚になり、従順になり、愛情を注ぐようになった。なぜなら、自分の過ちに対する痛みが、彼の心に光をもたらしたからである。

しかし、私がこの時代に、あなたがたを「放蕩息子」のように迎え入れたと語ったあなたがたは——私があなたがたの到着を祝って宴を開き、私の食卓に招き、恵みの賜物を惜しみなく与えた後、あなたがたが虚栄心に満ち、私の家に乗っ取ろうとしていることが正しいことだと信じているのか？

56. わたしの言葉は、あなたがたの心を動かすことに成功した。ある者はその言葉から、自らの行いを高潔なものにしようという決意を、またある者は改心しようという決意を抱いた。そこで、

師はあなたがたにこう告げる。「清めの時が来た。それぞれの共同体へ戻り、わたしがあなたがた一人ひとりに授けた賜物を発揮しなさい。」もし、あなたがたが、私の神性によって定められた時が来る前に、私の言葉から切り離されるような事態を避けたいと願うならば、における数多くの不完全さや冒涇がなくなることを、私は望んでいる。

57. 私の言葉を深く探求し、熟考し、その後、過ちを改め、不完全さを正し、礼拝の形式を清めるという固い決意を持って出発しなさい。祈り、目を覚ましていなさい。まだ、悪い種を滅ぼし、良い種を蒔き、その実を収穫する時間は残されている。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 234

1. あなたがたは、私のもとにいたために、しばらくの間、この世を後にした。試練に次ぐ試練を経験し、その過程で魂に光を得た。なぜなら、困難な時にも私の愛はあなたがたと共にあり、慰めと励ましの私の言葉を思い出させてくれたからである。

2. スピリチュアリズムの教えは、この時代において人類が光と慰めを見出すことになる、新たな契約の箱である。

3. もし、これらの集会所が人々の群れを収容するには不十分であるとあなたがたが気づいたとき、わたしはあなたがたを谷間の草原や野原、あるいは山へと招き、そこであなたがたの間でわたしの御霊を現すであろう。

4. 概して言えば、この時代、人類は私の御言葉を聞き入れてこなかった。彼らの霊的な怠惰は根深く、それゆえに平安を見出せないのだ。

5. あなたがたには、聖霊が教師として与えられていた。それゆえ、わたしはあなたがたに平安に対する責任を負わせる。

6. この神聖な教えには、そこに含まれる全真理を発見できるよう、徹底的な研究が必要である。それは、魂の救いへの道を照らす星である。

7. 第三の時代は、敵意、罪、そして狂信の深淵に沈む世界を不意に襲った。世界は、新しい時代の到来、新たな夜明けの訪れを感じる準備ができていなかった。世界は、刷新と悔い改めがその鎖を打ち砕き、道徳的・霊的に高みへと立ち上がるまで、しばらくの間、その鎖に耐え続けなければならないだろう。

8. 私があなた方だけと共にいるとは考えてはならない。地球上の至る所に、人々が魂の安息の場を見出す宗教共同体があり、また、一人ひとりの人間の内側には、私が自らを現すために訪れる場所、すなわち「精神」があるのだ。

9. 私の愛は、平和の約束を携えて、あらゆる扉を叩いている。権力者、この世の栄光に驕った者、知恵を得た者から、社会から疎外された者や最も無名な人間に至るまで——彼らすべてが、主の訪れを受けるのである。

10. 私はこの時代に、その美しい声が全地に響き渡るよう、ある民を育て上げるためにやって来た。私はその民に、一握りの小麦を託し、彼らがその栽培者となるよう導いた。その前に、私は彼らを私の食卓に着かせ、ぶどうの樹の果汁を飲ませ、彼らが力を蓄え、旅路を乗り切れるようにした。私の賢明な助言をもって、私

は彼らに の誤った道を識別し、そこから離れるよう教えた。私は彼らに真の聖所を示し、そこに入り、至る所で私の臨在を感じられるようにした。私は彼らを解放した。この時代に、彼らの足や手が鎖の重荷を感じることを望まなかったからだ。

しかし、私が彼に偉大な能力と使命を与えたのは、彼がうぬぼれや虚栄心に溺れ、自分を王や神、あるいは裁判官だと見なすためではない。私が彼の精神にこれほど多くのものを授けるのは、彼が謙虚さを身にまとい、同胞に役立ち、人類に奉仕するという使命に人生を捧げるためだけである。

11. 私が望むのは、その者が私の神性を自覚する時が来たとしても、それが単に、その者が蒔いた種の実りを私に捧げるためであり、その過ちの赦しを私に請うためではないということである。あなたがたは、私が準備している霊性主義の民である。今日、あなたがたは私の教えを授かっているにもかかわらず、まだ過ちを犯している。それは、あなたがたが、向上する術を知らず、地上を這いずり回っているこの哀れな人類の一部だからである。

12. わたしは、あなたがたを救いの囲いへと導くために、預言者エリヤという羊飼いを先頭に立てた。あなたがたは、その囲いの柵を飛び越えようなどとは考えてはならない。

13. 部分的にあなたがたに委ねられているわたしの業は、責任と放棄と犠牲という十字架のように、あなたがたに重くのしかかるだろう。しかし、一步一步、またつまずくたびに、愛に満ちた助け手がおり、その全き慈悲をもってあなたがたを再び立ち上がらせてくれるだろう。

14. これまで、あなたがたの歩みは重苦しく、不安定で、不器用なものであった。そして、あなたがたの不完全さゆえに、苦難を味わい、涙を流してきた。その理由は、あなたがたがまだ幼子であるからだ。将来、私があなたがたを地方へと続く道へと送り出すとき、あなたがたは確信と信仰に満ちてその道を歩むことになるだろう。

15. この日、わたしはあなたがたにこう告げる。心と魂の内に、平和と一致と善意をもってわたしに従うという決意を固めなさい。そうしてこそ、永遠なる方が1950年に定められたものを期待することができるのだ。

16. 私が今この瞬間に、あなたがたの過ちを赦しているのは、その重荷を背負わずに歩めるようにするためであることを悟りなさい。しかし、二度と罪という重い荷を、あなたがたの魂に背負ってはならない。

17. 見よ。私があなたがたに赦しの言葉を与えると、それは闇の中の光となる。

18. 弟子たちよ。あなたがたは皆、同じ道をたどってここへやって来るが、その運命はそれぞれ異なり、果たすべき使命もまたそれぞれ異なる。

魂が地上に降り立つ前に、その人生の道をあらかじめ見ており、その知識は、肉体をまとった途端に経験と直感的な知恵へと変わり、それによって深淵や転落から身を守ってきたのである。

これらの教えの中で、私は自らの知恵を注ぎ出している。なぜなら、あなたがたは、私が人類に遣わすことになる師たちの道を整える、私の弟子たちだからである。この準備の道は、危険と誘惑に満ちている。茂みの中に潜む狼を見抜けるよう、警戒しなさい。そうすれば、あなたがたは愛の剣を手取るべきである。その剣には敵は抗うことができず、アザミや茨に覆われた野原は、花咲く谷へと変貌するだろう。

19. あなたがたはこの光の言葉を聞いたのだから、明日、誤った道に迷い込むようなことがあってはならない。

20. 愛を実践し、愛の娘である慈悲を示しなさい。そうすれば、あなたがたは救われる。わたしがあなたがたに託したパンを隠してはならない。

21. 隣人の苦しみに対して無関心であってはならない。そうすれば、私の教えへの信仰を蒔くことはできないからだ。一人ひとりの魂の奥底に思いを馳せてみよ。そうすれば、すべての人が、すなわち真理である光を求めていることがわかるだろう。「肉体」が魂の葛藤を明らかにすることはめったにない。

22. 備えなさい。あなたがたがこの教訓を学んでいる間にも、助けを必要とする者たちは慈悲と優しさを求めて叫んでいるのだから。

23. 弟子たちよ、この貴重な時を活用しなさい。あなたがたは今、人々の心という主の畑で働く者になろうとしている。眠る時は過ぎ去ったのだから、倦むことなく地方や各家庭へと出かけていきなさい。

24. あなたがたは、隣人たちの心がすでにあなたがたを受け入れる準備ができていたのを見て、本当に驚き、喜びを感じるでしょう。

25. 霊界から降りてくる光の精霊たちは、人々の歩む道——著名な者たちの道も、目立たない者たちの道も——を見守り、働きかけている。

26. 今こそ、地上に住む者たち、そしてもはやこの地上に生きてはいない者たちにとって、恵みの時である。なぜなら、彼らは1866年にこの形で初めて聞かれた私の声を聞いているからである。

27. 最初に私の言葉に耳を傾けた者たちは、私の業をまるで一本の木のように扱い、最初の枝を切り取って、様々な地域（ ）に移植した。ある者は私の教えを正しく解釈したが、他の者は道を誤った。

28. 粗末な集会所の陰に集まったグループは、ごく少なかった。しかし、その数が増え、人々の群れが拡大するにつれ、私は彼らに団結を呼びかけた。それは、すべての者がただ一人の師の弟子であることを自覚し、同じ方法で教えを実践するためであり、また、種が「働き手」*の気まぐれによってではなく、神の御心に従って蒔かれるようにするためであった。

*イエスの「ぶどう畑の労働者」のたとえ話への言及
ぶどう畑の労働者」のたとえを参照。

29. 新しい契約の霊的な契約の箱の前で、人々の群れは服従、従順、そして善意を誓った。しかし、暴風や竜巻が猛威を振るい、木の枝が激しく揺さぶられると、弱気になった者もいれば、揺るぎなく堅固に立ち続け、新しい「労働者」たちに「畑」を耕すことを教えた者もいた。この啓示の偉大さを悟った者の中には、私の意志を超えるほどに私の奥義を掘り下げ、他者より優位に立つための知識と力を手に入れようとした者もいた。しかし、彼らはすぐに私の正義に直面することとなった。

30. この業の偉大さを、その純粹さや簡素さの中で見出すことができなかった者たちは、宗派や教会の儀式、象徴、儀礼を取り入れた。彼らは、それによって私の啓示に厳肅さを与えられると考えていたからである。

31. 私はあなた方を「強き民」と呼んできた。それは、あなた方が、人の手によって書かれたものではない真の知恵の書である、私の神聖な言葉によって養われてきたからである。その中の言葉の一つひとつが一ページであり、一ページごとに意味がある。それを深く探求し、私の啓示を単に記憶に刻み込むだけで満足してはならない。そうすれば、この書はあなた方の心の中に守り続けられるだろう。

32. 私がもはやあなたがたに語りかけなくなる時が近づくにつれ、私は、あなたがたの先人たちが正すことを理解できなかったすべてのことを正している。なぜなら、私は弟子たちの間に、私の

教えを理解できない初心者も、種を蒔くことを知らない「働き手」も望まないからである。

33. 私があなたがたに教える教えは、新しいものではない。私の到来によって、地上に新しい宗教が生まれたなどと言ってはならない。この時代における私の啓示は、私が、太古の昔からあなたがたに示してきたのと同じ道を指し示しており、私の言葉は、あなたがたがかつて受け取った律法と教えの奥義を解き明かし、明らかにするものである。

34. あなたがたが「異邦人」と呼ぶ者たちは、一時的にあなたがたの仲間を増やし、わたしの神性の弟子となるために、あなたがたの中にいたのである。彼ら全員を真の兄弟として見なせ。悪い手本を示してはならない。密かに任命を受け入れてはならない。また、性急に責任を引き受けたり、自分にふさわしくないものを引き受けたりしてはならない。そうすれば、あなたがたが育てようとしている植物が枯れていくのを見るだろう。それはあなたがたの心に大きな痛みをもたらすだろう。

35. 準備をしておきなさい。なぜなら、私はすでに、さまざまな宗教共同体の兄弟姉妹たちが、あなたがたの扉を叩くことになるだろうと告げてきたからだ——ある者は、あなたがたが彼らから隠していると彼らが考えることについて、あなたがたに説明を求めに来るだろう。またある者は、多くの謎についての説明をあなたがたに求めるだろう。さらに別の者は、あなたがたの心に安らぎと慰めを求めてやって来るだろう。苦しむ者に宿を提供し、問いかけをする者に納得のいく答えを与えられるよう、備えなさい。

36. 高位にある者も庶民も、学者も無学な者も、皆があなた方の元へたどり着けるようにしなさい。しかし、私の業の中に欺瞞が蔓延したり、それに混入したりすることを許してはならない。また、冒涇も決して許してはならない。

37. 私の教えは、その愛と優しさ、そして正義によって人々を説得し、彼らに再生と平和をもたらすことで、人々を変容させなければならない。「王たち」は謙虚に「玉座」から降りるだろう。兄弟殺しの戦争は、赦しと調和に取って代わられる。邪悪な情欲は抑制され、本能を満たすために互いに殺し合う獣に匹敵するようなその血に飢えた欲望は、人間愛の感情に取って代わられるだろう。

。

38. ここにいるこの民こそが、地球の善き霊、すなわち平和と祝福の霊となるであろう。

39. 愛する弟子たちよ。私の教えは、まだ物質的な書物によるものではないが、あなたがたのもとにある。

40. この時、私は単純で素朴な知性の器を通して、あなたがたに私の言葉を聞かせ、あなたがたを驚かせた。しかし、私が、私の力によって学者たちを驚かせるために、より素朴で無知な人々を用いるのは、これが初めてのことでない。

41. わたしに耳を傾けるあなたがたは、その理由だけで皆が同じレベルにあるとは言えない。なぜなら、この道において積極的に歩む魂は、怠惰な者や、その実りを享受して自己中心的に弛緩している者たちよりも、より速く成長するからである。

42. たとえ、私が求めているのがあなたがたの魂であり、それがまもなく私と直接かつ霊的に対話できるよう準備しているとしても、人類もまた、生ける真の神に目を向け、像や彫像を忘れるようになるだろう。しかし、私はあなたがたに告げる。魂の救いの光としての私の律法が、あなたがたに欠けたことは決してなかったのだ。なぜなら、それははるか昔、モーセに啓示されていたからである。

その中には、もし人々がこれに従うならば、私の教え全体への信仰をもたらし、律法全体を成就させ、完全さへの一步となるであろう二つの戒めがある。それは、心を尽くし、魂を尽くして神を愛すること、そして隣人を自分自身のように愛することについて、あなたがたに語っているものである。

43. わたしの律法は人々の間で実践されていない。その証拠は、不正が存在することである。見よ、富める者が貧しい者を辱め、強い者が弱い者を支配し、人生を謳歌する者が苦しむ者を顧みない様子を。それゆえ、私はこの時代に、貧しい者、弱い者、苦しむ者たちに恵みを与えることによって正義を確立したいと願った。そうすれば、彼らの心は喜びに満ち、彼らの口からは、自分たちを傷つけた者たちに対する愛と赦しの言葉が語られるようになるだろう。こうして私は、天の御国の宝を得る方法を、あなたがたに示しているのだ。

44. まもなく、私はあなたがたを諸州、村々、都市、そして諸民族へと送り出し、慈悲を広めさせるつもりである。そうして、この人類がその汚点を清め、救いを得られるようにするためである。それとも、あなたがたは、この世界が永遠に贖罪の場であり続けることを望むのか。私は、あなたがたがこの地上で、私の御霊の平安——やがて私の懷で味わうことになる平安に先立つ平安——を感じ取ることを望んでいる。

45. 1866年にこの形であなたがたに語りかけ始めて以来、私がどれほど粘り強く、たゆまず取り組んできたかを認識しなさい。なぜなら、私の言葉の啓示が終わり、あなたがたの間で私の霊があなたがたの霊に直接啓示を与える時代、すなわち天から地への啓示の時代が始まる後、私はあなたがたを準備を整え、団結させた状態に残しておきたいからである。しかし、「私の言葉」は、その時もお「雲」から、直感、霊的な啓示、そして靈感として現れ続けるだろう。

46. その時代の神学者たちは、私の言葉と新しい書物を研究し、「このように語ったあなたは、いったい誰なのか」と問うだろう。かつての律法学者やパリサイ人たちがに反発し、私に「あなたは一体誰なのか。なぜモーセの律法を無視し、置き換えるのか」と言ったのと同じように。その時、私は彼らに、この三つの啓示こそが、私が常に教え、従ってきた唯一の律法であることを理解させるだろう。

47. この時代にわたしを非難する者の多くは、「第二の時代」に疑いを抱いた者たちの一員である。しかし、わたしは彼らを導き、再び地上に遣わした。それは、彼らがわたしの律法の勝利を目の当たりにし、その目を光に向けて開かせるためである。

48. 弟子たちよ、あなたがたはまことに、わが言葉の乳と蜜を飲んできた。師と語り合うために、心を整えなさい。エリヤはあなたがたをわたしのもとへ導き、あなたがたの魂を平安の領域へと昇らせるよう招いている。彼は、あなたがたがわたしの右に座し、わたしの言葉を喜び楽しむことができるよう、地上の虚しさを忘れさせてくれるのだ。

49. わたしは、あなたがたを様々な地方や国々から呼び集め、一つの民として一つに結んだ。私は、あなたがたに私の教えを聞かせるために、これらの質素な家々であなたがたを一つに集めている。あなたがたは私の臨在を感じ、私の足跡に従ってきた。なぜなら、あなたがたは、1950年以降になって初めて多くの人々が知ることになるこの業の、忠実な証人となるべきだからである。しかし、私の戒めに従う者は祝福される。その者は、いつの時代にも備えられているからである。

50. あなたがたが決して誤りに陥ることのないよう、私は、第三の時代における私の到来と、私の啓示の理由を、私の言葉の真髓を通して知らせる。なぜなら、私が去った後、偽預言者たちが現れるであろうと、私はあなたがたに告げるからである。あなたがたは、彼らに耳を傾けてはならない。この時が過ぎたら、私が今日

あなたがたに語りかけているような形で、もはや私を求めないでください。そうすれば、私が警告したにもかかわらず、あなたがたは私の目には重大な過ちを犯したことになるからです。

51. その時には、あなたがたはただ霊的にわたしを求め、あなたがたの信仰と、行動において成し遂げた進歩をわたしに示し、団結に向けて尽力すべきである。あなたがたの集まりには新たな弟子たちが集まってくるだろう。なぜなら、この民は、この国や他の国々で増え続けるからである。

52. 私があなたがたに示す道は、愛と、自制と、犠牲の道である。私のもとへ至るためには、あなたがたはしばしば、最も愛するものを犠牲にしなければならないだろう。地上の快樂に縛られているあなたがたの心は、それらから背を向け、私の教えの研究と探求に専念しなければならない。

53. 第二の時代において、多くの人々がわたしの言葉を聞いた。その中から、わたしは十二人を選び、彼らをわたしの弟子とした。彼らはわたしの言葉によって教えられた。わたしの愛は、まるで彫刻刀のように、あらゆる方法で彼らの心を磨き上げた。彼らはわたしのそばで暮らし、あの神聖な啓示の偉大さを予感し、わたしの模範となる行いの中に、愛と救いの定めを読み取った。彼らは私の大義のために苦しみ、私が彼らのもとを去ったとき、彼らは私から遣わされた使徒となった。彼らは私の足跡に従うために、すべてを捨てた。中傷や偽りの証言にも、彼らはひるむことはなかった。彼らの中には、愛と献身だけが息づいていた。私が彼らの魂に蒔いた種は実を結び、私が去る前も後も、彼らはその実を私に味わわせてくれた。私はそれを甘美さと献身にあふれたものと感じ、彼らにこう告げた。「これからも私の言葉に耳を傾けなさい。やがて私は、あなたたち自身にもまだ知られていない偉大な啓示を、あなたたちの口を通して明らかにするだろう。」『御言葉』は尽きることなく、あなたがたの伝達を通じて様々な形で注がれる靈感は実りをもたらすだろう。あなたがた一人ひとりが人類への贈り物となる——それは、私が私の真理の証しとして人類に与える贈り物である。

54. 私の弟子たちは、あらゆる行いにおいて私を手本とし、私が彼らに対して行ったことを人類に対しても行うと誓った。彼らはその業を成し遂げ、その模範は不滅である。

55. 同様に、同じ愛をもって、私は第三の時代にあなた方を備えさせ、こう問いかける。「もし私の御心であれば、あなた方の魂を完成させるために私が送る試練を受け入れる用意はありますか

？」——「はい」と、あなた方は心の底から私に答える。「私たちはあなたを愛し、あなたに仕えたいと願っていますが、あなたの全面的な助けを期待しています。」

私はあなたがたに告げよう。私の励ましは決してあなたがたを離れることはない。私はあなたがたを導き、私の光が常にあなたがたの義務を示し、あなたがたの行いが常に私の律法の範囲内にあるようにする。

56. 民よ、あなたは高みへと発展し、すでに霊的な生活を予感している。あなたは、あなたを待ち受ける御国の平安を束の間感じ、義務を果たした満足を知り、私にこう言う。「師よ、私たちがあなたにお見せする種を吟味し、私たちが任務を果たしたのか、それともそれに背いたのか、教えてください。」しかし、私はあなたがたにこう告げる。私はあなたがたの愛と善意を受け取った。心配するな。あなたがたには試練に打ち勝つ大きな力があり、あらゆる悪に対する解毒剤があるのだ。あなたがたがどれほど強いかを自覚できるよう、すべての賜物を活用しなさい。私はあなたがたの能力を育み、それを成長させ、それをを用いていく。なぜなら、あなたがたはな人類に大きな実をもたらさなければならないからであり、そうすれば、あなたがたは私の恵みの賜物と恩恵に満ち溢れている自分たちを見出すことになるだろう。

57. 準備が整ったら、苦しむ人々を無関心に見たり、貧しい人々を軽蔑したりしてはならない。憐れみを実践し、私の光で彼らの人生を照らし、私があなたがたの中に注ぎ込んだ愛を彼らに届け、温もり、励まし、そして希望を与えてあげなさい。

58. 純粹で利他的な愛をもって、霊的に愛しなさい。私があるあなた方を愛するように、私を愛しなさい。あなたの隣人を愛しなさい。なぜなら、彼ら一人ひとりの内に私がいるからである。

59. 最も謙虚な者たちの間で謙虚でありなさい。私があるあなたがたのしもべであるように、あなたがたもすべての者のしもべとなりなさい。私はしばしばあなたがたからの指示を受け、あなたがたを教えるためにそれに従ってきた。仕える者は自らを卑しめるのではなく、むしろ自らを尊ぶのである。しかし、あなたがたの奉仕に対して報酬を求めないでほしい。この地上には、あなたがたの働きにふさわしい評価を下せる者は誰もいない。わたしは、あなたがたの功績に応じて、正義をもって報いるであろう。

60. あなたがたのすべての事柄をわたしに委ねなさい。そうすれば、わたしは慈愛をもってそれらを裁くであろう。もし、あなたがたが善を行うことを決意し、あなたがたの救いのために私が

与えた原則を守るよう努め、私に耳を傾け、私に服従することを理解していたと私が認めるならば、私はあなたがたの行いを受け入れる。それによって、あなたがたは自分自身に救いをもたらすだけでなく、兄弟の絆で結ばれ、すなわちあなたがたの家族を構成する者たちにも、救いをもたらすことになるでしょう。あなたがたの良き模範は、あなたがたが住むこの世界だけでなく、他の生命の次元にも響き渡り、時を経て実を結び、増殖していく種のようなものとなるでしょう。そして、あなたがたは私と共にその実を収穫し、永遠にそこから養われることになるのです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 235

1. わたしは、わたしの光をもって、あなたがたの無理解と疑いを慈愛をもって取り除き、新しい日のようにあなたがたの元へやって来た。

2. 私が用意した祝宴にやって来なさい。そうすれば、あなたがたの口には、力と恵みで満たしてくれる良き食事が与えられるでしょう。

3. 私は、あなたがたに、荒れ狂う海からの平安と救いを喜びとして受け取るよう招き、兄弟愛と愛の道を改めて示します。なぜなら、私はあなたがたが徳と義務の遂行の模範となることを望んでいるからです。

4. 危険があなたの魂を待ち伏せ、脅かしている。しかし、私の光があなたを目覚めさせ、あなたの祈りがあなたに勝利をもたらす。あなたは这个世界が悪行と利己的な行いに満ちているのを見ている。男も女も互いに傷つけ合い、その道のりをアザミや茨で覆い尽くしている。子供たちが曲がりくねった道に迷い込むのを見ると、あなた方は悲しみを覚える。まさにこここそ、光と慰めと平和の使者が必要とされている場所である。

5. 嵐が人類を打ちのめす中、わたしはあなたがたの霊の前で『いのちの書』を一枚一枚めくり、あなたがたを平和の戦士とする。

6. わたしの霊は、人間の知性を通じてあなた方に語りかけている。この時代、「御言葉」は人となってはいない。それゆえ、わたしは再びあなた方にこう告げることができる。「わたしを見ることなく信じた者は幸いである。その者は、わたしの秘められた宝庫から多くの教えを知るようになるからだ。」

7. 弟子たちよ、間もなく訪れる、この私の啓示の終わりを心に留めておきなさい。1950年が近づいており、それ以降、あなたがたはもはやわたしの言葉を聞くことはなくなるだろう。もしあなたがたが警戒していなければ、誘惑に不意を突かれることになる。そして、偽りのキリストは、「働き手」たちを通じて現れるだろう。彼らは今日、わたしに仕えているが、明日には自らの弱さゆえに、わたしの言葉が終わりを告げたことを否定するだろう。彼らは兄弟たちの目に暗い目隠しを施し、群衆を苦痛と闇の道へと導き、魂に無知の鎖を嵌め、彼らの前に見捨てられと苦悩の深淵を切り開くであろう。そうして、この混乱に陥った者たちは、神を冒瀆するようにわたしに背を向け、わたしを非難するだろう。彼らは、あ

あなたがたが誘惑に陥らないよう、主が時宜を得て警告してくださったことを忘れてしまうのだ。

8. その道を悟りなさい。聖霊が、その英知をもって山の頂上からあなた方を呼びかけ、安らぎを与え、天の声を聞かせてくださっていることを悟りなさい。その声は、肉体の弱さとこの世の罟を克服することを知った、あなた方の魂の到来を祝福するものである。

9. あなたがたの魂に、私が差し出すぶどう酒を飲ませなさい。私の愛によって、引き続き養われ続けなさい。病人は健康を取り戻し、盲人は私の光を見るでしょう。なぜなら、これらの心は花のように開かれ、その香りは父のもとまで届くからです。

10. 愛する弟子たちよ、わが神聖なる御霊の慈悲が、あなたがたの肉体と魂を生き生きとさせ給わんことを。

11. わたしは、あなたがたを幼子のように迎え入れ、人間の知性を通じて、一つの教訓を授ける。

12. わたしに近づき、わたしの言葉に耳を傾け、わたしの言葉の一つひとつを心に留め、その深みを味わいなさい。その言葉の意味を通じて、あなたがたは痛みや苦難、心配事を忘れることができるようになるからだ。しばらくの間、過去を忘れ、今この瞬間を生きなさい。わたしは道であり、真理であり、命である。

13. この崇高な瞬間に、あなたがたの清らかな思いを捧げなさい。なぜなら、私はあなたがたの心の奥底に到達したいと願っているからである。

14. もしあなたがたが、わたしの言葉を通じてわたしの教えを理解し、それを実践できるようになり、魂の能力を開花させたならば、あなたがたの心はこの神聖な泉の水で満たされ、その水をもって、困窮する人々の渇きを癒やすことができるようになるだろう。

15. わたしの教えの目的は、人類の道徳的かつ霊的な救いである。あなたがたの上向きの発展を助けるために、わたしの霊はこの光を放っている。これこそが、わたしのメッセージの真意である。

16. まことに、私はあなたがたに告げる。人類の再生は女性から始められなければならない。そうして初めて、明日の人類となるその実が、あなたがたを退化へと導いた欠陥から解放されるのである。

17. その後、この回復の業に自らの役割を果たすのは、男性たちの責務となる。なぜなら、女性を墮落させた者は、その女性を再び立ち直らせなければならないからである。

18. 男性諸君、よく考えてみてほしい。高潔な女性たちを陥れたのは、しばしばあなたたち自身であったのだ。彼女たちの繊細で弱い部分を探し求めたがゆえに。しかし、かつては澄んでいたが、今は曇ってしまったその鏡を、再び彼女たちの魂の清らかさと美しさを映し出すように導かなければならない。

19. なぜ、かつてあなたがたが墮落した生活へと誘い込んだまさにその女性たちを、今日になって軽蔑するのですか。なぜ、女性の墮落を嘆くのですか。もしあなたがたが、心を高め、他者を尊重し、隣人を愛するという、私の法——すなわち心と精神の法——へと彼女たちを導き、彼女たちを貶める情熱ではなく、高める愛をもって愛していたならば、あなたがたには泣いたり嘆いたりする理由などなく、彼女たちも墮ちることはなかったはずだと理解すべきだ。

20. 男性は、女性に美德と美しさを求め、それを期待する。しかし、なぜあなたがたは、自分たちが値しないものを求めるのか。あなたがたにはほとんど美德がないにもかかわらず、依然として大きな功績があると思い込んでいるのが私には見える。あなたがたが破壊してしまったものを、行い、言葉、そして思いによって再び築き上げ、高潔さ、道徳、そして美德に、それらが本来持つべき価値を認めてあげなさい。

21. 男性たちよ、あなたがたがこのように努めるならば、イエスの救いの業を助けることになり、善良な妻や高潔な母親によって家庭が尊ばれているのを見るとき、あなたがたの心は喜びで満たされるだろう。美德を失っていた者たちにそれが戻ってくるのを見るとき、あなたがたの喜びは大きなものとなるだろう。

22. 救いはすべての人に与えられている。なぜ、最も大きな罪人でさえ救われないというのか。それゆえ、私はあなたがたに言う。あなたがたが破滅へと突き落とした人々を救うために、私と共に働きなさい。私の教えの光をもって、彼らに新たな希望を吹き込みなさい。私の慈愛に満ちた思いが、彼らの心と精神に届くようにしなさい。刑務所や病院、さらには泥沼のような場所へさえも、私のメッセージを届けてあげなさい。なぜなら、そこでは、世の誘惑に引きずられて破滅へと向かったとき、自分たちが十分に強くならなかったことを悔やみ、苦しみながら泣いているからです。

23. すべての女性はかつて子供であり、かつては処女であった。だからこそ、あなたがたは共感をもって彼女たちの心に寄り添うことができるのだ。

24. 私は、これらの美德を汚すことのなかった男たちを用い、彼らにこの任務を託すつもりだ。「あなたがたの行いによって、あなたがたは知られよう」と私が言ったことを覚えておきなさい。

25. 魂が、この地上の姿を通して語れるようにしなさい。

26. しかし、私がその存在に宿した愛らしさを尊重しようとしなかった者たちには、こう言おう。あなたがたが感じているものが愛ではないのに、なぜ愛していると口にするのか。なぜ他者を墮落させるようなことをし、それを止めるものもないのか。考えてみなさい。あなたがたが、あの散り果てた花々にしていることを、もしあなたがたの母や姉妹、あるいは愛し、それゆえに敬愛している妻に対して行われたとしたら、あなたがたの心はどのような思いを抱くだろうか。あなたがたは、これほどまでに愛情を注いで育ててくれた両親に、自分たちが与えてしまった傷について、一度でも考えたことがあるだろうか。

27. 良心の光のもとで、真の試練に直面したとき、自分の心に問いかけてみよ。蒔いていないものを刈り取ることができるだろうか。

28. もしあなたがたが絶えず隣人を傷つけ続けているなら、来世に向けて何を備えているというのか。どれほど多くの人々が、あなたがたの犠牲となるだろう。あなたがたの結末はどうなるのか。まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは、情欲の嵐の中で多くの人々を犠牲にしてきた。その中には、現在あなたがたと共にいる者もいれば、過去に関わった者もいる。

29. 私は、不誠実と嘘の巣窟であった心と口が、真実と清らかな愛の巣窟となることを望む。

30. 言葉と自らの模範によって、隣人の道を照らしなさい。そうしてこそ、墮ちた女性たちの救い主となることができるのだ。ああ、もしあなたがた一人ひとりが、せめて一人でも救うことができれば！ その女性について悪口を言わないでください。なぜなら、誰かを傷つける言葉は、それを聞くすべての人を傷つけることになるからです——その瞬間から、彼らもまた邪悪な裁き人となってしまふからです。他者の行動や秘密を尊重しなさい。彼らを裁くのは、あなたがたの役目ではないのです。罪に陥ったが、私が再び立ち直らせてあげる男性たちの方が、清らかさを装いながら実際には罪を犯している偽善者たちよりも、私には愛おしい。私は、偽り

の高潔さを装う者よりも、たとえ大罪人であっても誠実な者を好む。もしあなたがたが身を飾りたいのなら、それは誠実さという祝祭の衣装であれ。

31. もし、高潔な心を持つ徳の高い女性に出会い、彼女を愛しているにもかかわらず、自分にふさわしくないと感じて近づくことをためらったとして、その結果、彼女を辱め、軽蔑し、その後、苦しみを味わい、自分の過ちを悟って、慰めを求めて彼女のもとへ戻ろうとしても、その扉を叩いても無駄に終わるだろう。

32. もし、一人ひとりの男性の人生において役割を果たしてきたすべての女性が、その男性から愛と尊敬、そして理解の言葉と気持ちを受け取っていたならば、あなた方の世界は、今のような罪の深みには陥っていなかっただろう。

33. 妻を粗末に扱ってはならない。慈悲深くあれ。彼女はあなた自身の一部なのだ。私はあなたに「互いに愛し合いなさい」と告げた。まずは自分の家族から始めなさい。そうすれば、他の人々をも愛し、理解できるようになるだろう。

34. 愛と平和の師は、温かさに満ちた、しかし同時に正義に満ちた言葉で、あなた方を揺さぶった。なぜなら、もし私が常に柔和な口調であなた方に語りかけたならば、私の業は完全なものとはならないからだ。時には私は、優しく撫でる春風であり、時には、激しく吹き荒れる秋の嵐となる。その理由は、あなたがたが、時に自分たちを過大評価しすぎているからだ。あなたがたは愛され、賞賛されていると感じているが、実際には虚栄心に満ち、利己的で、冷酷である。あなたがたは自らの惨めさに気づいていない。私がそれを明らかにしたのは、あなたがたが自らの未熟さを自覚するためである。

35. 考え、行動し、生き始めなさい。人類には、善行の模範によって救いへの道を示す、新たな男女が必要とされているのだ。

36. 人々よ、互いにぶつかり合う人々よ！私は、あなたがたが自らの悪を否定し、自らの「偉大さ」とみなすものを誇示しながら、その一方で自らの恥部を隠している姿を目にした。しかし、私はこう言おう。その見せかけの偉大さにおいて自分を称賛に値する者だと思える人間は、魂の貧しい者である。そして、徳の欠如ゆえに他人の過ちを中傷し、他人の過ちを裁く者たちには、私はこう言わなければならない。彼らは偽善者であり、正義と真実からはほど遠い存在である、と。

37. 肉体の命を奪う者だけでなく、中傷によって心を引き裂く者もまた、殺人者である。心の感情、信仰、理想を殺す者たちは

、魂の殺人者である。そして、そのうちの何人もの者が、牢獄も鎖もなく、自由に生きている。

38. 私がこのようにあなたがたに語ることを不思議に思うな。なぜなら、私はあなたがたの中に破壊された家庭を見ているからだ。あなたがたは、自らの義務を軽んじ、家族が感じる痛みや見捨てられた気持ちなど顧みることなく、家庭の外で新たな関係に身を投じてしまったのである。周りを見渡してみなさい。どれほど多くの家庭が崩壊し、どれほど多くの女性が墮落し、どれほど多くの子供が父親を失っているか。そのような心の中に、優しさや愛などあり得るだろうか。あの人々の幸福を奪い、神聖なものを破壊した者は、犯罪者ではないとでも言うのか。

39. あなた方は悪にあまりにも慣れきってしまい、一瞬にして何百万もの人命を奪うことのできる新たな殺戮兵器を発明した人々さえも、「偉大」と呼んでいる。さらには、彼らを「学者」と呼んでいる。あなた方の理性はどこへ行ってしまったのか？ 偉大であることができるのは精神によってのみであり、真の道を歩む者だけが真の学者なのである。

40. 戦争を煽る者たちを偉大な天才たちと混同してはならない。そうすれば、たとえ彼らが外見上、実際には持たない威厳を誇示していても、魂の中に悪しか抱いていない者たちに、あなたがたが称賛を捧げることを防げるだろう。もしあなたがたが、ほんのひとときでも理性と良心の声に耳を傾けるならば、その声は彼らをその台座から引きずり下ろすだろう。しかし、墮落した者は、ありのままの自分を知ること望んでおらず、たとえ一瞬でも、自らの内側に宿る哀れな人間を目にしたとしても、思考を他の何かに向けようとする。自分の過ちを認識し、評価することは、彼にとって不快なことなのだ。

41. ああ、地上の者たちよ、いつになったら、あなたがたは、一步一步進むたびに、あなたがたの不名誉な行いを非難するために立ち上がる、良心の内なる声のメッセージによりやく耳を傾けるようになるのだろうか。

42. あなたがたは動揺しながら私の言葉に耳を傾けている。それは、キリストの真実が語られるとき、人間は自らの過ちを自覚して沈黙してしまうからである。

43. 今日、私はあなたがたに、その道を歩む中でつまずいた女性を救うよう促した。そして、あなたがたが救ったその女性を私の前に連れて来れば、私は彼女に花と祝福、そして計り知れない平安を与え、二度と転ばないようにする。

44. あなたがたがこの使命をこのように果たすならば、この世によって傷つけられた者たちは、イエスの愛が自分たちの心に満ちてくるのを感じるだろう。

45. 彼らが祈りの中で私にこう言うとき、私はそれを聞き取るだろう。「父よ、私の罪には目を向けず、ただ私の苦しみだけを見てください。私の墮落を裁かず、ただ私の苦しみだけを見てください。」その瞬間、その苦しむ心にわたしの慰めが降り注ぎ、涙によって清められるだろう。もしあなたがたが、自分を義であり清いと思い込んでいる高慢な者の祈りよりも、罪人の祈りの方がより強く心に響くことを知っていたなら。

46. 私の言葉を聞く群衆の中には、私があなたがたに話したあの女性たちもいます。私のマントが、彼女たちをあなたがたの視線や裁きから守ってくれました。なぜなら、彼女たちをも、私は御霊の盛大な祝宴の席に着かせたからです。

47. 私は彼女たちを、この愛と赦しの祝宴へと招いた。それは、彼女たちが私の御前で、人々の間では決して感じることでできなかった、そして見つけれなかった愛を、私の御前で感じられるようにするためである。

48. それらの悲しみに満ちた心の上に、わたしの慈愛が注がれ、彼女たちに語りかけるだろう。そして彼女たちはわたしを感じ、わたしを信じるようになる。

49. そうすれば、あなたがたは、何を汚し、何が贖うのかという業の真髄を目の当たりにするだろう。あなたがたは、真の愛が成し遂げる奇跡を体験し、それによって、あなたがた自身が破壊してしまったものを、主が回復されるのを助けることになるのだ。あなたがたが汚したものを、わたしが清める。そうすれば、堕ちたあの小さな花々は、その美德と香りを携えて、再び宇宙の祭壇を飾ることになるだろう。

50. 見よ、わたしが、同じく罪人である者たちの口を通して、罪人たちを赦す姿を！

51. しかし、自分たちは上流階級に属していると信じ、罪を犯した者たちに近づくことを恥じている女性たちよ——もしあなたがたが、霊的には皆等しいということを理解していないために、これに憤りを感じるならば、災いあれ！ あなた方の多くは、確かに肉体的には罪を犯していないかもしれないが、心の中では確かに罪を犯している。そして、あなた方のうち、どれほど多くの者が自分の過ちを隠す術を知っていることか！ それゆえ、もしあなたがたが罪を犯したのなら——なぜ憤るのか？ 私はあなた方に告げる。

少女も、妻も、母も、私がこの日にあなた方に示した高貴な理想を目指して奮闘しなければならないのだ。

52. これこそが、師が言葉をもってあなたがたに与える教えであり、それはあなたがたに力と愛を授けるものである。働き、愛しなさい。そうすれば、あなたがたの心は、私が山上の説教で語った平和と霊的な至福を得ることができるだろう。

53. 私があなたがたのところへ降りてくるのではなく、あなたがたが私の声を聞くために「雲」へと昇っていくのである。

54. 第三の時代において、「神の言葉」は人間となったのではなく、霊的な形であなたがたのもとへやって来たのである。あなたがたが住むこの地の一角は、今日、わたしの約束と御計画の成就を受け取るために定められた場所である。今、私はここで三つ目の遺言を記しており、また、あなたがたが私を待ち望むようにと、ここであなたがたを集めたのである。なぜなら、あなたがたは過去の時代の人々と同じだからである。

この時代、あなたがたがわたしを待ち望み、その待ち時間は苦痛に満ち、ただ「わたしが約束した光」が戻ってくることへの切なる憧れに支えられていたように、同様に、最初の時代にも、あなたがたは奴隷の鎖がガタガタと音を立てる中、故郷を失った苦しみにも耐え抜いた。それは、あなたがたの先祖たちに与えられたわたしの約束への希望に支えられてのことだった。わたしはあなたがたの信仰を試み、あなたがたは忍耐という功績を積み重ね、ついにその報いとして約束の地を所有するに至った。

55. あなたがたは新しい生活を見出した。民はかつての奴隷生活を忘れた。偽りの神々は彼らから遠ざかった。抑圧と隷属は終わり、イスラエルのすべての子供たちは目を開き、太陽が自分たちのもの、子供たちが自分たちのもの、野原が自分たちのものだと思った。パンは美味しく、果実も豊かに実っていた。

あなたがたは、わたしの律法の範囲内で生活していた限り、大きな進歩を遂げた。しかし、あなたがたの栄華の知らせが他の王国に届き、それらの王国の貪欲を掻き立てた。そして、民の部族間に不和が生じると、他の民族が、あなたがたに襲いかかり、再びあなたがたを奴隷とし、王国や帝国の貢納民にしようとした。

56. わが正義は、その土地をあなた方から奪い取ったが、同時にあなた方の魂を救い、それを清め、かつてあなた方が所有していた土地に似た、その処女の胎があなた方に乳と蜜を与え、祝福に満ちていたあの地を探し求めるよう、あなた方を送り出したのである。

57. 私は、あなた方を慕ってこの地へやって来た。今、再び私の臨在があなた方の間にあり、あなた方を照らし、励ましている。それは、あなた方が二度とこの世の奴隷にも、卑しい情欲の奴隷にもならないためである。あなたがたが断ち切った鎖に、二度と押しつぶされてはならない。たとえ人間としての生活が抑圧されていると感じたとしても、あなたがたの魂は鎖から解き放たれているのだから、背筋を伸ばして、わたしの真理を見据えることができるのだ。

58. あなたがたのすべての苦しみや不幸を、あなたがたを清める「るつぽ」として、あるいは、魂の昇華と浄化の道において強くなるために、あなたがたを鍛え上げる「金床」として受け止めてください。

59. あなたがたが苦しんでいることを、私は知っている。なぜなら、私はあなたがたの毎日のパンを味わい、それが苦いと感じるからだ。私はあなたがたの家に入り、そこに平安を感じない。私はあなたがたの寝床の隅であなたがたを訪ね、泣いているあなたがたに出会う。その時、私はあなたがたに私の存在を感じさせ、痛みの重荷の下で崩れ落ちないように、私の力を与える。あなたがたは、世界中に満ちる恐怖と嘆きの中で生きているが、あなたがたの唇からは決して神を冒瀆する言葉は出ない。

60. 試練の日々が過ぎ去ったとき、あなたがたは無事にそれを持ち越えたことに驚き、私が常にあなたがたと共にいたことを悟るだろう。

61. わたしはこの時にあなた方を呼び寄せたのは、あなた方の使命を果たすための新たな機会を与えるためである。なぜなら、わたしはすべての人を等しく愛しているのだから、あなた方はすべての同胞に、あなた方の受け継いだものを分かち合わなければならないからだ。

62. 「霊的な谷」での戦いが終わるとき、あなたがたは魂の完全な平安を見出すだろう。今、あなたがたはこの大義のために戦う兵士であり、眠ってはならない。

63. このスピリチュアリストの民は、知られずに生きている。世界はあなたがたの存在を知らず、権力者たちはあなたがたに目も向けない。しかし、スピリチュアリストとキリスト教徒の間、そしてスピリチュアリストとユダヤ人の間の戦いが近づいている。この戦いは、全人類において私の教えの正当性を立証するために不可欠である。そうして初めて、旧約聖書（ ）は、第二の聖書および第三の聖書と、一つの本質として統合されることになる。

64. あなた方の多くには、これは不可能に思えるかもしれないが、私にとっては、これが最も自然であり、正しく、そして完全なことなのだ。

65. 私が人間としてあなたがたの間で生きていた頃、モーセの教会は、君主たち、祭司たち、律法学者たちによって確立され、代表されていた。彼らは預言を手にし、メシアの到来を知っていたにもかかわらず、私のしるしを見るために目を開くことも、私の臨在を感じるために心を開くこともなかった。しかし、彼らが私の言葉を耳にしたとき、彼らは目を伏せた。彼らの霊が、自分たちが裁き人の前に立っていることを自覚させたからである。だが、彼らは準備ができていなかったため、あの姿での私の臨在を説明することができず、私を疑った結果、民をも疑わせることになった。

66. 私を感じ取った者は、なんと少なかったことか！ 私を見たとき、私が神の子であると認めた者は、なんと少なかったことか！

67. 私の犠牲の死の後、戦いが始まった。苦痛、中傷、投獄を経て、死に至るまで私に従った者たちへの迫害は甚大であった。彼らは自国から追放され、異国の地を放浪したが、その過程で私の種が蒔かれ、肥沃な畑に落ち、そこで発芽し、花を咲かせ、実を結んだのである。

68. キリストの教えに弟子たちが確固たる信念を持つようになると、彼らは「最初の者たち」との和解を求め、モーセを通して律法を授けた神と、キリストの口を通して語られた神とは同一人物であることを彼らに説き明かした。

69. その論争は激しく、血によって決着がついた。しかし、その論争の末、第一の啓示の時代と第二の啓示の時代の聖書が一つの書物として統合されたとき、わたしの御心は成就した。

70. それゆえ、私はあなたがたに告げる。第三の時代の啓示が以前の聖書と統合される前に、あなたがたは予告されている大いなる霊的な戦いを乗り越えなければならない。

71. 三つの聖書の統合が、第三の時代にこれらの啓示を受けるよう定められていた国において行われないことを、不思議に思うな。第一の聖書と第二の聖書の統合も、ユダヤでは行われなかったのだ。わたしもまた、自分の故郷では預言者ではなかったことを思い起こせ。

72. 過去の時代の奇跡が繰り返されることを期待してはならない。私の教えの核心を深く掘り下げ、私がいつの時代も、あなた方を救うというただ一つの目的のために来たことを悟りなさい。

73. もう一度言うておく。伝統を理由に律法を忘れてはならない。わたしは多くの伝統を取り除いたが、律法の成就を教えたのである。しかし、人間としてあなたがたと過ごした最後の数時間、わたしがパンとぶどう酒を祝福し、それらを（象徴的に！）私の体と血へと変えたのは、あなたがたがそれを通して私を思い出し、心の中に私を宿すためであった。しかし今日、あなたがたは、この第三の時代において、もはや象徴を必要としないことを認識しなければならない。なぜなら、私は教えの中で、霊的に私の体と血をあなたがたに捧げているからである。

74. 今日、私は、あなたがたが隣人を愛し、啓発し、真理と愛へと目覚めさせることによって、あなたがたの心が隣人にとってのパンとワインとなることを望んでいる。

75. いかなる時代においても、私は聖職者として来たことはなく、あなたがたの前で儀式を執り行ったことも一度もありません。私はただ、たとえ話を通して教えを授けた師に過ぎなかったのです。

76. 今日、人類は徐々に霊的な準備の段階に入っている。地上の偉人たちは、自らの業を理解するにつれて、ゆっくりと頭を垂れ始めている。しかし、この世から苦痛が取り除かれる時はまだ来ていない。なぜなら、人々は科学や自然の力を復讐の道具として用いて、再びわたしに反旗を翻すだろうからである。それゆえ、苦難の杯は、まだしばらくの間飲み続けられることになる。

77. 人類が一度準備が整えば、私の声がすべての魂の中に響き渡り、人々は、私以外の力も、私以外の正義も、私以外の知恵も存在しないことを悟るだろう。

78. この世界の歴史は長く、人類の歩みもまた長い——衰退と崩壊が訪れた後、頂点に達しようと諸民族が苦闘してきた道程である。私の子供たちが流した血はどれほど多く、それによって大地は赤く染まり、男、女、子供たちの流した涙はどれほど多かったことか！ なんと多くの罪と過ちがあったことか！ しかし同時に、私はどれほど多くの愛の証を受け取り、どれほど多くの美德を目にしてきたことか！ それにもかかわらず、あなたがたはこれほど長く生きてきたにもかかわらず、いまだに平和と救済という目標に到達していない。

79. 苦渋に満ちた「最後の戦い」や「最後の嵐」はまだ訪れていない。あらゆる力が激動し、原子たちが混沌の中で渦巻く事態は、まだこれからである。そうして、これらすべてを経て、死を思わせるような無気力、疲労、悲しみ、そして嫌悪感が訪れるの

である。しかし、その時こそ、感性が研ぎ澄まされた靈魂の中に、トランペットの響き渡る反響が聞こえる瞬間となるだろう。それはあの世から、善意ある人々の間に、生命と平和の王国が近づいていることを告げるものである。その音とともに、「死者たちはよみがえり」、悔恨の涙を流し、父は彼らを、長い旅路に疲れ、大いなる戦いに消耗した「放蕩息子たち」として迎え入れ、愛の口づけをもって彼らの魂を封印するであろう。

80. この「日」から、人間は戦争を忌み嫌うようになる。人は憎しみや恨みを心から追い払い、罪と向き合い、償いと再建の生活を始めるだろう。多くの人々は、これまで見ることのなかった光に感化され、平和な世界を築くために旅立つことになるだろう。

81. それは、恵みの時代、すなわち平和の時代の始まりに過ぎない。

82. 石器時代はすでに遥か昔のこととなった。科学の時代もまた過ぎ去り、やがて人々の間に精神の時代が花開くであろう。

83. 生命の泉は、人々が「善」の科学、正義、そして愛に強固な世界を築くことができるよう、偉大な秘密を明らかにするだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 236

1. 疲れ果てた者、悲しむ者、嘆く者、病める者、罪人よ、わがもとへようこそ。なぜなら、わたしはあなたがたを慰め、癒やし、赦すからである。わたしは、熱心な者も、不信仰な者も等しく愛している。

2. 疲れ果てた者よ、私はこう言う。「ここへ来なさい。あなたが背負っている重い荷からあなたを解放し、その代わりに、私の愛によって定められたこの道であなたが担うべき十字架を背負わせるためである。」

3. 癒やされる希望をすべて失った病人を、私は癒やし、真の命へと引き上げる。

4. 魂も体も、今、私はあなた方を癒やす。なぜなら、すべての苦しみを癒やすために、私の憐れみが降り注いでいるからだ。

5. わたしは常にあなた方を探し求めてきた。そして試練の瞬間に、わたしははっきりと自らを現した。人々が飢えに脅かされていた時、孤独な荒野で、愛のメッセージとしてマナを送ったことを思い出してほしい。人々が渇きに苦しんでいた時、わたしは岩を割らせ、その内から泉を湧き出させ、硬い心に信仰の火を灯したので。

6. あなたがたが今、私の前に示しているこの愛と平和と真理への渴望は、魂の飢えと渇きではないかと、思わないか。この時代における私の言葉こそが、あなたがたの信仰に火を灯し、初めの時代の荒野を思い起こさせるこの道において、あなたがたの心を励ますために私が送ったマナであり、水晶のように澄んだ水であると思わないか。

7. たとえ私の愛の証を直接体験したとしても、多くの人々の心は依然として頑なであり、それゆえ、彼らにとっての旅路はより長く、より困難なものとなる。

8. よく理解しなさい。私の慈悲を受け取ることを知らない者は、その道のりにおいても、それを他者に伝えることはできないだろう。しかし、私があなた方をこの地上に遣わしたのは、単に私の恵みを受けるためだけではなく、私の慈悲を隣人に届けるためでもあるのだ。

9. 憐れみを実践している最中に肉体の死に遭遇する者たちは幸いである。あなたがたはこの地上では旅人であるから、その魂は安息の地を見出すだろう。

10. あなたがたが私の御前に来る際、傷つき、あるいは折れた剣を私に見せたなら、あなたがたは勇敢に戦ったゆえに、私はあなたがたを祝福する。ある者は早く、ある者は遅く到着するだろう。しかし、魂たちの往来は、最後の者がその使命を果たした後、永遠の平安の安息の地へとたどり着くまで、続くのである。

11. 現在、私は、もはやこの地上に戻らない者たちを審査している。その間も、この世界は、完全性に一步近づくために自らを清め、浄化し、召される時に備える男性、女性、老人、そして子供たちの住処であり続けるだろう。

12. 私の慈悲を感じなさい——無限の彼方で私の声を聞くために、魂を高揚させたあなた方よ。

13. 再び、私の啓示があなた方の元へ届いている。

14. 私は、自らを見誤っているこの人類に向けて、愛のメッセージ、赦しのメッセージを世界に送る。私は、人々が父の純粋な愛をもって互いに愛し合うことを望む。

15. わたしから学ぶあなたがたを、わたしはこの愛の使徒と呼ぶ。なぜなら、あなたがたは自らの歩みの道において、隣人たちの間に慈悲と兄弟愛の足跡を残しているからである。

16. あらゆる靈魂は、神性の純粋な思考から生まれたものである。それゆえ、靈魂は創造主の完全なる御業である。

17. 物質的な業が成し遂げられ、地球があなた方のための宿を提供した後、私は最初の魂たちを遣わし、人間として転生させた。たとえ魂が、まるで真珠が海の深みに沈むかのように、物質世界の落とし穴や深淵に一時的に沈んでしまったとしても、どの子供に対しても慈悲を拒むことのない父は、救いの手を差し伸べ、魂が昇華を達成できるよう、その道のりに必要な手段を用意して救い出すのである。

18. あなたがたはすでに救われている。そして、人類が深淵に沈んでいるこの時代に、私はあなたがたを媒介として、この希望と救いへの信仰のメッセージを人々に届けるであろう。

19. あなたがたの言葉は、私の言葉のようになるべきである。私の言葉は、あなたがたの心を傷つけることのできない繊細な彫刻刀のようであった。それは愛撫そのものであった。それゆえ、あなたがたがそれを長く聞くほど、ますます理解が深まり、霊的になっていくにつれて、失われた輝きを取り戻していることを感じるようになるのである。

20. 霊的なものを明らかにするゆえに「スピリチュアリズム」と呼ばれるこの教えは、人間が創造主を知り、彼に仕え、彼を愛

するようになるために示された道である。それは、人々に、自分の隣人の中に父を愛することを教える書物である。スピリチュアリズムとは、善、純粹、完全を命じる法則である。

21. この法則に従う義務は、すべての人に課せられている。とはいえ、この法則は誰にもその履行を強制するものではない。なぜなら、すべての魂は自由意志を享受しており、それによって、その闘いおよびあらゆる行いが、裁きの際に自らの功績として評価されることができるからである。

22. それゆえ、この教えこそが、最初の一人から最後の一人に至るまで、私のすべての子供たちを照らし、温もりを与えてきた神の愛の呼びかけであることを悟りなさい。

23. あなたがたが最終的にこれらの教えを理解し、感じ取り、実践できるようになるために、私は、あなたがたの魂と知性が、この時代の私の啓示を解釈するために必要な完全な明晰さを得るまで待っていたのである。

24. 今日、あなた方の魂の発達著しく進んでいる。同様に、
あなたがたの知性の理解力。そうでなければ、私はあなたがたを呼び寄せたりはしなかっただろう。なぜなら、もしあなたがたが私を理解できなければ、混乱してしまうからだ。私は、あなたがたの唇に「言葉」という能力と賜物を授けた。それは、霊的な知識と言葉の靈感を表し、伝えることができるようにするためである。

25. わたしの教えの偉大さは、人間の知性によって損なわれたことは一度もない。今、わたしが代弁者の口を通して語っているように、その唇から発せられる言葉の意味は、人間に帰するものではない。

26. 魂の道は、わたしにおいて始まり、わたしにおいて終わる。これこそが、師が再びあなたがたに教えていることである。

27. 粘り強さ、成長、そして父の教えへの愛によって、ある程度の霊性を達成した者は、たとえその口からそう語らなくても、スピリチュアリストとなるだろう。

28. 信仰を持ち、その行いに寛大さを示す者は、自らの精神が持つものを反映することになる。

29. 嵐に翻弄されているこの世界は、その迷いの頂点に達するだろう。しかしその後、徐々に完全なる時代へと移行していく。

30. 1950年が終わる前に、あなたがたは多くの出来事を目の当たりにするだろう。戦争を始める国々、新しい教義、紛争、そして災難である。あなたがたは、これらすべてが私の言葉の完結を示

すしるしであることを知っている——それらは、後に人類によって、予告された時期に師が人々の間にいたことを示す証拠として認識されるであろう。しかし、私があなた方をその受託者に任命したこの言葉は、永続し、多くの 人々の心に届くでしょう。なぜなら、その中に宿る真理、すなわち完全性は、見過ごされて消え去ることはあり得ないからです。それは、世界において魂の成長と再生の時代を切り開くことになるでしょう。

31. もし人間がその時代を告げるには弱すぎるとしても、自然はその「声」をもってそれを証し、眠りにについている者たちを目覚めさせるだろう。しかし、準備を整えている者たちにとっては、人類がまもなく迎える新たな時代について語る、霊の声となるだろう。

32. その時、この世で自分を強い人間だと思っていた者たちは、弱さを感じるようになるだろう。権力者は自らの権力を失っていくのを見ることになり、謙虚さから自分を弱い者だと思っていた者たちは、その魂の勇氣、能力、そして理解力によって、強い者となるだろう。なぜなら、その時こそ、霊的なものが支配するようになるからだ。

33. わたしの言葉を理解しなさい。あなたがたが目的地にたどり着けるよう、わたしはあなたがたに光を授けるからである。

34. わたしは、エリヤが整えた道を通してあなたがたのところへやって来る。それは、わたしの光をもって、人類という愛すべき子らを照らすためである。わたしは、あなたがたの過ちを裁くためでも、あなたがたの汚点を眺めるためでもなくやって来る。ただ、無知な者をわたしの弟子へと、そして弟子をわたしの信徒へと変えるためだけにやって来る。そうして、明日、あなたがた全員が師となるためである。

35. あなたがたは人類の中でこれほど困難な使命を担っているのだから、盲人のように歩んではならないし、無知のままであってはならないし、弱さを見せてはならない。よく考えれば、自分の責任を理解することができるだろう。準備を整えなさい。なぜなら、あなたがたの霊は、その使命の成果を父に示さなければならないからだ。しかし、心を落ち着かせ、私が人間の知性を通じて語りかける限り、引き続き私の言葉に耳を傾けなさい。

36. わたしは、この使命を果たすために、あなたがたの魂を地上に遣わした。その際、わたしの律法をその霊に消えることのないように刻み込み、また、あなたがたに偉大な教えを啓示し、愛と謙遜の模範を示すために、あなたがたに語りかけた。それは、あな

たがたが隣人と向き合い、彼らに福音を伝え、わたしの光に与らせることができるようにするためである。

37. わたしの言葉は、すべての人を招き、食べ、飲むための祝宴のようだ。なぜなら、わたしのところには、受肉した魂たちだけでなく——いや、「霊的な谷」の住人たちもまた、わたしの教えという神聖な調べを喜び楽しむからである。わたしの教えは普遍的なものだからだ。

38. 私の声を聞くと、ある者もまたある者も、自らの過ちから解放されたと感じ、十字架を背負いながら私の足跡をたどる旅に出る。しかし、私の懷でこの平安と安らぎを体験した後、あなた方は再びこの人類に目を向け、その悲劇を理解しようとするのである。

39. あなたがたは、私の食卓で永遠の命のパンを口にしながら、同胞たちの霊的な飢えを思い起こしている。この木の涼しさと木陰を感じながら、あなたがたは、今まさに砂漠を横断し、太陽と飢えと渇きに苛まれ、時には偽りのオアシスの幻影に惑わされている人々のことを思い浮かべたのである。

40. あなたがたは他者の痛みを感じ取っている。それゆえ、わたしはあなたがたを祝福する。祈り、働きなさい。あなたがたには、苦しみを和らげ、病を癒やすために必要なものが備わっているのだから。

41. あなたがたは、わたしに従うと誓う必要はない。わたしに対して忠実であり、揺るぎなく、従順であることを自らに誓い、その決意を貫き通せ。

42. わたしの言葉は、弟子に「今こそ出発し、学んだことを実践する時が来た」と悟らせるための、優しい励ましとなる。

43. わが言葉は、愛する民よ、光の束のようにあなたの理解力を照らし、あなたの道を照らすべきである。

44. あなたがたの心の奥底に意識を集中しなさい。なぜなら、準備を怠る者は、わたしの臨在を感じるができないからだ。その者は、確かに語り手の声を聞くことはできようが、わたしがあなたがたに送る神聖な本質を受け取ることはできない。

45. あなたがたの心を清らかな泉とし、そこから、わが知恵である最も清らかな水の光線を受け取れ。

46. 今日は記念の日である。今日のような日に、私は最初の「声の伝達者」たちを聖別し、彼らを通して私の新たな教えと啓示を告げ知らせた。エリヤの霊がロケ・ロハス*を照らし、神の律法である道をあなたがたに思い起こさせたのである。

*この最初の「声の伝達者」の名前は「ロケ・ロチャス」と発音されます。

47. その瞬間は厳粛であり、出席者たちの魂は恐怖と歓喜に震えた。それは、シナイ山で律法が宣布された際にイスラエルの民の心が震えたのと同じであり、タボル山（ ）でイエスの変容を目撃した弟子たちが、モーセとエリヤが主の右と左に霊的に現れた時に震えたのと同じであった。

48. 1866年9月1日というその日は、新しい時代の幕開けであり、新しい日の夜明けであった。すなわち、人類のために幕を開けた「第三の時代」の始まりであった。

49. その時点から、神が数千年にわたり人々に与えてきた多くの預言や約束が、絶え間なく成就し続けている。今この時代にこの世に生きる、男性も女性も、あなたがたの間でそれらは成就した。あの預言が語られ、あの約束がなされた時、あなたがたのうち、いったい誰が地上にいたというのか？ それを知っているのは私だけである。しかし重要なのは、私があなたがたに約束したこと、そして今、それを成就させているということ、あなたがたが知っているということだ。

50. 私が弟子たちに最後に姿を現した際、弟子たちが私を昇天するのを見たあの「雲」について、皆さんはご存知でしょうか。なぜなら、「雲の上」に私が戻ってくると真実として記されており、私はそれを成就したからです。1866年9月1日、私の霊は象徴的な雲に乗って、あなたがたが新たな教えを受け入れる準備を整えるためにやって来ました。その後、1884年に、私はあなたがたに教えを授け始めました。私は人間としてではなく、霊的な形で、一筋の光の中に封じ込められ、それを人間の知性の上に宿らせるためにやって来たのです。これこそが、この時代にあなたがたに語りかけるために、私の意志によって選ばれた手段であり、私はあなたがたがこの言葉に対して抱く信仰を、あなたがたの功德として認める。なぜなら、荒野を通して約束の地へとあなたがたを導くのはモーセではなく、また、救いと自由への道として「いのちの言葉」をあなたがたに聞かせるのは、人間としてのキリストでもないからだ。今、あなたがたの耳に届くのは、これらの被造物の人間としての声であり、私がそこに臨在する神聖な本質を見出すためには、精神を高めなければならない。それゆえ、私はあなたがたに告げる。この言葉を信じることは功德となる。なぜなら、それは不完全な存在たちによって語られているからである。

51. その功德は、第二の時代にわたしを信じた者たちや、荒野でモーセに従った者たちのそれよりも大きくなるであろう。しかし、あなたがたには一瞬たりとも導き手が欠けることはない。なぜなら、わたしの言葉は曖昧でも不正確でもなく、明確に定義された完全な教えだからである。さらに、この時代に世界を目覚めさせ、人間の魂がわたしの霊的な御前に至る道を整えるために来たエリヤの霊が、常にあなたがたを見守っている。

52. 祝福された民よ。この回想の瞬間は、あなたがたの魂にとって喜びに満ちたものであり、また、私があなたがたに与えるすべての教えを記念するものでもあるべきである。私の恵みがそこに注ぎ込まれるよう、知性を研ぎ澄まし、心を開きなさい。ひととき、この世の虚しさを忘れ、霊的に私に近づきなさい。

53. あなたがたは今、人間の声の媒体を通じて、再びわたしの言葉を聞いている。その媒体は——わたしによって選ばれたとはいえ——あなたがたより上位にあるわけでもなく、神聖な性質を備えているわけでもない。彼らはわたしの言葉の伝達者であり、まだ不完全な被造物である。とはいえ、彼らの魂の高揚によって、父と交わることを可能にされているのだ。この教えの言葉を、細やかな耳で聞き、それが曇りなくあなた方の脳を通り抜けるようにしなさい。その後、それを一筋の光のように、あなた方の心に浸透させなさい。そうすれば、その神聖な意味合いが、永遠の命の糧として、あなた方の魂に届くでしょう。

54. このように心構えを整えれば、あなたがたは、私が本当にあなたがたと共にいたことを感じるようになるだろう。

55. 私はあなたがたが伝統主義者になることを望んではない。しかし、私があなたがたに自らを現し、模範と教えを与えたあらゆる出来事を、あなたがたが思い出すことを望んでいる。その記憶をもって、心の中で祝宴を催しなさい。そうすれば、その道におけるあなたがたの歩みはより確かなものとなるだろう。

56. 1866年、私は再び私の民の間に律法を宣言し、それによって新たな霊的時代を切り開いた。これは、かつて私があなたがたに与えた約束を果たすものであった。それ以来、私の聖霊は天の天蓋から私の光線を通じて降り注ぎ、私の天使たちの声も地上に響き渡っている。

57. 今こそ「第三の時代」である。この時代において、私は、モーセを通じてあなたがたに与えた戒め、そして「第二の時代」にイエスとして与えた、以前の戒めを裏付ける愛の教えを、一つの律法に統合したのである。この時代において、私は、あなたがた

が魂の上向きの発展を成し遂げられるよう、この教えを灯台として、救命ボートとして、そして完全への階段として与える。

58. 私は、あなたがたが優れた霊性主義者として、自分たちがモーセ派なのかキリスト教徒なのかと問う人々に対して適切に答えられるよう、極めて簡潔かつ明快に教えを授ける。

59. 初めの時代の律法があなた方に啓示される以前、あなた方は自然の律法に従って生きていた。それは、私があなた方に徳を勧め、私の真理と正義を明らかにした人々——私が善と愛の神として自らを現した人々——によって励まされていたからである。

60. 真の神への畏敬の念を保ち続け、正義と慈愛の神への信仰を維持することができたその民こそ、イスラエルの民である。しかし、この民は、父が——彼らが異教や偶像崇拜に陥る危険にさらされているのを見て——自らの懷から強い精神を持つ一人の男を現し、その仲介を通じて、生きた岩に刻まれた神の律法を人々に授けるまで、具体的かつ確定された律法を知らなかった。その人物こそが、解放者であり立法者であるモーセであった。彼は、主と民に対する揺るぎない信仰と深い愛をもって、大群衆をふさわしい地へと導き、聖所を築き、生ける目に見えぬ神に喜ばれる礼拝を捧げたのである。

61. 私が、太古の昔から、あなたがたに靈化への啓示を与えてきたことを認識せよ。シナイ山での律法の公布をもって、人類にとっての「第一の時代」は頂点に達した。あの最初の使徒は、砂漠の星のようであり、道を示す指であり、助言者であり、律法者であり、飢えを感じた時にはパンとなり、渴きを癒やす水となった。彼は、砂漠の孤独の中での慈愛に満ちた旅の伴侶であり、待ち望まれた地の門に至るまで民を導く導き手であった。

62. キリストが、まさにその民の懷において人類の前に現れたとき、モーセの時代からすでに何世紀もの歳月が経過していた。

63. それは、人々の間に生まれ、彼らに『命の書』の第二部を教えるために生きた、神聖なる師の到来を待ち望んでいた民にとって、新たな日の幕開けであった。

64. あなたがたは、正義の神を知っていた。しかし今、神は愛の神として自らを現し、その言葉と行いによって、新しい時代、すなわち魂のための新しい命を準備するために来られたのである。「第二の時代」、そして私が私の言葉、奇跡、そして模範によって、私の受難が頂点に達するまであなたがたに教えたすべてのことは、私があなたがたのために書き記した『愛の律法』の巻物であった。

65. 今、第三の時代において、エリヤは聖霊の使者であり先駆者としてその霊を現し、人間の知性を通じてこう告げている。「ここに、第一の時代の預言者エリヤがいる。彼は、その後、タボル山でモーセやイエスと共に、弟子たちの目の前でキリストの変容の際に現れたのと同じ人物である。」

66. エリヤは、第三の時代、すなわち新しい時代を切り開いた鍵を握っている。

67. 今や、使徒たちでさえ、私の啓示のいくつかを理解できなかったことを、あなたがたは理解することができる。

68. エリヤは神の光線であり、その光をもってあなたがたの闇を追い払い、罪の時代であるこの時代の束縛からあなたがたを解放し、あなたがたの魂を荒野を導き、

神の懐にある「約束の地」に到達するまで、あなたの魂を導くものである。

69. あなたがたが律法と最も偉大な啓示を受け取った、三人の神の使者を認識しなさい。

70. 今の時代は、あなた方にとって光の時代であり、そこでは過去の時代の啓示が解き明かされ、これから起こる事柄についての預言が与えられてきた。

71. しかし、声の伝達者という知性を通じて私が啓示を行うこの時代はまもなく過ぎ去り、その後、恵みと霊化の時代が到来する。その時代には、準備を整えた者は、霊的な方法で私と語り合うことができるようになる。

72. ひとたび人々の心に私の王国が築かれ、誘惑が退けられ、人が何よりも私を愛するようになれば、この世界は偉大な魂たちの住処となり、人々は真に互いを愛し合い、困窮する魂たちを慈悲をもって受け入れ、彼らを再生させ、知恵で満たすことを知るようになるだろう。

73. 今日、あなたがたは、1950年以降、私がどのような形で全世界に自らを現すのかを知らない。しかし、私はあなたがたに気づきを与える。なぜなら、あなたがたは、肉体の感覚に対して、霊の賜物と能力が優位に立つことを体験することになり、人類は、霊から霊への対話という新しい時代に生きていることを感じるようになるからだ。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 237

1. 弟子たちよ、ようこそ。あなたがたは、私の教えを受け入れることに粘り強く取り組んでいる。あなたがたの師があなたがたの元へやって来る。それは、私があなたがたを呼び、霊化への道の第一歩を踏み出す手助けをするために定めた、予告されていた時が来たからである。あなたがたは、1866年に始まり、いつ終わるのかわからないこの時代の最初の光を知った。

2. 1950年、私の言葉は人間の知性による伝達を通じて終わりを迎える。しかし、私はその時もなお、より高次の言語、すなわち霊の言語によって、あなた方を教え続けるであろう。

3. イスラエルの民よ、あなたがたが使命を果たすとき、模範を残すことになる。そして、あなたがたの後に、この業を引き継がなければならぬ者たちがやって来るだろう。あなたがたは真の祈りを教え、愛を説き、その行いによってそれを証するだろう。諸国民があなたがたの言葉を聞けば、彼らは自らの深刻な紛争の解決策を見出すために、思索と深い祈りに駆り立てられるだろう。そして、父である私は、すべての者たちの元へ降りてきて、すべてのわが子らを励まし、教え導くであろう。

4. ああ、人類よ、あなたは私の言葉を渴望し、飢えているのに、イスラエルの民はそれを余りにも多く持っているではないか！ あなたは、聖霊が人々の間に降りてくるのを見たことがない。私はあなたがたの魂を照らすために来たのであり、三度目となる呼びかけをしている。あなたがたには心を開き、この「旅人」を受け入れ、あなたがたに欠けているものをすべての人々に残してほしいと願っている。耳を開きなさい。そうすれば、私の言葉は癒しの香油として、あなたがたの心に染み入るだろう。あなたがたは私の平安を感じ、私の光があなたがたの道を照らし、未来を見通すことができるようになる。

5. 私は、大小さまざまな試練において、あなたがたに寄り添います。

6. 私は、すべての子供たちを「大いなる普遍の審判」のために集める谷を準備している。私は完全なる裁きを下し、私の愛と憐れみが人類を包み込み、その日、あなたがたはすべての悪から救いと癒やしを見出すでしょう。今日、あなたがたが過ちを償うならば、魂を清めなさい。そうしてこそ、私があなたがた一人ひとりのために用意した遺産を受け取る準備が整うのです。

7. かつて私がイスラエルの民を召し、長子として備えさせたのは、彼らが常に人類に対して私の神性のメッセージを伝えてきたからである。彼らは私の使者であり、その唇には、その心には私の真理を宿している。

8. あなたがたは次第に自らの過ちに気づき、なぜつまづいたのかを知るようになるでしょう。なぜなら、私の光があなたがたの本質を照らし、私に対して閉ざされていたあなたがたの心は再び開かれ、そこから水晶のように澄んだ水の奔流が湧き出るからです。

9. 私はあの世からあなたがたに語りかけている。魂を高めれば、私を見ることができるようだろう。あなたがたが私のもとへ戻ってくるその日が来るまでには、まだ成長の道のりを少し歩まなければならない。あなたがたの父である私は、あなたがたの日を穏やかにし、平安を与える。そうして、あなたがたを待ち受ける最後の大きな試練を乗り越えられるようにするためだ。

10. この時代に関する預言は、今まさに成就しつつある。眠りにについていた者たちは、その出来事を目の当たりにして衝撃を受けた。その理由は、彼らが預言者の書、すなわちあなたがたの神の書を読まなかったからである。しかし、わたしはあなたがたを、あらゆる時代のわたしの言葉を解き明かすことのできる弟子たちとするであろう。

11. 人類は徐々に目覚めつつある。誰もが、新たな日の光、すなわち、平和と理解、そしてすべてを照らす光をもたらすために現れなければならない夜明けを待ち望んでいる——その光は、その根本原理において歪められてしまったあらゆるものを、秩序へと戻す力である。また、彼らは、不完全さを正し、病める者に健康を、そして「死者」に復活をもたらす指導者をも待ち望んでいる。

12. この光はすでに人々の間にあったのだ、と師は告げている。しかし、あなた方はそれに気づかなかったのだ。

13. 私は、あなたがたが貶めてしまったすべてのものを回復させる手助けをする。

14. 間もなく訪れる、私の言葉が広まるこの時代において、あなたがたは何も歪めてはならない。この教えを難解にしてはならない。もしあなたがたが霊と真理をもって備えるならば、問いかけてくる者たちに対して、適切な答えを用意できるだろう。あなたがたは、果てしない光の世界を示し、私の誠実さ、知恵、そして真実が反映されている、私の教えの簡潔さについて語るでしょう。

15. あなたがたは彼らに、この時代に私が来ることによって、かつて与えられた預言と私の約束が成就することを告げるでしょう。

16. エリヤが私の前に現れ、私の神性が到来する道を整えたこと。

17. 彼は人々の魂に祈りと集まりを呼びかけ、聖霊の時代が到来したことを告げた。

18. あなたがたが慣れ親しんできたこれらすべての教えは、同胞たちにとって大きな啓示となり、彼らの存在の最も繊細な琴線に響き渡るであろう。

19. 人を通じたわが霊の啓示、エリヤの到来、助言者としての霊界の存在——これらすべてをあなたがたは彼らに証しするであろう。そして彼らもまた、わが言葉を裏付ける他の霊的な啓示の証人となっているはずである。

20. 今日までに達成したことに満足してはならない。徳を実践すれば、私の教えに対する理解をどれほどさらに深めることができるのか。私は、あなたがたの魂が成長の道を歩むよう励ますために、常に新たな教えを啓示していくであろう。

21. 愛する民よ、しばらくの間、休息を取り、師の御言葉を聞き、その深みを味わいなさい。

22. あなたがたは、目標に到達するために準備を進めている。知性において、わたしの言葉を伝えるという恵みを受けた者たちは、進んでそれに取り組んでいる。スピリチュアリズム、すなわち、それを受け入れる者を新たな人間へと変えるこの教えを理解した弟子たちは、わたしの教えに注意深く耳を傾けている。

23. あなたがたは、私がまだ「師」と呼ぶことのできない、依然として私の弟子たちである。それゆえ、私の教えを、その真意と簡潔さを基礎として、引き続き解釈し続けなさい。あなたがたの解釈によってそれを複雑にせず、この民の間で解釈が統一されるよう努め、あなたがたの間で不和が生じないようにしなさい。

24. あなたがたは、その道の途中で、あなたがたが「真理の霊」の弟子であることを知った人々に出会うだろう。彼らは、自分が知っている以上のことを知りたがる者にとってはごく自然なこととして、次のような質問を投げかけるだろう。「あの世はどのようなものなのか？」そのとき、あなたがたは、魂がもはや人間の肉体の中に生きず、霊的な領域に住むようになる際に経験する変容について、彼らに説明すべきである。まだ誰も、あの世の生活をその全貌まで知り尽くしてはいない。これは常に人々を悩ませてきた考

えであり、答えのない問いとして、人々の好奇心を掻き立ててきた。どれほど多くの人々が、知識と理解を求めるその霊的な欲求を利用し、無知に乗じて利益を得ようとし、善意に満ちた人々の心に虚偽の種を蒔いてきたことか。あの世がどのようなものか、誰も完全な確信を持って語ることはできない。魂がそこでどのような性質を帯びているのか、また他の生命の世界でどのように生きるのかについて、誰も正確に語ることはできない。

25. 人間の知性は、高次の精神のみが認識し把握しうるものを理解するには、まだあまりにも限られている。当面は、無限の光を内包し、あなたがたの霊的な未来の確固たる基盤となる、私の教えが明らかにした事柄を理解し、説明することに留めておきなさい。それらの秘密について、想像力を働かせて勝手に解釈してはならない。そうすれば、それらは人類にとって奇妙な理論として映ってしまうだろう。しかし、私の教えは真実に基づいているのだ。

26. あなたがたが正しく理解できていないことが何一つ残らないよう、私はあらゆる啓示を説明している。今のところ、私があなた方に啓示した以上のことを知る必要はありません。なぜなら、もしあなたがたが、私が啓示した以上の霊的な生活を理解するようになれば、その生活への関心を失い、神秘主義や空想に溺れてしまうからです。あなた方は無益な静観の生活を送ることになり、この世で果たすべき重要な使命を遂行できなくなってしまうでしょう。

27. 多くの人々が、許された範囲を超えて見通すことさえできないまま、魂の故郷を探索しようと試みてきた。しかし、「霊界は人間の知性を通じてどのようにその存在を伝えるのか」と問う者に対しては、私はこう答える。それは、あなた方の魂がそうしているのと同じように、あなた方の知性と直感の能力を活用することによってである。

28. この時代においても、「第二の時代」においても、わたしの教えは人類を震撼させるだろう。偽善者たちは、真実と向き合わざるを得なくなる。偽りはその仮面を脱ぎ捨て、真理が輝きを放つだろう。真理は、この世界を包み込む嘘を打ち破るだろう。

29. 人間は、理性と真理を含むあらゆるものを理解し、認識することができるようになるだろう。しかし、理解できなくても信じさせられてきたものはすべて、自ら拒絶するようになる。それゆえ、私の教えは、人々が必要とする光を放つゆえに、広まっていくのである。あなたがたには、この事業の大きな役割が課せられて

いる。すなわち、同胞たちにその始まりと目的を明らかにすることである。

30. これを歪曲することのないよう気をつけなさい。それは、私があなた方に託した宝であり、あなた方はそれを私に返さなければならぬからだ。あなた方の責任は大きい——私の言葉を直接聞いていない者たちの責任は、それよりも小さい。なぜなら、彼らが無知のうちに振る舞う一方で、あなたがたは、何を受け入れ、何を拒絶すべきかを知っているからこそ、完全な確信を持って行動するからです。もしあなたがたが危険を予感し、な誘惑に負けて転落するならば、それは自発的なものであり、自分が何をしているかを十分に認識した上でのことです。あなたがたには、悪行を正当化する余地はもはやありません。

31. 肉体が自分の意志を通そうとする場面において、あなたの魂の力と優位性を示しなさい。知識を身につけても、それを活用しなければ、何の益があるというのか。あなた方の目の前には、魂が踏み出す一步一步において何をすべきかを説く「知恵の書」がある。もしあなたがこの本を利己的に閉ざし、その知識を自己を律したり導いたりするために活用しないのであれば——あなた方の行いが、教えようとしていることの正反対を証明しているのに、どうしてその真理を説くことができるだろうか？ あなたがた自身が道でつまづいてしまつては、どうして周囲の人々の支えとなれるのでしょうか？ 自分自身を立ち直らせる力さえ持たないのに、どうして倒れた人を再び立ち上がらせることができるのでしょうか？ よく心に留めておいてください。周囲の人々に良い影響を与えたいのであれば、まず自ら模範を示さなければならぬのです。

32. あなた方の内には常に真理が支配していなければならないことを忘れないでください。

33. この道のりの最後までたどり着くためには、多くの障害を乗り越えなければならない。誘惑に打ち勝った者こそ、最も大きな功績を立てるのである。

34. 私の畑での仕事は厳しいが、やりがいにあふれている。

35. 良心の声に耳を塞がないでください。なぜなら、あなたの足元に深淵が開くかもしれないからです。そして、一度危険な道に足を踏み入れてしまえば、引き返すのは難しいのです。

36. あなたたちの頭上に降り注ぐ霊的なマナを集めなさい。そうすれば、砂漠を横断する間ずっと、それがあなたたちを養ってくれるでしょう。

37. 旅人よ、ここにオアシスがある。このヤシの木の下でしばらく休息し、失われた力を取り戻しなさい。まだ長い道のりが待ち受けていることを忘れずに、その道のりの終わりまでたどり着くためにはエネルギーが必要なのだ。

38. あなたがたの道のりを妨げるものは何でしょうか。どのような恐れを抱いていますか。祈りなさい。そうすれば、障害を取り除くことができるでしょう。祈りを信じなさい。そうすれば、不可能が可能になるのを見ることになるでしょう。

39. あなたがたが勝利を収めるためには、強い民でなければならない。そして、わたしの律法を全うすることほど、あなたがたに大きな力を与えるものはない。

40. 多くの誘惑、迫害、そして陰謀があなた方の上に降りかかるだろう。あなた方の道に茨をまき散らすことを喜びとする者たちも現れるだろう。しかし、あなたがたがわたしを信頼し、団結を保ち、わたしの教えに従うことに粘り強く努めるならば、これらすべてを乗り越えて勝利を収めることができるだろう。

41. ここにいるこの民は、日ごとに増えていくであろう。しかし、今、私の言葉を聞こうと駆けつける群衆が、あなたたちには大勢に見えるかもしれないが——まことに、私はあなたたちに告げる。あなたがたが証しを行う時代、私が去った後に集まる者たちと比べれば、彼らはわずかな数に過ぎないことがわかるであろう。

42. しかし、主の新しい民に関する知らせは、あなたがたが一致と兄弟愛によって、私がわが民のために用意している偉大な奇跡と力の現れにふさわしい者であることを証明して初めて、広まっていくのだと、私はあなたがたに告げなければならない。

43. わたしはあなたがたに犠牲を求めたり、最高の完全さを求めたりはしない。ただ、わたしの戒めに従うという揺るぎない決意と、あなたがた自身や隣人に対するわずかな慈悲を期待しているだけだ。残りはわたしが成し遂げる。しかし、あなたがたがこの一步を確実に踏み出したならば、私はあなたがたに、さらに大きな一步を踏み出すよう求めるだろう。そうすれば、あなたがたは荒野に留まることはない。なぜなら、そこはあなたがたの故郷ではないからだ。あなたがたも知っている通り、あなたがたの魂はその成長の過程において、私があなたがたの歩みを導く先にある、祝福された約束の地を見出すことになるのだ。

44. 「私は懸命に戦ってきたが、私の努力や犠牲に気づいてくれる者は誰もいなかった」などとは決して言うてはならない。私があなたがたの歩みのひとつひとつを見守り、行いのすべてを記録

していることを忘れてはならない。この世からの報いを期待してはならない。また、隣人からの理解や完全な正義を期待してもいけない。わたしを信頼しなさい。まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたに正當に与えられるべき報いについて、決してそれだけで終わらせることは決してないのだ。

45. また、収穫を得るために必ずしも死ななければならないなどとは考えてはならない——いいえ、人間としての生涯における功績に対する報いとして、ある種の果実はこの世のうちに与えられるだろう。一方、靈的な功績については、あなたがたが来世に到るその時が来るまで、報いを受けることはない。

46. おお、民よ、あなたがたが神の御言葉の啓示を理解し、後にそれを実践できるよう、あなたがたの知性に光が差し込みますように。

47. 愛する弟子たちよ！ 私の言葉を受け入れるために、心を器のように内も外も清めた上で、私のところに来なさい。私から発せられるものはすべて清い。そして、もし私を知りたいと願うなら、清い心で準備を整え、私の言葉の靈的な内容を吸収し、その意味を理解し、その後それを実践できるようにしなければならない。

48. 信仰や理想、精神状態がどうであれ、互いに愛し合い、尊重し合いなさい。一致団結し、赦し合いなさい。他人のことに首を突っ込んで裁こうとしてはならない。しかし、もし誰かのために取り成したいと思うなら、そうしなさい。そうすれば、やがて皆が一つになり、同じ理想に向かって歩む日が来るだろう。

49. わたしはあなたがたの隣人愛を試した。病める者、悲しむ者、そしてこの時代の大きな苦痛によって疲れ果てた者たちを、あなたがたの道に送り込んだ。あなたがたがわたしの教えを実践する機会を得られるよう、あなたがたの家族の懷に数え切れないほどの試練を送ったのだ。あなたがたは身内によって苦しめられ、彼らのために熱心にわたしに祈っている。しかし、わたしはあなたがたに言う。真の慈悲を実践するために、両親や子供たちのために祈ったのと同じように、見知らぬ人々、あなたがたの道に交差するすべての人々のためにも、わたしに祈りなさい。

50. 苦しみは人々の心を敏感にし、慰めを求めるその願いの中で、彼らはわたしを求めます。わたしは彼らの歩みを導き、彼らがわたしの業に加わるべき適切な時を知っています。まだわたしに耳を傾ける準備ができていない者も多くいますが、彼らがわたしの啓示を受け入れる準備ができるまで、わたしは彼らの歩みを留めておくでしょう。

51. わたしの業を信じるには、信仰が必要である。そのすべては霊的なものである。わたしはあなたがたに物質的な現れを与えたわけではない。ただ、あなたがたに立ち上がり、わたしの御前に至り、あなたがたを包み込むわたしの愛と慈悲を感じ取るよう求めただけである。

52. あなたがたがわたしを見ることができるよう、わたしは霊の目、すなわち信仰の目を備えさせ、また、あなたがたの心の感情を清く保ち、それを用いるようにした。あなたがたの賜物はまだ隠されているが、あなたがたが使命を始めることができるよう、わたしの言葉がそれらと呼び覚ますだろう。

53. 私があなたがたの環境の中に置いたものはすべて、完全であり、喜ばしいものである。それにもかかわらず、あなたがたは幸せではなく、自分の運命に満足していない。それは、あなたがたが人生を深く探求しておらず、また、自分たちの真の使命を理解していないからである。私があなた方に与えている恵みを列挙するのは私ではなく、感謝の心をもって、私が一人ひとりに注ぐ愛と、私があなた方に与えている善を認識するのは、あなた方自身である。

54. 私があなた方を遣わしたのは、償いをさせるためである。それは、私があなた方を愛し、あなた方が清く、私に見合う者となることを望んでいるからだ。あなた方は、第二の時代にイエスがそうであったように、茨が散りばめられた道を歩んできた。それは、私があなた方に私を模範とし、戦うことを学び、勝ち取る勝利のたびに、より強くなることを望んでいるからである。私は、あなたがたの幸福のためにすべてを準備した。すべては私の愛と正義に従って創造されている。なぜなら、私は父であり、その決定において決して譲歩しない厳格な裁き主だからである。

55. 愛する民よ、わたしの御心を行わせてほしい。わたしの律法に従えば、わたしはあなたを平安と霊的な栄光へと導く。これこそが、わたしのすべての被造物の定めである。自分の十字架を背負い、わたしに従いなさい。

56. あなた方は多くの賜物に恵まれ、自らの使命を果たすための知性、意志、そして理性を備えています。あなたがたの成長の道のりは長い。それは、あなたがたが何度も立ち止まってしまうからだ。もしあなたがたが、自己否定と使命の遂行というまっすぐな道を歩むならば、幸せになり、人生を大切にし、愛することを理解し、自らの霊的な賜物の価値を認識し、他人が持っているものを羨むことはなくなるだろう。

57. わたしの業は、自由をその基盤としている。あなたがたがわたしを認識できるよう、わたしはあなたがたの魂を照らす。あなたがたは、わたしが「わたしの姿と似姿」として創造した、最も恵まれた被造物であり、わたしはあなたがたの中に、わたしの恵みの賜物を授けたのである。

58. あなたがたが登っていく階段は高く、自分がどの発展段階にあるのか、あなたがたにはわからない。今日、あなたがたが歩む道は、あなたがたの発展に応じてあらかじめ定められている。なぜなら、すべてのものは不変かつ永遠の法則と関連しており、それらに従属しているからである。

59. 私が比喩を用いてあなたがたに語る神殿は、霊的なものである。それは石で建てられた建物ではなく、私のもとへ到達するまで高みへと舞い上がろうとする人間の信仰、すなわち愛の神殿である。あなたがたが築く堅固な土台の上に、来るべき世代が築き上げていくであろう。

60. 私が彼らに私の業、私の御言葉を示すとき、後世の人々の喜びは計り知れないものとなるだろう。彼らはどれほど私を求め続けたことか！ 私にたどり着くために、どれほど多くの苦しみを耐え抜いたことか！ 彼らの目標はただ一つ、霊的な道を見出し、魂を養い、完成させることができる源に到達することである。そして、彼らの行いにはどれほどの進歩が見られることか！ 彼らは、私の言葉を渴望して経験した苦難について証しをし、また、あなたがたが彼らを待ち望んでいたことについても証しをするだろう。なぜなら、私はこれを預言としてあなたがたに告げていたからである。私は、そのな完成のために、私の業の一部をあなたがたに託した。そして、あなたがたがこれを成し遂げたとき、あなたがたは、自分の神と協力できたという満足感から、微笑むことになるだろう。

61. 休息し、魂が養われるようにしなさい。私の臨在を感じたとき、あなたの心が高鳴るのを許しなさい。

62. あなたがたが立ち止まらないよう、私はその道のりであななたがたを励ましている。私は、誰が時間と機会を活かしたか、誰が時間を浪費したか、そして誰が霊的成長への道を怠惰に歩んでいるかを知っている者である。

63. あなたがたが自らの進歩や後退について責任を問われるのは、霊界に身を置いた時になって初めてのことである。

64. 私がすべてを整える。そうすれば、あなたがたが再び地上に生きるこの時代に、人間を通して現れる師と出会うことができ

るだろう。師は、あなたがたに自らの使命を思い出させ、善き模範の軌跡を残すよう促す。それによって、無知や偶像崇拜、宗教的狂信の中で生きてきた者たちが、正しい道へと導かれるようになるのだ。

65. 私は、あなたがたの謙虚な口から発せられる言葉の光、深遠さ、そして真実によって、人々が驚嘆するように、あなたがたを準備する。あなたがたは私の証人であり、使者であり、また私の道を切り開く者たちである。

66. 私が時折、あなたがたを正し、時には叱責することさえあるのは、情熱や激動、あるいは不運が、一時的にあなたがたの知性の光を曇らせ、迷いや物質主義、あるいは冷淡な無感情に陥らせてしまうからである。

67. わたしの慈悲は、あなた方を救いの道へと導き、この人生の旅路にある光を見ることができるよう、あなた方の目から無知の覆いをすべて取り除いた。罪ある目であれ、そうでない目であれ、すべての目がわたしを見るようになることを覚えておきなさい。

68. あなたがたは、自分の心に真の信仰があるかどうか自問したことがあるだろうか。その炎の温もりを感じたことがあるだろうか。

69. さて、真の信仰が存在するという証拠を、今、あなた方に告げよう。

70. 試練の時にも心が挫けないこと。最も危機的な瞬間にも、平安が魂を満たしていること。信仰を持つ者は、私と調和している。なぜなら、私は命であり、健康であり、救いそのものだからである。真にこの安息の港とこの灯台を求める者は、滅びることはない。

71. この美德を持つ者は、人間の知恵をはるかに超えた奇跡を行い、御霊とより高き命の証しとなる。

72. あなたがたがわたしを信じるならば、不信仰者はあなたがたを動揺させることはできず、中傷もあなたがたを傷つけることはできない。

73. わたしはあなたがたの中に信仰を育み、試練を通してあなたがたを強くした。それは、あなたがたが、あなたがたの信仰によって養われる人々の群れを引き寄せ続けられるようにするためである。

74. 私はこの時代に、あなたがたにこう告げた。「私があなたがたに語りかけるその肉体の中に私を探してはならない。そうす

れば、あなたがたはその不完全さに不快感を抱き、その欠点を私の業のせいにしてしまうだろう。あの唇から発せられる言葉の真髓を深く探求せよ。そうすれば、その意味、その本質の中に、師を見出すことになるだろう。」

75. わたしが自らを現す者たちを偶像視してはならない。そうすれば、彼らはかつてあなたがたの心の中で、キャンバスに描かれた絵や石に彫られた彫像が占めていた位置を占めることになり、あなたがたは、父があなたがたの魂を完全に支配することを許さなかったあの物質主義や宗教的熱狂に、依然として陥り続けることになるだろう。

76. この言葉の真意を心に留めておきなさい。そうすれば、この教えをもう聞くことができなくなったとしても、あなたがたの心の奥底で、天の御言葉が響き渡り、あなたがたを高め、主との直接の対話へと招き入れるのを感じることができるでしょう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 238

1. 愛する民よ、主はあなたにこう告げられる。「わたしは、わたしの民と、あなたがたの心の中にある聖所を慕って来る。今こそ、それをわたしのために閉ざしてきた者たちが、霊化のためにそれを開く時である。それを破壊した者は、それを再建し、強固なものにせよ。闇の中にいる者は、信仰の光でそれを照らすべきである。しかし、まことに、あなたがたに告げる。物質的な神殿を建てることに時間を浪費してはならない。あなたがたがそこに注ぐ献身や優雅さ、芸術こそが、わたしに捧げられる最高の礼拝であると考えらるからである。

私が許すのは、天候の厳しさや他人の好奇の目から身を守るための、質素な場所を用意することだけである。これらの集会の場は、単にあなたがたが集まるためのものであり、「神殿」と呼んではならない。なぜなら、無知な者が、あたかも聖なる場所であるかのように、ついにはそれらの場所を崇拜してしまう恐れがあるからだ。

2. 礼拝に儀式や儀礼を取り入れてはならない。そうすることで、あなたがたは、私が託した「慈悲と愛を広める」という使命から遠ざかってしまうかもしれない。

3. 外見においても内面においても、質素さと簡素さ——それこそが、私があなた方に求めるものです。そうすることで、あなた方の魂の中に、栄光に満ちた私の臨在が宿るでしょう。

4. 私はあなたがたの心の中にあり、魂の中に生きています。あなたがたが自らの存在の最も奥底で私の神聖な臨在を感じているのなら、なぜ物質的な物を通じて私を表す必要があるのでしょうか？もし私が世俗的な栄華を求めていたなら、馬小屋ではなく、シオンの神殿の中で人間として生まれてきたはずではないのでしょうか？マリアが神殿で知られた人物であり、あらゆる神の導きに献身的に従順であったことを、あなたがたも知っているはずなのに、一体どのような障害が、私がその場所で生まれることを妨げることができたのでしょうか。

5. わたしの言葉を深く考え、わたしが人間から決して外的な礼拝を求めたことはなく、ただ彼らの愛、高揚、信仰、そして魂の果実であるすべてのものを求めてきただけであることを思い起こしなさい。

6. しばらくの間、あなたがたはこれらの場所を保ち続け、そこで集会を執り行うことになるでしょう。なぜなら、私があなたが

たに残す御言葉をそこで聞き、それを深く探求し、実践しようと試みるために、それらはまだ必要だからです。しかし、あなたがたに「」を教える時期、すなわちあなたがたの備えの時期は過ぎ去り、その時には、もはやそれらを必要としなくなるでしょう。

7. 信仰の炎は、わたしの弟子たちの魂の中でますます燃え上がり、すべての心がわたしの祭壇となり、隣人への愛が彼らにとっての礼拝となり、そしてどの家庭にも聖所が設けられるであろう。あなたがたは、祈りによって人々の魂があらゆる害悪やこの世のあらゆる苦難を超越することを、周囲の人々に理解させ、彼らは主の神殿が普遍的であり、無限であり、人間の魂の中にも、その肉体の中にも、目に見えるものにも見えないものにも、至る所に存在することを悟るようになるでしょう。人々は、かつて私に血の犠牲を捧げていた時代が過ぎ去ったのと同様に、儀式や外的な儀礼による神への崇拝もまた過ぎ去らなければならないことを理解するでしょう。霊化は、あなた方の人間社会を清め、私の教えは理解されるようになるでしょう。

8. 真の祈りが到来する。それは、私の神聖な御目には喜ばれる、高次の霊的な神への崇拝であり、正しく理解された悔い改め、すなわち、後悔、改心、そして犯した過ちの償いである。人々の心には、心の清らかさに根ざした真の愛が現れ、人々は、祈りにはほんのわずかな瞬間で十分であるが、人間として善を行うという使命を果たすためには、人生のあらゆる瞬間を必要とすることを理解するようになるだろう。

9. おお、弟子たちよ、わたしの教えについて深く考え、その真髄を探求しなさい。そうすれば、その核心において、言葉が表す以上のもの、はるかに多くのものを発見するでしょう。わたしはあなたがたに寄り添い、啓示を与えます。そうして、伝達者の知性がそれを伝えることができなかったために、わたしの言葉の中に隠されたままになっていたすべてのことを、あなたがたが認識できるようになるのです。

10. 今日、私はあなた方を歓迎する。私の食卓に着きなさい。私は、私を愛する者も、私を拒む者も等しく迎え入れる。あなた方は皆、私の子供たちであるから、私はあなた方全員を等しく慈しむ。

11. 私は罪人たちの間に身を置いている。この地上に、果たして義人は一人でもいるだろうか。私はあなたがたに、私の御国の恵みを与え、それを得るための手段を手の届くところに用意している。もしあなたがたが私の天の御国を願うなら、私はそれを与え

ます。それは、世の初めからあなたがたに約束されていたものだからです。主の子らであるあなたがたは、その御国の相続人です。しかし、約束の地を勝ち取るためには、どれほどの功績を積み重ねなければならないことでしょう！ ある者は長く苦しい闘いを通じてそれを手に入れるだろうが、一方で、の道において大きな歩みを踏み出し、まもなく光の御国に近づく者たちもいる。ディマスが死の苦しみの中にあった時、私が彼の悔い改め、信仰、そして謙虚さを見たとき、彼に何を約束したか覚えているか。私は、その日のうちに私と共に樂園にいることを彼に申し出たのだ。

12. 人間たちよ、私は皆に問う。そして、ここにいるこの民を、あなた方の代表として見なす。いつになったら、あなた方は内面から立ち上がり、互いに愛し合い、互いの侮辱を赦し合うようになるのか。いつになったら、この惑星によりやく平和が訪れるのか。

13. 愛から生まれる赦しこそ、私の教えが唯一説くものであり、それは悪を善へと変え、罪人を徳ある人間へと回心させ、寛容させるための強大な力を備えている。

14. 許すことを学べば、あなたがたの世界に平和の始まりが訪れるだろう。たとえ千回許す必要があっても、千回許すべきである。適切な時に和解を果たすことで、苦しみの杯を飲むことを免れることができることを、あなたがたは気づいていないのか。

15. 私は、あなたがたにふさわしい苦痛について語っている。あなたがたはそれをますます増大させ、時が来ればそれは溢れ出すだろう。私は決して自分の子供たちにそのような杯を差し出すことはない。しかし、私の正義において、あなたがたが悔い改めて私のもとへ戻ってくるように、あなたがたの悪意、高慢、そして軽率さの果実を刈り取らせることは許されるのだ。

16. 人々は、その科学をもって、万物が調和を保つ自然の聖域を冒瀆し、わたしの力と正義に挑んだ。それゆえ、今や彼らに対する裁きは容赦のないものとなるだろう。

17. 自然の力が解き放たれ、宇宙は揺さぶられ、大地は震えるだろう。その時、人々は恐怖に駆られ、逃げ出そうとするだろうが、逃げ場はない。彼らは解き放たれた力を抑え込もうとするが、それは叶わない。なぜなら、彼らは罪悪感を抱き、自らの傲慢と愚かさを手遅れになって悔い改め、罰を逃れるために死を求めることになるからだ。

18. 民よ、あなた方はこれらの預言を知っている。もし「成長」せず、私があなた方に託した平和を維持しようと努めなければ、起こるすべてのことに責任を負うことになる。

19. 杖と旅の荷物を用意しなさい。わたしはあなた方を預言者および使者として遣わし、諸国民に警告させるからである。

20. ある者は東へ、ある者は西へ、またある者は地球上のその他の地点や道へと向かうであろう。

21. あなたがたは、この時代に私が任務を授け、私の弟子とするために選んだ「恵まれた者」であるという考えに、驕ってはならない。しかし、私はこうも言う。ただ「召された者」であることに満足してはならない。選ばれた者となるために、功績を積みなさい。

22. あらゆる虚栄心を捨て去りなさい。そうすれば、土の湿気で膨れ上がり、やがて無に帰してしまう虫のようににはならないだろう。

23. あなたがたがつまずくことのないよう、私があなたがたを深く愛しているという信頼に安住してはならない。確かにあなたがたは深く愛されているが、それと同様に、あなたがたは厳しい試練にもさらされているのだ。

24. 地球の表面の四分の三は消え去り、混沌を生き延びた者たちの避難所となるのは、ほんの一部だけが残るだろう。あなたがたは、多くの預言が成就するのを目の当たりにするだろう。

25. 民よ、私の指示に従いなさい。そうすれば、私はあなたがたのために約束されたことを成就させてあげよう。

26. 祈り、見張り、愛を蒔き、光を広め、慈悲の足跡を残しなさい。そうすれば、あなたがたは良心と和解し、創造主と調和するでしょう。

27. この言葉に注意深く耳を傾けなさい。そうして、後にそれを解釈し、人々の心に植え付けるためである。単に理解するだけでは満足してはならない。このことについて語り、模範を示し、自らの行いを通じて教えなさい。思いやりを持って、いつ語ればよいか、そしていつが、あなたがたの行いがわたしの教えを証しすべき適切な時であるかを悟りなさい。

28. わたしは、わたしの言葉を広めるために、ただ一つの言葉をあなたがたに与える。その言葉とは、すべての人々に理解される霊的な愛である。それは人々の耳と心に安らぎを与える言葉であり、彼らが心の中に築き上げたバベルの塔を、石一つ一つ取り壊し

ていくであろう。そうすれば、すべての人が互いを兄弟姉妹とみなすようになるため、わたしの裁きは終わるだろう。

29. 人よ、畑は受け入れる準備ができており、実り豊かである。心と体を整えよ。そうすれば、旅立ち、この啓示の種を蒔き、同時に新しい世代のための道を切り開くための条件を満たすことになるだろう。

30. わたしは、あなたがたの間に住むべき「大いなる光の霊たち」を遣わすと約束した。彼らは、この地上に近づき、転生し、回復という偉大な使命を果たす時をただ待っている。その霊的存在たちがこの世界に生きようになったとき——あなたがたは彼らに何を教えなければならないだろうか？ まことに、私はあなたがたに告げます。何も教える必要はありません！ なぜなら、彼らは教えるためにやってくるのであって、学ぶためではないからです。あなたがたは、彼らが幼い頃から深遠な事柄について語り、科学者や神学者たちと議論を交わすのを目にして驚嘆するでしょう。彼らは自らの経験によって大人たちを驚かせ、子供や若者たちに正しい道を心に刻ませるのです。

31. こうした霊的存在の一人をその懷に迎え入れる家庭は、幸いである。わが使者の使命の遂行を妨げようとする者たちが負う贖罪の重荷は、いかに重いことか！

32. 今こそ、私がなぜあなたがたにますます清められ、生まれ変わることを求めているのかを理解しなさい。そうしてこそ、あなたがたの結ぶ実が世代から世代へと、ますます清らかなものとなるのだ。

33. もしかすると、あなたがたの家庭こそが、それらの光の存在たちを迎え入れる場所となるのかもしれない。もしあなたがたが準備ができていれば、私はあなたがたを選び出すだろう。もし準備ができていないならば、私はふさわしい心を探し出し、彼らをそこへ遣わすだろう。

34. ここにいるあなたがたは、わたしの預言を信じている。しかし、かつての啓示を拒んだように、この時代にもわたしの言葉を拒む者が多く現れるだろう。だが、心配するな。なぜなら、わたしの言葉が成就したとき、彼らは不信仰を恥じて、真っ先に顔を伏せる者となるからだ。

35. 人々によって否定されてきたあらゆる神の啓示は、認められ、信じられるようになるだろう。教会や宗派によって忘れ去られたり、隠されてきたりしたすべてのことが、明るみになることになる。

36. あなたがたは、自らの模範を通じて、霊性と敬意をもって、父によって啓示された教えを深く理解し、父が与えてくださった範囲を超えてはならないことを、この世に教えなければならない。愛、謙遜、敬意——これこそを、心の準備もなしに主の神秘を探ろうとしてきた人類に、あなたがたは教えなければならない。

37. あなたがたは、両親の寝室を尊重しないのか。それならば、天の父の神秘を、なおさら尊重しなさい。私があなたがたに明らかにし、示してきたことはあまりにも多く、あなたがたはまだすべてを把握しきれていないというのに、すでに新たな神秘を求めて、そこに踏み込もうとしている。

38. 人間の人生よりも高い次元に属する、より高次の科学、すなわち知恵を学ぶ者たちであるあなたがたに、私はこう告げる。私があなたがたに啓示する以上のことを知りたがってはならない。そうすれば、すぐに誤りに陥ってしまうからだ。わたしは、あなたがたに多くの教えを授けてきたし、人間の知性を介して、さらに多くのものを与えるつもりである。あなたがたは、これから多くの新たな啓示を知ることになり、自分が想像していた以上のことを理解できるようになるだろう。

39. 神の教えである私の言葉は、常にあなた方の人生における試練や出来事と共に訪れる。それは、この教えがあなた方の心の中であまなす確かなものとなり、あなた方が単なる理論上の弟子ではなく、その行いによって私の真理を証しする弟子となるためである。

40. あなたがたは、試練を経験して初めて、私の言葉の一つを理解することがよくあるのではないだろうか。

41. 私が時折、魂の不死や、あなたがたが人生や死について抱いている誤った考えについて語ったとき、あなたがたは私の教えを聞いたその時点では、私を理解していなかった。しかしその後、あなたがたの家庭に試練が訪れ、愛する人をこの世から送り出すのを目の当たりにし、現実と真理の光に目が開かれたとき、あなたがたは、私がすべての御業にこれほど多くの完全さを注ぎ込み、あなたがたを無知と誤りから救い出してくださったことに感謝したのです。

42. 知性と霊をもって、わたしの言葉の奥深くに入りなさい。あなたがたの存在の核心に集中し、霊と肉体の間にただ一つの意志があるようにしなさい。そうすれば、あなたがたはわたしの教えをより容易に理解し、試練をより高揚した心持ちで乗り越えることができるだろう。

43. この世の富に乏しい者たちよ、偉大になりたいという渴望をもって、わたしの言葉というパンを口にする者たちよ、祝福あれ。わたしの道において、彼らはそれを達成するからである。この世では富んでいるにもかかわらず、わたしから学ぶためにその安楽を捨て去る者たちよ、幸いである。彼らは真の富を知るようになるからである。

44. 今日、私の御霊は一筋の光となって人類の上に降りてくる。それは、私の正義に対する恐れも、互いへの愛も存在しない時代である。

45. あなたがたは謙虚な民であり、わたしの臨在と、またわたしの御言葉の証人である。しかし、この民には愛が欠けており、わたしの啓示に対して敬意が見られない。それは、人々がそれに慣れてしまったからである。それゆえ、わたしは時に、正義に満ちた御言葉をもってあなたがたの心の無関心に触れることで、あなたがたに責任を問うのである。

46. ああ、弟子たちよ、よく考えなさい。もし今、この神聖な御業に対して敬意を払わなければ、後になって、義務を果たす道を進み、主人の御業において従順な働き手となる者たちにはなれないだろう。

47. 今この時は、人類にとっての試練である。世界の主要な諸国は、血に飢え、憎悪に目がくらんだ野獣のように互いに襲い掛かる準備を進めている。小国々は、悲しみと破滅を意味する戦争の兆しに恐怖を抱いている。家庭は暗雲に包まれ、人々の心は恐怖に震え、平和と正義を愛する者たちは、人類の平和を脅かす戦争という想像に苛まれている。

48. この瞬間、どれほどの進歩への夢が打ち砕かれていることか！ どれほどの幻想が泡と消え、すでにどれほど多くの命が死の宣告を受けていることか。おお、民よ、今こそあなたがたの仕事に着手し、この世におけるあなたがたの存在を明らかにすべき時である。今こそ、祈るべき時である。

49. 祈りなさい。その際、あなたがたの信仰を具現化し、この恐怖の時にわたしを呼び求め、世界に平和が訪れるよう願うすべての人々の心と、あなたがたの心を一つに結び合わせなさい。魂の積極的な働きから背を向け、権力への欲望や憎悪の感情に基づいて自ら設定した物質的な目標の追求のみに生きているすべての人々のために祈りなさい。

50. 空間を清らかな思いで満たしなさい。その一つひとつが、目に見えない世界——人々の思いが振動する場所——において、

世界を支配しようと脅かす闇の勢力の滅亡を成し遂げるために戦う剣となるようにしなさい。しかし、祈りの力を信じてください。なぜなら、もし祈りが無限の中に消え去ってしまうと考えてしまえば、それは同胞たちの心に届くのに必要な力を持ち得ないからです。

51. たとえ不完全であっても、あなたがたの思いは常にわたしのものとへ届く。また、あなたがたが常に込めるべき信仰が欠けていたとしても、わたしはあなたがたの祈りを聞き取っている。その理由は、わたしの霊がすべての存在の波動と感情を受け止めているからである。しかし、利己心のために互いに距離を置き、今日、自ら陥ってしまった物質主義の結果として霊的な生活から遠く離れている人々は、思考を通じて互いに意思疎通を図る準備ができていない。それでもなお、私はあなたがたに、精神を鍛え始める必要があると告げます。これを達成するために、たとえ魂たちから明確に感知できる返答が得られなくても、魂たちに「語りかけ」てください。明日、すべての人が「与えること」を学んだとき、人々が夢にも思わなかったような、霊的な意思疎通の兆しがますます多くもたらされるでしょう。

52. もう一度言うておくが、わたしはあらゆる思いや願いを受け止めている。それに対して、この世界は私の靈感を受け取る術を知らず、その知性の中に私の神聖な思いが輝きを放つよう準備もしておらず、私が彼らの呼びかけに応えても、私の声を聞くこともない。しかし、私はあなた方を信じている。あなた方を創造し、私の魂の火花である光の魂と、私の姿そのものである霊を受けたからである。

53. もし私が、あなたがたに完全になることを期待していないと告げるとしたら、それは、私の神聖な意志から生まれた最大の業において私が失敗したと宣言するようなものであり、それはあり得ないことである。

54. 私は、あなたがたが、魂がその道中で遭遇するあらゆる誘惑に打ち勝ち、光に満ちて新たな存在へと昇華していく時代を生きていることを知っている。

55. 今日、私があなた方に対して行ったこの啓示において、私はただ一つの教えを与えたに過ぎない。それは、将来、あなたがたが父と、また思考を通じて隣人との間で交わすことになるものについて、あなた方にイメージを持たせるためのものだ。これこそが、あなたがたが到達すべき目標である。しかし、これほど純粋な

働きにふさわしくない手段を用いて、父のもとへ到達しようとしてはならない。

56. 学び、行動し、粘り強く努力しなさい。そうすれば、いつの間にか、やがて霊と霊との対話に到達することになるでしょう。

57. 今日、あなたがたは木陰に身を置き、そこから「第三の時代」から語りかける声、すなわち聖霊の声を聞くことになる。

58. 今日、あなたがたが経験した試練ゆえに、この日のあなたがたの昇華は大きなものとなった。

59. ここ数日、恐怖があなたがたの心を支配し、あなたがたは「見張っていた」。疲れ果てた者たちは目を覚まし、弱き者たちは、嵐に耐える力を見出すことのできる「木」への渴望に駆られて立ち上がった。

60. なぜ恐れるのか、民よ。あなたがたはわたしの憐れみの庇護の下にあるではないか。信仰が欠けることのないよう、わたしの指示に従いなさい。、あなたがたがわたしを信頼するたびに、わたしの言葉があなたがたの口にあり、わたしの光があなたがたの知性の中にあることを思い起こしなさい。そうすれば、あなたがたは人々を驚嘆させたのである。あなたがたの不信が私からあなたがたを引き離れたときはいつでも、あらゆる力があなたたちから去っていったことを忘れてはならない。

61. あなたがたの魂は、奴隷状態を熟知しているからこそ、それを深く恐れている。あなたがたは、ファラオのくびきを深く恐れているのだ。あなたがたはこの世の自由を愛し、それを通じて平和を求めます。戦争や流血、苦痛を望まず、子供たちが混沌に陥らないよう功績を積むことを志し、明晰さを得て、自らを新たにし、わずかな純潔を保つために祈っています。

62. 平和はわたしの中にのみ存在するから、わたしだけがあなたたちに平和を与えることができる。

63. この平和を渴望する中で、諸宗教団体をじっくりと観察してみよ。そうすれば、そこには平和は見出せないだろう。召された指導者たちの言葉に耳を傾けてみよ。そうすれば、彼らの言葉には平和の本質が微塵も含まれていないと確信するだろう。王宮から最も貧しい小屋に至るまで、平和を探し求めてみよ。それでも、この時代、平和は地上から遠ざかってしまったため、それを見つけることはできないだろう。

64. なぜ、信者も非信者も、このささやかな集会所でわたしの言葉を聞くと、その心に平和が満ち溢れるのを感じるのだろうか

か。この事実だけでも、あなたがたの前に現れているのがわたしの神聖な御霊であることを証明するには十分ではないだろうか。

65. 私が、あなた方に私の平安をもたらし、勇気と信仰と力を満ちし、あなた方が人々の心に祝福と平安をもたらすよう定められていることを思い出させるために、ここに来るのはこれで三度目である。人類はすでにそれを待ち望み、真の慈悲をもって手を差し伸べてくれる者たちの到来を切望しており、大地はすでに、愛の種を蒔くのにふさわしい肥沃な状態にある。各地で疫病がさらに広がり、科学では対処しきれない未知の病気が発生している。世界観の混乱と道徳的退廃が、世界を奈落の底へと追いやってしまった。しかし、私の使徒たちは、それらの苦しみを和らげ、その闇に光をもたらすためにまだ来てはいない。なぜなら、彼らは準備を進めるのが非常に遅いからである。

66. もし誰かが、自分は貧しいと思い、自分の服がぼろぼろでみすばらしいからと言って躊躇するならば、それはその人が信仰を持たず、気づかぬうちに私の神性を冒瀆しているからである。

67. あなたがたは、今なおこの世の権力者たちに頭を下げているのか。人間の富に、今なお感銘を受けているのか。いいえ、わが民よ、人間の生涯において唯一偉大であり、真の価値を持つものは、魂の高みへの発展であり、わが言葉はあなたがたをその道へと導くのである。

68. 地上で偉大で権力を持っていた者たちは、霊的な宝や永遠の命への道を忘れてしまったがゆえに、どれほど貧しい姿で私の天の門にやって来ることであろうか！ わが王国の真理は謙虚な者たちには明らかにされているが、学者や教養ある者たちには隠されている。なぜなら、彼らは霊的な知恵に対しても、地上の科学に対して行ったのと同じことをするだろうからである。すなわち、その光の中で、彼らは自らの虚栄のための玉座を求め、争いのための武器を探すだろう。

69. わたしがこの秘密を明かしたあなたがたとは、いったい誰なのか。あなたがたは、かつて生きていたことだけは知っているが、自分が誰であったかは知らない。それゆえ、自分が誰であり、将来誰になるのか、どこから来て、どこへ向かうのかも知らないのだ。だからこそ、わたしは師としてあなたがたのところへ来て、あなたがたが知らないすべてのことを教えるのである。

70. 最初の時代、ヤコブとその家族は真の神を認識した。そして父なる神は、あの人々が神性への信仰の種を保っているのを見

て、彼らを異教徒や偶像崇拜者の民の懷に住まわせ、そこで神の存在と力を証しさせるために遣わされたのである。

71. そこで、族長の家族は増え続け、その子らは新たな家族を築き、それらは部族となった。しかし、この国の王は、自らの支配下で勢力を拡大するその民を恐れた。王は彼らから自由を奪い、鎖で縛り、強制労働を課すことで、彼らを奴隷とした。

72. その試練は大きく、長く続き、苦痛に満ちていた。男たちは働き、鞭の下で倒れ、女たちの心には涙と苦悩が満ちていた。その民には、異教徒たちに対して自らの信仰と強さを証明するため、屈辱と悲慘がのしかかっていた。しかし、民の苦しみを見て心を動かされた父なる神は、ファラオに御自身の力を明らかにしようと、モーセという名の男を召し出し、彼を準備し、啓示を与え、民を解放させた。神は彼に次のように言われた。「行って、ファラオとわが民の前で、わが正義と力を示せ。わが民でさえも弱くなり、わたしを忘れ、異教徒の慣習や信仰観に心を染められてしまったからだ。忠実であり続けたあなたに、私はこの使命を授ける。それは、あなたが同胞の中に自由という理想を燃え上がらせ、ファラオにイスラエルをカナンの地、すなわち約束の地へと向かわせ、彼らがその神に仕えることができるようにするためである。民が祈り、『見張る』ことを怠らず、殺戮の武器によって自由は得られないことを悟るよう、導きなさい。」

73. その男は、民の自由を求めてファラオの前に何度も現れたが、そのたびに拒絶された。そこで主は御自身の正義を示され、エジプトに災いと不幸が降り注がれた。その苦痛と破壊が極限に達したとき、王はモーセを呼び寄せ、彼とその民が国から去ることを許した。

74. イスラエルが自由を渴望して国を去ると、ファラオは、その男が真に神の權威を授かっていたことを悟った。

75. モーセは、旅路の苦難や苦痛に耐えられるよう、民の信仰を強めた。その旅は長く危険に満ちており、多くの者が道中で、疲労や老いに打ち負かされ、約束の地を目にすることもなく倒れていった。しかし、彼らの子孫たちは、乳と蜜の流れる、イスラエルの民が待ち望んでいたその地へとたどり着いた。

76. その地は、それを征服した者たちにとって、あたかも新たな樂園のように広がっていた。そこには平和と豊穡と豊かさが満ち、広大な谷、水晶のように澄んだ水、そして晴れ渡った空があり、その民はそこで増え続けた。そこで、真の神への崇拝が花開いた。

しかし、その平和と幸福は永遠には続かなかった。なぜなら、その民は、あの祝福の地の真ん中でさえ、誘惑や偶像崇拜、不和に陥ってしまったからである。彼らは生命力を失い、再び異教徒や権力欲に駆られた諸民族に支配されることとなった。彼らが祈り、わたしを求め続ける限り、彼らは強かった。しかし、快樂や虚栄に溺れてわたしを忘れてしまうと、彼らはわたしの恵みを失ってしまった。

77. ソロモンの知恵とダビデの靈感に思いを馳せてほしい。彼らの王国の栄光は偉大であったが、誘惑に負けたとき、彼らはすべてを失ってしまった。

78. その民は再び異邦諸国への貢納義務を負う者となり、後に皇帝の臣民となった。その民はエホバとの契約を忘れていたため、預言者たちの言葉——すなわち、民に救い主、すなわちメシアが約束されていたという預言——が成就されるために、父なる神がその契約を新たにする必要があった。メシアは、失われたすべてのものを救い、靈的な故郷、天の御国、真の約束の地へと続く道を世界に教えるために、人となられたのである。

79. 新しい解放者はキリストであり、彼はあなたがたに柔和さを教え、しもべとして民と出会った際、「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」と教え、それによって彼らの魂を解放した。

80. モーセが約束の地には足を踏み入れず、山の高みからその影のような姿を見たように、キリストもまた、十字架の上から、御自身のすべての子供たちを待ち受ける天の御国を仰ぎ見たのである。

81. わたしに従った者たちは、どれほど多くの苦難に耐えたことか！ 国々、州、帝国を横断して、彼らは追われ、迫害された。鞭打ち、殉教、そして血の犠牲が彼らの道のりに立ちはだかり、多くの人々は、祈りを捧げ、恐れずにわたしの名を口にできるよう、地の底へと身を隠した。しかし、キリスト教徒の揺るぎない信念と信仰を目の当たりにしたとき、処刑人の手がどれほど頻繁に震えたことか！ 支配者たちでさえ、彼らの面前に立つとき、あるいは、主の名を口にしながら息を引き取る犠牲者たちの靈感に満ちた言葉を耳にしたとき、どれほど頻繁に身震いしただろうか。

82. イエスの歩んだ道は血に染まっていた。そして、それは使徒たちや殉教者たちが辿った道でもあった。しかし、信仰の多くの奇跡と、愛による数多くの犠牲によって、人々の魂が打ち負かされ、征服されたとき、その闘いはついに終焉を迎えた。

83. わたしの言葉は諸国に響き渡り、わたしの教えは人々の心に浸透し、地上で神の国の平和が感じられる時代が訪れた。キリストは王たちからも貧しい人々からも愛され、その御存在は人々の心の中で感じられた。諸民族は次々と近づき、多くの敵意は消え去った。そして、私の名はあらゆる言語で愛を込めて唱えられるようになった。

84. しかし、ファラオを打ち破り、荒野の試練に耐え抜いたあの民はどこにいるのか。また、その後、イエスの言葉だけを武器として、自らの犠牲的な死によって世界帝国や政権を打ち破った者たちはどこにいるのか。まことに、あなたがたに告げる。彼らはこの地上にいる。

しかし、再び私は忘れ去られ、私の律法と教えは歪められてしまった。そこで私は、忠実で、謙虚で、無私無欲であった魂たちを、再び地上に遣わし、私の到来と私の言葉について証しを立てさせた。しかし、この時代において、わたしがこの民を単一の人種から、あるいは単一の国家から成らせたわけではない。なぜなら、わたしはあなたがたに、神の民であるイスラエルは、肉によってではなく、霊によって築かれたのだと告げたからである。

85. あなたがたが誰であることを明らかにできるのは、わたしだけである。そして、わたし
言っておく。 あなたがたが何のためにここに来たのかを明らかにし、あなたがたが進むべき方向を示す。あなたがたは、あの強き民の種であり、この生に生まれ変わったのは、かつて別の時代に約束の地へ到達するために砂漠の苦難を乗り越えたように、霊の平和の王国を勝ち取り、世界に光をもたらすために奮闘するためである。

86. それゆえ、わたしはあなたがたに、あなたがたの遺産を示し、あなたがたの賜物を明らかにする。それらが、あなたがたが畑を耕すための農具となり、戦うための武器となるためである。

87. それなのに、何をおそれているのか。これからも奴隷であり続けたいのか。「いいえ」と、あなたがたの心は私に答えている。

88. わたしは、さまざまな預言者たちを通じて、地上に大きな混乱が訪れることをあなたがたに告げた。ある者たちは、まだ眠気から覚めきらないままに信じましたが、他の者たちは疑いました。それゆえ、彼らが目を覚ますためには、戦争の知らせが彼らに届く必要があったのです。彼らがわたしの言葉の成就を目の当たりに

して信じるようになるためには、彼らの子供たちが兵役に召集される必要があったのです。

89. 目を覚まし、祈りなさい。そして、あなたがたの息子たちのことを心配してはならない。なぜなら、わたしが彼らを、人々の群れの中で平和の兵士とするからである。

90. エリヤは、あなたがたや諸国民に先立ち、道を整え、真理の光によって魂を解放する。91. わたしの言葉を吟味し、その深みを究め、その神聖な本質を見出せ。

92. わたしはあなたがたを強くし、わたしの祝福をあなたがたに残す。

わたしの平安があなたがたと共にありますように！

教え 239

1. わたしを感じなさい。わたしはあなたがたに非常に近いからです。わたしの臨在を確信する者は、心の奥底でわたしを感じます。

2. それにもかかわらず、私はもう一度言うておく。誰も、あなたがたに信じることを強要したり、私に従うことを強要したりはしない。信仰の光は自ずと灯り、それがあなたがたの愛を明らかにするだろう。

3. あなたがたは、この地上の谷において、私が理性の賜物を授けた、最も恵まれた被造物である。そして私は、あなたがたを、私の力の業、被造物、そして顕現に満ちた広大な世界のただ中に置いた。それらは、それらに命を与えた方が全能であることを証している。

4. 私は初めから人間に思想の自由を授けてきたが、人間は常に奴隷であった——ある時は狂信によって、またある時はファラオや皇帝の誤った信仰観の奴隷として。それゆえ、現在、精神が獲得しつつある自由と、その目に広がっている明晰さに対し、人間は眩惑されているのである。なぜなら、その理性は、この自由には慣れていないからである。

5. 人間は、霊的な事柄を理解する力を弱めてしまっていた。それゆえ、狂信に陥り、曲がりくねった道を歩み、他者の意志の影のような存在となってしまったのである。

6. 人間は自由を失い、もはや自分自身も、自らの思考さえも支配できなくなっていた。

7. しかし、光の時代が到来した——真実への渴望を抱き、無限の彼方へと自由に飛び立つために、鎖を断ち切り、翼を広げなければならない時が来たのだ。

8. 霊化とは自由である。それゆえ、今、私の声を聞き、この解放をもたらす教えの真意を理解した者たちは、自分たちの前に広大な谷が開けているのを見ている。その谷の中で、彼らは戦い、全能の創造主である神が、神と人間との対話を確立するために来られた時が到来したことを証しするであろう。

9. 全能、英知、そして完全そのものである神と、貧しさ、無知、そして罪に満ちた人間の被造物との間には、直接のつながりはあり得ないと人々が信じていたそのつながりを、私が実現したのである。あなたがたのところへ来たのは、他ならぬ私である。

10. 人間が主と対話できるなど、誰が想像できただろうか。あなたがたは、それがただ義人や預言者たち——自らの幻に目をくらまされてひれ伏し、その後メシアの到来を告げた者たち——、あるいは、その祈りがあまりにも深く熱烈であったために恍惚状態に陥り、神聖なるものを見ることができた者たち——の特権に過ぎないと考えていた。

11. 今日、人々の心には硬さが生じ、靈的なものに対する不信感が強く、人々は自分たちが理解できること、あるいは拒絶しないことだけを信じることに留まっている。しかし、その内面では、死の向こうに待ち受ける生命を予感することを決してやめてはいないのだ。

12. わたしが、あなたがたのような人間の知性を用いてこの教えを授けるのは、あなたがたがこの言葉を身にしみて感じられるようにするためである。もしその人がわたしを受け入れる準備ができていのなら、罪深い人間を通じてわたしが自らを現すことが、いったい何の問題があろうか。

13. 私が夢の中であなたたちに語りかけるとき——あなたがたが行くところ、立つところ、そして最も私を必要としている時に、私の愛であなたたちの心に触れるとき——私が同じように自らを現すことに、何がおかしいというのか。あなたたちの中には、あなたがたが生きるこの世界を超越させる何かがある。それは、神性の写しである靈魂以外に、何であり得ようか。

14. 目覚めよ、民よ、わたしを理解せよ。わたしの教えと、あなた方の靈魂に心を向けてください。

15. 私は師として、また父として、あなたがたの元へやって来る。私が与えるあらゆる教えは、あなたがたを待ち受ける日々の業のために、あなたがたを強めるものである。なぜなら、世界観や教義の混沌の只中で、あなたがたが平静を保ち、私の教えを正しく解釈する者となること——それが私の意志だからである。

16. 私が人間を通して自らを現したことに驚いた者たちもいる。彼らは、これが父の御心によるものなのか、それとも人間の意志によるものなのか確信が持てない。しかし、私はあなたがたに告げる。人類を驚かせたのは師その人であった——処女たちが眠り、その灯が消えているのを見つけた「貞潔な夫」である。

17. 私の再臨に備えようと努めている宗教団体もあるが、彼らは私がすでにこの世を去ろうとしていることを知らない。

18. 私はすべての人を呼びかけた。そして実のところ、私の呼びかけと、私が今まさに人々に自らを現しているという噂は、私

について語る証言や証拠——改心した罪人、回心した不信仰者、よみがえった「死者」、癒やされた不治の病者、そして悪霊から解放された憑依者たち——とともに、地球の隅々まで届いた。

19. しかし、私は多くの者が耳を貸さないことに気づき、また、この世の地位に溺れて虚栄にふける者や、私の啓示を「真理の霊」として広めることを恐れる者たちもいた。私は、私のところに来て、私の愛を信頼したすべての人々を受け入れ、教えを授けた。

20. あなたがたがこの泉にやって来たとき、世の中で身にまとった塵をすべて洗い流し、食卓のパンをいただくにふさわしい者となり、また、わたしの律法の書に汚れを付着させないように努めたのである。

21. 裁きが世の中で完全に顕現する時が近づいている。あらゆる行い、言葉、そして思いが裁かれることになる。諸国民を統治する地上の権力者たちから、最も卑しい者たちに至るまで——彼らすべてが、わたしの神聖な天秤にかけられるのである。

22. しかし、正義を報復と混同してはならない。また、償いを罰と混同してはならない。なぜなら、わたしが許すのは、あなたがたが自らの蒔いた種の実を収穫し、それを食べるということだけだからである。そうして、その味と効果によって、それが善か悪か、あなたがたが善を蒔いたのか悪を蒔いたのかを悟らせるためである。

23. 人間の悪行によって流された無実の血、未亡人や孤児、そして貧困と飢えに苦しむ追放者の悲しみと涙——それらはすべて正義を求めて叫んでいる。そして、私の完全かつ慈愛に満ちた、しかし容赦のない正義が、すべての人々に降りかかる。

24. わたしは、人間からその玉座、わたしに挑むその高慢さ、そしてその権力を奪い取る。わたしは、その人がわたしの子であり、わたしが彼に謙虚であることを望んでいることを、彼に確信させる。なぜなら、わたしの王国は謙虚な者たちのものだからであり、わたしはそれを彼に相続として与えたいからである。わたしがこう言ったことを思い出せ。「富める者が天国に入るのは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい。」

25. 常にわたしと共にいなさい。そうすれば、あなたがたは常にわたしの平安を持つことになる。

26. 「働き手」たちよ、あなたがたが私の畑で収穫した実を、私が出して集める様子を心に留めておきなさい。

27. 冷淡な者たちもいるが、興味を持って私に問いかけ、心から喜びが溢れて私に感謝する者たちもいる。

28. まことに、あなたがたに告げる。かつて不毛だった畑を耕すために、今日あなたがたが費やしている労苦は、あなたがたの魂に平安と喜びをもたらすであろう。

29. 疲れ果てた者を腕に抱きしめ、精神的な能力が乱れていた者に理性の光を与えた後、あなたがたの心はどのような平安を味わったことか。

30. 確かに、あなたがたは自らの能力や賜物を開花させるために多くの時間を要したに違いない。なぜなら、その成長は現在の物質的な人生において始まったものではないからだ。あなたがたの中には、人類の「長子」と呼ぶにふさわしい魂が数多くいるにもかかわらず、今なお、恐れや信仰の欠如が、あなたがたをより確かな歩みを進めることを妨げている。

31. 今、あなたがたは第三の時代を生きています。この時代において、私は人間の知性を通じて自らを明らかにしてきましたが、その啓示は今や終わりを迎えようとしています。しかし、私を求めること、そして私を待ち望むことを知る者すべてに、私は常に寄り添っているため、あなたがたは私を失うことはありません。

32. かつて私が荒野に身を隠したとき、私は人類を見捨てたのではなく、むしろ彼らのことを思い、彼らのために苦しんでいた。その後、大地が私の肉体の墓となるために開かれたときも、私は子供たちから離れることはなかった。なぜなら、あなたがたが私に与えた死の向こう側で、私の霊は立ち上がり、すべての人々のうちに救いの光として宿るためであったからだ。

33. 1950年の終わりにわたしの言葉が終わり、わたしの霊的世界がもはやあなたがたに語りかけなくなる、と私が告げるならば、父も、その霊的な僕たちも、引き続きあなたがたの人生を見守り、人類のため、そして迷い、光を必要とするすべての魂のために尽力し続けることを理解してほしい。

34. 見よ、わたしはあなたがたに、決して改ざんされることのない新しい契約を遺す。それは、わたしが住まうあなたがたの心の神殿に、それを保管させておくからである。あなたがたはわたしを自分の中に宿しているのだから、どうしてわたしを失うことができようか。

35. あなたがたは私の教えを深く学ぶことになるだろう。そこには、あるものには正義が、あるものには知恵と教訓が、またあるものには慰めと癒しが、そしてあるものには預言さえも見つかるだろう。私の言葉は律法であり戒めであり、道であり目標であり、愛そのものである。目を覚ましていなさい。戦いの時代には、誘

惑があなたがたの歩みに待ち伏せているからです。そして、あなたがたの再生への決意と、私の教えへの献身が深ければ深いほど、あなたがたを道から逸らそうとする声や呼びかけは強くなるでしょう。それゆえ、あなたがたの魂に堅固さを与え、立派な兵士としての気概と力を身につけてください。

36. 愛と平和に満ちた私の口づけを、皆で感じてほしい。

37. 愛する弟子たちよ、師のもとで休息をとれ。魂を癒やし、体を強めよ。

38. 私は、人種や階級を問わず、すべての人に私の光を注ぎます。それは、私があらゆる時代、あらゆる民族に偉大な霊たちを転生させて送り、それを通じて人類が私の神聖な メッセージ、律法、預言、啓示を受け取ってきたのと同じです。

39. あなた方への愛ゆえに、私も人間となった。それは、あなたがたが私を身近に感じられるようにするためであった。多くの人々がイエスの中に私を見出せなかったとしても、後に彼らの内に光が差し込み、自らの過ちに気づき、私を愛するようになったのである。

40. 私は再び、あなたがたに教えを授ける。しかし、人間となる代わりに、今や私は彼を通して自らを現す。

41. 私は、霊的に道を踏み外し、弱く病み、疲れ、無関心になっているあなた方を見出す。あなた方は、その科学が偽りの偉大さを与えた世界の中にいるのだ。あなたがたは、この時代の栄華の只中にありながら、心の中に平安を持たず、霊的なことをまだ知らず、心の糧も見出せないことに気づいたとき、永遠なる御方へと目を向け、いつ平和と愛の新しい使徒たちが地上に来るのかと尋ねたのである。

42. それゆえ、わたしに耳を傾けるよう招いた者たちに、平和の責任を負わせるのだ。彼らは、わたしによって守護者として備えられてきたからである。

43. 人類が、赦しと慰めを求めて創造主へと視線を向ける時、第二の時代の預言の一つが成就するだろう。その時、人々は私の光を、彼らを「新しいエルサレム」へと導く救いの星として認識するようになる。そこでは、彼らは「命のパン」を見出すことになる。

。

44. すでに長い間、その美しい響きの鐘は絶え間なく鳴り響き、集いへと招いている。

45. 私は、あなたがたの心に悲しみを見出す。あなたがたは、不信仰や無関心、嘲笑に遭遇し、それらがまるでとげや刺のよう

に心に突き刺さったと感じているからだ。その痛みは、あなたがたの身内や兄弟姉妹、さらには友人からも受けたものだからである。

46. 「心配するな」とイエスは言われます。あなたがたは一人ではないからです。私はそれらの心の扉を叩くでしょう。そして、やがて彼らもまた、あなたがたの心の扉を叩くことになるでしょう。私が望むのは、あなたがたが恨みや憤りを抱かず、「目を覚まし」、備えをしておくことです。

47. あなたがたの魂は、永遠のいのちの糧を食すために、わたしの食卓に招かれている。ここ、この食卓には、席に「最初」も「最後」もない。あなたがたが座ることができるすべての席は、主のすぐそばにあるのだ。やがて、あなたがたが人々を教え導くために旅立つとき、あなたがたの心の中にも、隣人を受け入れ、愛するためのただ一つの場所があるでしょう。その時は に訪れ、あなたがたは、地球上の大きな民族へと続く道だけでなく、取るに足らない地域や小さな村々へと続く道へと、旅立たなければならないでしょう。どこへ行っても、魂の飢えと渇きが、あなたがたの種を受け入れるのにふさわしい土壌として待ち受けているのを、あなたがたは目の当たりにするでしょう。

48. 私の別れの時と定められた1950年が近づいており、それが過ぎ去れば、あなたがたの間で準備の時期が始まり、その後、あなたがたは旅立ちを始めることになる。私は、一人ひとりにその時がいつであるかを明らかにする。あなたがたが使命を始める際には、魂が多少なりとも成熟し、信仰に強く、徳を保つ術を身につけていることを私は望む。日々の働きにおいて、霊から霊へと受け取る私の靈感が付き添うだろう。その時、どれほど多くの人々があなたがたを待ち望んでいたか、あなたがたは目にするだろう！

49. この第三の時代において、私は、私の啓示と霊界からの啓示を、あなたがたの知性を通じて人類に注ぎ、計り知れない慈悲を受けるであろう。しかし、私はすでに第一の時代には預言者たちの口を通して、第二の時代には使徒たちを通して語っていたのである。

50. 今日、私は再びあなたがたの間におります。私は、かつて別の時代にあなたがたに授けた教えのうち、忘れ去られていた一ページを収獲するためにやって来たのです。

51. わたしは、かつての教えをあなたがたに思い起こさせ、その解釈を教える。

52. 私は、この時代に第六章を開いた書物そのものであり、人々が「光の子ら」と正しく名乗るために必要とする、さらなる知恵の教訓を明らかにするために来たのである。

53. あなたがたがこのメッセージの内容を理解して初めて、世の人々に断言して告げることができるだろう——あなたがたが聞いたのは私の声であり、あなたがたを導いたのは私の言葉であり、あなたがたが見た光は、第六の封印から放たれた光であった、と。

54. ある時代から次の時代へと、ある段階から次の段階へと、わたしはますますあなたがたの霊の前に姿を現してきた。もし父を知らなければ、子供たちは父を愛することができるだろうか。なぜわたしがあなたがたに愛を示し、わたしの存在を感じさせ、わたしの声を聞かせるのか、その理由を理解しなさい。

55. これまで、真理、平和、高揚を見出すためにわたしを求めるといふ、あなた方の動機は、自発的なものではなかった。

56. あなたがたは、渇き、孤独、苦難、不幸、飢え、倦怠を知るために、広大な魂の砂漠へと踏み込まなければならなかった。そうして初めて、あなたがたは命を与える水を求め、オアシスを探し求め、平和の地へと導くその足跡を渴望するようになったのである。

57. あなた方の人生の砂漠は、どれほど多くの教訓を明らかにしてくれたのか！ あなた方は人生の闘いの中でどれほど多くのことを学び、苦しみの中でどれほど強くなったのか！ 明日、あなたがたが御霊の約束の地に入り、新しいエルサレムの門が開かれて、その平和の懷に迎え入れられるとき、試練と浄化の広大な砂漠を横断したあの時こそが、償いの時であったことを、あなたがたは祝福するでしょう。

58. モーセは砂漠の旅路の全期間を通じて、民を霊的に力づけ、ヨシュアは人々の群れを約束の地へと導き入れた——その地は、あなたがたの霊に約束された永遠かつ真の故郷の、単なる象徴に過ぎなかったのだ。

59. 今や、百倍もの大群衆の前を目に見えぬ形で先導しているのはエリヤである。彼は、荒野の道を歩むあなた方を一步一步導き、巡礼の旅の目的地——すなわち、義人たちの故郷であり、真の愛と真の知恵に満ちた魂たちの住む地——へと至らせるためである。

60. 何があなた方をその約束された王国へと近づけるか、ご存知でしょうか。それは、愛と慈悲と謙遜によるあなた方の行いです。

61. 今日、わが民は、自分たちが何者であるか、どこにいるのか、何をすべきなのかさえも知らない。しかし、かつて全世界に、言葉で説教し、私の教えからインスピレーションを受けた光についてその行いによって証しをする霊性主義者たちが現れたとき、すべての人は一つとなり、互いを認め合い、ついには団結して、霊性の砦となり、父の律法の真の解釈者となる新しいイスラエルの民を形成するでしょう。

62. 私は、この時代に私に従うべき者たちすべてを、私の光をもって印をつける。私の光は、霊から霊へと注がれていくであろう。

63. 第二の時代には、魂を照らすために、私の犠牲の死の血が人々の心に注がれた。

64. 第一の時代においては、無垢な子羊の血で家の扉に印をつけるという象徴的な行為が、父の戒めであり、その時から私が神の啓示の道へと導いた民に対するものであった。

65. 三つの時代において、主は、主に従わなければならない者たちを確かな方法で印づけられた。とはいえ、私の愛の印は、あらゆる魂に永遠に、決して消えることのない形で刻まれていると、私はあなたがたに告げる。

66. 私の教えに耳を傾け、それについて深く考えなさい、この時代に私から教えを聞く恵みを授かった弟子たちよ。なぜなら、やがてあなたがたは人々に私の教えを説明しなければならないからだ。

67. 私の言葉は、あらゆる国々において人間の代弁者を通じて聞かれなければならない、などと考える必要はない。いいえ、弟子たちよ、これらの代弁者たちによる私の啓示が沈黙する時が近づいている。しかし、証人として一つの民が残され、その言葉と行いを通して、人類は私を聞くことになるだろう。あなたがたが私の教えについて行う証しと解説こそが、人々が「霊と霊との対話」を始めるために受けるべき準備となるのだ。

68. 見よ、この時代、どれほど多くの人々が過去の聖典を研究し、預言者たちについて思索し、キリストが再臨についてなされた約束を理解しようと努めていることか。

69. 彼らがこう言うのを聞きなさい。「師は近い」——「主はすでにここにおられる」、あるいは「主はまもなく来られる」と。そしてこう付け加える。「主の再臨のしるしは明確で明白である。」

70. ある者はわたしを求め、わたしを呼び求め、ある者はわたしの臨在を感じ、またある者は霊においてわたしの到来を予感している。

71. ああ、もしすべての人の中に、すでにその知識への渴望があり、もしすべての人々が、至高の真理を知りたいという渴望を持っていたなら！

72. 多くの者は、私がこの世に生まれてきたこと、私が人間の知性を通じて人々に自らを明らかにしていることを知らない。そして、私があなたがたの間におり続けたことを知らない以上、私の言葉の完結がすでに近づいていることなど、なおさら知る由もない。

73. しかし、私はもう一度言うておく。この民は、私の到来を証しするために、隠された場所から光の中へと現れるだろう。

74. 私は、人々が今日この民を発見することを望まない。なぜなら、彼らの取るに足らない不完全な行いは、人々の信仰を呼び覚ますどころか、私の教えが説く霊性の否定として、人々の目に映ってしまうからである。

75. もし世の人々が、あなたがたの恩知らずな姿を見たら、どのようにあなたがたを評価するだろうか。もし、魂の飢えと渇きに苦しむ者たちが、あなたがたの怠慢と利己主義を見たら、どのようにあなたがたを評価するだろうか。しかし、私は依然としてあなたがたを信頼し、引き続き教えを与え続けている。

76. この民の中から使者、宣教師、使徒たちが旅立ち、の部族、州、村、都市、そして国々にこの種を蒔く日が来るだろう。そして、彼らの中に、私はイエスの良き弟子を現すであろう。

77. 私の真理の証しを伝えるのは、強い魂を持つ人々である。彼らの道を阻むものは何一つなく、私は彼らを通して、私の力の偉大な証しを示すであろう。

78. 私の働き人の一人による愛の証しを目の当たりにして、信仰を持つ人々は立ち上がり、私のメッセージを広め、光を届けるために他の国々へと向かうだろう。そして彼らもまた、その信仰と愛、そして霊性によって、人々の心と民族を勝ち取っていくであろう。

79. その戦いは大規模で激しいものとなるが、その時期の地球は実り豊かなため、実り多いものとなるだろう。その前に、種が地球に届く時に備えて、地球は揺さぶられることになる。

80. 民よ、私がこれを告げるのは、あなたがたが証しを携えて旅立つ前に、世界観の対立、宗教共同体間の争い、教義間の争い

を目の当たりにしなければならないからだ。そこには私の正義があり、そして、そのような大きな混乱の只中で、あなたがたは「真理はどこにあるのか？光はどこにあるのか？」と問う人々の声を耳にすることになるだろう。

81. これらの恐怖に満ちた問いかけこそが、あなたがたが来るべき時を告げる合図となるのだ、民よ。

82. あなたがたは、あらゆる問いに答えるために、謙虚さと知識に満ちてやって来るだろう。真理の勝利への確信に満ちて、自らの命の安全や、危機的な瞬間を無事に乗り切ることを考えるのではなく、あなたがたの言葉と愛の行いによって、私の教えに心を奪われる人々のことを思うのだ。

83. 弟子たちよ、自分の命を恐れてはならない。なぜなら、この時代において、あなたがたが人類に私の真理の最良の証しを示すのは、あなたがたの命や血によってではないと、私は告げなければならないからだ。

84. 時代は移り変わり、習慣は変わり、人々は成長していく。今日、人々は、あなたがたが説く教えの真実を信じるための証拠として、愛と誠実さ、そして助け合う姿勢を求めるようになるだろう。

85. 宣べ伝えられた御言葉が、命を捧げることや血による誓いによってのみ信じられていた時代は過ぎ去った。それゆえ、私はあなたがたに告げる。迫害者たちの犠牲となって死ぬことに備えるのではなく、行い、言葉、そして自らの生き様という模範をもって、真理を証しする準備をすべきである。

86. 長い間、この民は、わが神の慈悲のもと、わが言葉の本質に活気づけられ、一步一步その道を歩み続けてきた。しかし、師は弟子たちがまだ師となるには至っていないと見て、慈悲の外套で彼らを好奇の眼差しから隠し、こう告げられた。「わたしの周りに集まれ。わたしの教えを学び、過ちを捨て去りなさい。ここ、わたしの父なる心の近くで、あなたがたの感情が高められ、清められるようにしなさい。そうすれば、あなたがたは純粋な心で隣人を愛することができるようになるだろう。」

87. そう、民よ、世界があなたを正したり、目覚めさせたりすることを許してはならない。なぜなら、人々が裁き手となると、彼らは残酷で、非人道的で、容赦のないものとなるからだ。

88. 人間には憐れみも慈悲もない。あなたがたは、同胞から一体どのような正義を期待できるというのか。あなたがたに残された道は、真理と御霊の中で自らを備え、憐れみ、ひいては正義をお

持ちである、あなたがたの主であるわたしを信頼すること以外にはない。

89. 見よ、私が人間の知性を通じて、私の啓示後の時代に向けてあなたがたをどのように準備させているかを。その時には、あなたがたは自らの力で「第三の時代」の完全な実現へと歩みを進めることになるからだ。その時、あなたがたは、私の霊とあなたがたの霊との間の完全な対話に近づくことになる——それは、人類がこれまで一度も達成したことのない対話である。それは、モーセが山で聞いたような声——雷鳴の中に響く、物質的に聞き取れる声——ではない。また、人々がイエスを通して聞いた人間の声でもなく、今日、恍惚状態にある人間を通して私を聞くという、あなたがたが現在とっている形でもありません。なぜなら、それらは、主がかつて御子らに語りかけるために用いた他の形態や手段が過ぎ去ったように、まもなく過ぎ去ってしまうからです。

90. 今、あなたがたの霊魂が肉体から自由になることを学び、神の言葉を理解し正しく解釈し、あなたがたの心が、神に対する純粋で質素かつ高潔な崇敬が存在する真の聖所となったとき、あなたがたには、あなたがたの父との直接の対話の時が訪れるのである。

91. 民よ。私と霊から霊へと交わるこの恵みは、あなた方だけに与えられるものではない。これは霊魂に属する能力であり、それが開花すれば、人を霊的な世界と結びつけることによって、人を神に近づけるものであることを理解しなければならない。今日、そのつながりは、あなた方にとってまだ困難、あるいは不可能に思えるかもしれない。しかし、まことに、私はあなた方に告げる。もしあなたがたが、霊化がもたらす準備を整えたならば、父や霊界とつながるこの形こそが、あなたがたがこれまで実践してきたものの中で最も単純で、最も容易なものであることを体験することになるだろう。

92. 霊と霊との対話は、広大で無限の意義を持っています。そこには、あなたがたのあらゆる能力と賜物の開花が根ざしているのです。

93. その中において、あなたがたは永遠の知恵の書を発見するでしょう。祈りの中で、あなたがたは偉大な靈感によって啓発されたと感じるでしょう。直感とはあなたがたの人生における羅針盤となり、癒しの香油はあの世から直接、あなたがたの手へと届けられるでしょう。今日まで眠りについてきたすべての賜物は、その眠りから目覚め、人の心の中で花開くでしょう。そして、霊化があな

たがたの間で現実のものとなったとき、あなたがたの手は、私の使徒ヨハネの手になるでしょう。そして、靈感に満たされたその瞬間、あなたがたは、神の御声が御霊を通じて口述するすべてを書き記すことになるでしょう。このメッセージの中で、あなたは、声の伝達者がその限られた表現力では伝えきれなかったすべてのものを受け取るでしょう。また、靈化の時代を切り開く者たちの後に続く世代が道を認識できるよう、明快で光に満ちた預言があなたの理解に届くのを感じるでしょう。

94. その時代が訪れ、あなたがたが大勢の人々に語りかけるとき、聖霊の靈感によって語っているなどと言ってはならない。その靈感の根底にある真理を、人々に自ら発見させるべきである。

95. 思い出してください。私が群衆に語りかけていた時、私の言葉の知恵や私の行いの正義に驚嘆し、私に近づいて「あなたは神の子ですか、メシアですか」と尋ねてきた者もありました。それに対し、私はただ「あなたがそう言ったのです」と答えました。

96. もしあなたがたが私の啓示を深く研究すれば、それが1950年に終わるのではなく、これからも続いていくことを理解するだろう。なぜなら、神の言葉は永遠であり、その子供たちを照らし続けてきたからだ。しかし、人間の媒体を通じたこの形の啓示は、私の意志によって定められた時に確実に終わり、私があなたがたの霊を通して啓示を行う時代へと移り変わるだろう。

97. 私が去ってしまうなどと言う者は誰もいないようにし、また、この民の中に現れてきた靈界が、その時に休息に入るなどとは決して信じてはならない。そう考えることは、真理から大きくかけ離れているからだ。今この時から、私が告げることを知り、信じておきなさい。すなわち、あなたがたがこの言葉をもう聞かなくなる日が来たとき、あなたがたは内なる師の臨在を感じ始め、いかなる恵みにも値する者となるために守らなければならない備えを理解し、また、あなた方の人生の道を照らす灯台や星のような、あの祝福された存在たちから遠ざからないよう、その方法を探し求めるようになるのだ。

98. あなたがたが私に高揚の証しを示すたびに、私はあなたがたの集まりのたびに、私の臨在の証しを与えると約束する。

99. 民よ、警戒せよ。あなたがたの中、この民の中にも、準備ができていない者たちが偽預言者として立ち上がり——すなわち、わたしの言葉の核心に踏み込むことができなかった者たちが——「霊と霊との対話がある」とか、「父がこれを命じている」あるいは

は「師があれを命じている」などと、真実とは異なることを言い出すだろう。

100. 弟子たちよ、目を覚ませ。この言葉を聞くあなたがたのうち、だれもそのような迷いに陥ってはならない。また、あなたがたの真ん中で偽りが生じたり、誰かが虚栄心に惑わされたりすることを許してはならない。わたしはすべての人に、良い実と悪い実、真実と欺瞞を見分けることを教えてきた。

101. あなたがたが自身の成長と功績によって得たものを、兄弟姉妹たちに与えなさい。しかし、まだ達成していないものを与えようと決してしてはならない。

102. 偽りの預言をする者たち、すなわち、兄弟姉妹の間で自分を偉く見せようとして嘘をついたり、預言者でもないのに預言者であるかのように振る舞ったりする者たちは、やがて人々の群れによってその正体が暴かれ、真理を擁護し、真理を愛する者たちの仲間入りを再び果たすために、多くの涙を流さなければならないことになる、と私は告げる。

103. 民よ、目を覚ませ。危険な時代が迫っているのだ！

104. また、あなたがたの礼拝を奇異に感じる周囲の人々からも、問いただされることになるでしょう。彼らはあなたがたを観察した後、あなたがたに祭壇がなく、像や象徴、儀式や儀礼がないという理由で、あなたがたを非難するでしょう。しかし、愛する民よ、心配する必要はありません。あなたがたはこう語り、こう告げるでしょう。すなわち、あなたがたの礼拝は霊的なものであり、聖所や教会はあなたがたの心の中に築かれていること、捧げ物とは、な生活の中で成し遂げるすべての行いであり、それらが神に捧げるにふさわしいかどうかは良心が教えてくれること、そして、あなたがたの祈りは霊から霊へと行われるものである、と。

105. あなたがたが明確に語れば、探求者たちは驚愕し、あなたがたを放っておくでしょう。なぜなら、あなたがたが真実を語ったこと、そしてあなたがたを攻撃する余地などないことを、彼らは理解するからです。

106. このようにして私の教えを擁護する者たちは、「スピリチュアリズムの弟子」と呼ばれるだろう。彼らは言葉を行いで裏付けるからである。彼らは、あることを主張しながら、その行いではそれに反するような者たちには属さない。

私は、自らをスピリチュアリズム信者と呼びながら、生涯を通じて「象徴」と呼ぶ物体を崇拝し続ける多くの人々を見ている。そのような矛盾に気づいた人々は、彼らをどう思うだろうか。

私は彼らに、考え直し、その崇拜の行いを正し、人生を新たにするための時間をまだ与えている。私の呼びかけに従う者もいれば、狂信に目がくらんで反抗的な態度をとる者もいるだろう。

107. 私は、過ちから立ち返り、靈化の道を歩む者たちを祝福する。偶像を拒絶し、黄金の子牛の周りで踊った後、物質主義を捨て去り、靈化の十字架を背負う者たちを祝福する。

108. おお、民よ、あなたの師はこう告げる。子供たちの無垢を守り、幼き者たちのために祈りなさい。私は、この世代が、あなたがたの過去の狂信の残滓を継承することを望まない。あなたがたは彼らの教師となりなさい。彼らの精神は、まだ肉体にその使命を明らかにしていないことを心に留めなさい。なぜなら、精神は、あなたがたがまず彼らを光の道へと導くことを待っているからである。

師はこれで何を言わんとしているのか。それは、家族の親であるあなたがたには、子供たちの心を形作り、それが霊の働きの土台となるようにする義務がある、ということである。

109. 子供たちを導くためのあなたの優しさと知性、彼らを導き正すためのあなたの英知、そして彼らの苦しみを和らげるためのあなたの愛こそが、それらの世代の道徳的・知的な本質を形作り、磨き上げる彫刻刀となるでしょう。

110. あなたがたが子供たちに遺す最も良き、そして最も貴重な遺産とは、彼らが強靱な民族、そして団結し、健全で、兄弟愛に満ち、すべての人々に益をもたらす家族を築くことを可能にするものである。しかし、それを実現するためには、互いに愛し合うことによって、子供たちに美しい模範を残すよう努めなければならない。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 240

1. 準備をしておきなさい。この日、わたしはあなたがたにこう告げる。マリアを信じる者は、その清らかさを信じなければならない。なぜなら、彼女はすべての女性の中から選ばれ、女性として、また母として、汚れなき完全さの象徴となるためであったからだ。彼女は、この世において、慈愛、愛、柔和、そして貞潔の模範とならなければならない。

2. 彼女はすべての女性にとって完全な模範である。なぜなら、女性たち全員の使命は困難であり、高貴であり、自己犠牲に至るまでの自己否定を伴うものだからだ。その胸には最も高潔な感情が宿らねばならず、その胎内では人間が形作られていくのである。女性は、子どもの心に愛を呼び覚まし、その感情を善の道へと導き、泣くときは涙をぬぐい、苦しむときは慰める。人間に最初の祈りを教え、創造主の存在を明らかにするのは、まさに母である。この世の旅路の終わりまで、母の影は人間に寄り添い続ける。それは、最愛の御子が犠牲の死を遂げたとき、マリアが十字架の足元に立ち会い、人類への愛ゆえに命を捧げた御子の遺体をその胎内に受け入れたのと同じである。

3. 女性の精神的な使命は偉大であり、その心も、知性も、胎内も、そしてすべての神経線維も繊細である。そうあってこそ、彼女はその崇高な使命を果たし、その苦い杯を飲み干すことができるのだ。

4. 肉体的には男性と女性は異なるが、精神的には等しい。彼らは皆、完全性を追求する魂である。

5. 私は、男性の存在を甘美なものにし、喜びで満たすために、女性を男性の傍らに置いた。

6. 女性の生活において、男性は盾であり、守護者であり、主である。なぜなら、私は彼の中に、私の光、私の律法、私の力を宿したからである。

7. こうして、私はこの世においてあなた方を結び合わせ、あなた方が歩むべき道を定めたのである。

8. まず自分自身を知りなさい。そうすれば、あなたがたは周囲の人々に模範を示し、教えを授けることができる。

9. あなたがたは、異なる信仰を持つ人々と向き合い、同じ世界で共に生きている。しかし、まず私の教えに従わない限り、教えを広めるために出かけて行つてはならない。教師となるためには、

まず学んだことに対して完全な確信を得なければならない。自分自身を欺いたり、自ら困難を招いたりしてはならない。

10. あなた方の心の中に、私の基本的な啓示を刻み込み、それがあなた方の人生の指針となるようにしなさい。

11. この霊的な教えに基づき、魂の生活に必要な知識を蓄えなさい。警戒しなさい。なぜなら、あなたがたは歩む道において、スピリチュアリズムに関する多くの異なる見解に遭遇することになるからであり、誤った道に迷い込まないように、備えをしておかなければならない。

12. 人生のあらゆる瞬間に、この世を去る準備が整っているよう、必要な心構えを保ちなさい。

13. 魂が間もなく霊界で過ごすことになる際、あなたがたが夢見ているような永遠の至福を享受することはできないことを知っておきなさい。同様に、その過ちのせいで永遠に苦しむこともない。なぜなら、あなたがたは私の教えの根底にあるものが「愛」であることを知っているからだ。それゆえ、各人はその行いと悔い改めの気持ちに依拠して報いを受け、それによって魂の中に、より一層、完全なる境地への理想が呼び覚まされるのである。

14. また、魂が至福を享受したり、罰を受けたりするのは、物質的な人生の中でであるなどとは決して考えてはならない。

15. 魂は自らを浄化し、完成へと向かう。なぜなら、その直感と私の啓示が、魂は神性から生まれ、再び神性へと帰らなければならないと告げているからである。

16. それゆえ、私は魂が成長を遂げ、私の中での永遠の至福に到達するために必要なだけ、多くの機会を魂に与えている。

17. スピリチュアリズムとは、あなたがたが所有し、内に抱えているすべてのものを明らかにし、教える啓示である。それは、あなたがたが神の御業であり、単なる物質ではないこと、そして、あなたがたの「肉体」の上に、周囲の自然の次元や、情熱の汚れを超越させる何かが存在することを悟らせるものである。

18. 人が霊性を獲得すれば、あらゆる戒めや教義は、その魂の光の一部となる。たとえその記憶が、わたしの教えの一文や一言さえも留めていなくとも、その人はその本質を自らの内に宿すことになる。なぜなら、その人はそれを理解し、それを感じ、それに従っているからである。

19. 霊性追求者は、神聖なる師であるキリストの教えを知り、それに従う純粋なキリスト教徒でなければならない。キリストは、人々に自らの愛の王国を遺そうとするたゆまぬ努力の中で、人々

を救い、彼らをひとつの大きな家族とするために尽力されたのである。

20. 今、第三の時代において、聖霊の光に照らされて、あなたがたは、私が三つの時代にわたって与えてきた教えが同じ原則に基づいていたこと、そして時代ごとに変化したのはあくまで外的な形式に過ぎなかったことを認識している。

21. かくして、第一の時代には、あなた方の生活と心にはそのような素朴さがあり、自然との距離も近かったため、私はそれらすべてと調和して御自身を現した。輝かしい自然の中で、あなた方は私の臨在を見て感じ、その不思議を仰ぎ見ることで魂は歓喜に満たされ、それを通じて主の御心を理解したのだ。

22. 第二の時代、すでに人々の心の中に利己心が芽生え、人々の知性が悪へと目覚めていたとき、私はあなたがたの中に生まれ、あなたがたが神性への崇拝として行っていたこと、互いに施していた行いは、私が命じたものではなく、したがってあなたがたの魂の救いをもたらすものではないこと——あなたがたが行っていたことは、人々の目には律法を履行しているように見えるだけであり、しかし心の中には偽善と利己心を隠していたことを、あなたがたに理解させるために、私はあなたがたの中に生まれたのである。

23. イエスが、あなたがたが従うべきでありながら、そこから逸脱していた原則を、あなたがたに示す必要があったのである。

24. わたしは、あなたがたの心を動かし、知性を目覚めさせるために、あなたがたの前でわたしのすべての柔和さ、愛、知恵、そして憐れみを示し、あなたがたと共に苦難の杯を飲み干した。心は善へと生まれ変わらなければならなかった。そして、彼らへの愛ゆえに私が十字架にかけられるのを見る痛みは、父のもとへ至るためには、皆が愛のために苦しみを受けなければならないことを思い出させるための、まるで棘のようなものだった。自分の十字架を背負い、私に従おうとするすべての人への私の約束は、永遠の平安、すなわち御霊において終わりのない至高の至福であった。

25. この時代の私の約束も、その根底にあるものは同じであり、その内容も同一であるが、あなたがたは、清められるまで、本当にそれを活用し続けなければならない。

26. 私が愛と正義の律法を、私の血をもってあなたがたの霊に刻んだ時から、あなたがたが今生きている現在に至るまで、私はあなたがたの魂がより成熟していると感じている。あなたがたの受容力と理解力はより深まり、その能力と力は、私の新たな啓示を受け入れるのに十分なほどに高まっている。

27. 今日、あなたがたは自らの力で、誤った信仰の教えと真の教えとを区別することができるようになった。とはいえ、今こそ魂にとって試練の時である。なぜなら、あらゆる方面から世界観、理論、教義、宗教、そして「科学」が現れ、その影響力によって、どの道を歩むべきか分からない弱い者の心が、時に揺らぎを覚えるからである。

28. この時代は決定的なものである。なぜなら、人々は霊的な道において決定的な一步を踏み出すことになるからだ。

29. 多くの闇の目隠しが取り払われ、狂信や偶像崇拜は消え去り、出来事の展開に関する多くの幻想は打ち碎かれ、伝統は根こそぎ引き抜かれるだろう。そうして、はかないものはすべて捨てられることになる。

30. わが子らよ、自分の置かれた境遇に満足し、自分より豊かな生活を送っている人々に対して嫉妬を抱いてはならない。謙虚であるほど、あなたがたはわたしに近づき、わたしにより良く仕えることができるのだということを心に留めておきなさい。

31. あなたがたがどこへ向かうのか、どのように人生を受け止めるのか、そして私が与えてくれる恵みをどう扱うのか、よく注意しなさい。

32. わたしはあなたがたに愛を与える。わたしの愛はあなたがたと共にある。

33. この「第三の時代」においてキリストがどのように現れているかを疑う者は、「第二の時代」における人間としてのイエスをも疑うことになる。なぜなら、わたしの愛と本質は同じものだからである。もし、かつて神聖なる師があなた方に遺した遺産をより深く理解したいのであれば、あなた方の魂の成長が徐々に許容するにつれて、私の知恵と啓示が、あなた方の人生においていかにますます明確に現れてきたかに注意を払わなければならない。

34. もしあなたがたが、わたしの御心に従って知るべき教えの奥義に深く入り込みたいと願うなら、未知のものに対する恐れを自分の中から取り除き、敬意と謙虚さという霊的な心構えを整えなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに多くのことを啓示してやる。あなたがたの霊の目が開かれるとき、そこには、苦しむ人々の痛みの道を歩み、今もなお愛の十字架を背負い、この人類の多くの苦難の上にその血を注ぎ続けているキリストの姿が見えるだろう。あなたがたは、主がすべての人にその慈悲を注いでおられる姿を見ることになるでしょう。また、霊的な世界においても、主が弟子たちに囲まれていることに気づくでしょう。弟子たちは主の言葉

や説教を熱心に聞き、その靈感によって照らされ、やがて暗闇の中に生きる人々にその光を送り届けるのです。

35. このように、あなたがたが霊界に踏み込むことができれば、主をその姿で見ることになるでしょう。そうして、あなたがたは主をもう少し深く知るようになるのです。聖霊とは何かを知ろうと努めれば、神の言葉から発せられる知恵の光の中で、聖霊を見出すことになるでしょう。そこで、聖霊を、無限の知性として、また、あなた方を照らし、同時に慰め、癒やす霊的な恵みとして知ることになるでしょう。

36. したがって、あなたがたがこの言葉を伝達者を通じて聞くときは、その真意を探さなければならない。なぜなら、その言葉の中にこそ、私の教えの真髓が込められているからである。

37. キリストが人間として、また霊として与えてくださった御言葉の深みに入り込んだとき、あなたがたは、あなたがたの神、すなわちその啓示における三位一体とは何かという認識を得るでしょう。そして、そのとき、あなたがたは真実をもって神を愛し、神があなたがたの元に来られたあらゆる姿において、神を信じるようになるでしょう。

38. いったんこの高みに達すれば、あなた方は、人々の知性を啓発し、善の道へと導くために、目に見えない形で教師としてやって来る高次の霊たちのようになるでしょう。あなた方は、人間の脳を用いて自らを明らかにすることはありません。しかし、この世で準備を進めているすべての人々に、良い影響を与えることになるでしょう。あなたがたは彼らを啓発し、鼓舞するでしょう。あなたがたの交信は霊から霊へと行われ、この任務を果たしたとき、さらに上の段階へと昇る道が目の前に現れるでしょう。こうして、魂たちは父の懷へと至るのです——浄化され、完成され、神の霊の最も純粋な光と融合できるまで。

39. 私は今すでに、あなたがたが登る次の段階に向けて準備を進めている。他の段階については語らない。あなたがたには理解できないからだ。あなたがたが知っておくべきことは、乗り越えなければならない段階が七つあるということだけです。それぞれの段階で、あなたがたの魂のための恵みに出会い、それが次のステップを踏み出す助けとなり、最終的に神の御前に至り、最終目標まで私に従うすべての人に対する私の約束が成就するに至るのです。

40. あなたがたの思考力では、この教えのすべてを理解することはできない。なぜなら、あなたがたは、わたしに会うと考えるたびに、依然として、わたしを自分たちと同じような肉体を持った

存在として想像しているからだ。しかし、誰も、自分の物質的な肉体と再び一つになって、私の懷で永遠に生きることを期待してはならない。これは、使徒たちがあなた方に語った「肉の復活」ではない。魂だけが、地球上で幾度となく異なる肉体として現れ、その後、靈的存在として道のりを最後まで歩み終えた後に、永遠を知るようになるのである。

41. 人類が解釈してきたような「最後の審判」は、誤りである。私の裁きは、一時間や一日の間のものなどではない。それはすでに長い間、あなた方の上に重くのしかかっている。しかし、まことに、私はあなた方に告げる。死んだ肉体は、それに見合った自然界と融合するよう定められており、その定めに従ったのである。なぜなら、（土から出たものは土に帰る）ように、靈的なものは、私の懷であるその故郷へと向かうべきだからである。しかし、私はまたこうも告げよう。あなたがたは、自らの裁きにおいて、自らを裁く者となるのだ。なぜなら、あなたがたの良心、自己認識、そして直感が、あなたがたがどの程度称赞に値するか、そしてどの靈的な故郷に住まなければならないかを告げてくれるからである。あなたがたは、従うべき道をはっきりと見出すだろう。なぜなら、あなたがたが私の神性の光を受け取るとき、自らの行いを認識し、自らの功績を評価するようになるからだ。

42. 「靈的な谷」には、多くの混乱し、動揺した存在たちがいる。いつかあなたがたがその地に入ったなら、彼らに私のメッセージと私の光をもたらしなさい。

43. すでに今この瞬間から、祈りを通じて彼らとつながり、この形の慈悲を実践することができる。あなたがたの声は、彼らが住む場所に響き渡り、彼らを深い眠りから目覚めさせるだろう。彼らは泣き、悔恨の涙で自らを清めるだろう。その瞬間、彼らは一筋の光を受け取ることになる。なぜなら、その時、彼らは過去の虚栄、過ち、そして罪を理解するからだ。

44. 良心が魂を目覚めさせたとき、その魂の苦しみはなんと大きいことか！ その時、魂は至高の裁き主の御目前で、いかに謙虚に身を低くすることか！ その存在の最も奥底から、赦しを求める嘆願、誓い、そしてわが御名の祝福が、いかに謙虚に湧き上がることであろうか！ 今や魂は、父の完全さに近づくことはできないと悟り、そこで、目標に近づく機会を与えてくれた時間や試練を活かすことができなかったこの地上へと視線を向け、過ちを償い、果たせなかった使命を果たすために、新たな肉体を請い求めるのである。

45. では、誰が正義を貫いたのか。自らを裁いたのは、まさに御霊そのものではなかったか。

46. わが霊は、あなたがたが自らを映し出さなければならない鏡であり、それはあなたがたが持つ清らかさの度合いを明らかにしてくれるだろう。

47. あなたがたが霊的な領域に入れば、あなたがたの霊が、あなたがた自身について悟りを与えてくれるだろう。あなたの記憶は鮮明になり、忘れていたことを思い出すでしょう。それなのに、なぜ私の正義を恐れるのですか。あなたが受けるのは、あなたが受けるに値するもの以上のものではないのですから。それならば、むしろ今すぐ、自分の行いを恐れるべきではありませんか。見なさい、私がどれほど慈愛をもって、あなたの知性が、あなたに対する裁きという秘密を理解できるように許しているかを。

48. 真理からかけ離れた狂信を捨てなさい。平和と光と祝福の教えを含む、わたしの教えについて深く考えなさい。

49. たとえあなたがたが、「霊的な谷」へと旅立った者たちを忘れてしまったとしても——師は誰一人として忘れはしない。

50. 霊界においても、眠りにについている者、真理の光から目を閉ざしている者、彷徨いながら、自責、混乱、そして苦痛の鎖を引きずっている者たちがいる。

51. 私があなた方を呼び寄せたのは、病人を癒やし、この地上に共に暮らす人々に道を示すことだけでなく、あの世に生きる存在たちに対しても善行を施すことができると伝えるためである。彼らの中にも、病める者、道に迷った者、愛と慰めを必要とする者たちがいる。彼らは、私の御前に清らかな姿でたどり着くために、苦しみの中で自らを浄化している者たちです。しかし、あなた方は、祈りと慈悲、そして寛大な思いをもって、彼らの贖罪を助け、その苦しみの期間を短縮してあげることができるのです。

52. 私の普遍的な愛の教えは、生と死の世界の間に境界線を引くことなく、すべての魂を結びつけ、互いに近づくものであり、存在たちが霊的な愛をもって互いを愛し合うように導くものである。

53. 闇の存在たちの大群が、雷雲のように人類の中に侵入し、混乱を引き起こし、人々の思考を混乱させ、心を暗くしている。そして、この人類には、こうした陰險な攻撃から身を守るための武器があるにもかかわらず、ある者はその使い方を理解しておらず、またある者は、自分たちがそれを所有していることさえ気づいていない。

54. 戦争や殺人、そして低俗な情欲の中に、それらの力の影響が存在する。光に目を開き、私があなた方に託した愛と正義という霊的な武器を知っているあなた方よ——世界と霊界のために祈り、互いに憎み合う者たちを和解させ、愛すること、赦すこと、そして祈ることを教えなさい。

55. しかし、あなたがたが地上で行う善行は、迷える魂たちを照らす光となり、あなたがたの祈りは、彼らをその迷いから解き放つ癒しの薬となることを、どうか心に留めておいてください。誘惑や邪悪な示唆と戦い、光の勝利を目の当たりにしてください。

56. 準備を整えなさい。あなたがたが人々に伝えなければならないメッセージは、人々が、自分の中にありながら、一部は知られておらず、一部は未開発である資質や能力に気づききっかけとなるはずだからである。

57. あなたがたは善行によって教え、科学に見放された者たちに健康を取り戻させ、人々から「永遠の罰に定められている」と告げられていた魂を救わなければならない。どちらの者たちも、わが業の栄光を悟り、彼らの目から暗い覆いを取り除かれるであろう。

58. 今こそ、私が自ら姿を現し、すべての人々の内に私の存在を感じさせ、そして世界に向けて語りかける時である。

59. この日、私はあなたがたにこう告げる。魂の清らかさを保ち、その歩みにおいてマリアの模範に従う者たちは、祝福されるであろう。マリアは清らかさと柔和そのものである。彼女を愛する者は、その点において彼女を手本とすべきである。もしあなたがたの行いがその言葉と一致しないならば、彼女の名前を繰り返し口にしたたり、彼女を愛していると言ったりしても、何の益もない。

60. 真の人間の・霊的な価値を見極めよ。地上の栄華の偽りの輝きに惑わされてはならない。あなたがたの光は、すでにすべての偽りを暴くことができる。一見輝かしく見えるが、実際には闇しか含まず、あなたがたを暗い道へと導くような行いが数多くあることを悟れ。

61. それゆえ、わたしが自らを現す者たちよ、あなたがたが負った責任を深く理解しなさい。すなわち、あなたがたの人生において、生き方において、そして試練において、わたしが自らを現すその瞬間にあなたがたの唇から発せられる言葉を、ふさわしい形で実践し示さなければならないのだ。民は、あなたがたの行いに精神的な高みが見られることを期待して、その目をあなたがたに向けています。あなたがたは、澄んだ鏡のようにならなければなりません

ん。なぜなら、この時期に私の声を聞いておらず、自らを神の僕と呼ぶ者たちの行いが、必ずしも許容されるものではないとしても、世界はそれを驚くことなく見守っているからです。しかし、もしあなたがたにも同じような許されない行いが見られたならば、あなたがたを見守る者たちは、きっと憤慨するだろう。なぜなら、あなたがたは内にこの恵みを持っているにもかかわらず、受けた教えに反する行いをなおも行うことができるとは、彼らには理解できないからだ。

師はあなたがたにこう告げる。わたしに従う決意を固めたその瞬間から、スキャンダルに気をつけなさい。その日から、あなたがたの魂は、あなたがたを傷つける可能性のあるあらゆるものを拒絶してきたことを心に留めなさい。それゆえ、あなたがたは善の道を歩み続け、自らの責任を全うしなければならない。

あなたがたがわたしに仕え、わたしの御心に身を委ねているのは、わたしを知り、わたしの啓示の真実を完全に確信し、心の中に疑いが一切ないからである。

62. 私が、あなたがたがこのように私の奉仕に献身しているのを見たとき、私はあなたがたに、あなたがたは隣人に対して大きな慈悲の業を行っているのだと告げた。私はすでに、霊的な使命の遂行が、いかなる人間的な義務の履行をも妨げるものではないと、あなたがたに語った。誰も、私の教えの単純さを複雑にしようと試みてはならない。私の教えの真髄を伝え、人々がそこからインスピレーションを得られるようにしなさい。

63. わたしの神聖な御心が、あなたがたの知性との一体となったことが、どれほど驚くべきことのように思えるだろうか！ それについて、わたしはこう告げる。それは極めて自然なことなのだ。なぜなら、そこには「霊」である神と、その霊ゆえに創造主に似た人間とが関わっているからである。あなたがたは、まだ知ることを許されていない多くの秘密に踏み込みたいと願っているが、私が言うておくのは、それらを明らかにするのは科学ではなく、創造主への愛に基づく霊であるということだ。

64. 私があなたがたに授けたのと同じ簡素さをもって、私の業を明らかにしなさい。そうすれば、あなたがたの同胞たちは、彼らが到達した発展の段階に応じて、それを理解するでしょう。もしあなたがたの行いが、あなたがたが受けている栄光にふさわしいことを示すことができるならば、あなたがたの業は称賛に値するものとなり、人々はあなたがたを通して私を信じるようになるでしょう。

。

65. わたしは、あなたがたの魂が疲れやこの世の苦難を置き去りにできるよう、それをわたしのもとに迎え入れる。

66. あなたがたは、私の教えと平安を渴望して、地球のさまざまな場所からここにやって来る。そして、私の御言葉を聞くととき、父なる者の温もりを感じ、心が安らぐのである。

67. 私があなたがたに御言葉を授ける集いの場へ、喜んでついて行きたいと願う者たちもいるが、世に対する恐れが彼らを阻んでいる。一方、内なる声が「あなたがたが進む道は正しく、それが真理へと導く道である」と告げているにもかかわらず、あるいは、新たな時代——裁きの時代、すなわち恵みの時代の先駆け——が到来したことを告げる、解き放たれた自然の力や異常な出来事の叫びを耳にしているにもかかわらず、あなた方を軽蔑の眼差しで見る者たちもいる。

私は、地球上のあらゆる場所、そしてすべての人の心の中で、自らを明らかにしてきた。私は、靈感や直感、あるいは夢や啓示を通じて、彼らに語りかけている。

68. わたしは今、疑いと信仰の間で揺れ動くことなく、わたしがあなたがたに残す書物の記述に、その真の価値と正しい解釈を与えるであろう、将来の世代を準備している。

69. 彼らは、かつての預言の成就を告げ知らせるであろう。

70. 現代の書物の記録は、私の言葉をまだ聞いていないすべての人々にそれを知らせるため、あなたがたの責任として残しておく。あなたがたの真の戦いは、私が去った後に初めて始まるのである。

71. 私の教え、あなたがたの礼拝の仕方、そしてあなたがたの行いは、様々な宗派や教会から調査にやって来るかもしれないすべての人々に対する審判となるだろう。あなたがたが彼らにその誤りを指摘する必要はない。それどころか、あなたがたは彼らを誠実かつ愛情を込めて迎え入れ、私の業のあらゆる側面を彼らに示さなければならない。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 241

1. 魂の糧である神の御言葉に飢え渴き、ここに集う民よ、私はあなた方を迎え入れる。私は、あなた方への愛ゆえに、あなた方の元へやって来るのだ。ああ、痛みと血と恐怖へとしか向かわない人々よ！ 物質主義の影が人々の視界を覆い隠し、それゆえ彼らは自らの贖罪への道を見いだせないのだ。

2. せめて、私の声を聞くあなたがたは、私の言葉に喜びを見出し、私のもとで慰めを見出してください。なぜなら、この人類は、真理を求める代わりに混乱へと向かっているため、その理性と感情を誤った方向に導いてしまったからです。今日、偉大な人間の知性は犯罪の中で花開き、それを自らの理想としているのです。

それゆえ、私は、私の弟子と呼ぶ者たちに、かねてよりこう語ってきた。すなわち、私が彼らに託した使命を果たすならば、彼らの模範は他の人々の生活、思考、言葉に多大な影響を与え、人々はこう言えるようになるだろう。「今日、私はかつて無用だと思っていた自分の精神を活用している」と。

3. 弟子よ：人々の精神が立ち上がり、解放され、本来あるべき領域で働き始めれば、この世界が飲み干している苦難の杯は終わりを告げるだろう。ひとたび人間の知性と心に霊性が花開けば、あなた方の人生のあらゆる道において、花開くものがあるだろう。
— 私は今、私の弟子となることを志し、私の声を聞く際に感受性を示してくれる人々に向けて語っている。

4. わが民よ、あなた方の人生のほんの一瞬たりとも無駄にしないよう心がけなさい。互いに愛し合い、もっと早くそうしなかったことへの痛みを感じなさい。過去に行った本質的な善行と悪行について深く省みなさい。なぜなら、この省みから良い実があなた方に生じるからであり、そして未来について考えなさい。「私はこれからの時代のために何を準備してきたか」と自問しなさい。

あなたがたは、人類に伝えるべきことがあること、人類を、死が今まさに覆い、絶えず脅かしているその死装束を見えなくしている眠りから目覚めさせるために何かをしなければならないこと——人類が目覚め、良心の声を聞き取れるようにするために何かをしなければならないことを理解するだろう。

5. ああ、人間たちの虚栄よ！ ああ、この地上で自らの栄華と栄光を追い求める人々よ！

6. 人を殺す言葉を吐くために、あなたたちは玉座を築き上げ、そこから戦争への命令、破壊と死を呼び起こす命令を響かせているのだ！

7. 良心、正義、そして慈悲である霊性との結びつきがないならば、人間の知性とは何なのか。自らの光を用いて巨大な破壊兵器を発明した者たちは、いったいどのような言葉で神に説明責任を果たそうというのか。彼らは今、自らに負っている罪を、何をもって償おうというのか。彼らは、自ら蒔いた大きな種がもたらす収穫に、どのように対処しようというのか。

8. そして、わたしについて語り、わたしの弟子や僕と名乗るすべての人々に、わたしは問う。この瞬間に、あなたがたは何をしており、世界を護るために何をしてきたのか？

9. ああ、この時代に私の声を聞く子供たちよ！私の愛の業に励みなさい。私があなたたちに求めている、隣人の幸福のために捧げるべき人生のその部分を、急いで捧げなさい。それは同時に、あなたたち自身の幸福にもなるのだ。

10. 私の事業には兵士が必要だ。戦場で何の役にも立たないまま命を捧げるのなら、この霊的な戦線で命を捧げてみてはどうだろうか？

11. 私があなた方に求めるその時間を、教えを説き、愛と知識に満ちた講演を行い、人々の心を和らげ、目覚めさせることに役立てなさい。あなた方を愛し、守り、救うという使命に身を捧げている私の神聖な存在を見なさい。私が人間としてさえ、自分の生涯のすべてをあなた方に捧げたことを思い出してください。 わずかな種を収穫するだけで満足してはならない。「あの世」と呼ばれる場所へ入る時、あなたがたが私の手に差し出す贈り物とは、いったい何になるというのか。私は源泉から水を余すところなく与えた。それに対して、ほんの数滴しか返さないつもりなのか。善行をもって証しを立てなさい。

12. この時代にあなたがたの内に現れた霊の賜物は、あなたがたが、その水晶のように澄んだ水を、隣人の魂に注ぎかけるのを助けるために現れたのである。常に愛の泉として、絶え間ない賜物として、苦しむ者の心を照らす燃える灯火として、あなた方のために自らを現してきた師から学びなさい。私の言葉の一つひとつは、運命の目標へと向かう旅人の道しるべとなる松明のようなものか。このメッセージは、あなた方を神に近づける新たな啓示ではないのか。

13. 私の教えと律法を感じ、それを実践する者だけが、私の業において「教師」と名乗ることができる。この言葉は、あなたがたがそこに秘められた高みと深みを認識できるよう、その方向へと導くものである。なぜなら、偉大でありたいと願う霊は、偉大な業にのみ関心を持つからである。小さな霊は、小さなことしか求めない。そして、信じるためには、苦痛を伴いながらも余分なものを手放し、父の愛によって自らを強めなければならない。

14. それに対し、偉大な霊は、その崇高な理想や愛の使命のために、あなたがたが最も愛おしいと考えるものさえも自ら犠牲にするのである。

15. 私の「第二の時代」の弟子たちが、私に従うためにすべてを捨て、あなた方への愛からすべてを捧げたことに、あなたは驚いているだろうか？

16. わたしの言葉は、すべての人を愛の道へと立ち返るよう招いている。そこでは、多くの人々が、隣人に対して憎しみや恨みを抱き、彼らを愛し続けなかったことを恥じるだろう。そして、悔恨の痛みと喜びを同時に抱きながら、心から彼らを抱きしめることになる。そうして初めて、霊性が現れ、この世的な人間性が消え去るのだ。

17. 私は、偉大な魂たちについてさらにこう言おう。彼らは侮辱に敏感でもなく、打撃に弱くもない。彼らはそのような卑劣な行いを平静に見つめ、それを実行する者たちを憐れみの眼差しで見る。彼らはこうした些細な事柄を超越し、偉大なものだけを見つめている。

18. あなたがたは皆、大きな試練を経験することになるだろう。落胆せず、それによって自らの弱さに対する恥を避けるためには、非常に強くなければならない。

この言葉を聞き、美味しい料理が並ぶこの食卓に集い、私の知恵を糧とした皆さん——強くあり、愛をもって周囲の人々を励ましてください。

19. 善を行う者は、キリストの使徒である。しかし、その者には、使徒であることを証明する肩書きなど必要としないし、それを誇示する必要もない。

20. もし私が、未来に起こる悲惨な出来事をあなたがたに明かしたら、あなたがたは私に何と言うだろうか。慰めを求めてあなたがたの元を訪れる、この真理を知らない人々に、あなたがたは何を差し出すことができるだろうか。

21. 私があなたがたに言うのはただ一つ、私の種を蒔きなさい、ということだ。この教えこそが、あなたがたの遺産である。もしあなたがたが自分の魂の奥底へと入り込む術を知っているなら、そこには、絶えずあなたがたの心へと戻り、その光で心を照らそうとするメシアを見出すだろう。

22. 明日、私の到来について知ろうとやって来る者たちは、二つのグループに分けられる。一方は、疑いを持ってやって来て、私の言葉の愛に心を打たれ、信仰と悔い改めの心を持って去っていく者たちである。もう一方は、不信仰のままでやって来て、魂よりも肉体、思慮深さよりも狭量さを重んじるため、同様に不満を抱いたまま去っていく者たちである。しかし、私の新しい弟子と名付けられ、聖霊によって印を刻まれたあなたがたには、こう言おう。いつから、あなたがたは愛の行いの模範によって、この世を照らし始めるのか。

23. 聞きなさい。私が地上であなたがたと共にいたとき、人々は群れをなして私のところへやって来た——高い地位にあり、虚栄心に満ちた人々、私を密かに訪ねて私の言葉を聞こうとした支配者たち。ある者は私を称賛したが、恐れからそれを公には認めなかった。またある者は私を拒絶した。男女や子供たちからなる大勢の人々が私のところへやって来て、朝も、昼も、夜も私の言葉に耳を傾けた。そして、彼らは常に、神の言葉を授ける用意のある師を見出した。彼らは、師が自分自身を忘れてしまっているのを見て、その体が衰えず、声が弱まらないように、いつ食事をとっているのか、理解できなかった。その理由は、彼らが、イエスがご自身の霊から力を得て、ご自身の中に糧を見出しておられることを知らなかったからである。

24. 同様に、あなた方もいつの日か、神の愛に触発され、同胞を慰め、支え、愛するという使命に自らの存在を捧げる者は、自らの魂の中に、戦いの最中も一瞬たりとも疲れ果てることなく、その人を支えてくれる未知の力と糧を見出すことになる、ということを知るようになるでしょう。

25. このようにして、私は、今日と同じであり、明日には全世界で一つの共同体となるであろうその民、すなわち神の民の中に、自らを現すであろう。

26. わたしから学び、あなたがたの賜物を用いて、自分自身と人類に対して負っている大きな罪を償いなさい。進んで贖罪を受け入れ、自分たちが好むことや負担にならないことでその罪を償お

うなどとは望んではない。なぜなら、しばしば犠牲を払ったり、何かを諦めたりしなければならぬ時が来るからだ。

27. 私があなたがたに求めているのは、命そのものではなく、ほんの数時間、つまりあなたがたの時間の一部に過ぎない。

28. イエスがあなたがたと共にいるために、御母を離れられたことを思い出してください——この世でイエスにとって唯一の存在であった、あの最も慈愛に満ちた母を。イエスは生前、母から離れ、十字架から息絶えた状態で降ろされた時、初めて母の腕の中に横たわったのです。私があなたがたに求めるのは、それほど大きなことではなく、私があなたがたと与え、教えたもののほんの一部に過ぎません。

29. 悲しむ者を慰め、病める者を癒やし、迷える者を救うことによって、あなたがたの人生を捧げなさい。しかし、ただ私のために死ぬ覚悟があることを示すためだけに、自ら命を絶ってはならない。

30. わたしの教えの中には、告発される者も告発する者も、侮辱された者も侮辱する者もあってはならない。そこには、わたしの教えを実践することで、より高みへと成長しようと努める者たちだけがいるべきである。

31. あなたがたは、わたしのもとへ至るために必要なすべてをすでに持っている。世界は学校であり、人生は教科書であり、わたしの靈感は光である。師はわたしであり、人々はわたしの弟子である。それゆえ、わたしは絶えずあなたがたを呼びかけ、こう告げる。「あなたがた一人ひとりが、わたしの愛の中に居場所を見出すのだ。」

32. 私の教えにおいて、私を一人にしないでください。私があなた方に注ぐこの愛に対して、冷淡になってはなりません。ある人間の唇を通して、私の霊の言葉があなた方を照らしていることを心に留めておいてください。

33. もしあなたがたが地上で、私が教えや律法によって宗教をもたらしたと言うならば、私はこう告げよう。私の目には、ただ一つの礼拝しか存在しない。それは愛の礼拝であり、父への愛、隣人あるいは同胞への愛、そして創造主から生まれたすべてのものの愛である。

34. 互いに愛し合うという、その神聖なる至高の戒めこそが、すべての人々を結びつけ、彼らを啓発する律法となる。それによって、人々は兄弟姉妹として互いを思いやり、守り合い、助け合い

、誘惑から守り、人種や信仰の違いに躊躇することなく、互いを認め合うようになるのである。

35. そのような世界を想像してみてください。そうすれば、愛と尊敬と正義の法則に支配された、一つの家族として、平和に満ちた世界を思い描くことができるでしょう。

36. これらの預言は現実のものとなるでしょう。なぜなら、あなた方の世界は、永遠に闇と罪の谷であり続ける運命にあるわけではないからです。

37. 人々の心の中で、美德は庭園の花のように輝きを放つでしょう。なぜなら、私はあなたがたにこう告げるからです。花々の美しさは、罪人を救うために神から湧き出る思想や靈感に似ているのです。

38. さあ、ここへ来なさい。これがあなたがたの道であり、ここには貧しい者たちのためのパンと、悲しむ者たちのための慰めがある。来て、何も恐れることはない。

39. 祝福されたイスラエルの民よ、父はあなたがたにこう告げる。良心の声に耳を傾け、知性を鍛えよ。なぜなら、わたしはあなたがた一人ひとりの内に、消えることのないわたしの言葉を刻み残すからである。今、わたしが溢れ出させている生ける御言葉に耳を傾けよ。それは、わたしの霊である知恵の泉から湧き出ているのだ。

40. わたしは、すべてのわが子らがわたしのもとに来られるよう、あらゆる道を切り開いた。今こそ目覚めの時である。この時、わたしは過去の時代のわたしの言葉と、新たな啓示を明確に示すであろう。これらは、わたしがあなたがたに与えるものであり、あなたがたが所有することになるその書の完成形、すなわち第三の部である。

41. わたしは、わたしの教えの偉大さを覆い隠していたベールを、あなたがたの前から取り除いた。第二の時代に、わたしはあなたがたに種を与えた。それは、あなたがたがそれを蒔き、育て、適切な時にそれを示すためである。

42. しかし、私は任命された種蒔き人たちに実りを求めたが、長い歳月を経て収穫できた穀物はわずかであった。私はすでになんがに告げていた。「新しい世代が地上にやって来て、彼らは私の最後のメッセージを受け取るだろう」と。私は今、彼らを準備しており、あなたがたに告げる。私がこの新しい時代を切り開いた時が来たのだ。

43. 先駆者は、わたしの業の最初の働き人たちを聖別し、その後、師は書物を開き、その全内容を示した。それは人類にとっての光であり、知恵であり、救いである。こうして、あなたがたにとってのその恵みの瞬間が訪れたのである。私は、さまざまな信仰や世界観を持つ男女を一つにまとめました。私は彼らの心に深く入り込み、そこには苦しみと失望しか見出せませんでした。しかし、彼らが私の言葉を聞いたとき、それを拒絶することも、心を閉ざすことも、疑うこともなく、愛と敬意をもって受け入れたのです。

44. 私は、彼らが私の神性のあらゆる啓示の研究に専心するよう導き、彼らはそれらを信頼に値する、大きな意味に満ちたものと見なし、その心は励まされた。しかし、やがて私は彼らにこう告げる時が来た。「私はあなたたちを慈しんだ。あなたたちは私の慈しみを喜んだ。しかし今こそ、戦う時が来たのだ。」そして、以前は不器用で沈黙していたその唇が、神聖な言葉を語り出した。私は彼らを通して御言葉を注ぎ出し、彼らは私の声の伝達者となった。

。また、私が深い信仰を持って出会った者たちを、私は教会の指導者に任命し、こう告げた。「人々の心を引き寄せ、そこから教会を築き上げなさい。魂の強さを身につけなさい。なぜなら、あなたがたは人々の冷酷な心に立ち向かわなければならないからだ。」あなたがたは不信仰者たちと格闘することになる。トマスの種は水を注がれ、人々の心の中で芽吹いたからだ。しかし、私はその種を根こそぎ引き抜き、あなたがたの働きを助ける。あなたがた一人ひとりは、同胞たちの道を照らす松明のようになるだろう。

私の啓示の時期が終わり、あなたがたが私と精神と精神とのみつながるようになったとしても、あなたがたは教え続けます。そして人々は驚き、どこで学んだのかと問うでしょう。その時、あなたがたは彼らに、私の 教えが刻み込まれ、そこから新たなインスピレーションが湧き出る、あなたがたの心の書を示してあげるのです。

45. わたしは、わたしが去った後の時代に向けて、あなたがたを十分に備えさせてから送り出すよう努める。そのために、あなたがたがわたしの業を理解する多くの機会を得られるよう、長い期間を設けたのである。

しかし、私は物質的な目には見えなかった。確かに、この時期には、罪人であろうと罪人でなかろうと、あらゆる目が私を見るようになると言ったが、それは必ずしも肉体の目である必要はない

。むしろ、私を見るのは、霊と魂によって照らされ、私を感じ取る聖所としての霊的な視線なのである。

46. わたしは、わたしの業を明らかにするために、多くの地域で「働き手」を準備してきた。あなたがたがわたしの教えに耳を傾けていた間、あなたがたの魂はどれほど多くの幸福の瞬間を味わったことか！ 私があなたがたに授けた奇跡の数々に、あなたがたはどれほど心を躍らせたことか！ あなたがたに私を認めてもらうために、私は数え切れないほどの証拠を与えた。なぜなら、あなたがたが準備が整い次第、私によってこの教えを知るよう定められた人々を受け入れてほしいと願っているからだ。あなたがたは、年上の兄弟姉妹のように、苦しむ人々の心に寄り添い、彼らを支え、支えとなるよう努めなさい。迷い出た羊を羊飼いの小屋へと連れ戻し、苦しみを和らげ、同胞たちを救いなさい。

47. あなたがたが疲れ果てたとき、私はあなたがたの十字架を背負うのを助け、使命を果たすという山を登る方法を教えよう。もしあなたがたが使命を果たさなければ、何を期待できるというのか。私を聞いた後、これらの教えについて証しを立てなければ、どうして力を感じられようか、どうして生きていけようか。

48. 強くあれ、互いに愛し合いなさい。そうすれば、私の祝福が露のようにあなたがたの上に降り注ぎ、常にあなたがたを励ましてくれるだろう。

49. あなたがたは人生の喜びを感じると、その喜びをこの世のせいにしてしまう。しかし、わたしは言います。わたしはあなたがたが喜びに満ちている姿を見たいのです。だからこそ、わたしはあなたがたにその至福の瞬間を送るのです。なぜなら、子が微笑めば、父もまた微笑むからです。魂を乱さない健全な喜びを求めなさい。そうすれば、その中にわたしを見出すでしょう。しかし、苦しみの中にあっても微笑むことができるなら、あなたたちは幸いである！

50. 愛する子供たちよ、わたしの父なる眼差しはあなたがたの心に注がれており、あなたがたの敬虔な姿を見ている。あなたがたは、物質的な生活に関わることを忘れ、わたしの言葉に養われ、その本質で満たされ、心の奥深くでわたしの臨在を感じているのだ。私があなたがたに御自身を現すのは、あなたがたを愛しており、私の切なる願いを理解してほしいと願っているからだ。感謝に満ちて、あなたがたは謙虚に私に心をさけ出し、こう言う。「師よ、この心を開かれた書物のように読み解き、私たちの中に御意志

を働かせてください。私たちがどのような運命をたどろうとも、それに従う所存です。」

51. 私は、あなたがたの信仰と、私の神性に対する信頼を見ている。あなたがたは、私があなたがたを愛し、正義であり、あなたがたの益となるすべてのものを与えてくださることを知っている。それゆえ、あなたがたは信頼を寄せ、私に助けを求めているのだ。

あなたがたが生きているのは贖罪の時であり、そこには完全な喜びも永続的な平和もない。この地球はあなたがたの祖国ではない。あなたがたはそこに一時的に住む者であり、それぞれの功績に応じて、この世よりもより良く、より高次の人生を築き上げているのだ。

52. 地上において、あなたがたが準備が整ったとき、わたしの御霊の平安——あなたがたが喜びとしてきた、しかしこの世の他の人々には知られていないその平安——わたしの言葉に満ちあふれるその優しさ——あなたがたがわたしとの交わりの中で高められたときに体験したその栄光——を感じるようになるでしょう。この世にはそのような誘因はないが、それを必要としており、待ち望んでいる。なぜなら、それが必ず訪れることを知っているからだ。そして、私が彼らのもとへ訪れる時が近づいていることを予感して、準備を進めている者もいる。

しかし、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは皆、この平安を手にし、皆、真理の光を知るようになる。わたしの言葉は広まり、わたしの「働き手」たちを通じて、口から口へ、家から家へ、そして国から国へと伝わっていくであろう。しかし、わたしは彼らや民の中に、その進歩の遅さと臆病さしか見てこなかった。それゆえ、わたしの業は、彼らが閉じ込めてしまった狭い境界を越えることはなく、これはわたしの意志ではない。

53. 「働き手」たちよ、私はあなたがたに一致を求めてきた。それは、あなたがたがひとつの霊、ひとつの心、ひとつの思いとなるためであり、そうして、あなたがたの同胞がどこにしようとも、あなたがたから同じ言葉を聞き、すべての人から同じ証しを聞き、あなたがたの中に映し出された私の神聖な愛を見ることができるようにするためである。

54. 私は、あなたがたが自らの使命を穏やかな十字架として担えるよう、愛と忍耐と謙遜を教えた。人類の刷新、浄化、そして霊化という業は、時間を要する業である。ある世代は、次の世代へ

と、同じ闘志と同じ精神の高揚を伝え続け、やがて時が経つにつれて世界は完成へと至り、その使命を果たすに至るだろう。

55. 明日を恐れてはならない。また、先走りすぎて道を見失うことを恐れてもならない。その道は果てしなく長く、あなたがたがすぐにその終わりにたどり着くことはないのだ。私は、あなたがたの 一步一步に寄り添っている。あなたがたの先にも後ろにも、右にも左にも。私の霊の力があなたがたを包み込んでいる。たゆまず闘うよう勇気づけるその内なる力は、決してあなたがたを見捨てない。あなたがたの中には、年々苦労を重ね、毎日を、私の業のために働いた最初の日と同じように迎えてきた者もいる。

56. 皆、わたしの中に完全さを求めなさい。しかし、「働き手」たちに対して絶対的な正義や完全さを求めるな。彼らは人間であり、弱くなる危険にさらされている。彼らもまた、自らの救いのために奮闘しているのだ。

あなたがたの魂が切望して見たいと願うその完全さ——それは、すべてが愛と美と光に満ちた、高い霊的次元に住む魂たちの中に求めなさい。

57. 使命を果たす過程で、あなたがたの心は清められていく。各人は、その愛と献身、そしてわたしに仕えたいという願いに応じて前進していく。わたしの言葉はすべての人にとって同じであったにもかかわらず、霊化に向けて大きな歩みを進める「働き手」もいれば、その成長において遅れをとっている者たちもいることを、わたしは見出してきた。

58. 私の教えの核心を悟るためには、それに従わなければならない。もし私の教えをただ聞くだけで、その後忘れてしまうならば、それを守り続けることも、私の教えに含まれるその尊い真髄を伝えることもできないだろう。それは非常に単純なものであり、それを聞いたその瞬間から実践することができる。愛は、私があなた方に示した最初の法則であり、そこから他のすべての法則や戒律が派生している。

59. わたしは、すべての人を平等に創造し、すべての人を愛していると、あなたがたに告げた。なぜ、人種や階級、信仰の違いを問わず、互いに愛し合わないのか。なぜ、ある人々を愛し、他の人々を軽んじるのか。自分に善を行ってくれる人だけを愛するのではなく、すべての人を訪ね、彼らと愛の絆を築きなさい。すべてを包み込む普遍的な愛を実践し、地上の兄弟姉妹も霊的な兄弟姉妹も愛しなさい。わたしの業は、すべての魂を同じレベルに置くものである。わたしは、互いに愛し合い、普遍的な平和を築き、わたし

の神性と結ばれて、あなたがた一人ひとりが、どこにしようともわたしの代理人となるような、わたしの家族が形成されるのを見たいと願っている。

60. あなたがた一人ひとりが「大いなる木」の実となり、その実が無限に増殖するよう、備えなさい。

61. 世界のために祈りなさい。その祈りは、絶えず迫り、人類を破滅へと追い込む戦争に対する解毒剤として、人類を守るマントとなるように。

62. わたしはすべての被造物を祝福し、両手を広げて彼らを一つに抱きしめる。

63. 今、涙を流している者たちよ、私のところに来なさい。私は慰めそのものです。愛があなた方に近づいています。なぜなら、あなた方は荒野において、再び立ち上がるために父の愛撫を必要としている被造物だからです。

64. あなたがたは皆、師に倣うために、肩に十字架を背負っている。しかし、私は、あなたがたの理解と高みへの志の欠如によって、この十字架が耐え難い、あるいは重荷となるようなものになるのを見たくはない。

65. 人生の浮き沈みは、竜巻のようにあなた方の生活を激しく揺さぶる。しかし、父へのその愛と、あなたがたが父に寄せた信頼こそが、試練の中であなた方に心の平安を与え、それらを勝利のうちに乗り越えさせてくれるのである。

66. 真にわたしを信頼する者は、決して裏切られることはない。

67. 苦しみは、硬くなった心を繊細にし、岩から水晶のように澄んだ水を湧き出させる。試練は魂を目覚めさせる。

68. あなたがたは、私の御言葉を渴望して旅立った。それは、あなたがたが、長い間その足跡をたどってここへやって来た、神聖な羊飼いの声を知っているからである。

69. あなたがたをこの道でわたしに従うように駆り立てたのは、強制でもなければ、恐れでもなく、主に喜ばれるために隣人の役に立ちたいという願いであった。

70. こうして、新しい弟子たちは、世界を照らす松明となるべく備えを整えている。わたしを理解し、わたしの言葉を信じる者たちは幸いである。彼らは、魂の中に飢えも渴きも感じるものがないからである。

71. 明日、あなたがたの賜物によって現実となった奇跡を目の当たりにしたとき、あなたがたの心が虚栄や傲慢で満たされるこ

とを、私は望まない。しかし、あなたがたが臆病な姿を見せることも望まない。そうすれば、あなたがたは周囲の人々に信頼を抱かせることができなくなるからだ。あなたがたが語り、行うことに確信を持て。

72. 私が去った後も、あなたがたが認められるよう、準備を強化し、そのやり方を完成させなければならない。

73. わたしは、あなたがた全員に癒しの賜物を託した。それによって、あなたがたは、肉体的・精神的に病む人々の間で奇跡を起こすことができるのだ。

74. あなたがたは、泥沼の中にいる墮落した者たちを自ら探し出し、救いの手を差し伸べなければならない。もしあなたがたが、そこにわたしの種が芽生えないと思うなら、それは間違いである。泥沼から、雪のように白い花が咲き誇ることを、わたしが証明して見せよう。魂が墮落していればいるほど、その魂に近づくにはより多くの愛が必要となる。そして、その魂が愛の撫でや癒しの香油を感じたとき、その魂は自分の中に一筋の光が差し込むのを感じ、最も熱心な信者の一人となるだろう。その感謝の心は計り知れないほど大きくなるだろう。なぜなら、かつて非常に大きかったその罪が赦されるからである。

75. あなたがたは、私が常にあなたがたを訪ねてきたように、そうした人々を訪ねなさい。義人たちはすでに私のところにいることを忘れないでください。

私の平安があなたがたと共にありますように！

目次

教え 208 (1948年)	節番号
2000年前の主の到来と今日	3
進化の法則	13
トーマス	23
1950年以降の時代に向けた準備	25
精神的自由	43
第三の時代の召された者たちの責任	47
弟子は誘惑に立ち向かわなければならない	50
霊的な導き手	52
子供たちの霊的な準備	59
教え 209	節番号
御霊における主の到来と人間の科学	3
イデオロギーの戦争と霊的領域	10
物質的富は義務を伴う	21
主の御言葉は隠され、あるいは歪められてきた	27
苦しみと浄化	44
宇宙は神の神殿なのか？	55
メキシコ、第三の時代の国家	62
教え 210	節番号
私たちは普遍的な調和へと向かっている	2
真のスピリチュアリティ	9
神の言葉が記された理由	16
イエスの肉体	34
自然に挑戦することで、私たちは自然を裁き手へと変えてしまう	45
教え 211	節番号
知恵と神の愛は言葉へと変容する	1
この第六の封印において	
死の炎	9
命の炎	11
力は、強さによって得られるものではない	22
主が現れるのは、この世界だけではない	28
霊的生活に関する知識	48
真理は啓発する	55
心と体の調和	68
ユダはこの世の人間の象徴である	70

金銭という誤った価値観	77
「受難週間」とその深い意味	81
教え 212	節番号
神の受難の霊的な本質	2
すべての人間は、自らの霊的な過去について無知である	14
三つの時代の象徴的な意味合い	19
主の新たな到来に対する臆病な人々	21
愛の力	46
輪廻転生的原因	57
マグダラのマリアからの教訓	65
教え 213	節番号
「復活の日曜日」	3
運命とは、御霊の使命を意味する	15
「栄光と復活」の意味	18
学びと償いのための輪廻転生	24
精神的カルト	32
霊的なイスラエルと物質化されたユダヤ人種	37
スピリチュアリティと霊的進歩	42
物質化された存在たちの恐怖	52
スピリチュアリティのおかげで、境界は取り払われる	61
この時代における神の到来は1866年から1950年にかけて始まった	69
教え 214	節番号
第三の時代の顕現の原因と結果	1
赦しと祝福	15
人間は、自然に対して犯した過ちの結果を甘受しなければならない	20
数え切れないほどの霊的存在たちが、指針を求めている (U 219, 55参照)	25
霊的イスラエルの使命に向けた準備	38
人間はまだ、失ったものを取り戻すことができる	45
スピリチュアリズムとは何か	57
平和の王国の到来	69
教え 215	節番号
神の約束と人間の反応	1
1866年および1950年	30
霊的なイスラエルは全世界に散らばっている	21

一見物質的な原因に見えつつも、実際には霊的な働きが働いている	32
弟子たちにはまだ賜物が十分に開花していない	36
1950年以降、霊的な賜物が顕現するようになる	39
真理への道	44
すべての者は、私たちの神聖な起源において一つとなる	62
七つの美德	69
教え 216	節番号
弟子たちの使命に向けた準備	1
神の言葉を書き留めるという使命	14
預言は広く知らしめられなければならない	16
世界には変革と変化が訪れる	27
主の御霊による再臨を予期していた者はほとんどいなかった	30
神性に関する議論への回答	41
痛みは心を清める	55
教え 217	節番号
時代を経ての神の教え	1
第三の時代の使徒、ロケ・ロハス	13
人間の精神は神の似姿である	17
高慢な者と、外見に生きる者	19
宇宙は完全なる住まいである	65
教え 218	節番号
虚栄の代わりに愛を	3
三つの遺言	6
人類は放蕩息子を模倣する	15
試練の理由	21
1950年までのコミュニケーション	22
才能についての一考察	29
すべての霊は完全性へと回帰しなければならない	39
守護霊たちは私たちに寄り添っている	40
善のために奉仕する科学	47
教え 219	節番号
キレネのシモンの例（マルコ15:21参照）	2
「天の歌」の比喩的な意味	13
霊性による調和	16
予言された混沌は、 私たち自身の行いの帰結である	24

師は、準備の整った弟子たちを通して語るだろう	29
初期の時代	31
第二の時代	32
第三期	34
転生の条件	39
弟子たちの使命と賜物	41
私たちは第六の封印の中に生きている	52
すべての世界における霊たちの同盟（U 214、25参照）	55
霊的な生活	61
教え 220	節番号
「第二の時代」の約束は成就した	2
人間における神の三位一体	11
霊の進化の段階	16
スピリチュアリティとは何か	29
誤った解釈は排除される	32
成就への準備	42
霊とは何か？	59
「招かれた者は多いが、選ばれた者は少ない」という言葉の意味	63
霊的進化	70
教え 221	節番号
マリアの精神は、 神の慈愛の	2
霊的なイスラエルの一部はメキシコに転生している	11
聖書は改竄された	14
「第三の時代」は、光への唯一の道を私たちに思い出させてくれる	16
御霊によるイスラエルの使命	28
転生という霊的な特権	54
真理の御霊は、最終的に勝利するだろう	59
教え 222	節番号
大きな試練が近づいている	2
混沌の只中で、スピリチュアリズムが台頭するだろう	10
愛こそが創造の原理である	22
各 宗教団体やカルトにおける	29
この「涙の谷」は「平和の谷」へと変わる	39
多くの人が自らをキリスト教徒と呼んでいる	44

人間は常に偶像崇拜の理由を見つけ出す	47
教え 223	節番号
人類は自らの救いのために戦わなければならない	1
賜物は、私たちの成長に応じて現れる	7
新たな転生において、私たちは自らの賜物を完成させていく	10
霊的な賜物の成長は、私たちの準備次第である	14
すべての人は永遠の命に定められている	18
神の律法は、単に肉体のためだけではなく、精神のためでもある	22
物質的な生活もまた、永遠の命の一部である	26
霊的な礼拝	35
第三の時代の働きの未来に関する預言	51
メキシコの偉大な使命	56
霊的な階段	72
教え 224	節番号
弟子の霊的達成は世界を変容させる	3
『生命の書』	12
信仰と愛の砦	25
霊界からのメッセージ	31
愛の偉大さ	34
神の顕現の時間が限られている理由	64
複雑な宗教の代わりに、精神の平安	74
教え 225	節番号
第三の神の顕現への道	3
苦しみを通じて、私たちは至る	8
愛の「普遍の教え」はすべてを包み込む	21
無駄にした機会の一つひとつが、精神に痛みをもたらす	35
3つの時代が特徴づけられた	44
女性たちに向けた言葉	46
第二の時代に受肉した、神聖な優しさそのものであるマリア	48
教え 226	節番号
三つの霊的時代とその教訓	3
「見る者」ヨハネの物語	7
転生を通じた霊的發展	11
霊的な準備による解放	12
1866年、第三時代の始まり	26
第三の時代のメッセージ	27

神には怒りなど存在しない	33
時代を経て変化する崇拝形態の進化	60
教え 227 (1949年)	節番号
選択を迫られた民	1
精神が肉体に対して持つ力	28
神の偉大さは謙遜の中に現れる	38
神はいかなる形においても制限されない	40
神の知恵は良心の中に現れ、 単なる知性にとどまらない	58
自由意志——それによって功績が正当なものとなる	61
創造の完全性は、 霊化された者にのみ明らかにされる	67
戦争は必要ではない	70
精神の混乱と 人間の理性の混乱	71
神の言葉は印刷されることになる	77
教え 228	節番号
マリアとは何かについての解説	1
神聖な呼び声には光が含まれている	6
唯物論から精神論へ	15
精神の生活は物質よりも優先される	21
将来の世代は、キリストの キリストの重要性を理解するだろう	28
世界の富裕層へのメッセージ	47
この惑星における輪廻転生の一因	54
いわゆるキリスト教世界への言葉	55
道に迷った同胞に対する義務の不履行	58
精神的な実現への呼びかけ——時は迫っているのだから	60
来世において、私たちは霊的進化を続けていく	69
教え 229	節番号
聖霊の弟子たち	1
目覚めた霊と反抗的な物質	25
諦観ではなく、認識	34
1950年以降の時代への警鐘	40
真の崇拝とは、万物との調和を尊ぶことである	53
この惑星における人間の傲慢さ	55
精神的および物質的な崇拝の形態	58
愛は、制限のない普遍的なものでなければならない	62
人間の多様な存在の可能性	66

約束された平和の王国の準備	71
教え 230	節番号
平和の王国を実現するためには、 一方の敗北を願い、他方の勝利を	6
第六の封印は、すべての人を等しく照らす 夢を通じた神からのメッセージ	8
宗教は神の模範に従わなかった	15
国家における平和と統一の原則	23
万物は完全性へと向かっている	32
この世界は永遠である必要はない	43
精神の使命	47
精神が直面する危険	50
スピリチュアリティはスピリチュアリズムではない	64
教え 231	節番号
この第三の時代に神が再び来られる理由	67
功績の必要性和試練	2
神を否定するのは、不信仰者の霊ではない。 神性を否定するのは	12
霊と外殻との正しい関係	15
神が最終的な決定を下される	18
知識の賜物とその責任	20
道を踏み外してしまった科学者たちへの呼びかけ	21
平和の王国への道と、それを阻む人間的な障害	25
この惑星の輝かしい未来に関する予言	28
神の御業の頂点を成し遂げるのは 人間が成し遂げるものではない	30
教え 232	節番号
第三の時代の弟子の使命	35
償いと試練への準備	1
神の光は、私たちに人生を別の視点から見つめさせてくれる	13
今日、疑っている人類も、明日には信じるようになる	26
精神的な団結への呼びかけ	31
人間の生は一つの機会である	33
良心は、すべての人の中にある神の一部である	37
苦しみは、悪に対する「ここまでの限界」となる	41
平和の時代の始まりに関する預言	44
「三位一体」	49
教え 233	節番号
霊の光に満ちた使命	52
	2

良心こそが導き手である	8
功績もまた必要である	12
科学とスピリチュアリティ	25
御霊による祈り	44
教え 234	節番号
スピリチュアリズムの時代は、解放 と行動の時代である	7
儀式の厳粛さはスピリチュアリティではない	30
平和に生きる方法	43
魂と魂のコミュニケーション	45
隣人に仕えることは尊厳をもたらす	59
教え 235	節番号
惑わしや誘惑に対する警戒心	4
1950年、この形式の伝達は終了する	7
この時代における神のメッセージの目的	15
男女の関係	17
肉体と精神を殺す者	37
人類には多くの偽善者や扇動者がいる	39
「再び戻ってくる」という約束は果たされた	54
私たちは過去の時代から続く同じ霊たちである	63
2000年近くが過ぎ、今日、 同じ現象が存在している	65
師は一度も儀式を執り行ったことはない	75
「苦難の杯」は、まだしばらくの間飲み続けられるだろう	76
黙示録20章の意義：霊的に死んだ者たちは 命に甦る	79
神の御霊の時代	81
教え 236	節番号
神は試練の中ではっきりと現れる	5
この世における輪廻転生の終わり	10
スピリチュアリズムの意義	20
霊的なものが優勢となる	32
1866年9月1日、第三時代の始まり	48
第一時代の使徒モーセ	60
第二期の使徒、イエス	62
第三の時代の使徒、エリヤ	65
真の平和の王国に関する預言	72
教え 237	節番号
御霊によるイスラエルの道と使命	1

人類を待ち受けるもの	11
あの世とはどのようなものか？	24
この「第三の時代」のメッセージは、人類を 同様に震撼させるだろう	28
第三の時代の弟子の責任	30
苦しみは感性を研ぎ澄ます	50
真の信仰	68
教え 238	節番号
物質的および霊的な神殿	1
功德によって、私たちは約束された 王国を勝ち取る	11
自然への冒涇と、その容赦ない裁き	16
地球の4分の3が消滅する	24
普遍的な言語とは、精神的な愛である	28
大いなる光を持つ霊たちが私たちの間で転生する	30
思考と祈りを通じた 神聖な霊との	51
神聖なる平和	62
人生の真の価値とは、高みへと向かうことである	67
イスラエルの波乱に満ちた歴史	70
霊におけるイスラエル	84
教え 239	節番号
霊化とは自由である	4
神との交わりの現実	9
真の正義	22
『第三の聖書』は私たちの内にある	34
成就への準備	46
私たちは「第六の封印」の中に生きている	52
「約束の地」は永遠の象徴である	57
新しい霊的なイスラエルの民に印が押された	61
神の正義と人間の残虐性	87
霊から霊への交わりの恵み	89
霊的存在たちも直接コミュニケーションをとるようになる	97
偽りの弟子たち	106
若者たちのための良き手本	108
教え 240	節番号
女性と男性の道	1
あらゆる瞬間の備え	12
スピリチュアリズムの意義	17

精神の道	38
復活と最後の審判に関する説明	40
あの世にいる迷える魂たちは、私たちの 心のこもった祈り	43
光と闇の戦い	54
永遠の罰など存在しない	57
投票者へのメッセージ	61
『第三の聖書』	68
教え 241	節番号
霊化こそが人類を救う	3
偉大なる霊的存在の特性	17
霊的な糧	23
宗教ではなく、愛	33
予言された平和の世界	35
1866年の「第三の時代」の始まり	43
健全な楽しみは精神を混乱させない	49
この世は私たちの故郷ではない	51
奉仕への志に基づく精神的な進歩	57
普遍的な愛が包含するもの	59

1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の

教え

参考文献

ライヒル出版社、D-56329 ザンクト・ゴア、電話 : +49 (0) 6741 1720

『真の生命の書』第I巻、第II巻、第III巻、第IV巻、第V巻、第VI巻

『第三の聖書』（スペイン語、英語、フランス語版も刊行）

『メキシコにおける神の啓示』（概要）

人生に関する神の啓示

第三の時代のための予言

『人生のための書籍サービス』、マンフレッド・ベーゼ、Kirchweg 5、D-88521 エルティンゲン

電話 : +49 (0) 7371 929 66 42、Eメール : manfredbaese@gmx.de

神の愛——私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的

『El Amor Divino』—私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的

『真の生命の書』第VII、VIII、IX、X、XI、XII巻

『第三の聖書』

ユニコン財団、D-88709 メースブルク

電話 : +49 (0) 7532 808162、Eメール : info@unicon-stiftung.de

『真の生命の書』入門（無料）

アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ベルデラ A.C.

Orinoco N° 54 Interior 5, Col. Zacahuiztco, 03550 メキシコシティ

『真の生命の書』、第I巻～第XII巻

『第三の聖書』

およびメキシコのこれらの神の啓示に関するその他の書籍

ウェブサイト

www.drei-offenbarungen.net

www.reichl-verlag.de

www.unicon-stiftung.de

www.drittes-testament.de

www.drittetestament.wordpress.com（多言語対応）

www.tercera-era.net（スペイン語）

www.144000.net（多言語対応）

www.dritte-zeit.net